

男女共同参画社会に関する県民意識調査
報 告 書

令和2年3月
群 馬 県

目 次

第1章 調査の概要	5
1. 調査実施の目的	7
2. 調査方法	7
3. 調査項目	7
4. 調査結果を見る上での注意事項	7
第2章 調査結果の概要	9
第3章 調査結果の詳細	23
1. 回答者の属性	25
(1) 性別	25
(2) 年代	25
(3) 居住地区	25
(4) 職業	26
(5) 結婚	26
(6) 世帯構成	26
(7) 配偶者の職業、夫婦の働き方	27
(8) 子どもについて	27
(9) 子どもの人数	28
2. 男女の平等感について	29
(1) さまざまな分野における男女の地位の平等感	29
3. 結婚に関する考え方や家庭内での役割について	50
(1) 結婚に関する考え方	50
(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方	68
(3) 子どものころの家庭内の状況	72
(4) 家庭内の役割分担の理想	73
(5) 家庭内の役割分担の現状	88
(6) 男性の育児休業取得への意識	103
(7) 男性が育児休業を取得しない理由	105
(8) 男性の介護休業取得への意識	107
(9) 男性が介護休業を取得しない理由	108
4. 男性の参画について	110
(1) 男性の参画が進んだ分野	110
(2) 男性の参画に必要なこと	116
5. 職場や働き方について	119
(1) 「女性の働き方」への意識	119
(2) 進路・職業選択の際の性別意識	121
(3) 「仕事」「家庭生活」「地域活動」の優先度	122

第1章 調査の概要

(4) これまでの働き方	128
(5) 職場における男女間の不公平・未整備の状況	130
(6) 職場における女性の採用・管理職への登用状況	134
(7) 女性が管理職に登用されるために必要なこと	135
(8) これまでの働き方	136
(9) 就労意向	138
6. ドメスティック・バイオレンス（DV）等について	141
(1) DV被害経験	141
(2) DV加害経験	154
(3) 被害経験についての相談経験	167
(4) 相談をしない・しなかった理由	170
(5) DV等の被害者支援制度・相談窓口の認知度	172
7. 男女共同参画社会づくりのための施策について	176
(1) 男女共同参画に関連する事項の認知度	176
(2) 男女共同参画社会づくりの実感	180
(3) 男女共同参画の社会づくりによって生じると思われる変化や効果	184
(4) 地域活動に関わるリーダーの性別意識	186
(5) 女性が地域活動のリーダーに登用されるために必要なこと	189
(6) 女性が増えるとよいと思う役職・職業	191
(7) 「ぐんま男女共同参画センター」の認知度	195
(8) 「ぐんま男女共同参画センター」が今後担うべき役割	197
(9) 男女共同参画社会実現のために群馬県が力を入れるべきこと	200
8. 自由記述	204
(1) 男女平等や男女共同参画について感じること	204
第4章 資料編	219
県民意識調査集計表	221
調査画面	239

第 1 章 調査の概要

1. 調査実施の目的

本調査は、令和3年度からの「第5次群馬県男女共同参画基本計画」の策定や、今後の政策立案の参考資料とするため、男女共同参画社会に関する県民の意識、実態、要望等を調査し、課題や県民ニーズ等を把握することを目的として実施した。

2. 調査方法

調査地域：群馬県内全域

調査対象：県内在住の18歳以上の男女個人

標本数：2,000人

抽出方法：インターネットを利用した調査

調査期間：令和元年11月20日（水）～12月4日（水）

3. 調査項目

- ・男女の平等感について
- ・結婚に関する考え方や家庭内での役割について
- ・男性の参画について
- ・職場や働き方について
- ・ドメスティック・バイオレンス（DV）等について
- ・男女共同参画社会づくりのための施策について
- ・自由記述

4. 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答者数である。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示した。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。
- ・県民意識調査の本文および表やグラフにおいて、「令和元年度」「今回」は令和元年度に実施した調査、「平成26年度」「前回」と表記するものは本調査、「平成21年度」「前々回」は平成21年度に実施した調査、「内閣府」は令和元年度に実施された「男女共同参画社会に関する世論調査」をそれぞれ表す。

第1章 調査の概要

本文中表記	調査年月	調査名(実施機関)	調査方法	配布・回収数	性別の回収数 (全回収数に 占める割合)
令和元年度 (今回)	令和元年 12月	男女共同参画社会 に関する県民意識 調査(群馬県)	インター ネット調査	配信2,095件 回収2,000件	女性992件 (49.6%) 男性1,008件 (50.4%)
平成26年度 (前回)	平成26年 12月	男女共同参画社会 に関する県民意識 調査(群馬県)	郵送配布・ 回収	配布2,000件 回収1,003件	女性583件 (58.1%) 男性400件 (39.9%)
平成21年度 (前々回)	平成21年 12月	男女共同参画社会 に関する県民意識 調査(群馬県)	郵送配布・ 回収	配布2,000件 回収1,071件	女性554件 (51.7%) 男性479件 (44.7%)
内閣府	令和元年 9月	男女共同参画社会 に関する世論調査 (内閣府)	調査員によ る個別面接 聴取	配布5,000件 回収2,645件	女性1,407件 (53.2%) 男性1,238件 (46.8%)

第2章 調査結果の概要

1. 回答者の属性

【性別】

女性（49.6%）、男性（50.4%）ともに約5割。

【年代】

女性は50代（29.7%）が最も多く、次いで40代（24.7%）が多い。男性は60代（26.2%）が最も多く、次いで40代（19.6%）が多い。今回初めてインターネットのみを使用する調査にしたところ、平成26年度と比べて年代ごとの増減が見られ、回答者の年代が総じて下がった。

【居住地区】

男女とも高崎・安中圏（女性22.8%、男性21.2%）が最も多く、次いで女性は前橋圏（19.0%）、男性は太田・館林圏（20.6%）が多くなっている。

【職業】

女性は「パート・アルバイト・契約社員」（31.7%）が3割以上、男性は「正社員・正職員」（56.1%）が約6割で最も多い。

【結婚】

男女とも「している（事実婚を含む）」（女性67.5%、男性66.6%）が約7割。

【世帯構成】

男女とも「二世帯世帯（親と未婚の子が同居）」（女性52.0%、男性42.6%）が最も多く、次いで「夫婦二人のみ（事実婚を含む）」（女性25.1%、男性31.1%）が多い。

【配偶者の職業、夫婦の働き方】

結婚している場合（事実婚を含む）の配偶者の職業は、回答者が女性の場合は「正社員・正職員」（62.2%）が6割以上、回答者が男性の場合は「パート・アルバイト・契約社員」（29.4%）、「正社員・正職員」（28.0%）が約3割で多くなっている。

結婚している場合（事実婚を含む）の夫婦の働き方は、「共働き」（58.9%）が約6割、次いで「夫だけが働いている」（24.5%）、「共に働いていない」（12.5%）。

【子どもについて】

子どもの有無は、男女ともに「子どもがいる」（女性68.3%、男性61.5%）が最も多く、子どもがいる場合、その子どもは「社会人」（女性35.7%、男性35.0%）が最も多く、次いで「未就学児」（女性15.5%、男性11.5%）、「高校生以上の学生」（女性14.1%、男性12.4%）、「小学生」（女性11.2%、男性9.0%）がいずれも約1割で、「中学生」（女性6.5%、男性5.4%）が1割未満となっている。子どもの人数は、男女とも「2人」（女性50.0%、男性50.2%）が最も多く、次いで「1人」（女性31.1%、男性28.4%）、「3人」（女性16.4%、男性20.0%）となっている。

2. 男女の平等感について

(1) 男女の地位の平等感（問10）

男女の地位は、『学校教育の場』（51.3%）、『家庭』（36.3%）では「平等になっている」が最も高くなっているが、それ以外のすべての分野においては「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が高い。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計）は、『政治の場』では7割以上、『社会通念・習慣・しきたり』、『社会全体』では約7割と、その傾向が強くなっている。また、すべての項目で《男性優遇（計）》は、女性が男性より高くなっている。

経年変化を見ると、『学校教育の場』と『法律や制度』では平成26年度からほとんど変化は見られないが、他の項目ではわずかに上昇傾向が見られる。また、内閣府調査と比較すると、すべての項目で「平等になっている」が、国の値より低くなっている。

さまざまな場面において、男性が優遇されているという認識を特に女性が強く持っており、年代によっては男女の認識に大きな差が見られる。

項目	全体値		属性傾向・経年変化・内閣府調査(国)との比較
家庭	平等	36.3%	《男性優遇(計)》が女性5割以上、男性3割 70代以上で《男性優遇(計)》の男女差が特に大きい 男女とも《男性優遇(計)》が前回より低下 男女とも「平等」が国より低く、男性で《男性優遇(計)》が国より低い
	男性が優遇	40.6%	
職場	平等	23.5%	《男性優遇(計)》が女性6割以上、男性約5割 30代で《男性優遇(計)》の男女差が大きい 男女とも「どちらかといえば男性優遇」が前回より低下 《男性優遇(計)》は女性で国より高く、男性で国より低い
	男性が優遇	57.0%	
学校教育	平等	51.3%	「平等」が男女とも約5割 70代以上で《男性優遇(計)》の男女差が大きい 女性で《男性優遇(計)》が前回より上昇 男女とも「平等」が国より低い
	男性が優遇	22.9%	
政治の場	平等	12.3%	《男性優遇(計)》が女性8割以上、男性約7割 20代で《男性優遇(計)》の男女差が大きい 女性で「男性が非常に優遇」が前回より上昇、男性は「平等」が上昇 男性で《男性優遇(計)》が国より低い
	男性が優遇	73.3%	
法律や制度	平等	29.7%	《男性優遇(計)》が女性約6割、男性約4割 70代以上で《男性優遇(計)》の男女差が大きい 女性で「男性が非常に優遇」が前回より上昇 男女とも「平等」が国より低く、女性は《男性優遇(計)》が国より高い
	男性が優遇	48.1%	
地域社会	平等	27.7%	《男性優遇(計)》が女性6割以上、男性約4割 40代で《男性優遇(計)》の男女差が大きい 男性は「どちらかといえば男性優遇」が低下、「平等」が前回より上昇 男女とも《男性優遇(計)》が国より高い
	男性が優遇	52.1%	
社会通念・習慣・しきたり	平等	17.9%	《男性優遇(計)》が女性約8割、男性約6割 20代で《男性優遇(計)》の男女差が大きい 男性は《男性優遇(計)》が前回より低下、「平等」が前回より上昇 女性は「平等」が国より特に低い
	男性が優遇	66.5%	
社会全体	平等	17.4%	《男性優遇(計)》が女性約8割、男性約6割 30代で《男性優遇(計)》の男女差が大きい 男性は《男性優遇(計)》が前回より低下、「平等」が上昇 男性は《男性優遇(計)》が国より低く、女性は「平等」が国より低い
	男性が優遇	65.4%	

※《男性優遇（計）》は「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値

3. 結婚や家庭の中の役割について

(1) 結婚に関する考え方 (問 11)

『結婚する、しないは個人の自由である』については《賛成(計)》(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値)が9割(90.0%)となっている。『結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない』、『結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい』といった結婚後のことについては《賛成(計)》(それぞれ79.3%、77.4%)が約8割となっている。また、『夫婦別姓(別苗字)を選択できることを認めるほうがよい』、『法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認められるべきである』といった法制度や社会システムに関することについては《反対(計)》(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計値)(それぞれ22.1%、21.8%)が2割以上となっており、結婚後のことについてよりも反対が高くなっている。

経年変化を見ると、いずれの項目も前回より「賛成」が高くなっている。

項目	全体値		属性傾向・経年変化
結婚する、しないは個人の自由である	賛成 反対	90.0% 4.5%	《賛成(計)》が女性9割以上、男性約9割 女性は若い年代ほど「賛成」が高い 子どもがいない場合は肯定意見がより明確化 女性は《賛成(計)》が前回より上昇し、肯定意見がより明確化
結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい	賛成 反対	77.4% 14.4%	《賛成(計)》が女性8割以上、男性7割以上 女性は若い年代ほど「賛成」が高い 未婚・子どもがいない・男性が働いている場合は肯定意見がより明確化 男女とも《賛成(計)》が前回より上昇し、肯定意見がより明確化
結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない	賛成 反対	79.3% 12.3%	《賛成(計)》が女性8割以上、男性7割以上 20代で《賛成(計)》の男女差が特に大きい 子どもがいない・男性が働いている場合は肯定意見がより明確化 男女とも《賛成(計)》が前回より上昇し、女性は肯定意見がより明確化
夫婦別姓を選択できることを認めるほうがよい	賛成 反対	62.7% 22.1%	「賛成」が女性3割以上、男性2割以上 《賛成(計)》はすべての年代で女性が男性より高い 共に働いていない場合は《賛成(計)》が低い 男女とも「賛成(計)》が前回より上昇
法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認められるべきである	賛成 反対	62.9% 21.8%	《賛成(計)》が女性約7割、男性6割以上 20代で《賛成(計)》の男女差が特に大きい 既婚・子どもがいる・共に働いていない場合は明確な肯定意見が少ない 男女とも《賛成(計)》が前回より上昇
同性同士の結婚も社会的に認められるべきである	賛成 反対	61.3% 19.0%	《賛成(計)》が女性約7割、男性5割以上 男性70代以上は《反対(計)》が《賛成(計)》より高い 子どもがいる・男性が働いていない場合、《賛成(計)》が低い 共に働いていない場合、《賛成(計)》が最も低い

※《賛成(計)》は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計、《反対(計)》は「反対」と「どちらかといえば反対」の合計値

(2) 男女の固定的な役割分担意識 (問 12・問 13)

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、《思わない(計)》(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値 女性71.0%、男性63.2%)は、女性7割以上、男性6割以上となっており、すべての年代で《思わない(計)》が過半数を占めている。しかし、《思う(計)》(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値)はすべての年代で男性が女性より高くなっており、20代で男女差が比較的大きい。また、未婚・子どもがいない・妻だけ働いている場合、《思う(計)》は比較的低くなっている。

経年変化を見ると、《思う(計)》は男女ともに低くなる傾向がうかがえるが、《思わない(計)》は上昇が落ち着きつつある。さらに、内閣府調査と比較すると、《思わ

第2章 調査結果の概要

ない（計）は国の値より高くなっている。

子どものころに家庭等が「男は仕事、女は家庭」であったか、成長過程における身近な状況を聞いたところ、男女とも6割以上（女性64.8%、男性63.0%）が《そうだった（計）》としており、20代で低く、男性70代以上で高くなっている。

子どものころの状況と現在の考え方の関係を見ると、子どものころ「男は仕事、女は家庭」であった場合のほうが、現在「男は仕事、女は家庭」という考え方を肯定する傾向が強く、子どものころの身近な男女の役割分担の状況が成長後の考え方に影響していることがうかがえる。

(3) 家庭内の役割分担の希望と現状（問14・問15）

家庭内の役割をどう担うべきかについて、すべての項目で「男女が共に担うべき」が最も高く、特に『看護・介護』（84.2%）、『学校行事などへの参加』（82.3%）では8割以上となっている。その中で『主たる収入』では「主として男性が担うべき」（37.4%）が比較的高くなっている。また、『家事』、『育児』、『家計の管理』では「主として女性が担うべき」が2割以上と比較的高くっており、家庭内の役割について、全般的に「男女が共に」担うべきであると考えられている中で、『家事』、『育児』、『家計の管理』、『主たる収入』では、他の項目ほど「男女が共に」という認識を持たれていないことがうかがえる。

【どう担うべきか】（希望）

項目	全体値		属性傾向・経年変化
家事	男女が共に 主として女性	72.6% 22.5%	「男女が共に」が女性約8割、男性約7割 70代以上・男性60代では「主として女性」が3割以上 男女とも「男女が共に」が前回より上昇
育児	男女が共に 主として女性	75.5% 20.6%	「男女が共に」が女性8割以上、男性約7割 女性は「男女が共に」が前回より上昇
看護・介護	男女が共に	84.2%	「男女が共に」が女性約9割、男性8割以上 30代・60代で「男女が共に」の男女差が特に大きい
学校行事などへの参加	男女が共に	82.3%	「男女が共に」が女性約9割、男性約8割 70代以上では「男女が共に」は、男性が女性よりやや高い
自治会などの地域活動	男女が共に	79.1%	「男女が共に」が女性8割以上、男性約8割 女性20代・70代以上で「主として男性」が1割未満
家計の管理	男女が共に 主として女性	67.7% 24.8%	「男女が共に」が男女とも約7割 「主として女性」が女性約3割、男性2割以上 20代・30代では「男女が共に」は男女差が大きい 男女とも「男女が共に」が前回より上昇
主たる収入	男女が共に 主として男性	57.2% 37.4%	男女とも「男女が共に」が約6割、「主として男性」が約4割 「男女が共に」は60代で男女差が大きい 男女とも「男女が共に」が前回より上昇、「主として男性」が低下

家庭内の役割を実際にどう担っているかについて、ほとんどの項目で「主として女性が担っている」が最も高く、特に『家事』（65.1%）では約7割となっている。その中で『自治会などの地域活動』では「男女が共に担っている」（35.2%）、『主たる収入』では「主として男性が担っている」（58.2%）が最も高くなっている。多くの役割を主として女性が担っている中、『自治会などの地域活動』、『主たる収入』では、他の項目ほど女性に役割負担が集中していないという認識が持たれていることがうかがえる。

【どう担っているか】(現状)

項目	全体値		属性傾向
家事	男女が共に 主として女性	28.2% 65.1%	「主として女性」が女性約8割、男性5割以上 30代で「男女が共に」の男女差が特に大きい
育児	男女が共に 主として女性	25.4% 49.6%	「主として女性」が女性約6割、男性約4割 男性20代・30代で「男女が共に」が4割前後で高い
看護・介護	男女が共に 主として女性	25.8% 34.7%	「主として女性」が女性4割以上、男性2割以上 すべての年代で女性は「主として女性」、男性は「男女が共に」が最も高い
学校行事などへの参加	男女が共に 主として女性	25.1% 47.0%	「主として女性」が女性約6割、男性3割以上 30代で「男女が共に」の男女差が特に大きい
自治会などの地域活動	男女が共に 主として女性 主として男性	35.2% 29.4% 24.7%	女性は「主として女性」が4割、「男女が共に」が約3割 男性は「男女が共に」4割以上、「主として男性」が3割以上 すべての年代で「男女が共に」は男性が女性より高い
家計の管理	男女が共に 主として女性	27.2% 53.9%	「主として女性」が女性約7割、男性約4割 20代で「男女が共に」の男女差が特に大きい
主たる収入	男女が共に 主として男性	28.5% 58.2%	「主として男性」が男女ともに約6割 「男女が共に」は男性が女性より高い

「どう担うべきか」(希望)と「どう担っているか」(現状)における「男女が共に担うべき・担っている」を合わせて見ると、いずれの項目も「どう担うべきか」が「どう担っているか」を大きく上回っている。その中で、『主たる収入』では比較的その差が小さくなっている。

これらを考え合わせると、家庭内の役割について、さまざまな面で「男女が共に」担うべきと考えられているものの、実際には多くの役割が女性の負担となっている傾向がうかがえる。

(3) 男性の育児休業取得への意識／育児休業を取得しない理由(問16-1・問16-2)

男性の育児休業取得について、男女とも「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」(女性60.7%、男性58.1%)が約6割で最も高く、次いで「男性も積極的に取得するほうがよい」(女性32.1%、男性33.7%)が3割以上となっている。その中で、「男性も積極的に取得するほうがよい」は男性20代(40.0%)・30代(37.7%)・40代(38.4%)で約4割と比較的高く、「男性の育児休業取得」に該当する年代の男性で積極的な取得への意向がうかがえる。

経年変化を見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」は男女とも高くなっている。

男性が育児休業を取得しない(できない)理由について、男女とも「職場に取りやすい雰囲気がないから」(女性64.8%、男性55.7%)が女性で6割以上、男性で約6割と特に高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」(女性33.0%、男性35.8%)が3割台となっている。「職場に取りやすい雰囲気がないから」、「周囲に取った男性がいないから」、「取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから」は、女性が男性より高い一方で、「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」、「仕事が忙しいから」、「経済的に困るから」は男性が女性より高くなっている。女性は、職場内の環境や評価・昇給への影響を懸念しているが、男性は仕事や生活への影響を懸念点とする傾向がうかがえる。

(4) 男性の介護休業取得への意識／介護休業を取得しない理由(問16-3・問16-4)

男性の介護休業取得について、男女とも「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」(女性56.8%、男性56.7%)が約6割で特に高く、次いで「男

第2章 調査結果の概要

性も積極的に取得するほうがよい」(女性 39.4%、男性 35.9%) が約 4 割となっている。その中で、女性 30 代は「男性も積極的に取得するほうがよい」が過半数を占めており比較的高くなっている。

経年変化を見ると、「男性も積極的に取得するほうがよい」は男女とも高くなっている。

男性が介護休業を取得しない(できない)理由について、男女とも「職場に取りやすい雰囲気がないから」(女性63.5%、男性52.9%)が女性で6割以上、男性で5割以上で特に高く、次いで「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」(女性31.9%、男性34.8%)が3割以上となっている。「職場に取りやすい雰囲気がないから」、「周囲に取った男性がないから」、「取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから」は、女性が男性より高い一方で、「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」、「仕事が忙しいから」、「経済的に困るから」は男性が女性より高くなっている。育児休業と同様に、女性は、職場内の環境や評価・昇給への影響を懸念しているが、男性は仕事や生活への影響を懸念点とする傾向がうかがえる。

男性の育児・介護休業取得について肯定する意見が多く、徐々に強まっており、特に育児休業取得について、実際に該当する年代の男性の意識が高まっていることから、社会全体や、当事者の取得への意識の変化がうかがえる。

4. 男性の参画について

(1) 男性の参画が進んだ分野(問17)

数年前と比べて男性の参画が進んだ分野について、「《進んでいると思う(計)》(「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値)は『家事』(64.7%)、『育児』(63.5%)で6割以上と過半数を占める一方で、「《進んでいないと思う(計)》(「どちらかというに進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」の合計値)は『看護・介護』(47.5%)で約5割、『PTAなどの学校行事』(41.3%)で4割以上となっている。『看護・介護』を除くすべての項目で「どちらかというに進んでいると思う」が最も高くなっており、男性の参画が進んでいる実感がある程度うかがえる。

項目	全体値	属性傾向
家事	《進んでいると思う(計)》 64.7%	《進んでいると思う(計)》が男女とも6割以上 男性70代以上で《進んでいると思う(計)》が約8割で最も高い
育児	《進んでいると思う(計)》 63.5%	《進んでいると思う(計)》が男女ともに6割以上 男性70代以上で《進んでいると思う(計)》が7割以上で最も高い
看護・介護	《進んでいると思う(計)》 35.5% 《進んでいないと思う(計)》 47.5%	《進んでいないと思う(計)》が女性約6割、男性約4割 《進んでいると思う(計)》は男性が女性より高い すべての年代で《進んでいると思う(計)》は男性が女性より高い 20代で《進んでいると思う(計)》の男女差が特に大きい
地域の行事	《進んでいると思う(計)》 44.5%	《進んでいると思う(計)》が女性4割以上、男性約5割 20代で《進んでいると思う(計)》の男女差が特に大きい
PTAなどの学校行事	《進んでいると思う(計)》 41.2% 《進んでいないと思う(計)》 41.3%	《進んでいると思う(計)》が女性約4割、男性4割以上 《進んでいないと思う(計)》が女性4割以上、男性約4割 女性20代を除くすべての年代で「どちらかというに進んでいると思う」が最も高い

(2) 男性の参画に必要なこと (問 18)

今後、男性が家事、育児、介護、地域活動に積極的にかかわるために必要なことについて、男女ともに「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」(女性 67.2%、男性 51.6%) が女性で約 7 割、男性で 5 割以上と特に高くなっており、次いで「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」(女性 56.8%、男性 48.8%) が女性で約 6 割、男性で約 5 割となっている。また、女性はすべての年代で「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」が最も高くなっている。男性は「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」、「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」が特に高くなっている。さらに、内閣府調査と比較すると、「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」は国の値と同程度で、「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」は国の値より高くなっている。

「その他」、「特に必要だと思うことはない」を除いたすべての項目で女性が男性より高いことから、女性は男性の参画に対して様々な要望があるとうかがえる。

5. 職場や働き方について

(1) 「女性の働き方」への意識 (問 19)

「女性の働き方」について、男女とも「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」(女性 34.3%、男性 29.0%)、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」(女性 27.3%、男性 28.5%) の 2 項目が高くなっている。女性 70 代以上、男性 50・60 代は「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」が最も高く、それ以外の年代では「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」が最も高くなっており、女性は若い年代ほど値が高い。

女性の働き方について、「働き方を男女に分けて考える必要はない」という考え方や「ずっと職業をもつ」ことを肯定する意見がすべての年代で過半数を占め、支持されている。

(2) 進路・職業選択の際の性別意識 (問 20)

進路や職業を選択する際の自分の性別意識について、女性は「どちらかといえば、意識した」(35.2%)、男性は「ほとんど・まったく意識しなかった」(52.1%) が最も高くなっている。《意識した(計)》(「かなり意識した」と「どちらかといえば意識した」の合計値 女性 47.3%、男性 24.8%) は女性約 5 割、男性 2 割以上となっており、すべての年代で女性が男性より高くなっている。

(3) 仕事・家庭生活・地域活動の優先度—希望と現状 (問 21)

仕事・家庭生活・地域活動の優先度について、男女とも希望(理想)とするのは「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」(女性 32.9%、男性 29.4%) が女性で 3 割以上、男性で約 3 割と最も高くなっているが、現状(現実)としては、女性は「【家庭生活】を優先」(34.8%) が 3 割以上、「【仕事】を優先」(25.4%) が約 3 割、男性は「【仕事】を優先」(51.6%) が 5 割以上となっており、希望と現状が一致していない傾向がうかがえる。特に男性 30 代は、現状(現実)では「【仕事】を優先」(60.5%) が 6 割以上と高くなっている。希望としている「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」について現状(現実)を見ると、男女ともに 1 割台(女性 16.8%、男

第2章 調査結果の概要

性 14.8%) となっている。

また、内閣府調査と比較すると、理想を「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」とする割合は女性で、「【家庭生活】を優先」とする割合は男性で国の値より高いが、現実では男女ともに「【仕事】を優先」が国の値より高く、「【家庭生活】を優先」が低い。

(4) 働き方 (問 22-1・問 23-1・問 23-2)

現在働いている場合のこれまでの働き方について、女性は「結婚・出産・育児・介護のため一時的に仕事を辞めたことがある」(44.1%)が4割以上、次いで「卒業して以来、ほぼ継続して働いている」(37.3%)が約4割となっているが、男性は「卒業して以来、ほぼ継続して働いている」(75.3%)が約8割となっている。

現在働いていない場合のこれまでの働き方について、女性は「卒業して働いていたが、結婚・出産・育児・介護のため仕事を辞めた」(58.3%)が約6割で特に高くなっている。男性は該当者の多くが60代以上であり、「その他」の理由の記述などから、定年による離職が多いことがうかがえ、「卒業して働いていたが、結婚・出産・育児・介護のため仕事を辞めた」は5%程度となっている。

現在働いていない場合の今後の働く意向について、女性20代は「正社員・正職員として働きたい」(60.5%)が6割以上、女性30代・40代は「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」が約4割、50代以上は「今後も働きたいと思わない」が最も高く、男性該当者の多くを占める60代以上も、女性50代以上と同様に「今後も働きたいと思わない」が最も高くなっている。

(5) 職場における男女間の不公平・未整備の制度 (問 22-2)

現在の職場での男女間の不公平や未整備の制度について、女性は「賃金・昇給で男女の不公平がある」(28.2%)が最も高く、次いで「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」(25.8%)が高くなっている。男性は「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」(28.8%)、「特に男女間の不公平はない」(24.4%)が高くなっている。

経年変化を見ると、男女ともに「募集や採用で男女の不公平がある」が高くなっている。「賃金・昇給で男女の不公平がある」は女性で高くなっており、「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」は男性で低くなっている。

「昇進・昇格で男女の不公平がある」が女性30代で特に高い一方で、男性30代ではさほど高くないことから、30代で性別による昇進・昇格の差が現れ始めると考えられる。

(6) 職場における女性の採用・管理職への登用状況 (問 22-3・問 22-4)

現在の職場での女性の採用や管理職登用について、女性は「進んでいないと思う」(35.6%)と「進んでいると思う」(34.3%)が同程度となっているが、男性は「進んでいないと思う」(40.9%)が4割以上で最も高く、「進んでいると思う」(33.5%)が3割以上となっている。また、男女とも20代で「進んでいると思う」が高くなっており、女性(54.1%)が5割以上、男性(41.2%)が4割以上となっている。

現在の職場で女性の管理職が登用されるために必要だと思うことについて、女性は「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」(37.1%)、男性は「経営者や人事担当者の意識改革」(31.6%)が最も高くなっている。「育児休業や介護休業などの制

度充実」、「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」で特に女性が男性より高くなっている。

6. ドメスティック・バイオレンス（DV）等について

（1）DV被害経験（問24-1・24-2）

この5年間におけるDV被害経験は、すべての項目で「ない」がほとんどとなっているが、その中で『精神的な暴力・社会的な暴力』は《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）（16.5%）が約2割で最も高くなっている。

何らかの被害経験が「ある」（女性24.2%、男性11.6%）は女性2割以上、男性1割以上となっている。また、30代（女性31.7%、男性16.2%）が最も高くなっている。

被害種類数は男女ともに「1種類」（女性51.3%、男性54.7%）が過半数を占めている。「2種類」（女性25.4%、男性28.2%）が男女ともに約3割となっており、「3～6種類」は、女性（23.3%）は2割以上、男性（17.1%）は約2割見られる。

経年変化を見ると、大きな変化は見られない。

DV加害経験は、すべての項目で「ない」がほとんどとなっているが、その中で『精神的な暴力・社会的な暴力』は《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）（9.4%）が約1割で最も高くなっている。

何らかの加害経験が「ある」（女性11.0%、男性9.0%）は女性1割以上、男性1割未満となっている。また、女性30代（16.5%）が最も高く、男性は20代・30代で1割以上となっている。

加害種類数は男女ともに「1種類」（女性67.0%、男性73.6%）が女性で約7割、男性で7割以上となっている。「2種類」（女性27.5%、男性9.9%）が女性で約3割の一方で、男性で約1割となっている。「3～6種類」は、男性（16.5%）は約2割で、女性は3種類、4種類、6種類を合わせると1割未満（5.5%）となっている。

経年変化を見ると、大きな変化は見られない。

項目	全体値		属性傾向・経年・内閣府調査との比較
身体的な暴力	被害経験	6.8%	被害経験は女性20代・30代が1割以上、男性で30代が最も高い 加害経験は女性30代で1割
	加害経験	4.1%	
精神的な暴力・社会的な暴力	被害経験	16.5%	被害経験は女性すべての年代で2割以上、男性で30代が最も高い 加害経験は女性30代・50代、男性30代・70代以上で1割以上
	加害経験	9.4%	
性的な暴力	被害経験	3.3%	被害経験は女性で5.3%、男性20～40代で回答あり 加害経験は男女とも一部の年代でわずかに見られる
	加害経験	0.8%	
経済的な暴力	被害経験	5.3%	被害経験は女性30代が約2割 加害経験は男女とも一部の年代でわずかに見られる
	加害経験	1.4%	
子どもを利用した暴力	被害経験	3.1%	被害経験は40代で男女差が大きい 加害経験は男女とも一部の年代でわずかに見られる
	加害経験	1.4%	
ストーカー行為	被害経験	3.4%	被害経験は女性20代・40代、男性30代で約1割 加害経験は男女とも一部の年代でわずかに見られる
	加害経験	0.9%	

（2）被害経験についての相談経験（問25・問26）

被害経験時の相談について、男女ともに「友人・知人」（女性32.1%、男性10.3%）が最も高く、女性で3割以上、男性で1割以上となっている。次いで、女性は「家族や親戚」（29.6%）が高く、約3割となっているが、男性は「警察」（6.8%）となっ

第2章 調査結果の概要

ている。一方、「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」（女性 49.2%、男性 73.5%）が女性約 5 割、男性 7 割以上となっており、男性は被害を経験しても相談していない場合が多いことがうかがえる。

「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」場合の理由について、「相談するほどのことではないと思うから」（女性 40.7%、男性 53.5%）が女性 4 割以上、男性 5 割以上となっている。次いで「相談しても無駄だと思うから」（女性 27.1%、男性 32.6%）が高くなっている。

男女とも被害経験についての相談をしない場合が多く、特に男性でその傾向が強いことがうかがえる。また、相談する場合には、公的機関や専門家・機関より、家族や親戚、友人や知人といった身近な人が頼りにされている状況が特に女性でうかがえる。

（3）DV等の被害者支援制度等の認知度（問 27）

DV等の被害者支援のための制度や相談窓口などの認知について、「ストーカー規制法」（42.5%）が 4 割以上、「警察署における相談窓口」（34.5%）が 3 割以上となっている。次いで、「DV防止法」（23.3%）、「市町村のDV相談窓口」（21.3%）の 2 項目が 2 割以上となっている。一方、「いずれも知らない」（女性 33.5%、男性 40.8%）が女性で 3 割以上、男性で 4 割以上見られる。

7. 男女共同参画社会づくりのための施策について

（1）男女共同参画に関連する事項の認知度（問 28）

男女共同参画に関連する事項で見聞きしたことがあるものは、男女とも「男女雇用機会均等法」（女性 60.9%、男性 54.2%）が最も高く、女性 60 代（73.2%）は 7 割以上となっている。一方、「見聞きしたことがあるものはない」（女性 19.8%、男性 24.2%）は女性で約 2 割、男性で 2 割以上となっている。

経年変化を見ると、特に「男女雇用機会均等法」、「育児介護休業法」は前回調査より男女とも低くなっているが、「ジェンダー」は高くなっている。また、内閣府調査と比較すると、「男女雇用機会均等法」、「女子差別撤廃条約」の 2 項目は国の値より特に低くなっている。

（2）男女共同参画社会づくりの実感（問 29）

数年前と比べて男女共同参画の社会づくりが進んでいると感じるかについて、「《進んでいる（計）》」（「進んでいる」と「少しは進んでいる」の合計値 女性 21.6%、男性 29.1%）が女性で 2 割以上、男性で約 3 割となっており、男性のほうが「進んでいる」実感が強いことがうかがえる。また、「わからない」（女性 27.8%、男性 29.1%）は男女ともに約 3 割となっている。女性は、すべての年代で「どちらともいえない」もしくは「わからない」が最も高くなっているが、男性は 20 代・50 代以上で《進んでいる（計）》が高くなっている。

経年変化を見ると、男女とも《進んでいる（計）》が低くなっている。

（3）男女共同参画の社会づくりによって生じると思われる変化や効果（問 30）

男女共同参画の社会づくりが進むことによって社会に現れると思われる変化や効果について、女性は「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」（46.2%）が約 5 割で最も高く、僅差で「男女

ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」(44.4%)が続く。男性は「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」(39.8%)が約4割で最も高く、「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」(38.4%)が同程度となっている。一方で、「わからない」(女性18.0%、男性21.1%)は、男女ともに2割前後となっている。

(4) 地域活動にかかわるリーダーの性別意識 (問31)

自治会や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる役職の性別について、「適任者であれば、男女どちらでもよい」(女性78.7%、男性78.4%)が男女ともに約8割で最も高くなっており、特に女性20代・60代、男性40代・60代で8割以上となっている。《男性がなるほうがよい(計)》(「できるだけ、男性がなるほうがよい」と「どちらかという、男性がなるほうがよい」の合計値)は男女で大きな差は見られない。一方、《女性がなるほうがよい(計)》(「どちらかという、もっと女性がなるほうがよい」と「もっと女性がなるほうがよい」の合計値)は男女ともほとんど見られない。

現状では地域活動のリーダーを男性が担っていることが多いものの、適任者であれば性別は問わないという考えを男女とも多くの人を持っている。一方、男性がなるほうがよいと考える人は多くはないが、特に30～50代の女性で比較的多くになっており、地域活動のリーダーに女性がなりやすくするためには、中間層の女性の意識を変えていくことが必要と考えられる。

(5) 女性が地域活動のリーダーに登用されるために必要なこと (問32)

自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、女性が地域活動のリーダーになるために必要なことについて、男女とも「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」(女性47.5%、男性38.7%)が最も高く、女性で約5割、男性で約4割となっている。次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」(女性34.2%、男性31.3%)が3割以上となっている。一方で、「特にない」、「わからない」はそれぞれ約2割となっている。

(6) 女性が増えるとよいと思う役職・職業 (問33)

政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性が増えるとよいと思うものについて、男女とも「国会・県議会・市町村議会の議員」(女性57.0%、男性55.0%)が最も高く、「その他」を除くすべての項目で男性が女性より高くなっている。

経年変化を見ると、「県・市町村の首長」が特に高くなっている。また、内閣府調査と比較すると、ほとんどの項目が国の値より低くなっているが、「県・市町村の首長」と「起業家・経営者」は国の値を上回っている。

(7) 「ぐんま男女共同参画センター」について (問34・問35)

男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設「ぐんま男女共同参画センター」の認知について、《知っている・訪れたことがある(計)》(「訪れたことがある」と「訪れたことはないが、名前は知っている」の合計値 女性20.9%、男性25.0%)は男女とも2割以上となっており、70代以上では女性で約4割、男性で3割以上と

第2章 調査結果の概要

特に高くなっている。

経年変化を見ると、「訪れたことはないが、名前は知っている」は高くなっている。

「ぐんま男女共同参画センター」の今後担うべき役割について、女性は「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」(30.4%)、次いで「いつでも気軽に立ち寄れる交流の場」(22.8%)が高くなっている。男性は「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」(27.4%)、次いで「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」(23.5%)が高くなっている。一方で、40代・50代に加え、男性20代・30代では「特にない」が3割以上で最も高くなっている。

経年変化を見ると、ほとんどの項目で前回調査より高くなっているが、「男女共同参画に関する調査・研究」、「男性相談窓口の開設」は低くなっている。

(8) 男女共同参画社会実現のために群馬県が力を入れるべきこと (問36)

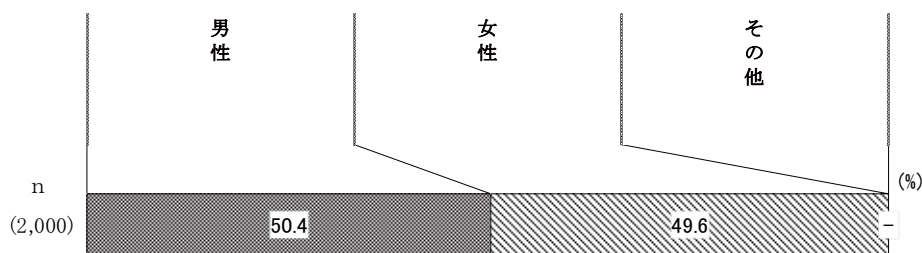
男女共同参画社会を実現するために、今後群馬県が力を入れていくべきと思うことについて、男女とも「男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援」(女性38.1%、男性33.2%)が最も高く、女性約4割、男性3割以上となっており、特に女性60代(50.7%)は5割以上となっている。次いで「子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援」(女性38.0%、男性28.8%)が女性約4割、男性約3割となっており、女性20代・30代・50代で最も高くなっている。一方で、「特にない」は男性20代・40代・50代で3割以上と最も高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

1. 回答者の属性

(1) 性別

女性（49.6%）、男性（50.4%）ともに約5割となっている。

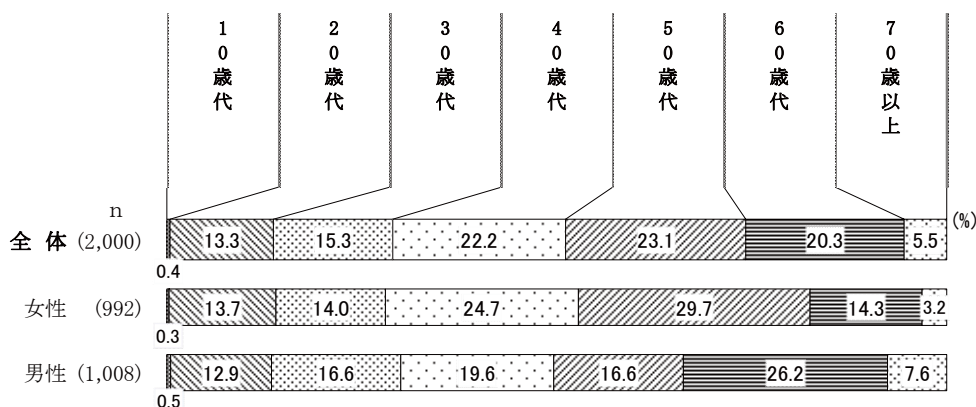


(2) 年代

全体で40歳代（22.2%）、50歳代（23.1%）、60歳代（20.3%）が2割台となっており、20歳代（13.3%）、30歳代（15.3%）が1割以上となっている。

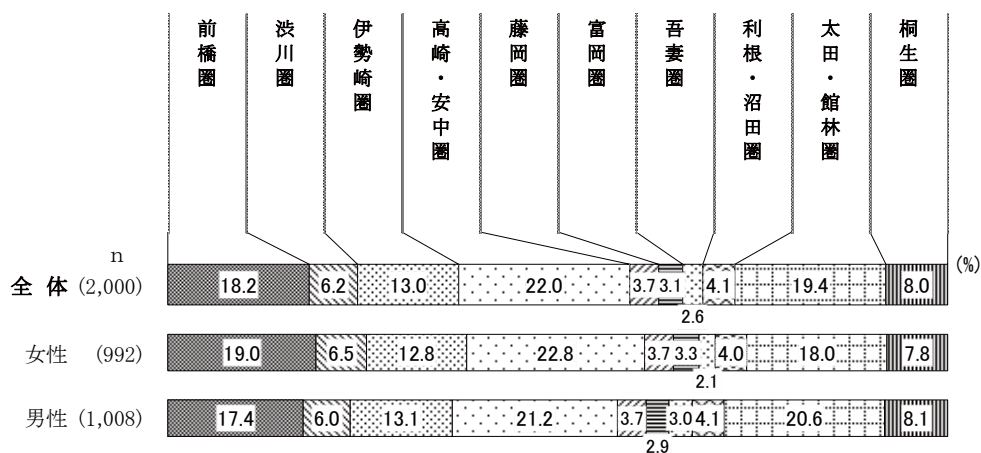
女性で50歳代（29.7%）が最も多く、男性では60歳代（26.2%）が最も多い。

平成26年度と比べて、年代ごとに増減が見られ、特に女性50歳代（令和元年度29.7%、平成26年度19.7%）、70歳以上（令和元年度3.2%、平成26年度13.7%）でそれぞれ10.0ポイント、10.5ポイントの差が見られる。



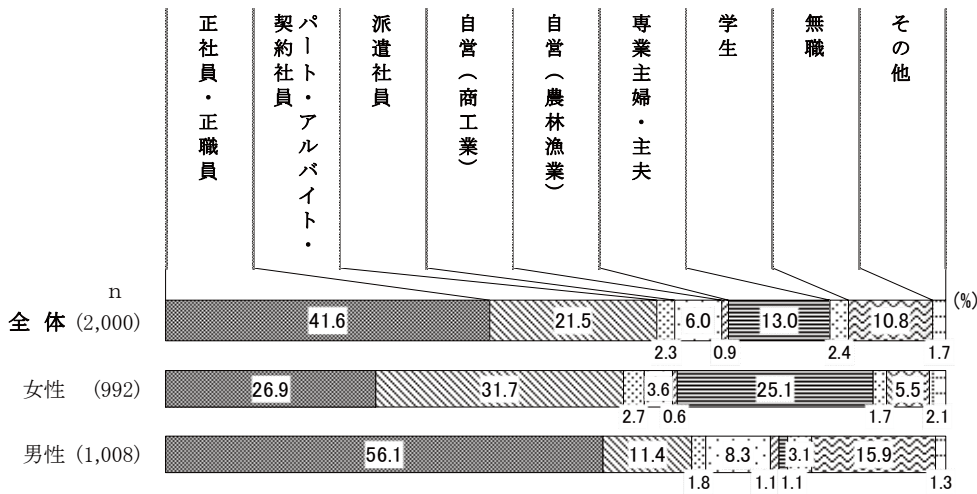
(3) 居住地区

全体、男女とも高崎・安中圏（全体22.0%、女性22.8%、男性21.2%）が最も多くなっている。次いで女性では前橋圏（19.0%）、男性では太田・館林圏（20.6%）が多くなっている。



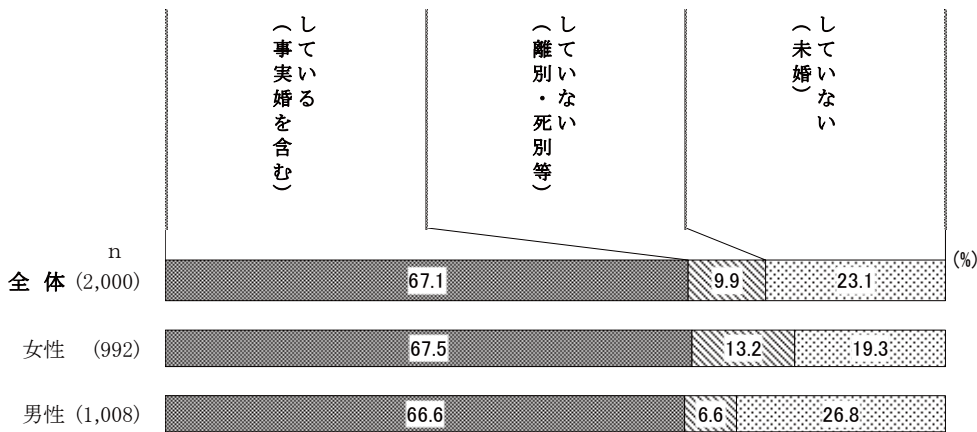
(4) 職業

女性は「パート・アルバイト・契約社員」(31.7%)が3割以上、男性は「正社員・正職員」(56.1%)が約6割でそれぞれ最も多くなっている。



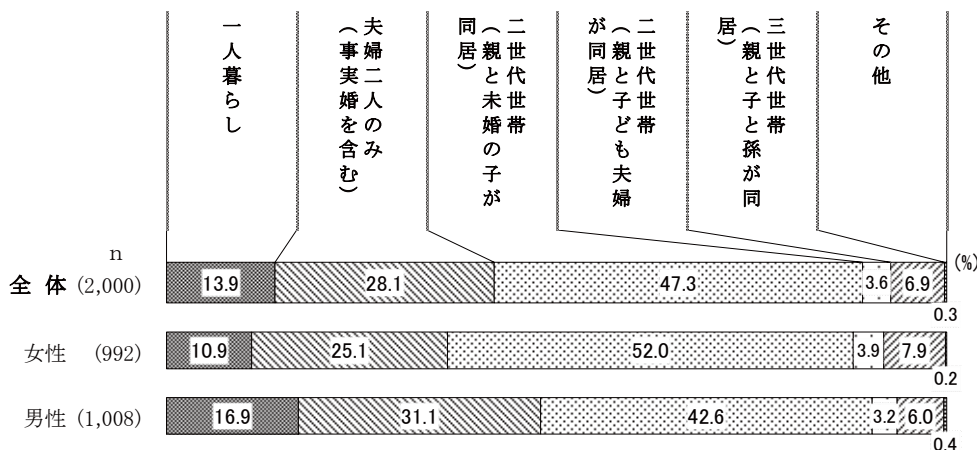
(5) 結婚

全体、男女とも「している(事実婚を含む)」(全体67.1%、女性67.5%、男性66.6%)が約7割で特に多く、次いで「していない(未婚)」(全体23.1%、女性19.3%、男性26.8%)が多くなっている。



(6) 世帯構成

全体、男女とも「二世帯世帯(親と未婚の子が同居)」(全体47.3%、女性52.0%、男性42.6%)が最も多く、次いで「夫婦二人のみ(事実婚を含む)」(全体28.1%、女性25.1%、男性31.1%)が多くなっている。

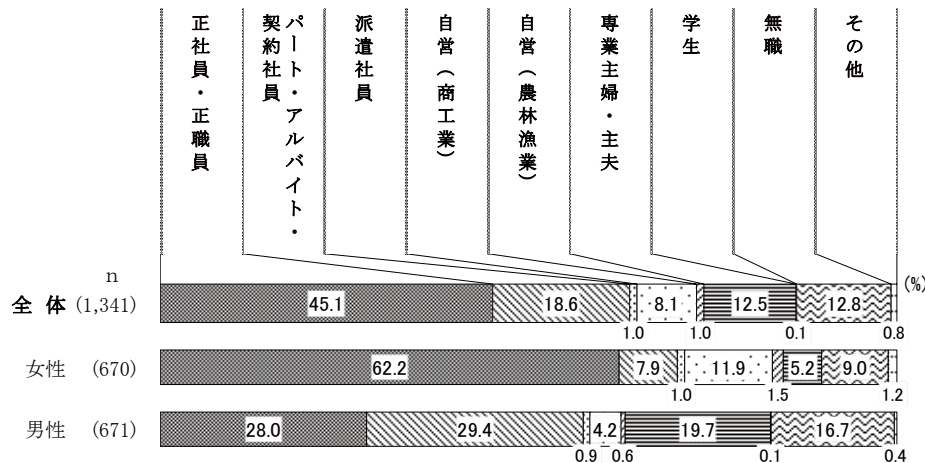


(7) 配偶者の職業、夫婦の働き方

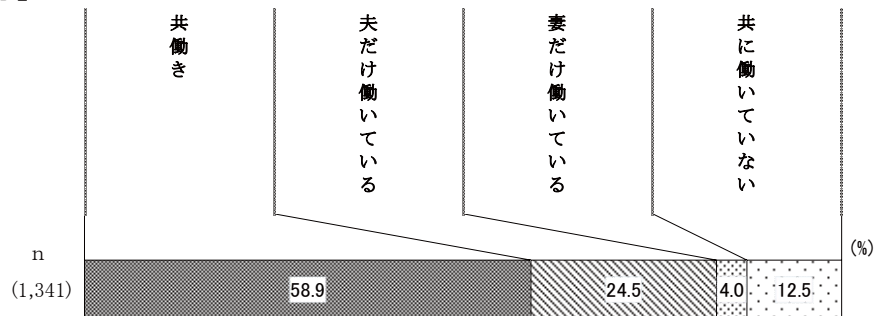
配偶者の職業について、回答者が女性の場合の配偶者は「正社員・正職員」(62.2%)が6割以上で最も多くなっており、回答者が男性の場合の配偶者は「パート・アルバイト・契約社員」(29.4%)、「正社員・正職員」(28.0%)が約3割で多くなっている。

「(5) 結婚」を「している(事実婚を含む)」と回答した1,341人の「(4) 職業」と合わせて夫婦の働き方を見ると、「共働き」(58.9%)が約6割で最も多く、次いで「夫だけが働いている」(24.5%)、「共に働いていない」(12.5%)が多くなっている。

【配偶者の職業】



【夫婦の働き方】



(8) 子どもについて

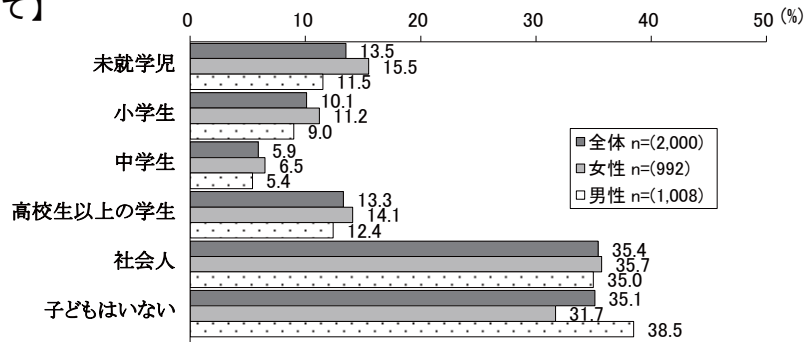
女性では「社会人」(35.7%)が約4割、男性では「子どもはいない」(38.5%)が約4割で最も多くなっている。

子どもの有無を見ると、男女とも「子どもがいる」(全体64.9%、女性68.3%、男性61.5%)が6割台となっている。

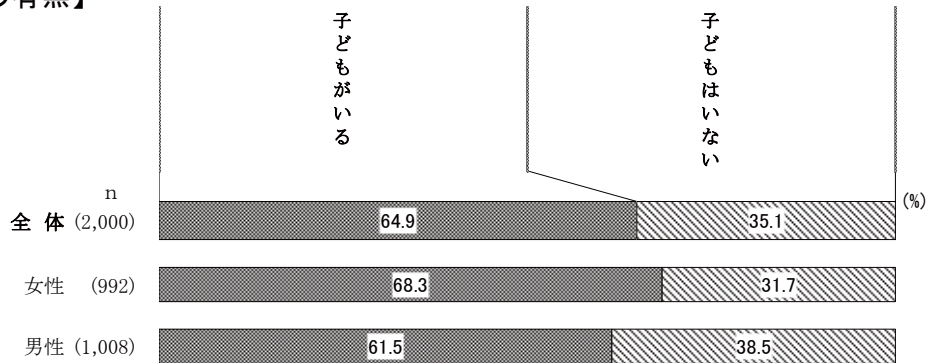
子どもの有無別に「(5) 結婚」の状況を見ると、「子どもがいる」では結婚を「している(事実婚を含む)」(87.9%)が約9割を占めるが、「子どもはいない」では結婚を「していない(未婚)」(62.5%)が6割以上、「している(事実婚を含む)」(28.5%)が約3割となっている。

第3章 調査結果の詳細

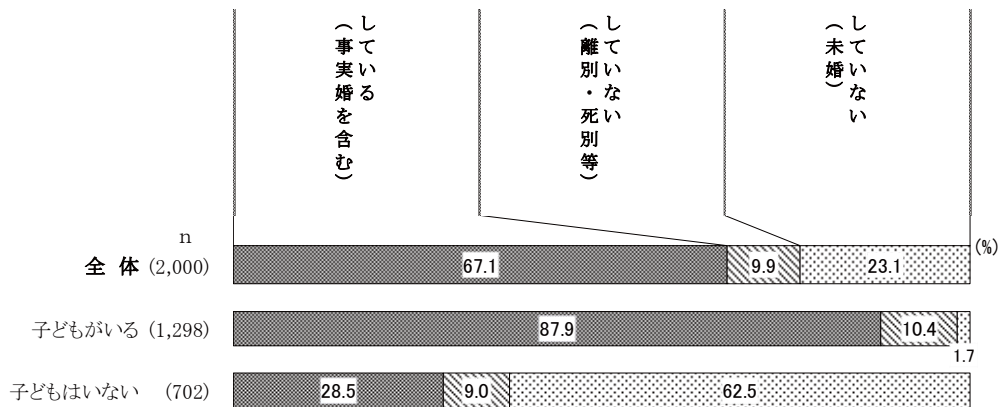
【子どもについて】



【子どもの有無】

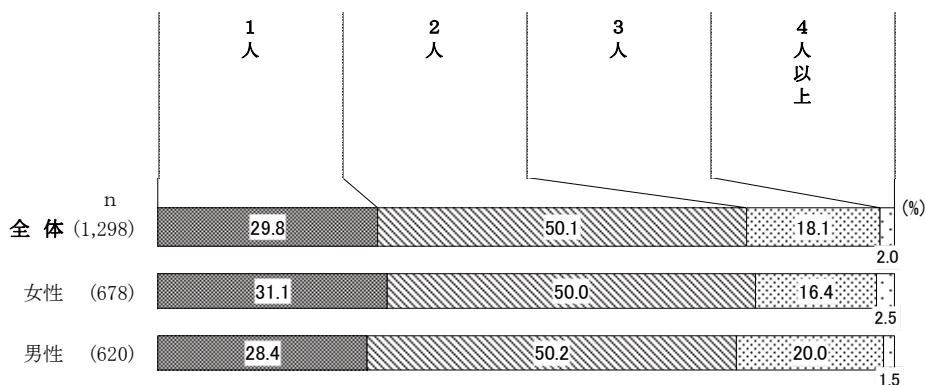


【子どもの有無・結婚状況別】



(9) 子どもの人数

「(8) 子どもについて」で「子どもがいる」と回答した1,298人について、子どもの人数を見ると、男女とも「2人」(全体50.1%、女性50.0%、男性50.2%)が約5割で最も多く、次いで「1人」(全体29.8%、女性31.1%、男性28.4%)が約3割、「3人」(全体18.1%、女性16.4%、男性20.0%)が約2割となっている。



2. 男女の平等感について

(1) さまざまな分野における男女の地位の平等感

問10 あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
(それぞれ1つに○)

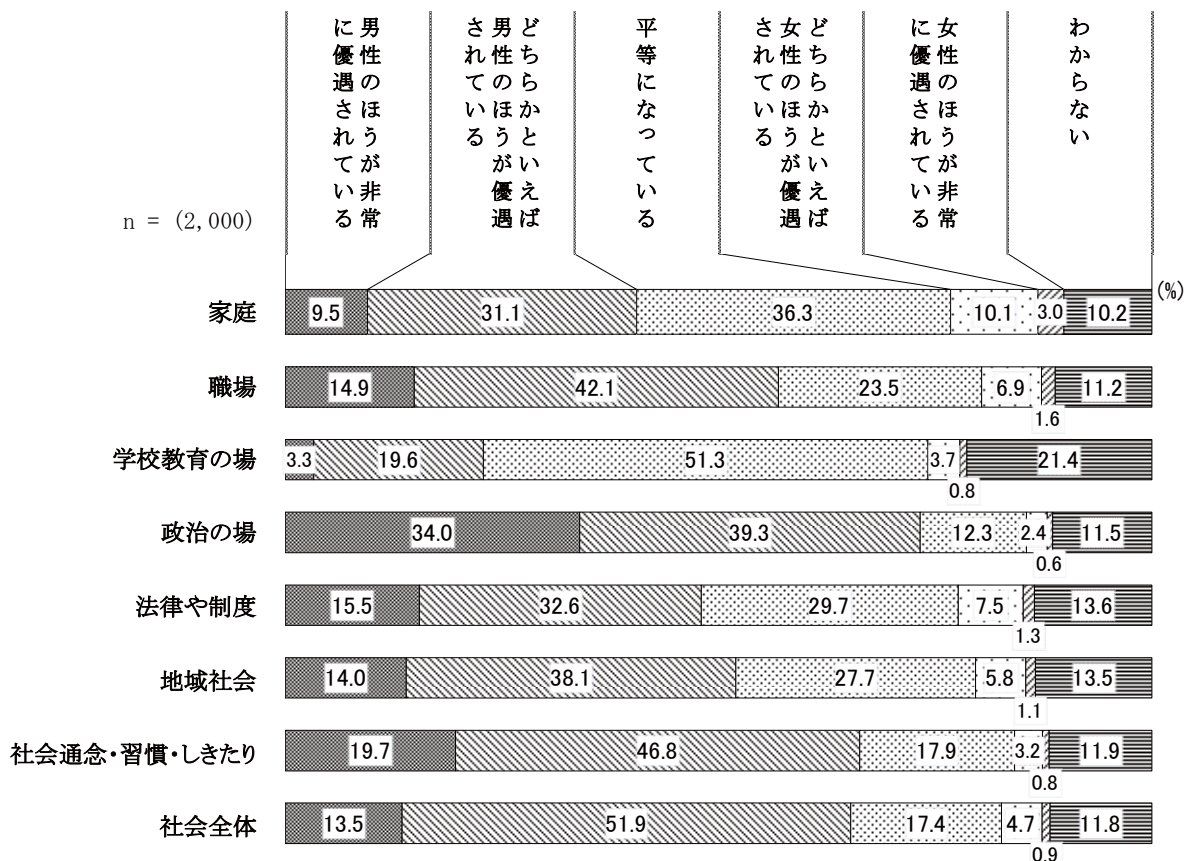
- 全体では「学校教育の場」を除き《男性優遇（計）》が高い
- 「学校教育の場」では「平等」が5割以上

全体では、『家庭』、『学校教育の場』を除くすべての項目で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高く、『学校教育の場』（51.3%）、『家庭』（36.3%）では、「平等になっている」が最も高くなっている。

「平等になっている」は『学校教育の場』、『家庭』に次いで『法律や制度』（29.7%）、『地域社会』（27.7%）、『職場』（23.5%）の3項目で2割以上となっており、『政治の場』（12.3%）では1割以上で最も低くなっている。

《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、『政治の場』（73.3%）で最も高く7割以上、次いで『社会通念・習慣・しきたり』（66.5%）、『社会全体』（65.4%）の2項目で約7割となっている。

一方、《女性優遇（計）》（「女性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性のほうが優遇されている」の合計値）は、『家庭』（13.1%）を除いたすべての項目で1割未満となっている。



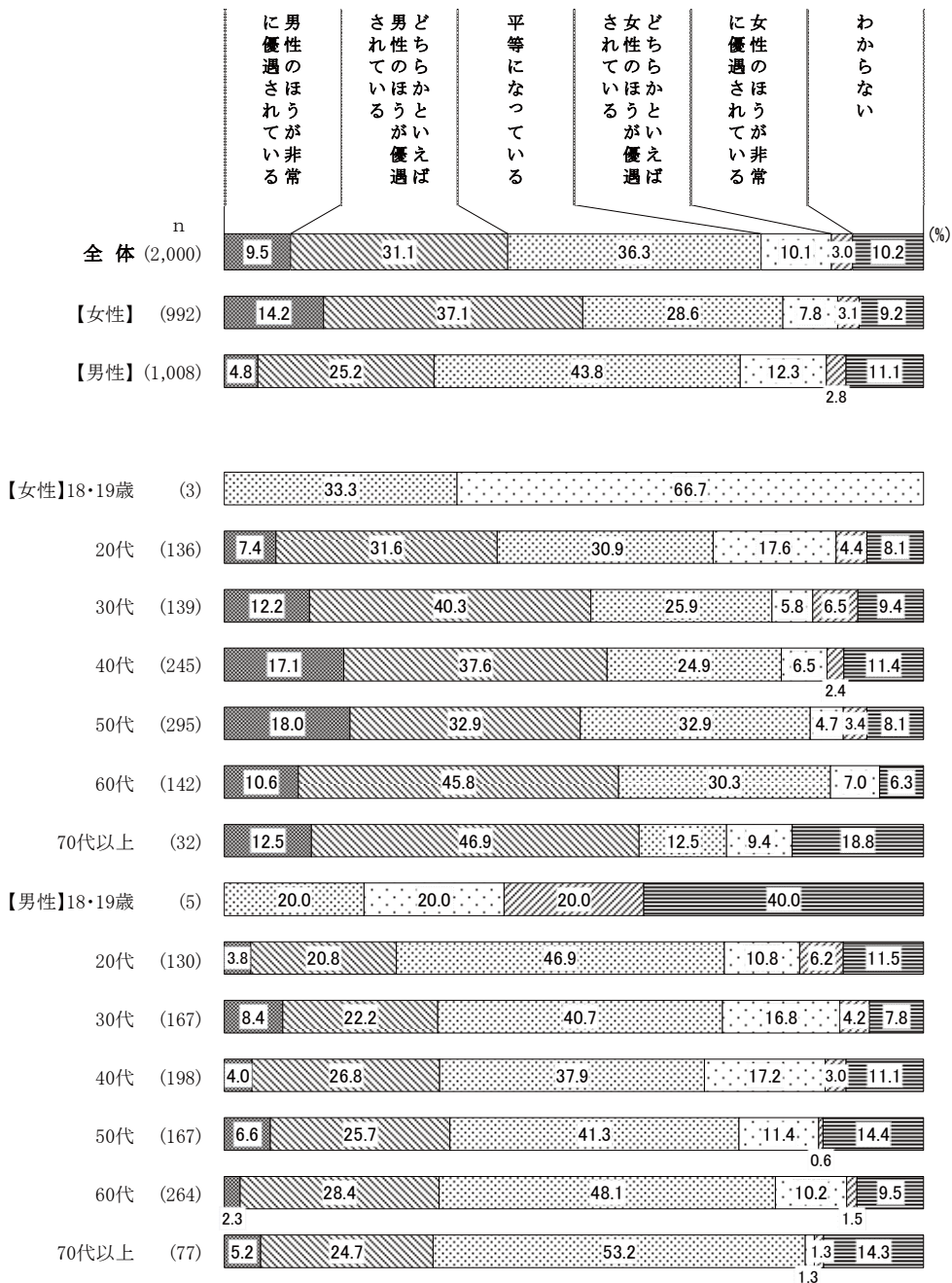
問10 ① 家庭での男女の平等

● 《男性優遇（計）》は女性5割以上、男性3割

女性は「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（37.1%）、男性は「平等になっている」（43.8%）が最も高くなっている。

《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性（51.3%）が男性（30.0%）より21.3ポイント高くなっている。

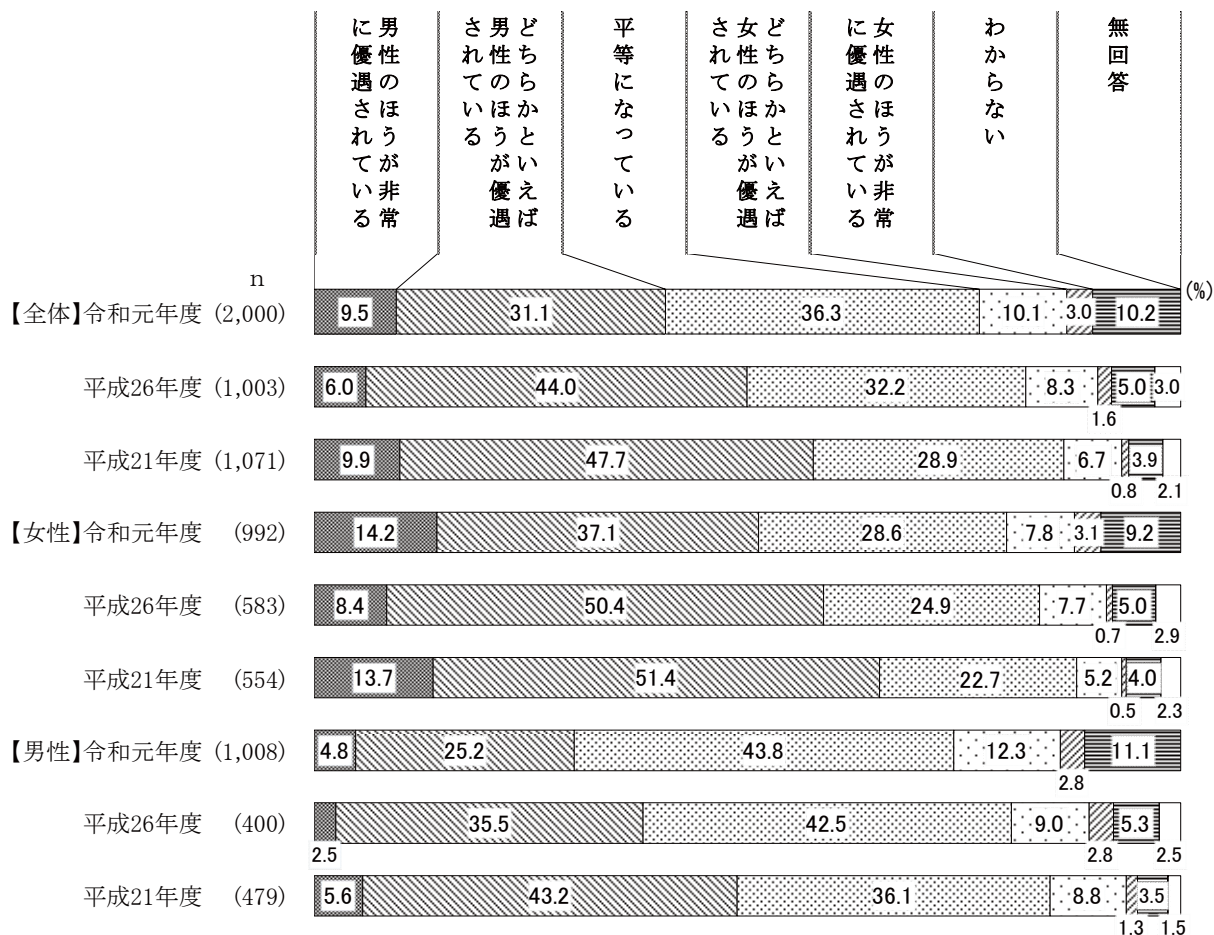
性・年代別で見ると、女性はすべての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高く、男性はすべての年代で「平等になっている」が最も高くなっている。女性50代は「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」と「平等になっている」が同値（32.9%）となっている。《男性優遇（計）》は、すべての年代で女性が男性より高く、女性では20代を除くすべての年代で5割以上となっている。



◇経年変化

● 《男性優遇（計）》は男女ともに低下

経年変化を性別で見ると、「平等になっている」は、平成26年度からあまり大きな変化は見られない。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、平成26年度（全体50.0%、女性58.8%、男性38.0%）より全体は9.4ポイント、女性は7.5ポイント、男性は8.0ポイントそれぞれ低くなっている。

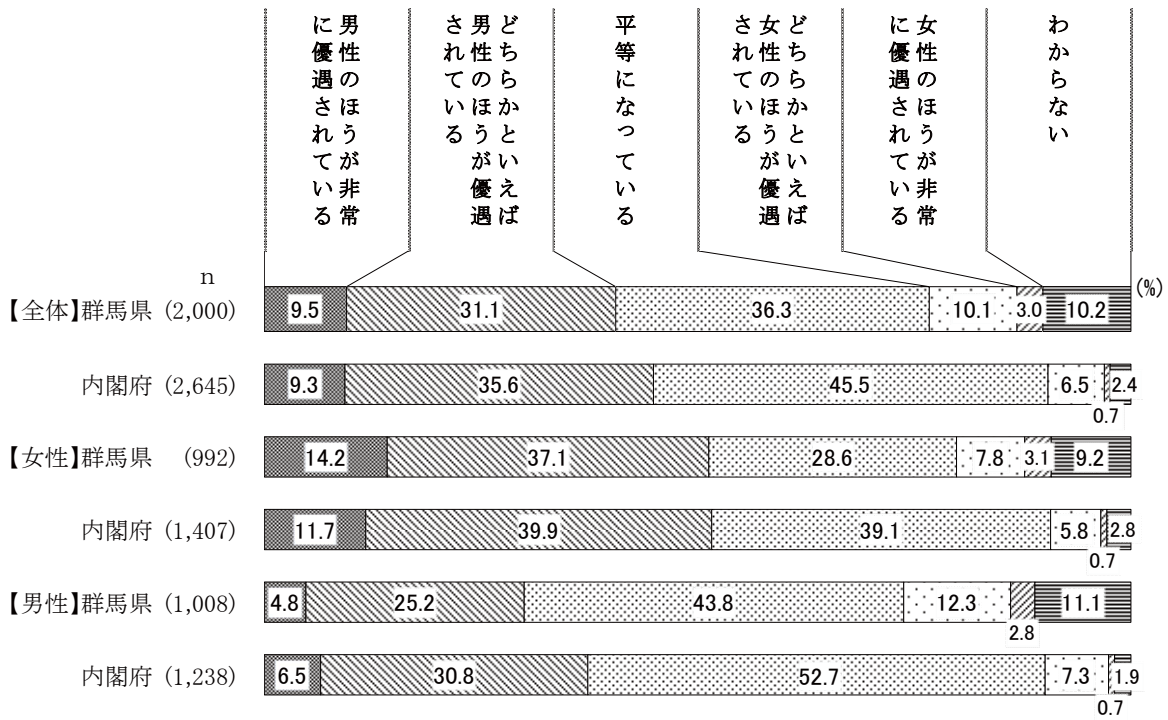


◇国の調査との比較

● 《男性優遇（計）》は男性で国より低く、「平等」は男女とも国より低い

内閣府の調査と比較すると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性ではほぼ同程度となっているが、男性では内閣府（37.3%）より7.3ポイント低くなっている。一方、「平等になっている」は、内閣府（全体45.5%、女性39.1%、男性52.7%）より全体は9.2ポイント、女性は10.5ポイント、男性は8.9ポイントそれぞれ低くなっている。

【問10① 国の調査との比較】



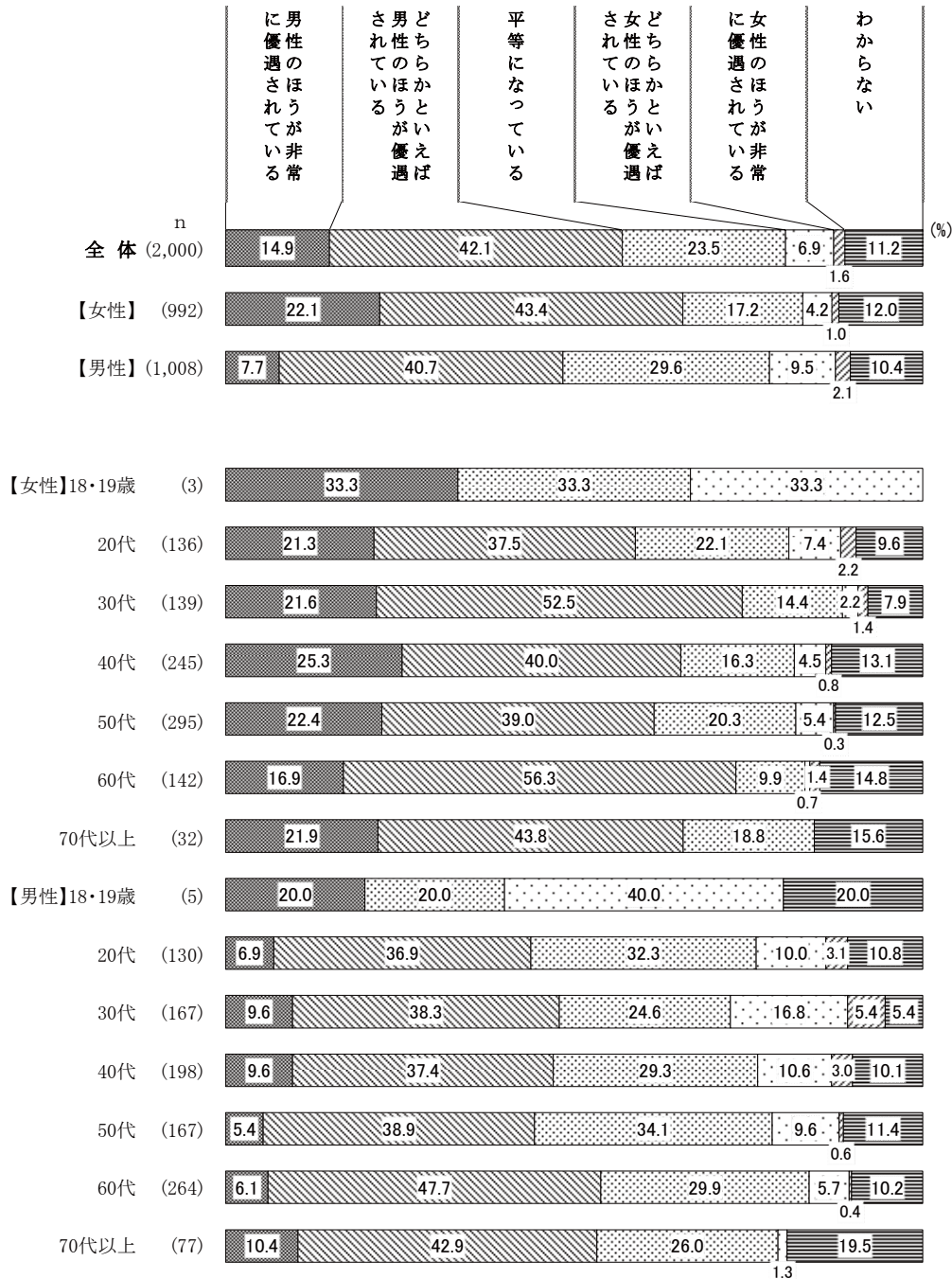
問10 ②職場での男女の平等

- 《男性優遇（計）》は女性6割以上、男性約5割
- 《男性優遇（計）》は、30代で男女差が大きい

男女とも「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（女性43.4%、男性40.7%）が最も高くなっている。「男性のほうが非常に優遇されている」は、女性（22.1%）が男性（7.7%）より14.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっている。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、すべての年代で女性が男性より高く、女性30代（74.1%）と60代（73.2%）で7割以上となっている。男女差は30代（女性74.1%、男性47.9%）が26.2ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

【問 10 ②職場での男女の平等】

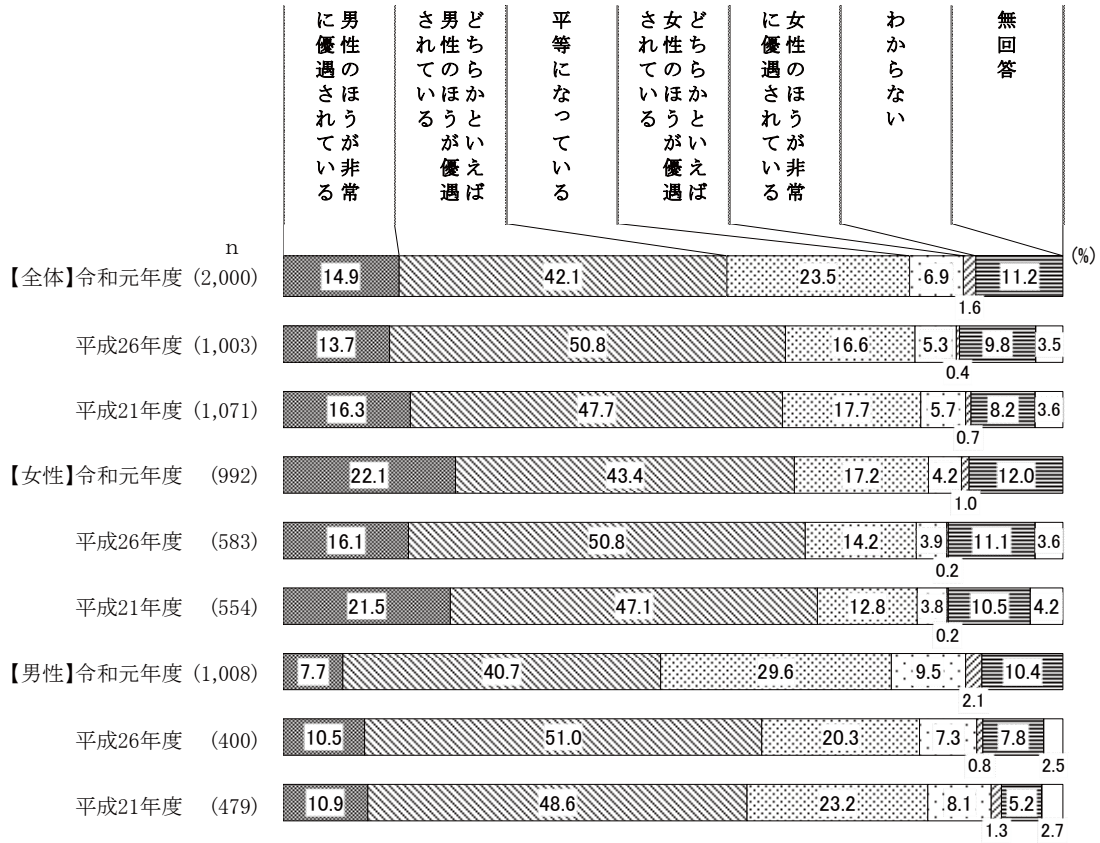


◇経年変化

● 「平等」は男性で前回より高くなっている

経年変化を性別で見ると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」は、女性で平成26年度（50.8%）より7.4ポイント、男性で平成26年度（51.0%）より10.3ポイント低くなっている。「平等になっている」は、女性であまり大きな変化は見られないが、男性では平成26年度（20.3%）より9.3ポイント高くなっている。

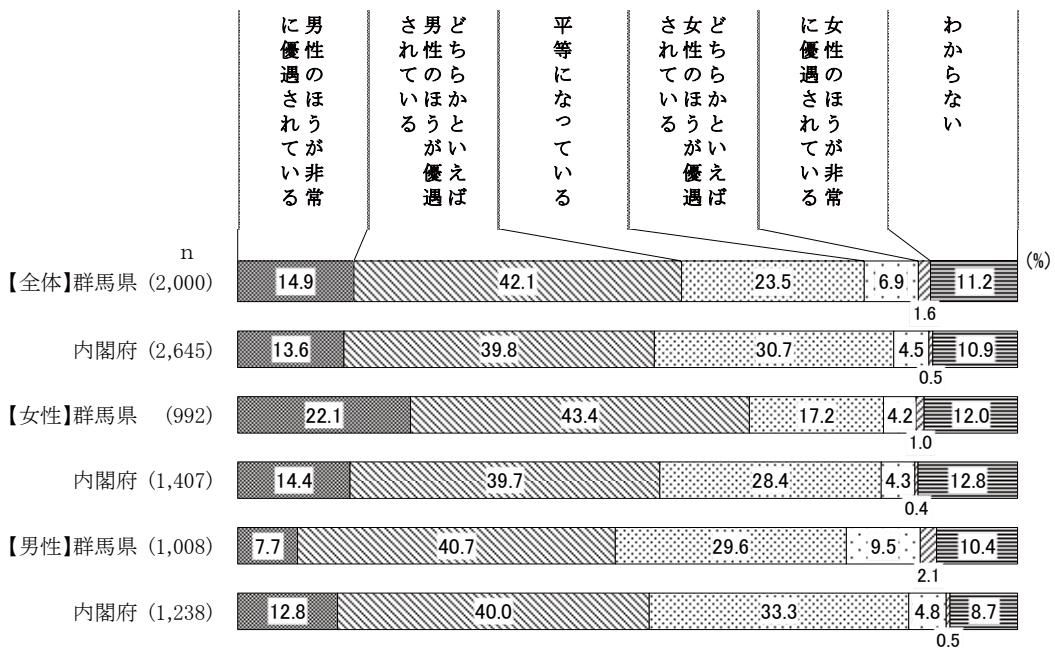
【問10② 経年変化】



◇国の調査との比較

● 《男性優遇（計）》は女性で国より高く、男性で国より低い

内閣府の調査と比較すると、「男性のほうが非常に優遇されている」は、女性で内閣府（14.4%）より 7.7 ポイント高くなっているが、男性では内閣府（12.8%）より 5.1 ポイント低くなっている。一方、「平等になっている」は、男性であまり大きな差は見られないが、内閣府（全体 30.7%、女性 28.4%）より全体は 7.2 ポイント、女性は 11.2 ポイントそれぞれ低くなっている。



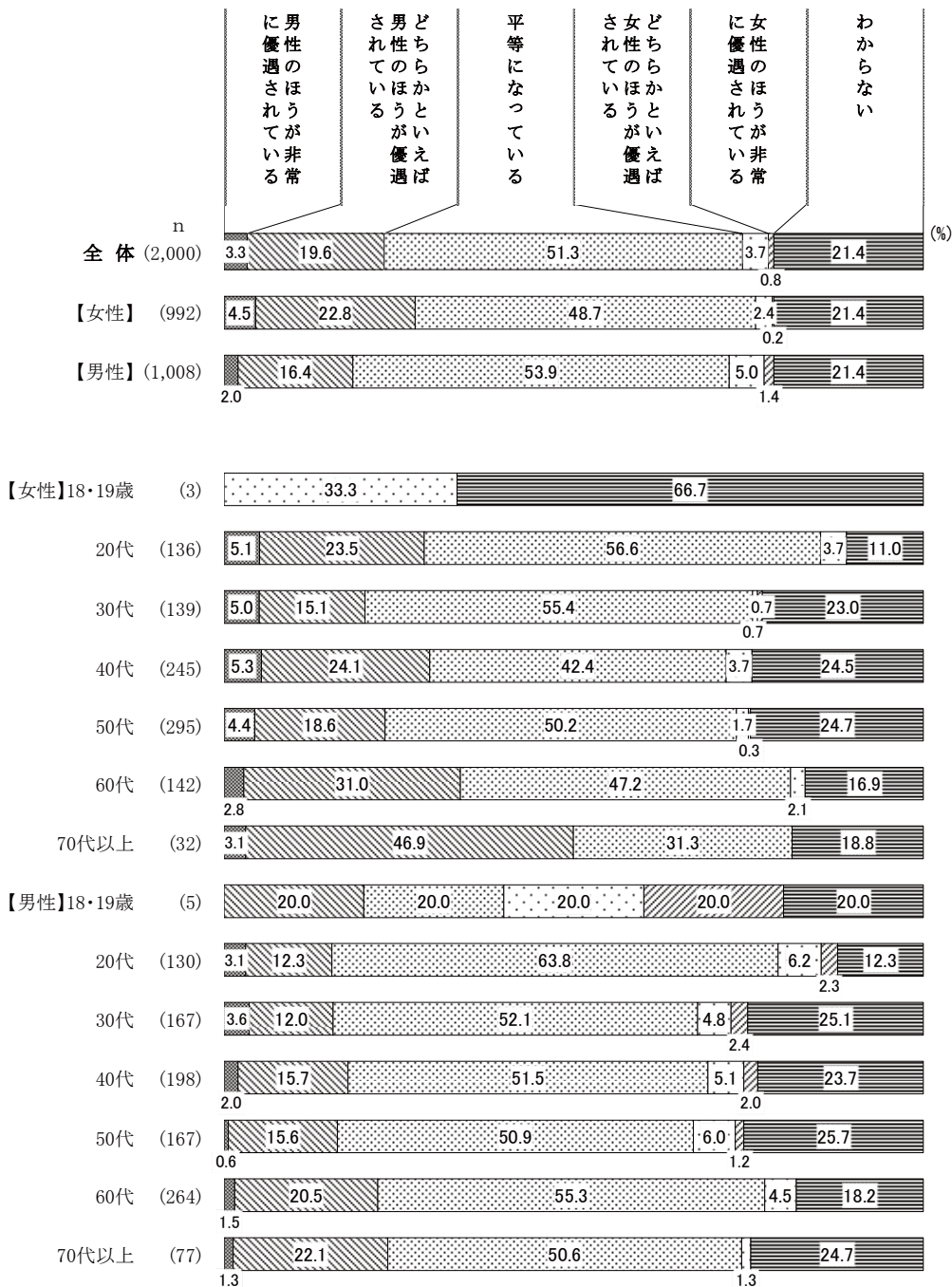
問 10 ③学校教育の場での男女の平等

● 「平等」は男女とも約5割で最も高い

男女とも「平等になっている」(女性 48.7%、男性 53.9%)が最も高くなっている。

《男性優遇(計)》(「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値)は、女性(27.3%)が男性(18.4%)より8.9ポイント高くなっている。

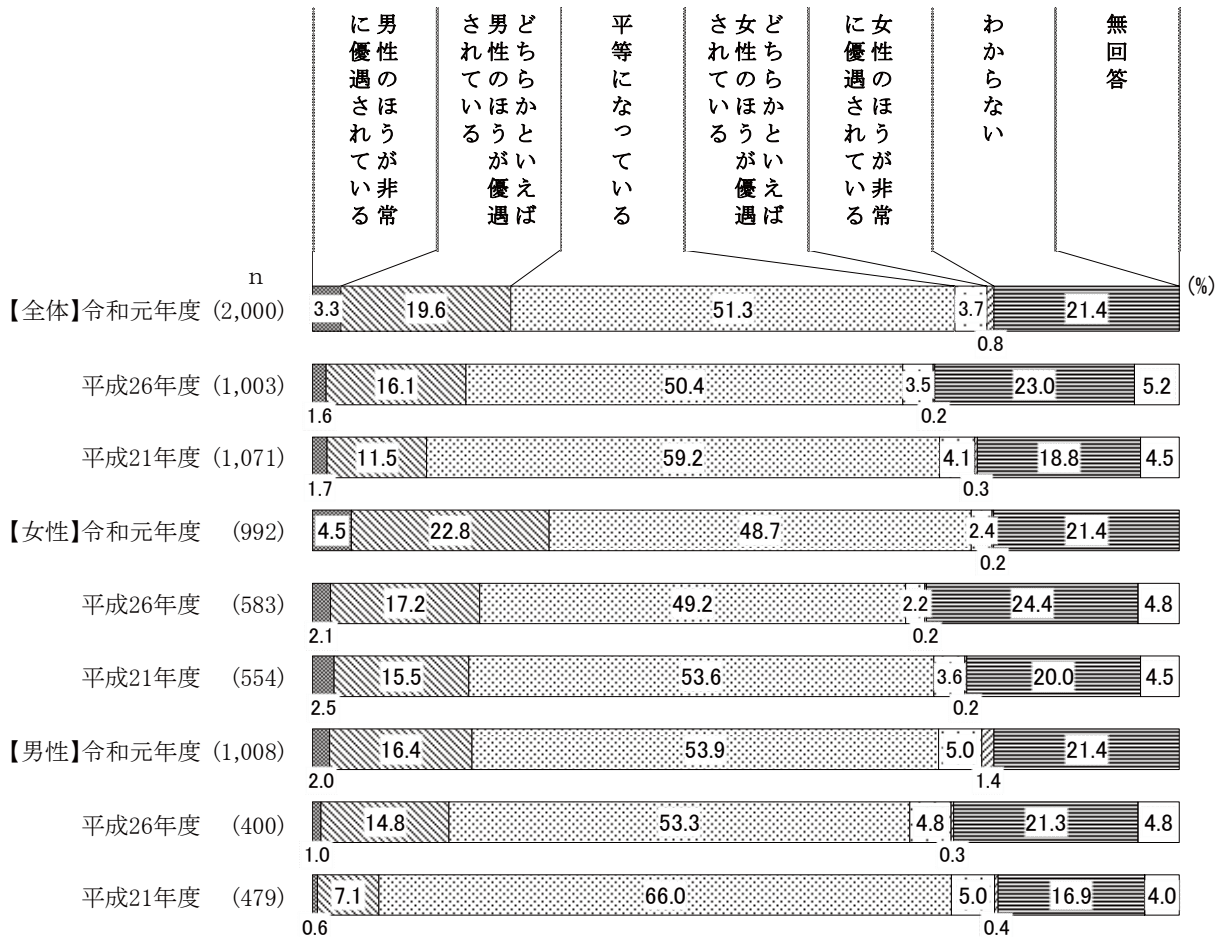
性・年代別で見ると、女性70代以上を除くすべての年代で「平等になっている」が最も高く、女性70代以上は「どちらかといえば男性が優遇されている」(46.9%)が最も高くなっている。《男性優遇(計)》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は70代以上(女性50.0%、男性23.4%)が26.6ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。



◇経年変化

● 《男性優遇（計）》は女性で上昇

経年変化を性別で見ると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、男性で大きな変化は見られないが、女性では平成26年度（19.3%）より8.0ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は、全体、男女とも平成26年度からの大きな変化は見られない。

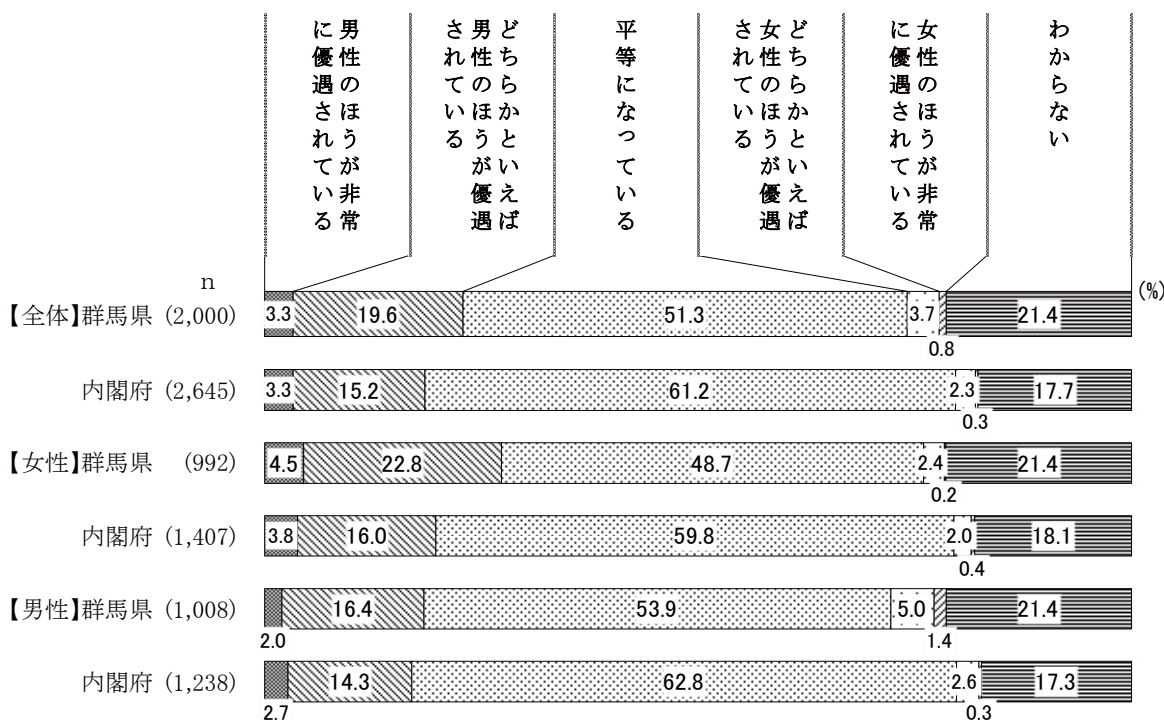


◇国の調査との比較

- 「どちらかといえば男性優遇」は女性で国より高い
- 「平等」は男女とも国より低い

内閣府の調査と比較すると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」は、男性で大きな差は見られないが、女性では内閣府（16.0%）より6.8ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は、内閣府（全体61.2%、女性59.8%、男性62.8%）より全体は9.9ポイント、女性は11.1ポイント、男性は8.9ポイントそれぞれ低くなっている。

【問10③ 国の調査との比較】



問10 ④政治の場での男女の平等

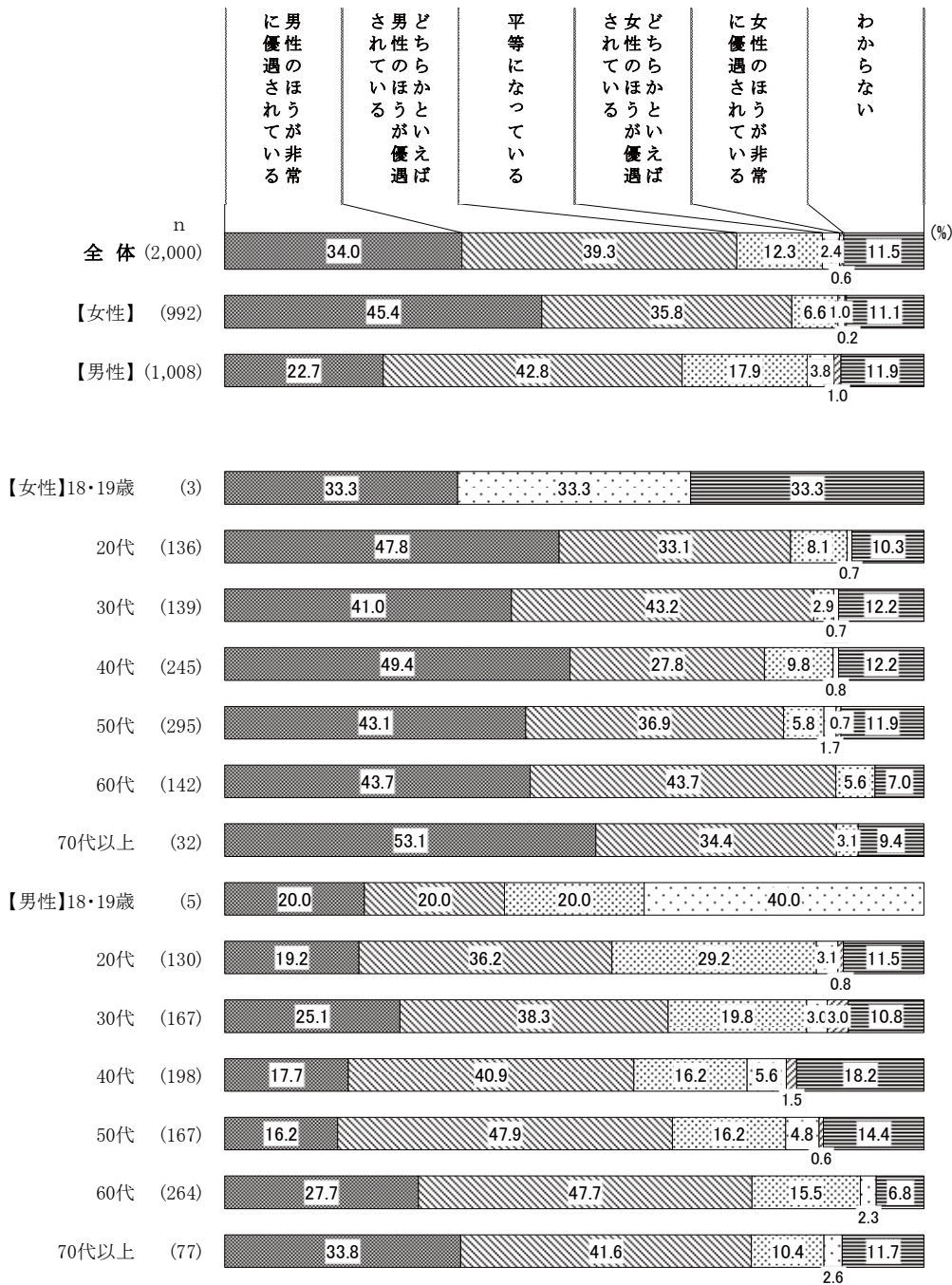
● 《男性優遇（計）》は女性8割以上、男性約7割

女性は「男性のほうが多に優遇されている」（45.4%）、男性は「どちらかといえは男性のほうが多に優遇されている」（42.8%）が最も高くなっている。

《男性優遇（計）》（「男性のほうが多に優遇されている」と「どちらかといえは男性のほうが多に優遇されている」の合計値）は、女性（81.2%）が男性（65.5%）より15.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は30代を除くすべての年代で「男性のほうが多に優遇されている」が4割以上と最も高く、女性30代と男性のすべての年代で「どちらかといえは男性のほうが多に優遇されている」が最も高くなっている。女性60代は「男性のほうが多に優遇されている」と「どちらかといえは男性のほうが多に優遇されている」が同値（43.7%）となっている。《男性優遇（計）》はすべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は20代（女性80.9%、男性55.4%）が25.5ポイントで最も大きくなっている。

【問 10 ④政治の場での男女の平等】

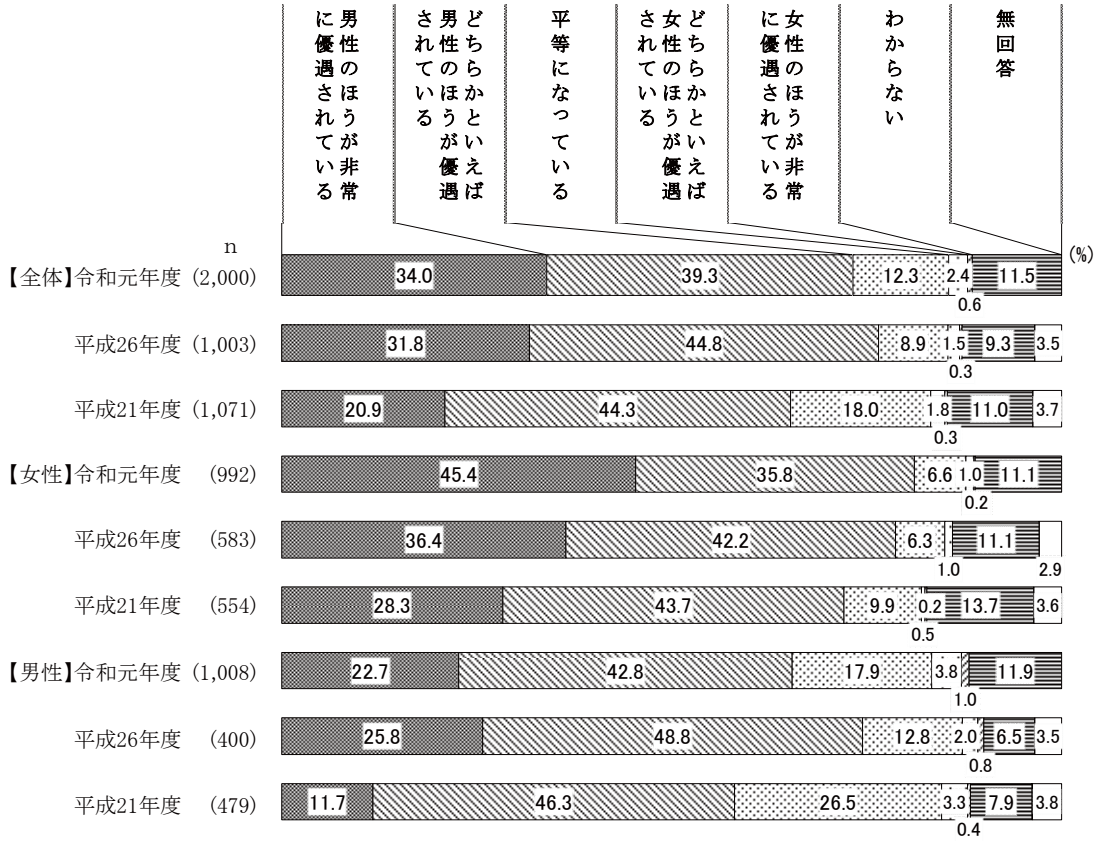


◇経年変化

- 「非常に男性優遇」は女性で前回より高い
- 《男性優遇（計）》は男性で前回より低い

経年変化を性別で見ると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、全体、女性であまり大きな変化は見られないが、男性では平成 26 年度（74.6%）より 9.1 ポイント低くなっている。「男性のほうが非常に優遇されている」は、全体、男性であまり大きな変化は見られないが、女性では平成 26 年度（36.4%）より 9.0 ポイント高くなっている。「平等になっている」は、全体、女性で大きな変化は見られないが、男性では平成 26 年度（12.8%）より 5.1 ポイント高くなっている。

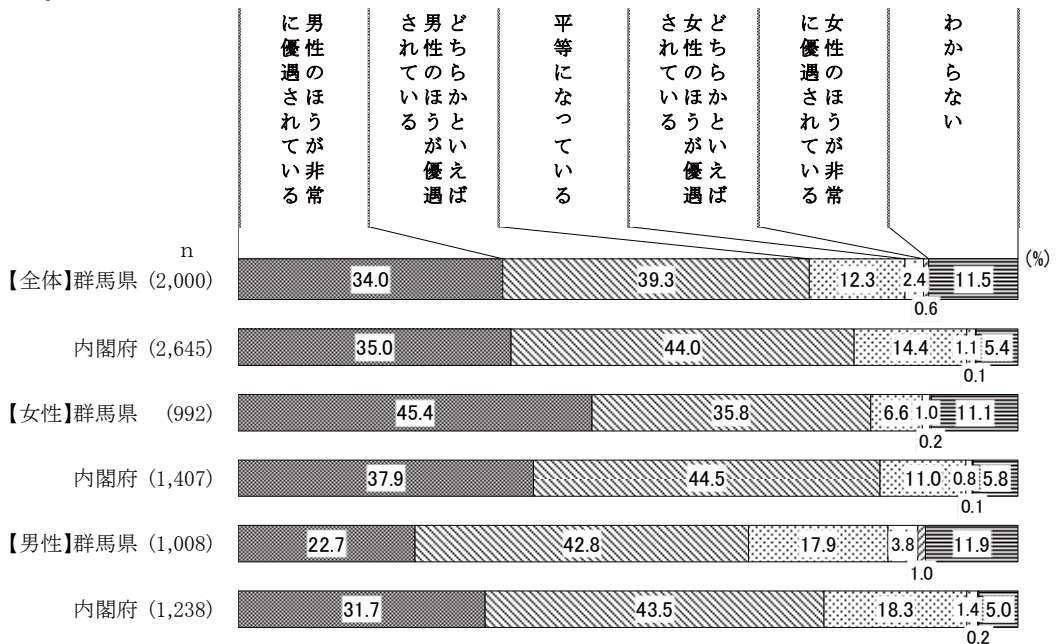
【問10④ 経年変化】



◇国の調査との比較

- 《男性優遇（計）》は男性で国より低い
- 「非常に男性優遇」は女性で国より高く、男性で国より低い

内閣府の調査と比較すると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性であまり大きな差は見られないが、男性では内閣府（75.2%）より 9.7 ポイント低くなっている。「男性のほうが非常に優遇されている」は、女性で内閣府（37.9%）より 7.5 ポイント高くなっているが、男性では内閣府（31.7%）より 9.0 ポイント低くなっている。



問10 ⑤法律や制度での男女の平等

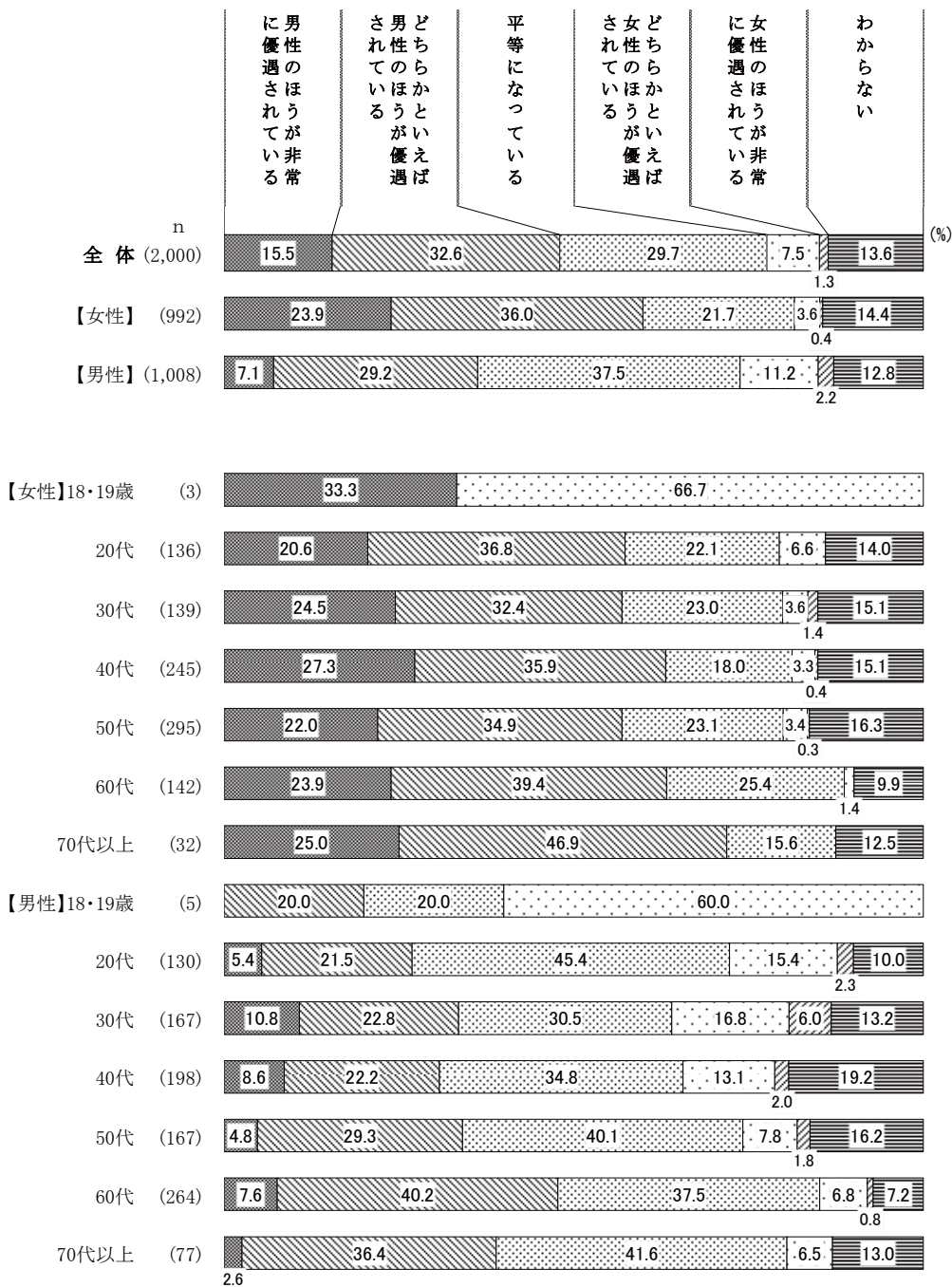
● 女性は「どちらかといえば男性優遇」、男性は「平等」が最も高い

● 《男性優遇（計）》は女性約6割、男性約4割

女性は「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（36.0%）、男性は「平等になっている」（37.5%）が最も高くなっている。

《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性（59.9%）が男性（36.3%）より23.6ポイント高くなっている。

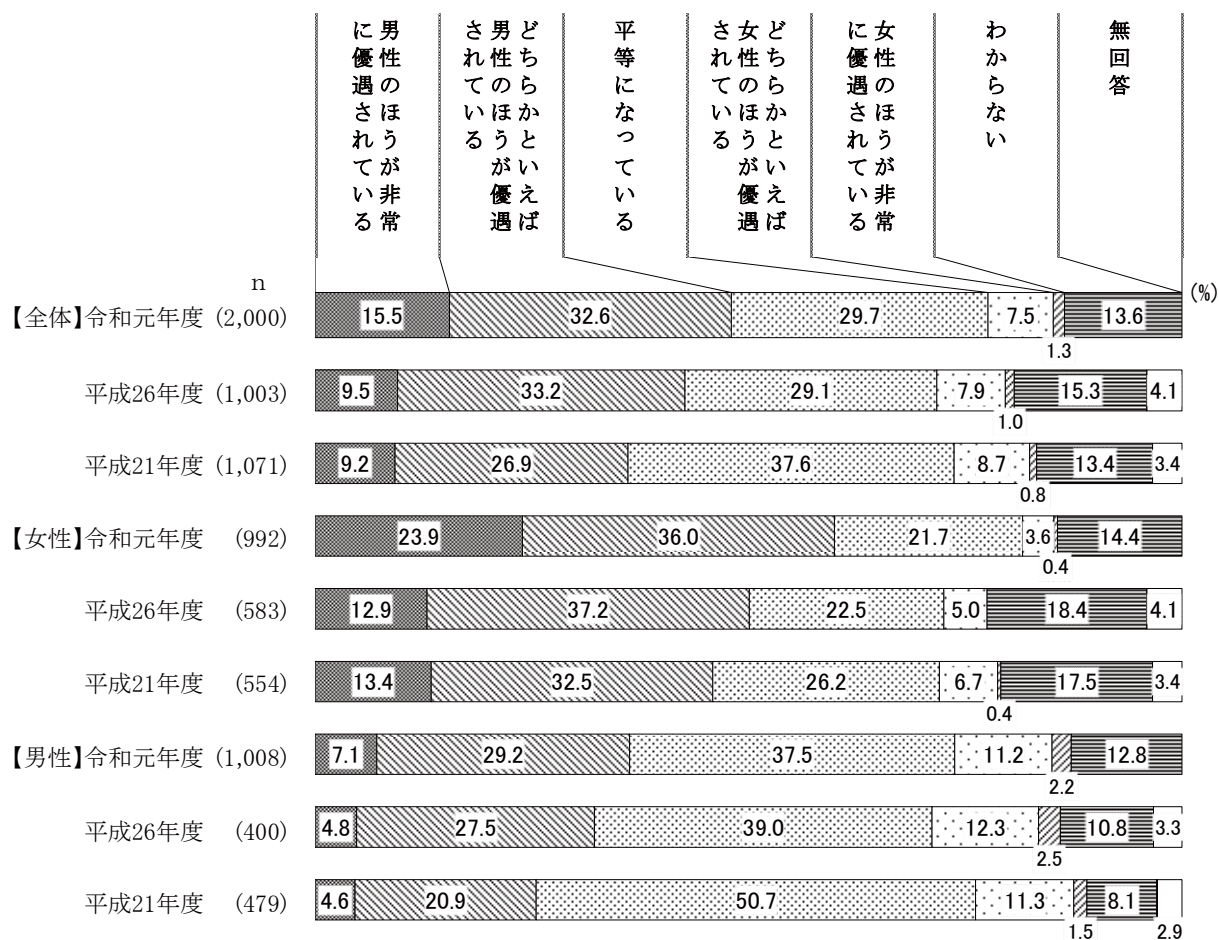
性・年代別で見ると、《男性優遇（計）》は、すべての年代で女性が男性より高く、特に女性70代以上は7割以上と高くなっており、男女差は70代以上（女性71.9%、男性39.0%）が32.9ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。



◇経年変化

- 「非常に男性優遇」は女性で前回より高い
- 「平等」は男女ともあまり大きな変化は見られない

経年変化を性別で見ると、「男性のほうが非常に優遇されている」は、男性では大きな変化は見られないが、全体、女性で平成26年度（全体9.5%、女性12.9%）より全体は6.0ポイント、女性は11.0ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は、全体、男女とも大きな変化は見られない。

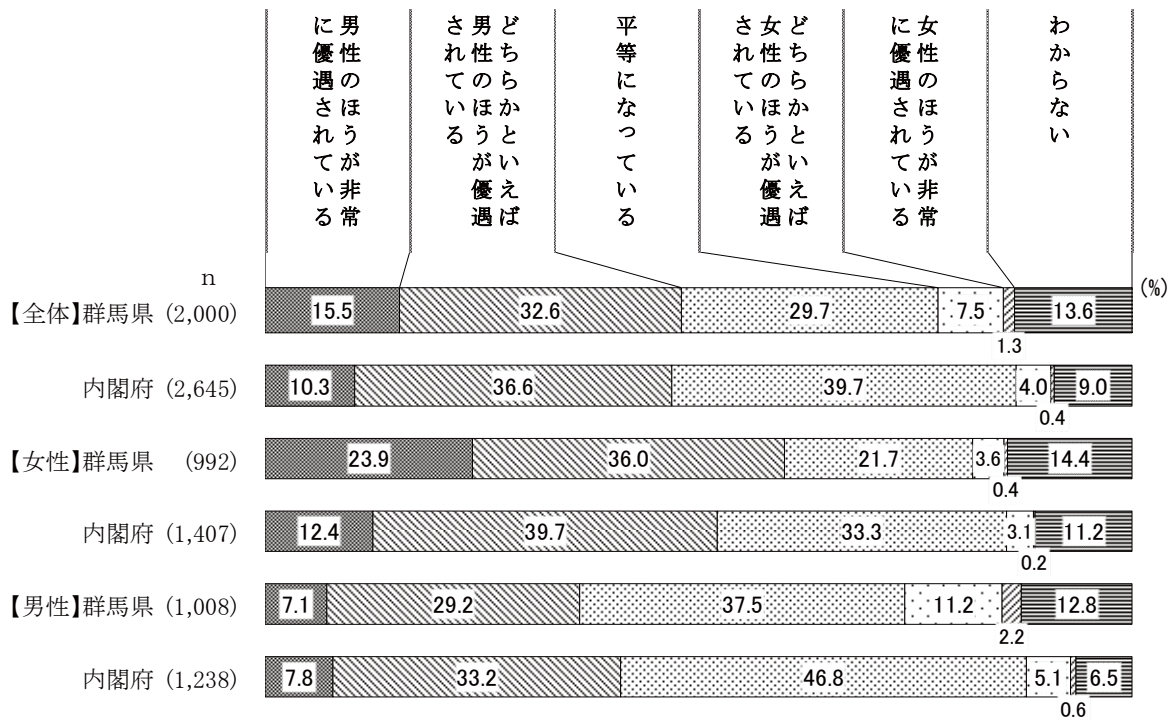


◇国の調査との比較

- 「非常に男性優遇」は女性で国より高い
- 「平等」は男女とも国より低い

内閣府の調査と比較すると、「男性のほうが非常に優遇されている」は、男性で大きな差は見られないが、全体、女性で内閣府（全体10.3%、女性12.4%）より全体は5.2ポイント、女性は11.5ポイント高くなっている。一方、「平等になっている」は、内閣府（全体39.7%、女性33.3%、男性46.8%）より全体は10.0ポイント、女性は11.6ポイント、男性は9.3ポイントそれぞれ低くなっている。

【問10⑤】 国の調査との比較



問10 ⑥地域社会での男女の平等

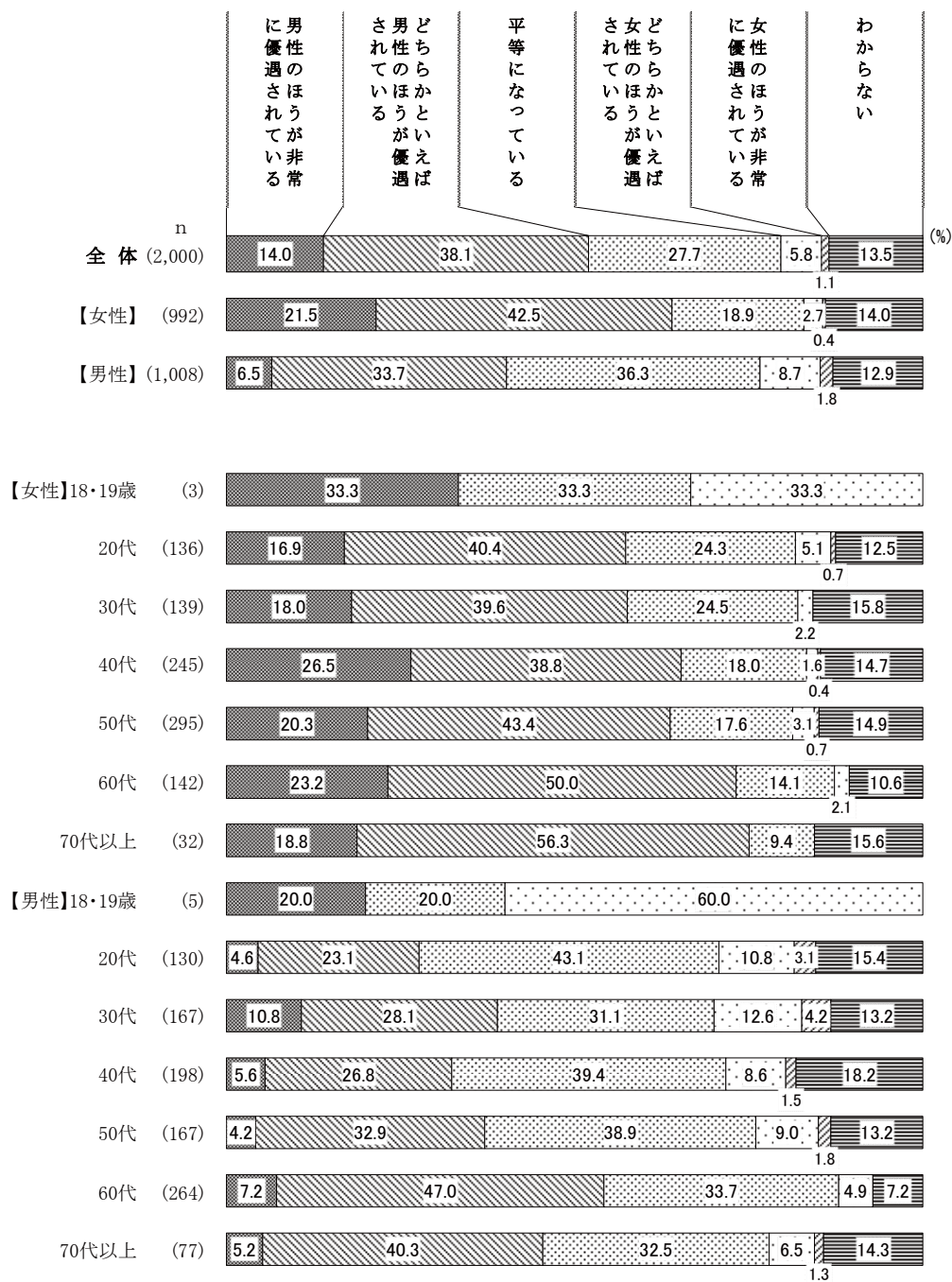
- 《男性優遇（計）》は女性6割以上、男性約4割
- 《男性優遇（計）》は40代の男女差が大きい

女性は「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（42.5%）、男性は「平等になっている」（36.3%）が最も高くなっている。

《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性（64.0%）が男性（40.2%）より23.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」は、60代・70代以上で女性では5割以上、男性では4割以上と高くなっている。《男性優遇（計）》は、すべての年代で女性が男性より高く、特に女性60代・70代以上は7割以上と高くなっており、男女差は40代（女性65.3%、男性32.4%）が32.9ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

【問10 ⑥地域社会での男女の平等】

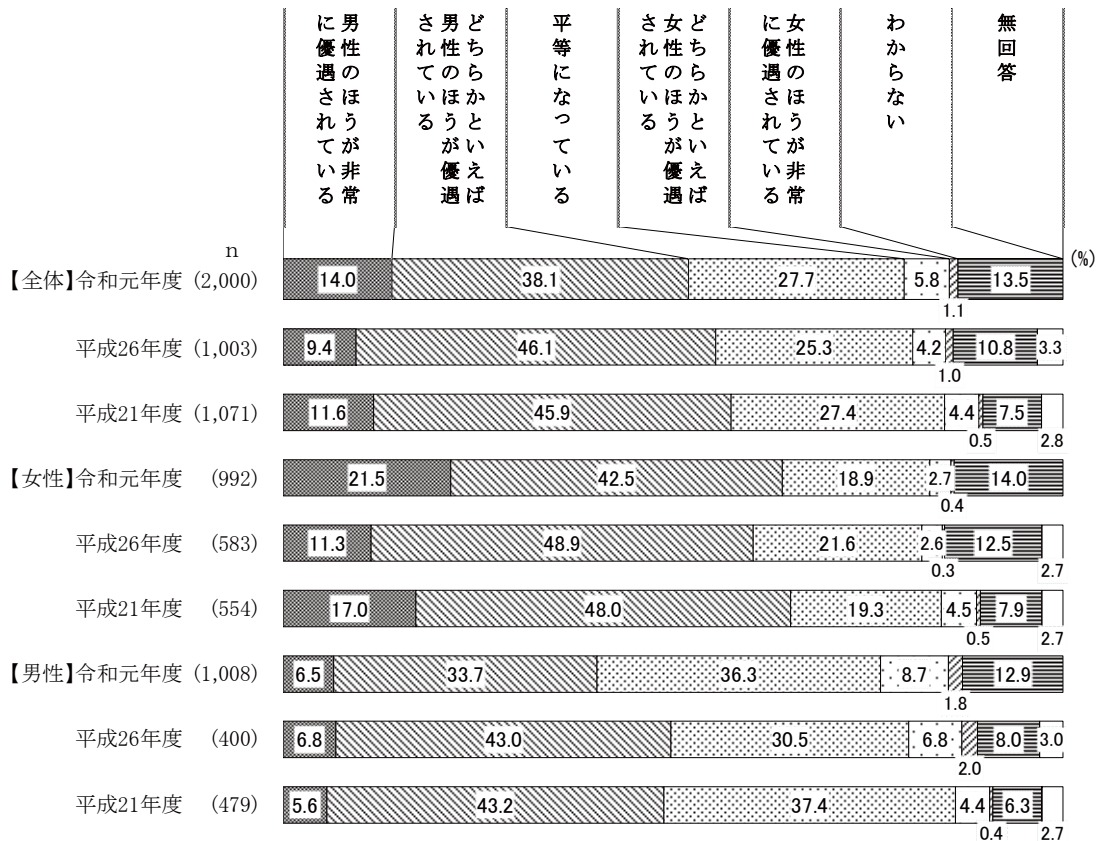


◇経年変化

- 「どちらかといえば男性優遇」は男女とも前回より低い
- 「平等」は男性で前回より高い

経年変化を性別で見ると、「男性のほうが非常に優遇されている」は、男性では大きな変化は見られないが、女性では平成26年度（11.3%）より10.2ポイント高くなっている。「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」は、平成26年度（全体46.1%、女性48.9%、男性43.0%）より全体は8.0ポイント、女性は6.4ポイント、男性は9.3ポイント低くなっている。一方、「平等になっている」は、女性では大きな変化は見られないが、男性は平成26年度（30.5%）より5.8ポイント高くなっている。

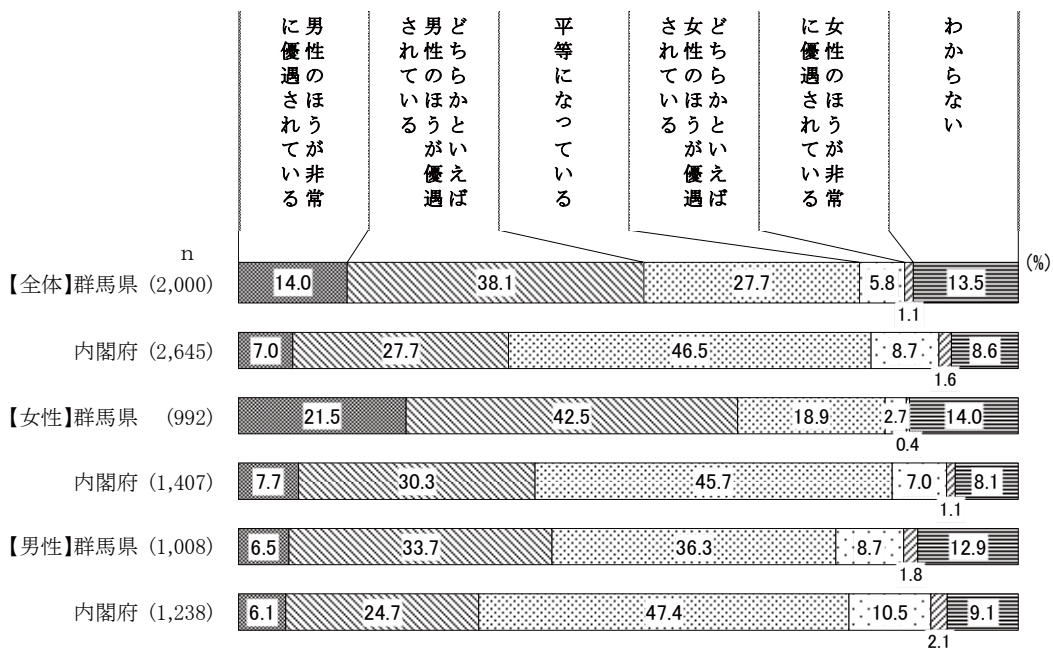
【問10⑥ 経年変化】



◇国の調査との比較

● 男女とも《男性優遇（計）》が国より高く、「平等」が国より低い

内閣府の調査と比較すると、《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、内閣府（全体 34.7%、女性 38.0%、男性 30.8%）より全体は 17.4 ポイント、女性は 26.0 ポイント、男性は 9.4 ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「平等になっている」は、内閣府（全体 46.5%、女性 45.7%、男性 47.4%）より全体は 18.8 ポイント、女性は 26.8 ポイント、男性は 11.1 ポイントそれぞれ低くなっている。



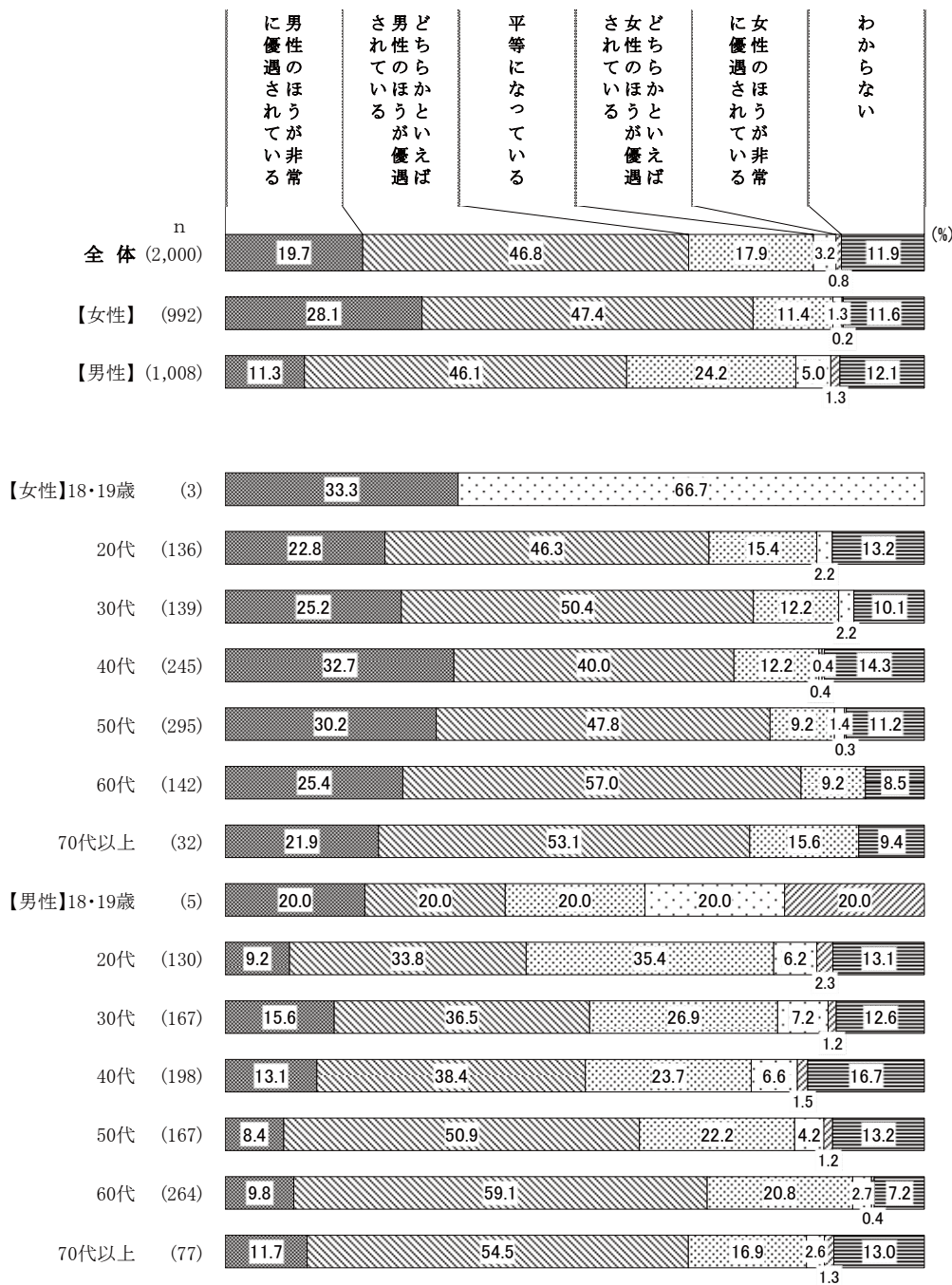
問 10 ⑦社会通念・習慣・しきたりにおける男女の平等

● 《男性優遇（計）》は女性約8割、男性約6割で、20代の男女差が大きい

男女とも「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（女性 47.4%、男性 46.1%）が最も高くなっている。

《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は女性（75.5%）が男性（57.4%）より18.1ポイント高くなっている。

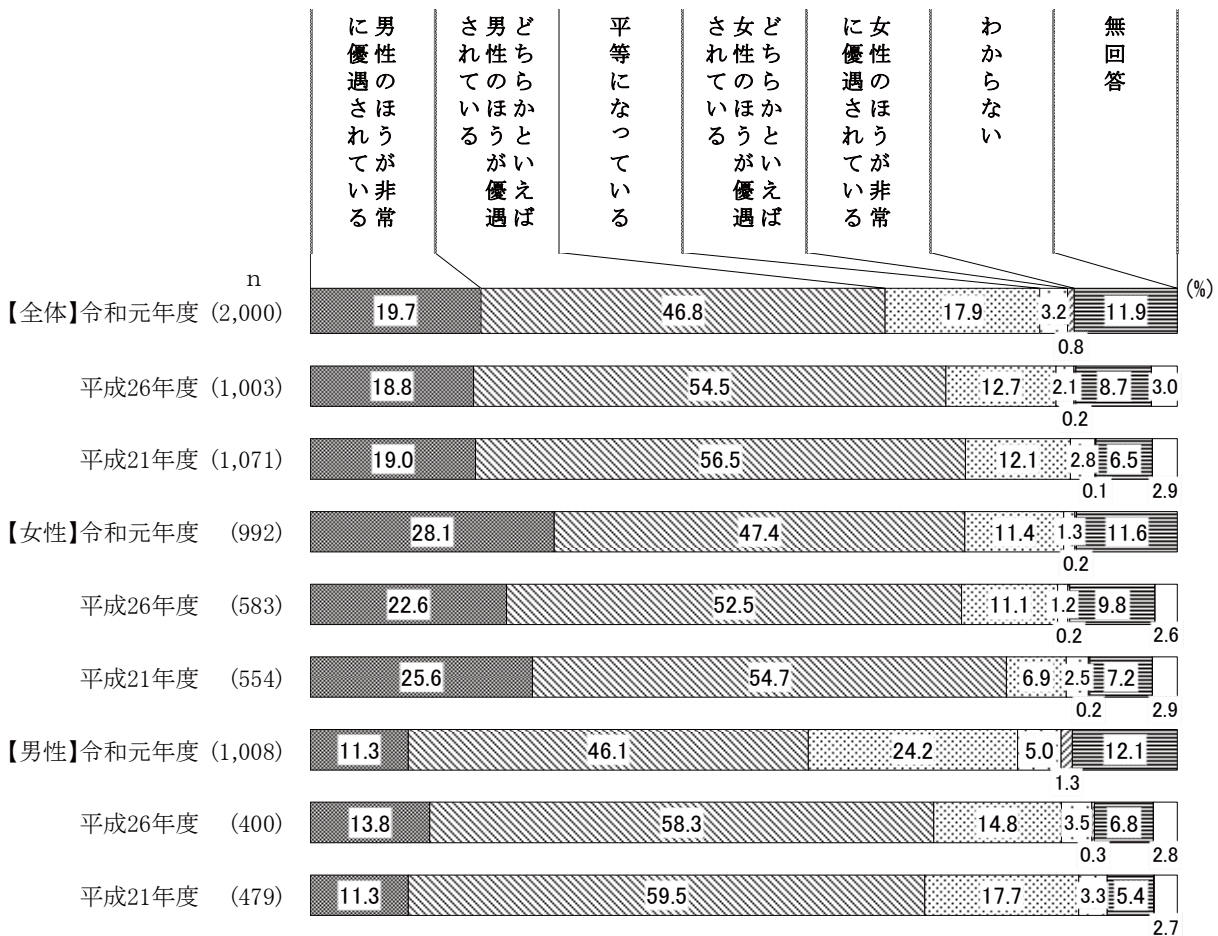
性・年代別で見ると、男性20代を除くすべての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高く、男性20代は「平等になっている」（35.4%）が最も高くなっている。《男性優遇（計）》は、すべての年代で女性が男性より高く、特に女性60代では8割以上となっており、男女差は20代（女性69.1%、男性43.0%）が26.1ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。



◇経年変化

- 「どちらかといえば男性優遇」が男女ともに前回より低い
- 「平等」は男性で前回より高い

経年変化を性別で見ると、「男性のほうが非常に優遇されている」は、全体、男性であまり大きな変化は見られないが、女性では平成26年度（22.6%）より5.5ポイント高くなっている。「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」は平成26年度（女性52.5%、男性58.3%）より女性は5.1ポイント、男性は12.2ポイント低くなっている。「平等になっている」は、女性では大きな変化は見られないが、男性では平成26年度（14.8%）より9.4ポイント高くなっている。

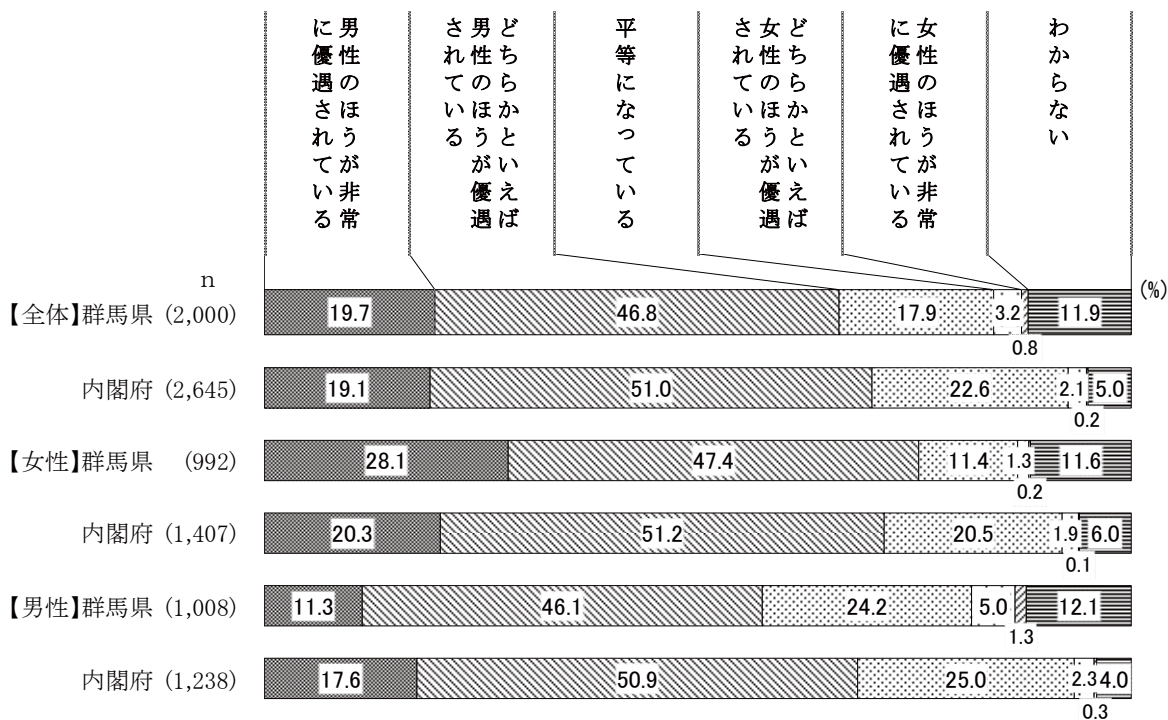


◇国の調査との比較

- 「非常に男性優遇」は女性で国より高く、男性で国より低い
- 「平等」は女性で国より低い

内閣府の調査と比較すると、「男性のほうが非常に優遇されている」は、女性で内閣府（20.3%）より7.8ポイント高くなっているが、男性では内閣府（17.6%）より6.3ポイント低くなっている。一方、「平等になっている」は、男性で大きな差は見られないが、女性では内閣府（20.5%）より9.1ポイント低くなっている。

【問10⑦ 国の調査との比較】



問10 ⑧社会全体での男女の平等

● 《男性優遇（計）》は女性約8割、男性約6割で、30代の男女差が大きい

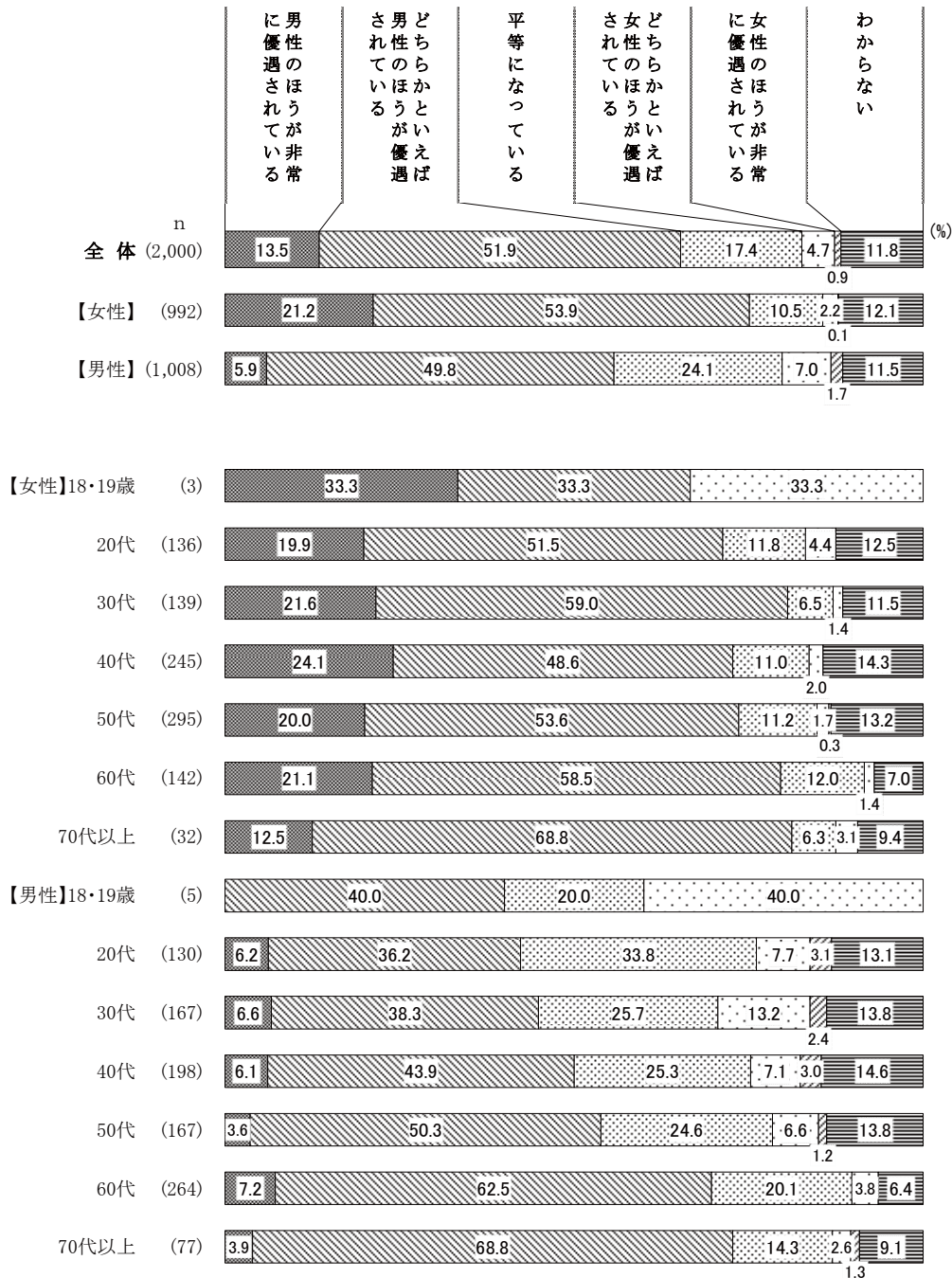
男女とも「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」（女性 53.9%、男性 49.8%）が最も高くなっている。

《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性（75.1%）が男性（55.7%）より19.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっている。「平等になっている」は、女性30代（6.5%）・70代以上（6.3%）で1割を下回り、女性の他の年代に比べてやや低くなっている。

《男性優遇（計）》は、すべての年代で女性が男性より高く、特に女性30・60代・70代以上は8割前後と特に高くなっており、男女差は30代（女性80.6%、男性44.9%）が35.7ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

【問 10 ⑧社会全体での男女の平等】

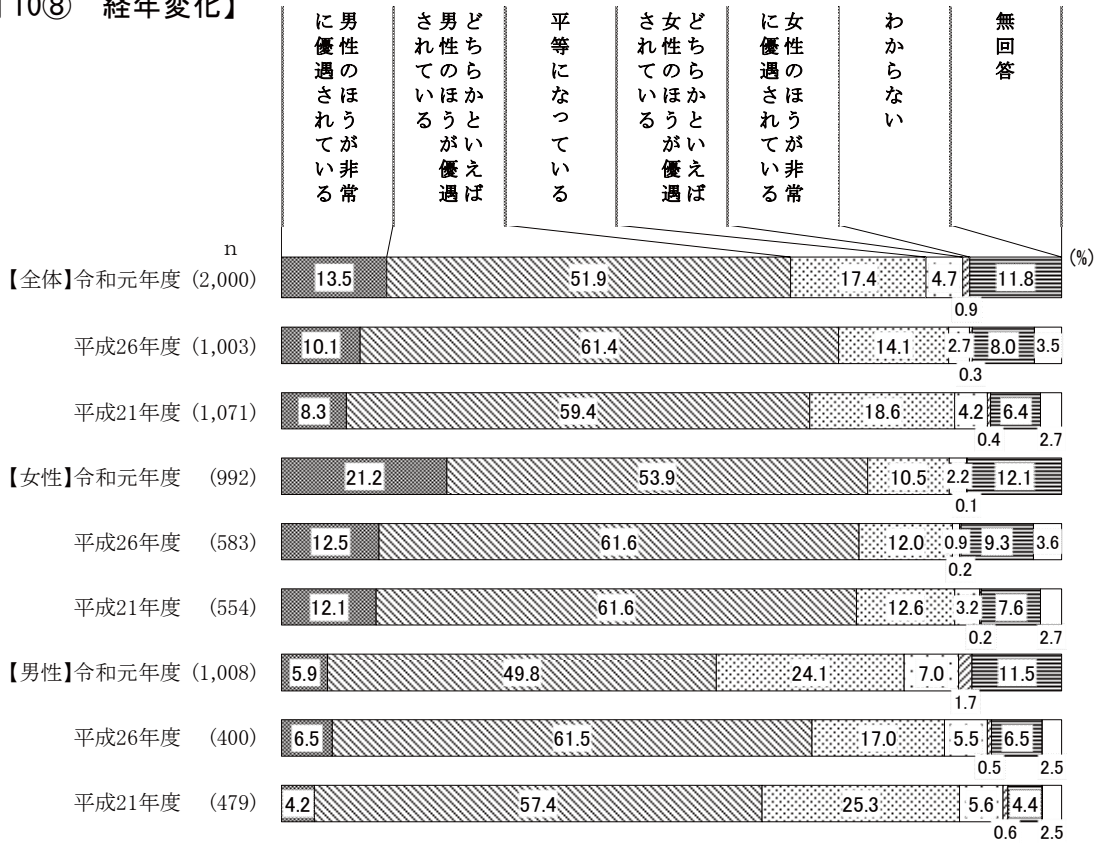


◇経年変化

- 「非常に男性優遇」は女性で前回より高い
- 男性は《男性優遇（計）》が前回より低く、「平等」が前回より高い

経年変化を性別で見ると、「男性のほうが非常に優遇されている」は、男性で大きな変化は見られないが、女性では平成 26 年度（12.5%）より 8.7 ポイント高くなっている。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」の合計値）は、女性で大きな変化は見られないが、平成 26 年度（全体 71.5%、男性 68.0%）より全体は 6.1 ポイント、男性は 12.3 ポイント低くなっている。一方、「平等になっている」は、男性で平成 26 年度（17.0%）より 7.1 ポイント高くなっている。

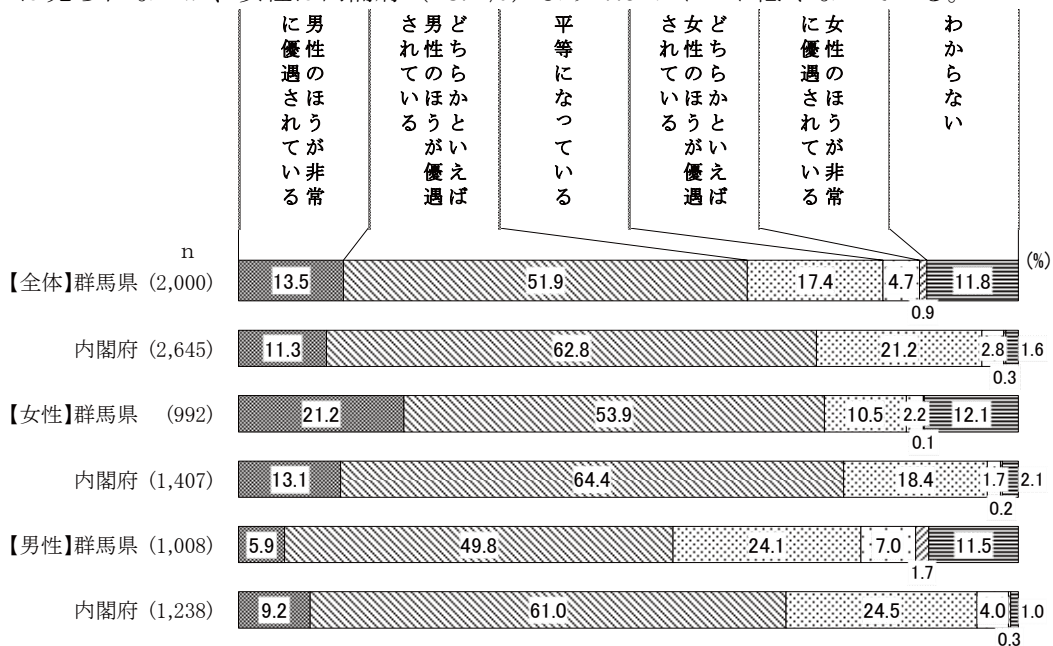
【問10⑧ 経年変化】



◇国の調査との比較

- 女性で「非常に男性優遇」は国より高く、「平等」は国より低い
- 《男性優遇（計）》は男性で国より低い

内閣府の調査と比較すると、「男性のほうが非常に優遇されている」は、男性であり大きな差は見られないが、女性では内閣府（13.1%）より 8.1 ポイント高くなっている。《男性優遇（計）》（「男性のほうが非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」の合計値）は、女性では大きな差は見られないが、全体、男性は内閣府（全体 74.1%、男性 70.2%）より全体は 8.7 ポイント、男性は 14.5 ポイント低くなっている。一方、「平等になっている」は、男性では大きな差は見られないが、女性では内閣府（18.4%）より 7.9 ポイント低くなっている。



3. 結婚に関する考え方や家庭内での役割について

(1) 結婚に関する考え方

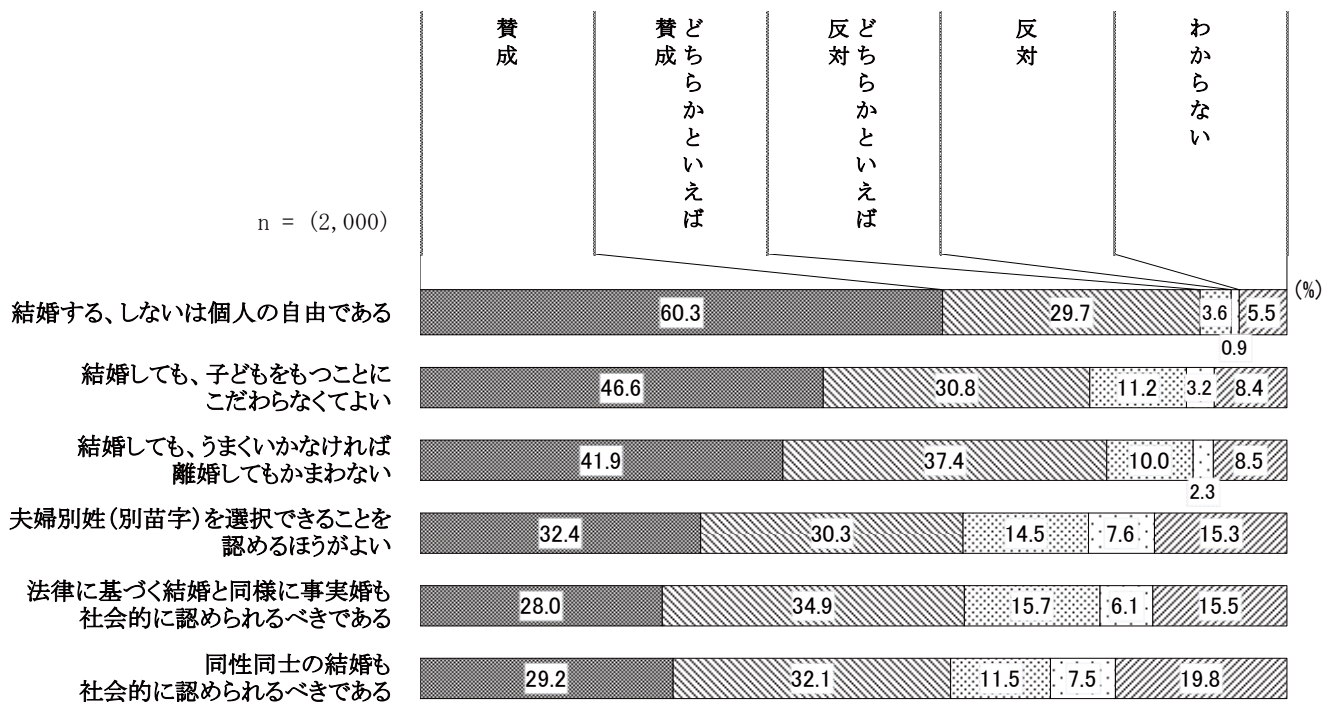
問11 あなたは、結婚に関する考え方についてどう思いますか。(それぞれ1つに○)

- 《賛成（計）》は『結婚は個人の自由』が約9割で最も高い
- 《反対（計）》は『夫婦別姓の選択』が2割以上で最も高い
- すべての項目で《賛成（計）》が《反対（計）》より高くなっている

『結婚する、しないは個人の自由である』、『結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい』、『結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない』、『夫婦別姓（別苗字）を選択できることを認めるほうがよい』の4項目は「賛成」、『法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認められるべきである』、『同性同士の結婚も社会的に認められるべきである』の2項目は「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。

《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、『結婚する、しないは個人の自由である』（90.0%）で9割と最も高く、次いで『結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない』（79.3%）、『結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい』（77.4%）の2項目で約8割となっている。

一方、《反対（計）》（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計値）は、『夫婦別姓（別苗字）を選択できることを認めるほうがよい』（22.1%）、『法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認められるべきである』（21.8%）の2項目で2割以上と高くなっている。



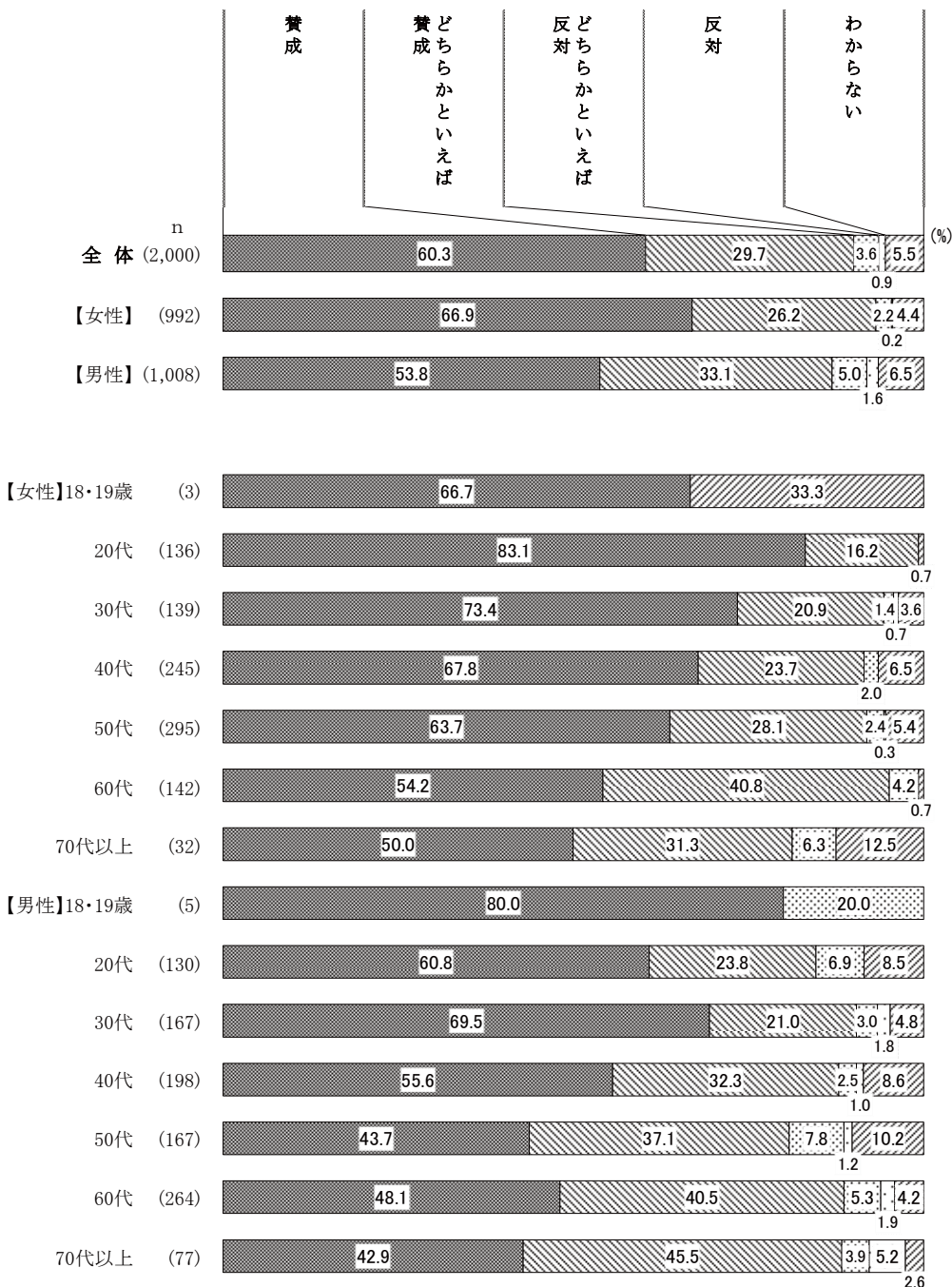
問11 ①結婚する、しないは個人の自由である

● 《賛成（計）》が女性9割以上、男性約9割

男女とも「賛成」（女性66.9%、男性53.8%）が最も高くなっている。

《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、女性（93.1%）が男性（86.9%）より6.2ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男性70代以上を除くすべての年代で「賛成」が最も高く、特に、女性は20代（83.1%）、男性は30代（69.5%）で高くなっている。また、女性は若い年代ほど「賛成」の値が高い傾向がうかがえる。《賛成（計）》は、70代以上を除き女性が男性より高くなっており、70代以上では男性（88.4%）が女性（81.3%）より7.1ポイント高くなっている。男女差は20代（女性99.3%、男性84.6%）が14.7ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。



第3章 調査結果の詳細

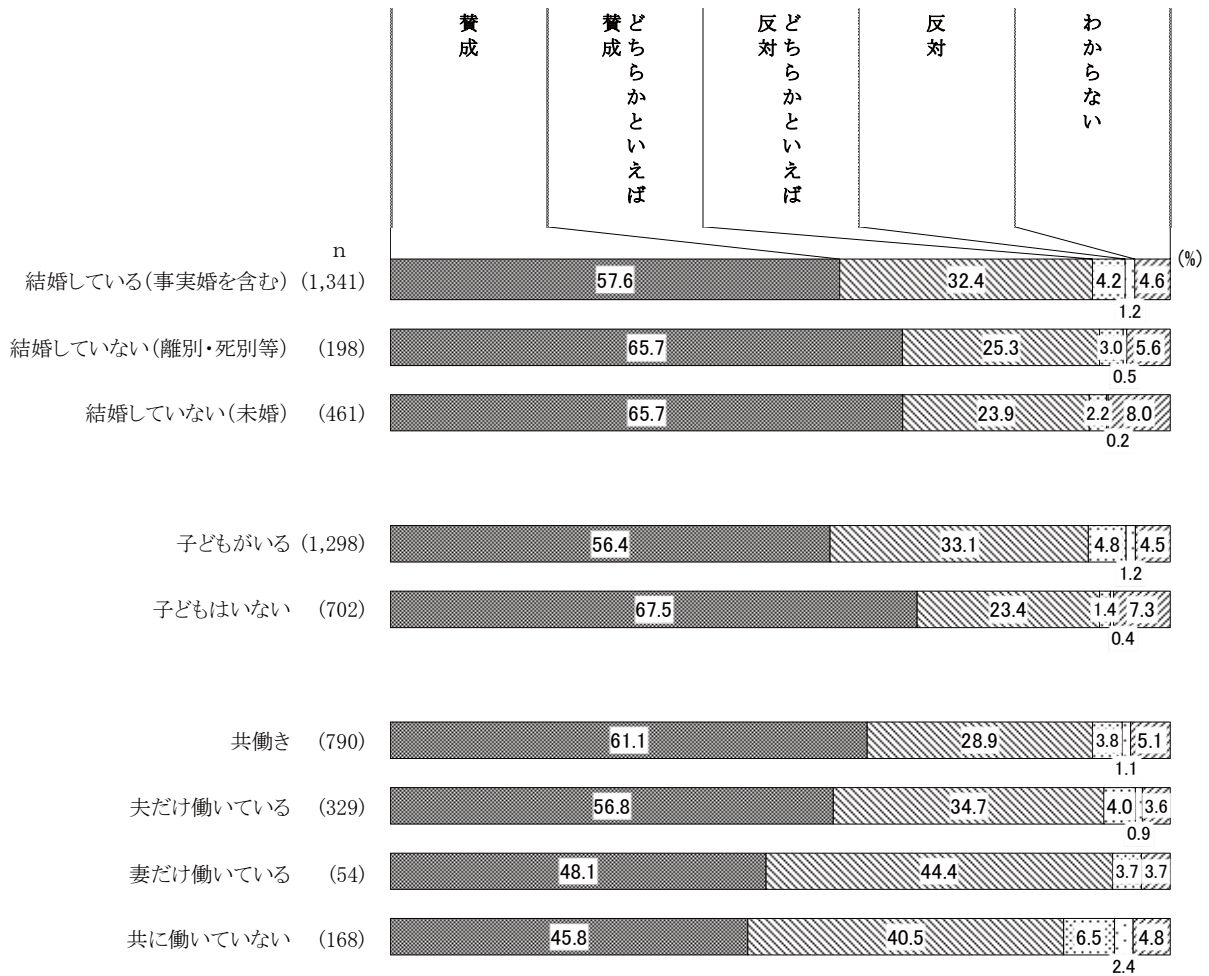
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

- 既婚の場合、消極的な肯定意見がやや多い
- 子どもがいない場合、より明確な肯定意見が多い

未既婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）はあまり大きな差は見られないが、「賛成」は『結婚している（事実婚を含む）』（57.6%）で約6割と比較的低くなっている。

子どもの有無別で見ると、《賛成（計）》はあまり大きな差は見られないが、「賛成」は、『子どもはいる』（56.4%）が『子どもはいる』（56.4%）より11.1ポイント高くなっている。

『結婚している（事実婚を含む）』場合の夫婦の働き方別で見ると、《賛成（計）》は、『共に働いていない』（86.3%）で他の働き方と比べてやや低くなっている。

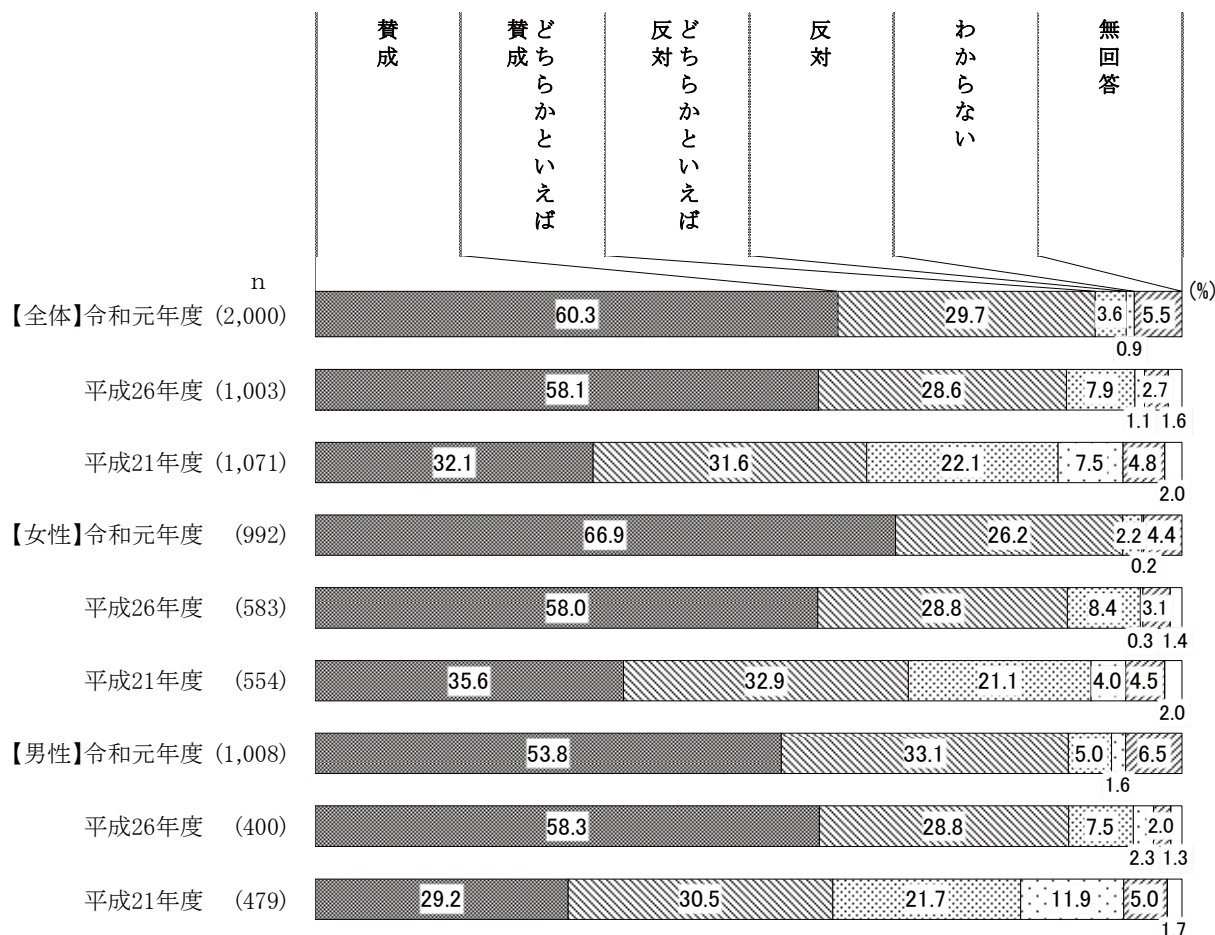


◇経年変化

- 女性はより明確な肯定意見が増加傾向

経年変化を性別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、全体、男性では大きな変化は見られないが、女性は平成26年度（86.8%）より6.3ポイント高くなっている。女性は「賛成」が平成26年度（58.0%）より8.9ポイント高くなっており、「どちらかといえば反対」が平成26年度（8.4%）より6.2ポイント低くなっている。

【問11① 経年変化】



問11 ②結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい

- 《賛成（計）》は女性8割以上、男性7割以上
- 女性は若い年代ほど「賛成」が高い傾向

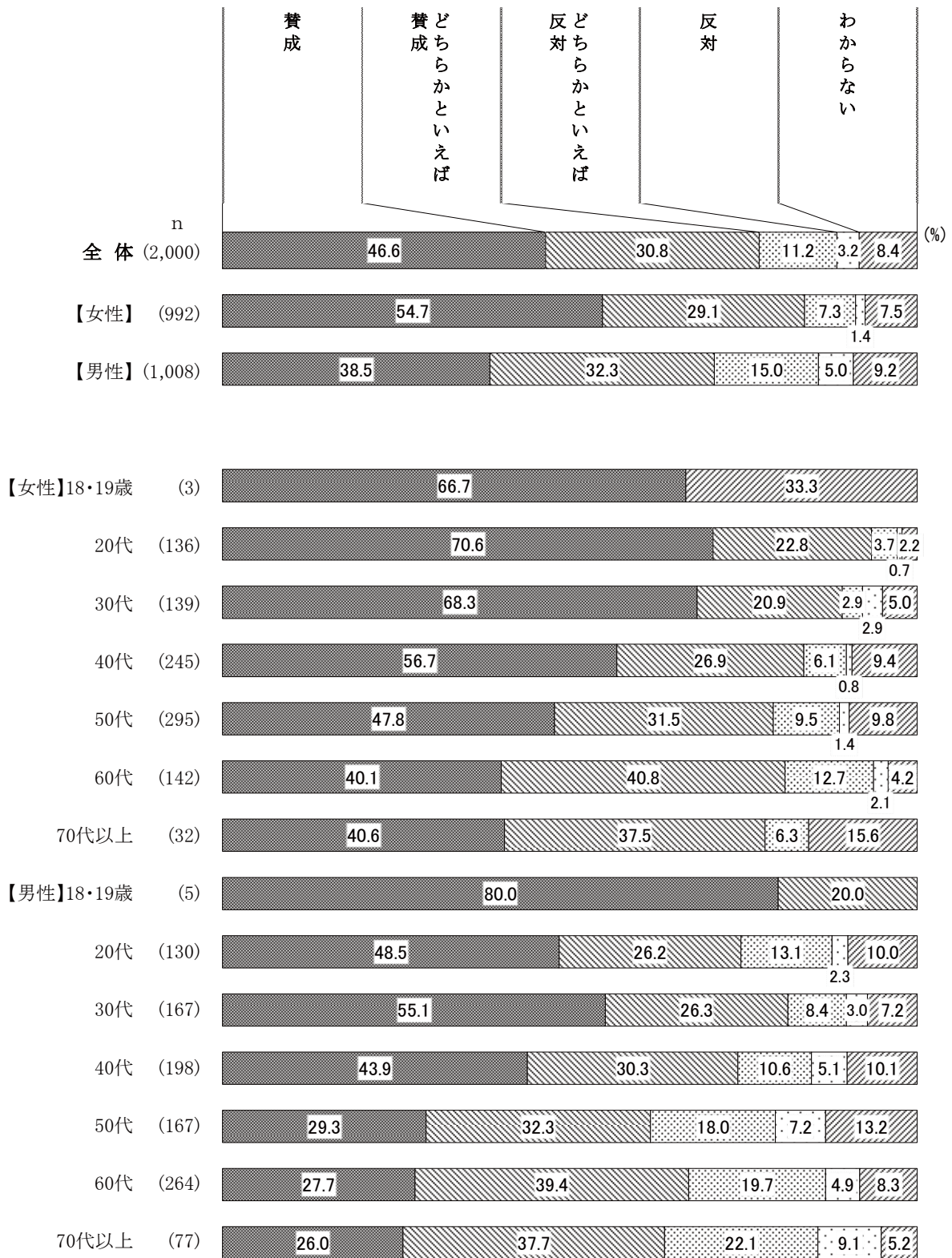
男女とも「賛成」（女性 54.7%、男性 38.5%）が最も高く、女性で5割以上、男性で約4割となっている。

《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」）の合計値は、女性（83.8%）が男性（70.8%）より13.0ポイント高くなっており、女性のほうが明確な肯定意見が多くなっている。

性・年代別で見ると、女性60代と男性50代以上を除くすべての年代で、「賛成」が最も高く、女性60代、男性50代以上は「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。《賛成（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は20代（女性93.4%、男性74.7%）が18.7ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

【問11 ②結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい】



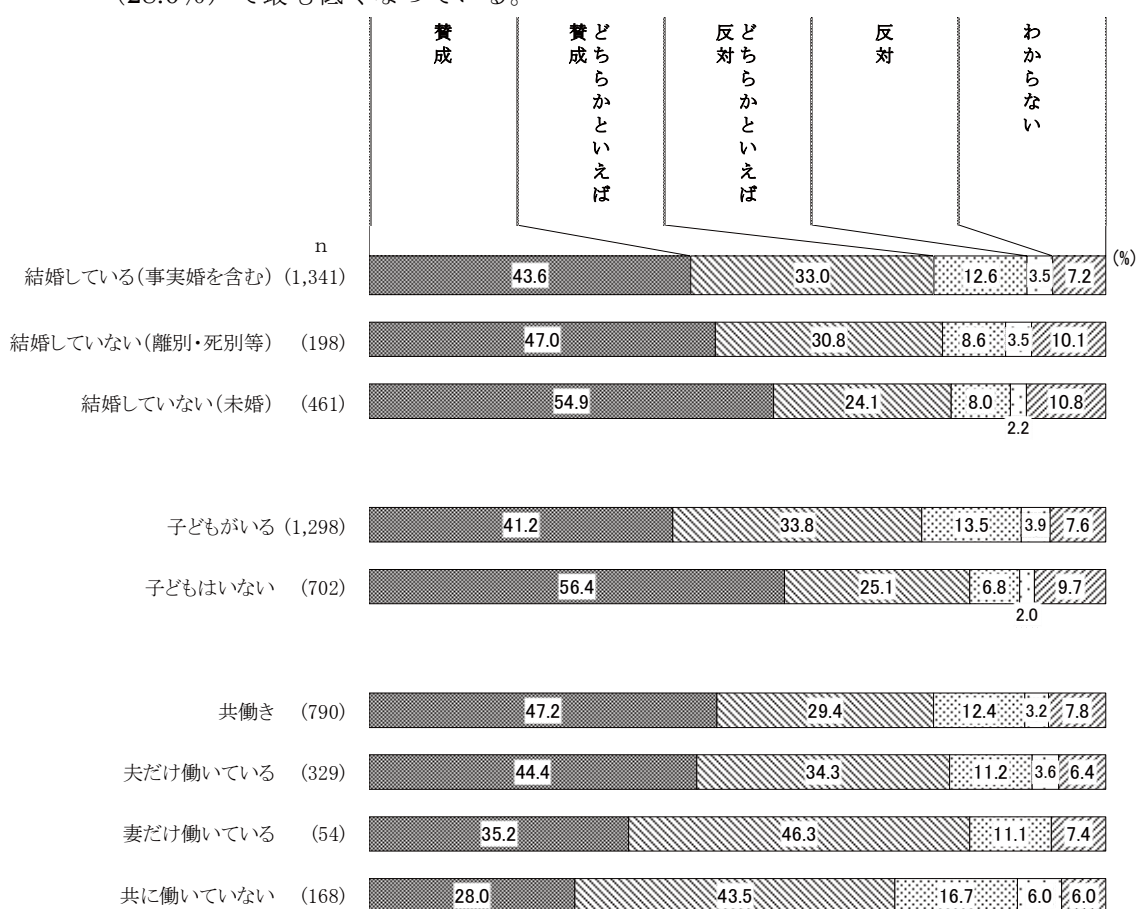
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

● 未婚や子どもがいない、男性が働いている場合、より明確な肯定意見が多い

未既婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、あまり大きな差は見られないが、「賛成」は『結婚していない』（54.9%）で5割以上と比較的高くなっている。

子どもの有無別で見ると、《賛成（計）》は、『子どもはいない』（81.5%）が『子どもがいる』（75.0%）より6.5ポイント高くなっている。その内訳を見ると、「賛成」は『子どもはいない』（56.4%）が『子どもがいる』（41.2%）より15.2ポイント高くなっている。

『結婚している（事実婚を含む）』場合の夫婦の働き方別で見ると、《賛成（計）》は、『妻だけ働いている』（81.5%）で最も高く、『共に働いていない』（71.5%）で最も低くなっている。「賛成」は『共働き』（47.2%）で最も高く、『共に働いていない』（28.0%）で最も低くなっている。



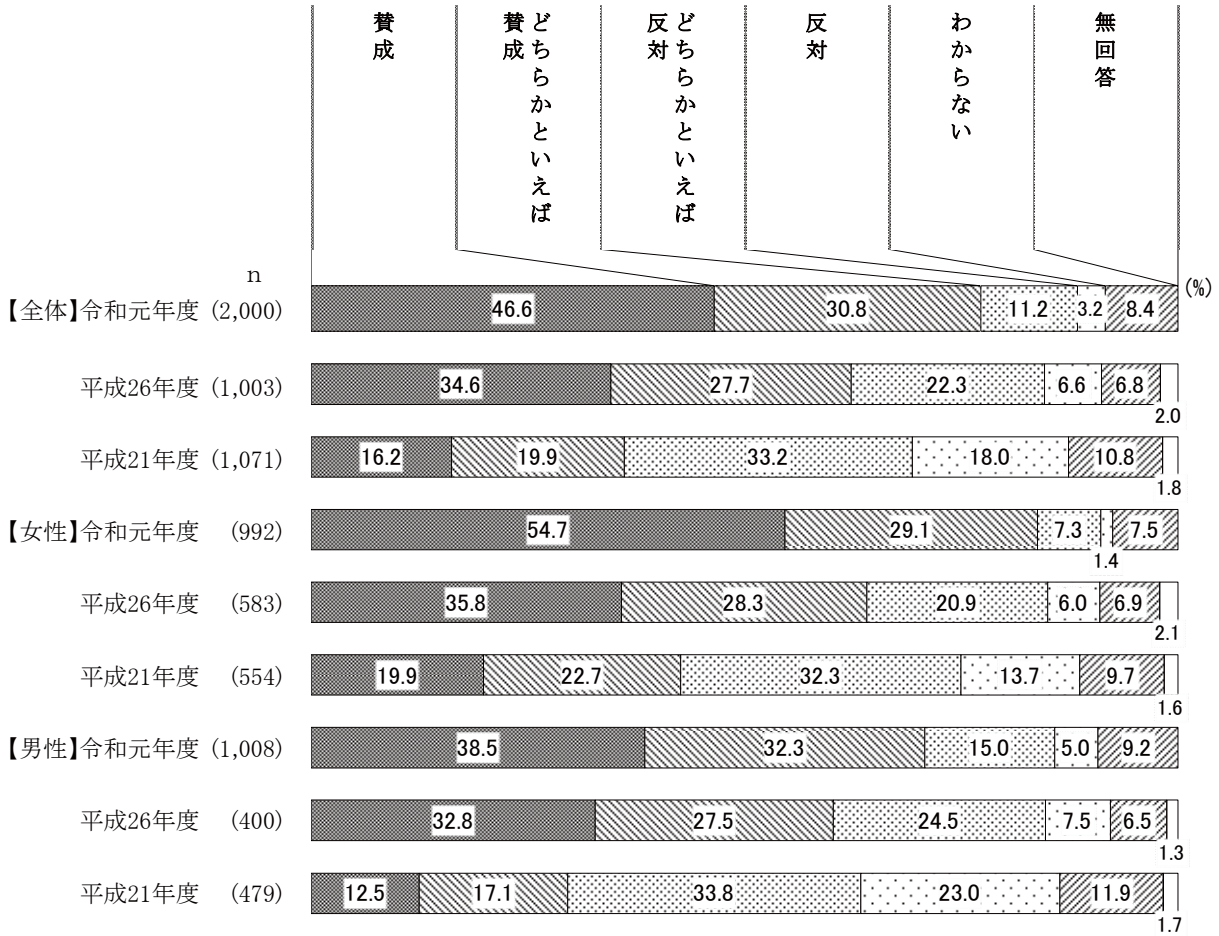
◇経年変化

● 《賛成（計）》が男女とも前回より高い

● より明確な肯定意見が特に女性で増加

経年変化を性別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、平成26年度（全体62.3%、女性64.1%、男性60.3%）より全体は15.1ポイント、女性は19.7ポイント、男性は10.5ポイントそれぞれ高くなっている。その内訳を見ると、「賛成」が平成26年度（全体34.6%、女性35.8%、男性32.8%）より全体は12.0ポイント、女性は18.9ポイント、男性は5.7ポイントそれぞれ高くなっている。

【問11② 経年変化】



問11 ③結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない

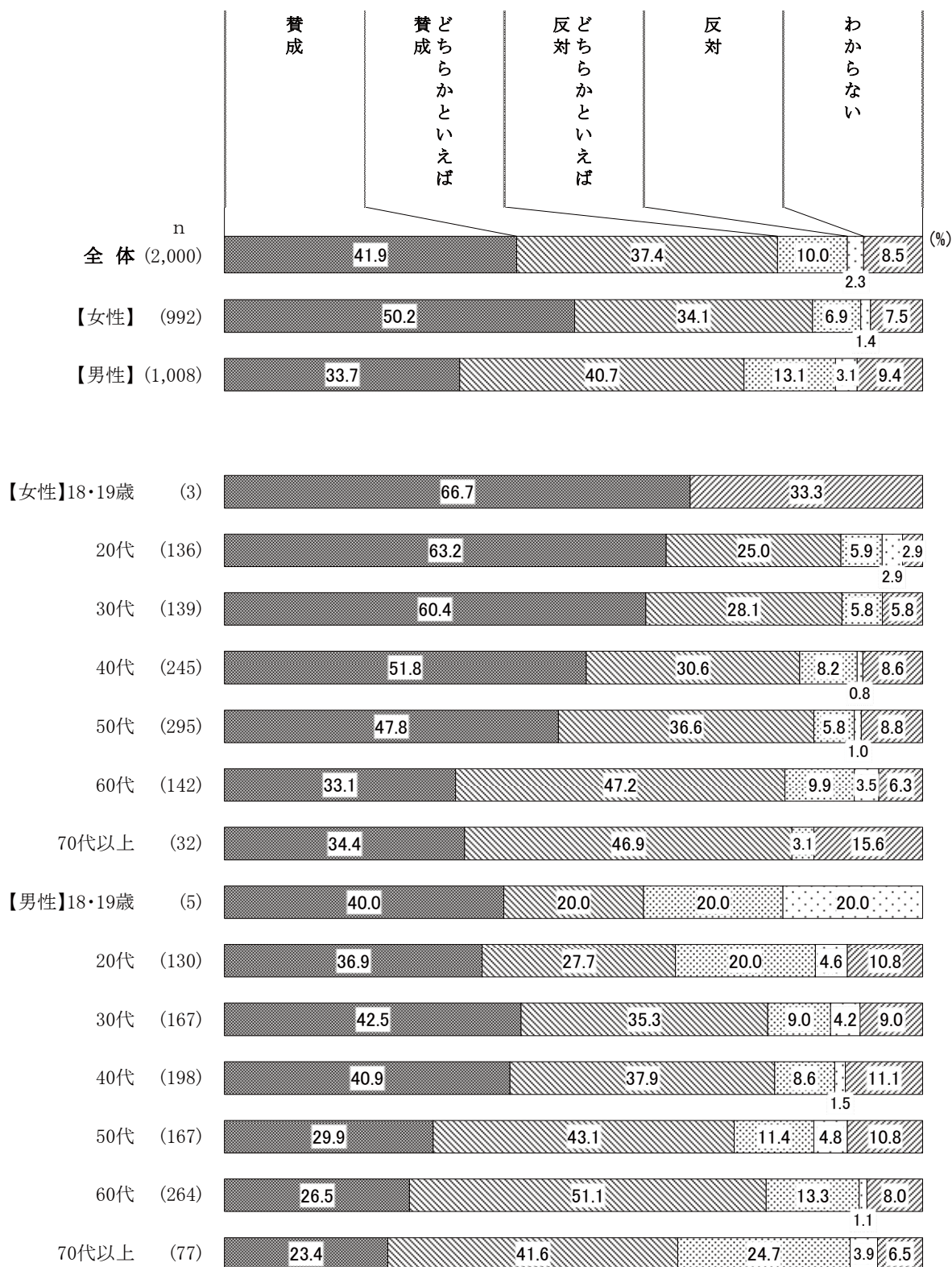
● 《賛成（計）》は女性8割以上、男性7割以上

女性は「賛成」（50.2%）、男性は「どちらかといえば賛成」（40.7%）が最も高くなっている。

《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、女性（84.3%）が男性（74.4%）より9.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性60代以上、男性50代以上を除くすべての年代で「賛成」が最も高く、女性60代以上、男性50代以上は「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。「どちらかといえば反対」は男性20代（20.0%）、70代以上（24.7%）で2割以上と他の年代に比べて高くなっている。《賛成（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は20代（女性88.2%、男性64.6%）が23.6ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

【問11 ③結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない】



第3章 調査結果の詳細

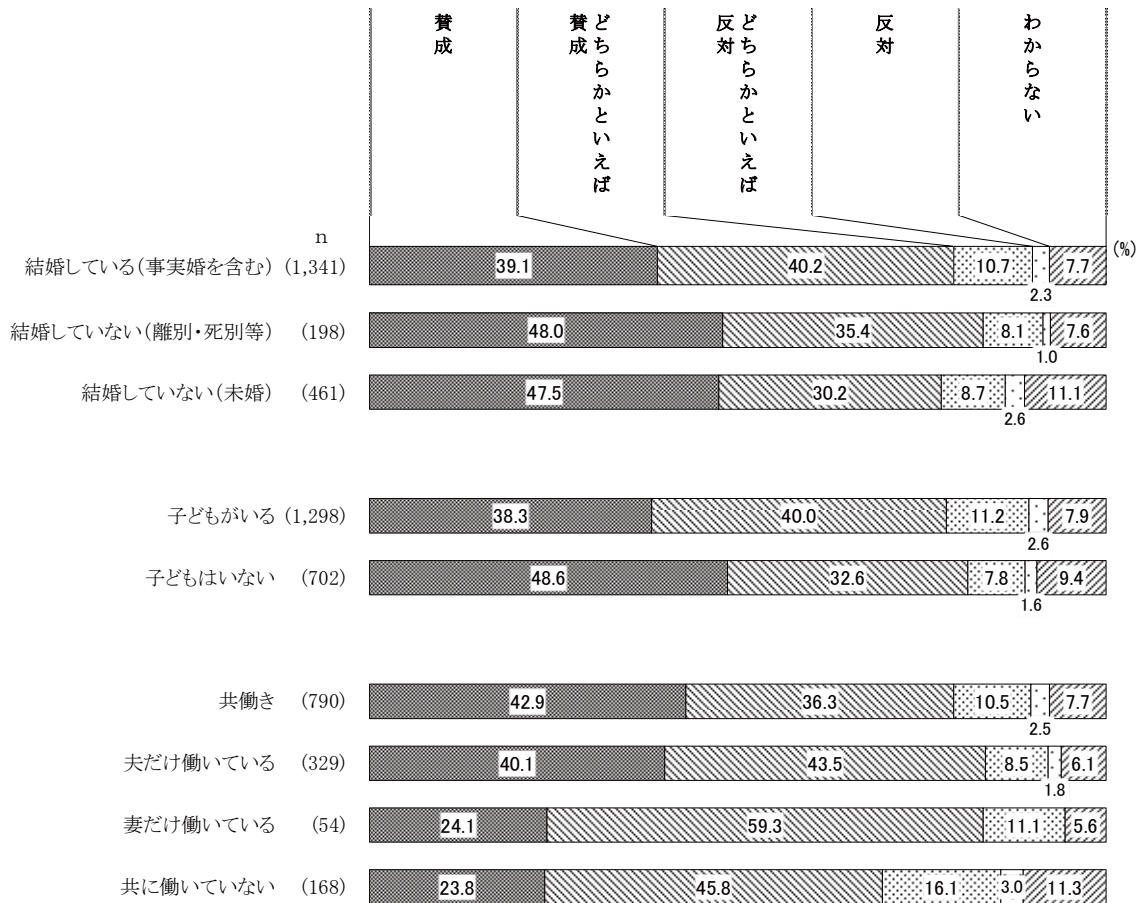
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

- 子どもがいない、男性が働いている場合、より明確な肯定意見が多い
- 共に働いていない場合、《賛成（計）》は約7割と低い

未既婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、『結婚していない（離別・死別等）』（83.4%）で8割以上と既婚や未婚に比べてやや高くなっている。

子どもの有無別で見ると、《賛成（計）》は、あまり大きな差は見られないが、「賛成」は『子どもはいる』（38.3%）より10.3ポイント高くなっている。

『結婚している（事実婚を含む）』場合の夫婦の働き方別で見ると、《賛成（計）》は、『夫だけ働いている』（83.6%）が最も高く、『共に働いていない』（69.6%）が最も低くなっている。その内訳を見ると、「賛成」は『共働き』（42.9%）と『夫だけ働いている』（40.1%）で4割以上と高くなっている。

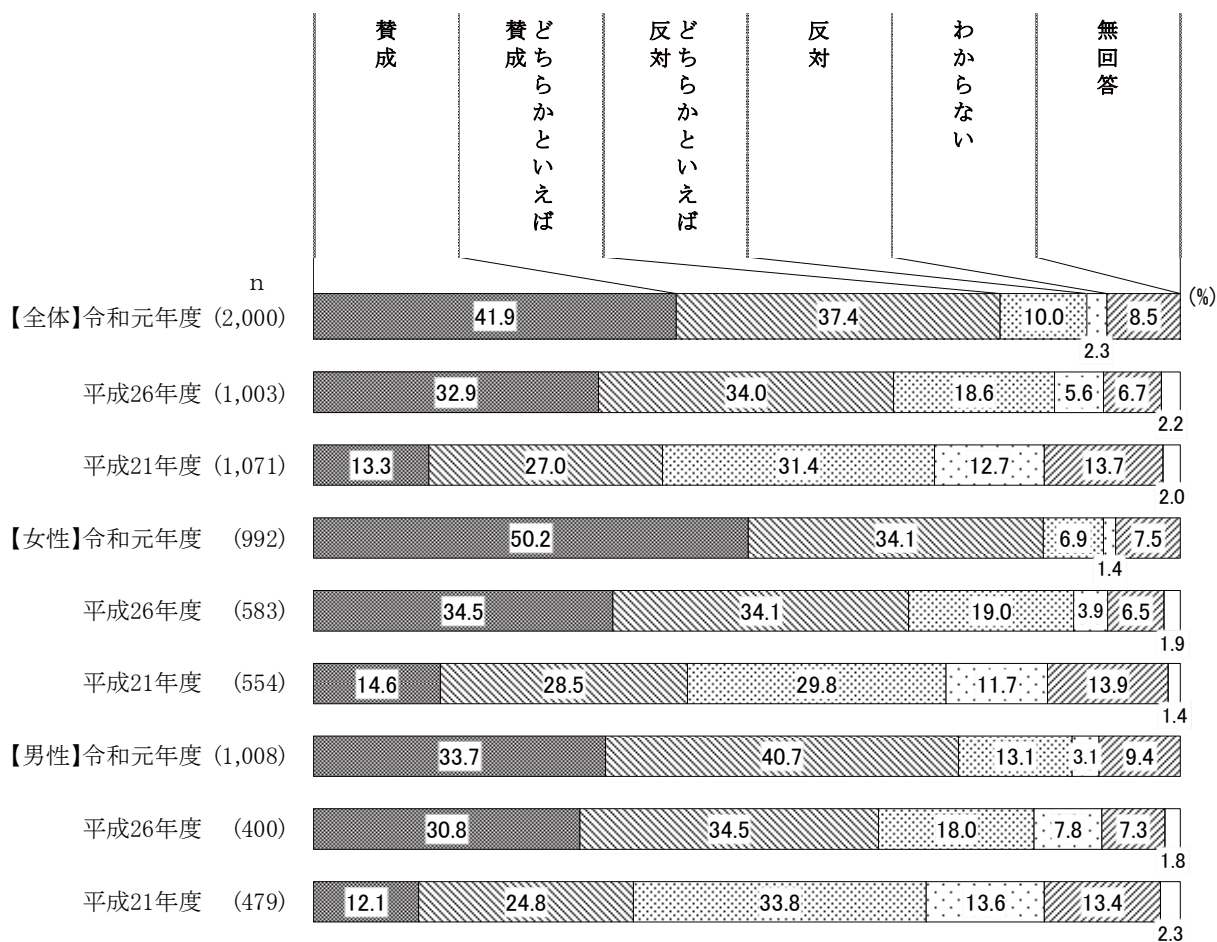


◇経年変化

- 《賛成（計）》は男女とも前回より高い
- 女性はより明確な肯定意見が増加

経年変化を性別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、平成26年度（全体66.9%、女性68.6%、男性65.3%）より全体は12.4ポイント、女性は15.7ポイント、男性は9.1ポイントそれぞれ高くなっている。その内訳を見ると、「賛成」は、男性では大きな変化は見られないが、女性は平成26年度（34.5%）より15.7ポイント高くなっている。

【問11③ 経年変化】



問11 ④夫婦別姓（別苗字）を選択できることを認めるほうがよい

● 《賛成（計）》は女性約7割、男性約6割

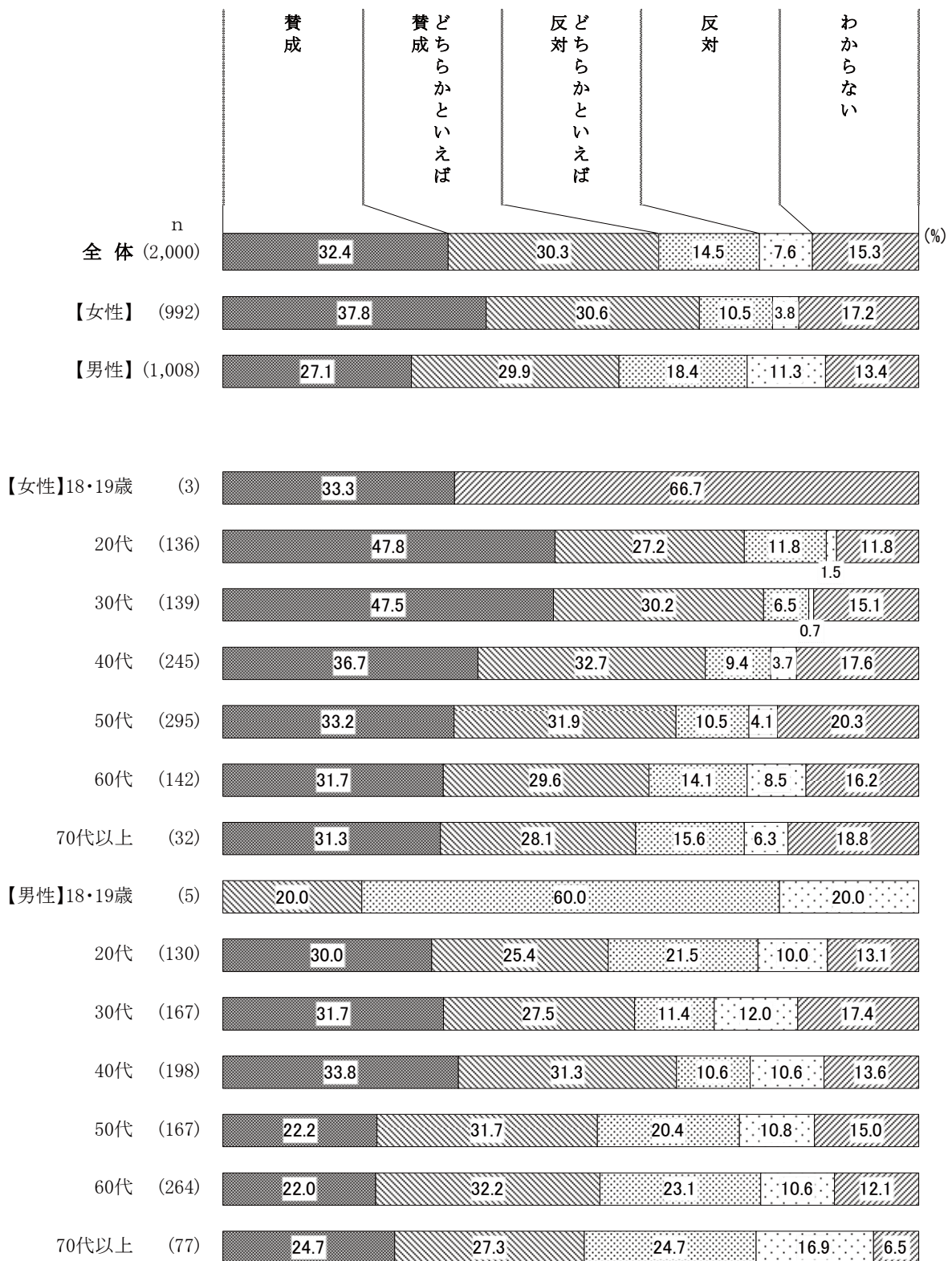
女性は「賛成」（37.8%）、男性は「どちらかといえば賛成」（29.9%）が最も高くなっている。

《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、女性（68.4%）が男性（57.0%）より11.4ポイント高くなっている。「賛成」は、女性（37.8%）が男性（27.1%）より10.7ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男性50代以上を除くすべての年代で「賛成」が最も高く、男性50代以上は「どちらかといえば賛成」が最も高くなっている。《賛成（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は20代（女性75.0%、男性55.4%）が19.6ポイントで最も大きくなっている。《反対（計）》（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計値）はすべての年代で男性が女性より高く、男性70代以上（41.6%）で4割以上と特に高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

【問11 ④夫婦別姓（別苗字）を選択できることを認めるほうがよい】



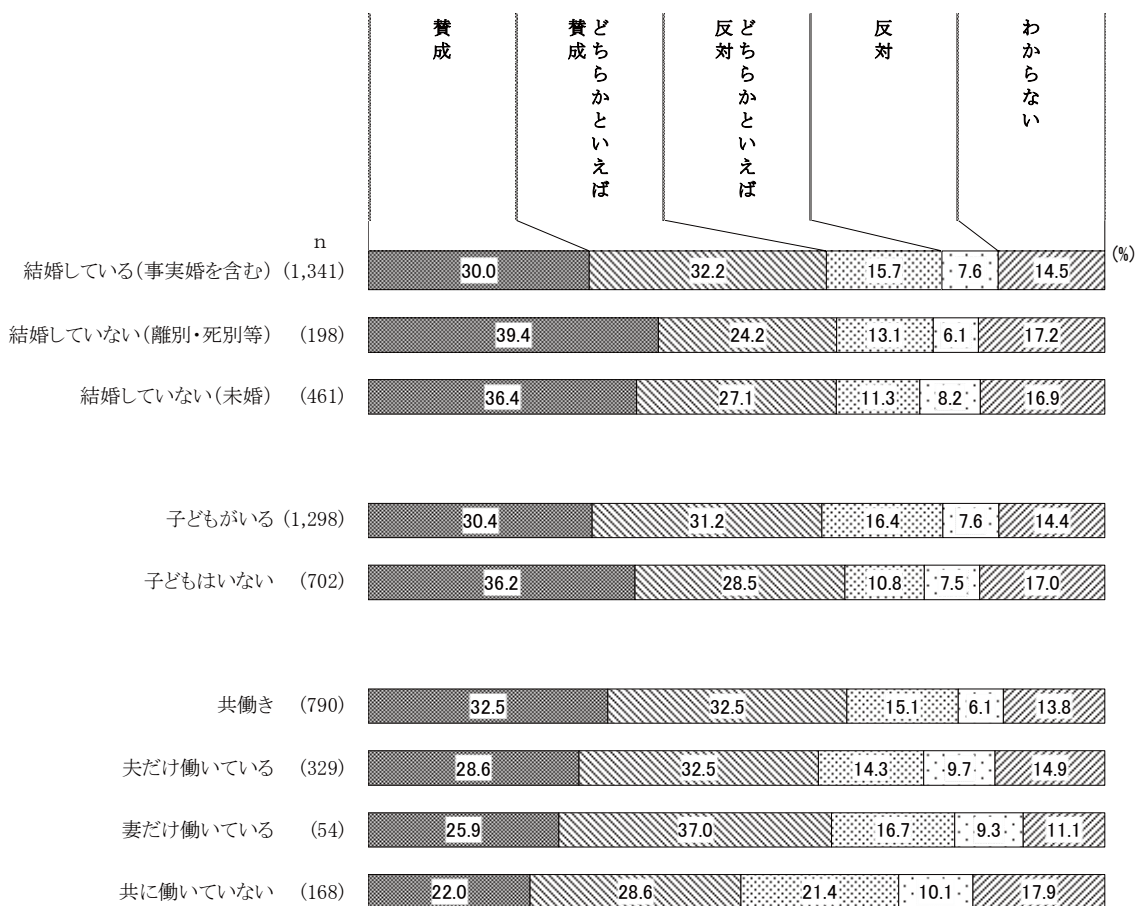
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

- 既婚、子どもがいる場合、明確な肯定意見がやや少ない
- 共に働いていない場合、《賛成（計）》が低い

未既婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、あまり大きな差は見られない。その内訳を見ると、「賛成」は『結婚している（事実婚を含む）』（30.0%）が比較的低くなっている。

子どもの有無別で見ると、《賛成（計）》は、あまり大きな差は見られない。その内訳を見ると、「賛成」は、『子どもはいない』（36.2%）が『子どもがいる』（30.4%）より5.8ポイント高くなっている。

『結婚している（事実婚を含む）』場合の夫婦の働き方別で見ると、《賛成（計）》は、「共働き」（65.0%）が最も高く、「共に働いていない」（50.6%）が最も低くなっており、夫婦のどちらかが働いている場合は6割以上となっている。

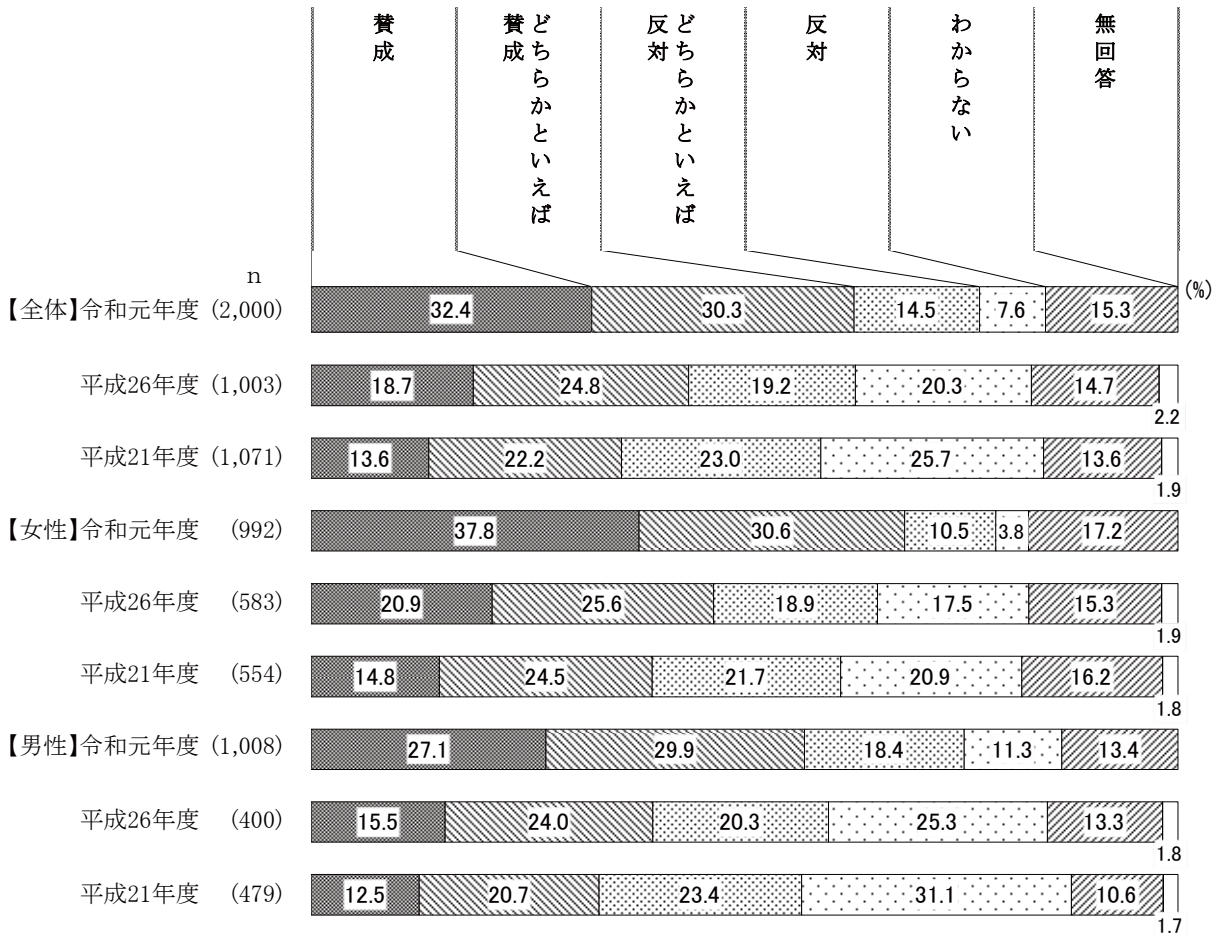


◇経年変化

- 《賛成（計）》は男女とも前回より高い
- 「どちらかといえば反対」は女性で前回より低い

経年変化を性別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、平成26年度（全体43.5%、女性46.5%、男性39.5%）より全体は19.2ポイント、女性は21.9ポイント、男性は17.5ポイントそれぞれ高くなっている。その内訳を見ると、「賛成」が平成26年度（全体18.7%、女性20.9%、男性15.5%）より全体は13.7ポイント、女性は16.9ポイント、男性は11.6ポイントそれぞれ高くなっている。「どちらかといえば反対」は、女性で平成26年度（18.9%）より8.4ポイント低くなっているが、男性ではあまり大きな変化は見られない。

【問11④ 経年変化】



問11 ⑤法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認められるべきである

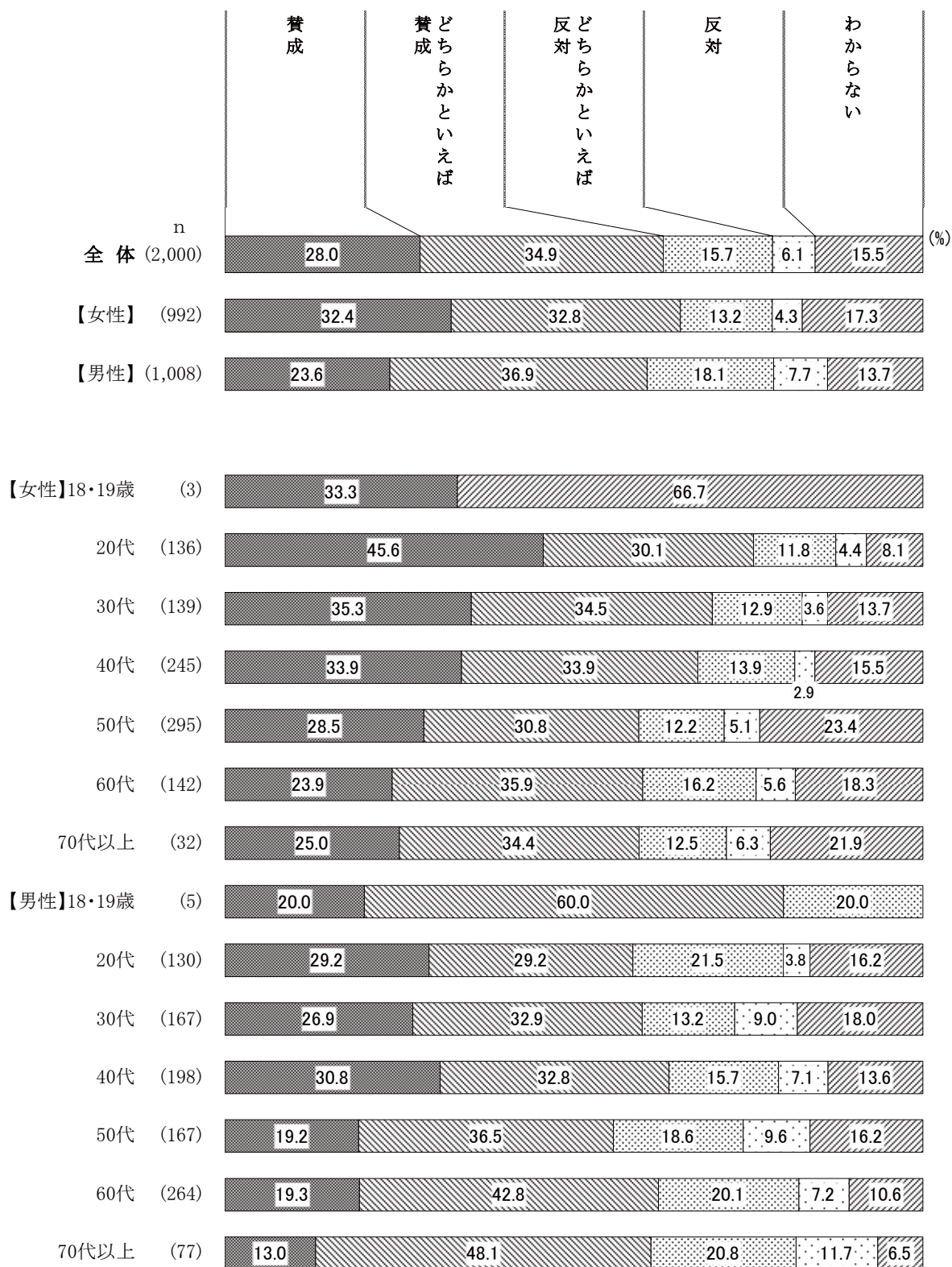
- 《賛成（計）》は男女とも6割以上だが、「賛成」は女性3割以上、男性2割以上
- 女性は若い年代ほど《賛成（計）》が多い

男女とも「どちらかといえば賛成」（女性 32.8%、男性 36.9%）が最も高くなっている。

《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、女性（65.2%）と男性（60.5%）で男女とも6割台となっているが、その内訳を見ると、「賛成」は女性（32.4%）が男性（23.6%）より8.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性20代・30代を除くすべての年代で「どちらかといえば賛成」が最も高く（女性40代、男性20代は「賛成」と同値）、女性20代・30代は「賛成」が最も高くなっている。《賛成（計）》は60代以上を除き女性が男性より高く、男女差は20代（女性75.7%、男性58.4%）が17.3ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

【問 11 ⑤法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認められるべきである】



第3章 調査結果の詳細

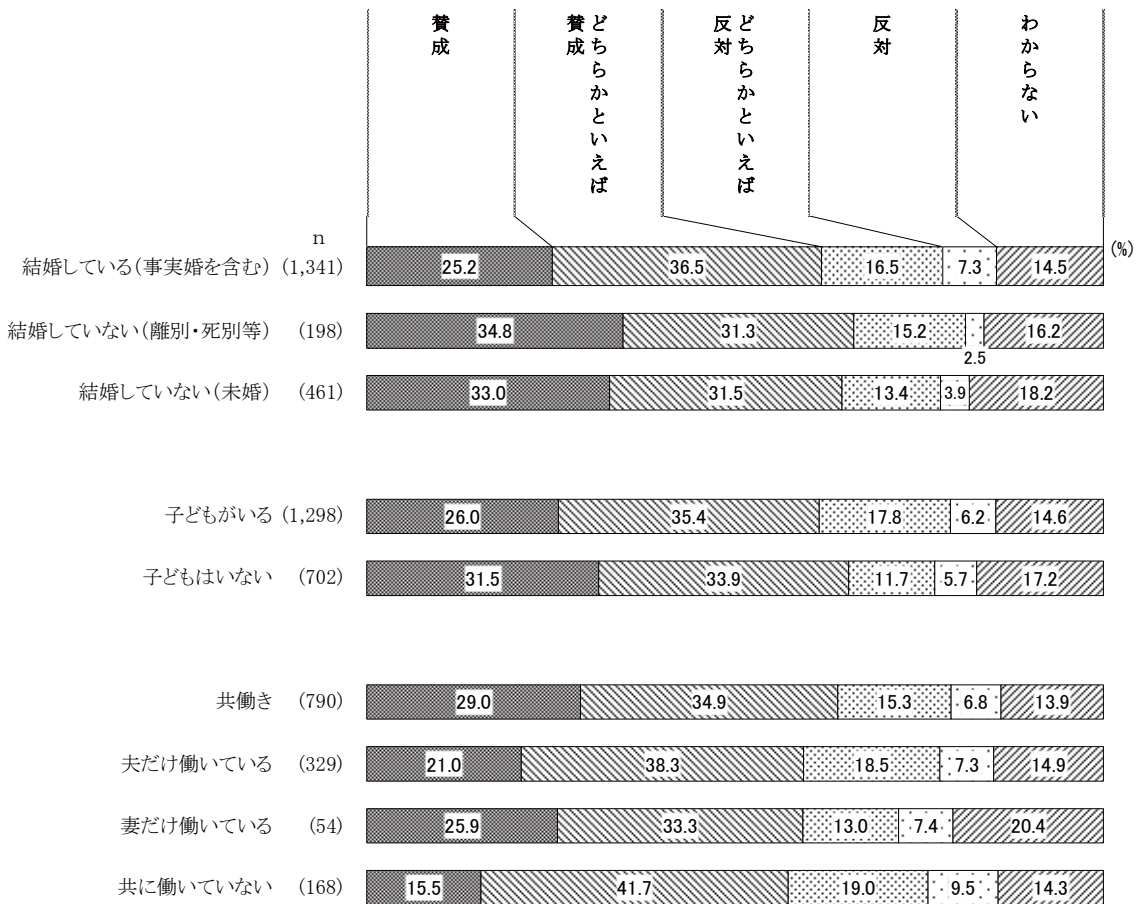
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

● 既婚、子どもがいる、共に働いていない場合、より明確な肯定意見が少ない

未既婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、あまり大きな差は見られないが、「賛成」は、『結婚している（事実婚を含む）』（25.2%）で最も低くなっている。

子どもの有無別で見ると、《賛成（計）》は、あまり大きな差は見られないが、「賛成」は『子どもはいる』（26.0%）より5.5ポイント高くなっている。

『結婚している（事実婚を含む）』場合の夫婦の働き方別で見ると、《賛成（計）》は、『共働き』（63.9%）で6割以上と最も高くなっている。「賛成」は『共に働いていない』（15.5%）で約2割と他の働き方に比べて低くなっている。



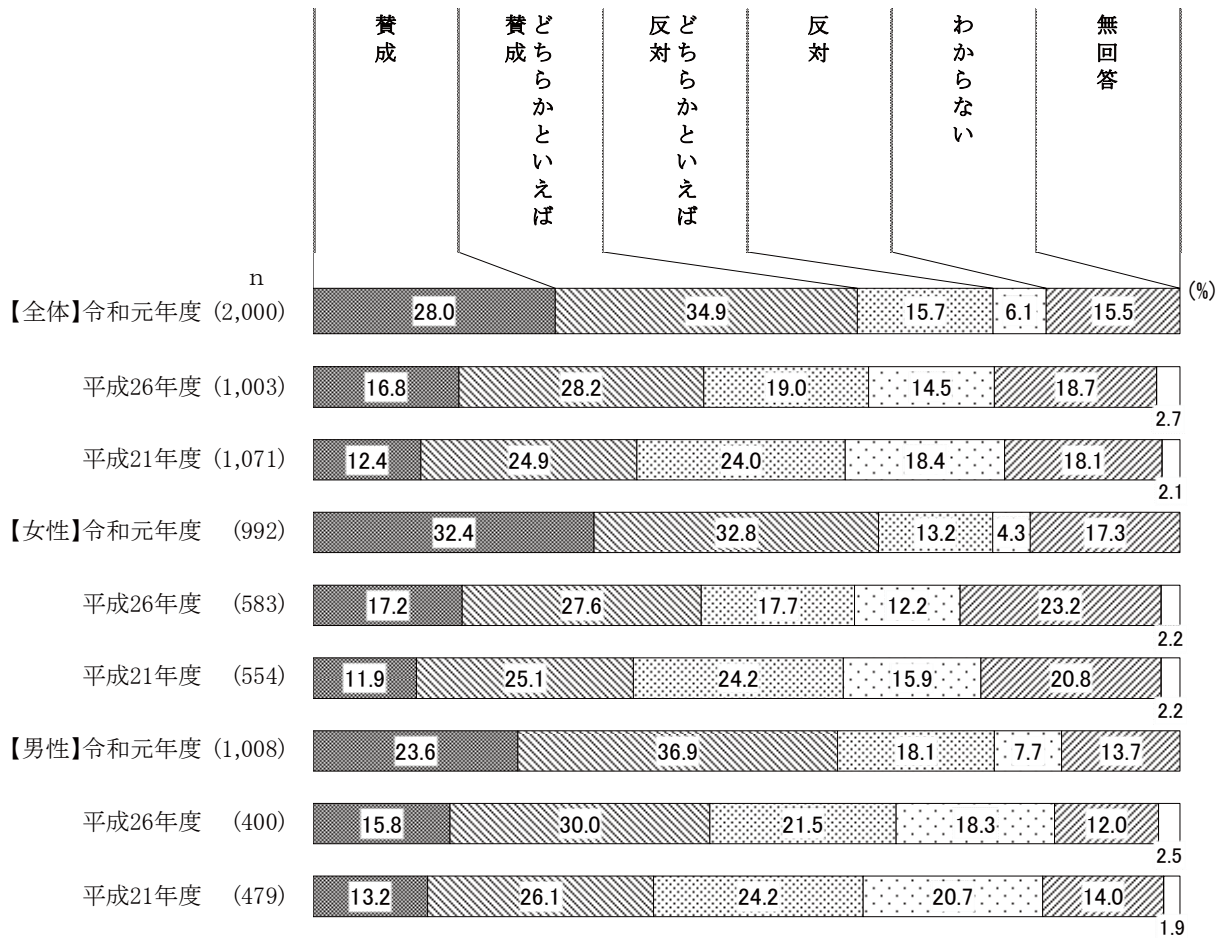
◇経年変化

● 《賛成（計）》は男女とも前回より高い

● 男女ともより明確な肯定意見が増加

経年変化を性別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、平成26年度（全体45.0%、女性44.8%、男性45.8%）より全体は17.9ポイント、女性は20.4ポイント、男性は14.7ポイントそれぞれ高くなっている。その内訳を見ると、「賛成」が平成26年度（全体16.8%、女性17.2%、男性15.8%）より全体は11.2ポイント、女性は15.2ポイント、男性は7.8ポイントそれぞれ高くなっている。

【問11⑤ 経年変化】



問11 ⑥同性同士の結婚も社会的に認められるべきである

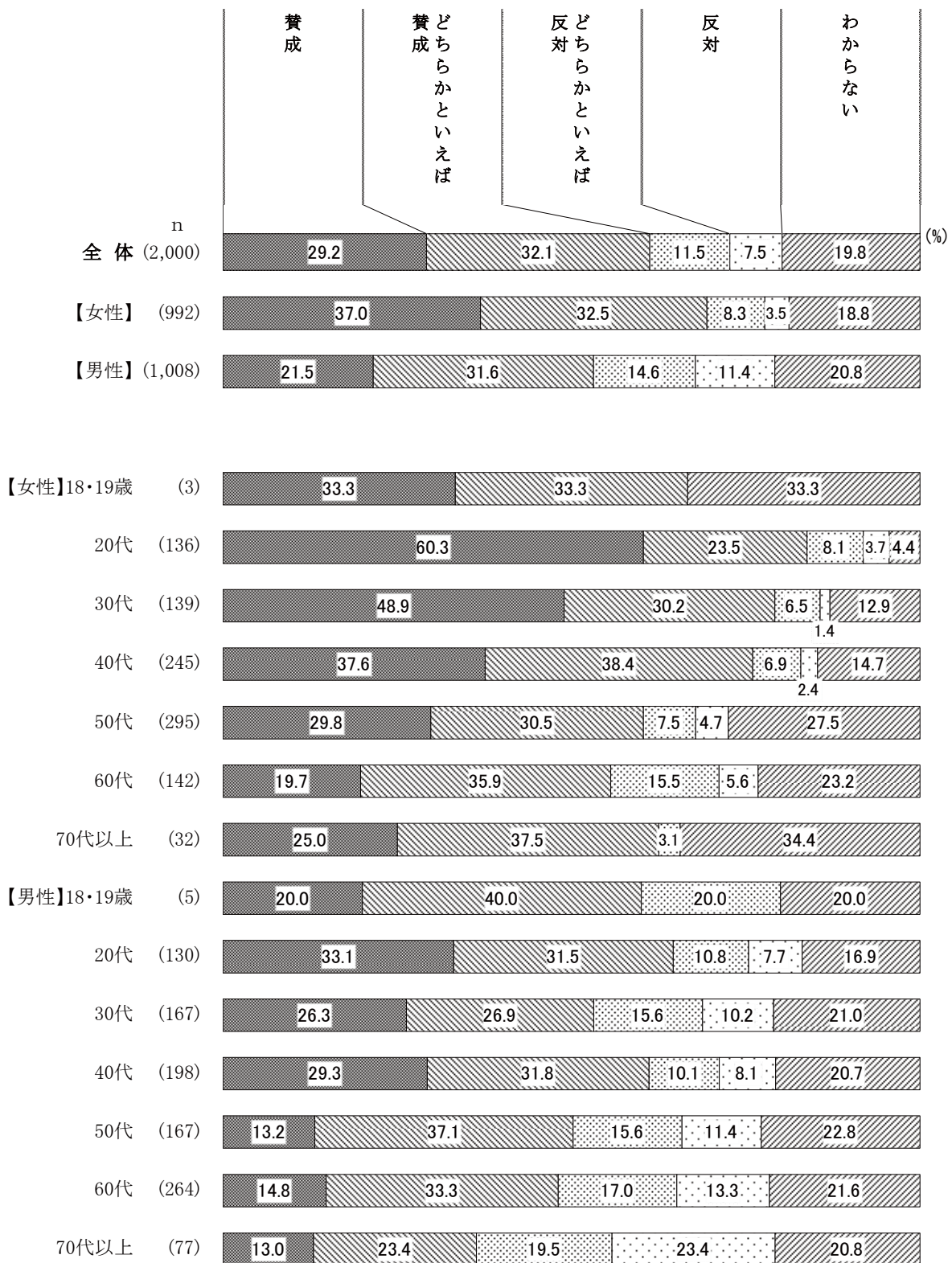
- 《賛成（計）》は女性で約7割、男性で5割以上
- 男性70代以上は《反対（計）》が《賛成（計）》より高い

女性は「賛成」（37.0%）、男性は「どちらかといえば賛成」（31.6%）が最も高くなっている。

《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、女性（69.5%）が男性（53.1%）より16.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性20代・30代、男性20代を除き「どちらかといえば賛成」が最も高く、女性20代・30代、男性20代は「賛成」が最も高くなっており、特に女性20代（60.3%）は6割以上となっている。男性70代以上は「どちらかといえば賛成」と「反対」が同値（23.4%）となっている。《賛成（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっている。また、男性70代以上は、《反対（計）》（「どちらかといえば反対」と「反対」の合計値）（42.9%）が《賛成（計）》（36.4%）より高くなっている。

【問 11 ⑥同性同士の結婚も社会的に認められるべきである】



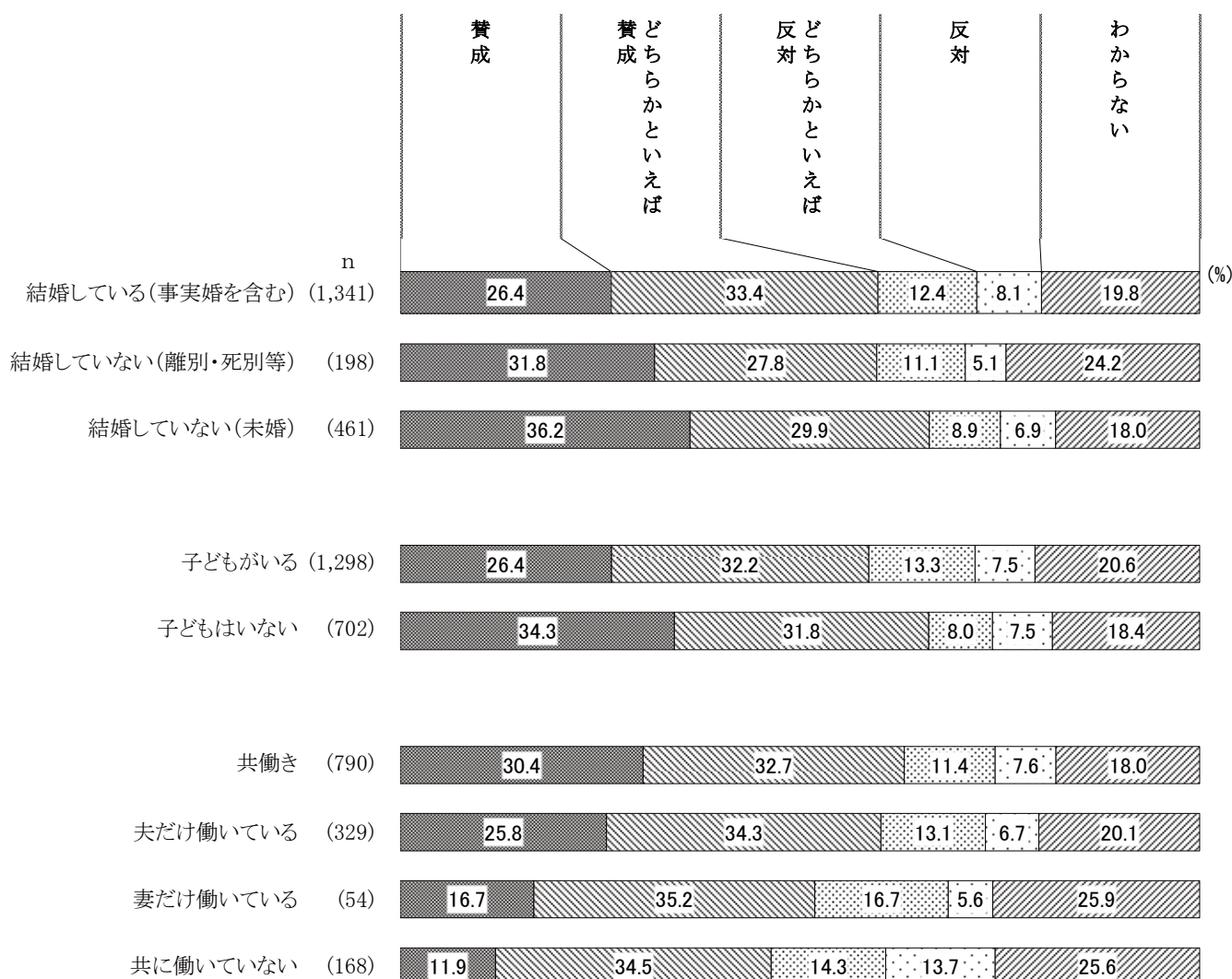
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

- 子どもがいる、男性が働いていない場合、《賛成（計）》が低い
- 共に働いていない場合、「賛成」が1割以上で低い

未既婚別で見ると、《賛成（計）》（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計値）は、『結婚していない（未婚）』（66.1%）で比較的高くなっており、その内訳を見ると、「賛成」は『結婚している（事実婚を含む）』（26.4%）で未婚や離別・死別等より低くなっている。

子どもの有無別で見ると、「賛成」は、『子どもはいない』（34.3%）が『子どもがいる』（26.4%）より7.9ポイント高くなっている。

『結婚している（事実婚を含む）』場合の夫婦の働き方別で見ると、《賛成（計）》は、『妻だけ働いている』（51.9%）、『共に働いていない』（46.4%）で5割前後と比較的低く、男性が働いていない場合は《賛成（計）》が低い傾向が見られる。また、「賛成」は『共に働いていない』（11.9%）で最も低くなっている。



(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方

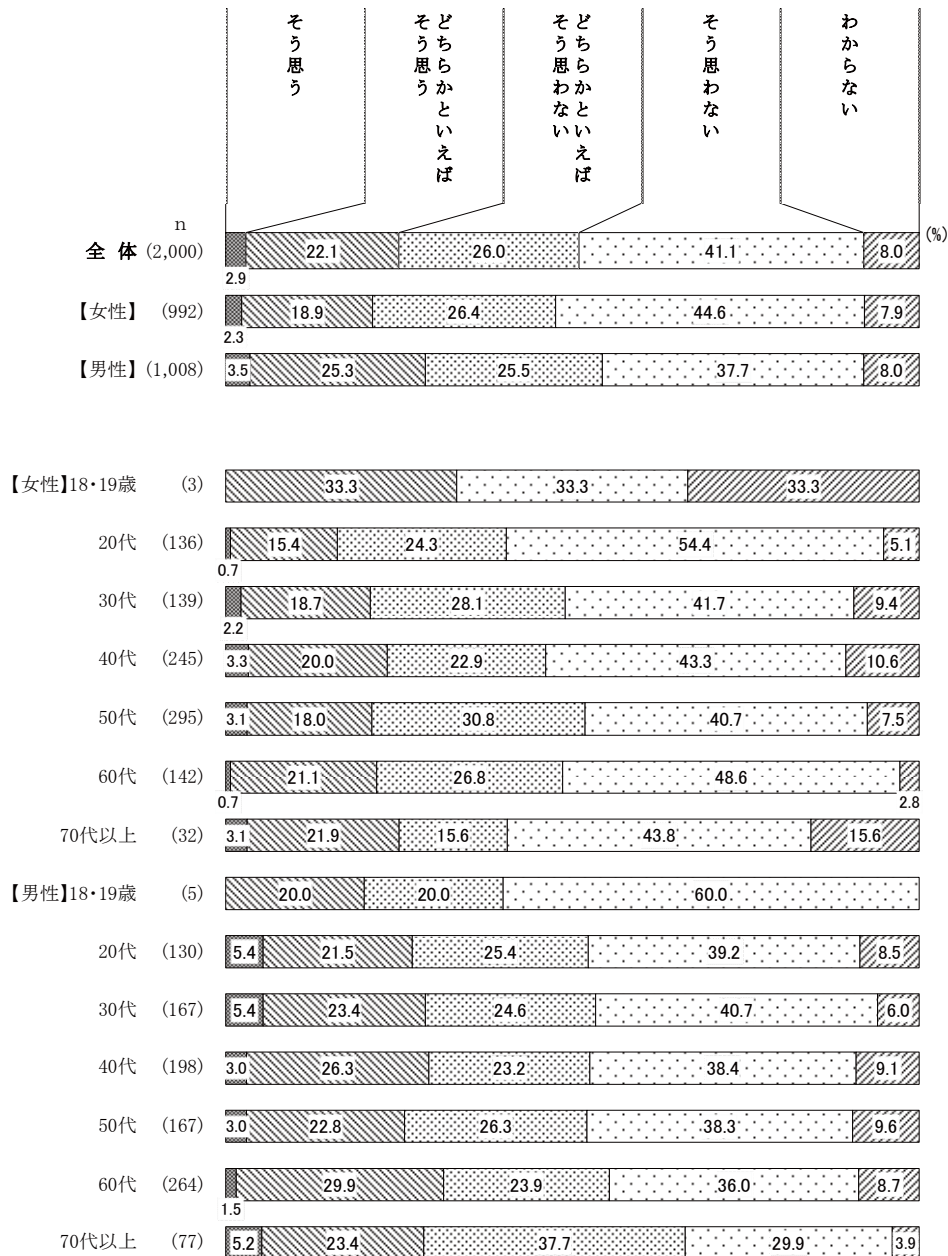
問12 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。(1つに○)

- 《思わない(計)》が女性7割以上、男性6割以上
- 男性70代以上を除いたすべての年代で「そう思わない」が最も高い

男女とも「そう思わない」(女性44.6%、男性37.7%)が最も高くなっている。

《思わない(計)》(「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値)は、女性(71.0%)が男性(63.2%)より7.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男性70代以上を除くすべての年代で「そう思わない」が最も高く、男性70代以上は「どちらかといえばそう思わない」(37.7%)が最も高くなっている。《思わない(計)》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は60代(女性75.4%、男性59.9%)が15.5ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。



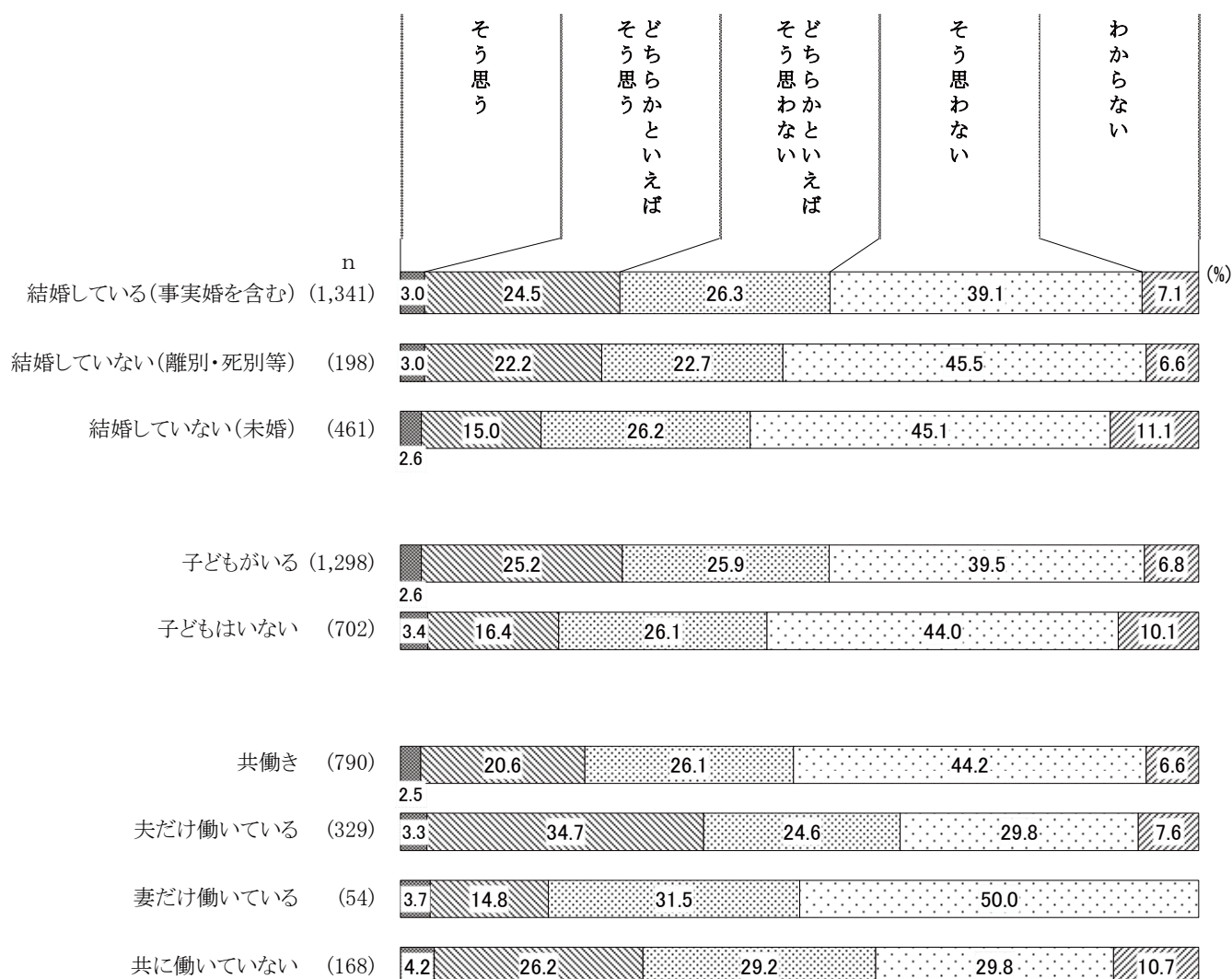
◇未既婚・子どもの有無・夫婦の働き方別

- 未婚、子どもがいない、妻だけ働いている場合、《思う（計）》は約2割で低い
- 夫だけ働いている、共に働いていない場合、《思わない（計）》が5割台と低い

未既婚別で見ると、《思う（計）》（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値）は、『結婚していない（未婚）』（17.6%）で約2割となっており、既婚、離別・死別等に比べて低くなっている。

子どもの有無別で見ると、《思う（計）》は、『子どもがいる』（27.8%）が『子どもはいる』（19.8%）より8.0ポイント高くなっている。

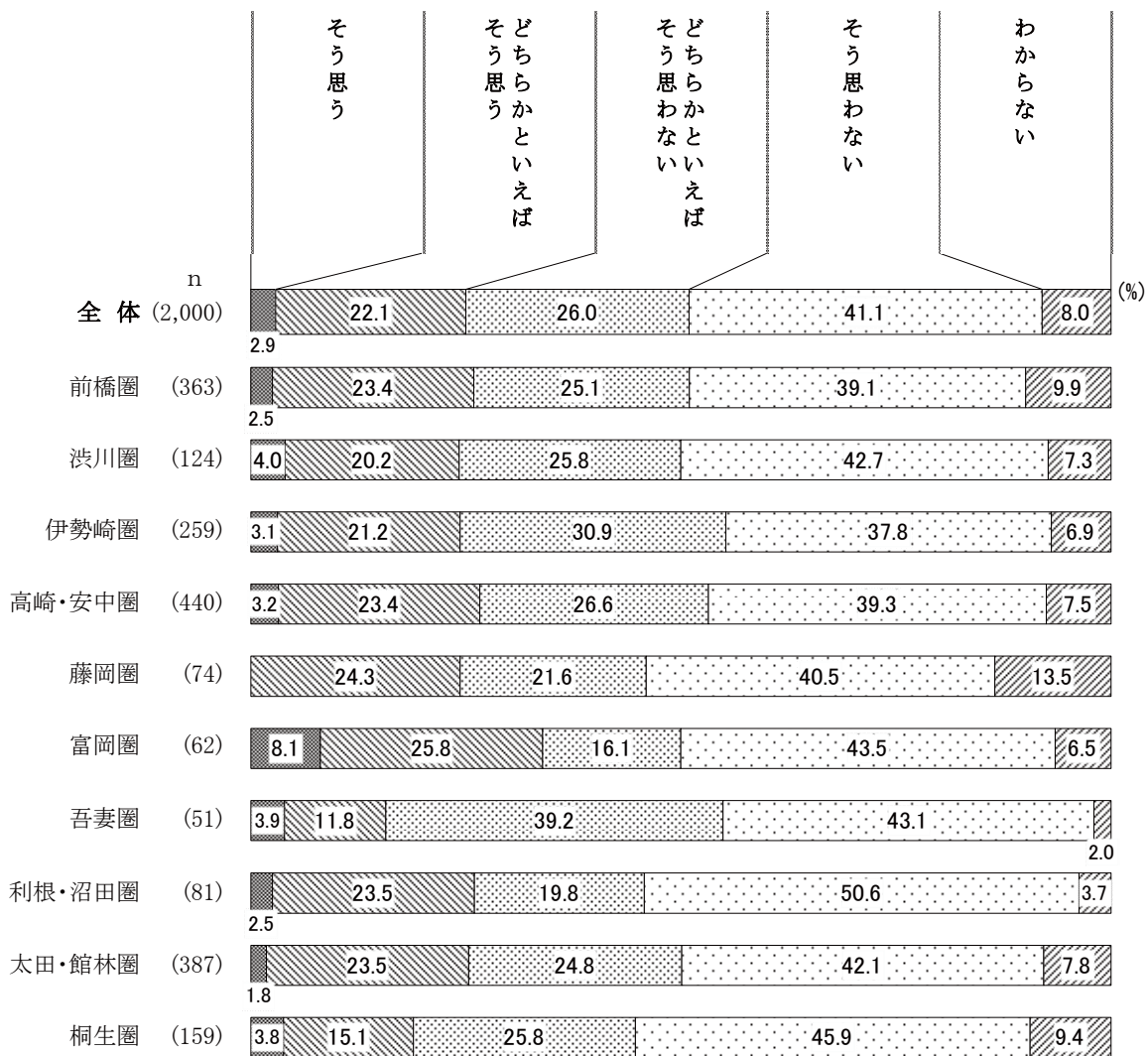
『結婚している（事実婚を含む）』場合の夫婦の働き方別で見ると、《思わない（計）》（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値）は、『妻だけ働いている』（81.5%）で最も高く、最も低い『夫だけ働いている』（54.4%）より27.1ポイント高くなっている。「どちらかといえばそう思う」は『夫だけ働いている』（34.7%）で3割以上と高くなっている。



◇圏域別

- 《思わない（計）》はすべての圏域で過半数を占めている
- 《思わない（計）》は吾妻圏で8割以上と最も高い

圏域別で見ると、すべての圏域で「そう思わない」が最も高く、利根・沼田圏では過半数を占めている。《思わない（計）》（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値）は、すべての圏域で過半数を占めており、吾妻圏（82.3%）が最も高く、最も低い富岡圏（59.6%）より22.7ポイント高くなっている。



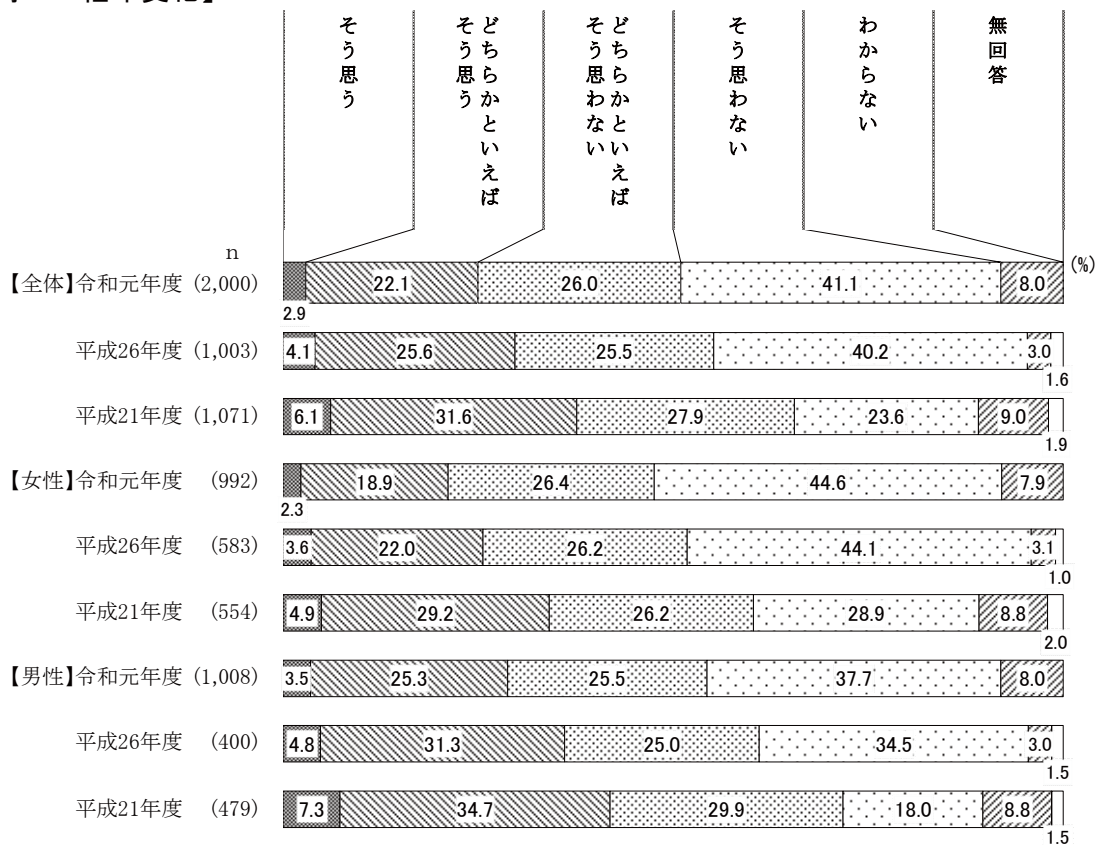
◇経年変化

- 《思わない（計）》の増加は落ち着きつつある

平成21年度とは文章表現等が異なることを考慮する必要がある。

経年変化を性別で見ると、《思わない（計）》（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値）は、全体、女性であまり大きな変化は見られず、男性ではわずかに上昇が見られる。《思う（計）》（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値）は、男性で平成26年度（36.1%）より7.3ポイント低くなっている。

【問12 経年変化】

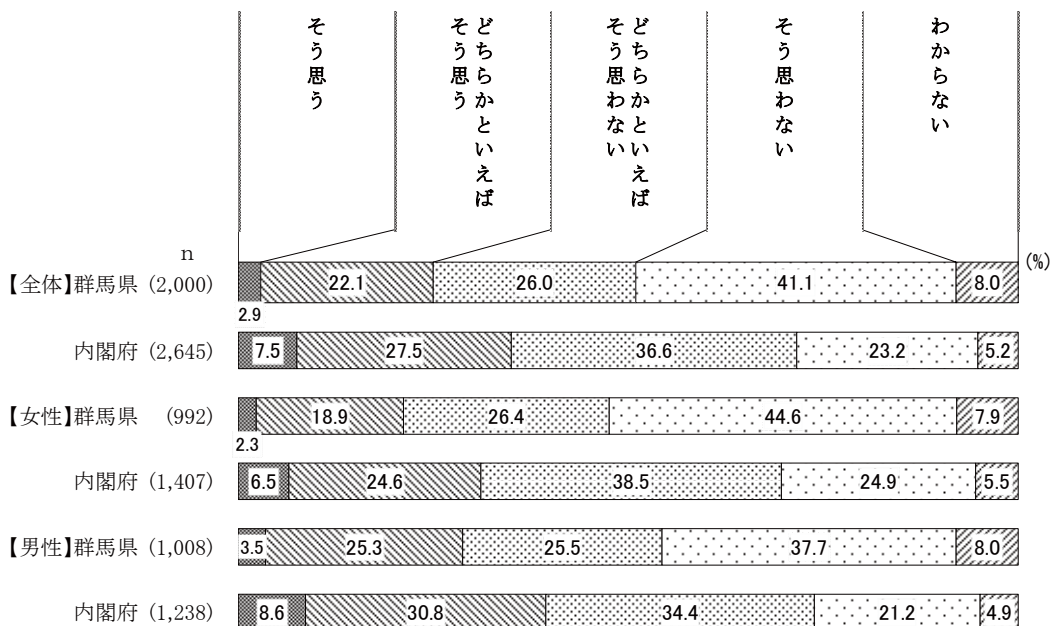


◇国の調査との比較

● 男女とも《思わない（計）》が国より高い

内閣府の調査とは文章表現等が異なることを考慮する必要があるが、《思わない（計）》（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値）は、内閣府（全体 59.8%、女性 63.4%、男性 55.6%）より全体は 7.3 ポイント、女性は 7.6 ポイント、男性は 7.6 ポイントそれぞれ高くなっている。

しかし、内閣府の調査は、令和元年度調査では平成28年度調査より《思わない（計）》が全体で大幅に上昇した一方で、群馬県の今回の調査ではさほど大きな変化は見られなかったため、国との差が縮まっているとかがえる。



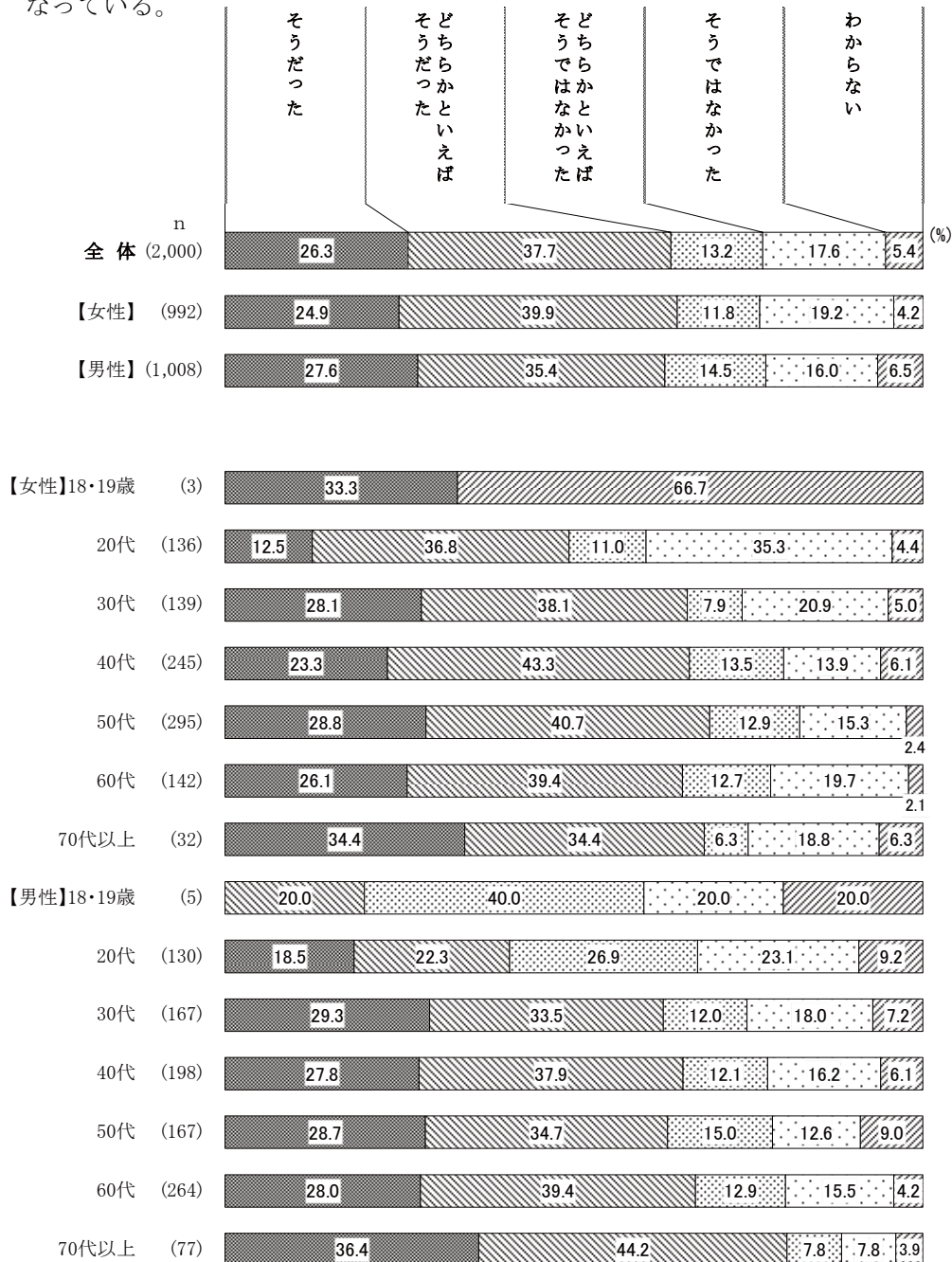
(3) 子どものころの家庭内の状況

問13 子どものころ、あなたの家庭では、「男は仕事、女は家庭」という考えでしたか。
(1つに〇)

● 《そうだった(計)》が男女とも6割以上

全体、男女とも「どちらかといえばそうだった」(全体 37.7%、女性 39.9%、男性 35.4%)が最も高くなっている。《そうだった(計)》(「そうだった」と「どちらかといえばそうだった」の合計値)は、女性(64.8%)と男性(63.0%)が同程度で、大きな差は見られない。

性・年代別で見ると、《そうだった(計)》は男性70代以上(80.6%)で8割以上と最も高く、一方で男性20代(40.8%)では4割以上と最も低くなっている。《そうだった(計)》は、60代・70代以上を除き女性が男性より高くなっており、男女差は70代以上(女性68.8%、男性80.6%)が11.8ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。



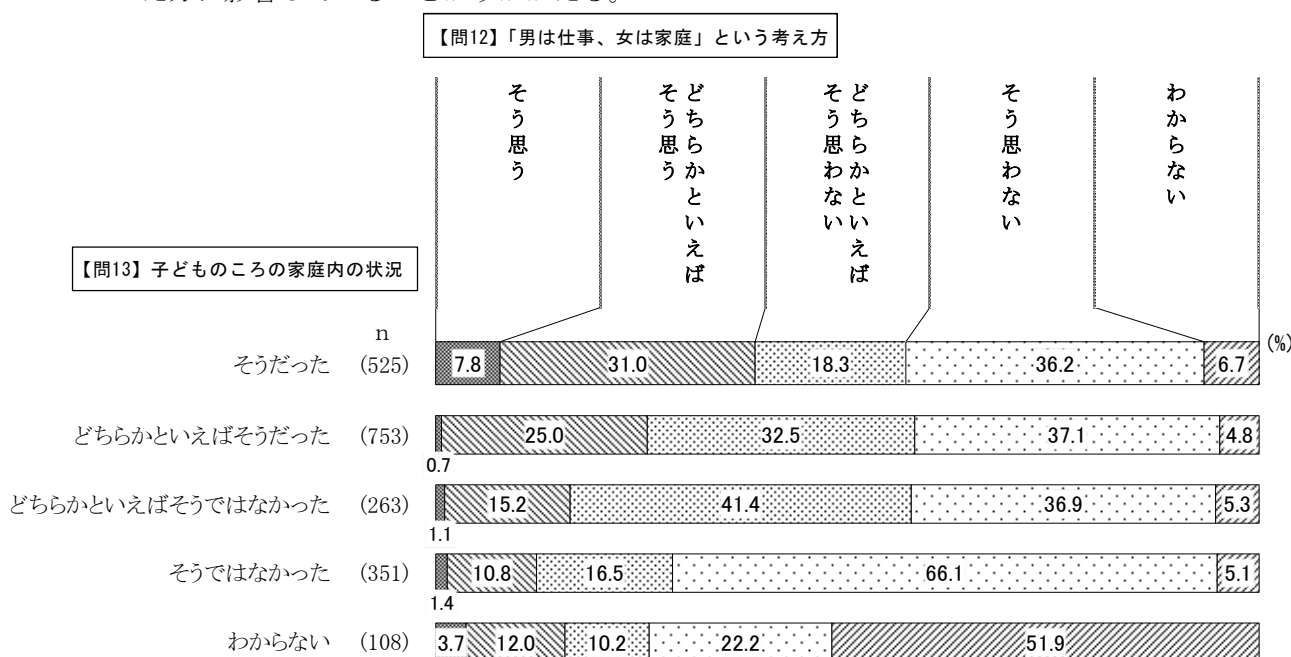
◇現在の考え方との関係

● 子どものころの家庭等の環境が現在の考え方に影響していることがうかがえる

問 12（あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか）との関係で見ると、問 12（現在）における《思う（計）》（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値）は、問 13（子どものころの家庭等の環境）における『そうだった』（38.8%）、『どちらかといえばそうだった』（25.7%）の場合に高くなっている。

一方、問 12（現在）における《思わない（計）》（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計値）は、問 13（子どものころの家庭等の環境）における『そうではなかった』（82.6%）の場合に高くなっている。

これらのことを考え合わせると、子どもの頃の家庭等における環境が、成長後の考え方に影響していることがうかがえる。



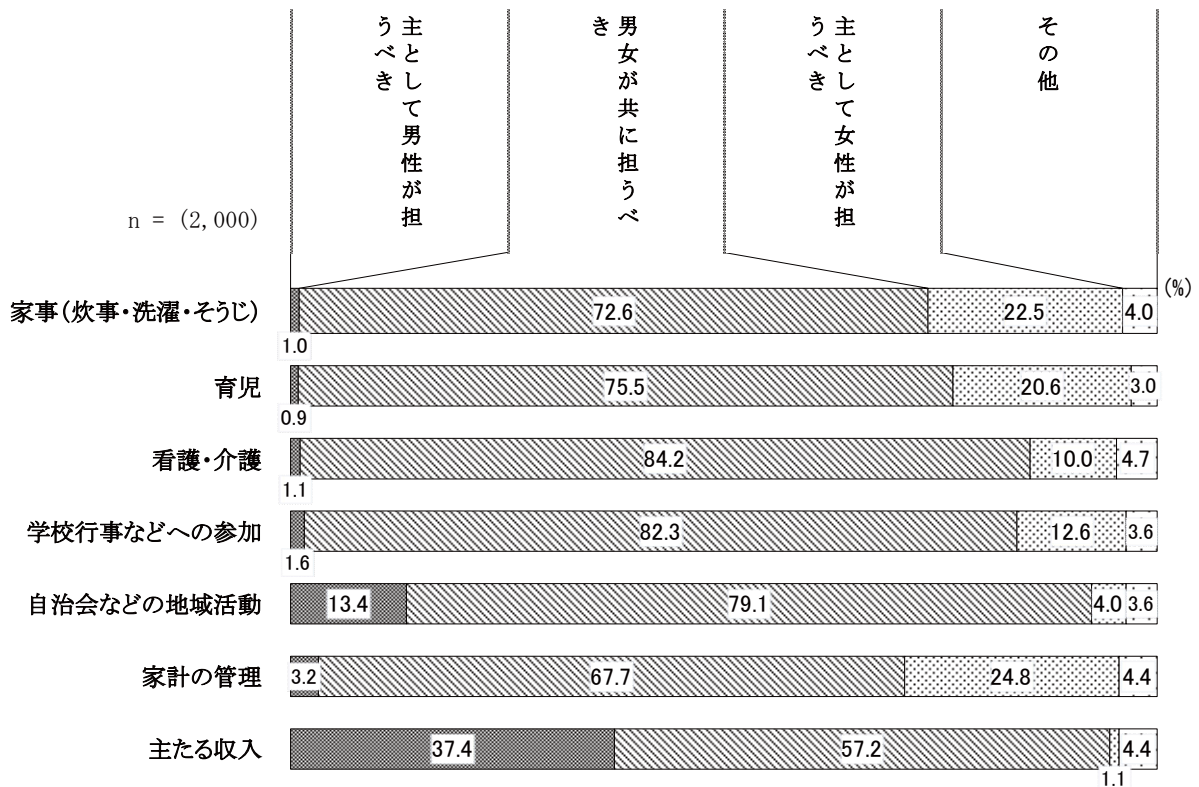
(4) 家庭内の役割分担の理想

問14 あなたは、家庭内の役割について、どのように担うべきだと思いますか。
(それぞれ1つに○)

- すべての項目で「男女が共に担うべき」が最も高く、特に『看護・介護』、『学校行事などへの参加』では8割以上
- 『主たる収入』は「主として男性が担うべき」が約4割
- 『家事』、『育児』、『家計の管理』では「主として女性が担うべき」が比較的高い

全体では、すべての項目で「男女が共に担うべき」が最も高く、特に『看護・介護』（84.2%）、『学校行事などへの参加』（82.3%）で8割以上となっている。『主たる収入』で「主として男性が担うべき」（37.4%）が約4割と高く、『自治会などの地域活動』（13.4%）も1割以上となっている。また、『家事』（22.5%）、『育児』（20.6%）、『家計の管理』（24.8%）では「主として女性が担うべき」が2割以上と比較的高くなっている。

【問14】



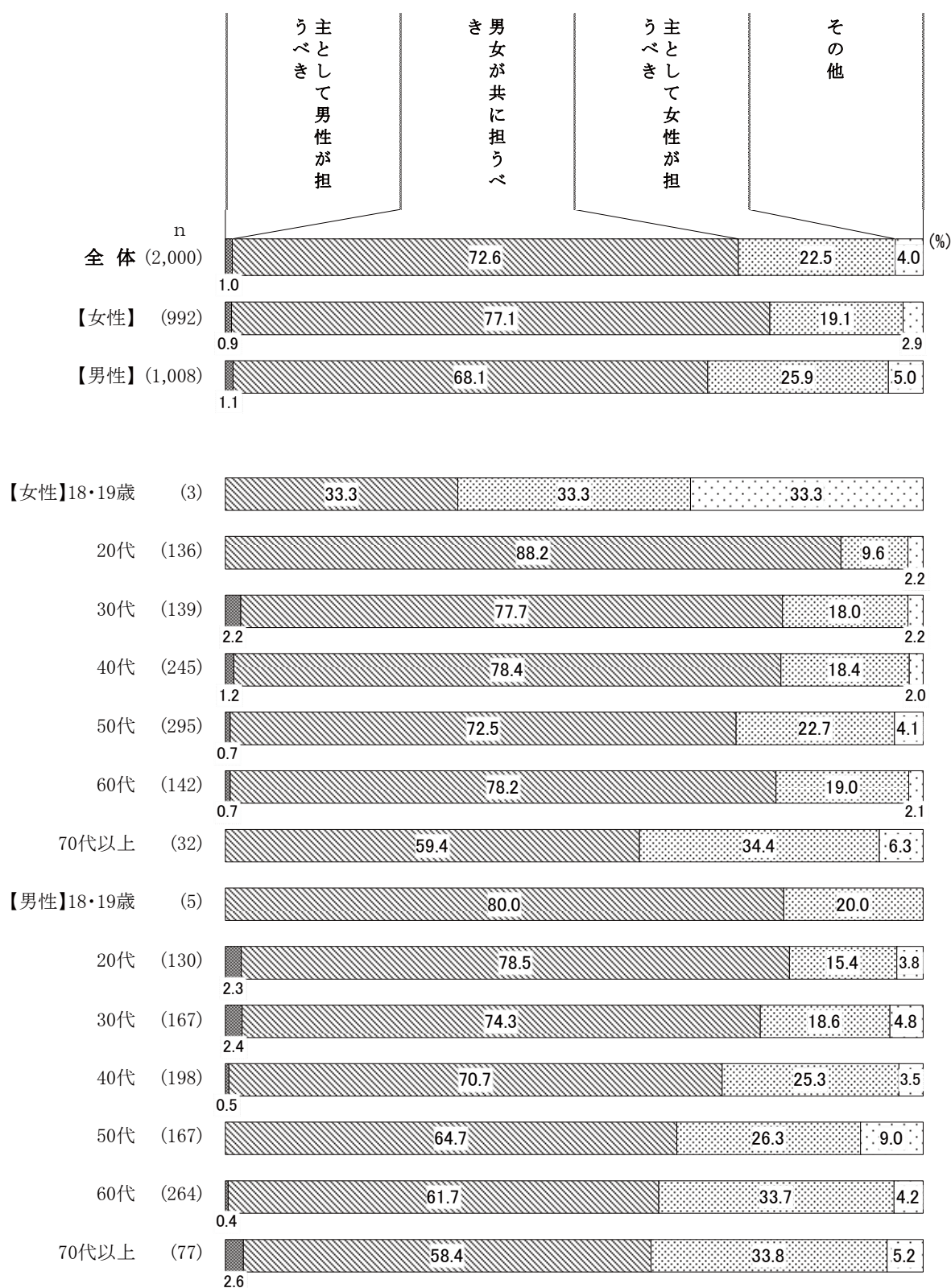
問14 ①家事（炊事・洗濯・そうじ）をどう担うべきか

- 「男女が共に」が女性約8割、男性約7割
- 70代以上、男性60代で「主として女性」が3割以上

男女とも「男女が共に担うべき」（女性 77.1%、男性 68.1%）が最も高く、女性が男性より9.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、すべての年代で女性が男性より高く、特に60代で女性（78.2%）が男性（61.7%）より16.5ポイント高くなっている。女性70代以上、男性60代・70代以上では「主として女性が担うべき」（女性70代以上34.4%、男性60代33.7%、男性70代以上33.8%）が3割以上見られる。

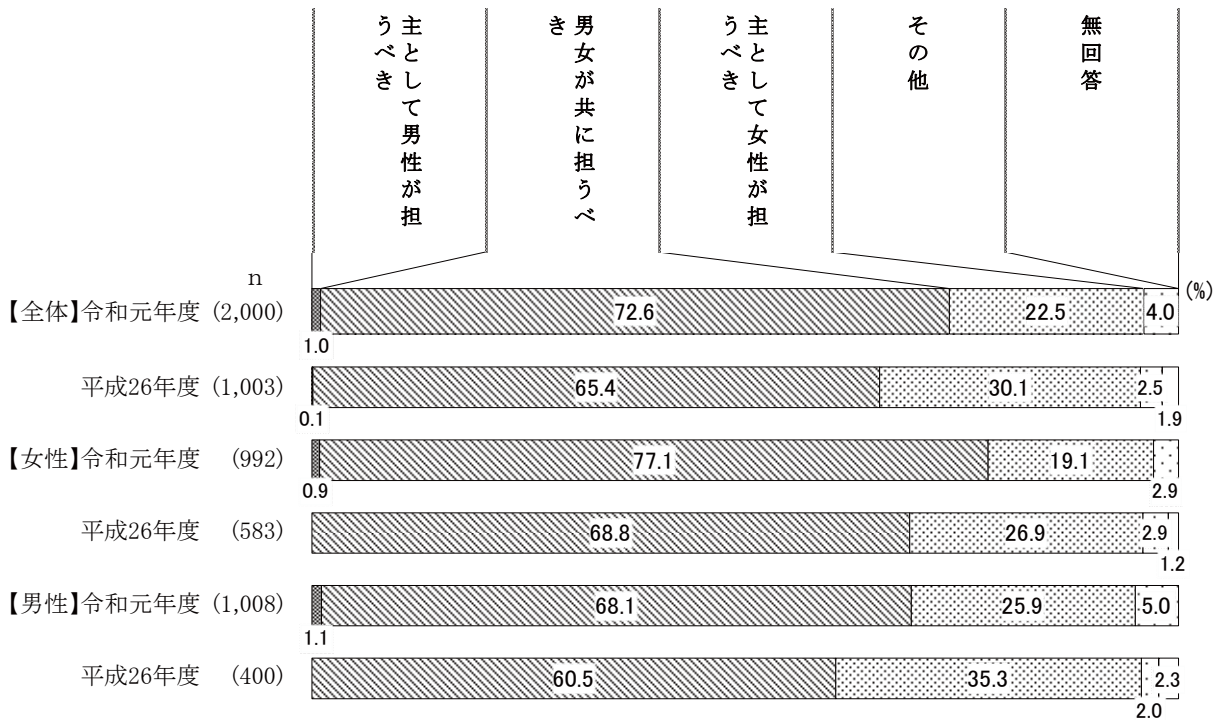
【問14 ①家事（炊事・洗濯・そうじ）をどう担うべきか】



◇経年変化

● 「男女が共に」は男女とも前回より高い

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は、平成26年度（全体65.4%、女性68.8%、男性60.5%）より全体は7.2ポイント、女性は8.3ポイント、男性は7.6ポイントそれぞれ高くなっている。「主として女性が担うべき」は、平成26年度（全体30.1%、女性26.9%、男性35.3%）より全体は7.6ポイント、女性は7.8ポイント、男性は9.4ポイントそれぞれ低くなっている。



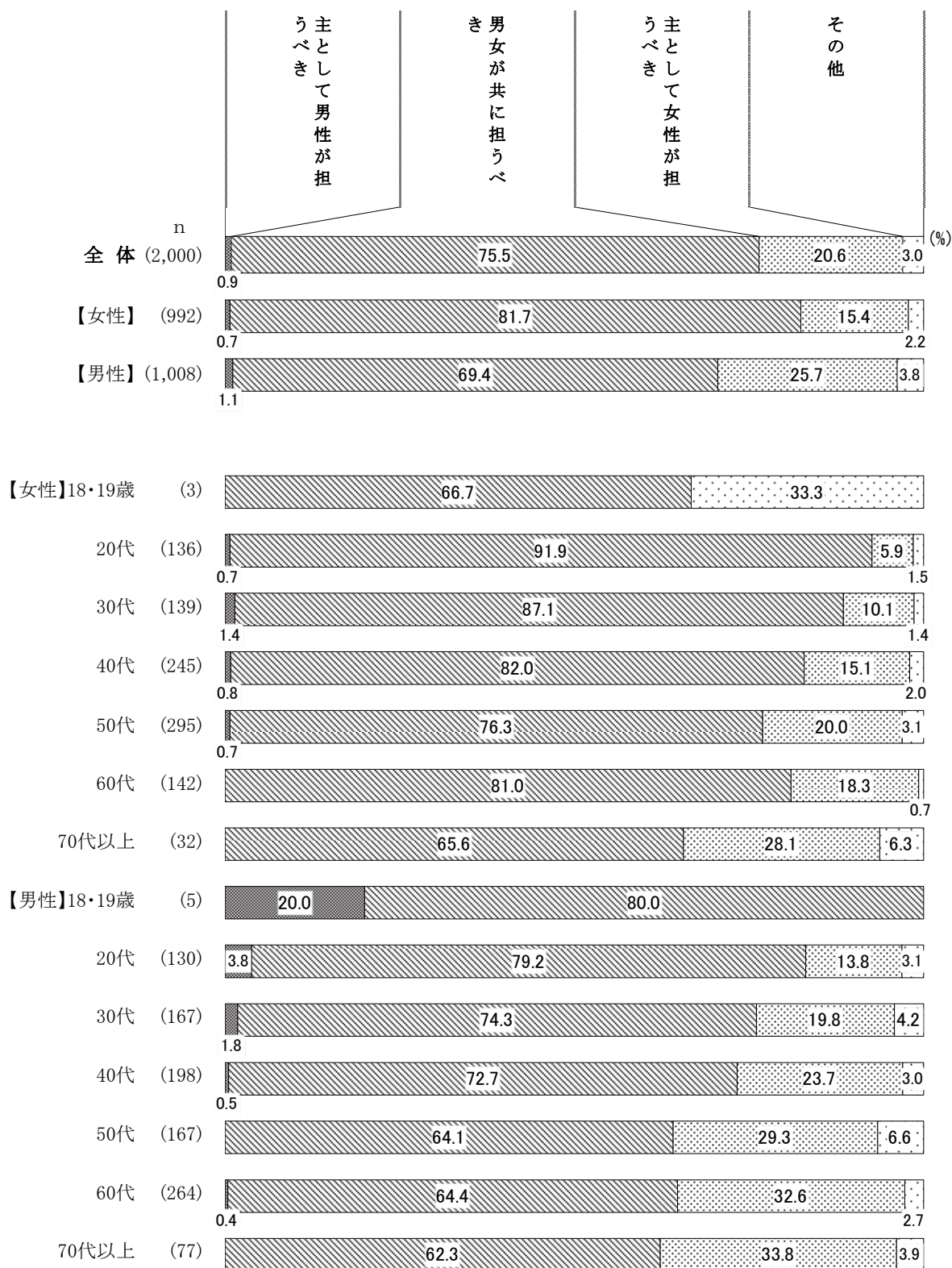
問14 ②育児をどう担うべきか

- 「男女が共に」が女性8割以上、男性約7割
- 男性60代・70代以上では「主として女性」が3割以上

男女とも「男女が共に担うべき」（女性81.7%、男性69.4%）が最も高く、女性が男性より12.3ポイント高くなっている。次いで「主として女性が担うべき」（女性15.4%、男性25.7%）が高く、男性が女性より10.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、すべての年代で女性が男性より高く、特に60代で女性（81.0%）が男性（64.4%）より16.6ポイント高くなっている。一方、男性60代・70代以上は、「主として女性が担うべき」（60代32.6%、70代以上33.8%）が3割以上見られる。

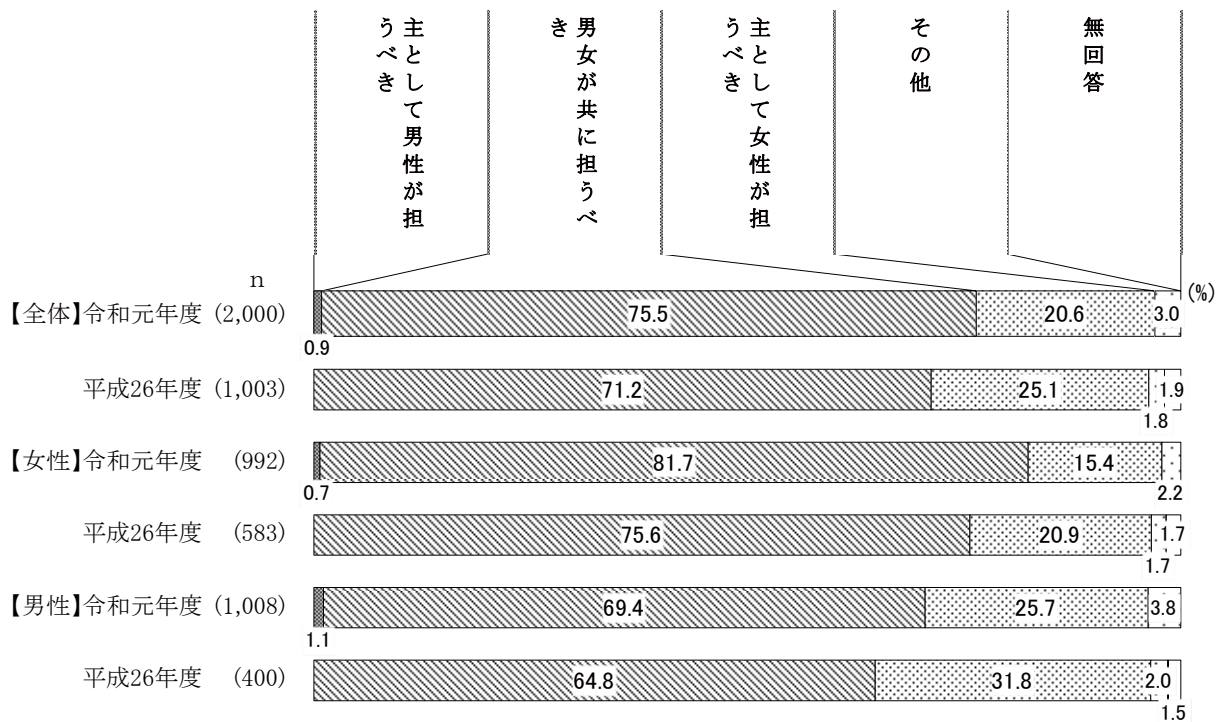
【問14 ②育児をどう担うべきか】



◇経年変化

- 「男女が共に」が女性で前回よりやや高い
- 「主として女性」は男女ともに前回より低い

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は、全体、男性であまり大きな変化は見られないが、女性では平成26年度（75.6%）より6.1ポイント高くなっている。「主として女性が担うべき」は、平成26年度（女性20.9%、男性31.8%）より女性は5.5ポイント、男性は6.1ポイント低くなっている。



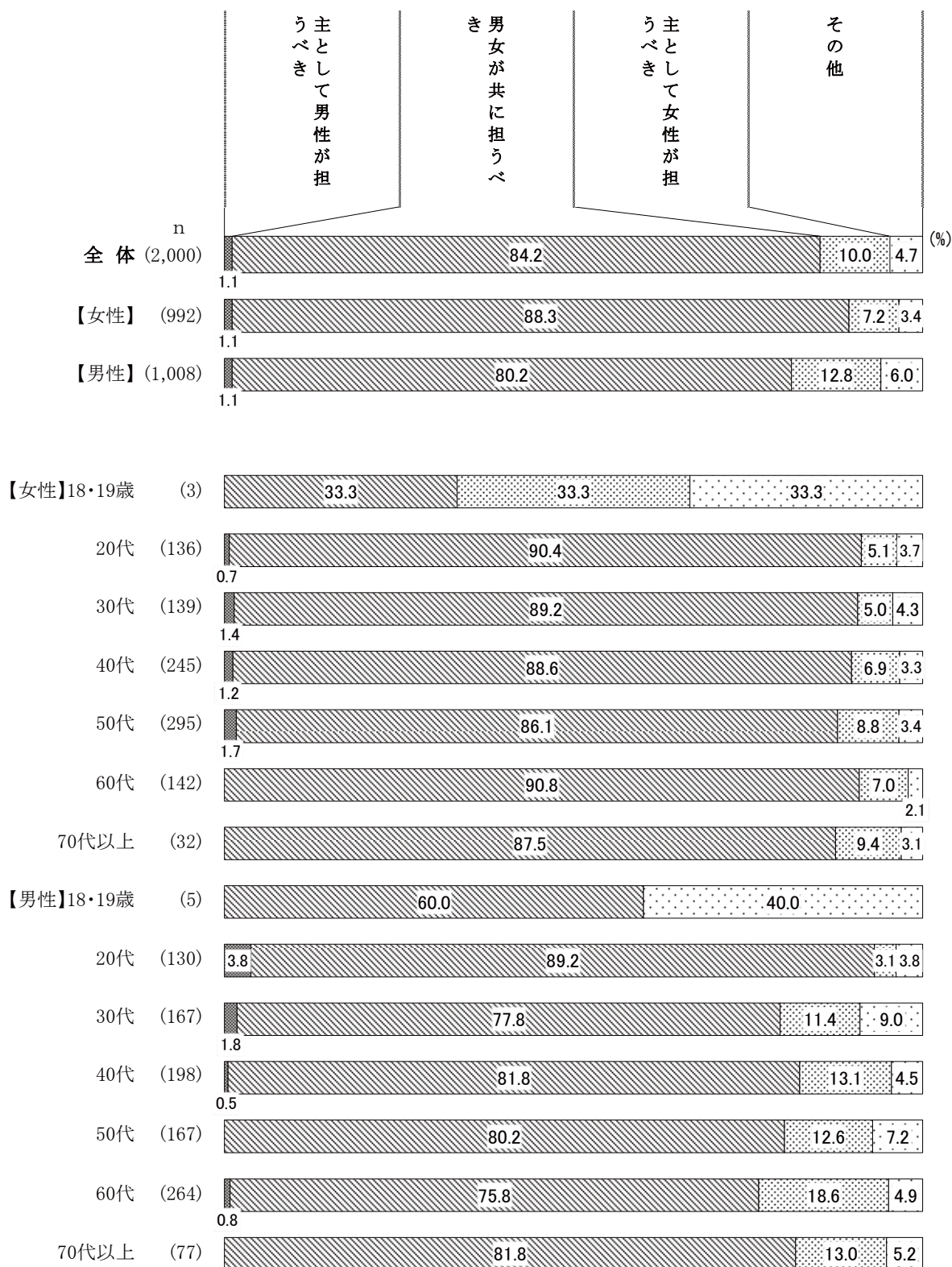
問14 ③看護・介護をどう担うべきか

- 「男女が共に」が女性約9割、男性8割以上
- 「男女が共に」はすべての年代で女性が男性より高い
- 男性60代では「主として女性」が約2割

男女とも「男女が共に担うべき」（女性88.3%、男性80.2%）が最も高く、女性が男性より8.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、すべての年代で女性が男性より高く、特に30代（女性89.2%、男性77.8%）で11.4ポイント、60代（女性90.8%、男性75.8%）で15.0ポイント高くなっている。一方で、男性60代は「主として女性が担うべき」（18.6%）が約2割見られる。

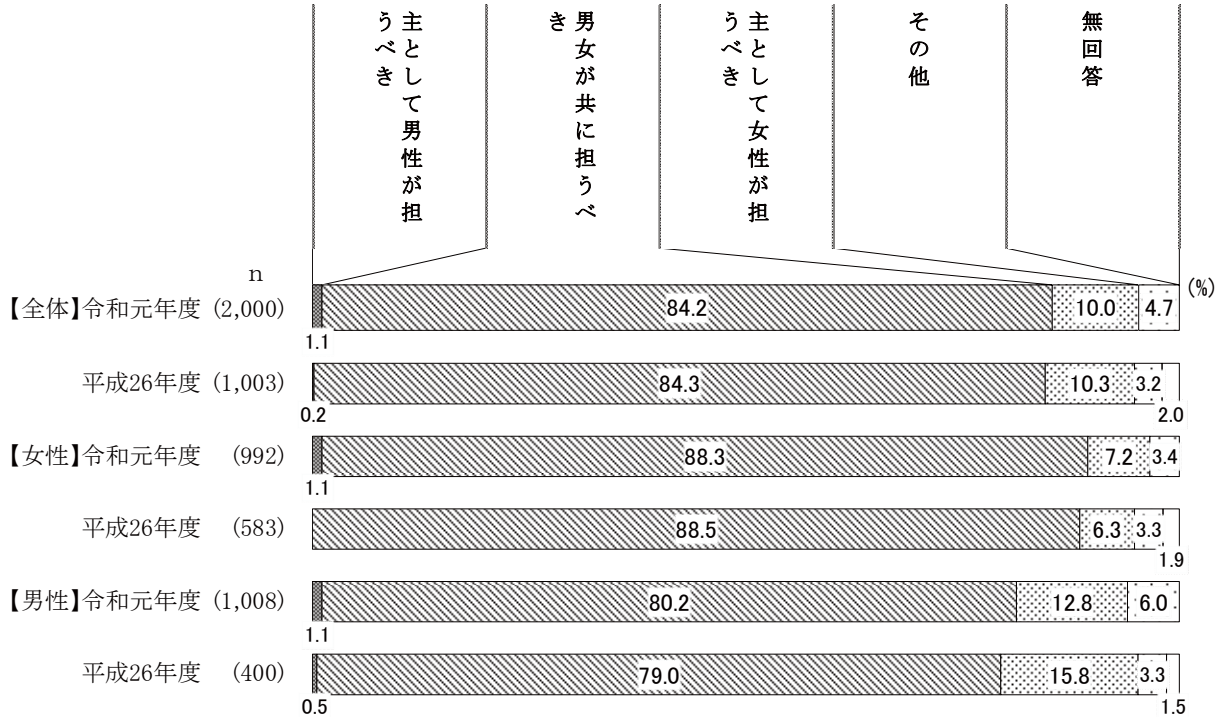
【問14 ③看護・介護をどう担うべきか】



◇経年変化

● 男女ともに前回とほとんど差は見られない

経年変化を性別で見ると、平成26年度とほとんど変化は見られず、「男女が共に担うべき」は女性で約9割、男性で約8割となっている。



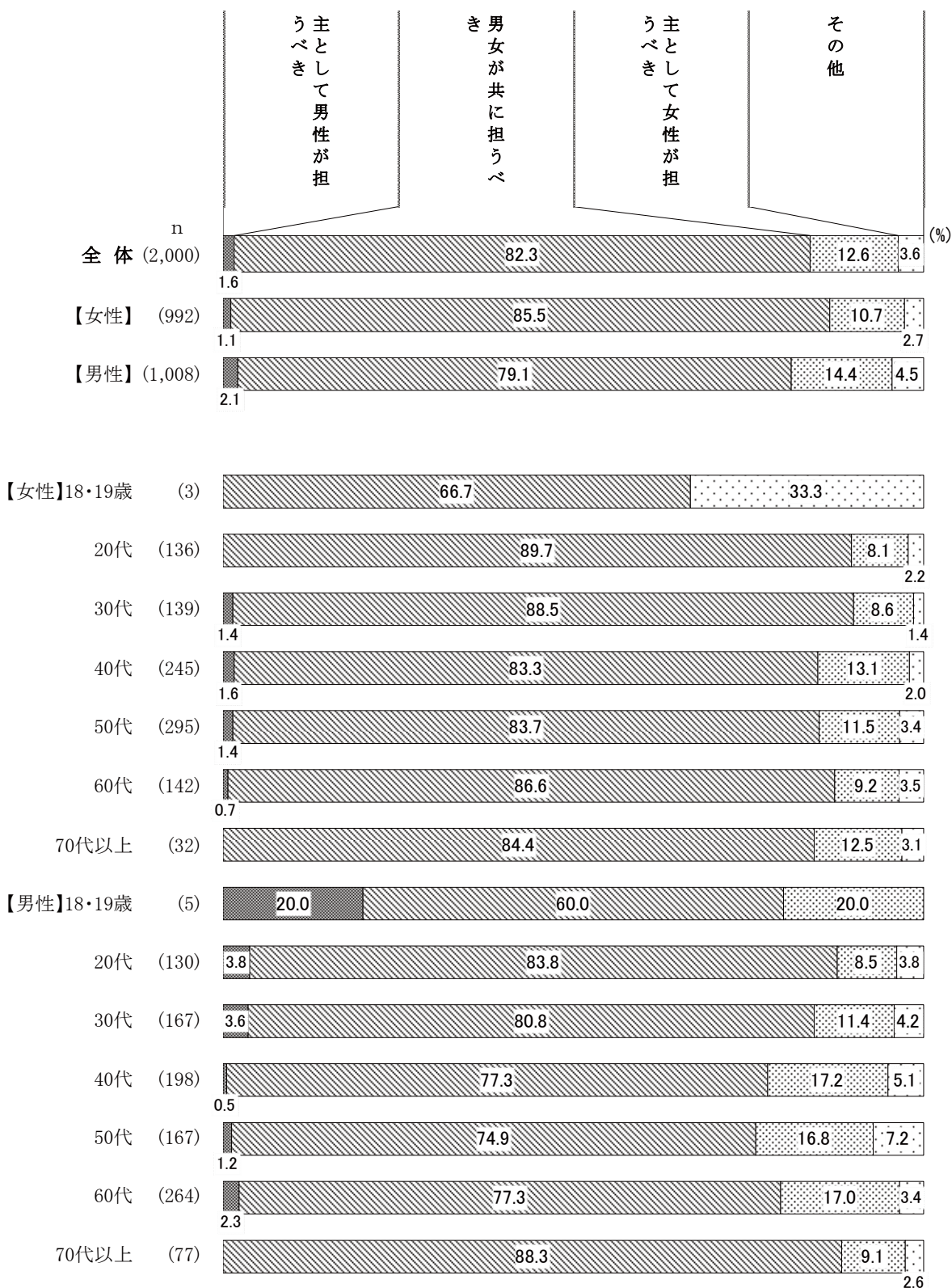
問14 ④学校行事などへの参加をどう担うべきか

- 「男女が共に担うべき」が女性約9割、男性約8割
- 「男女が共に担うべき」は70代以上では男性が女性より高い

男女とも「男女が共に担うべき」（女性85.5%、男性79.1%）が最も高く、女性が男性より6.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、70代を除くすべての年代で女性が男性より高くなっている。一方で、「主として女性が担うべき」は、男性40代（17.2%）、50代（16.8%）、60代（17.0%）で約2割と比較的高くなっている。

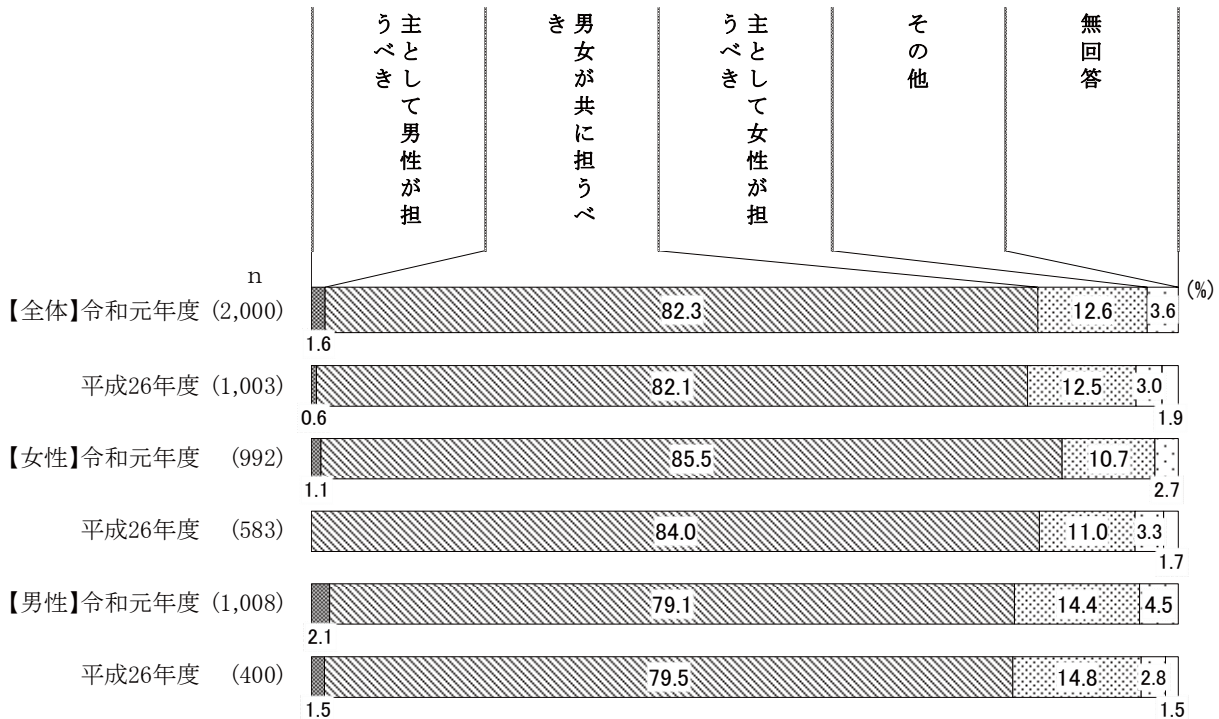
【問14 ④学校行事などへの参加をどう担うべきか】



◇経年変化

● 男女ともに前回とほとんど差は見られない

経年変化を性別で見ると、平成26年度とほとんど変化は見られず、「男女が共に担うべき」は女性で8割以上、男性で約8割となっている。



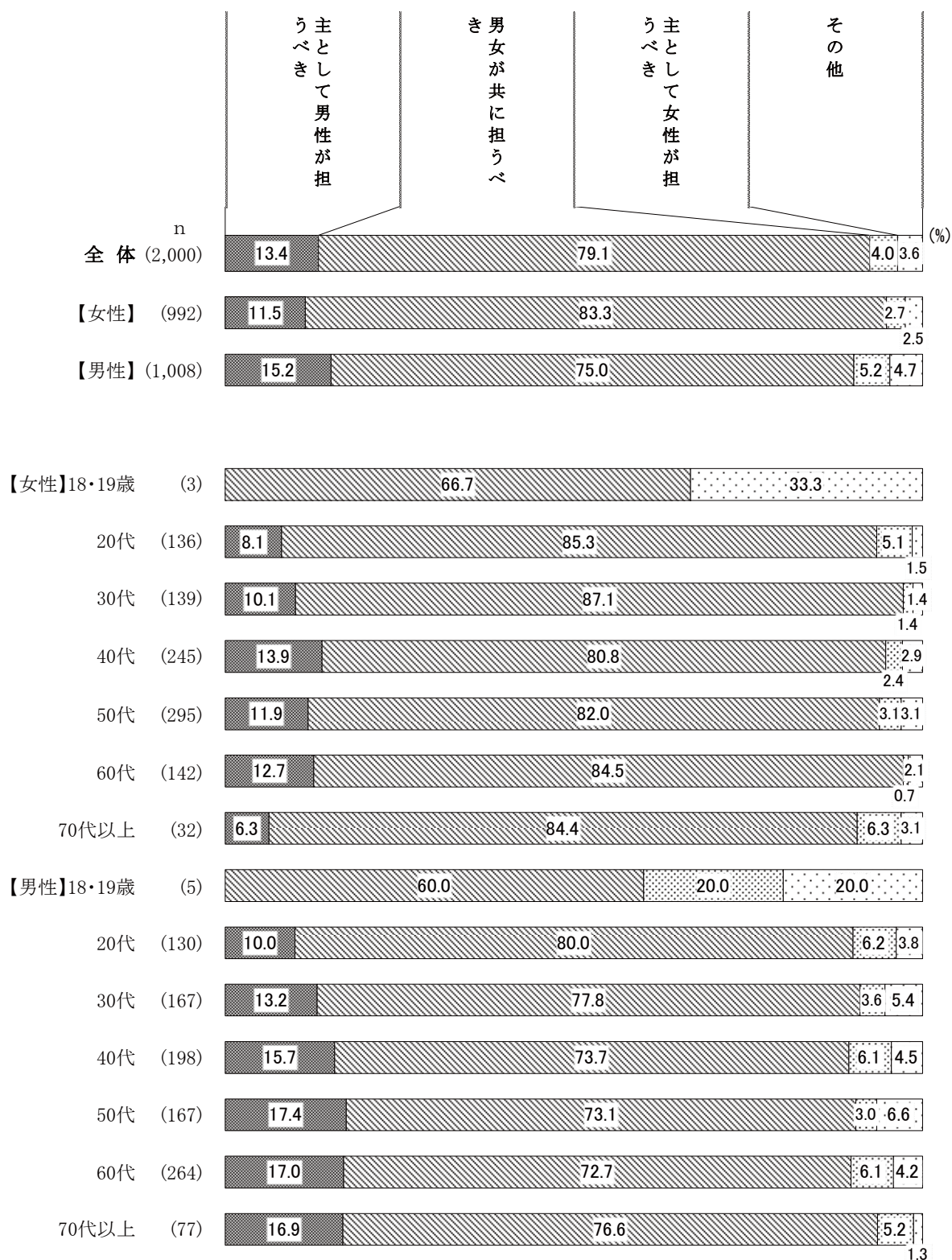
問14 ⑤自治会などの地域活動をどう担うべきか

- 「男女が共に担うべき」が女性8割以上、男性約8割
- 女性20代・70代以上を除き「主として男性」が1割台

男女とも「男女が共に担うべき」(女性83.3%、男性75.0%)が最も高く、女性が男性より8.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、すべての年代で女性が男性より高く、特に60代(女性84.5%、男性72.7%)で11.8ポイント高くなっている。「主として男性が担うべき」は女性20代(8.1%)、70代以上(6.3%)を除き1割台となっている。

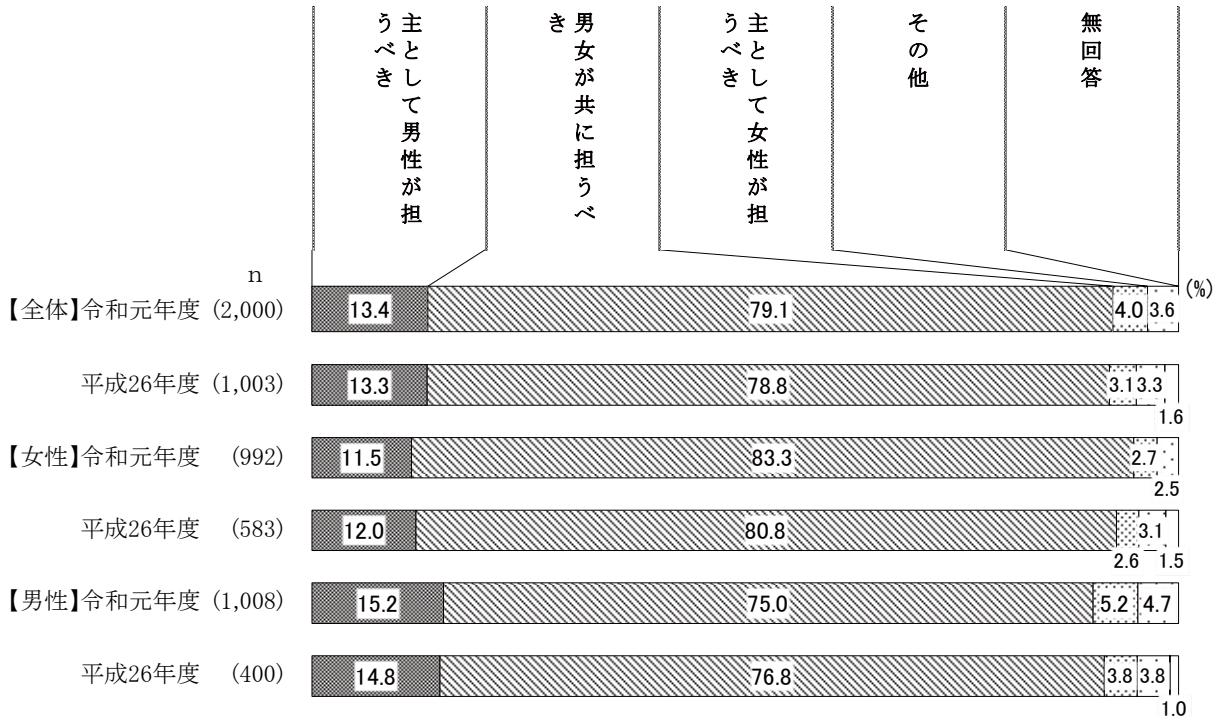
【問14 ⑤自治会などの地域活動をどう担うべきか】



◇経年変化

● 男女ともに前回とほとんど差は見られない

経年変化を性別で見ると、平成26年度とほとんど変化は見られず、「男女が共に担うべき」は女性で8割以上、男性で約8割となっている。



問14 ⑥家計の管理をどう担うべきか

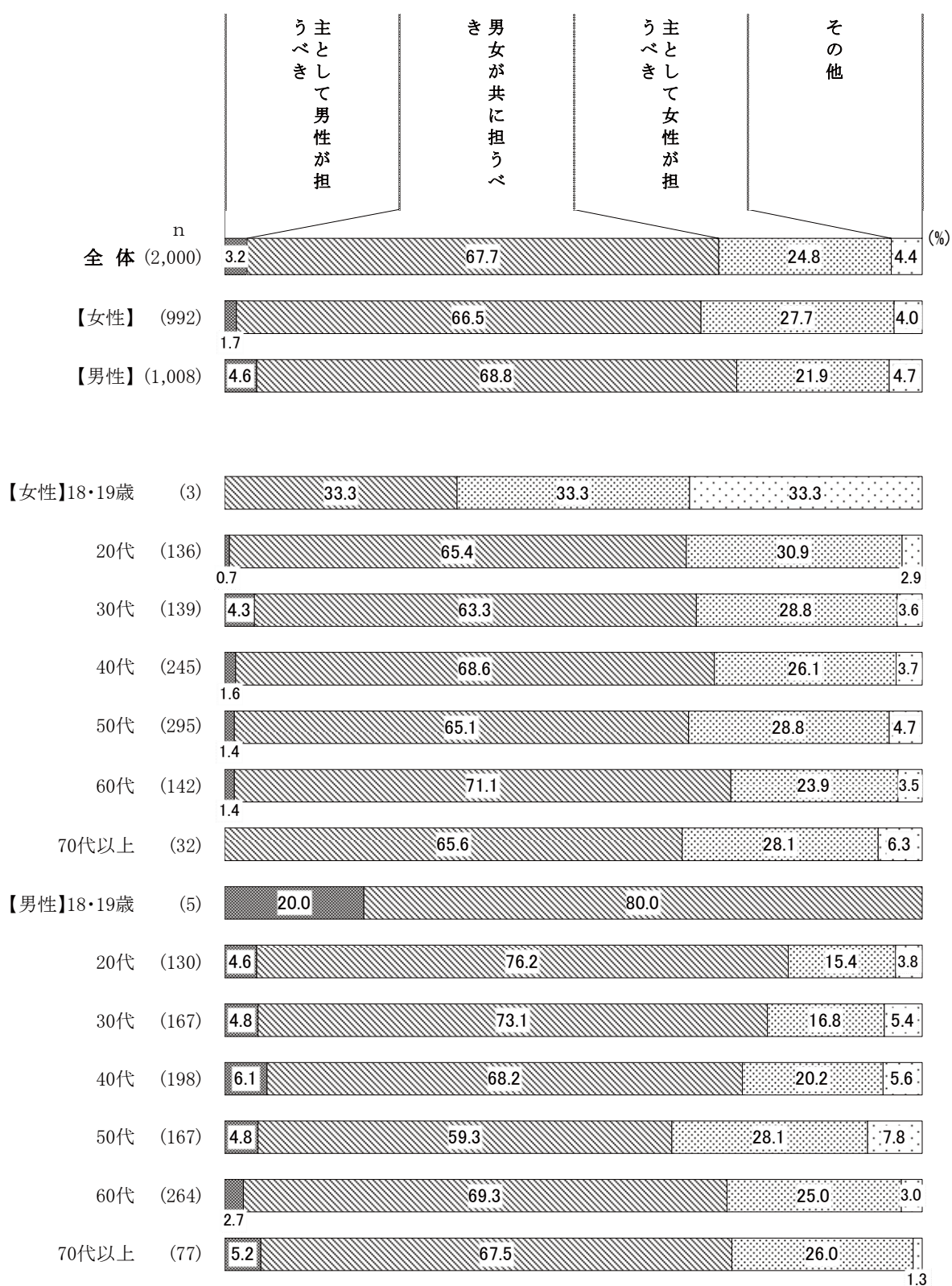
● 男女とも「男女が共に」が約7割

● 男女ともにすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高い

男女とも「男女が共に担うべき」(女性 66.5%、男性 68.8%) が最も高く、大きな差は見られない。

性・年代別で見ると、男女ともにすべての年代で「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、20代・30代・70代以上で男性が女性より高く、特に20代(女性 65.4%、男性 76.2%)で10.8ポイント男性が女性より高くなっている。また、50代(女性 65.1%、男性 59.3%)では5.8ポイント女性が男性より高くなっている。

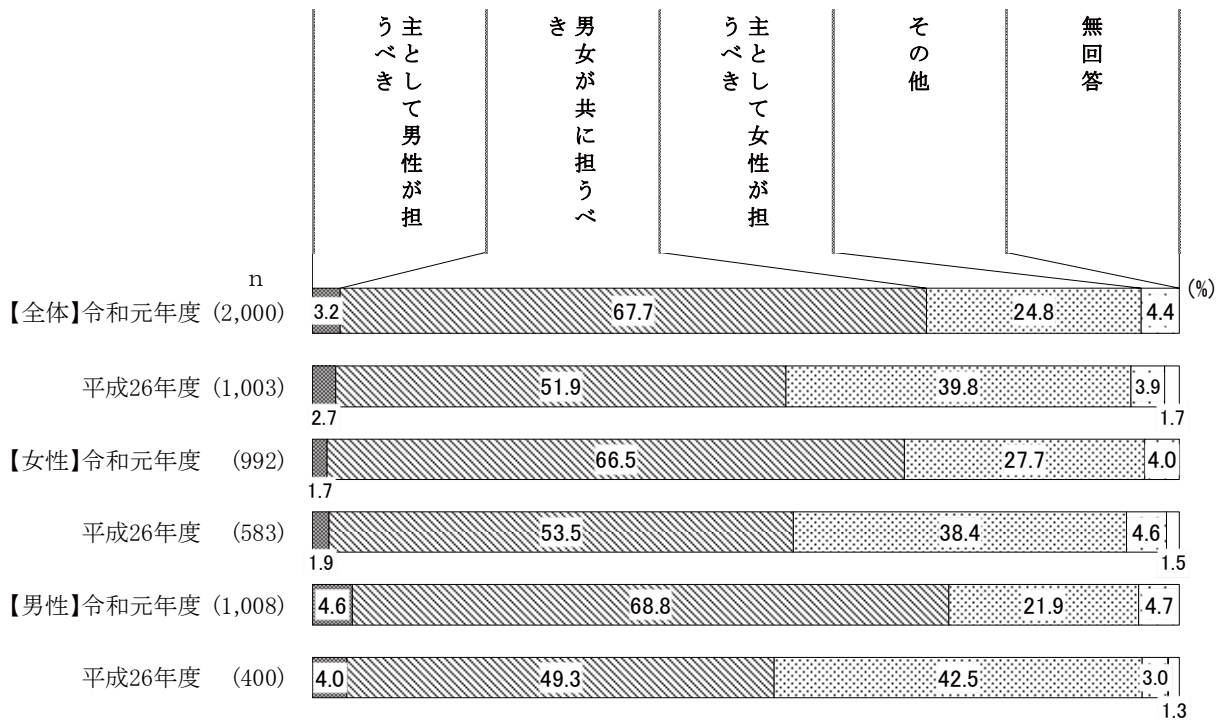
【問14 ⑥家計の管理をどう担うべきか】



◇経年変化

● 「男女が共に」は男女とも前回より高い

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は、平成26年度（全体51.9%、女性53.5%、男性49.3%）より全体は15.8ポイント、女性は13.0ポイント、男性は19.5ポイントそれぞれ高くなっている。



問14 ⑦主たる収入をどう担うべきか

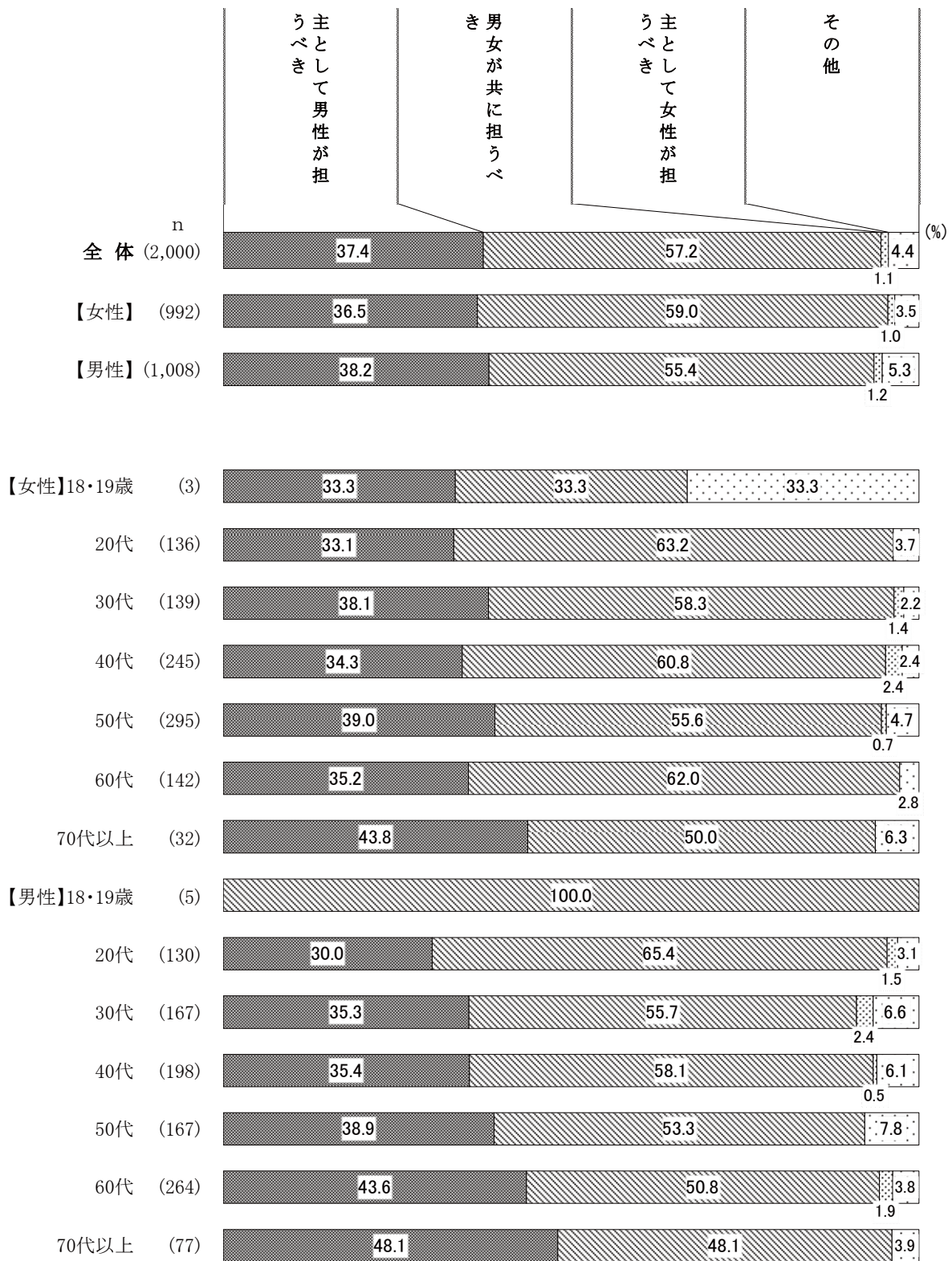
● 男女とも「男女が共に」が過半数を占める

● 「男女が共に」は男女とも20代、「主として男性」は男性70代以上が比較的高い

男女とも「男女が共に担うべき」（女性59.0%、男性55.4%）が最も高く、過半数を占めている。

性・年代別で見ると、男性70代以上を除くすべての年代で、「男女が共に担うべき」が最も高くなっており、男性70代以上では「主として男性が担うべき」と「男女が共に担うべき」が同値（48.1%）となっている。男性は若い年代ほど「男女が共に担うべき」が高くなっている。また、「男女が共に担うべき」の男女差を見ると、60代（女性62.0%、男性50.8%）が11.2ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

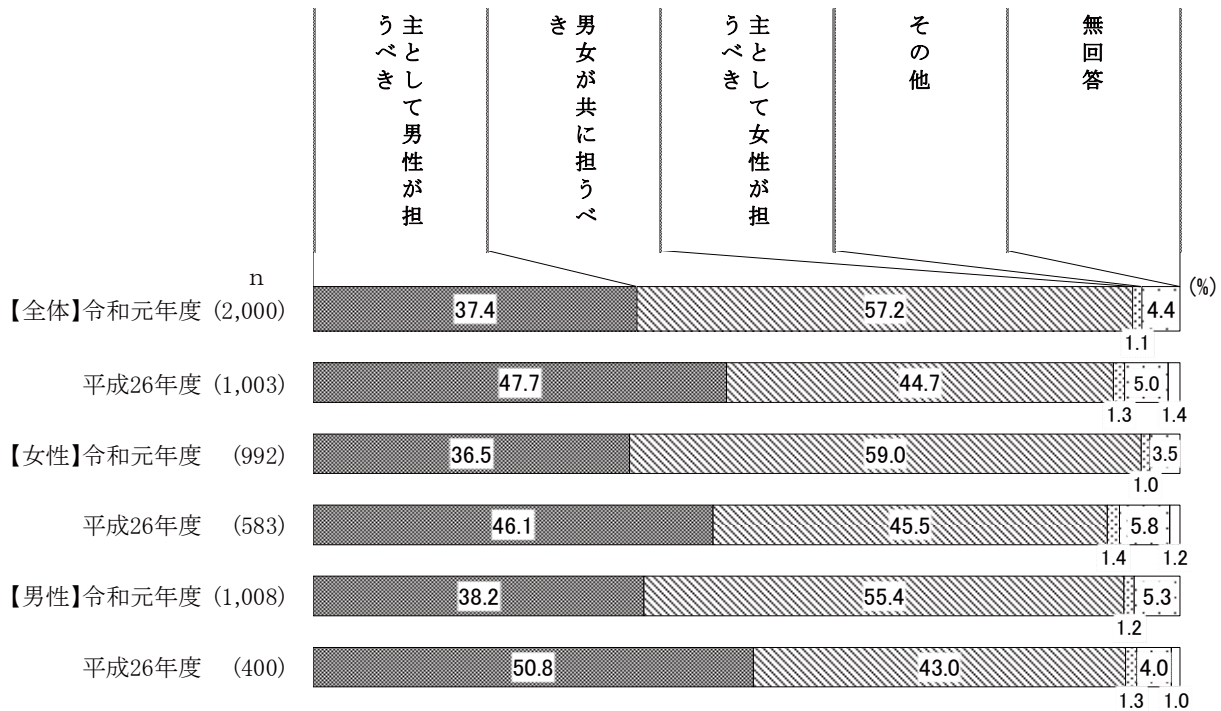
【問14 ⑦主たる収入をどう担うべきか】



◇経年変化

● 男女とも前回より「男女が共に」が高く、「主として男性」が低い

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担うべき」は、平成26年度（全体44.7%、女性45.5%、男性43.0%）より全体は12.5ポイント、女性は13.5ポイント、男性は12.4ポイントそれぞれ高くなっている。「主として男性が担うべき」は、平成26年度（全体47.7%、女性46.1%、男性50.8%）より全体は10.3ポイント、女性は9.6ポイント、男性は12.6ポイントそれぞれ低くなっている。



(5) 家庭内の役割分担の現状

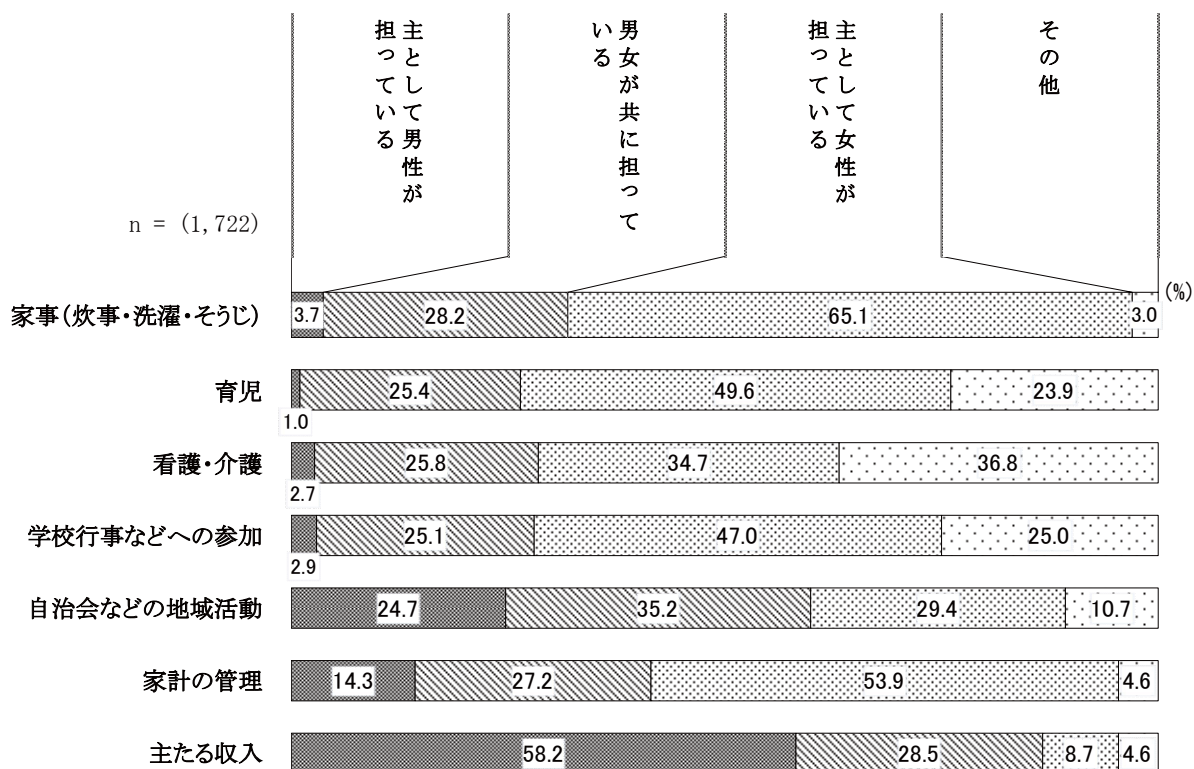
問15 現在、あなたの家庭では、家庭内の役割について、どのように担っていますか。
(それぞれ1つに○)

- 『自治会などの地域活動』、『収入』を除き「主として女性」が最も高く、『家事』では約7割
- 『自治会などの地域活動』では「男女が共に」が約4割、『収入』では「主として男性」が約6割で最も高い

全体では、『自治会などの地域活動』、『主たる収入』を除き「主として女性が担っている」が最も高く、特に『家事』(65.1%)では約7割と高くなっている。『自治会などの地域活動』では「男女が共に担っている」(35.2%)、『主たる収入』では「主として男性が担っている」(58.2%)が最も高くなっている。

また、すべての項目で「男女が共に担っている」は約3割で、『自治会などの地域活動』(35.2%)で約4割と高くなっている。

【問15】



問15 ①家事（炊事・洗濯・そうじ）をどう担っているか

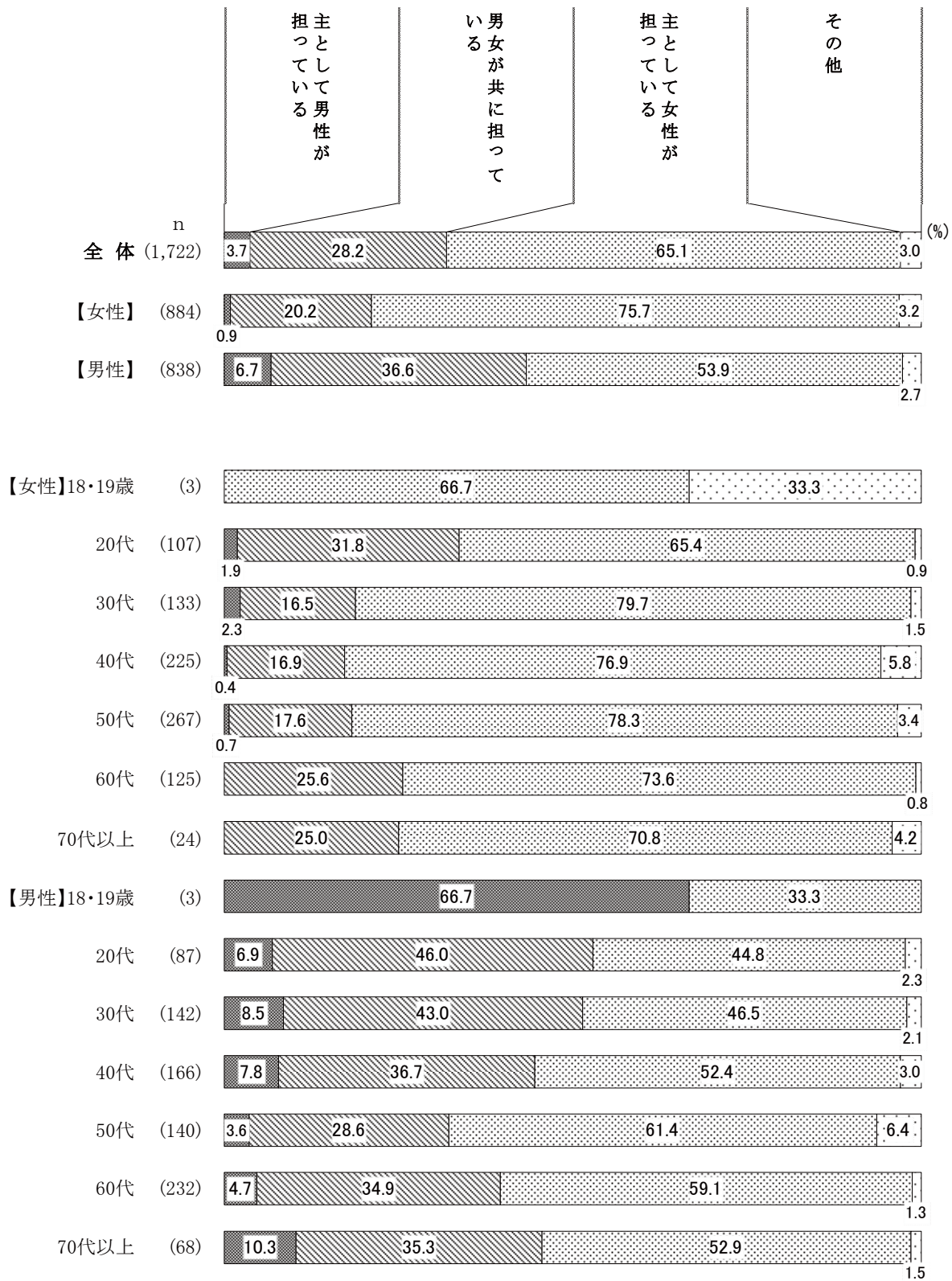
- 「主として女性」が女性約8割、男性5割以上
- 「男女が共に」は30代で男女差が特に大きい

男女とも「主として女性が担っている」（女性75.7%、男性53.9%）が最も高く、女性が男性より21.8ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男性20代を除くすべての年代で「主として女性が担っている」が最も高くなっており、男性20代は「男女が共に担っている」（46.0%）が最も高くなっている。

「男女が共に担っている」は、すべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差を見ると、30代（女性16.5%、男性43.0%）が26.5ポイントで最も大きくなっている。

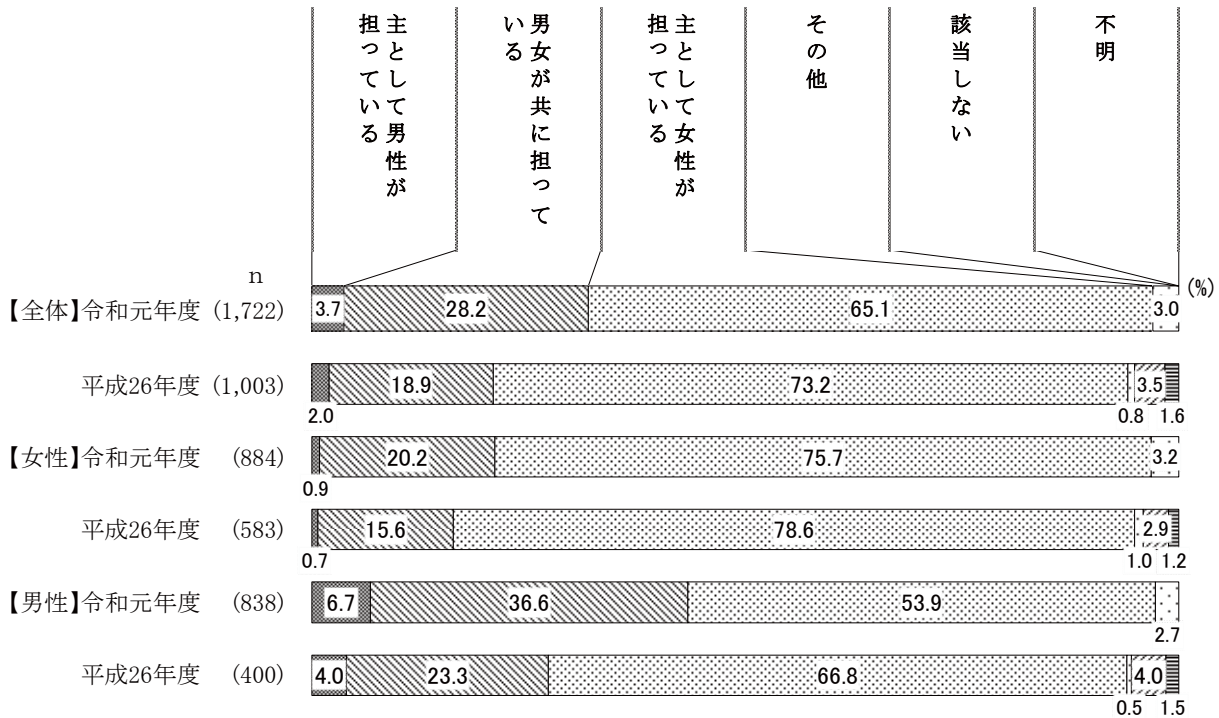
【問15 ①家事（炊事・洗濯・そうじ）をどう担っているか】



◇経年変化

● 男性で「男女が共に」が上昇

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は、女性ではあまり大きな変化は見られないが、全体、男性で平成26年度（全体18.9%、男性23.3%）より全体は9.3ポイント、男性は13.3ポイント高くなっている。一方で、「主として女性が担っている」は、全体、男性で平成26年度（全体73.2%、男性66.8%）より全体は8.1ポイント、男性は12.9ポイント低くなっている。



問15 ②育児をどう担っているか

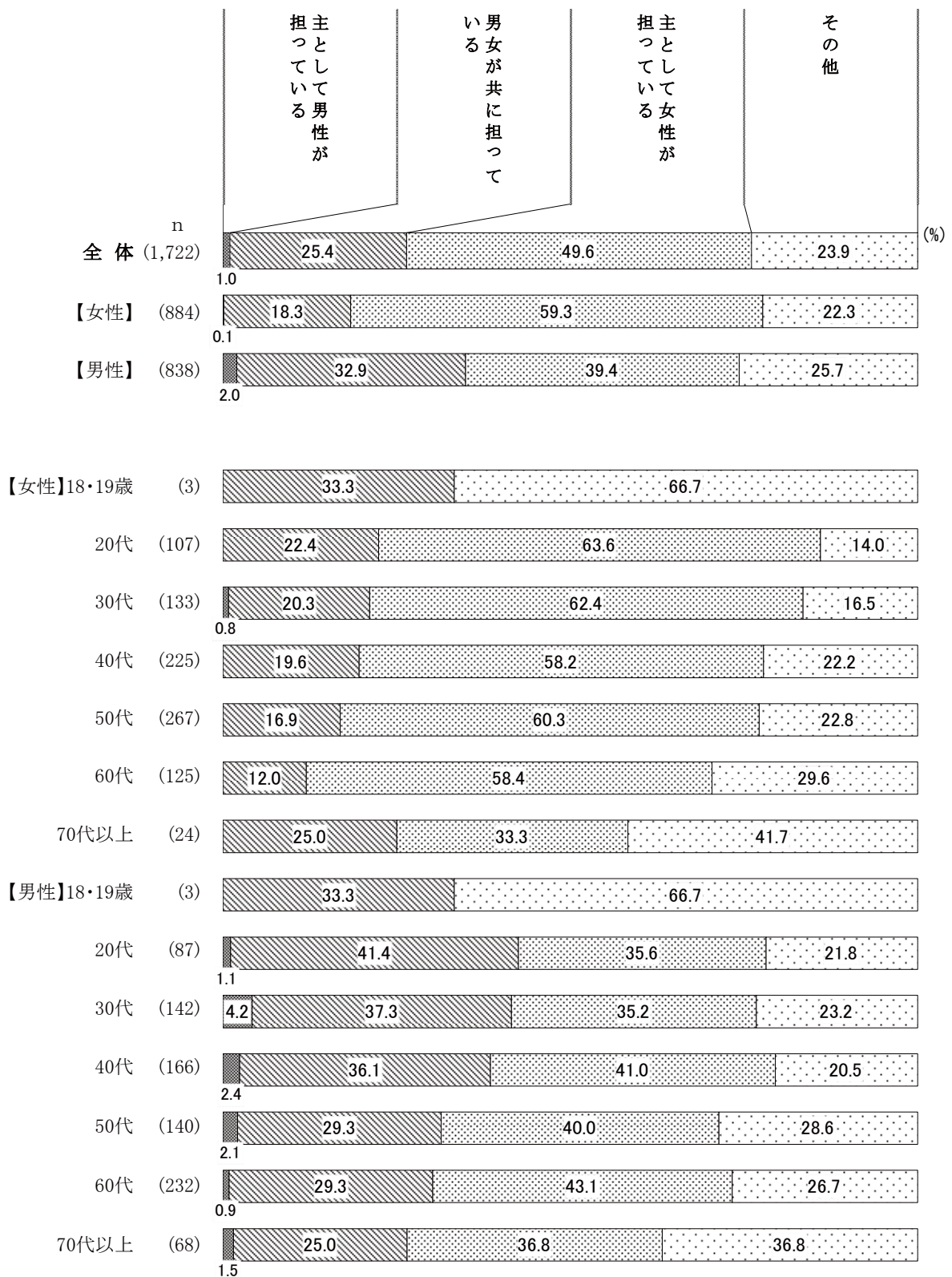
- 「主として女性」は女性約6割、男性約4割
- 「男女が共に」は20代で男女差が特に大きい

男女とも「主として女性が担っている」（女性59.3%、男性39.4%）が最も高く、女性が男性より19.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男性20代・30代を除くすべての年代で「主として女性が担っている」が最も高くなっており、男性20代・30代では「男女が共に担っている」（男性20代41.4%、男性30代37.3%）が最も高く4割前後となっている。

「男女が共に担っている」は、70代以上を除き男性が女性より高くなっており、男女差を見ると、20代（女性22.4%、男性41.4%）が19.0ポイントで最も大きくなっている。70代以上は男女で同値（25.0%）となっている。

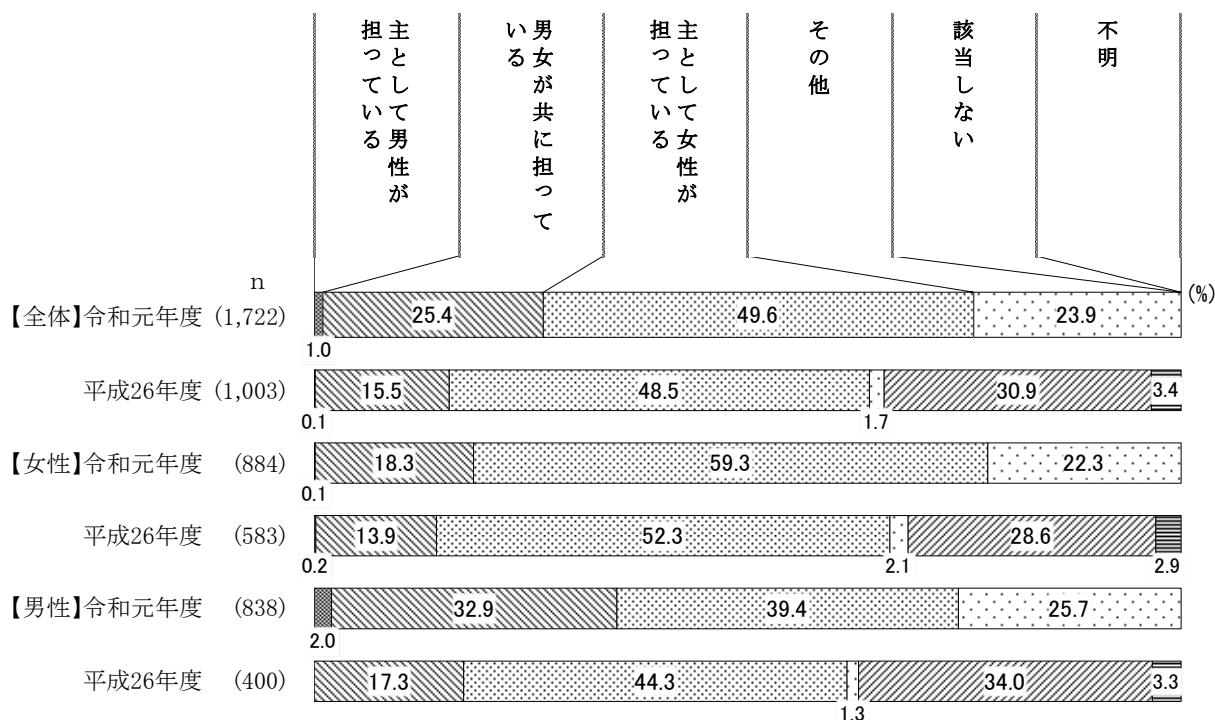
【問15 ②育児をどう担っているか】



◇経年変化

● 男性で「男女が共に」、女性で「主として女性」が上昇

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は、女性ではあまり大きな変化は見られないが、全体、男性で平成26年度（全体15.5%、男性17.3%）より全体は9.9ポイント、男性は15.6ポイント高くなっている。一方で、「主として女性が担っている」は、全体、男性ではあまり大きな変化は見られないが、女性で平成26年度（52.3%）より7.0ポイント高くなっている。



問15 ③看護・介護をどう担っているか

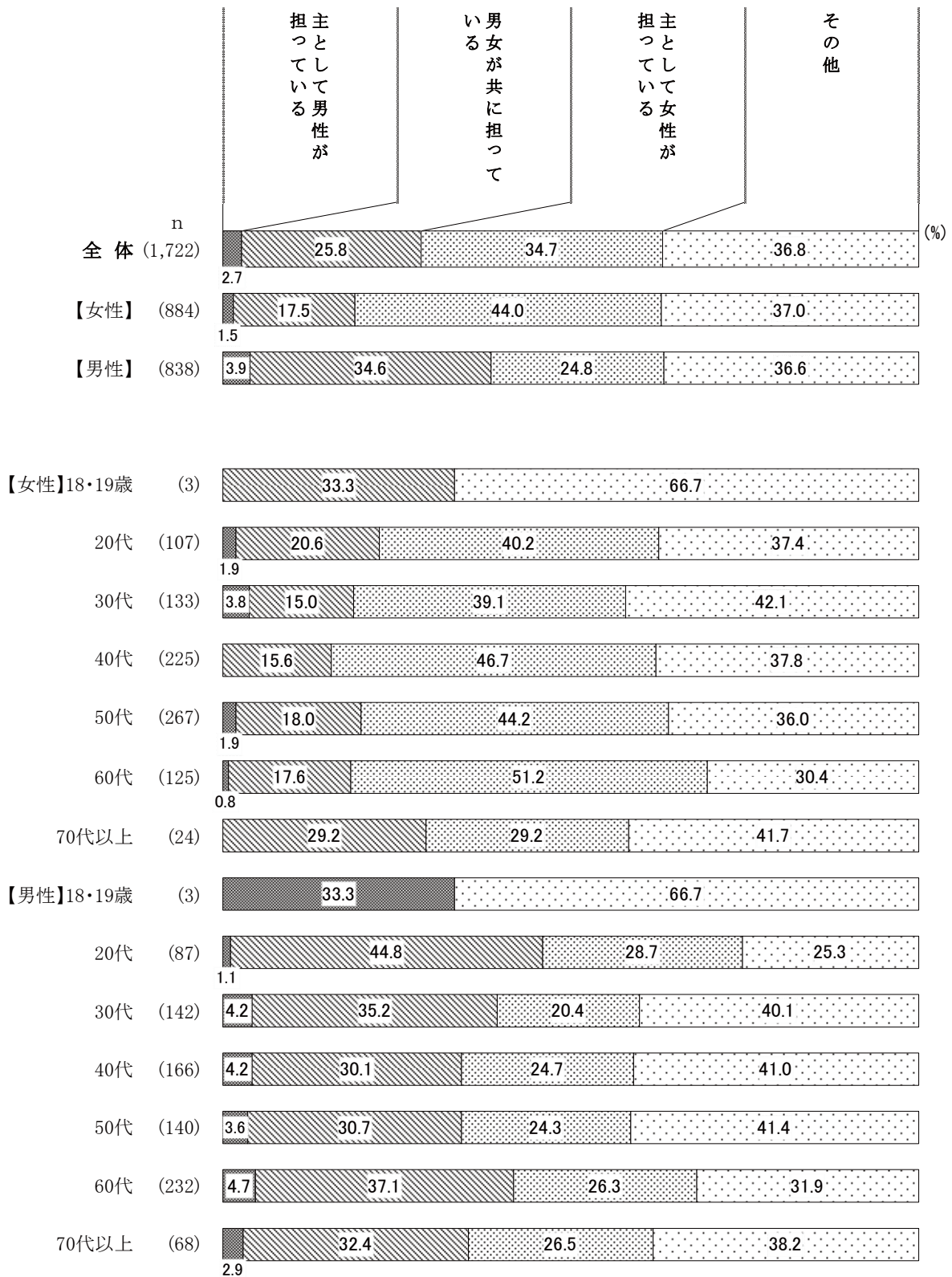
● 「主として女性」が女性4割以上、男性2割以上

● 「男女が共に」は20代で男女差が特に大きい

女性で「主として女性が担っている」（44.0%）、男性で「男女が共に担っている」（34.6%）が最も高くなっている。「男女が共に担っている」は、男性（34.6%）が女性（17.5%）より17.1ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性はずべての年代で「主として女性が担っている」、男性はずべての年代で「男女が共に担っている」が最も高くなっている。女性60代では「主として女性が担っている」（51.2%）が5割以上と特に高くなっている。「男女が共に担っている」は、すべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差を見ると、20代（女性20.6%、男性44.8%）が24.2ポイントで最も大きくなっている。

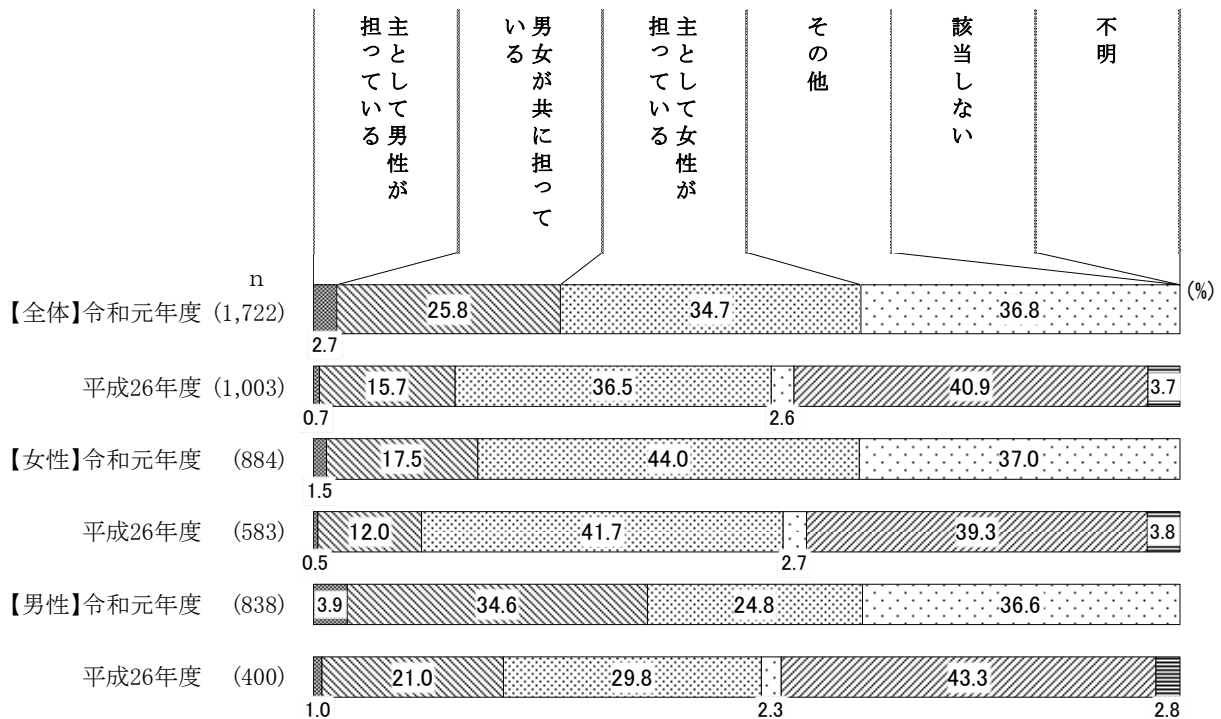
【問15 ③看護・介護をどう担っているか】



◇経年変化

● 男性で「男女が共に」が大きく上昇

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は、女性で平成26年度（12.0%）より5.5ポイントの上昇が見られ、全体、男性では平成26年度（全体15.7%、男性21.0%）より全体で10.1ポイント、男性で13.6ポイントと大幅に高くなっている。



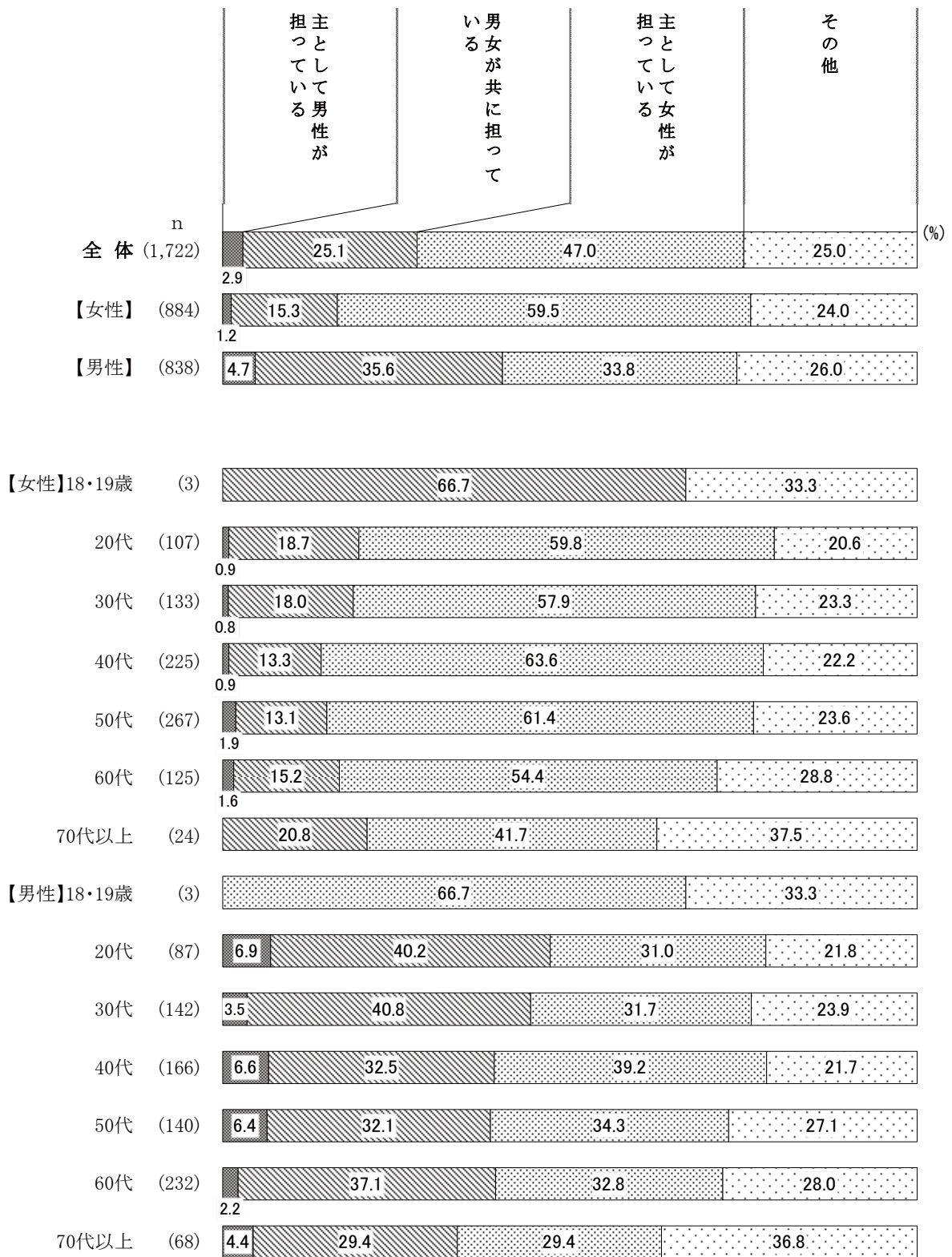
問15 ④学校行事などへの参加をどう担っているか

● 「主として女性」が女性約6割、男性3割以上

女性は「主として女性が担っている」（59.5%）、男性は「男女が共に担っている」（35.6%）が最も高くなっている。男性は「主として女性が担っている」（33.8%）も同程度に高くなっている。「男女が共に担っている」は、男性（35.6%）が女性（15.3%）より20.3ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性はすべての年代で「主として女性が担っている」が最も高く、男性は40代・50代を除くすべての年代で「男女が共に担っている」が最も高くなっており、男性70代以上は「男女が共に担っている」と「主として女性が担っている」が同値（29.4%）となっている。「男女が共に担っている」は、すべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差を見ると、30代（女性18.0%、男性40.8%）が22.8ポイントで最も大きくなっている。

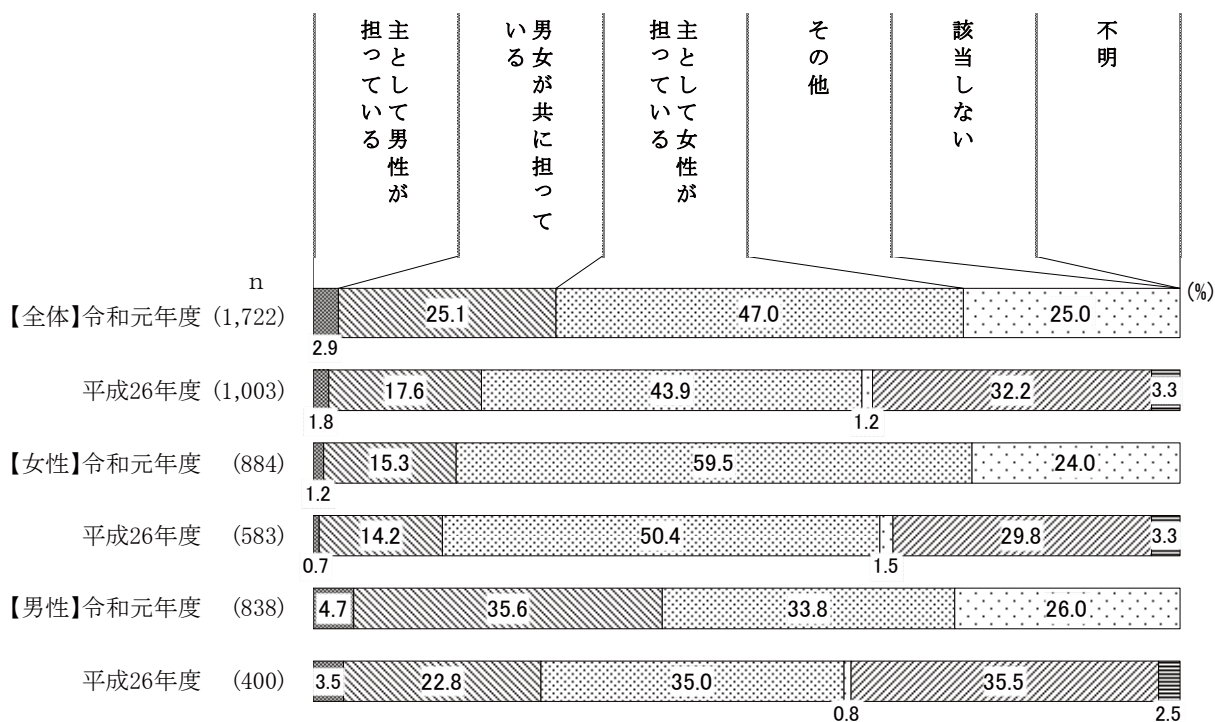
【問15 ④学校行事などへの参加をどう担っているか】



◇経年変化

● 男性で「男女が共に」が上昇

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は、女性ではあまり大きな変化は見られないが、全体、男性では平成26年度（全体17.6%、男性22.8%）より全体で7.5ポイント、男性で12.8ポイント高くなっている。



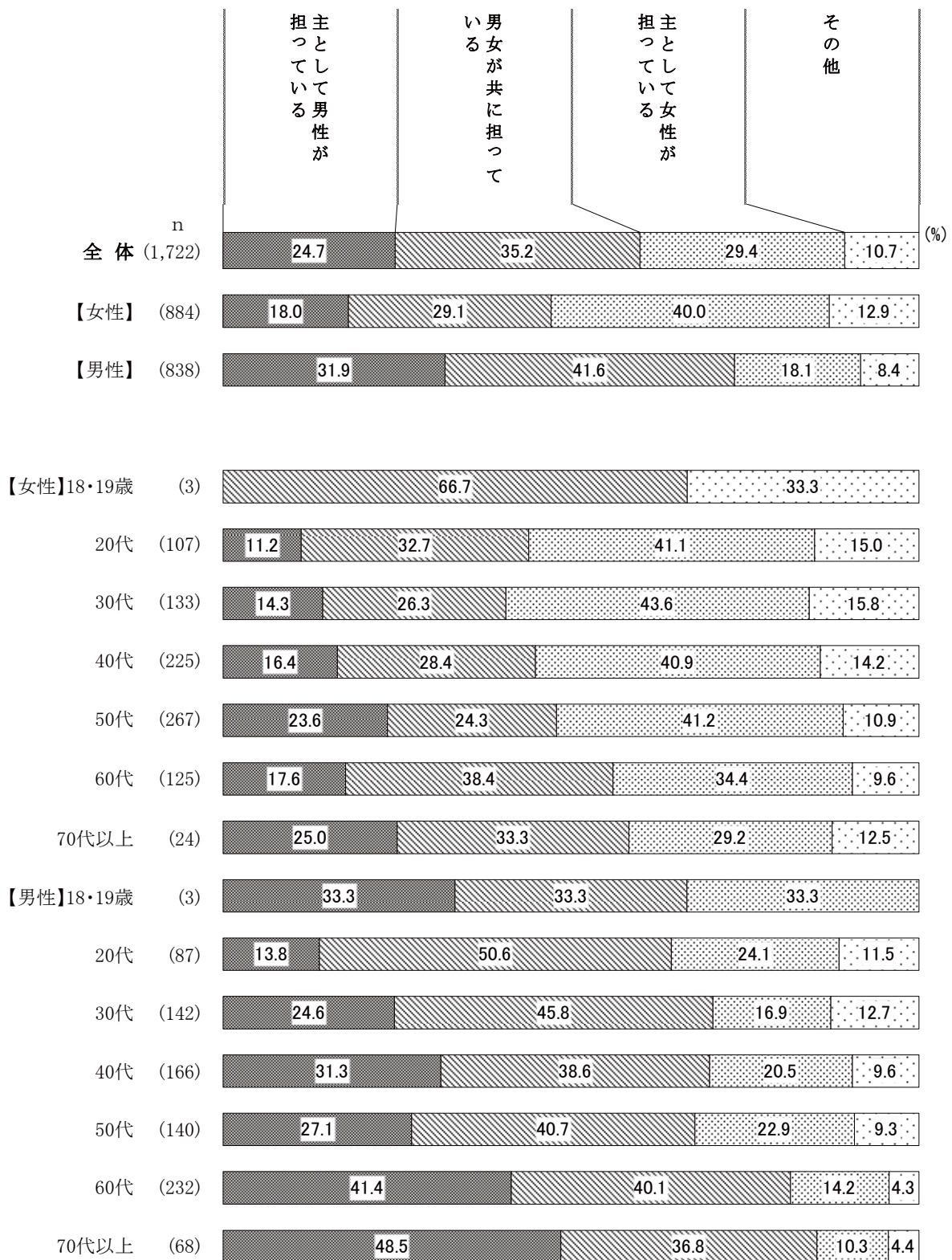
問15 ⑤自治会などの地域活動をどう担っているか

- 女性は「主として女性」が4割、男性は「男女が共に」が4割以上で最も高い
- 「男女が共に」は30代で男女差が特に大きい

女性は「主として女性が担っている」（40.0%）、男性は「男女が共に担っている」（41.6%）が最も高くなっている。「男女が共に担っている」は、男性（41.6%）が女性（29.1%）より12.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は60代を除くすべての年代で「主として女性が担っている」が最も高く、男性は60代・70代以上を除くすべての年代で「男女が共に担っている」が最も高くなっており、男性70代以上は「主として男性が担っている」（48.5%）が約5割となっている。「男女が共に担っている」はすべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差を見ると、30代（女性26.3%、男性45.8%）が19.5ポイントで最も大きくなっている。

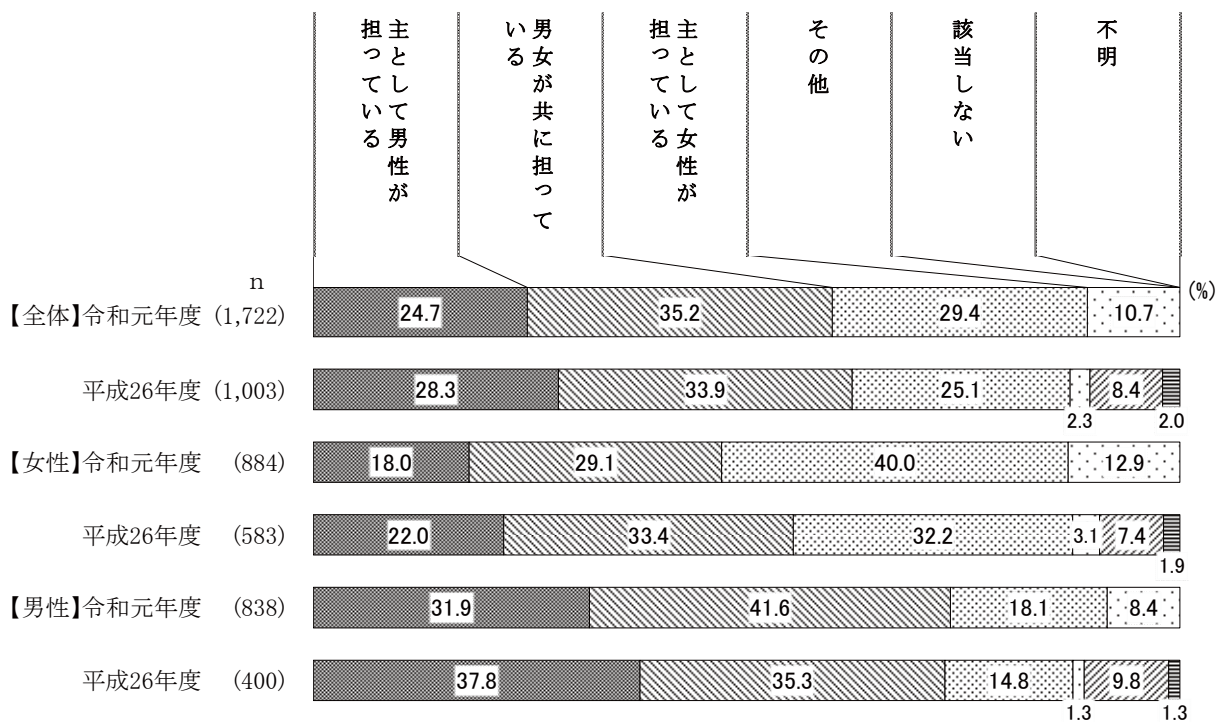
【問15 ⑤自治会などの地域活動をどう担っているか】



◇経年変化

● 男性で「男女が共に」、女性で「主として女性」が上昇

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は全体、女性ではあまり大きな変化は見られないが、男性で平成26年度（35.3%）より6.3ポイント高くなっている。「主として女性が担っている」は、全体、男性ではあまり大きな変化は見られないが、女性で平成26年度（32.2%）より7.8ポイント高くなっている。



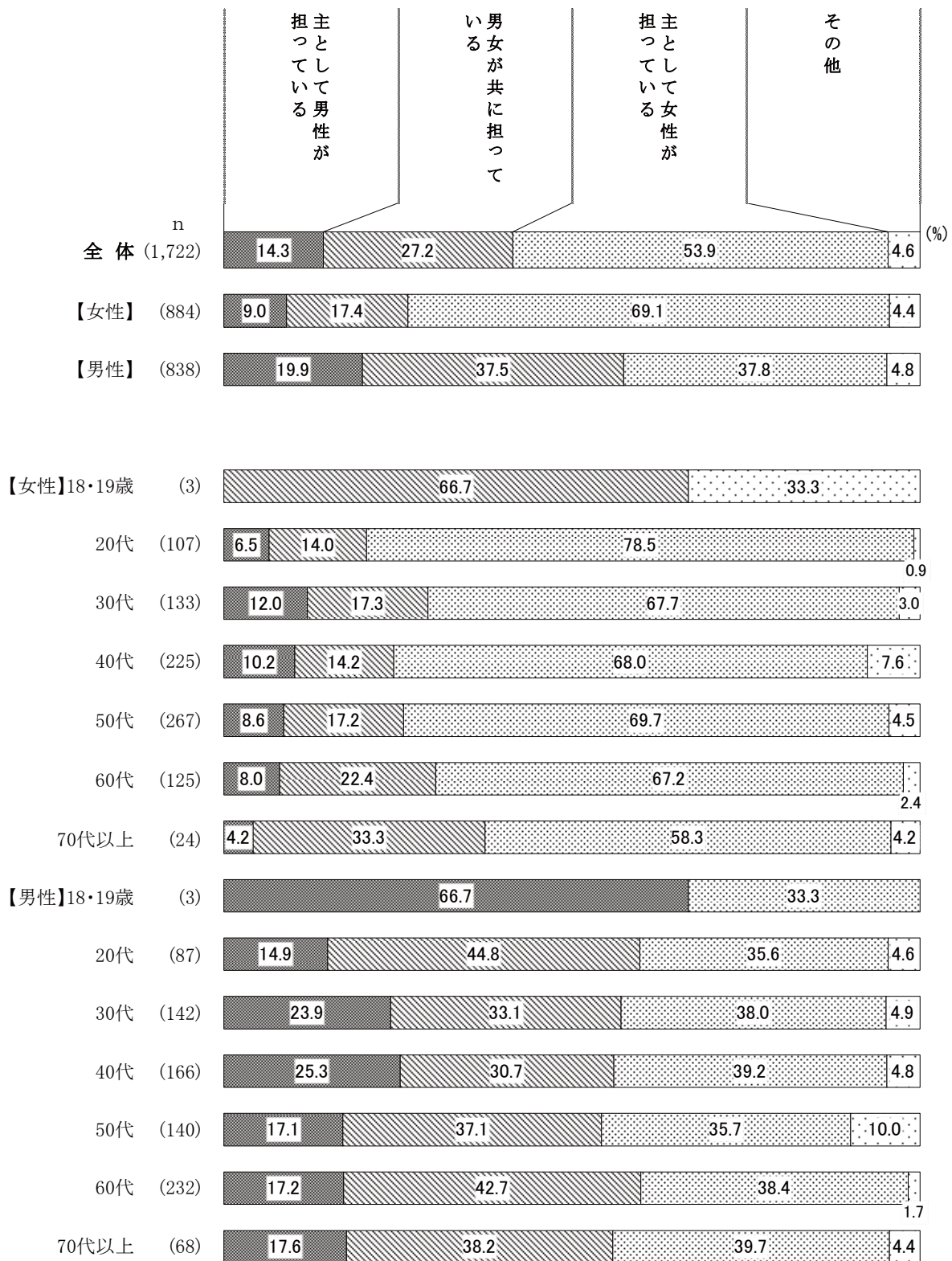
問15 ⑥家計の管理をどう担っているか

- 「主として女性」が女性約7割、男性約4割
- 「男女が共に」は20代で男女差が特に大きい

男女とも「主として女性が担っている」（女性69.1%、男性37.8%）が最も高く、女性が男性より31.3ポイント高くなっている。男性は「男女が共に担っている」（37.5%）も同程度となっている。

性・年代別で見ると、女性はすべての年代で「主として女性が担っている」が最も高くなっているが、男性は50代以上で「男女が共に担っている」と「主として女性が担っている」が僅差となっている。「男女が共に担っている」はすべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差を見ると、20代（女性14.0%、男性44.8%）が30.8ポイントで最も大きくなっている。

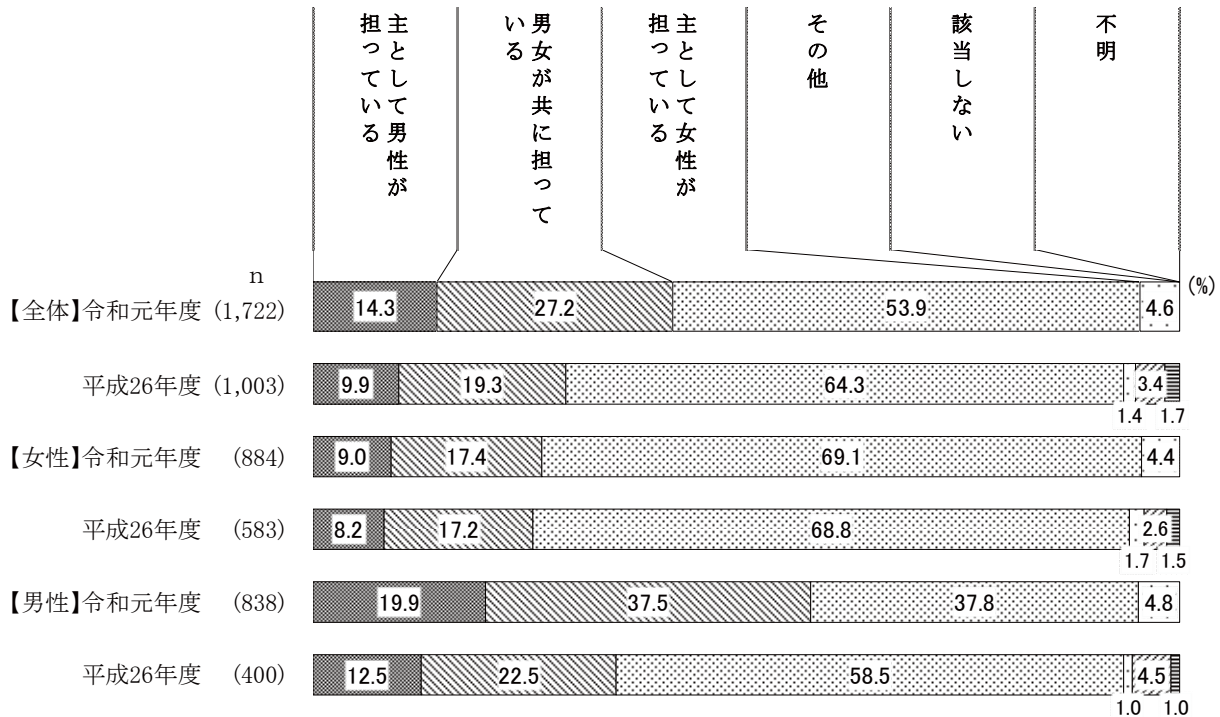
【問15 ⑥家計の管理をどう担っているか】



◇経年変化

● 男性で「男女が共に」が上昇、「主として女性」が低下

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は、女性でほとんど変化は見られないが、全体、男性で平成26年度（全体19.3%、男性22.5%）より全体は7.9ポイント、男性は15.0ポイント高くなっている。また、「主として女性が担っている」は、全体、男性で平成26年度（全体64.3%、男性58.5%）より全体は10.4ポイント、男性は20.7ポイント低くなっている。



問15 ⑦主たる収入をどう担っているか

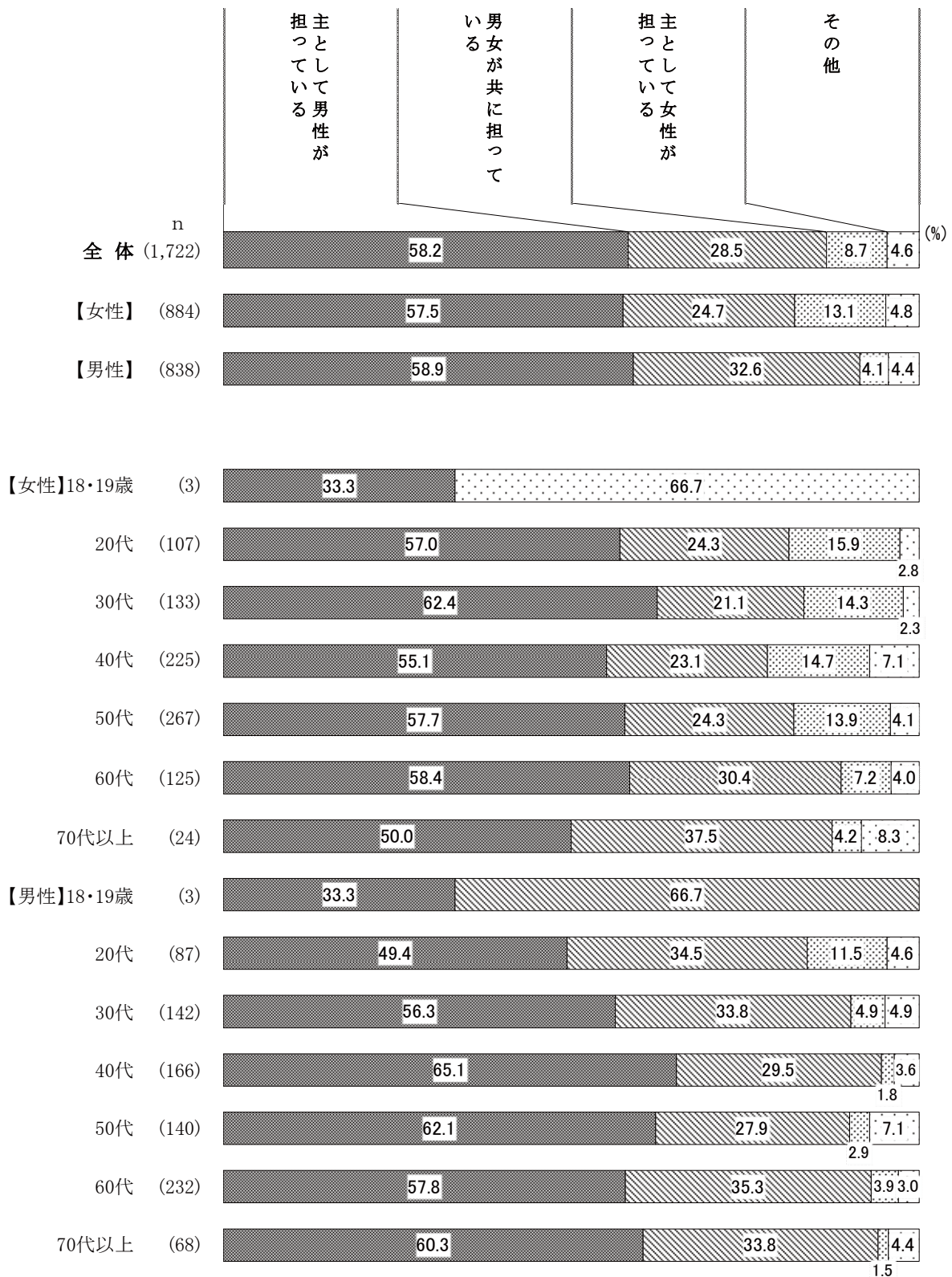
● 「主として男性」が男女ともに約6割

● 「男女が共に」は70代以上を除きすべての年代で男性が女性より高い

男女とも「主として男性が担っている」（女性57.5%、男性58.9%）が最も高く、大きな差は見られない。「男女が共に担っている」（女性24.7%、男性32.6%）は男性が女性より7.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「主として男性が担っている」が最も高く、女性は30代（62.4%）、男性は40代（65.1%）で最も高くなっている。「男女が共に担っている」は70代以上を除き男性が女性より高くなっており、男女差を見ると、30代（女性21.1%、男性33.8%）が12.7ポイントで最も大きくなっている。

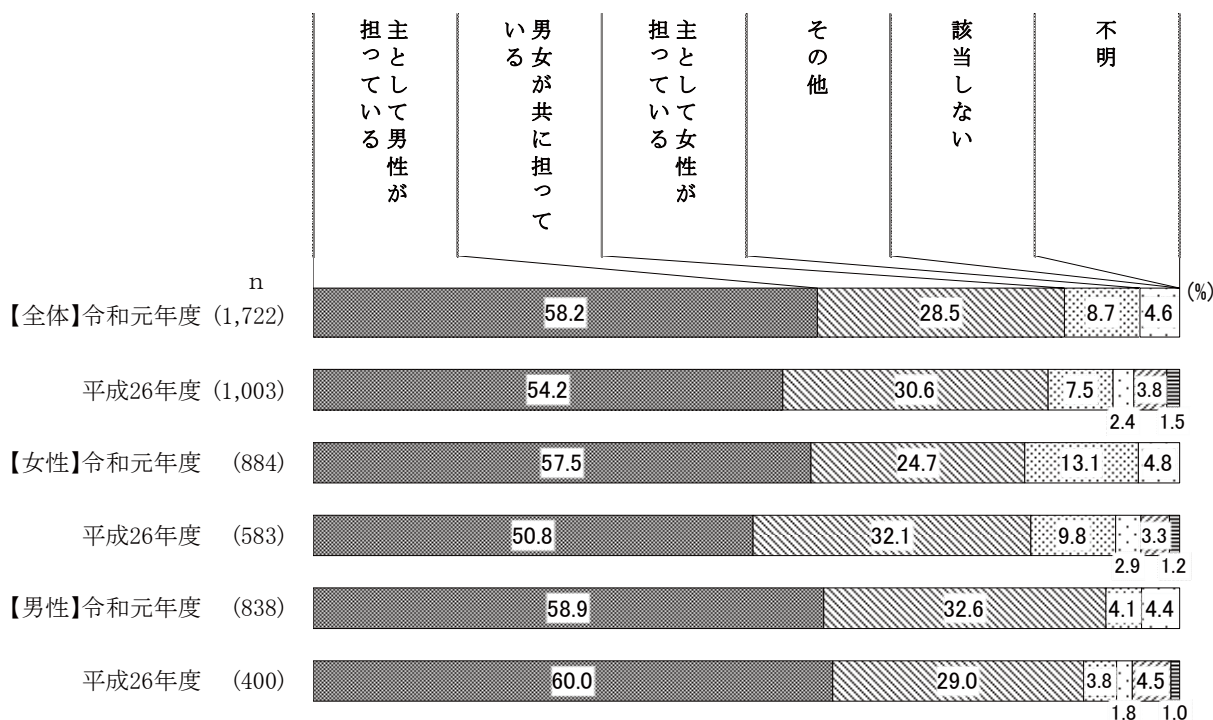
【問15 ⑦主たる収入をどう担っているか】



◇経年比較

● 女性で「男女が共に」が低下、「主として男性」が上昇

経年変化を性別で見ると、「男女が共に担っている」は全体、男性であまり大きな変化は見られないが、女性で平成26年度（32.1%）より7.4ポイント低くなっている。また、「主として男性が担っている」は女性で平成26年度（50.8%）より6.7ポイント高くなっている。



(6) 男性の育児休業取得への意識

問16-1 あなたは、男性の育児休業取得についてどう思いますか。(1つに○)

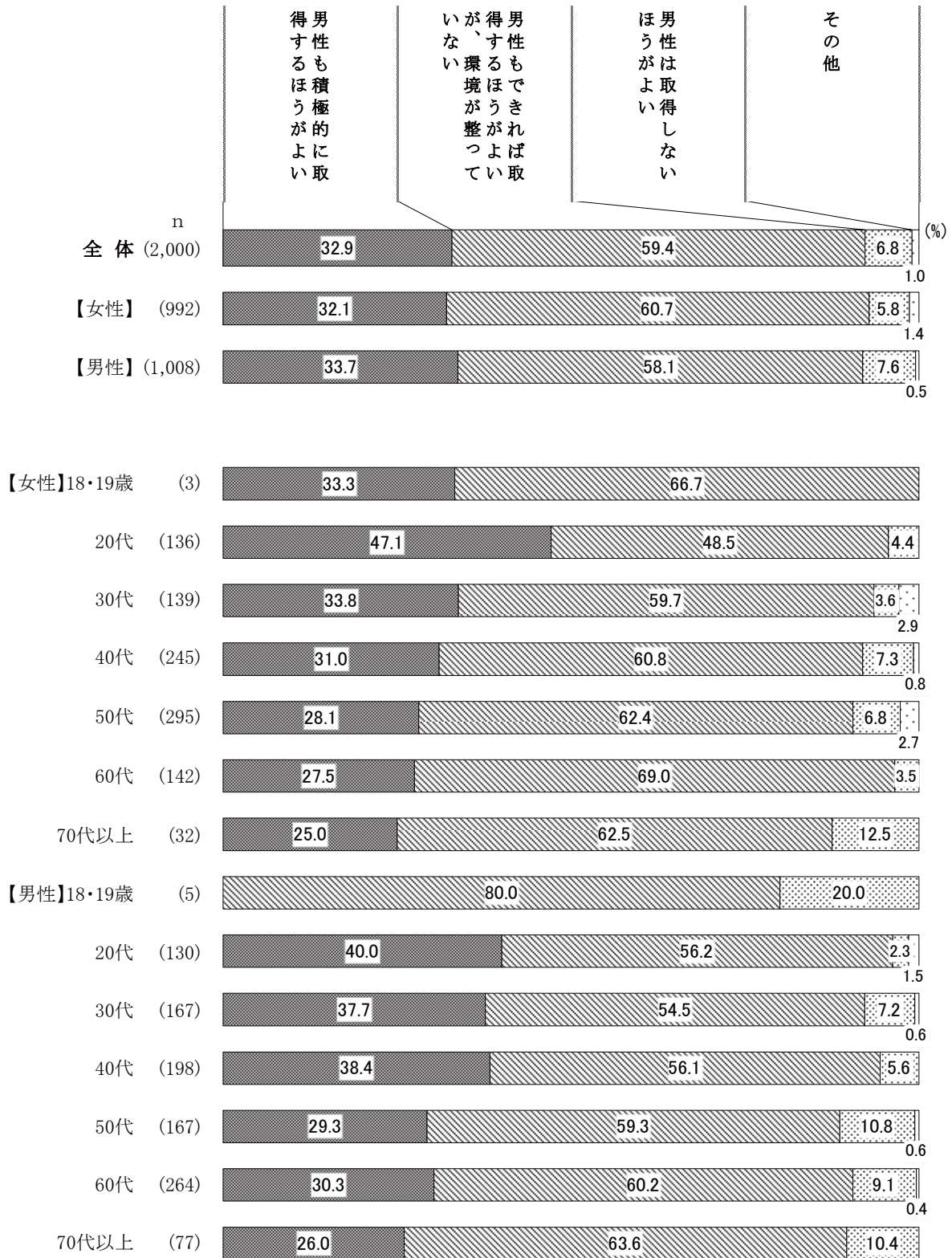
- 男女とも「環境が整っていない」が約6割、「積極的に取得」が3割以上
- 「積極的に取得」は若い年代ほど高い傾向

全体、男女とも「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」（全体59.4%、女性60.7%、男性58.1%）が約6割で最も高く、次いで「男性も積極的に取得するほうがよい」（全体32.9%、女性32.1%、男性33.7%）が3割以上となっている。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」が最も高くなっている。「男性も積極的に取得するほうがよい」は、若い年代ほど高くなっており、20代（女性47.1%、男性40.0%）で4割以上と特に高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

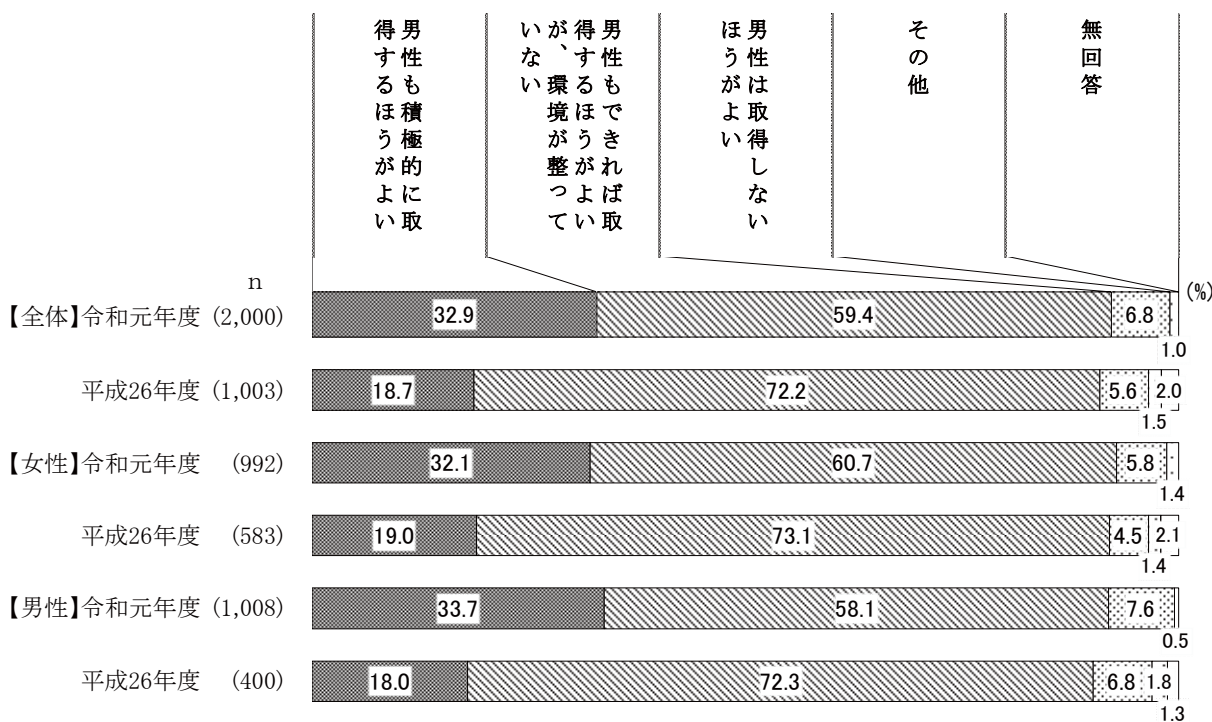
【問16-1】



◇経年変化

● 「積極的に取得」は男女とも前回より高い

経年変化を性別で見ると、「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」は、平成26年度（全体72.2%、女性73.1%、男性72.3%）より全体は12.8ポイント、女性は12.4ポイント、男性は14.2ポイントそれぞれ低くなっている。一方、「男性も積極的に取得するほうがよい」は、平成26年度（全体18.7%、女性19.0%、男性18.0%）より全体は14.2ポイント、女性は13.1ポイント、男性は15.7ポイントそれぞれ高くなっている。



(7) 男性が育児休業を取得しない理由

問16-2 あなたは、男性が育児休業を取得しない（できない）理由は何だと思いますか。（2つまで選択可）

- 「職場に取りやすい雰囲気がない」が女性6割以上、男性約6割で最も高い
- 男女とも「取ると仕事上周围の人に迷惑がかかる」が3割台
- 女性は職場の雰囲気や慣習が高いが、男性は仕事の忙しさが高い

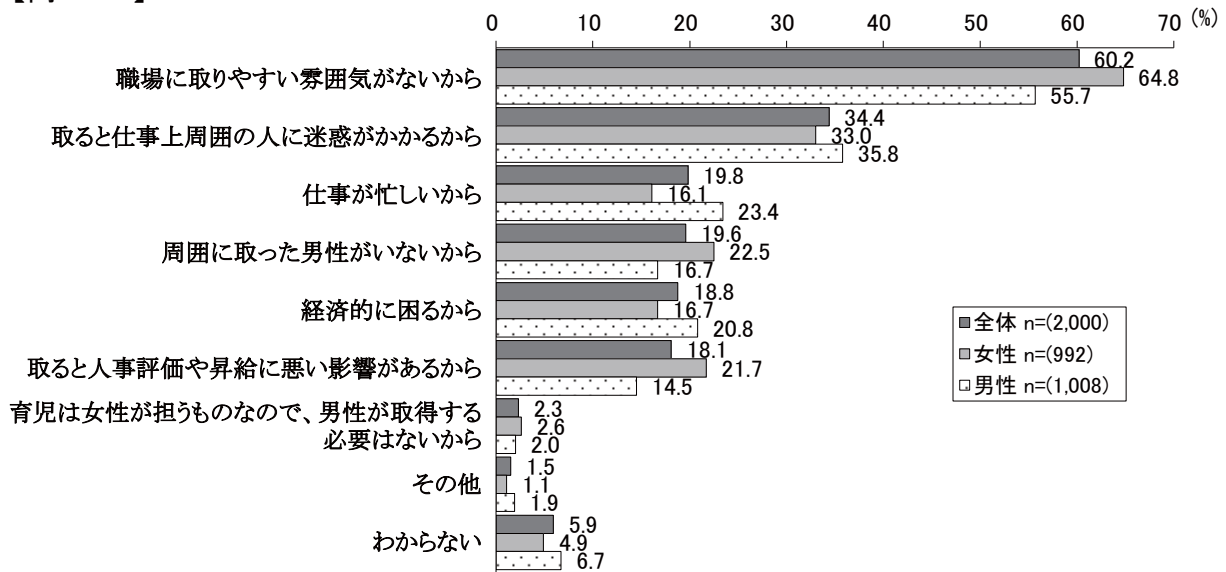
全体では「職場に取りやすい雰囲気がないから」（60.2%）が6割以上と特に高く、次いで「取ると仕事上周围の人に迷惑がかかるから」（34.4%）が3割以上となっている。上位2項目以外は2割未満となっている。

性別で見ると、男女ともに「職場に取りやすい雰囲気がないから」（女性64.8%、男性55.7%）が女性で6割以上、男性で約6割と特に高く、次いで「取ると仕事上周围の人に迷惑がかかるから」（女性33.0%、男性35.8%）が男女とも3割台となっている。

「職場に取りやすい雰囲気がないから」は女性が男性より9.1ポイント、「取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから」は女性（21.7%）が男性（14.5%）より7.2ポイント高くなっている。一方、「仕事が忙しいから」は男性（23.4%）が女性（16.1%）より7.3ポイント高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

【問16-2】



◇性・年代別

● すべての年代で「職場に取りやすい雰囲気がない」が最も高い

性・年代別で見ると、男女ともにすべての年代で「職場に取りやすい雰囲気がないから」が最も高くなっている。次いで女性 20 代を除き「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」が高く、男性 20 代では「仕事が忙しいから」と同値 (27.7%) となっている。女性 20 代では「周囲に取った男性がいないから」(32.4%) が次いで高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	136	139	245	295	142	32
職場に取りやすい雰囲気がないから	33.3	72.8	64.0	61.6	62.7	70.4	56.3
取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから	-	24.3	31.7	30.6	34.2	43.0	40.6
仕事が忙しいから	33.3	14.7	18.0	18.4	18.6	7.0	12.5
周囲に取った男性がいないから	33.3	32.4	28.8	19.6	23.1	14.1	6.3
経済的に困るから	-	14.7	20.1	22.0	13.9	13.4	12.5
取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから	-	23.5	19.4	20.0	18.3	31.7	25.0
育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないから	-	1.5	2.9	2.0	4.1	0.7	6.3
その他	-	0.7	1.4	0.8	1.4	1.4	-
わからない	33.3	2.9	2.9	7.3	5.1	3.5	6.3

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で 2 番目に値が高い項目 (単位: %)

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	167	198	167	264	77
職場に取りやすい雰囲気がないから	40.0	55.4	57.5	54.5	49.7	58.7	58.4
取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから	20.0	27.7	29.9	35.9	39.5	39.0	44.2
仕事が忙しいから	-	27.7	28.1	22.2	28.1	17.8	19.5
周囲に取った男性がいないから	20.0	20.8	16.8	17.7	18.6	14.0	11.7
経済的に困るから	40.0	18.5	25.7	24.7	19.2	17.8	16.9
取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから	40.0	15.4	13.2	12.1	8.4	18.2	20.8
育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないから	20.0	2.3	0.6	-	3.0	2.7	3.9
その他	-	0.8	4.8	1.5	1.2	1.1	2.6
わからない	-	7.7	3.6	7.6	6.6	7.6	7.8

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で 2 番目に値が高い項目 (単位: %)

(8) 男性の介護休業取得への意識

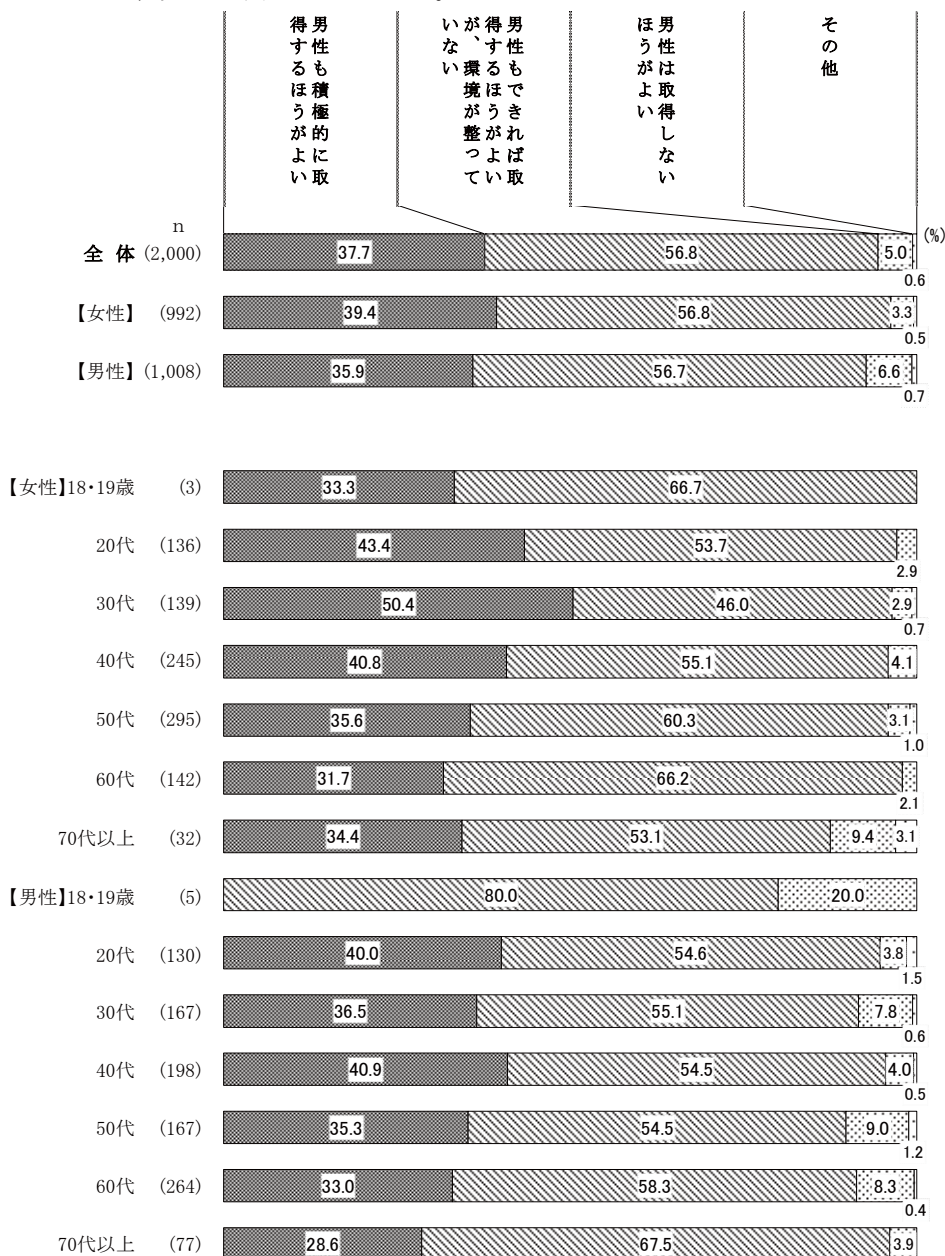
問16-3 あなたは、男性の介護休業取得についてどう思いますか。(1つに○)

- 男女とも「環境が整っていない」が約6割、「積極的に取得」が約4割
- 「積極的に取得」は女性30代で5割以上、男性20代・40代で4割以上

全体、男女とも「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」(全体 56.8%、女性 56.8%、男性 56.7%)が約6割で特に高く、次いで「男性も積極的に取得するほうがよい」(全体 37.7%、女性 39.4%、男性 35.9%)が約4割となっている。

性・年代別で見ると、女性30代を除くすべての年代で「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」が最も高くなっている。

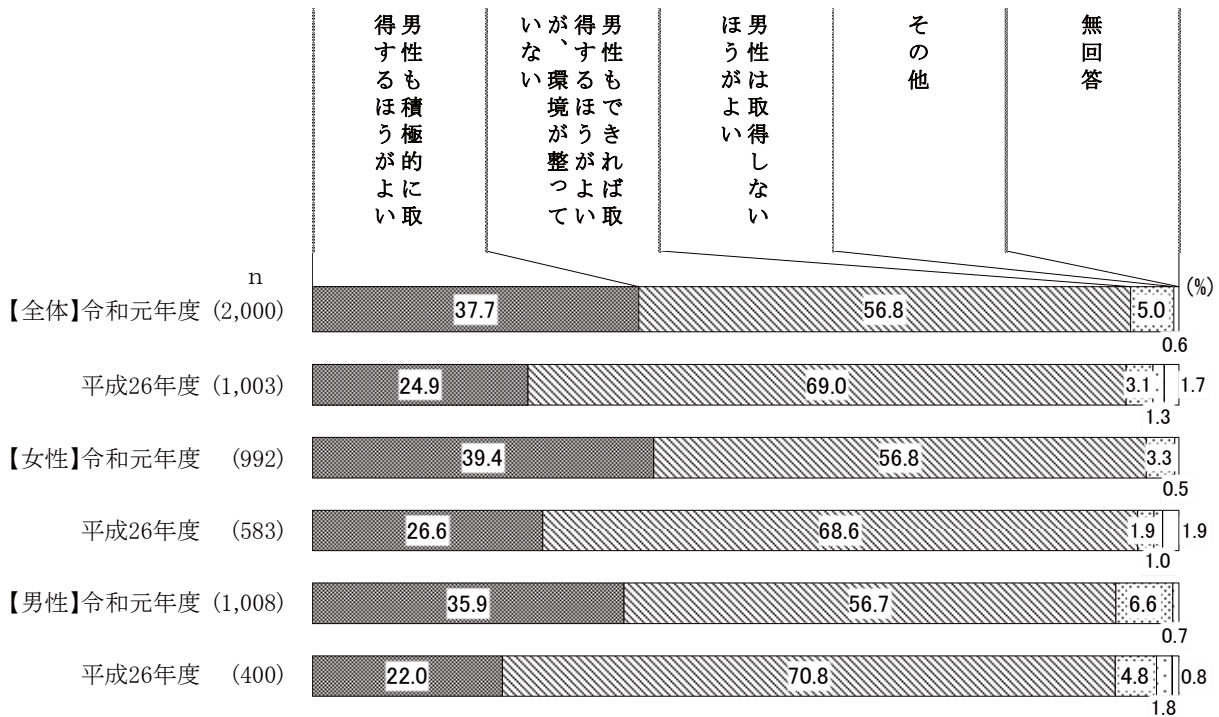
「男性も積極的に取得するほうがよい」は、女性は30代(50.4%)で最も高く、過半数を占めている。男性は20代(40.0%)と40代(40.9%)で4割以上と比較的高くなっている。男女差は30代(女性50.4%、男性36.5%)が13.9ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。



◇経年変化

● 男女とも「積極的に取得」が前回より高く、「環境が整っていない」が前回より低い

経年変化を性別で見ると、「男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない」は、平成26年度（全体69.0%、女性68.6%、男性70.8%）より全体は12.2ポイント、女性は11.8ポイント、男性は14.1ポイントそれぞれ低くなっている。一方、「男性も積極的に取得するほうがよい」は、平成26年度（全体24.9%、女性26.6%、男性22.0%）より全体は12.8ポイント、女性は12.8ポイント、男性は13.9ポイントそれぞれ高くなっている。



(9) 男性が介護休業を取得しない理由

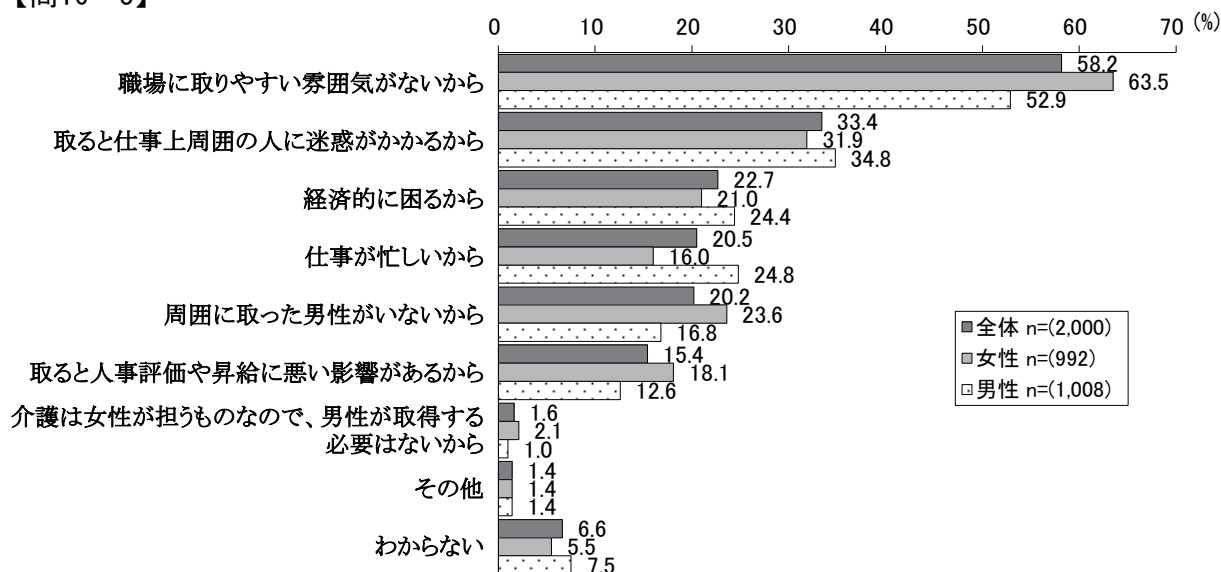
問16-4 あなたは、男性が介護休業を取得しない（できない）理由は何だと思いませんか。（2つまで選択可）

- 「職場に取りやすい雰囲気がない」が女性6割以上、男性5割以上
- 女性は職場の雰囲気や慣習を、男性は仕事の忙しさを理由に挙げている

全体、男女とも「職場に取りやすい雰囲気がないから」（全体58.2%、女性63.5%、男性52.9%）が女性で6割以上、男性で5割以上と特に高く、次いで「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」（全体33.4%、女性31.9%、男性34.8%）が3割以上となっている。

「職場に取りやすい雰囲気がないから」は女性が男性より10.6ポイント、「周囲に取った男性がいないから」は女性（23.6%）が男性（16.8%）より6.8ポイント高くなっている。一方、「仕事が忙しいから」は男性（24.8%）が女性（16.0%）より8.8ポイント高くなっている。

【問16-3】



◇性・年代別

● 女性若年層で「周囲に取った男性がいない」、男性30代で「仕事が忙しい」が高い

性・年代別で見ると、すべての年代で「職場に取りやすい雰囲気がないから」が最も高くなっており、特に女性60代（72.5%）で7割以上となっている。女性20代・30代で「周囲に取った男性がいないから」が次いで高くなっており、女性20代（35.3%）では約4割となっている。また、男性30代（29.3%）では「仕事が忙しいから」が次いで高く、約3割となっている。その他の年代では、「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」が次いで高く、特に女性60代（45.8%）で約5割となっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	136	139	245	295	142	32
職場に取りやすい雰囲気がないから	33.3	68.4	62.6	58.4	63.1	72.5	53.1
取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから	-	24.3	27.3	27.8	33.9	45.8	37.5
経済的に困るから	-	15.4	23.7	24.5	20.3	18.3	25.0
仕事が忙しいから	33.3	20.6	18.7	15.5	17.3	7.7	12.5
周囲に取った男性がいないから	33.3	35.3	29.5	23.7	20.3	16.2	9.4
取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから	-	19.1	16.5	18.4	15.9	23.9	15.6
介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないから	-	0.7	0.7	2.4	4.1	-	3.1
その他	-	-	0.7	1.6	1.4	2.1	6.3
わからない	33.3	2.2	5.8	8.6	5.4	2.8	6.3

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	167	198	167	264	77
職場に取りやすい雰囲気がないから	60.0	50.0	52.7	50.0	49.7	58.0	54.5
取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから	20.0	28.5	25.1	31.8	43.1	37.9	46.8
経済的に困るから	40.0	22.3	28.7	26.3	22.2	23.1	22.1
仕事が忙しいから	20.0	25.4	29.3	23.2	25.7	22.3	24.7
周囲に取った男性がいないから	-	23.8	21.0	19.7	16.2	11.4	9.1
取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから	-	16.9	12.6	9.6	7.8	15.2	15.6
介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないから	20.0	-	1.2	-	0.6	1.9	1.3
その他	-	0.8	1.8	1.5	1.2	1.1	2.6
わからない	-	7.7	6.0	9.1	7.8	7.2	7.8

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

4. 男性の参画について

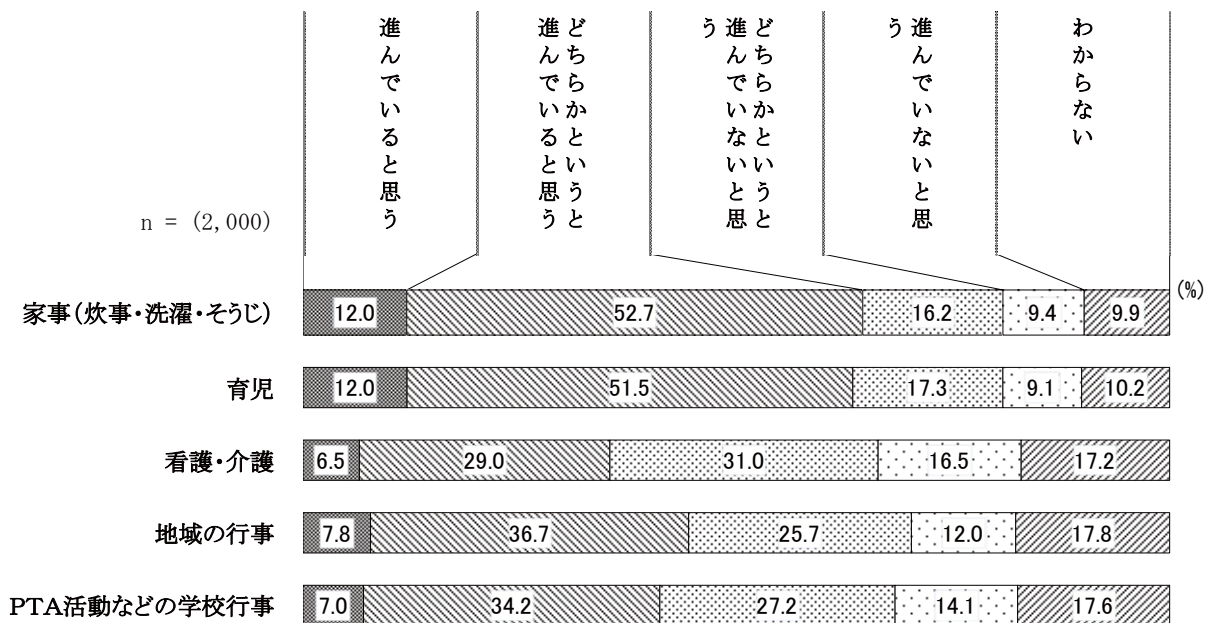
(1) 男性の参画が進んだ分野

問17 あなたは各分野で男性の参画が数年前と比べて進んでいると思いますか。
(それぞれ1つに○)

- 『看護・介護』を除き「どちらかというに進んでいると思う」が最も高い
- 『看護・介護』では《進んでいないと思う(計)》が《進んでいると思う(計)》より高くなっている

全体では、『看護・介護』を除くすべての項目で「どちらかというに進んでいると思う」が最も高く、『看護・介護』では「どちらかというに進んでいないと思う」(31.0%)が最も高くなっている。

《進んでいると思う(計)》(「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値)は、『家事(炊事・洗濯・そうじ)』(64.7%)、『育児』(63.5%)の2項目が6割以上と高くなっている。一方、《進んでいないと思う(計)》(「どちらかというに進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」の合計値)は、『看護・介護』(47.5%)が約5割、『PTA活動などの学校行事』(41.3%)が4割以上と高くなっている。『看護・介護』は《進んでいないと思う(計)》(47.5%)が《進んでいると思う(計)》(35.5%)より12.0ポイント高くっており、『PTA活動などの学校行事』は《進んでいると思う(計)》(41.2%)と《進んでいないと思う(計)》(41.3%)が同程度となっている。

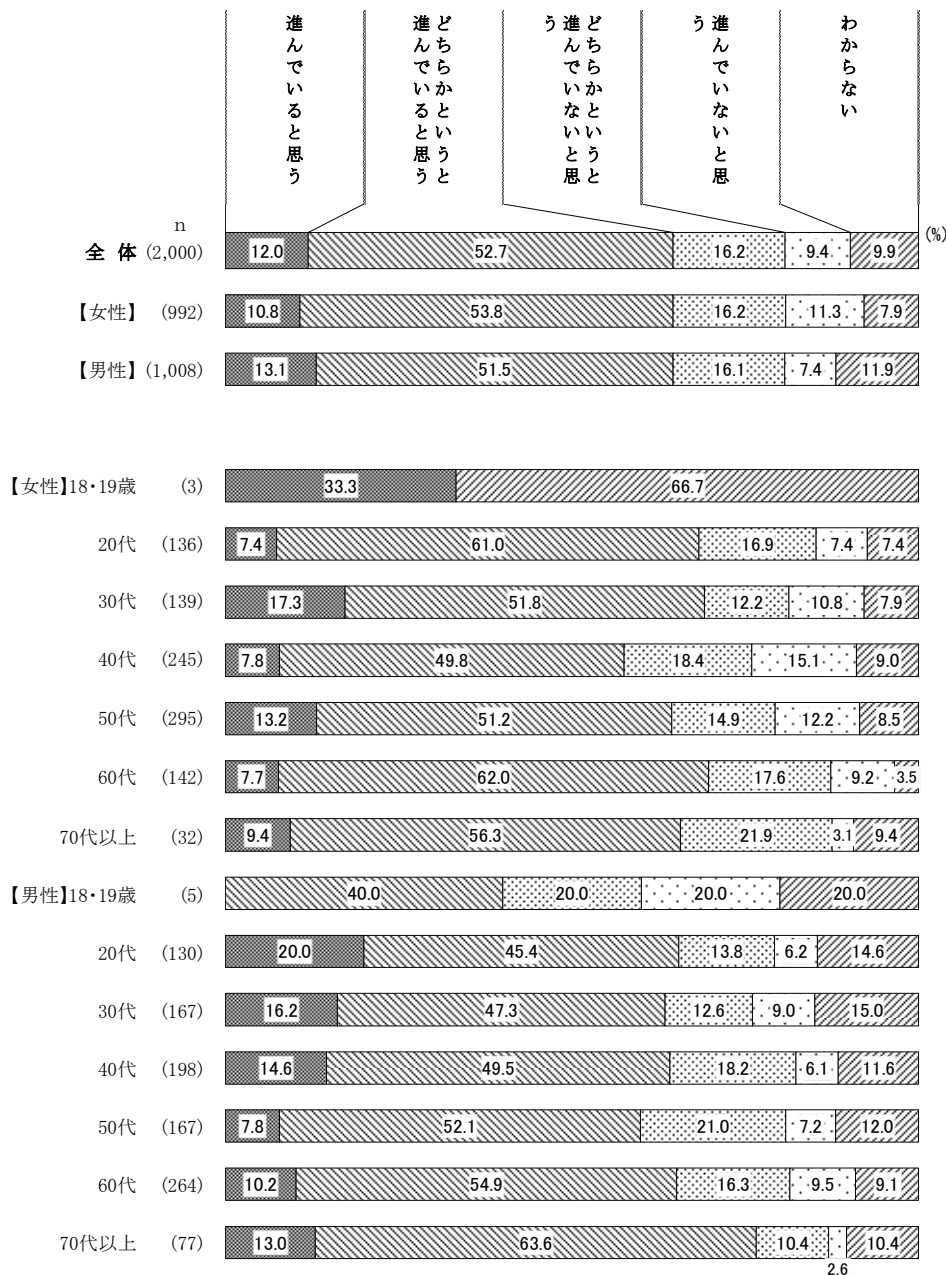


問17 ①家事（炊事・洗濯・そうじ）への男性の参画

- 《進んでいると思う（計）》は男女とも6割以上
- 《進んでいると思う（計）》は男性70代以上が約8割で最も高い

男女とも「どちらかというに進んでいると思う」（女性 53.8%、男性 51.5%）が最も高く、過半数を占めている。《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）は、男女同値（64.6%）となっている。

性・年代別で見ると、すべての年代で「どちらかというに進んでいると思う」が最も高くなっている。《進んでいると思う（計）》は、40代・70代以上を除き女性が男性より高くなっており、40代は男性（64.1%）が女性（57.6%）より6.5ポイント、70代以上は男性（76.6%）が女性（65.7%）より10.9ポイント高くなっている。

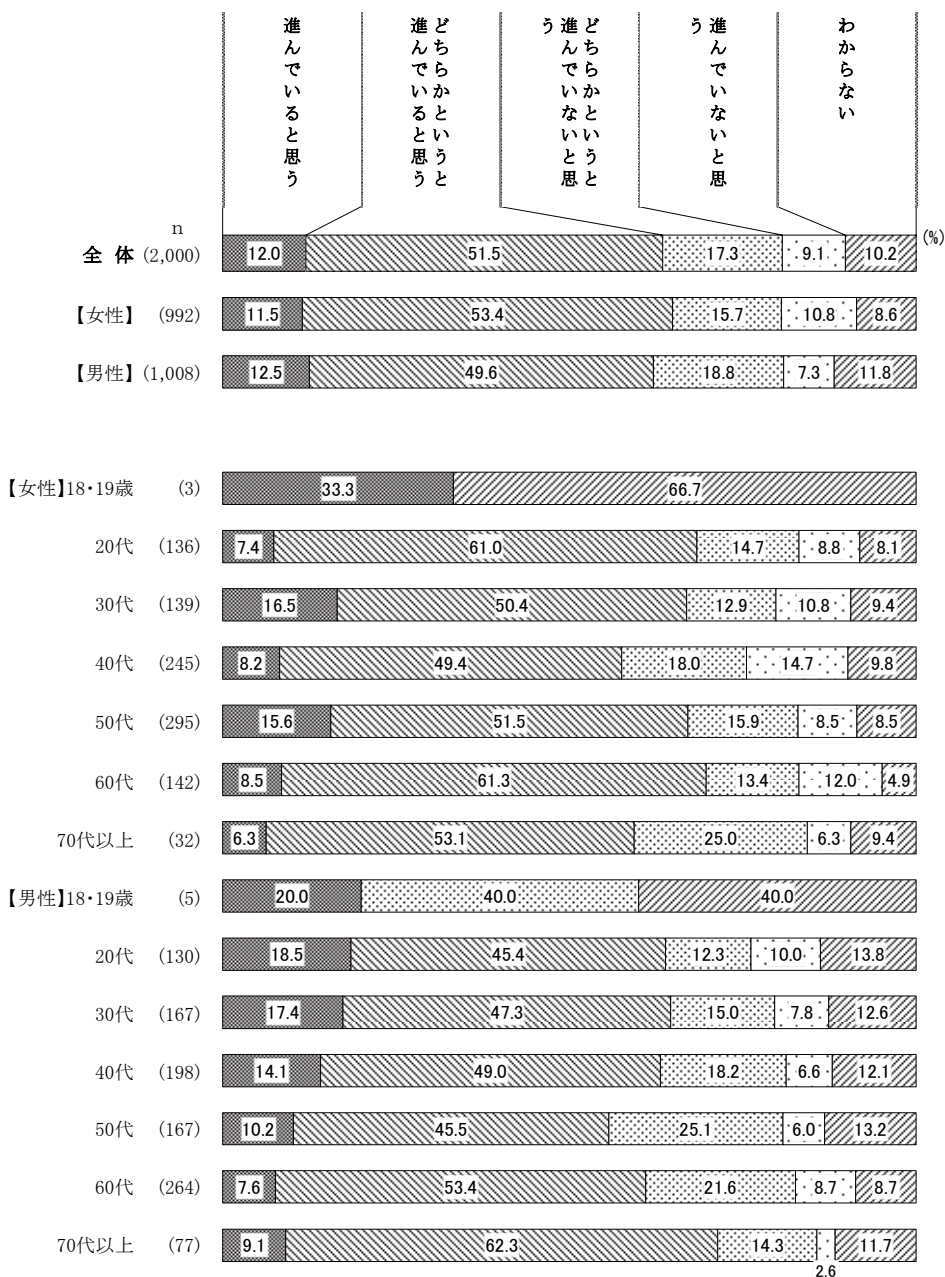


問17 ②育児への男性の参画

- 《進んでいると思う（計）》は男女とも6割以上
- 「進んでいると思う」は男性の若い年代ほど高い傾向

男女とも「どちらかというに進んでいると思う」（女性 53.4%、男性 49.6%）が最も高くなっている。《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）は、女性（64.9%）と男性（62.1%）が6割以上と同程度で、大きな差は見られない。

性・年代別で見ると、すべての年代で「どちらかというに進んでいると思う」が最も高くなっている。「進んでいると思う」は男性の若い年代ほど高くなっている。《進んでいると思う（計）》は、40代・70代以上を除くすべての年代で女性が男性より高くなっており、40代は男性（63.1%）が女性（57.6%）より5.5ポイント、70代以上は男性（71.4%）が女性（59.4%）より12.0ポイント高くなっている。



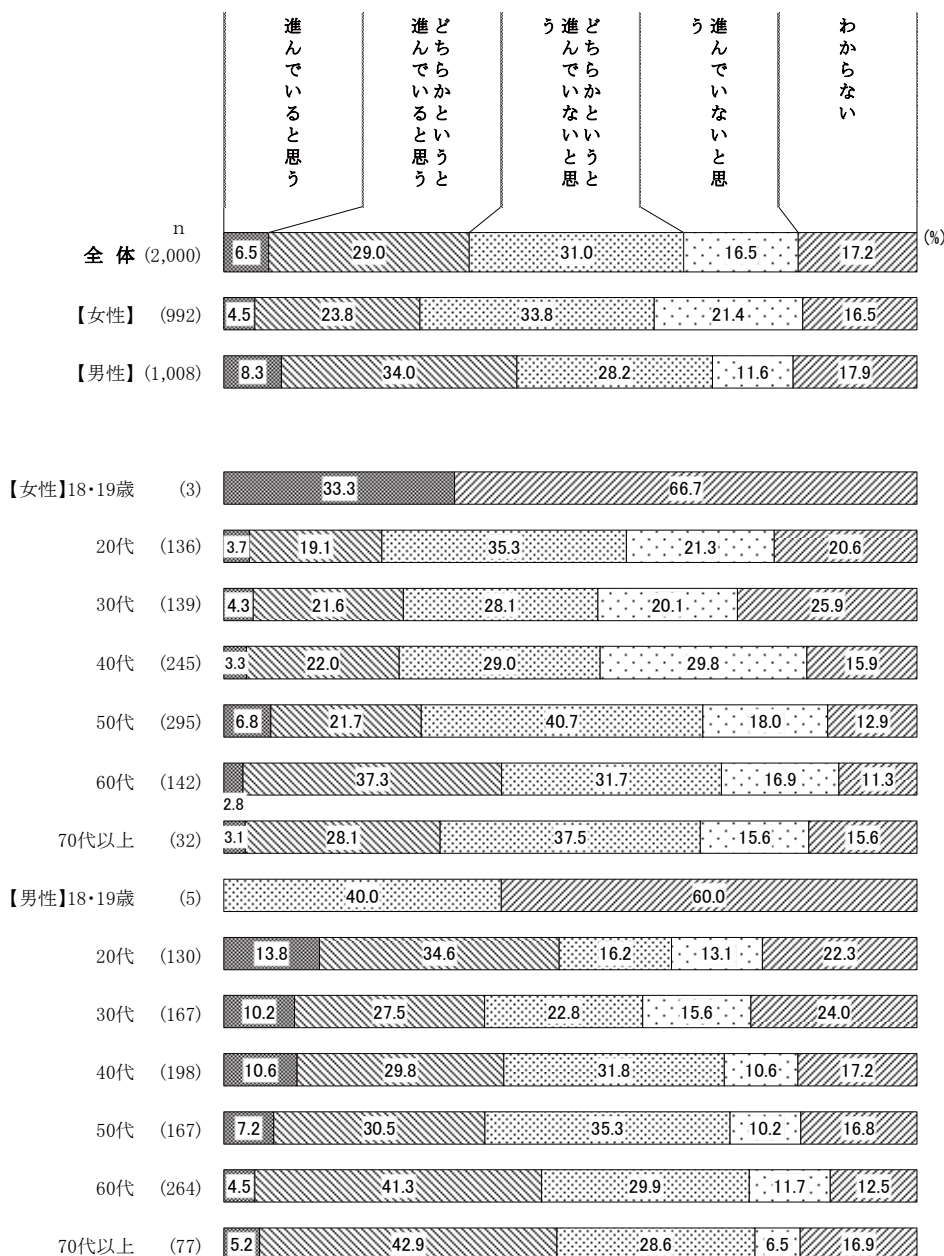
問17 ③看護・介護への男性の参画

● 《進んでいないと思う（計）》は女性で過半数を占めている

女性は「どちらかというに進んでいないと思う」（33.8%）、男性は「どちらかというに進んでいると思う」（34.0%）が最も高くなっている。また、女性は《進んでいないと思う（計）》（「どちらかというに進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」の合計値）（55.2%）が過半数を占めている。

《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）は、男性（42.3%）が女性（28.3%）より 14.0 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性では 40 代・60 代を除くすべての年代で「どちらかというに進んでいないと思う」が最も高くなっている。《進んでいると思う（計）》は、すべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差は 20 代（女性 22.8%、男性 48.4%）が 25.6 ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。

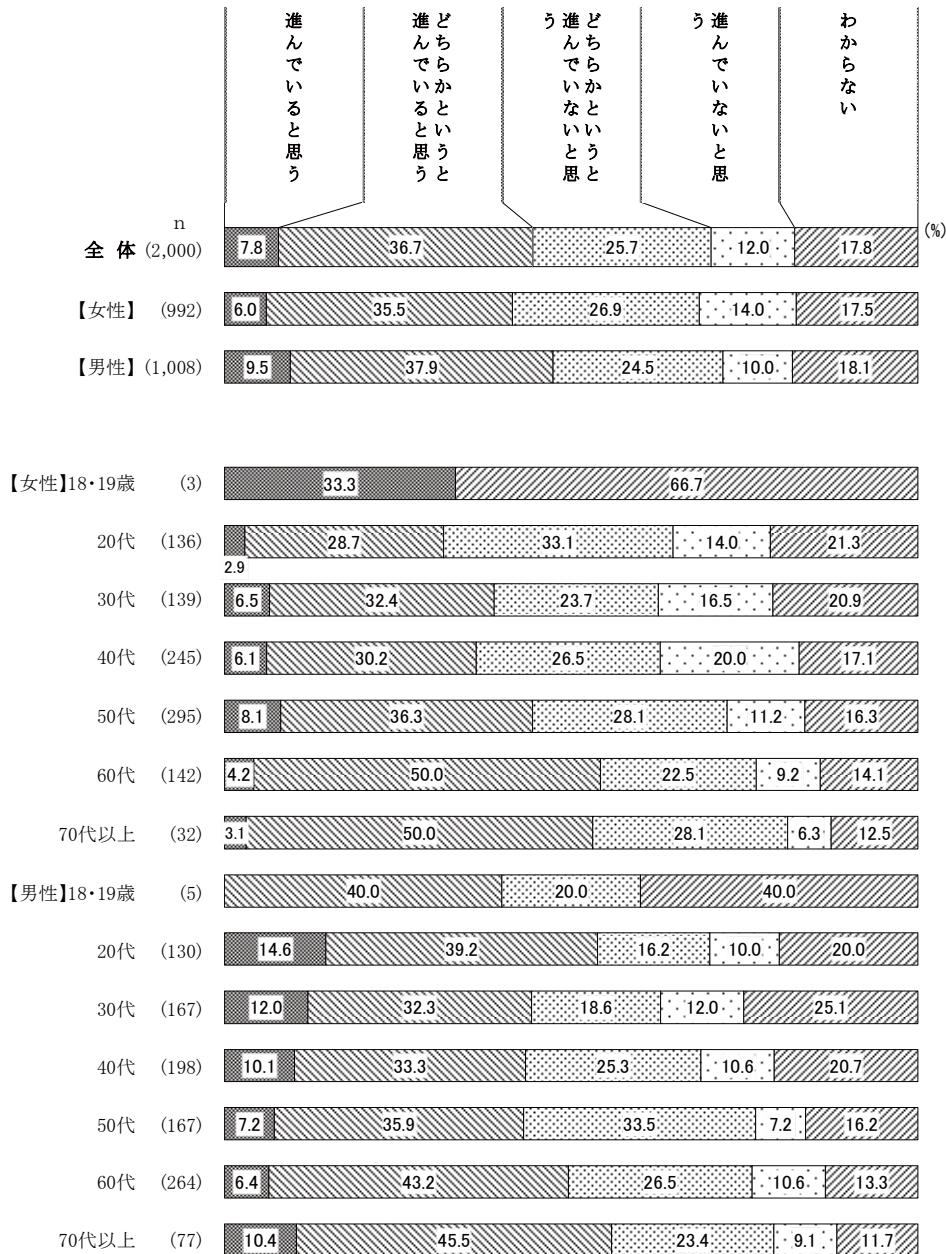


問17 ④地域の行事への男性の参画

- 女性は《進んでいると思う（計）》と《進んでいないと思う（計）》が同程度
- 男性は《進んでいると思う（計）》が高い

男女とも「どちらかというに進んでいると思う」（女性 35.5%、男性 37.9%）が最も高くなっている。女性は《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値）（41.5%）と《進んでいないと思う（計）》（「どちらかというに進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」の合計値）（40.9%）が同程度となっており、男性は《進んでいると思う（計）》が高くなっている。

性・年代別で見ると、女性 20 代を除き「どちらかというに進んでいると思う」が最も高く、女性 20 代は「どちらかというに進んでいないと思う」が最も高くなっている。《進んでいると思う（計）》は、50 代・60 代を除くすべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差は 20 代（女性 31.6%、男性 53.8%）が 22.2 ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。

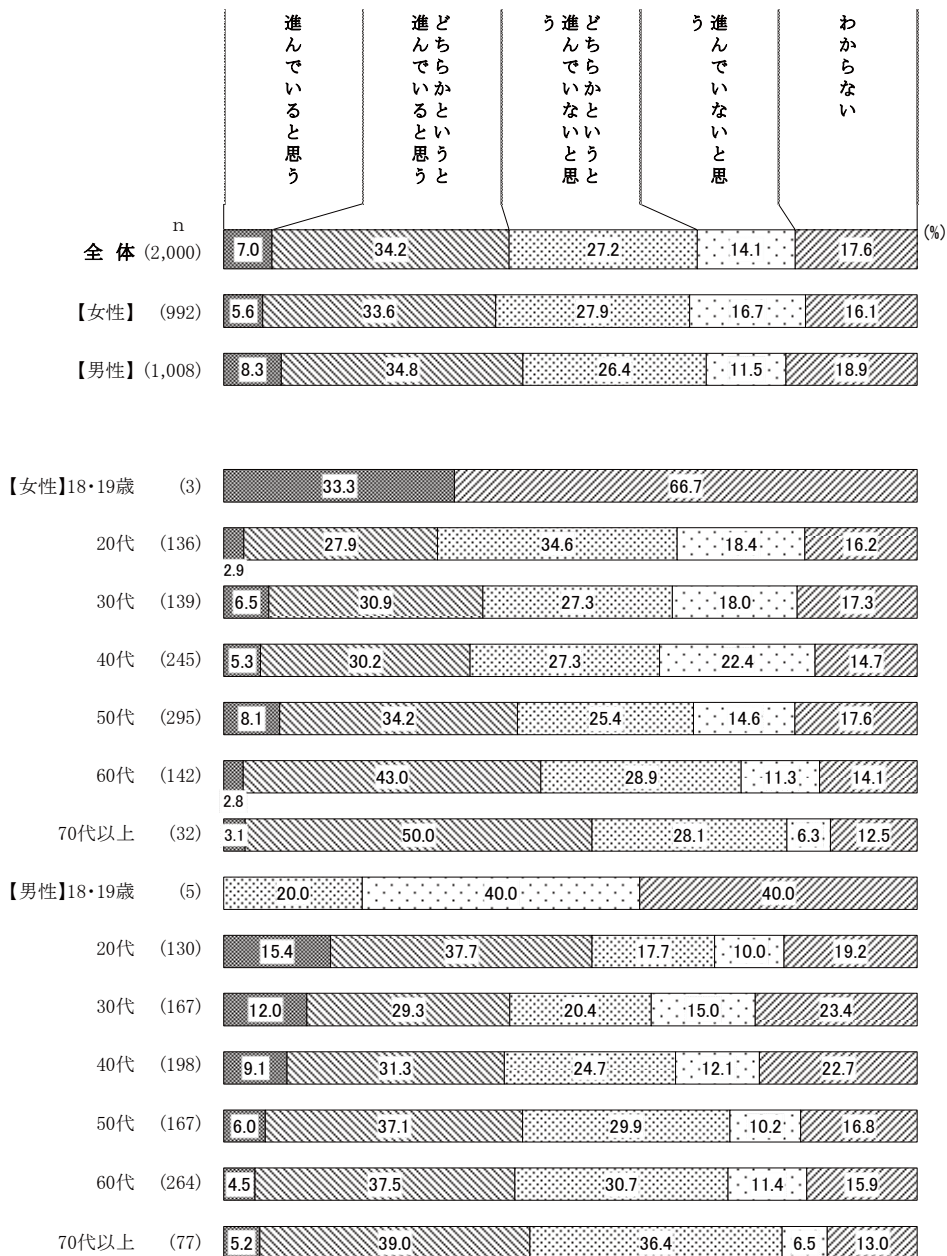


問17 ⑤PTA活動などの学校行事への男性の参画

● 《進んでいると思う（計）》は女性約4割、男性4割以上

男女とも「どちらかというに進んでいると思う」（女性 33.6%、男性 34.8%）が最も高くなっている。女性は《進んでいないと思う（計）》（「どちらかというに進んでいないと思う」と「進んでいないと思う」の合計値）（44.6%）が《進んでいると思う（計）》（「進んでいると思う」と「どちらかというに進んでいると思う」の合計値 39.2%）より 5.4 ポイント高くなっている。《進んでいると思う（計）》は、女性（39.2%）と男性（43.1%）であまり大きな差は見られない。

性・年代別で見ると、女性 20 代を除き「どちらかというに進んでいると思う」が最も高く、女性 20 代は「どちらかというに進んでいないと思う」が最も高くなっている。《進んでいると思う（計）》は、60 代・70 代以上を除くすべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差は 20 代（女性 30.8%、男性 53.1%）が 22.3 ポイントで最も大きくなっている。



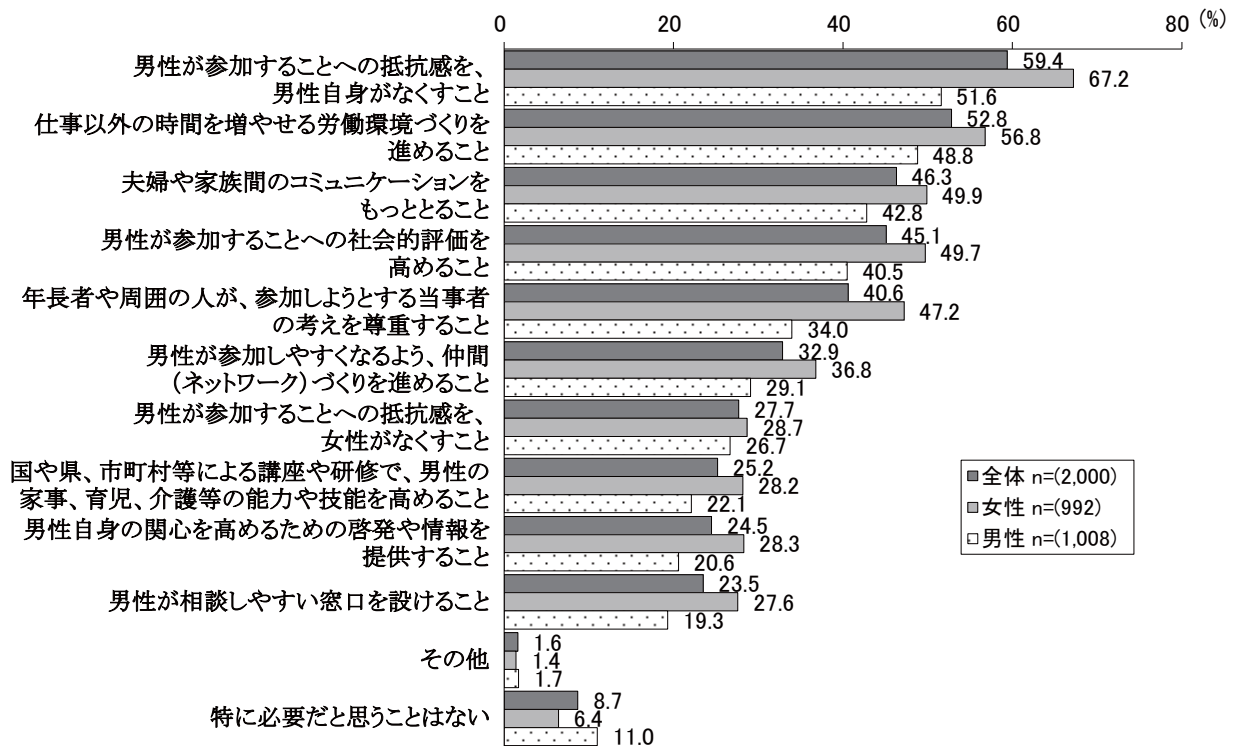
(2) 男性の参画に必要なこと

問18 あなたは、今後、男性が、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためにはどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものを全て選択可)

- 男女とも「男性自身が抵抗感をなくすこと」が最も高い
- ほとんどの項目で女性が男性より高い

全体では「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」(59.4%)が約6割で最も高く、次いで「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」(52.8%)の2項目で5割以上となっており、その他の項目は5割未満となっている。

性別で見ると、男女とも「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」(女性67.2%、男性51.6%)が最も高く、次いで「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」(女性56.8%、男性48.8%)が高くなっている。「その他」、「特に必要だと思うことはない」を除くすべての項目で、女性が男性より高くなっており、男女差は「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」で最も大きく、女性(67.2%)が男性(51.6%)より15.6ポイント高くなっている。



◇性・年代別

- 女性はすべての年代で「男性自身が抵抗感をなくすこと」が最も高い

性・年代別で見ると、女性はすべての年代で「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」が最も高くなっている。次いで20～50代では「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」が高くなっている。男性は20代・40代・60代では「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」が最も高く、30代・50代・70代以上では「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」(70代以上は「夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること」と同値)が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	136	139	245	295	142	32
男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと	33.3	75.7	72.7	65.3	66.8	58.5	68.8
仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること	-	64.0	66.2	55.9	51.5	56.3	46.9
夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること	-	57.4	57.6	48.2	45.1	49.3	50.0
男性が参加することへの社会的評価を高めること	-	55.1	48.2	48.6	45.8	57.0	50.0
年長者や周囲の人が、参加しようとする当事者の考えを尊重すること	-	55.9	48.9	45.3	45.4	46.5	40.6
男性が参加しやすくなるよう、仲間(ネットワーク)づくりを進めること	-	56.6	36.0	32.7	30.8	41.5	25.0
男性が参加することへの抵抗感を、女性がなくすこと	-	37.5	33.8	28.2	24.7	29.6	9.4
国や県、市町村等による講座や研修で、男性の家事、育児、介護等の能力や技能を高めること	-	32.4	30.2	28.6	23.4	31.7	31.3
男性自身の関心を高めるための啓発や情報を提供すること	-	27.9	25.2	27.8	28.1	33.8	28.1
男性が相談しやすい窓口を設けること	-	33.1	27.3	28.2	25.1	30.3	15.6
その他	-	0.0	2.9	1.2	1.4	1.4	3.1
特に必要だと思わない	66.7	4.4	3.6	8.6	7.1	4.2	6.3

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	167	198	167	264	77
男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと	40.0	53.1	49.7	58.6	46.7	48.9	55.8
仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること	40.0	44.6	56.3	43.4	50.9	46.6	57.1
夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること	20.0	46.2	44.3	40.9	34.7	42.8	57.1
男性が参加することへの社会的評価を高めること	40.0	40.8	41.9	37.9	30.5	45.8	46.8
年長者や周囲の人が、参加しようとする当事者の考えを尊重すること	20.0	39.2	34.1	32.8	25.7	33.7	48.1
男性が参加しやすくなるよう、仲間(ネットワーク)づくりを進めること	60.0	30.8	26.3	31.3	25.1	29.5	31.2
男性が参加することへの抵抗感を、女性がなくすこと	-	38.5	33.5	33.8	21.0	18.6	15.6
国や県、市町村等による講座や研修で、男性の家事、育児、介護等の能力や技能を高めること	20.0	22.3	24.0	24.2	14.4	21.2	32.5
男性自身の関心を高めるための啓発や情報を提供すること	-	26.2	19.8	20.2	16.2	20.8	24.7
男性が相談しやすい窓口を設けること	20.0	18.5	19.8	21.7	19.8	17.0	20.8
その他	-	1.5	4.2	0.5	1.2	1.1	2.6
特に必要だと思わない	-	10.8	10.8	10.6	16.2	9.8	6.5

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

◇国の調査との比較(参考)

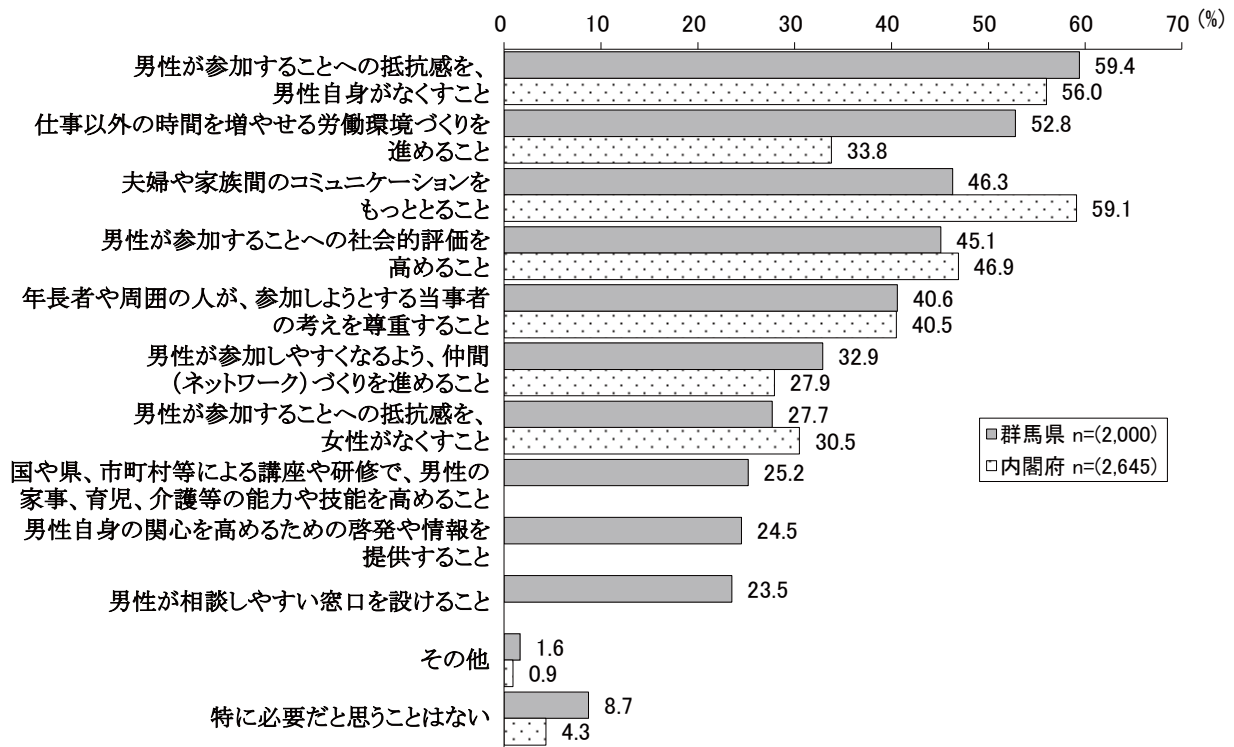
- 「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」が国より高く、「夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること」が国より低い

内閣府の調査とは文章表現等が異なることを考慮する必要がある。

内閣府は「夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること」(59.1%)が最も高く、次いで「男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと」(56.0%)となっている。

内閣府の調査と比較すると、「仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること」が内閣府(33.8%)より19.0ポイント高くなっている。一方、「夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること」は内閣府(59.1%)より12.8ポイント低くなっている。

【問18 国の調査との比較（参考）】



※「国や県、市町村等による講座や研修で、男性の家事、育児、介護等の能力や技能を高めること」、「男性自身の関心を高めるための啓発や情報を提供すること」、「男性が相談しやすい窓口を設けること」は群馬県だけの項目

5. 職場や働き方について

(1) 「女性の働き方」への意識

問19 「女性の働き方」について、あなたはどのように思いますか。(1つに○)

- 男女とも「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」の2項目が高い
- 女性は若い年代ほど「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」が高い傾向

男女とも「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」(女性 34.3%、男性 29.0%)が最も高く、次いで「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」(女性 27.3%、男性 28.5%)、「子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい」(女性 17.3%、男性 15.7%)となっている。

性・年代別で見ると、女性 70 代以上、男性 50 代・60 代を除くすべての年代で「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」が最も高く(女性 60 代は「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」と同値)、女性 70 代以上、男性 50 代・60 代は、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」が最も高くなっている。

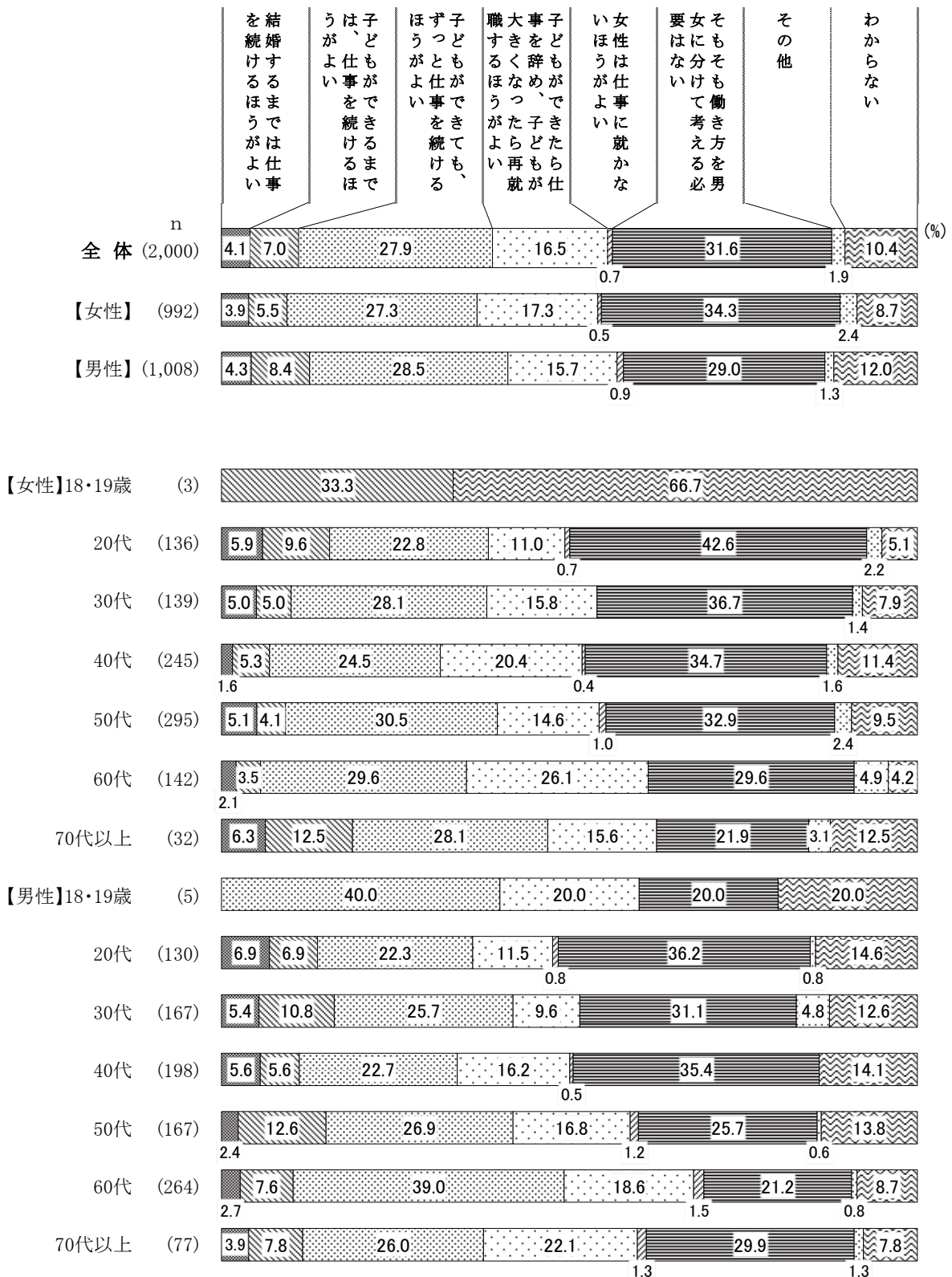
「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」は、40 代・70 代以上を除き女性が男性より高く、40 代は同程度、70 代以上は男性が女性より高くなっている。女性は若い年代ほど値が高い傾向がうかがえる。

「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」は、60 代を除くすべての年代で女性が男性より高くなっている。60 代は男性が女性より高くなっており、女性(29.6%)は約3割、男性(39.0%)は約4割となっている。

「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」について男女差を見ると、60 代(女性 29.6%、男性 21.2%)が 8.4 ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。一方、「子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい」の男女差も 60 代(女性 29.6%、男性 39.0%)が 9.4 ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

【問19】



(2) 進路・職業選択の際の性別意識

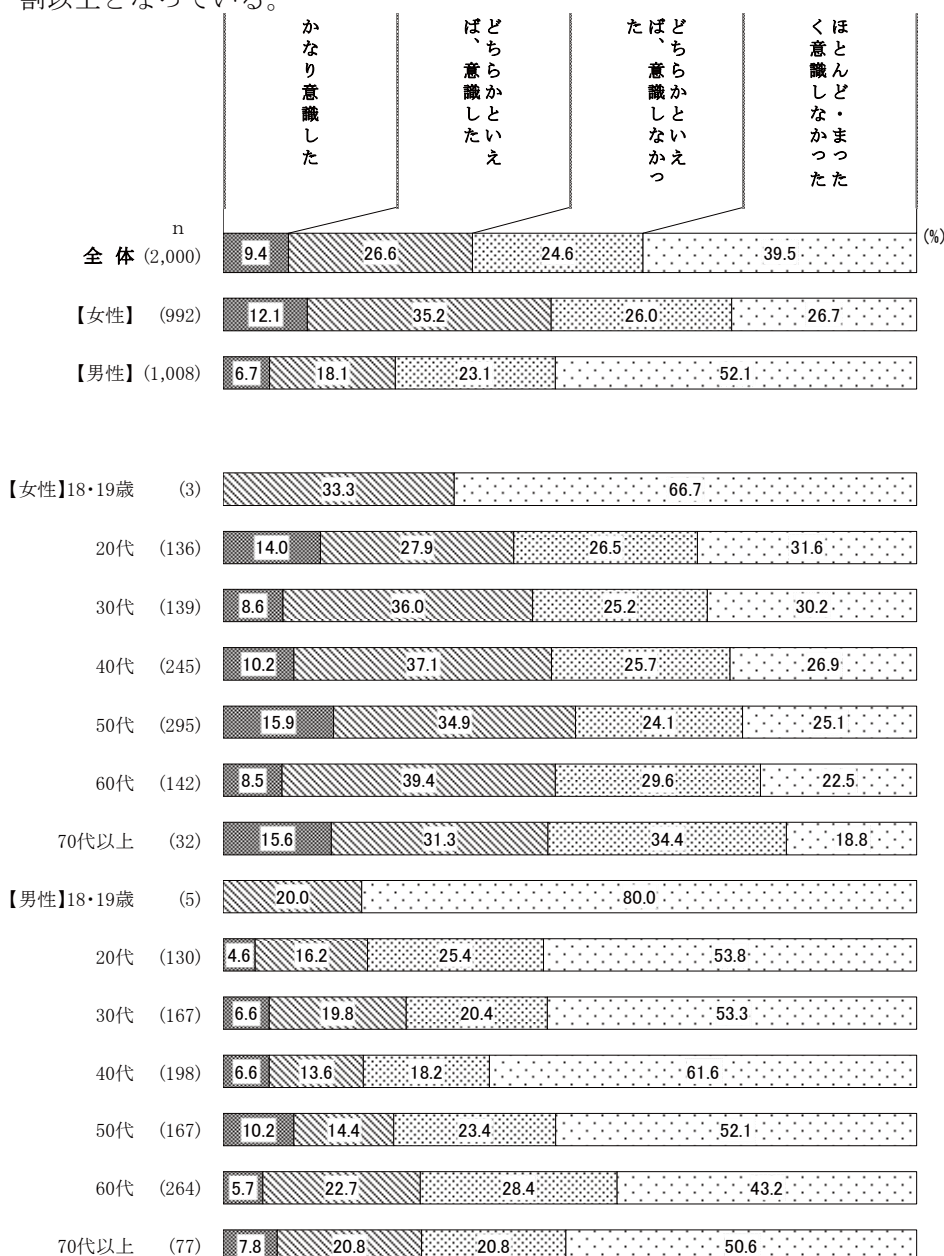
問20 あなたは、進路職業を選択する際に、自分の性別を意識したことがありますか。
(1つに○)

- 《意識した(計)》は女性約5割、男性2割以上
- 男性は60代を除き「ほとんど・まったく意識しなかった」が5割以上

全体、男性は「ほとんど・まったく意識しなかった」(全体 39.5%、男性 52.1%)、女性は「どちらかといえば、意識した」(35.2%)が最も高くなっている。

《意識した(計)》(「かなり意識した」と「どちらかといえば、意識した」の合計値)は、女性(47.3%)が男性(24.8%)より22.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は20代・70代以上を除くすべての年代で「どちらかといえば、意識した」が最も高くなっている。一方、男性はすべての年代で「ほとんど・まったく意識しなかった」が最も高く、60代(43.2%)を除くすべての年代で5割以上となっている。



(3) 「仕事」「家庭生活」「地域活動」の優先度

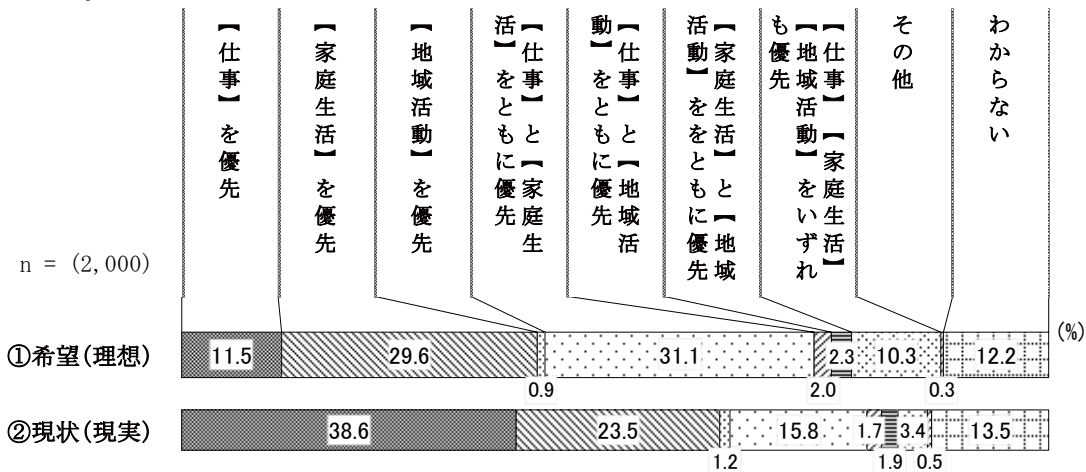
問21 日常生活における「仕事」「家庭生活」「地域活動」の優先度について、あなたの
 ①希望（理想）と②現状（現実）にもっとも近いものはどれですか。（それぞれ1つに○）

- 希望は「仕事と家庭生活をともに優先」、現状は「仕事を優先」が最も高い
- 「仕事を優先」、「仕事と家庭生活をともに優先」で理想と現状の差が大きい

全体では、①希望（理想）は「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」（31.1%）が3割以上、「【家庭生活】を優先」（29.6%）が約3割で、僅差となっている。

②現状（現実）は「【仕事】を優先」（38.6%）が約4割で最も高く、次いで「【家庭生活】を優先」（23.5%）が2割以上となっている。

「【仕事】を優先」は、②現状（現実）（38.6%）が①希望（理想）（11.5%）より27.1ポイント高くなっている。一方で、「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」は、①希望（理想）（31.1%）が②現状（現実）（15.8%）より15.3ポイント高くなっている。



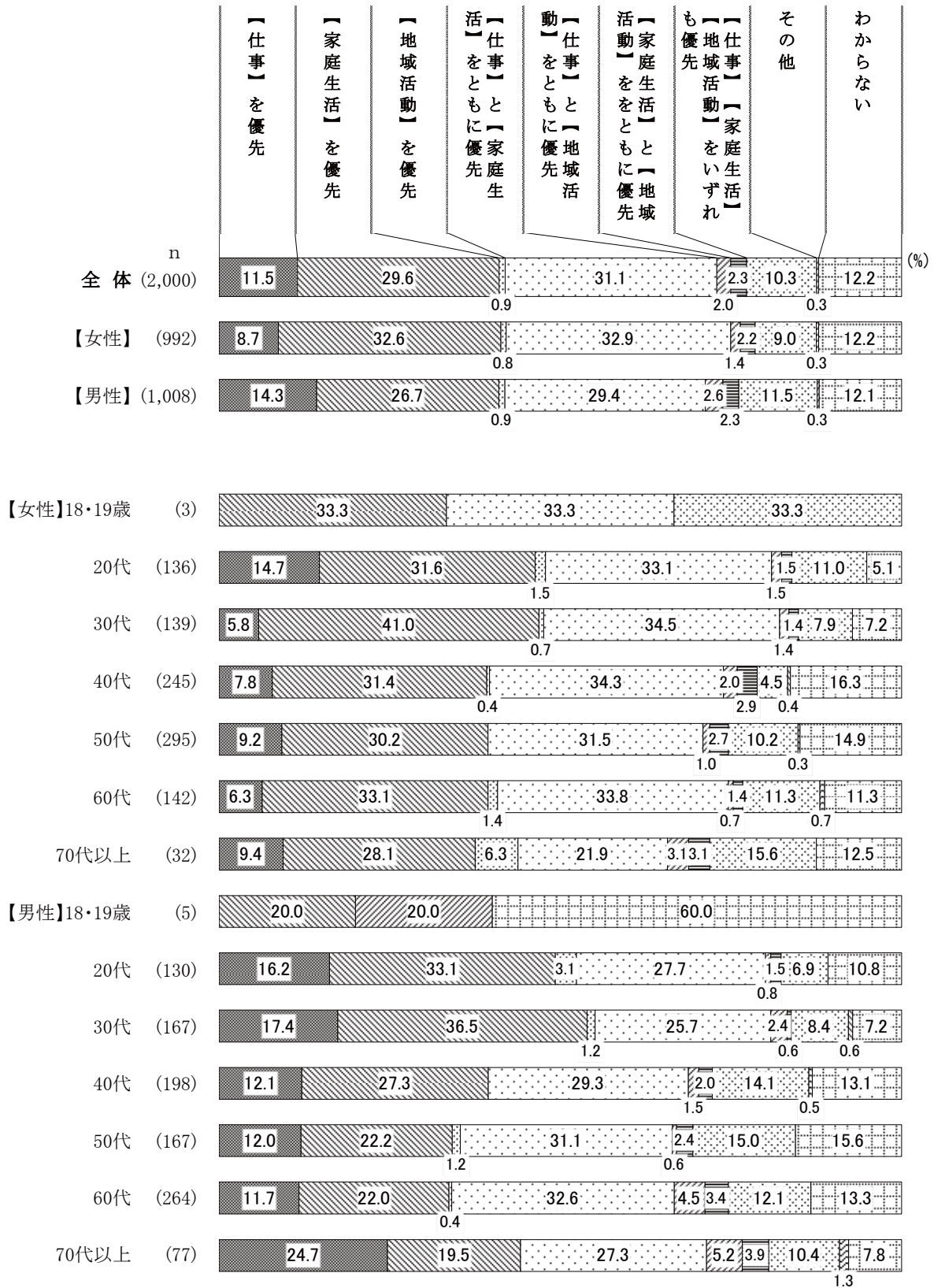
問21 ①希望（理想）

- 男女とも「仕事と家庭生活をともに優先」、「家庭生活を優先」が高い
- 男性70代以上は、「仕事を優先」が2割以上

男女とも「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」（女性 32.9%、男性 29.4%）が最も高くなっているが、「【家庭生活】を優先」（女性 32.6%、男性 26.7%）もそれぞれ同程度となっている。

性・年代別で見ると、女性は30代・70代以上を除くすべての年代で「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」が「【家庭生活】を優先」と僅差で最も高くなっている。女性30代・70代以上は「【家庭生活】を優先」が最も高くなっている。男性は20代・30代を除くすべての年代で「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」が最も高く、「【仕事】を優先」はほとんどの年代で2割未満となっているが、男性70代以上（24.7%）は2割以上と特に高くなっている。

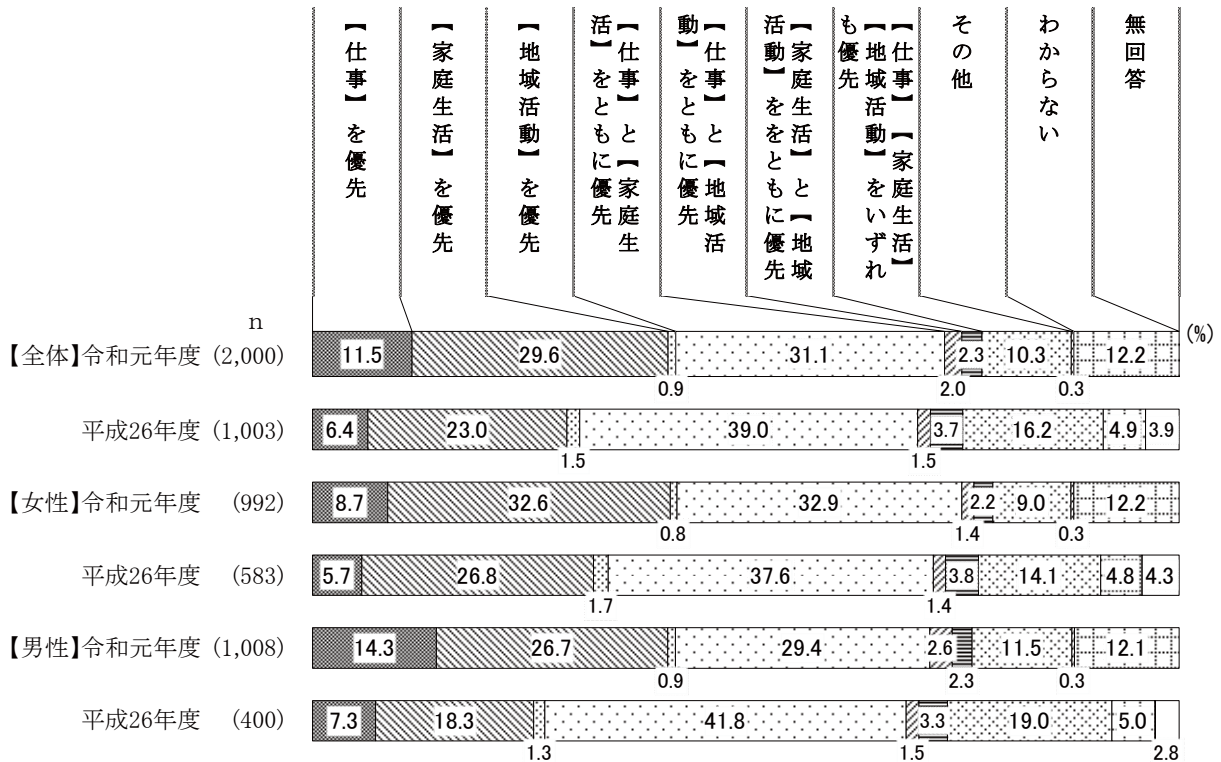
【問21 ①希望（理想）】



◇経年変化

- 「家庭生活を優先」は上昇、「仕事と家庭生活をともに優先」は低下傾向
- 男性で「仕事を優先」が上昇

経年変化を性別で見ると、全体、男女ともに「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」が平成26年度（全体39.0%、女性37.6%、男性41.8%）より全体は7.9ポイント、女性は4.7ポイント、男性は12.4ポイント低くなっている。一方で、「【家庭生活】を優先」が平成26年度（全体23.0%、女性26.8%、男性18.3%）より全体は6.6ポイント、女性は5.8ポイント、男性は8.4ポイント高くなっている。また、男性は「【仕事を優先】」が平成26年度（7.3%）より7.0ポイント高くなっている。



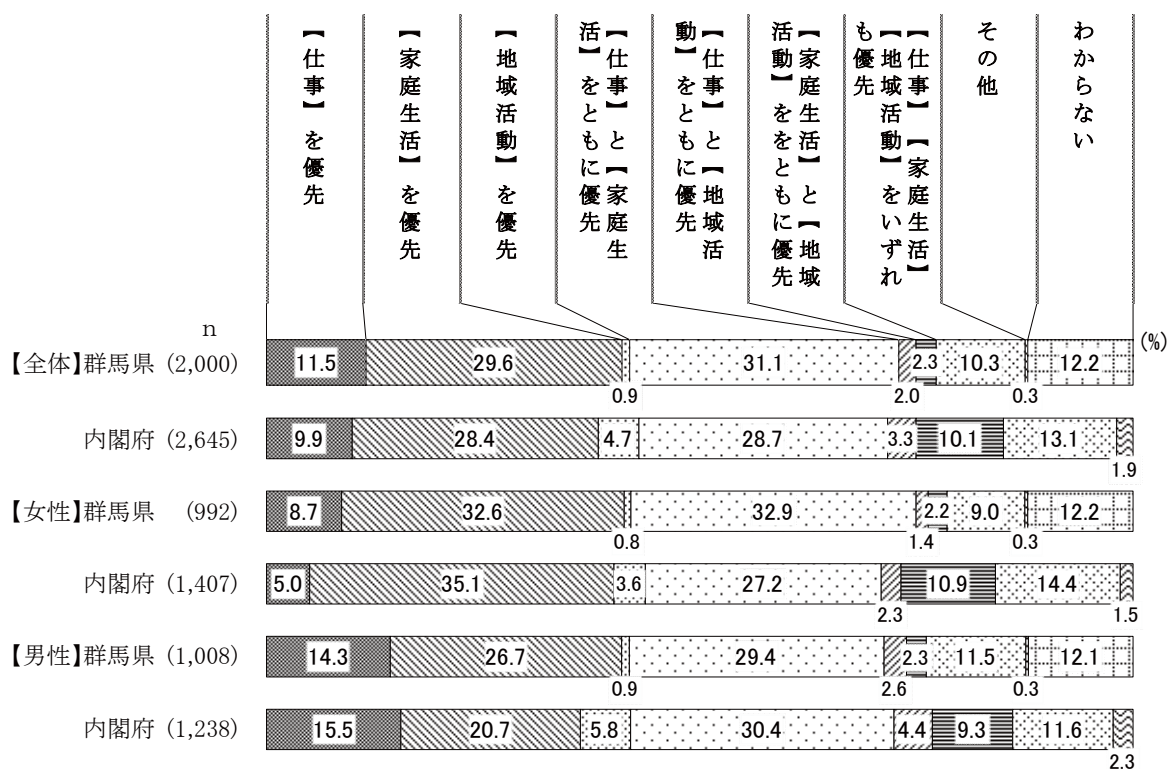
◇国の調査との比較（参考）

- 女性は「仕事と家庭生活をともに優先」、男性は「家庭生活を優先」が国より高い

内閣府の調査とは文章表現等が異なることを考慮する必要がある。

内閣府の調査と比較すると、全体であまり大きな差は見られない。女性では「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」が内閣府（27.2%）より5.7ポイント高く、男性では「【家庭生活】を優先」が内閣府（20.7%）より6.0ポイント高くなっている。また、「【家庭生活】と【地域活動】をともに優先」は、内閣府では全体、男女ともに約1割となっている。

【問 21① 国の調査との比較（参考）】



問 21 ②現状（現実）

- 女性は「家庭生活を優先」が3割以上、男性は「仕事を優先」が5割以上
- 女性で「仕事を優先」は20代で4割以上だが、その他の年代では2割台
- 男性30代は「仕事を優先」が6割以上

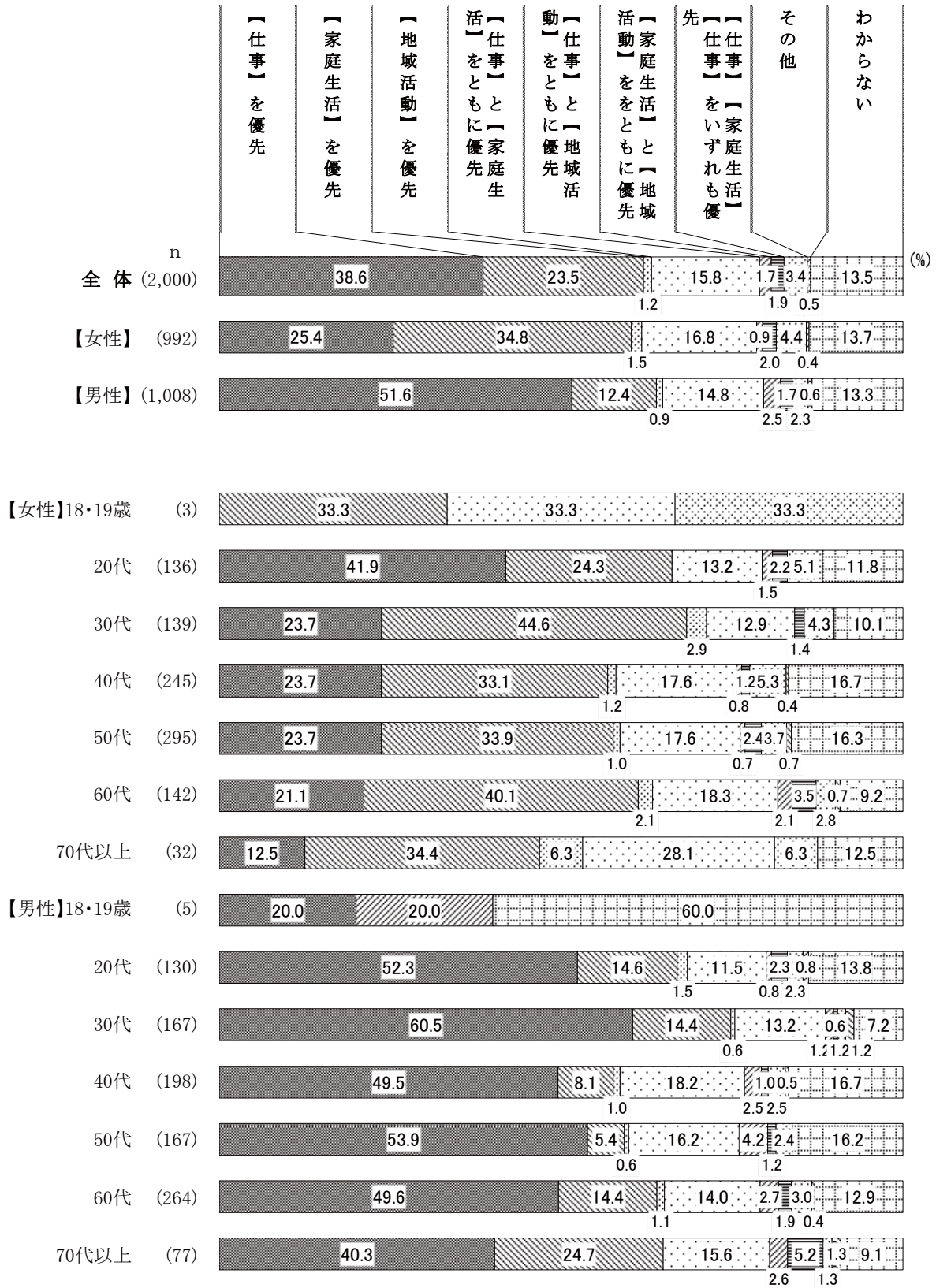
女性は「【家庭生活】を優先」（34.8%）が3割以上、男性は「【仕事】を優先」（51.6%）が5割以上で最も高くなっている。

「【仕事】を優先」は、男性（51.6%）が女性（25.4%）より26.2ポイント高く、「【家庭生活】を優先」は女性（34.8%）が男性（12.4%）より22.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は20代を除くすべての年代で「【家庭生活】を優先」が最も高く、20代は「【仕事】を優先」（41.9%）が4割以上で最も高くなっている。男性はすべての年代で「【仕事】を優先」が最も高く、30代（60.5%）は6割以上と特に高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

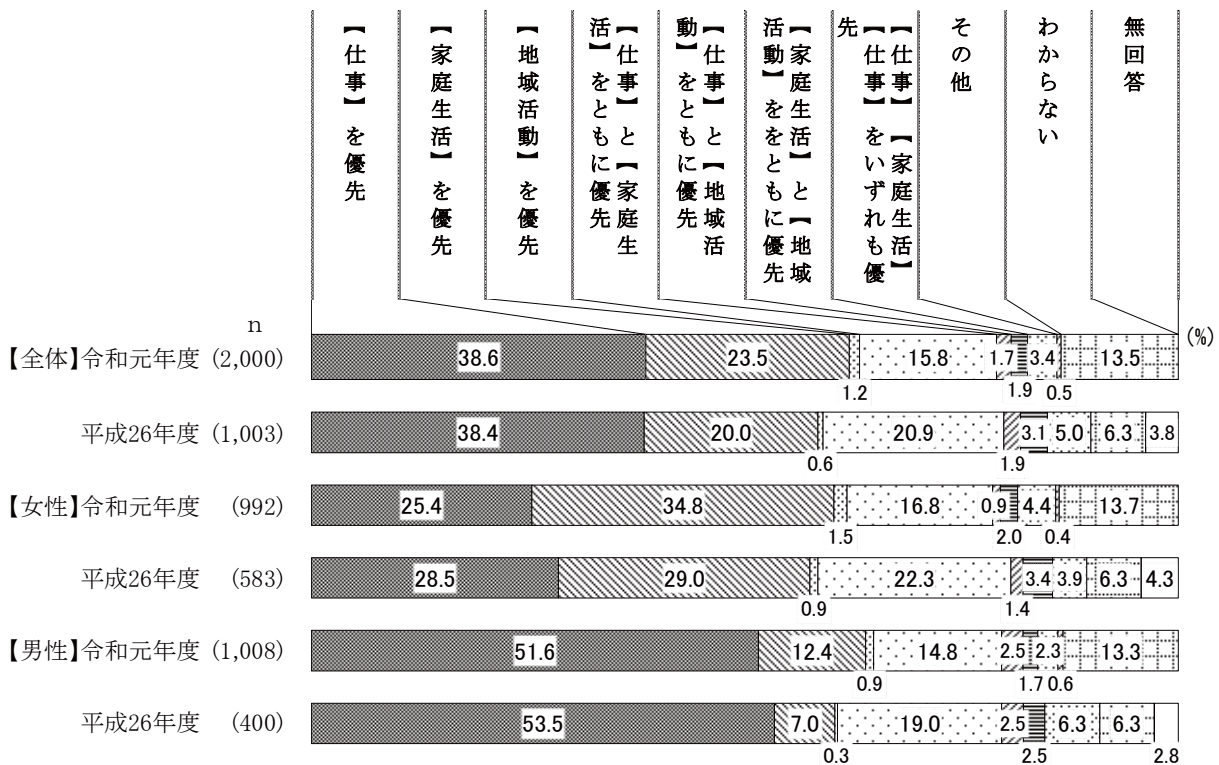
【問 21 ②現状（現実）】



◇経年変化

● 男女とも「家庭生活を優先」が上昇、「仕事と家庭生活を優先」が低下

経年変化を性別で見ると、「【家庭生活】を優先」は男女とも平成26年度（女性29.0%、男性7.0%）より女性は5.8ポイント、男性は5.4ポイント高くなっている。一方、「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」は男女とも平成26年度（女性22.3%、男性19.0%）より女性は5.5ポイント、男性は4.2ポイント低くなっている。



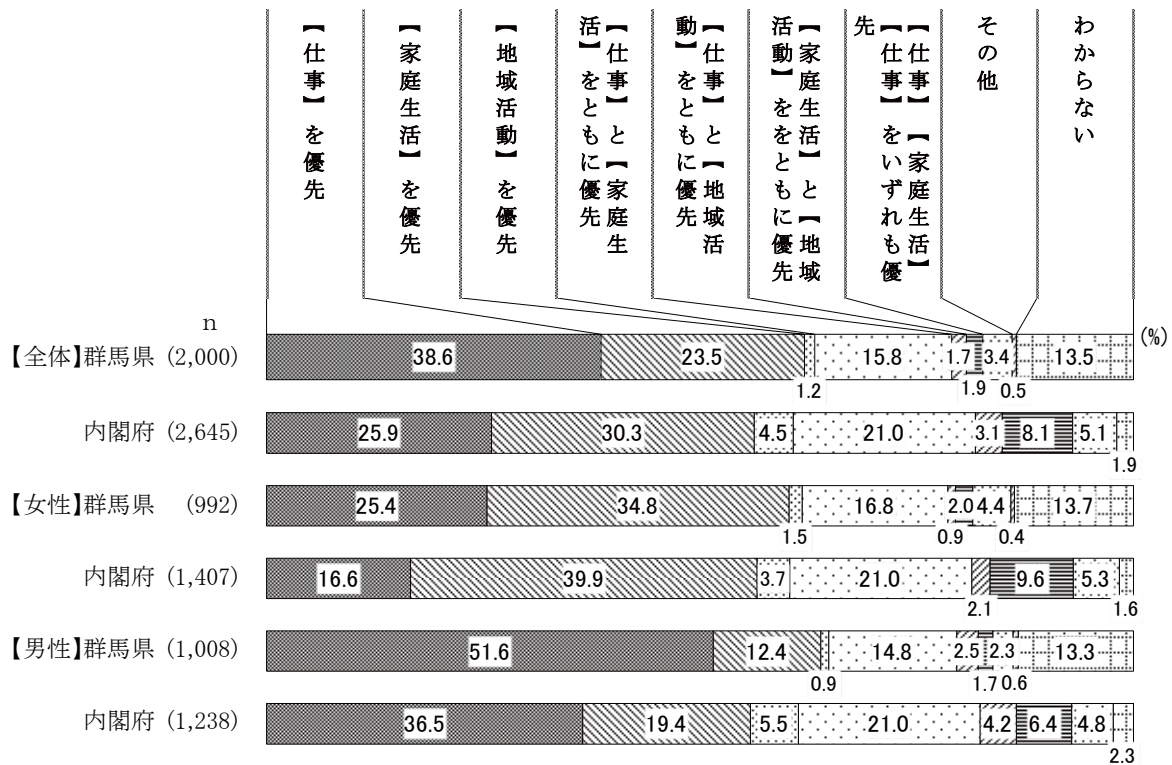
◇国の調査との比較（参考）

● 男女とも「仕事を優先」が国より高く、「家庭生活を優先」が国より低い

内閣府の調査とは文章表現等が異なることを考慮する必要がある。

内閣府の調査と比較すると、「【仕事】を優先」は、内閣府（全体25.9%、女性16.6%、男性36.5%）より全体は12.7ポイント、女性は8.8ポイント、男性は15.1ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「【家庭生活】を優先」は、内閣府（全体30.3%、女性39.9%、男性19.4%）より全体は6.8ポイント、女性は5.1ポイント、男性は7.0ポイントそれぞれ低くなっている。また、「【仕事】と【家庭生活】をともに優先」は、男性で内閣府（21.0%）より6.2ポイント低くなっており、現状、群馬県で男性は仕事を優先している傾向がうかがえる。

【問 21② 国の調査との比較（参考）】



(4) これまでの働き方

※現在働いている方のみ

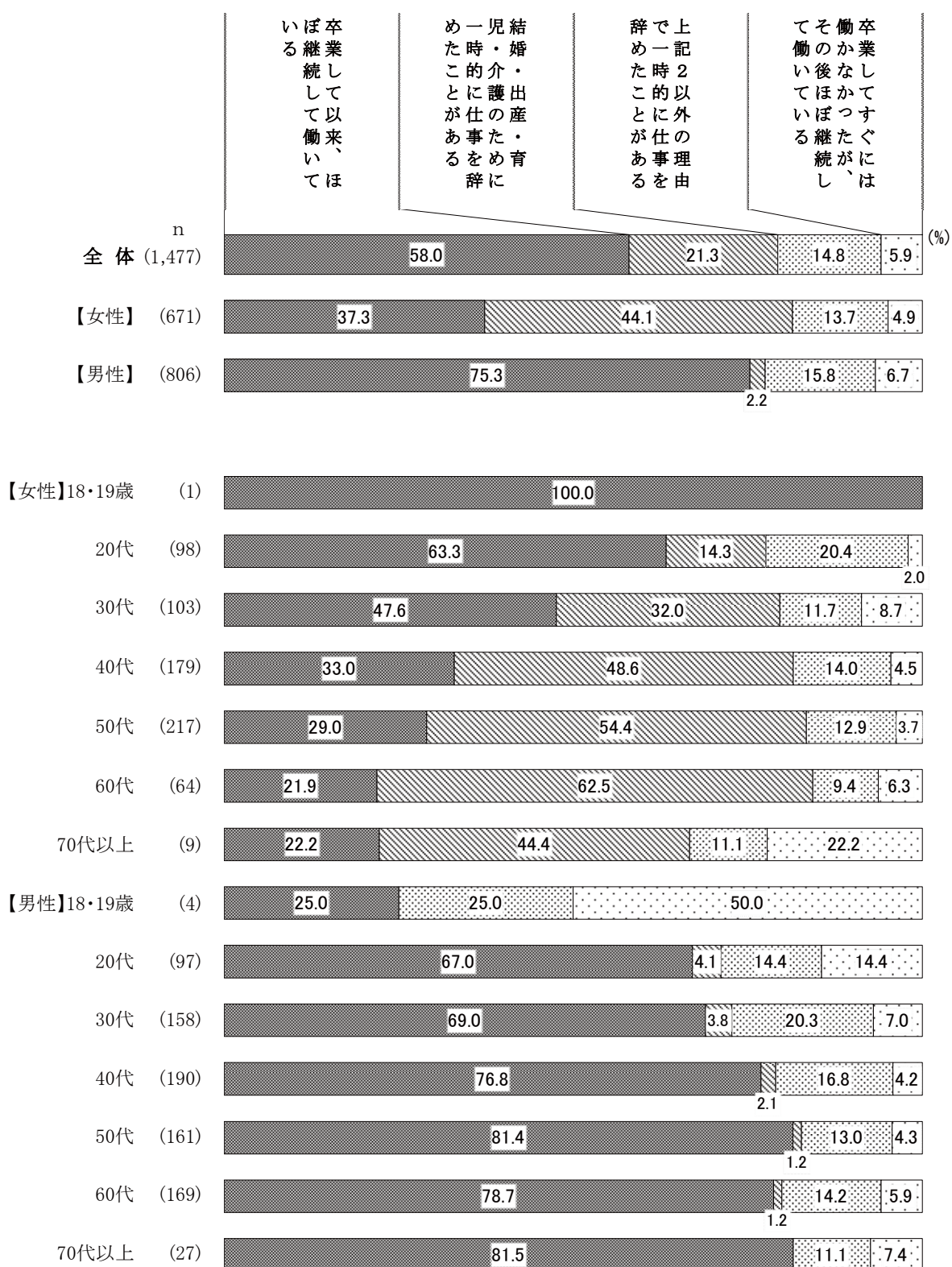
問22-1 あなたのこれまでの働き方はどれですか。(1つに○)

- 女性は「結婚・出産・育児・介護のため一時的に辞めた」が4割以上
- 「卒業以来ほぼ継続」は女性約4割、男性約8割

女性は「結婚・出産・育児・介護のために一時的に仕事を辞めたことがある」(44.1%)が4割以上で最も高く、次いで「卒業して以来、ほぼ継続して働いている」(37.3%)となっている。男性は「卒業して以来、ほぼ継続して働いている」(75.3%)が約8割で特に高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は20代・30代を除くすべての年代で「結婚・出産・育児・介護のために一時的に仕事を辞めたことがある」が最も高く、男性はすべての年代で「卒業して以来、ほぼ継続して働いている」が特に高くなっている。

【問22-1 これまでの働き方】



(5) 職場における男女間の不公平・未整備の状況

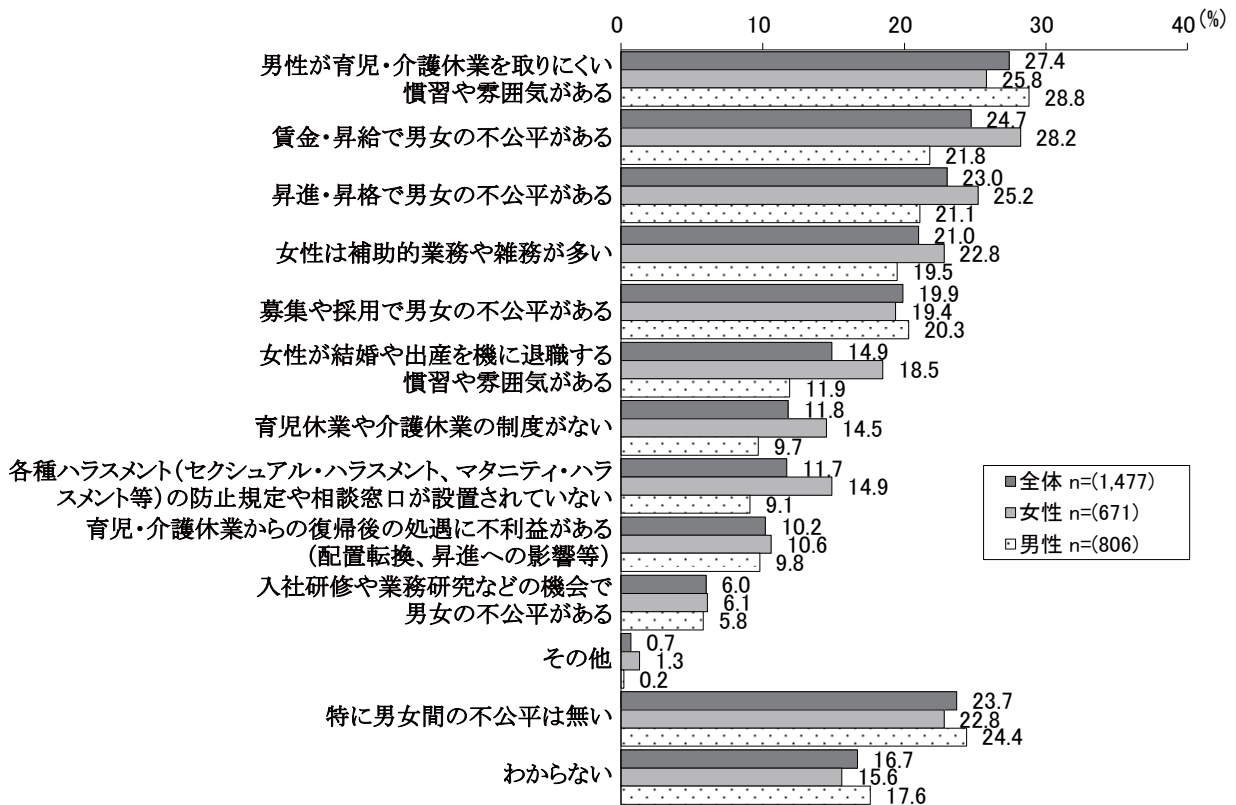
※現在働いている方

問22-2 あなたの職場では、次のような男女間の不公平や、制度の未整備はありますか。(あてはまるものを全て選択可)

- 「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」が約3割、「特に男女の不公平はない」が2割以上
- 女性は「賃金・昇給で男女の不公平がある」、男性は「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」が最も高い

全体で、「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」(27.4%)が約3割で最も高く、次いで「賃金・昇給で男女の不公平がある」(24.7%)、「昇進・昇格で男女の不公平がある」(23.0%)、「女性は補助的業務や雑務が多い」(21.0%)となっているが、「特に男女の不公平はない」(23.7%)も2割以上となっている。上記5項目以外はいずれも2割未満となっている。

性別で見ると、女性は「賃金・昇給で男女の不公平がある」(28.2%)が最も高く、次いで「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」(25.8%)が高くなっている。男性は「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」(28.8%)が最も高く、次いで「特に男女間の不公平は無い」(24.4%)が高くなっている。男女差は「女性が結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある」で最も大きく、女性(18.5%)が男性(11.9%)より6.6ポイント高くなっている。



◇性・年代別

● 男性の若い年代で「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気」が高い

性・年代別で見ると、性別や年代によって上位の項目が異なっているが、男女とも20代・40代は「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」が最も高くなっている。男性で50代未満の年代では、「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」が最も高くなっており、50代以上の年代では「特に男女間の不公平はない」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	1	98	103	179	217	64	9
男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある	-	34.7	35.0	25.1	20.7	20.3	-
賃金・昇給で男女の不公平がある	-	33.7	34.0	24.6	27.2	28.1	-
昇進・昇格で男女の不公平がある	-	26.5	35.9	22.3	21.7	26.6	22.2
女性は補助的業務や雑務が多い	-	21.4	33.0	23.5	21.2	14.1	11.1
募集や採用で男女の不公平がある	-	19.4	33.0	17.3	15.7	17.2	11.1
女性が結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	-	23.5	30.1	19.6	12.0	14.1	-
育児休業や介護休業の制度がない	-	10.2	12.6	15.6	15.7	14.1	33.3
各種ハラスメント(セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、等)の防止規定や相談窓口が設置されていない	-	24.5	18.4	12.8	12.0	10.9	11.1
育児・介護休業からの復帰後の処遇に不利益がある(配置転換、昇進への影響等)	-	13.3	15.5	7.3	10.1	10.9	-
入社研修や業務研究などの機会が男女の不公平がある	-	3.1	9.7	6.1	5.5	7.8	-
その他	-	-	2.9	1.1	0.9	3.1	-
特に男女間の不公平はない	100.0	21.4	11.7	19.6	29.0	26.6	44.4
わからない	-	13.3	11.7	18.4	16.1	18.8	-

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	97	158	190	161	169	27
男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある	-	34.0	35.4	31.1	23.6	23.1	25.9
賃金・昇給で男女の不公平がある	25.0	22.7	19.6	22.1	19.9	26.0	14.8
昇進・昇格で男女の不公平がある	-	21.6	19.6	18.9	20.5	24.3	29.6
女性は補助的業務や雑務が多い	25.0	21.6	18.4	21.6	20.5	17.2	11.1
募集や採用で男女の不公平がある	25.0	20.6	22.8	18.4	19.3	21.9	14.8
女性が結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	25.0	14.4	14.6	10.0	8.7	10.1	29.6
育児休業や介護休業の制度がない	25.0	7.2	9.5	9.5	11.8	9.5	7.4
各種ハラスメント(セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、等)の防止規定や相談窓口が設置されていない	25.0	8.2	13.3	11.6	7.5	4.7	3.7
育児・介護休業からの復帰後の処遇に不利益がある(配置転換、昇進への影響等)	25.0	9.3	12.7	8.9	8.7	8.9	11.1
入社研修や業務研究などの機会が男女の不公平がある	-	7.2	6.3	5.3	2.5	7.1	14.8
その他	-	-	0.6	0.5	-	0.0	0.0
特に男女間の不公平はない	-	18.6	16.5	23.7	26.7	33.1	33.3
わからない	50.0	19.6	19.0	19.5	16.8	13.6	14.8

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

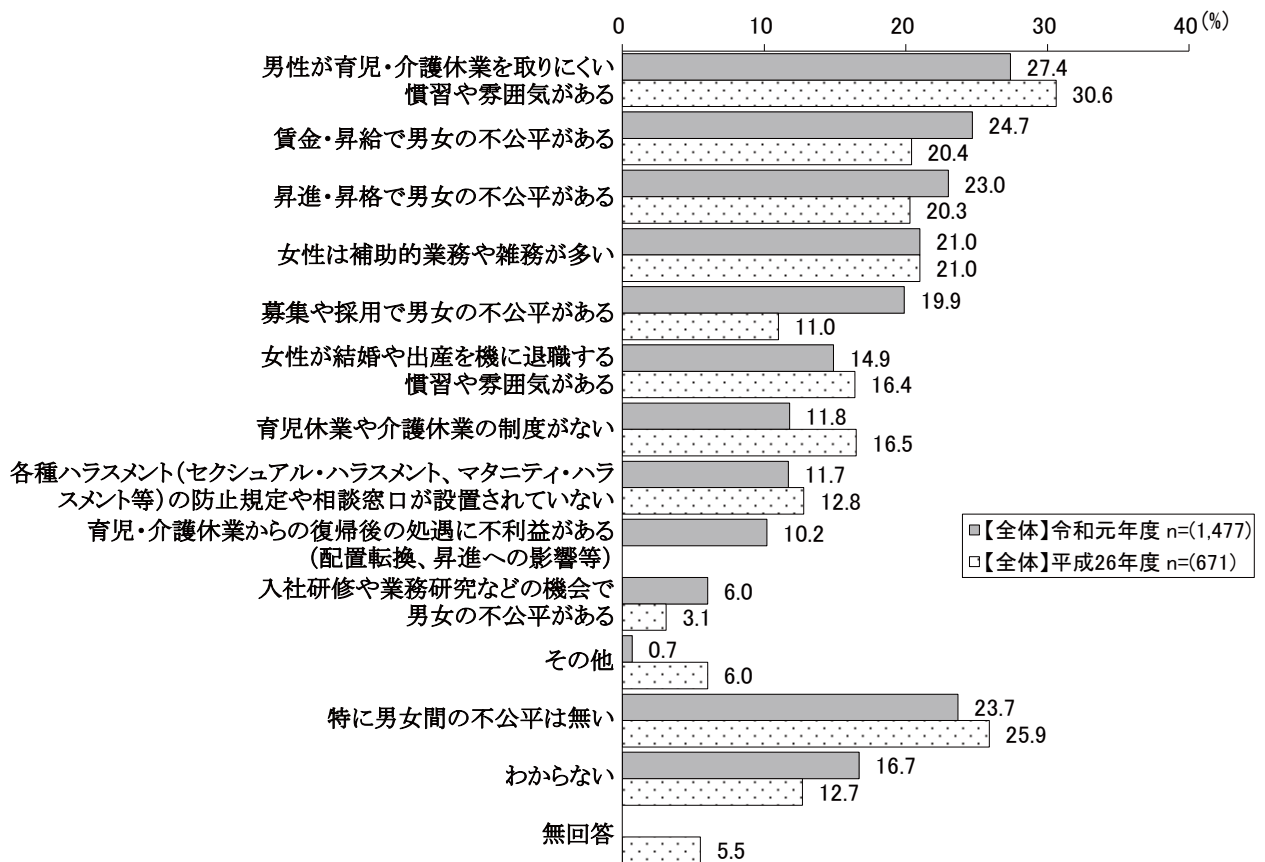
<さらに見てみると・・・>

問16-2、問16-4の男性が育児・介護休業を取得できない理由について、「職場に取りやすい雰囲気がないから」がそれぞれ約6割(問16-2:60.2%、問16-4:58.2%)となっている一方で、問22-2の職場における男女間の不公平・未整備の状況では「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」が約3割(27.4%)と差が生じている。これは、問16-2、問16-4では現職・無職双方を対象者としており、問22-2では現職のみを対象者としていることや、前者が世間一般のイメージについての設問に対し、後者は自身の職場での事実に関する設問といった違いによるものと考えられる。

◇経年変化（参考）

- 「募集や採用で男女の不公平がある」は男女とも前回より高い
- 「賃金・昇給で男女の不公平がある」は女性で前回より高く、「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」は男性で前回より低い

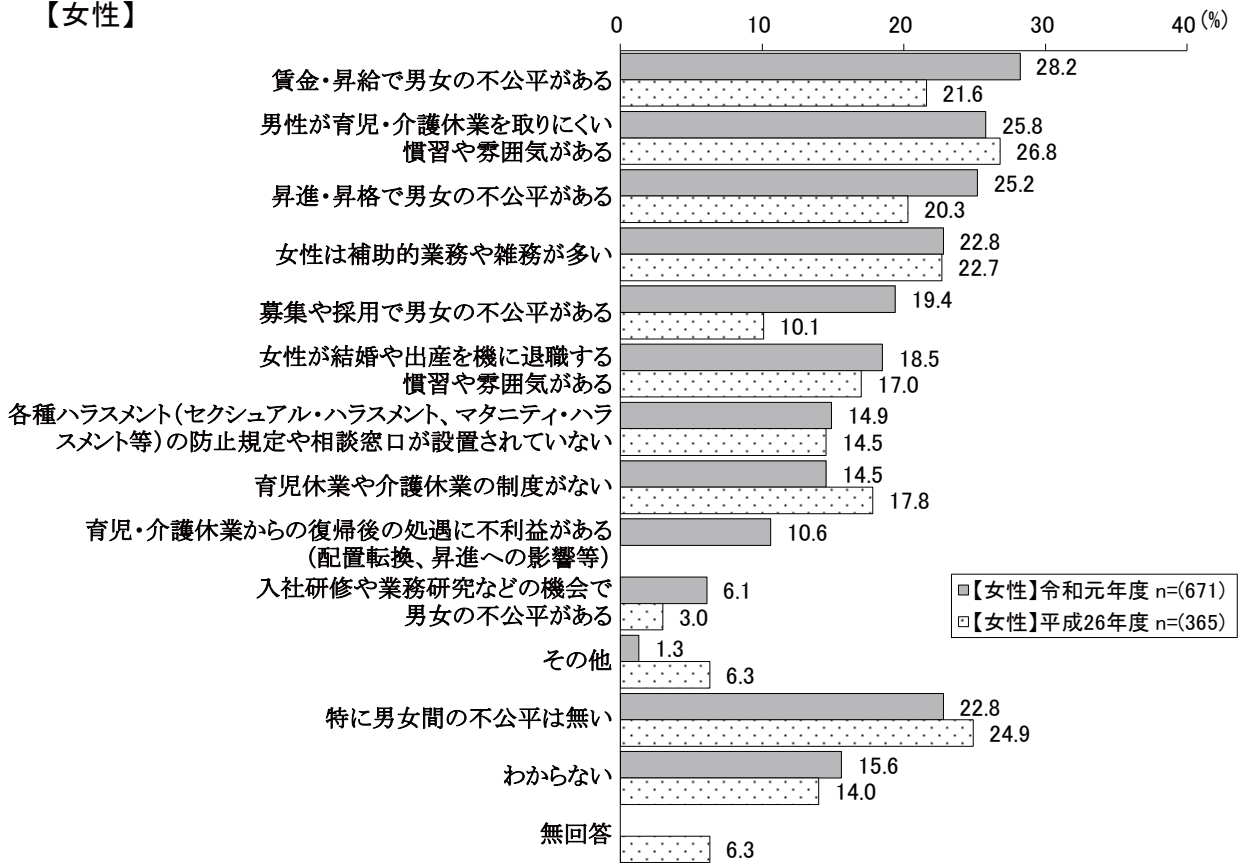
平成26年度とは項目数や文章表現等が異なるため参考として見ると、「募集や採用で男女の不公平がある」が平成26年度（全体11.0%、女性10.1%、男性12.1%）より全体は8.9ポイント、女性は9.3ポイント、男性は8.2ポイント高くなっている。「賃金・昇給で男女の不公平がある」は、男性であまり大きな変化は見られないが、女性では平成26年度（21.6%）より6.6ポイント高くなっている。一方で、「男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある」は、女性であまり大きな変化は見られないが、男性では平成26年度（35.0%）より6.2ポイント低くなっている。



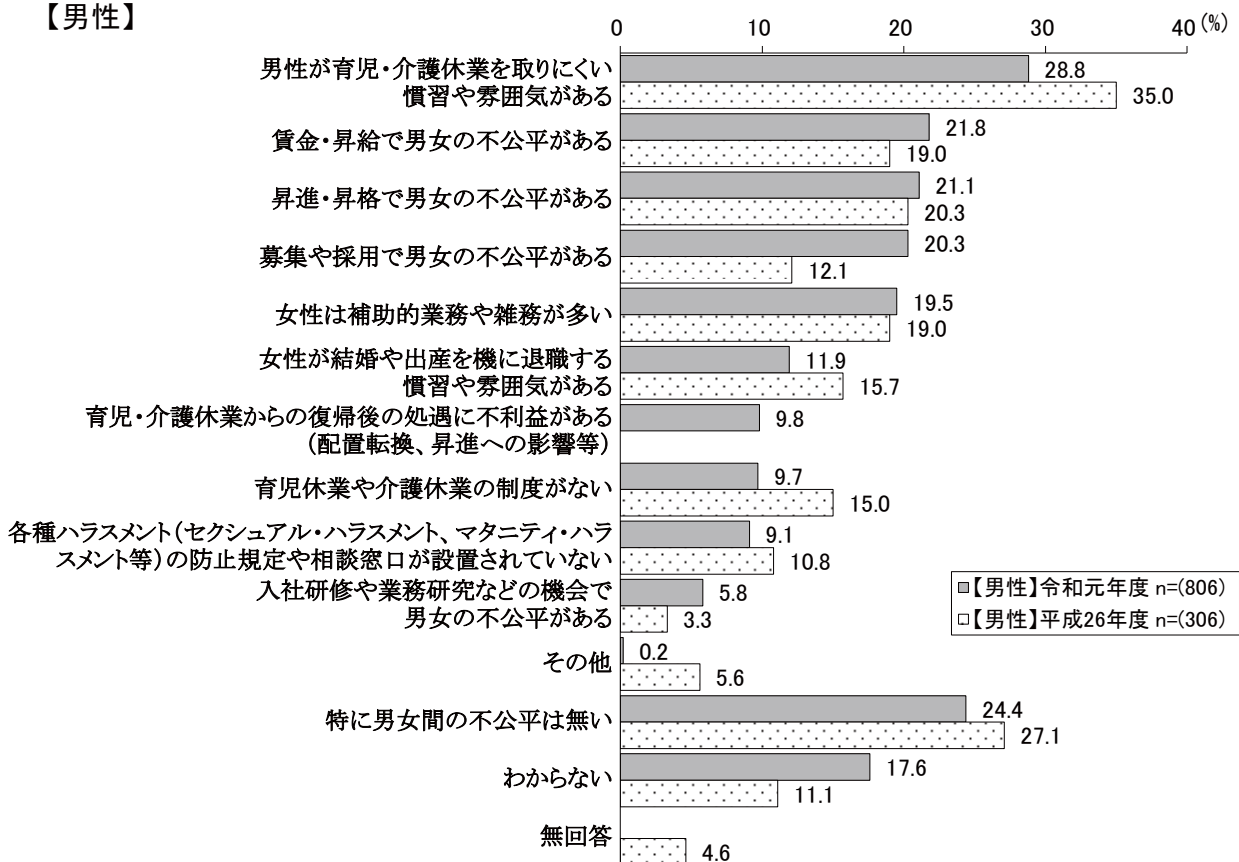
※新規調査項目：「育児・介護休業からの復帰後の処遇に不利益がある(配置転換、昇進への影響等)」

※「各種ハラスメント(セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント等)の防止規定や相談窓口が設置されていない」は平成26年度より選択肢の文言を一部変更している。

【女性】



【男性】



(6) 職場における女性の採用・管理職への登用状況

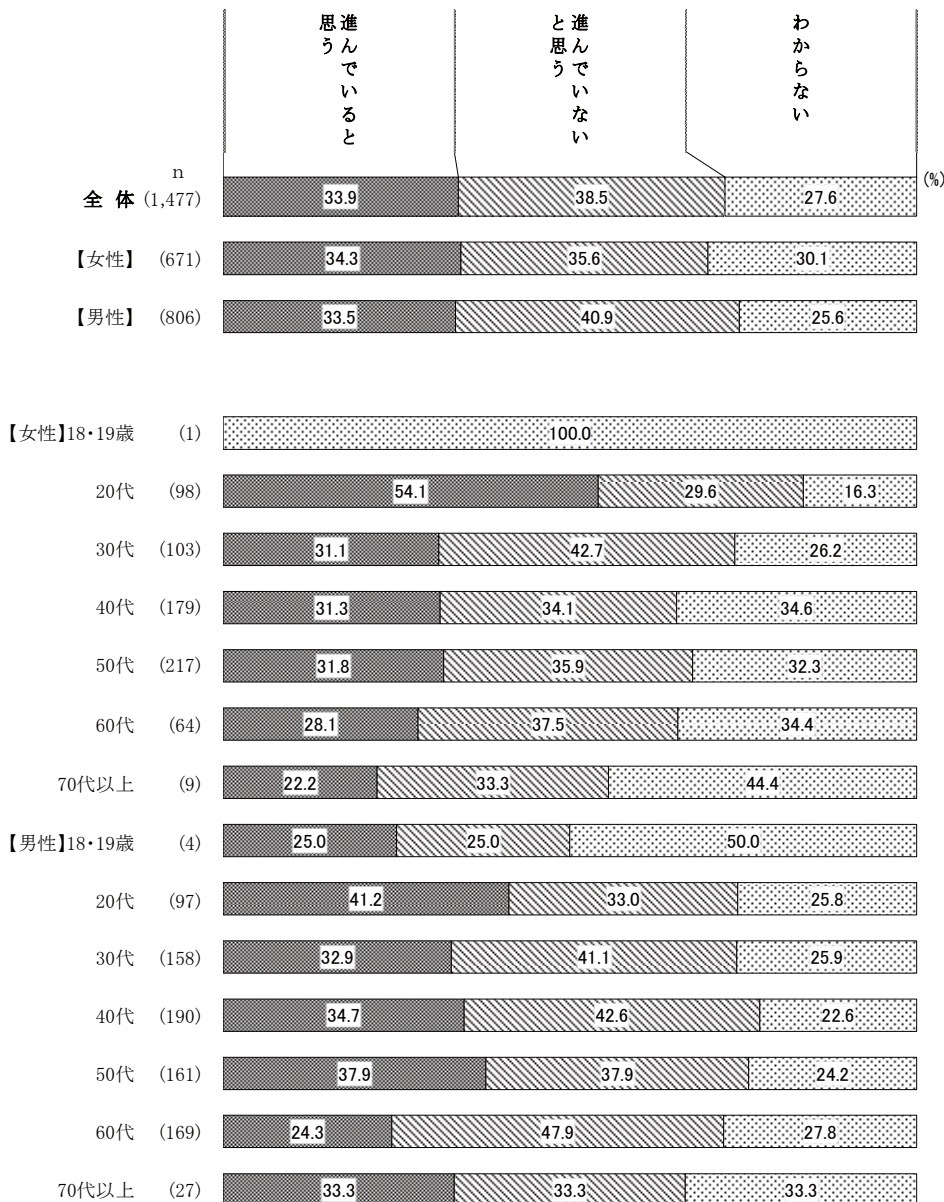
※現在働いている方

問22-3 あなたの職場では、女性の採用や管理職登用が進んでいると思いますか。
(1つに○)

- 「進んでいないと思う」は女性約4割、男性4割以上で最も高い
- 男女とも20代で「進んでいると思う」が高い

全体、男女ともに「進んでいないと思う」(全体 38.5%、女性 35.6%、男性 40.9%) が最も高くなっている。次いで「進んでいると思う」(全体 33.9%、女性 34.3%、男性 33.5%) は3割以上となっており、女性では僅差となっている。

性・年代別で見ると、男女ともに20代(女性 54.1%、男性 41.2%) は「進んでいると思う」が最も高くなっている。女性は40代(34.6%)で「わからない」が最も高いが、「進んでいないと思う」(34.1%)も同程度となっている。男性50代は「進んでいると思う」と「進んでいないと思う」が同値(37.9%)となっている。



(7) 女性が管理職に登用されるために必要なこと

※現在働いている方

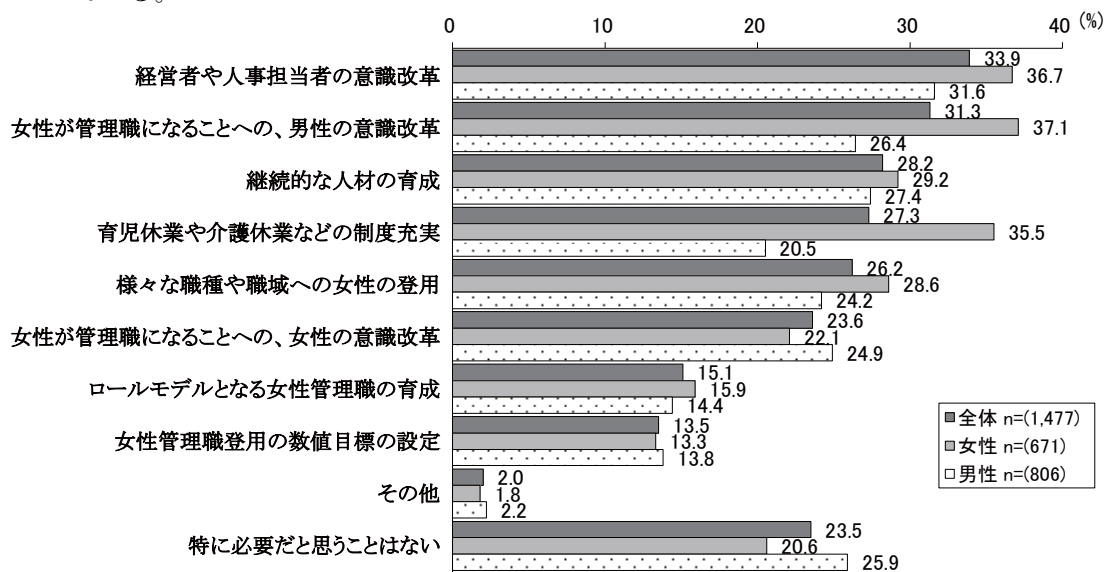
問22-4 あなたの職場で、女性の管理職に登用されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数選択可)

- 女性は「男性」、男性は「経営者や人事担当者」の意識改革が高い
- 「育児・介護休業などの制度充実」は男女差が最も大きい

全体では、「経営者や人事担当者の意識改革」(33.9%)、「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」(31.3%)が3割以上と高くなっている。

性別で見ると、女性は「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」(37.1%)が最も高く、次いで「経営者や人事担当者の意識改革」(36.7%)、「育児休業や介護休業などの制度充実」(35.5%)の上位3項目が約4割となっている。男性は「経営者や人事担当者の意識改革」(31.6%)が最も高く、次いで「継続的な人材の育成」(29.2%)、「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」(26.4%)が約3割となっており、「特に必要だと思うことはない」(25.9%)も約3割となっている。

男女差は、「育児休業や介護休業などの制度充実」が最も大きく、女性(35.5%)が男性(20.5%)より15.0ポイント高くなっており、「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」も女性(37.1%)が男性(26.4%)より10.7ポイント高くなっている。



◇性・年代別

- 男性はほとんどの年代で「経営者や人事担当者の意識改革」が最も高い
- 「様々な職種や職域への女性の登用」は女性20代で4割以上

性・年代別で見ると、女性は年代によって上位の項目が異なっているが、男性はすべての年代で「経営者や人事担当者の意識改革」が最も高くなっている。女性は「経営者や人事担当者の意識改革」や「女性が管理職になることへの、男性の意識改革」、「育児休業や介護休業などの制度充実」がどの年代でも高くなっている。また、女性20代で「様々な職種や職域への女性の登用」(42.9%)が4割以上と高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	1	98	103	179	217	64	9
経営者や人事担当者の意識改革	-	40.8	38.8	37.4	34.6	34.4	22.2
女性が管理職になることへの、男性の意識改革	-	48.0	35.0	34.1	35.0	40.6	33.3
継続的な人材の育成	-	35.7	35.0	26.3	26.7	23.4	55.6
育児休業や介護休業などの制度充実	-	43.9	43.7	35.2	26.7	42.2	22.2
様々な職種や職域への女性の登用	-	42.9	30.1	22.9	25.3	32.8	22.2
女性が管理職になることへの、女性の意識改革	-	28.6	19.4	20.1	22.1	23.4	11.1
ロールモデルとなる女性管理職の育成	-	27.6	18.4	13.4	14.3	9.4	0.0
女性管理職登用の数値目標の設定	-	27.6	12.6	10.6	11.5	6.3	11.1
その他	-	1	3.9	1.1	0.9	4.7	-
特に必要だと思うことはない	100	9.2	13.6	22.9	24.9	26.6	22.2

※濃い色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	4	97	158	190	161	169	27
経営者や人事担当者の意識改革	50.0	29.9	34.8	32.1	31.1	28.4	37.0
女性が管理職になることへの、男性の意識改革	25.0	24.7	32.3	26.8	21.7	27.2	18.5
継続的な人材の育成	50.0	27.8	31.6	31.1	21.1	23.1	37.0
育児休業や介護休業などの制度充実	25.0	15.5	25.3	19.5	18.6	20.7	25.9
様々な職種や職域への女性の登用	25.0	21.6	26.6	21.6	27.3	22.5	29.6
女性が管理職になることへの、女性の意識改革	25.0	16.5	30.4	26.3	21.1	25.4	33.3
ロールモデルとなる女性管理職の育成	-	20.6	14.6	16.3	13.7	7.1	29.6
女性管理職登用の数値目標の設定	50.0	13.4	15.2	16.8	9.9	11.2	18.5
その他	-	2.1	1.9	1.1	3.7	3	-
特に必要だと思うことはない	25	28.9	19.6	26.8	28.6	26.6	25.9

※濃い色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

（8）これまでの働き方

※現在働いていない方

問23-1 あなたのこれまでの働き方はどれですか。（1つに○）

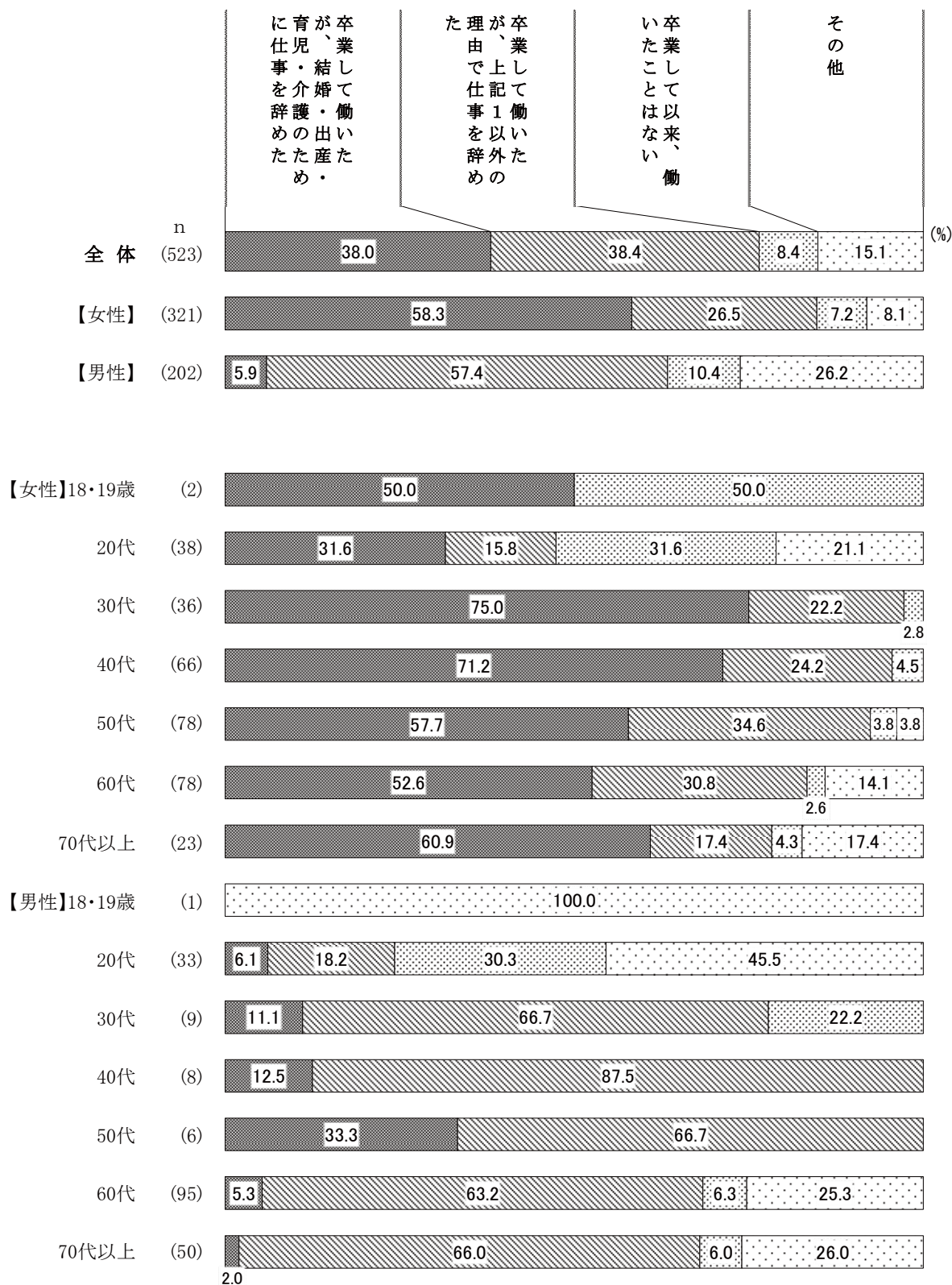
- 「結婚・出産・育児・介護のため仕事を辞めた」は女性約6割、男性1割未満
- 男性は定年退職によるものが多いとかがえる

回答者に占める女性の割合が高く、男性の該当者の多くが20代・60代以上であることを考慮する必要があるが、女性は「卒業して働いたが、結婚・出産・育児・介護のために仕事を辞めた」（58.3%）が最も高く、男性は「卒業して働いたが、結婚・出産・育児・介護以外の理由で仕事を辞めた」（57.4%）が最も高くなっている。女性で最も高くなっている「卒業して働いたが、結婚・出産・育児・介護のために仕事を辞めた」は、男性（5.9%）で1割未満となっている。

「卒業して働いたが、結婚・出産・育児・介護のために仕事を辞めた」は、女性（58.3%）が男性（5.9%）より52.4ポイント高くなっている。また、「卒業して働いたが、結婚・出産・育児・介護以外の理由で仕事を辞めた」は、男性（57.4%）が女性（26.5%）より30.9ポイント高くなっている。女性が仕事を辞める理由の大半は、結婚・出産・育児・介護のためであることがうかがえる。

性・年代別で見ると、女性は20代を除くすべての年代で「卒業して働いたが、結婚・出産・育児・介護のため仕事を辞めた」が最も高く、特に30代（75.0%）・40代（71.2%）は7割以上となっている。男性については年代別の分析は行わないが、回答者の多くが60代以上であることから、定年退職によるものが多く含まれていると考えられる。

【問23-1】



(9) 就労意向

※現在働いていない方

問23-2 あなたは、今後働きたいと思いますか。(1つに○)

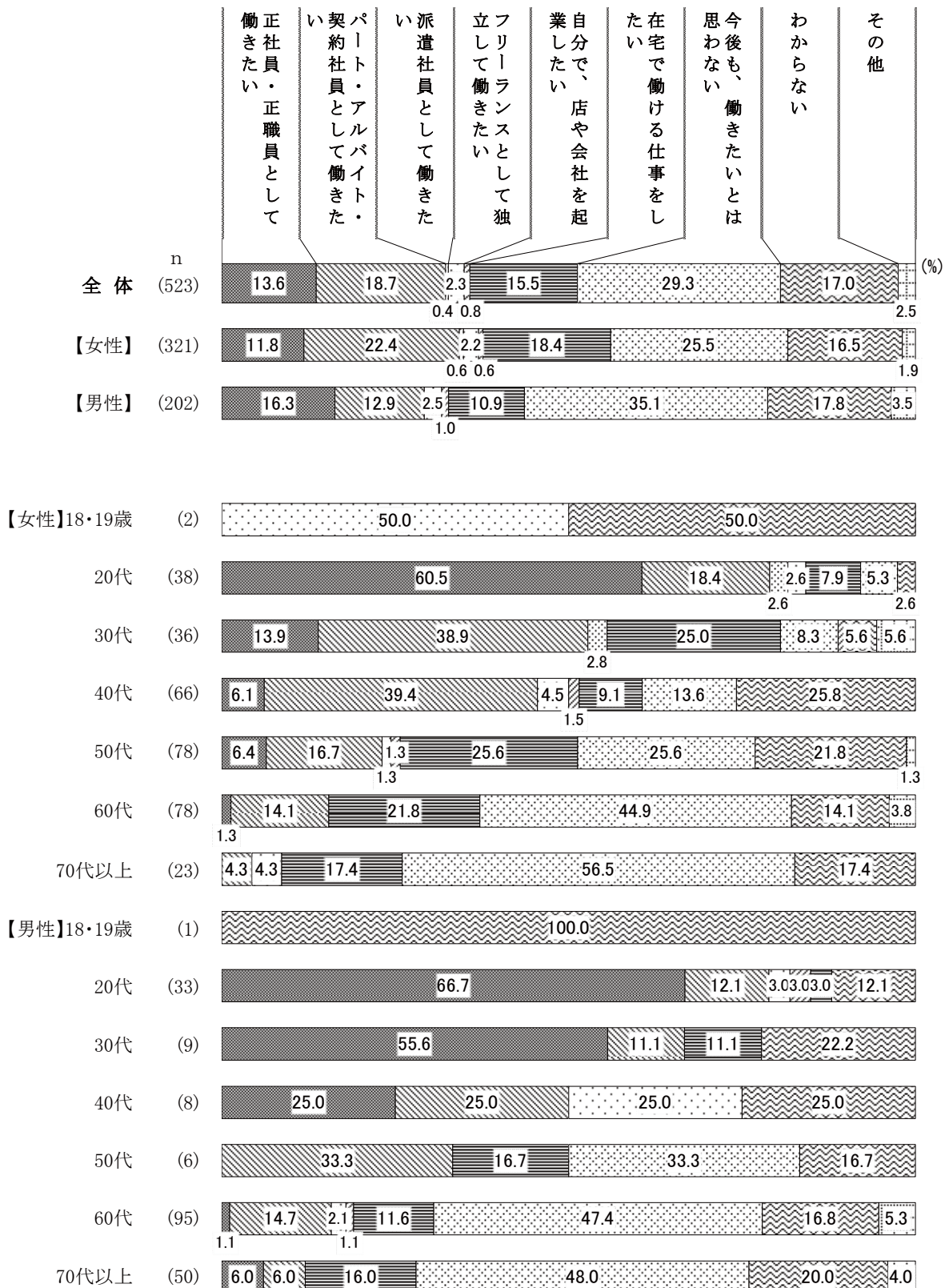
- 「今後も、働きたいとは思わない」は女性約3割、男性約4割
- 女性は若い年代ほど働く意向が強く、20代で最も強い

回答者に占める女性の割合が高く、男性の該当者の多くが60代以上であることを考慮する必要があるが、全体、男女とも「今後も、働きたいとは思わない」(全体29.3%、女性25.5%、男性35.1%)が最も高く、次いで全体、女性は「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」(全体18.7%、女性22.4%)、男性は「わからない」(17.8%)、「正社員・正職員として働きたい」(16.3%)となっている。

《働きたい(計)》(「正社員・正職員として働きたい」「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」「派遣社員として働きたい」「フリーランスとして独立して働きたい」「自分で、店や会社を起業したい」「在宅で働ける仕事をしたい」の合計値)は、女性(56.0%)が男性(43.6%)より12.4ポイント高くなっている。また、「今後も、働きたいとは思わない」は、男性(35.1%)が女性(25.5%)より9.6ポイント高くなっている。

女性について年代別に見ると、20代は「正社員・正職員として働きたい」(60.5%)、30代・40代は「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」(30代38.9%、40代39.4%)、50代は「在宅で働ける仕事をしたい」と「今後も、働きたいとは思わない」が同値(25.6%)、60代・70代以上は「今後も、働きたいとは思わない」(60代44.9%、70代以上56.5%)が最も高くなっている。《働きたい(計)》を見ると、20代(92.0%)が9割以上で最も高く、若い年代ほど値が高い傾向がうかがえる。

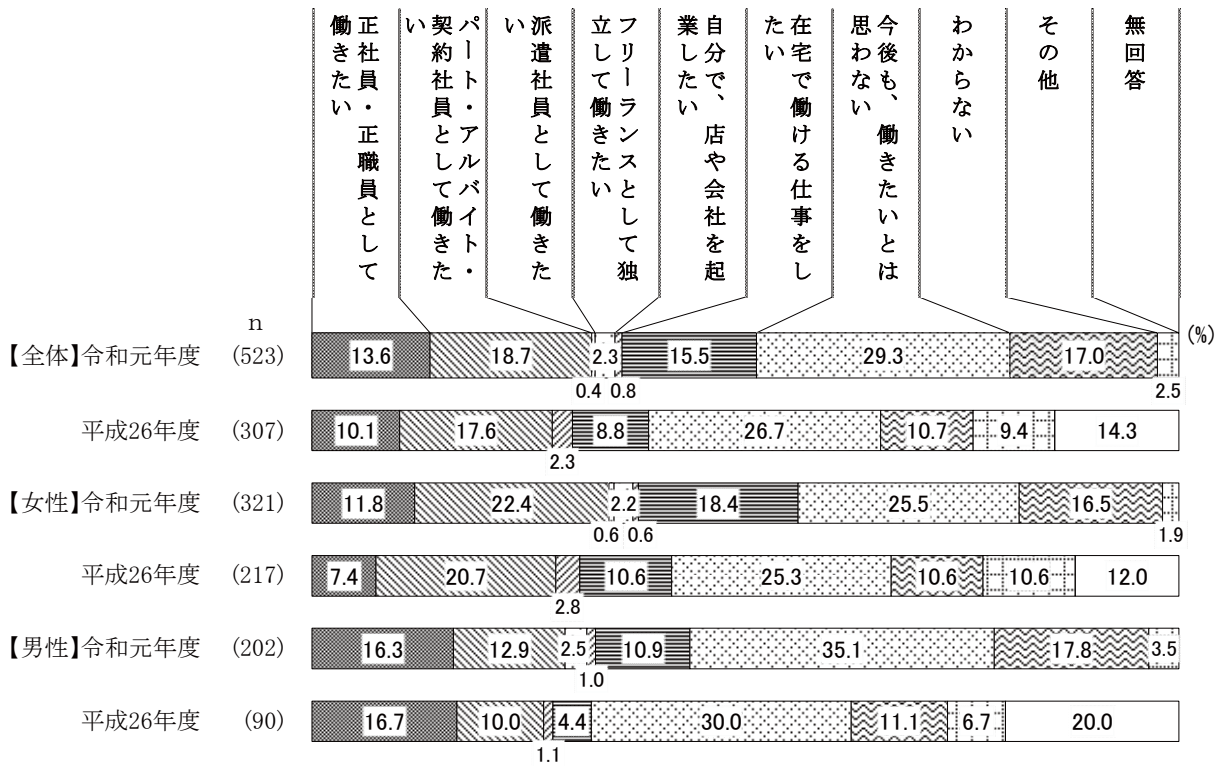
【問23-2】



◇経年変化（参考）

● 男女とも「働きたい」が前回より高い

平成 26 年度とは項目数や文章表現等が異なることや、無回答が多かったことから参考として見ると、《働きたい（計）》（「正社員・正職員として働きたい」「パート・アルバイト・契約社員として働きたい」「派遣社員として働きたい」「フリーランスとして独立して働きたい」「自分で、店や会社を起業したい」「在宅で働ける仕事をしたい」「在宅で働ける仕事をしたい」「在宅で働ける仕事をしたい」の合計値）は、平成 26 年度（全体 38.8%、女性 41.5%、男性 32.2%）より全体は 12.5 ポイント、女性は 14.5 ポイント、男性は 11.4 ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「今後も、働きたいとは思わない」は、全体、女性では大きな変化は見られないが、男性では平成 26 年度（30.0%）より 5.1 ポイント高くなっている。



※平成26年度は「パート・アルバイトとして働きたい」、「派遣・登録社員として働きたい」となっている。
 ※新規調査項目：「フリーランスとして独立して働きたい」

6. ドメスティック・バイオレンス（DV）等について

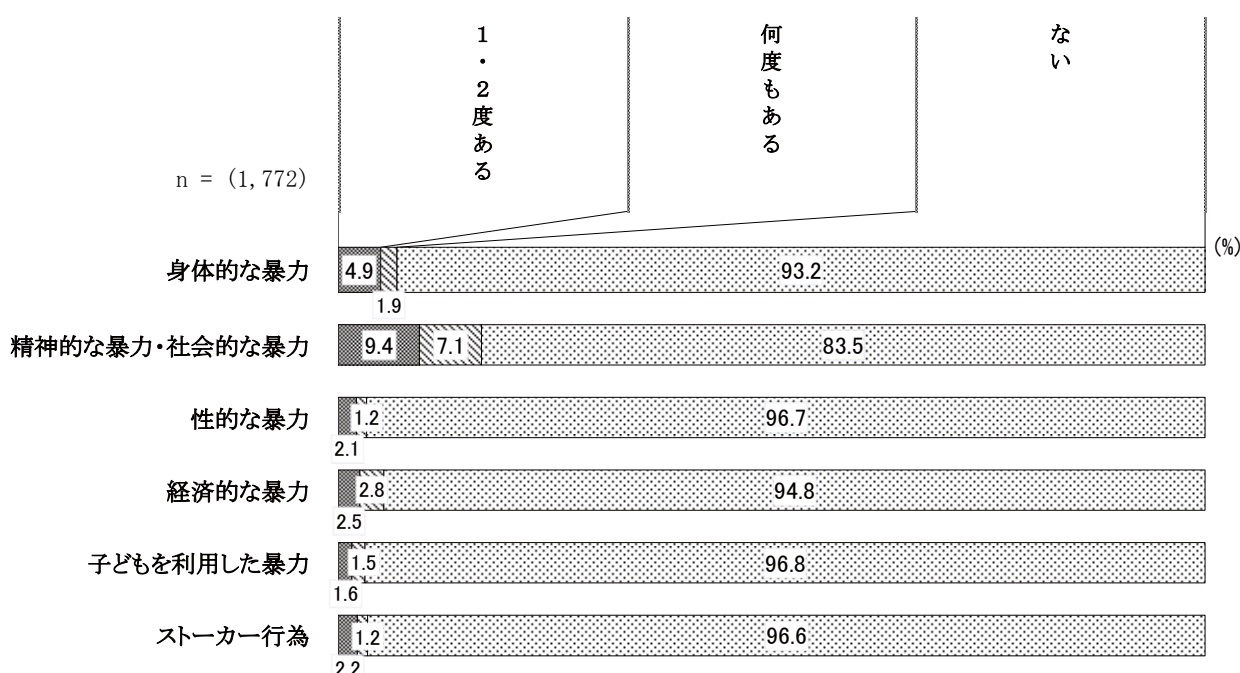
（1）DV被害経験

※DVの項目は、回答への同意をいただいた方のみ

問24-1 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等のパートナーからされたことがありますか。（それぞれ1つに○）

● 「精神的・社会的な暴力」は《ある（計）》が約2割で最も高い

『精神的な暴力・社会的な暴力』は、「1・2度ある」（9.4％）が比較的高くなっている。《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）を見ると、『精神的な暴力・社会的な暴力』（16.5％）が約2割と最も高くなっている。



◇何らかの被害経験「あり」

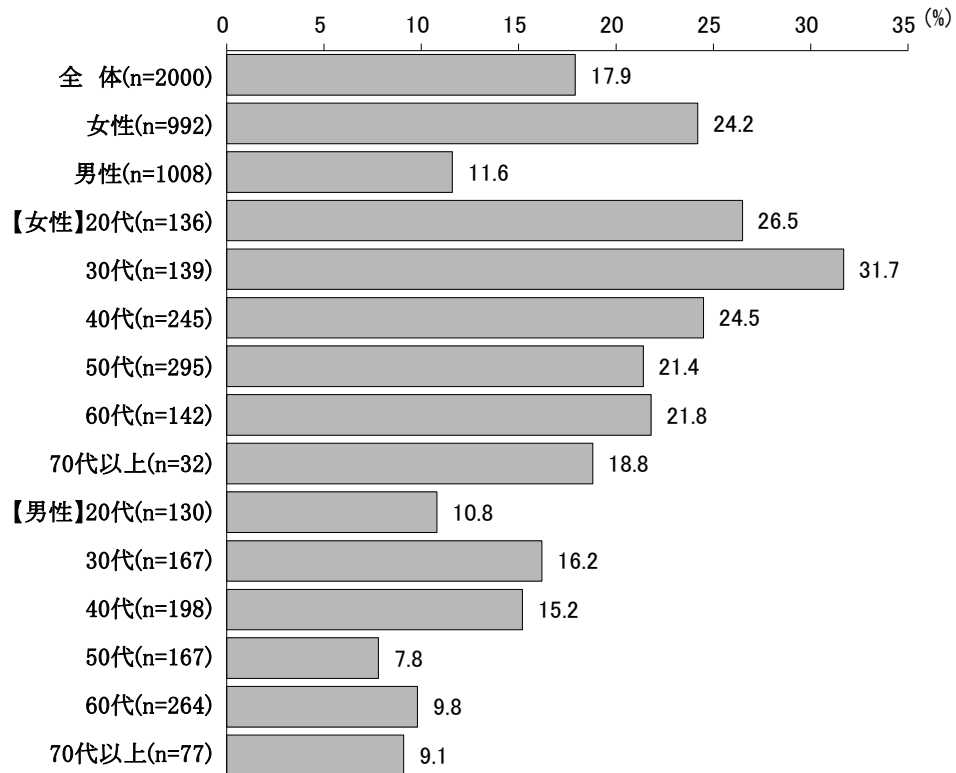
- 被害経験は女性2割以上、男性1割以上
- 男女とも30代での被害経験が最も多い

何らかの被害経験がある人は、女性（24.2％）が2割以上、男性（11.6％）が1割以上となっており、女性が男性より12.6ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は70代以上を除くすべての年代で2割以上となっており、30代（31.7％）が3割以上で最も高くなっている。男性は30代・40代で約2割となっている。すべての年代で女性が男性より高くなっており、男女差は20代（女性26.5％、男性10.8％）で最も大きく、女性が15.7ポイント高くなっている。また、30代（女性31.7％、男性16.2％）も女性が15.5ポイント高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

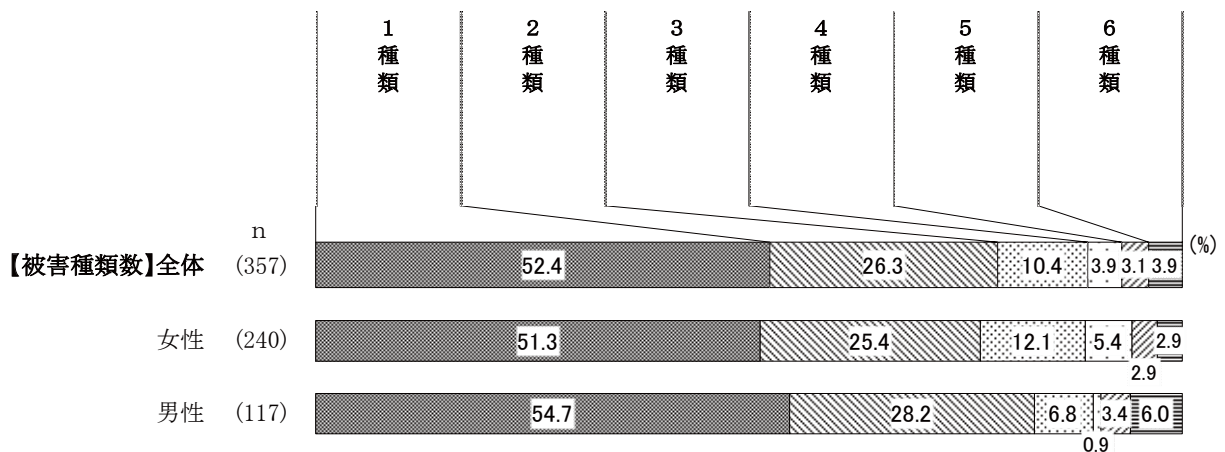
【問 24-1 何らかの被害経験「あり」】



◇被害の種類

● 「1種類」が男女ともに5割以上

内容の種類数を見ると、「1種類」（全体 52.4%、女性 51.3%、男性 54.7%）が最も高く、次いで「2種類」（全体 26.3%、女性 25.4%、男性 28.2%）となっている。また、被害の種類数は、女性では「3種類」（12.1%）が1割以上見られる。

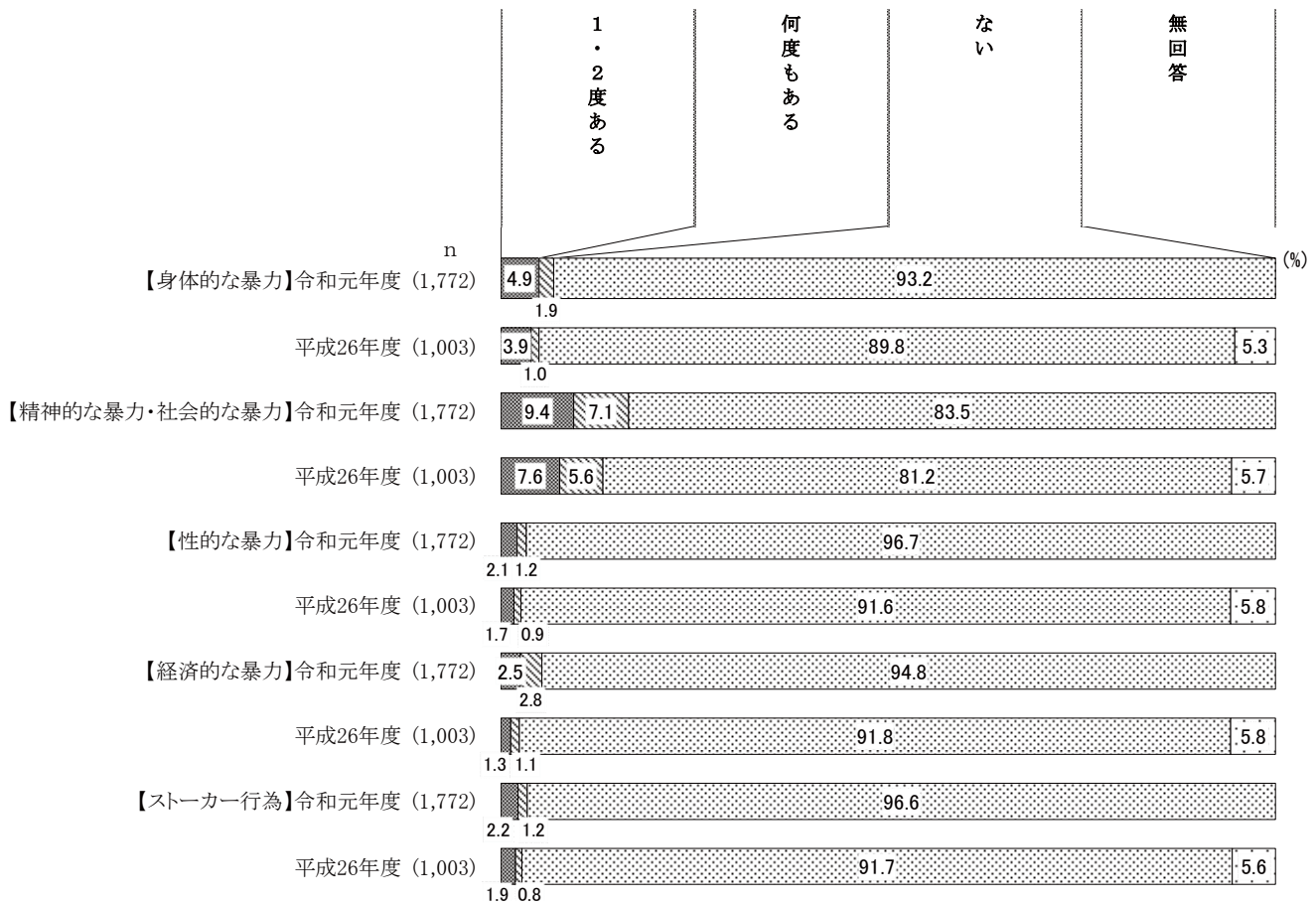


◇経年変化

● 大きな変化は見られない

被害経験の経年変化を見ると、いずれの項目も平成26年度からの大きな変化は見られない。

【問 24-1 経年変化】



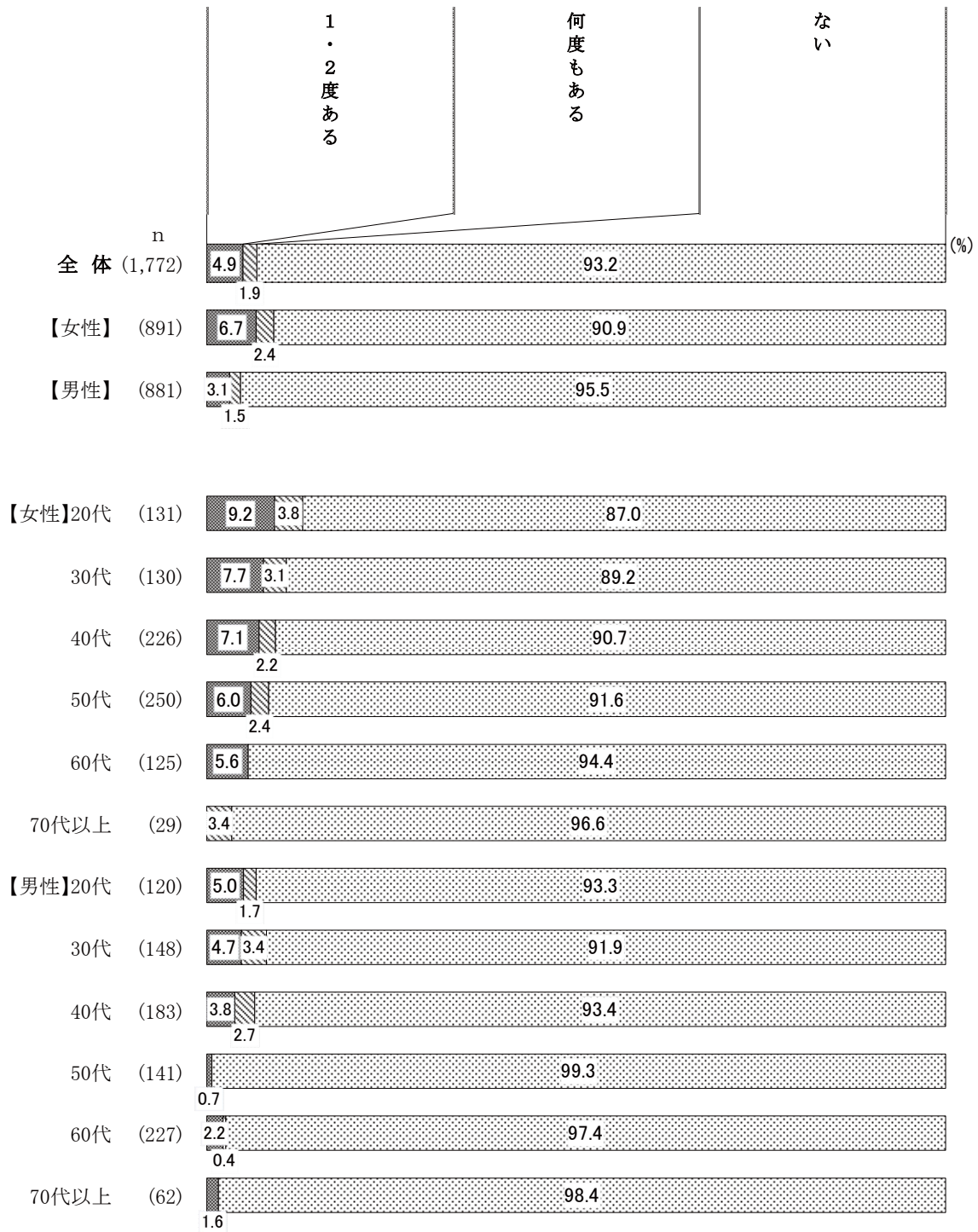
問 24-1 ①身体的な暴力の被害経験

- 被害経験は女性で男性よりもある
- 女性 20 代・30 代で被害経験は 1 割以上

被害経験について、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（9.1%）、男性（4.6%）ともに 1 割未満で、女性が男性より 4.5 ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、被害経験が《ある（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、女性は 20 代（13.0%）・30 代（10.8%）で 1 割以上と特に高く、男性は 30 代（8.1%）で最も高くなっている。

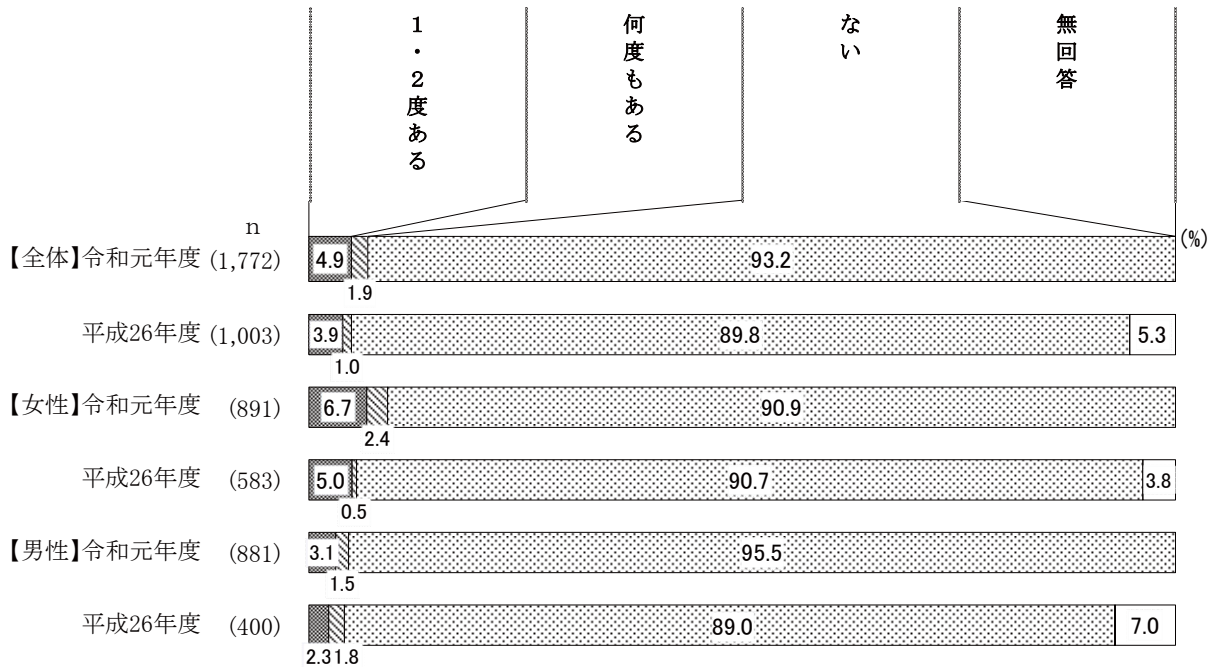
【問24—1 ①身体的な暴力の被害経験】



◇経年変化

● 女性で被害経験がわずかに増加

身体的な暴力の被害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、大きな変化は見られないが、依然として被害経験があるとの回答があった。女性では平成26年度（5.5%）より3.6ポイント高くなっている。



問24-1 ②精神的な暴力・社会的な暴力の被害経験

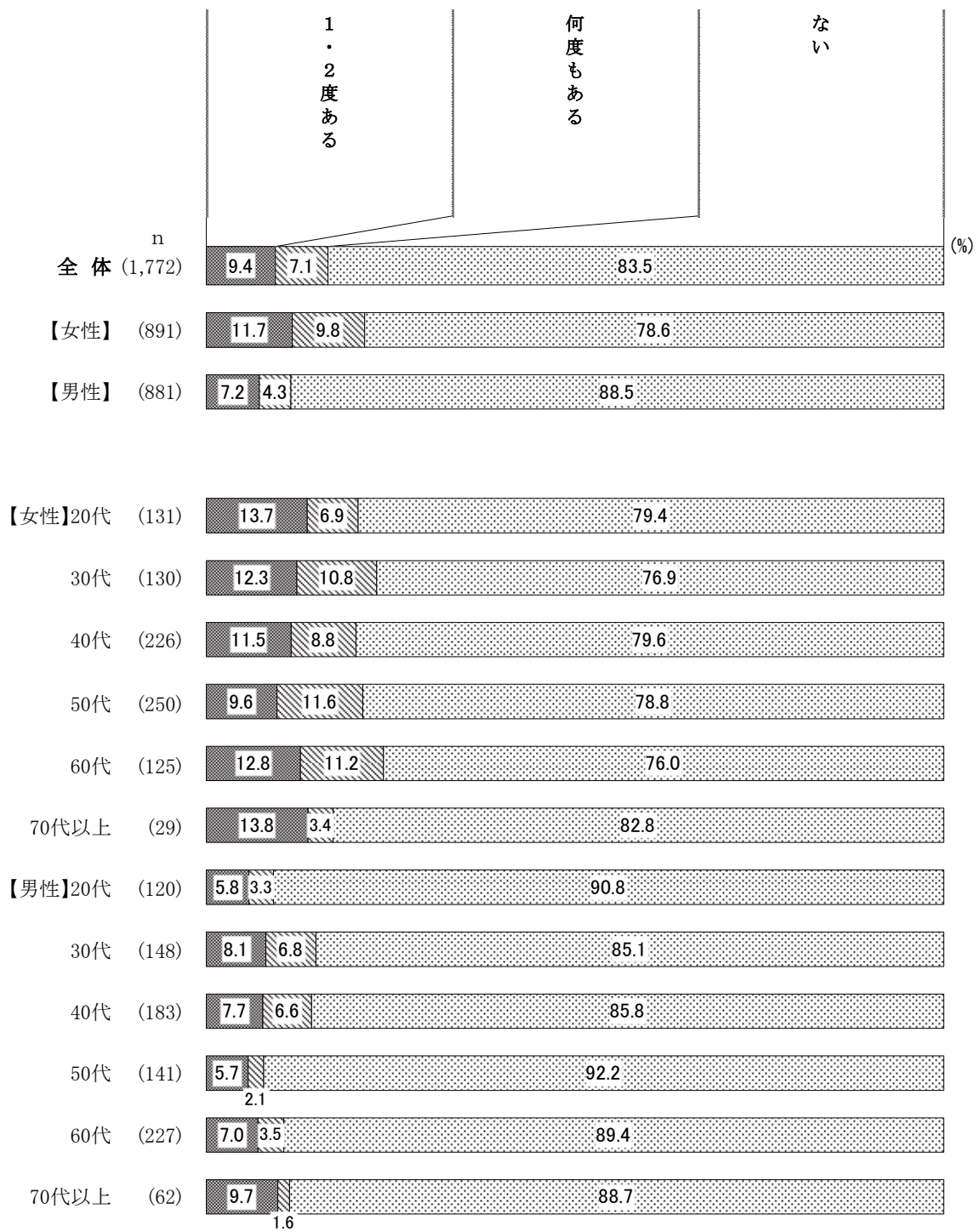
● 被害経験は女性2割以上、男性1割以上

● 《ある（計）》は女性60代、男性30代で最も高い

被害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（21.5%）が2割以上、男性（11.5%）が1割以上で、女性が男性より10.0ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、被害経験が《ある（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、女性60代（24.0%）と30代（23.1%）、男性は30代（14.9%）と40代（14.3%）で特に高くなっている。

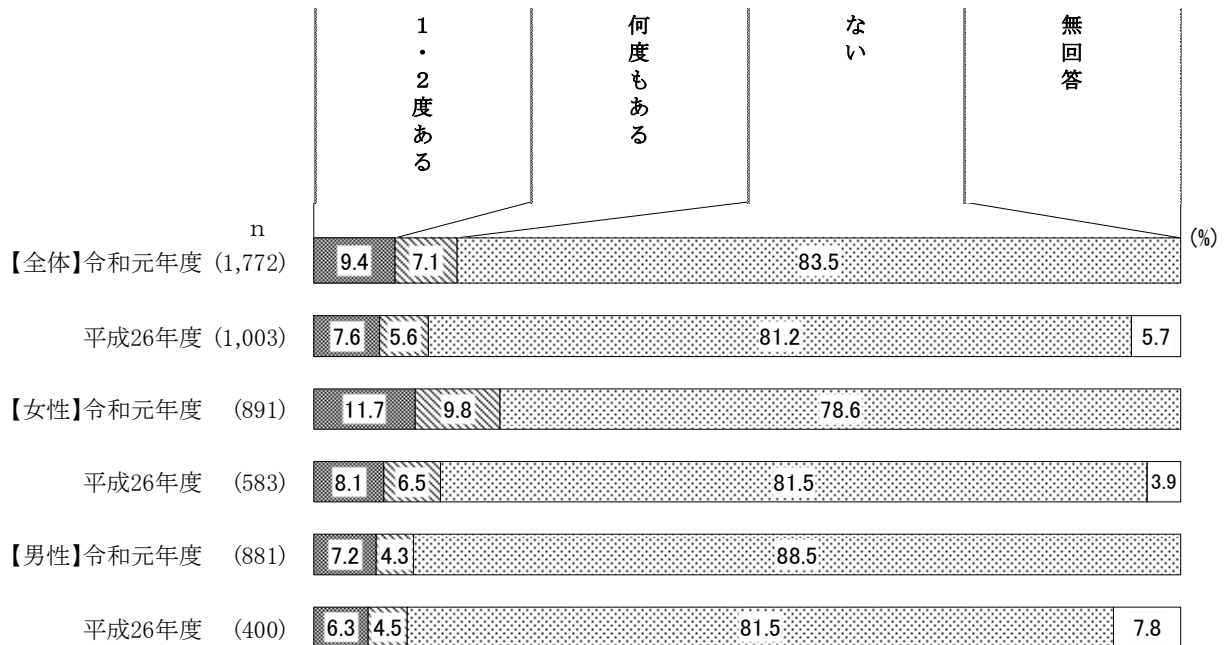
【問24-1 ②精神的な暴力・社会的な暴力の被害経験】



◇経年変化

● 女性で被害経験が増加

精神的な暴力・社会的な暴力の被害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、全体、男性ではあまり大きな変化は見られないが、依然として被害経験があるとの回答があった。女性では平成26年度（14.6%）より6.9ポイント高くなっている。



問24-1 ③性的な暴力の被害経験

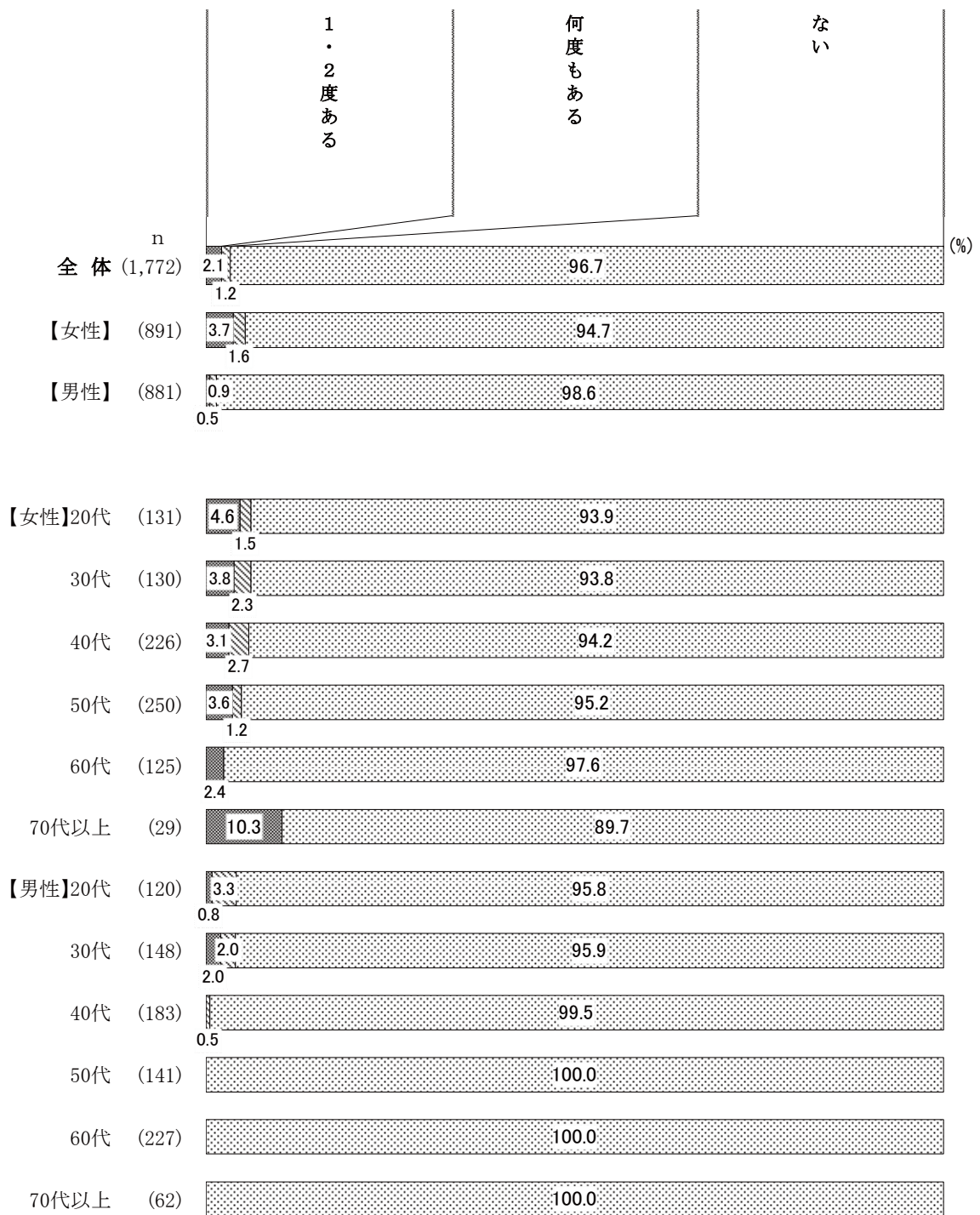
● 被害経験は女性で男性よりもある

● 男性は20～40代で被害経験があるとの回答があった

被害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（5.3%）、男性（1.4%）と男女ともに1割未満で、女性が男性より3.9ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、被害経験が《ある（計）》は、すべての年代で女性が男性より高くなっており、男性は20代（4.1%）・30代（4.0%）・40代（0.5%）で回答があった。

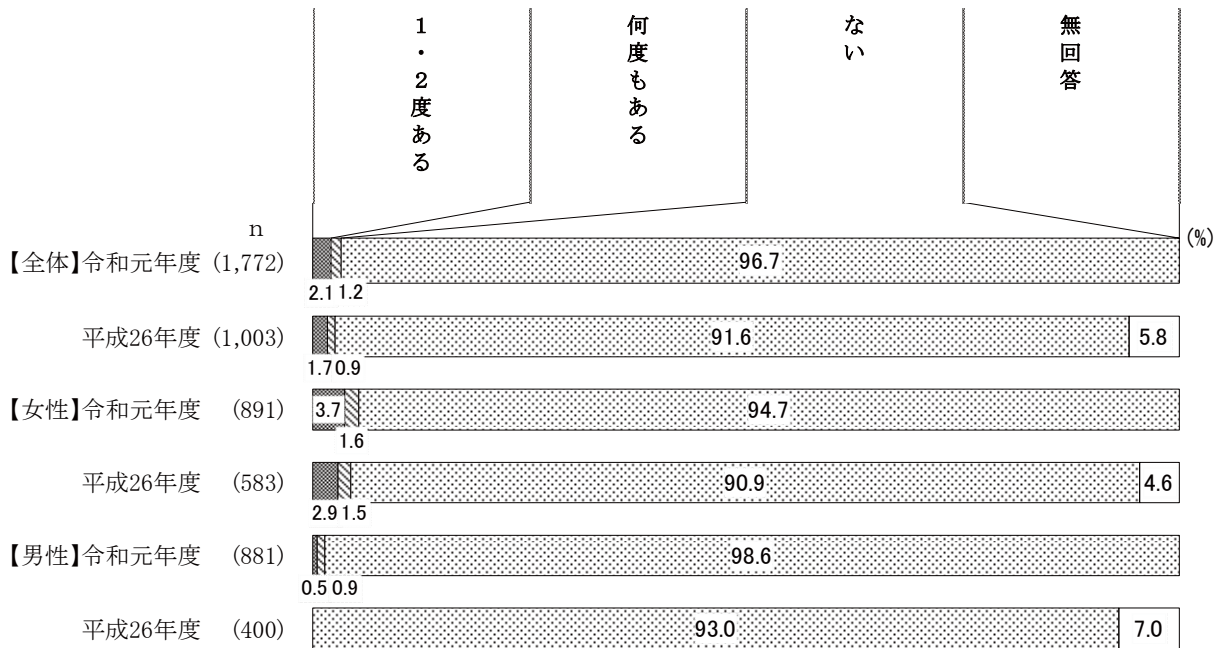
【問24-1 ③性的な暴力の被害経験】



◇経年変化

● 男性で 1.4%の人に被害経験あり

性的な暴力の被害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、全体、女性であまり大きな変化は見られないが、依然として被害経験があるとの回答があった。男性は前回調査では回答者がいなかったが、今回調査では 1.4%の人が被害経験があると回答している。



問24—1 ④経済的な暴力の被害経験

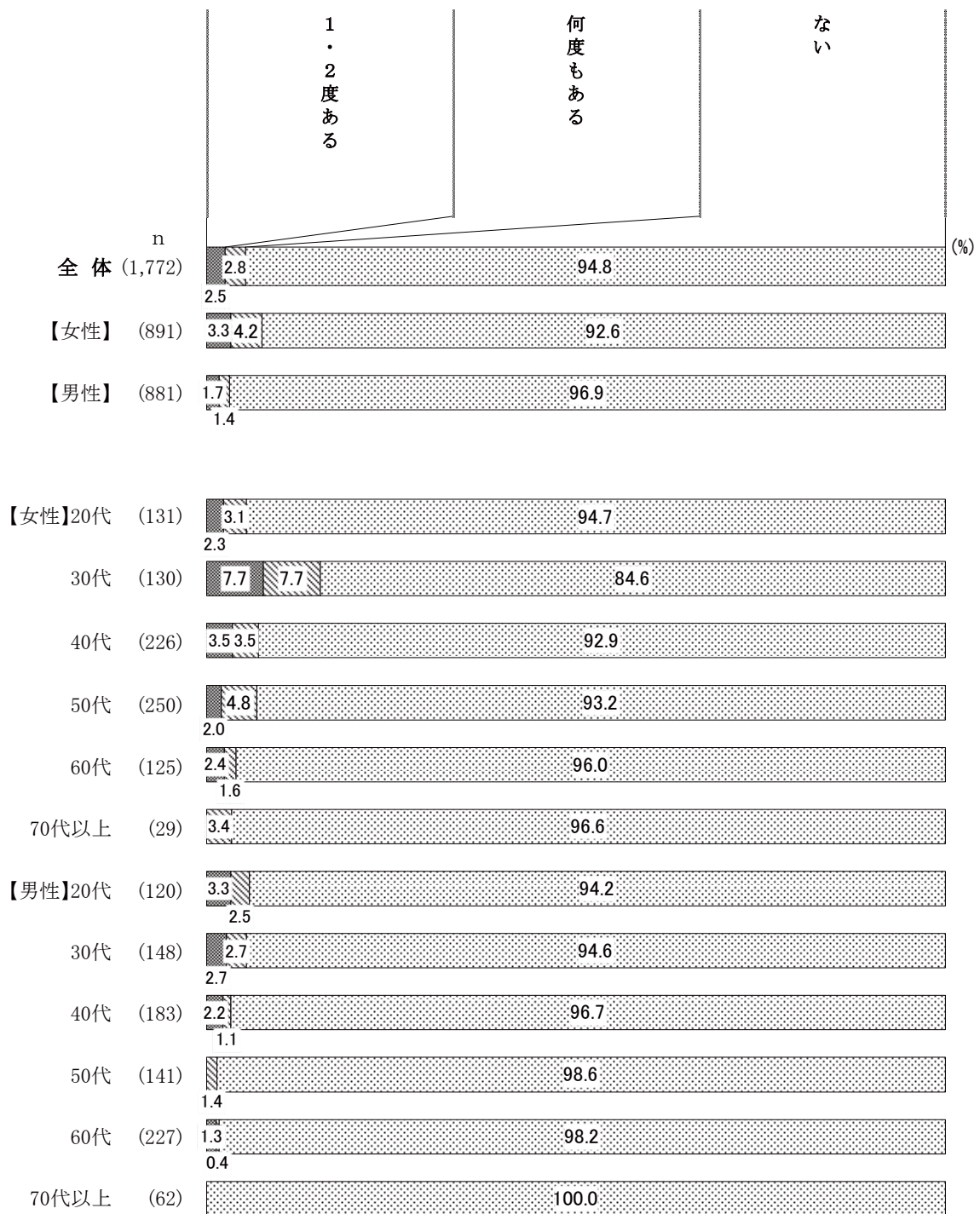
● 20代は男女で被害経験にほとんど差がない

● 女性30代で被害経験は約2割で最も高い

被害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（7.5%）、男性（3.1%）と男女ともに1割未満で、女性が男性より4.4ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、被害経験が《ある（計）》は、20代を除くすべての年代で女性が男性より高くなっており、20代は女性（5.4%）と男性（5.8%）で同程度となっている。また、女性30代（15.4%）では約2割と最も高くなっている。

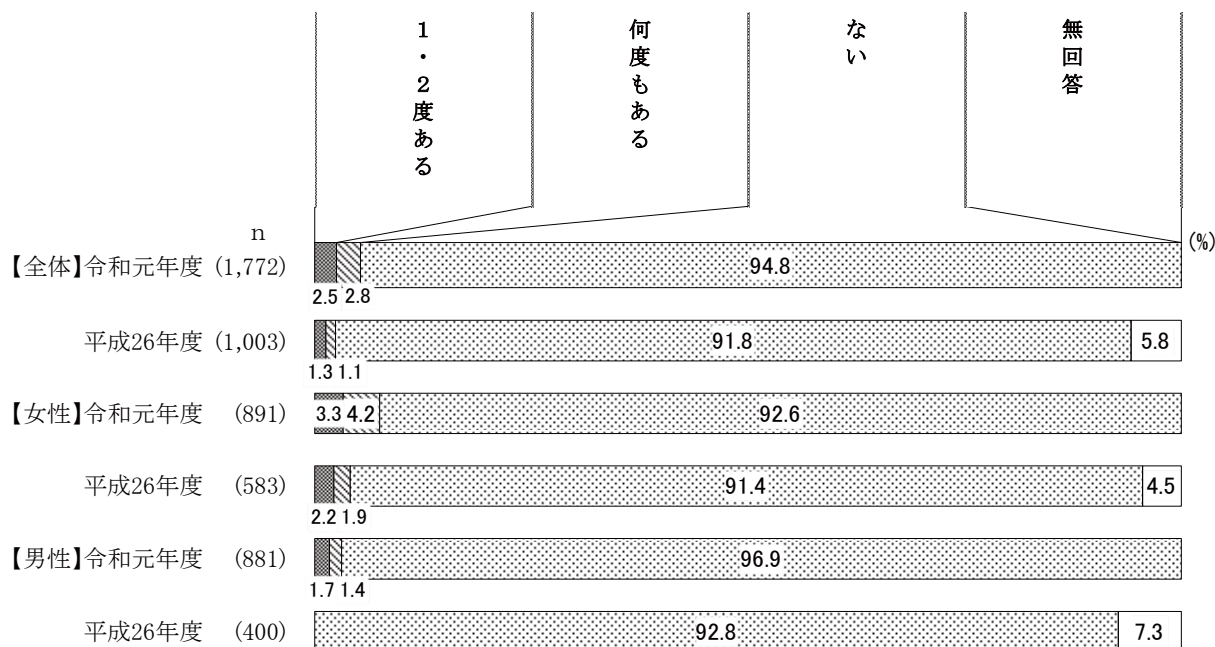
【問24—1 ④経済的な暴力の被害経験】



◇経年変化

● 男性で3.1%の人に被害経験あり

経済的な暴力の被害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性で平成26年度（4.1%）より3.4ポイントとわずかに上昇している。男性は前回調査では回答者がいなかったが、今回調査では3.1%の人が被害経験があると回答している。



問24—1 ⑤子どもを利用した暴力の被害経験

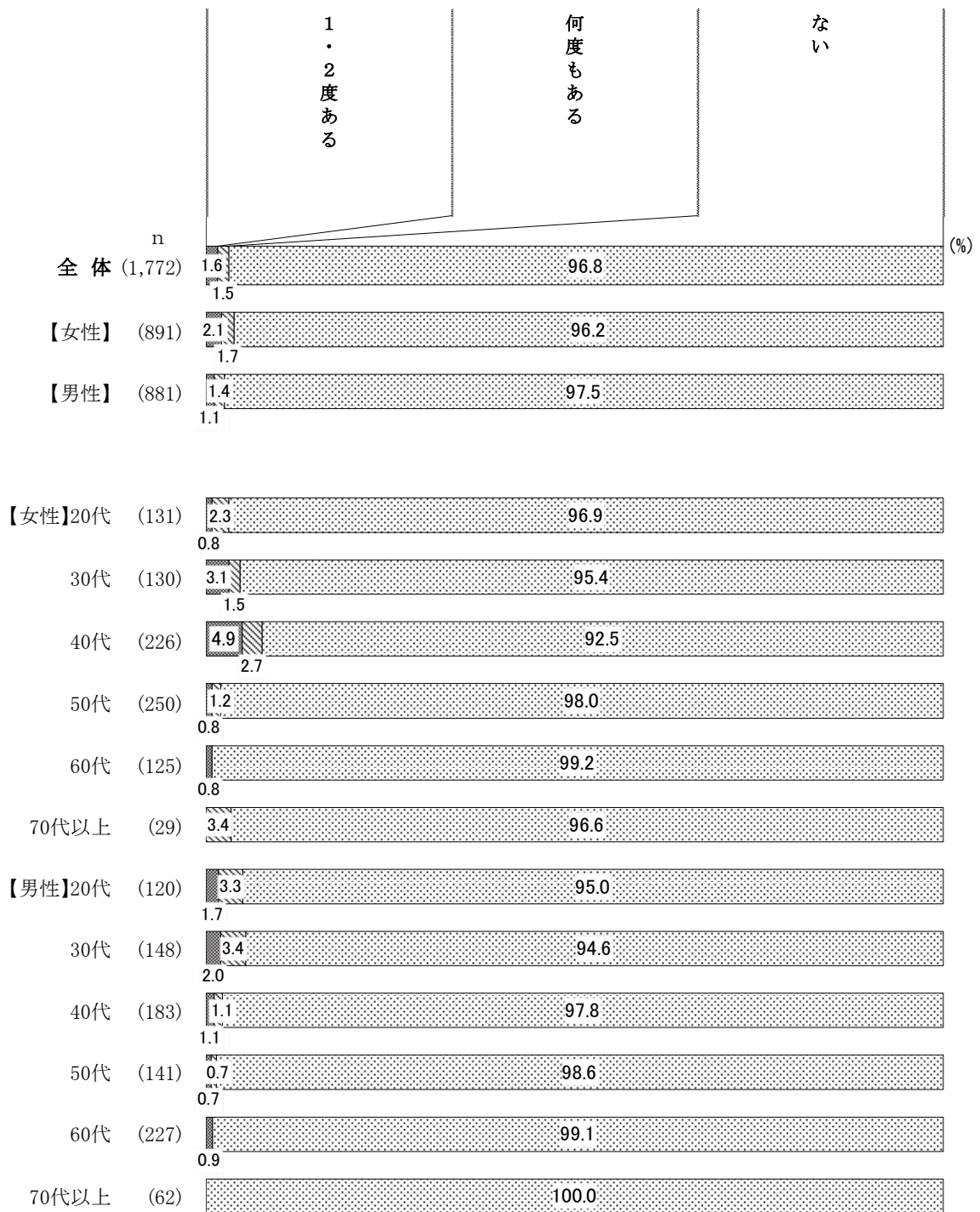
● 被害経験は男女ともに1割未満

● 40代で《ある（計）》の男女差が最も大きい

被害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（3.8%）、男性（2.5%）と男女ともに1割未満で、女性と男性で大きな差は見られない。

性・年代別で見ると、被害経験が《ある（計）》は、男性70代以上を除くすべての年代で回答があり、男女差は40代（女性7.6%、男性2.2%）で最も大きく、女性が男性より5.4ポイント高くなっている。20代・30代・60代は僅かに男性が女性より高くなっている。

【問24—1 ⑤子どもを利用した暴力の被害経験】

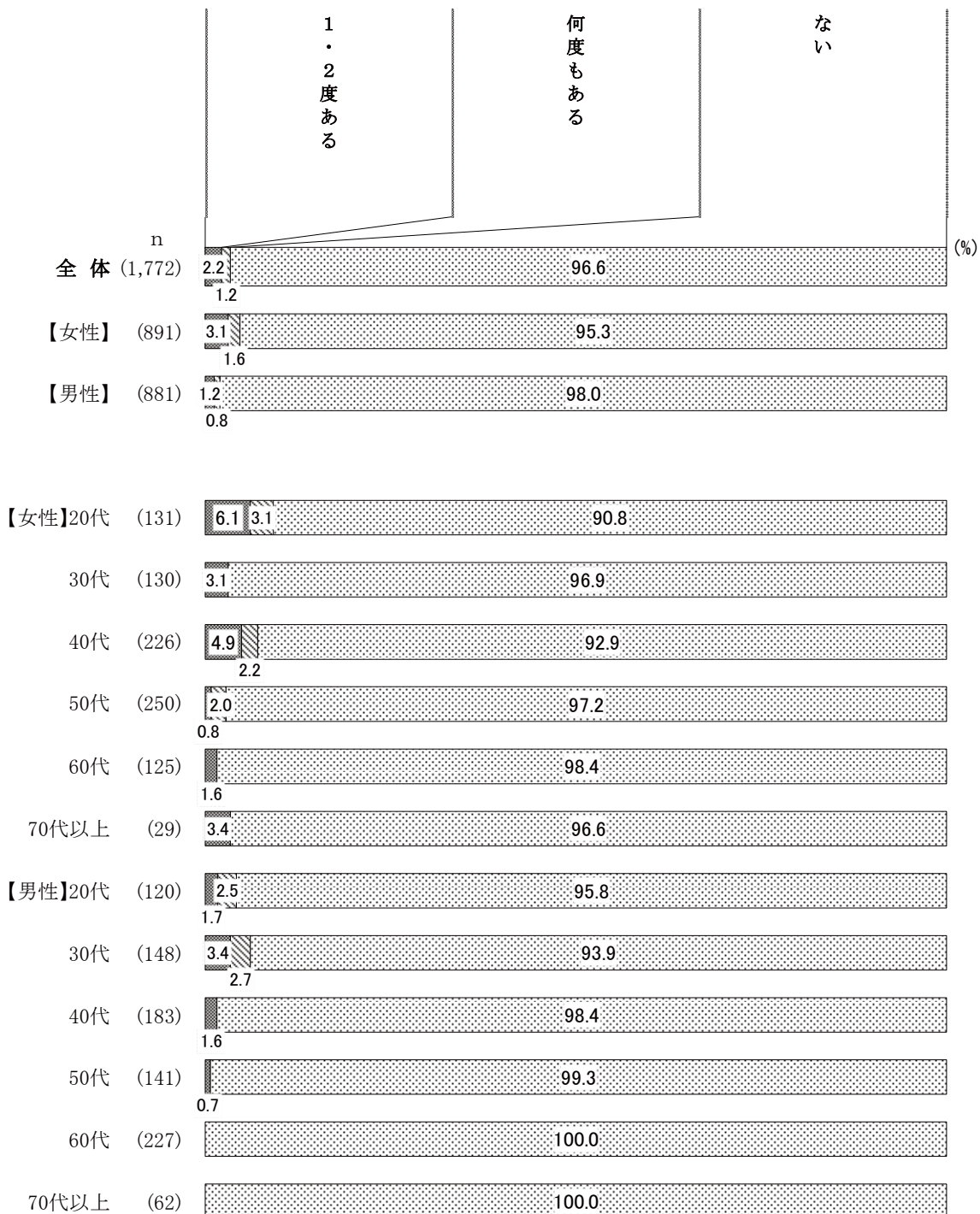


問24—1 ⑥ストーカー行為の被害経験

- 被害経験は男女でほとんど差はない
- 40代で男女差が最も大きい

被害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（4.7%）、男性（2.0%）と男女ともに1割未満で、女性と男性で大きな差は見られない。

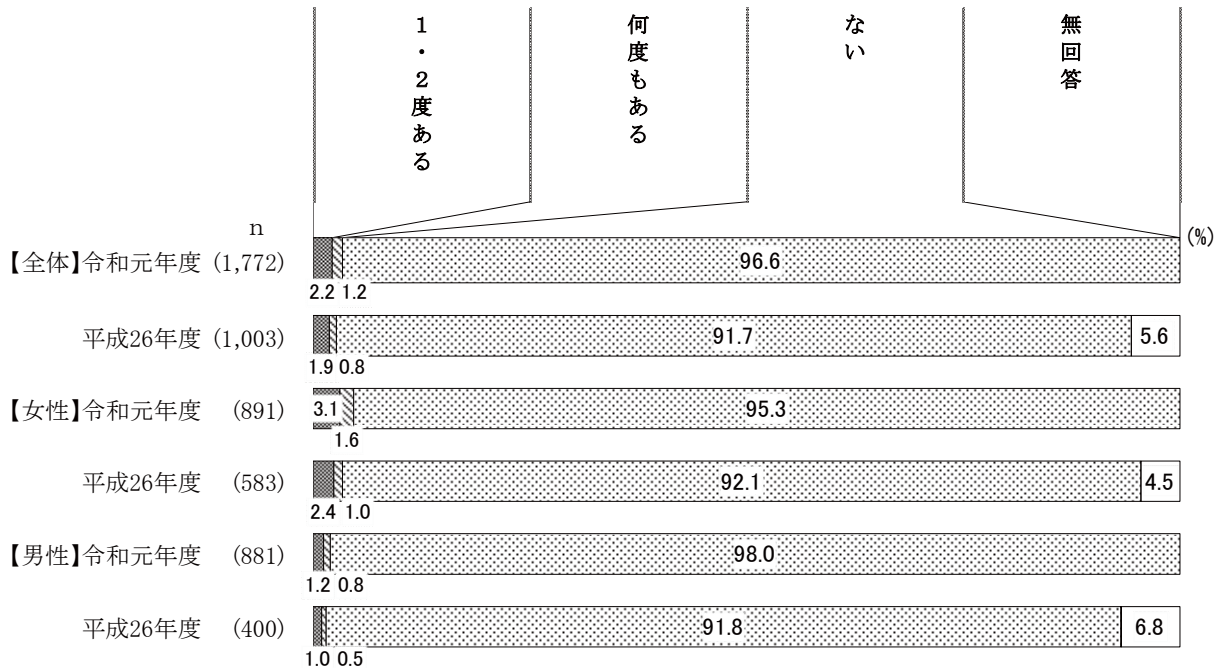
性・年代別で見ると、被害経験が《ある（計）》は、男性60代・70代以上を除くすべての年代で回答があり、男女差は40代（女性7.1%、男性1.6%）で最も大きく、女性が男性より5.5ポイント高くなっている。



◇経年変化

● 大きな変化は見られない

ストーカー行為の被害経験の経年変化を性別で見ると《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、男女ともに大きな変化は見られず、依然として被害経験があるとの回答があった。



(2) DV加害経験

※DVの項目では、回答への同意をいただいた方のみ

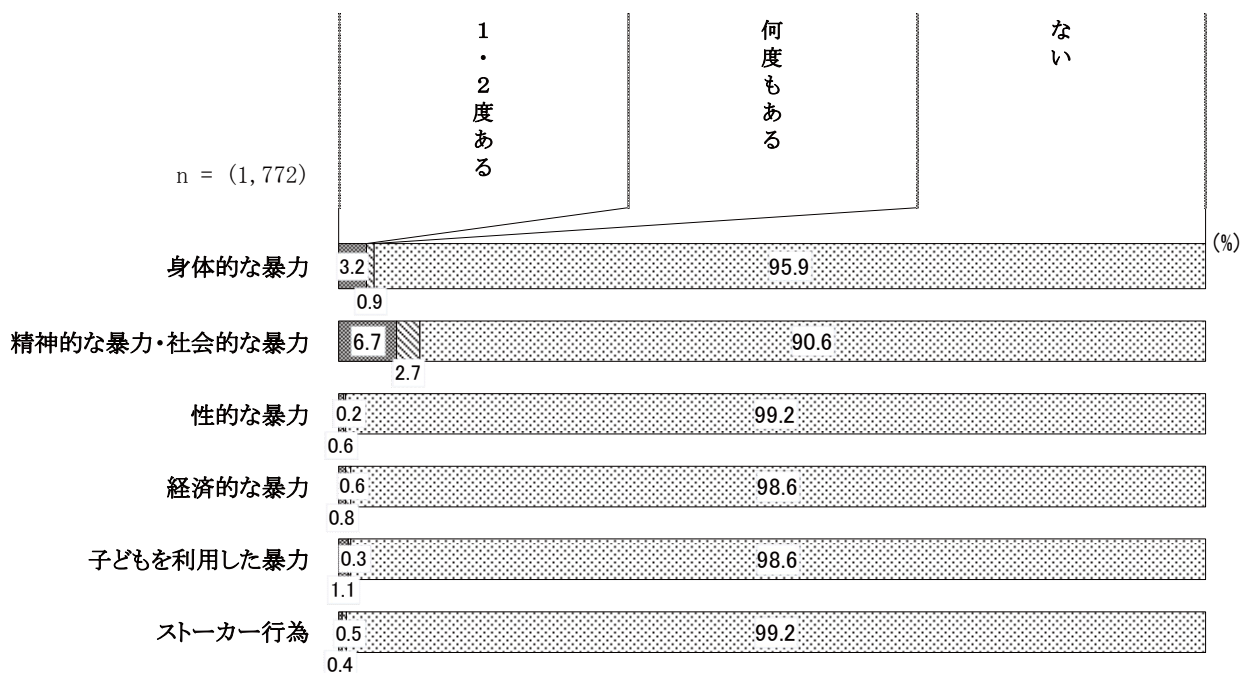
問24-2 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等のパートナーにしたことがありますか。(それぞれ1つに○)

● すべての項目で「ない」が9割以上

● 「精神的・社会的な暴力」で《ある（計）》が最も高い

すべての項目で「ない」が9割以上を占めている。その中で『精神的な暴力・社会的な暴力』は、「1・2度ある」(6.7%)が比較的高くなっている。《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）を見ると、『精神的な暴力・社会的な暴力』(9.4%)が最も高く、『性的な暴力』(0.8%)が最も低くなっている。

【問24-2】

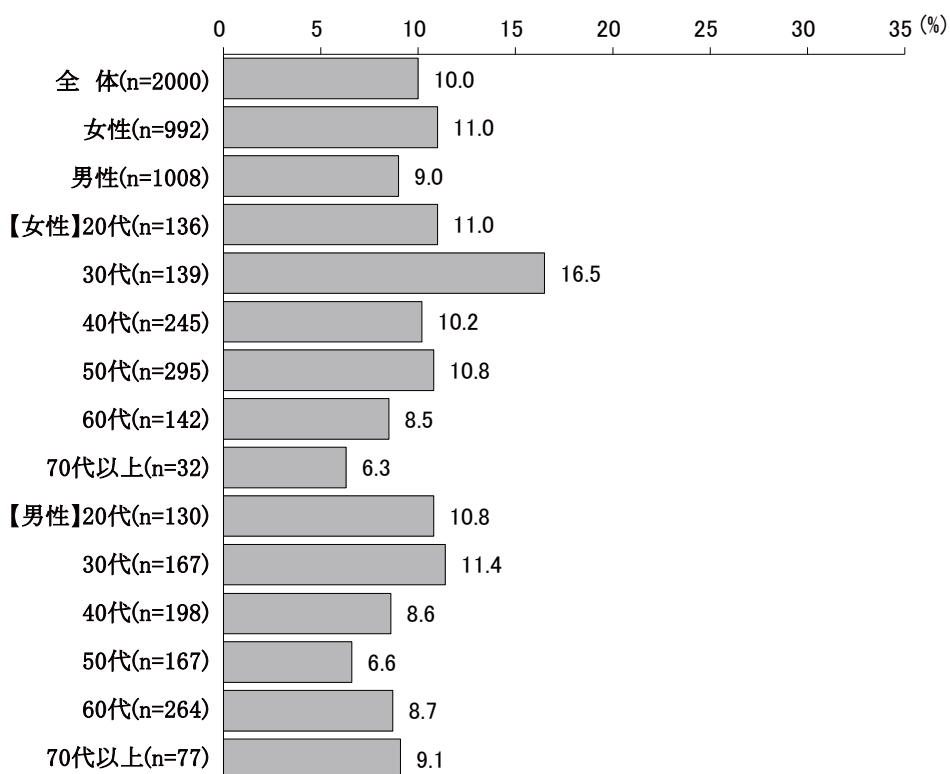


◇何らかの加害経験「あり」

- 加害経験は女性 1 割以上、男性 1 割未満
- 男女とも 30 代で最も高くなっている

何らかの加害経験がある人は、女性（11.0%）が 1 割以上、男性（9.0%）が 1 割未満となっており、大きな差は見られない。

性・年代別で見ると、女性は 20～50 代で 1 割以上となっており、30 代（16.5%）が約 2 割で最も高くなっている。男性は 20 代・30 代で 1 割以上となっており、30 代（11.4%）が最も高くなっているが、20 代（10.8%）も同程度となっている。

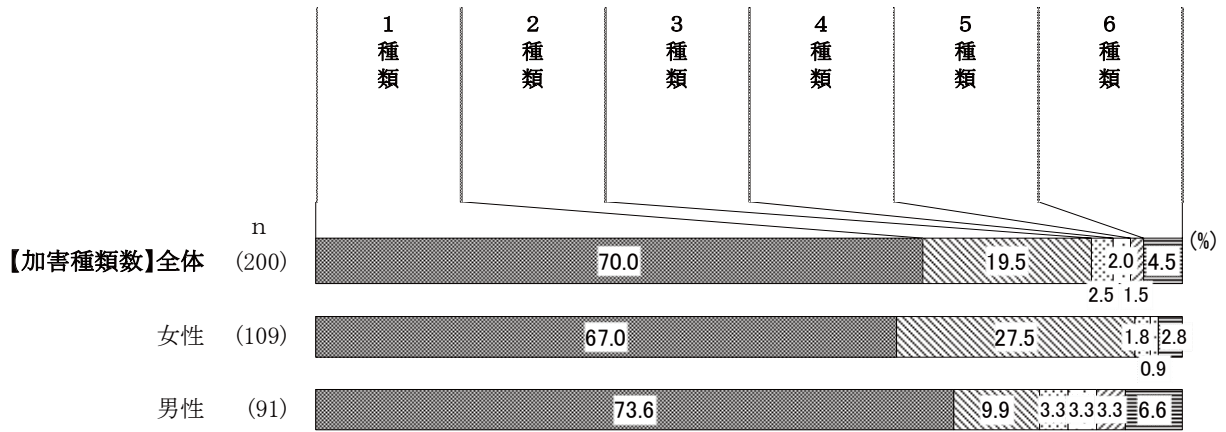


第3章 調査結果の詳細

◇加害の種類

- 「1種類」が女性約7割、男性7割以上
- 「2種類」が女性約3割、男性約1割

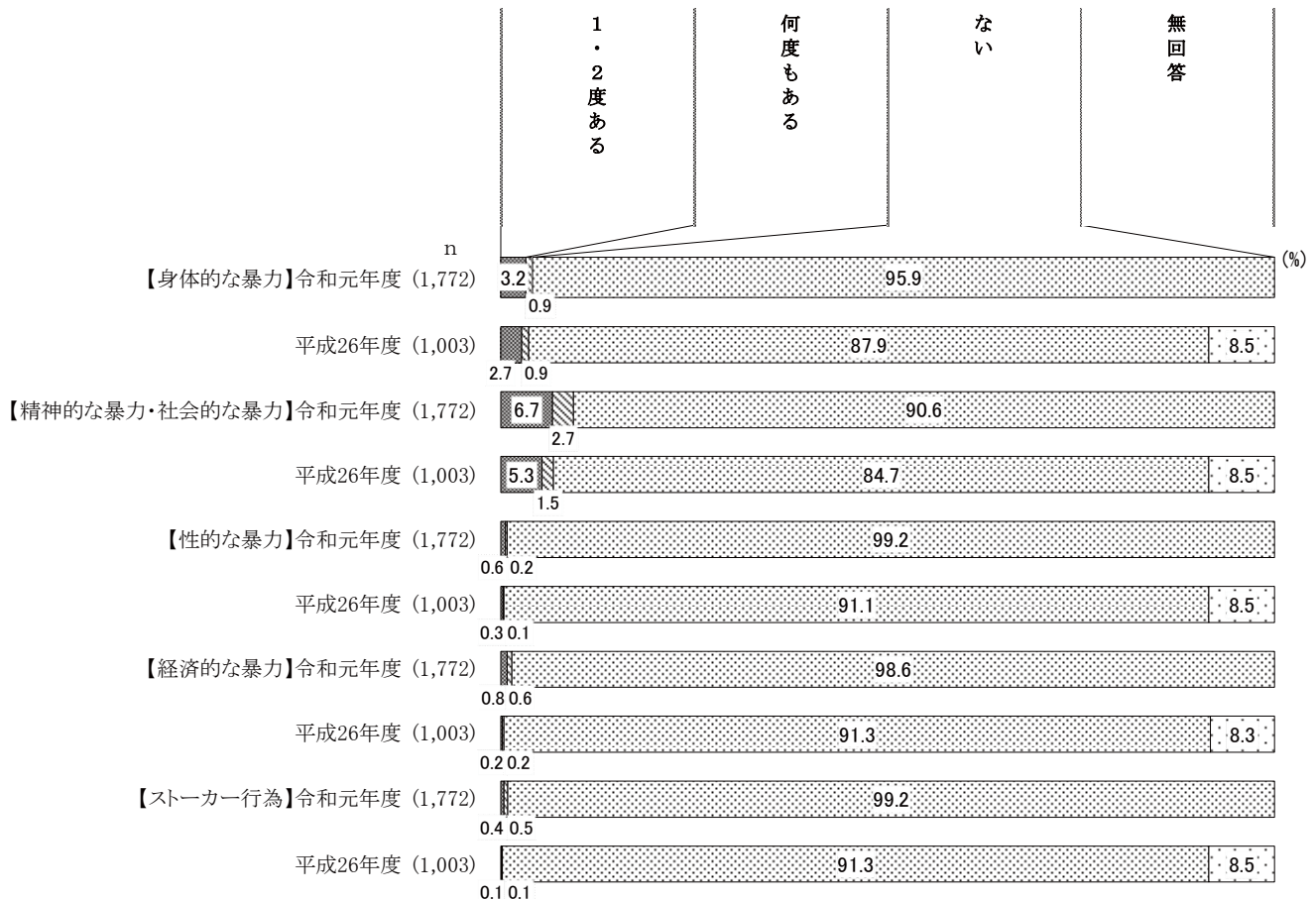
加害の内容の種類数を見ると「1種類」（全体 70.0%、女性 67.0%、男性 73.6%）が最も高く、次いで「2種類」（全体 19.5%、女性 27.5%、男性 9.9%）となっている。



◇経年変化

- 大きな変化は見られない

加害経験の経年変化を見ると、いずれの項目も平成26年度からの大きな変化は見られない。



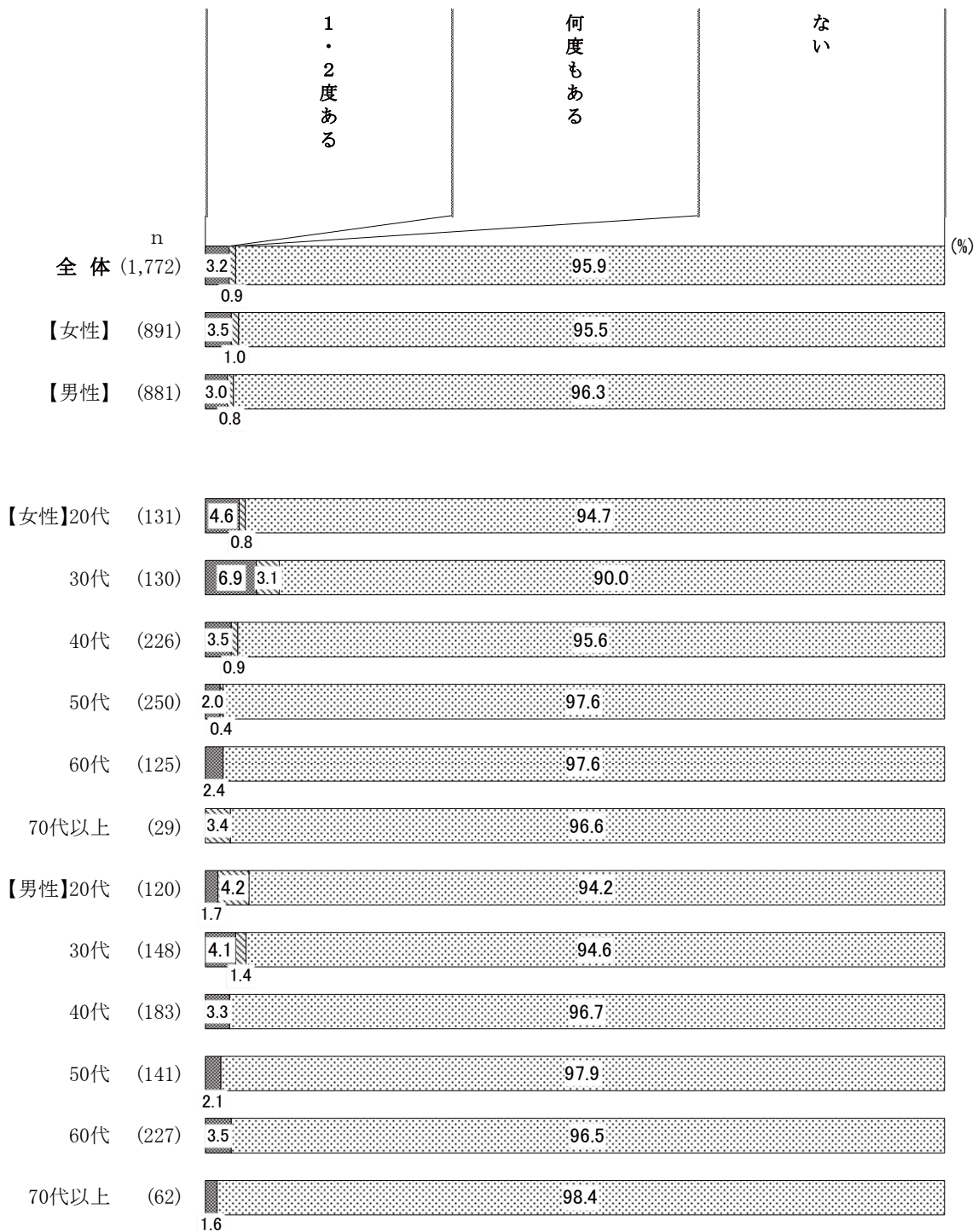
問24-2 ①身体的な暴力の加害経験

● 女性 30代で加害経験が1割

● 《ある(計)》は女性 20代・60代を除きすべての年代で女性が男性より高い

加害経験が《ある(計)》(「1・2度ある」と「何度もある」の合計値)は、女性(4.5%)、男性(3.8%)と男女ともに1割未満で、大きな差は見られない。

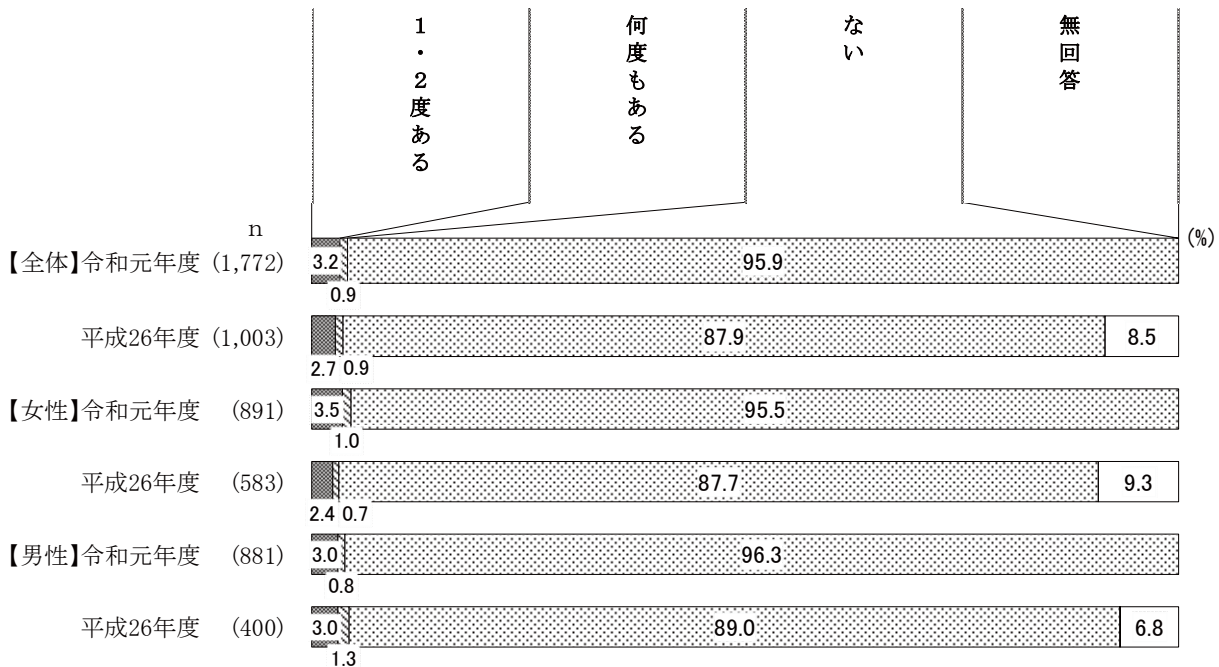
性・年代別で見ると、加害経験が《ある(計)》は、20代・60代を除くすべての年代で女性が男性より高くなっており、女性30代(10.0%)で1割と最も高くなっており、男女差は30代(女性10.0%、男性5.5%)で最も大きく、女性が男性より4.5ポイント高くなっている。



◇経年変化

● 大きな変化は見られない

身体的な暴力の加害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、男女ともにあまり大きな変化は見られないが、依然として加害経験があるとの回答があった。



問24-2 ②精神的な暴力・社会的な暴力の加害経験

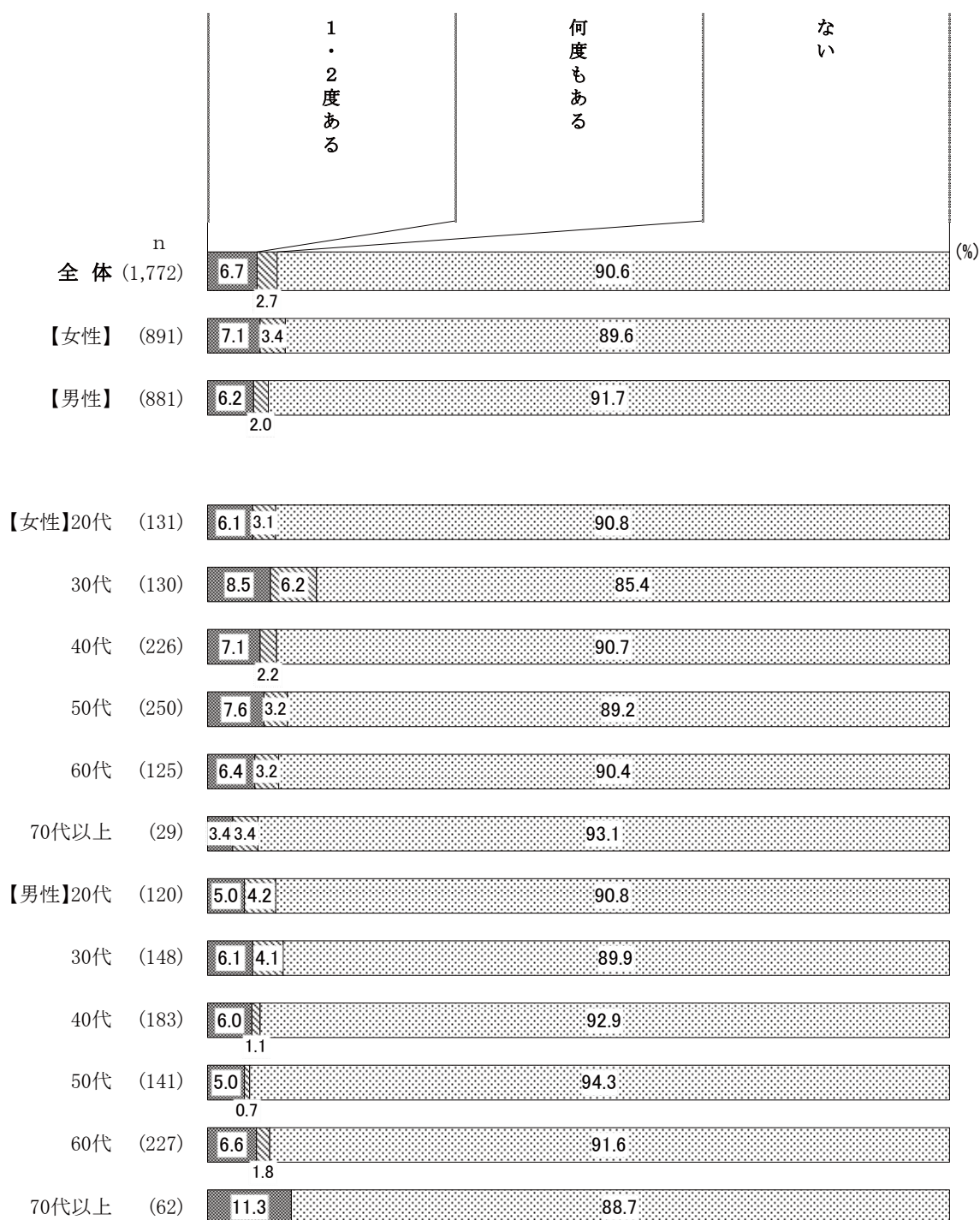
● 男女で大きな差は見られない

● 女性 30代で1割以上と最も高い

加害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（10.5%）、男性（8.2%）と女性で1割以上、男性で約1割となっており、大きな差は見られない。

性・年代別で見ると、《ある（計）》は、女性 30代（14.7%）で1割以上と最も高くなっており、「1・2度ある」は男性 70代以上（11.3%）で最も高くなっている。《ある（計）》は、20代・70代以上を除くすべての年代で女性が男性より高くなっており、20代は同値（9.2%）、70代以上は男性（が女性より高くなっている。また、男女差は50代（女性 10.8%、男性 5.7%）で最も大きく、女性が男性より5.1ポイント高くなっている。

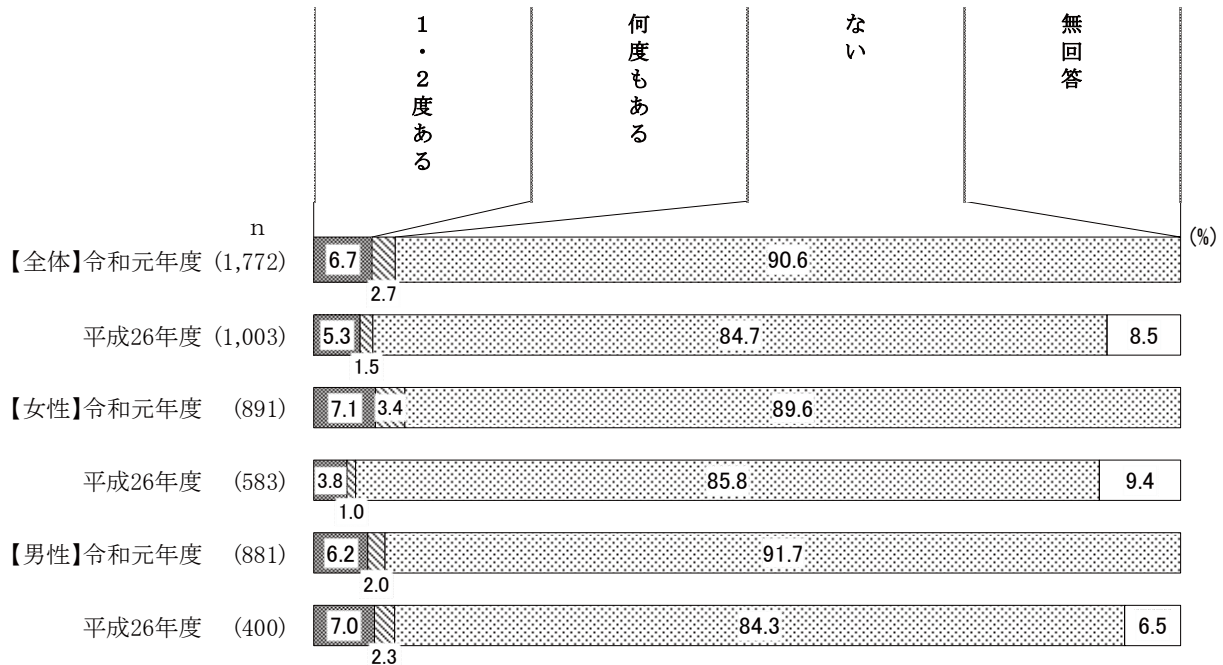
【問24-2 ②精神的な暴力・社会的な暴力の加害経験】



◇経年変化

● 女性で加害経験が増加

精神的な暴力・社会的な暴力の加害経験の経年変化を性別で見ると、《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、全体、男性でありあまり大きな変化は見られないが、女性で平成26年度（4.8%）より5.7ポイント高くなっている。



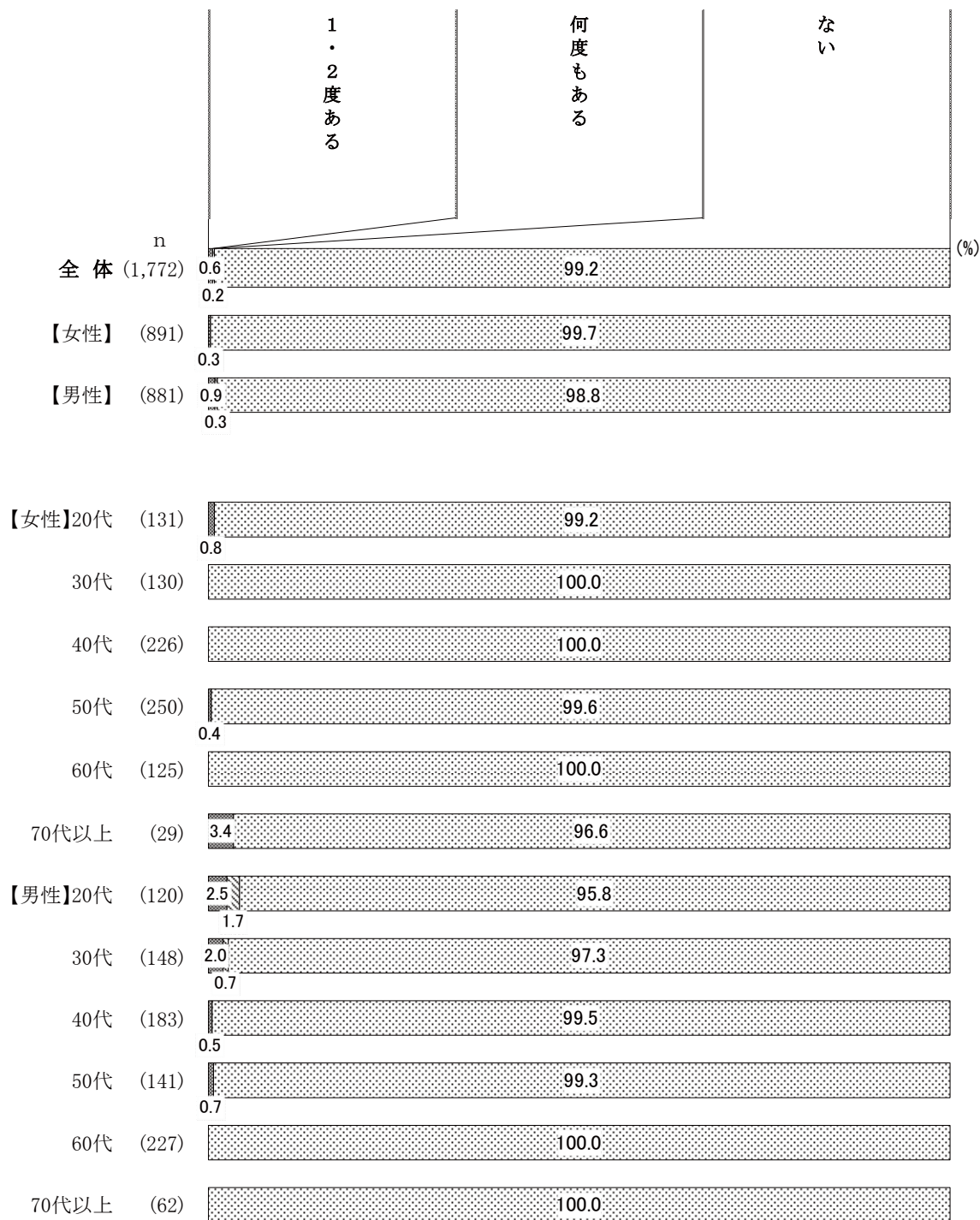
問24-2 ③性的な暴力の加害経験

● 男女ともに加害経験が《ある（計）》は一部の年代で僅かに見られる

加害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（0.3%）、男性（1.2%）と男女ともに1割未満となっている。

性・年代別で見ると、加害経験が《ある（計）》は、女性で20代・50代・70代以上で、男性は20～50代で回答があった。

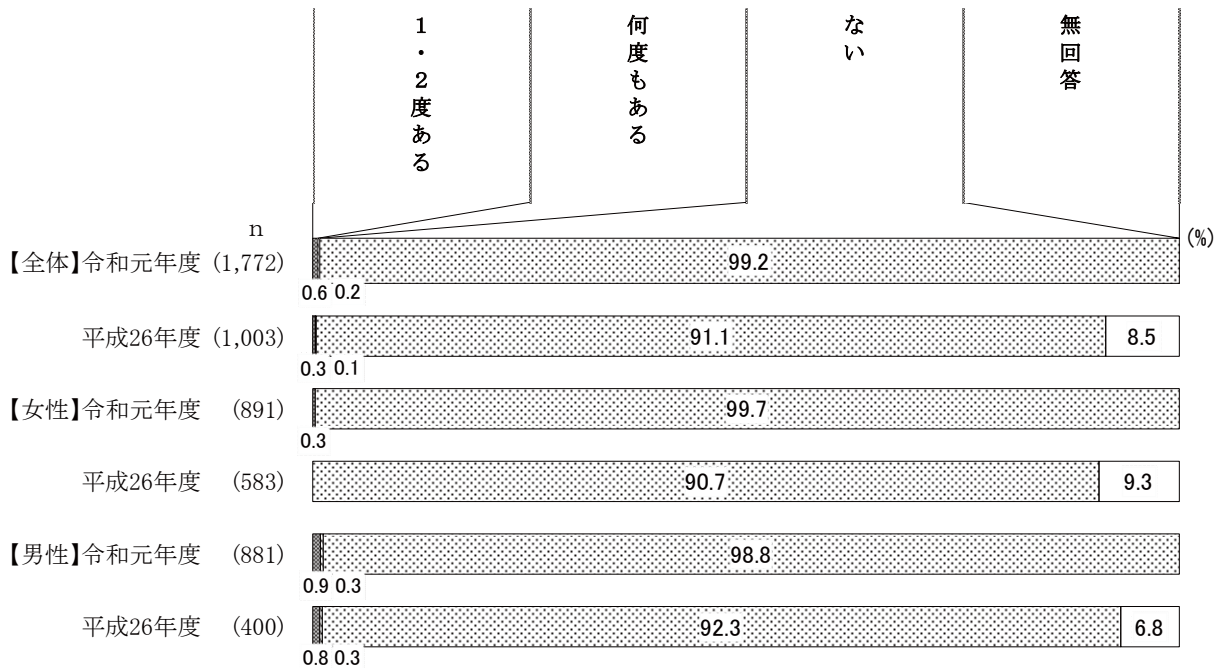
【問24-2 ③性的な暴力の加害経験】



◇経年変化

● 大きな変化は見られない

性的な暴力の加害経験の経年変化を性別で見ると、大きな変化は見られないが、依然として加害経験があるとの回答があった。



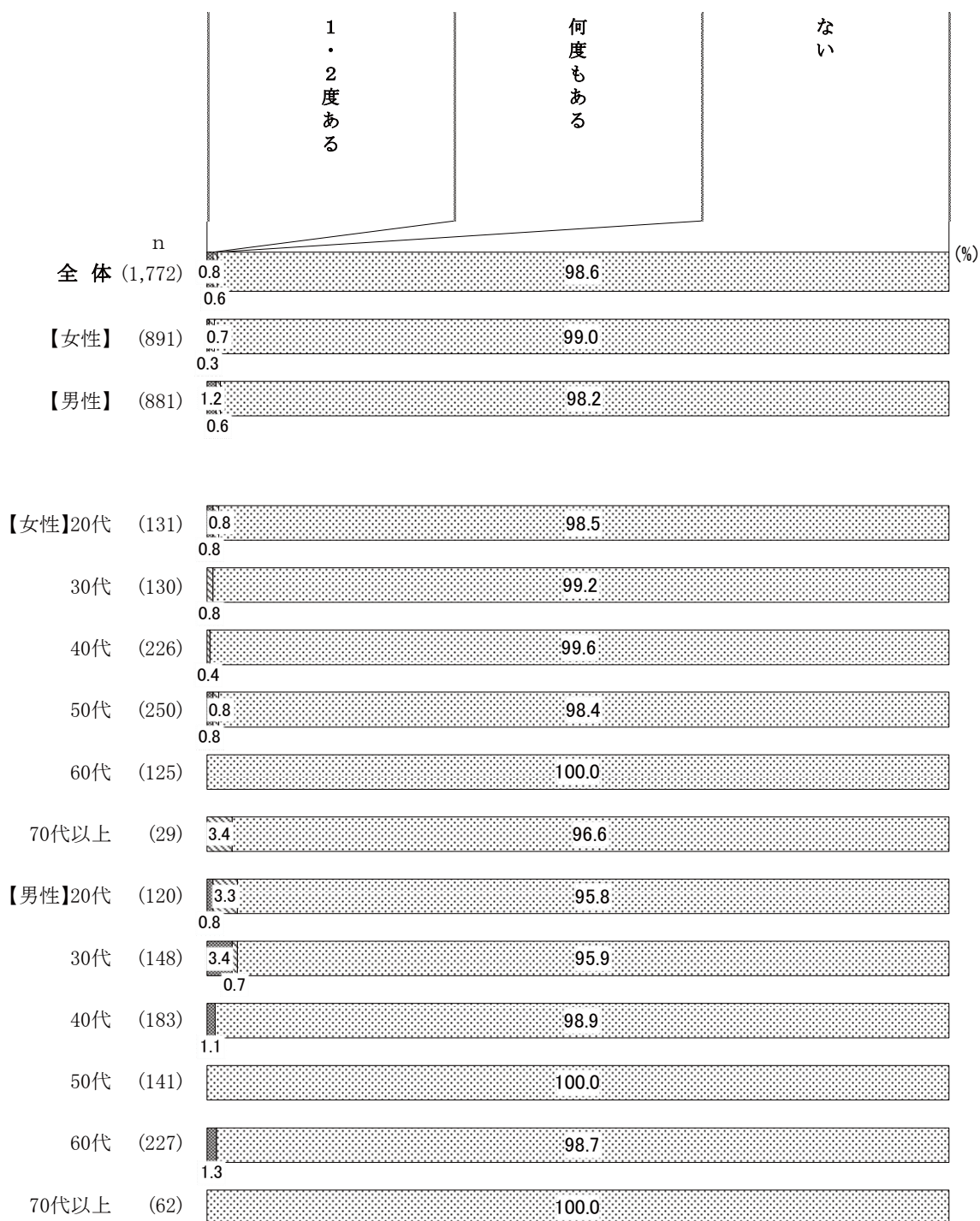
問 24-2 ④経済的な暴力の加害経験

● 加害経験は一部の年代で回答が僅かに見られる

加害経験が《ある(計)》(「1・2度ある」と「何度もある」の合計値)は、女性(1.0%)、男性(1.8%)と男女ともに1割未満となっている。

性・年代別で見ると、加害経験が《ある(計)》は、女性60代、男性50代・70代以上を除くすべての年代で回答があり、男性20代・30代(同値で4.1%)で最も高くなっている。

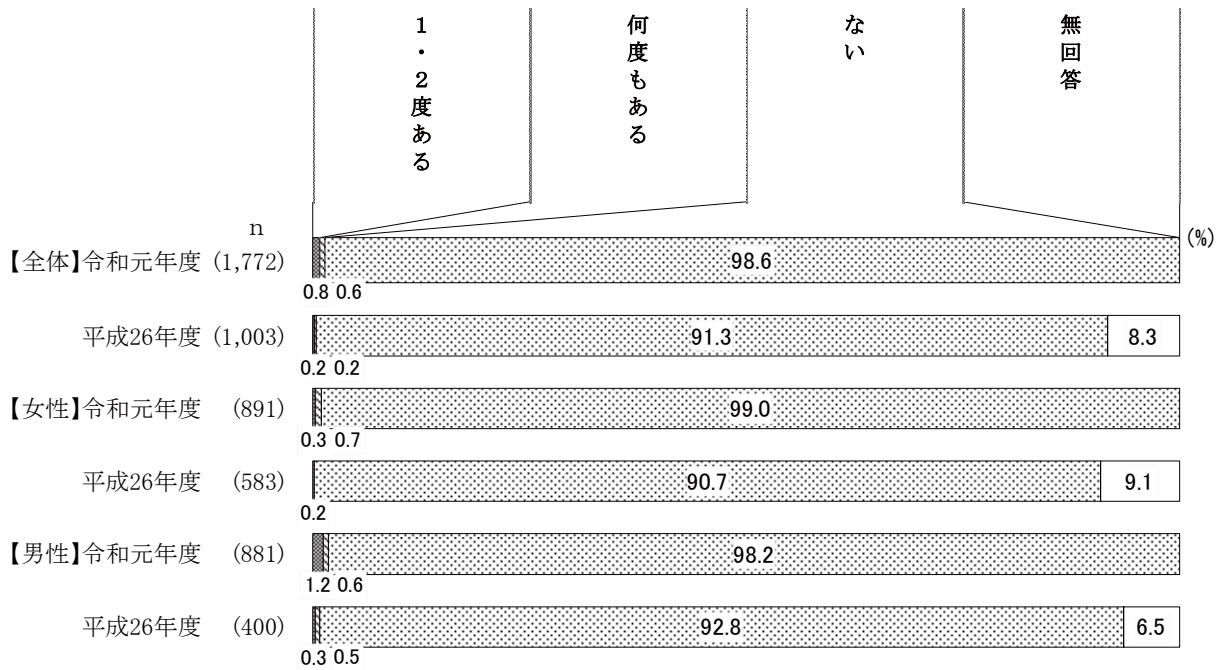
【問24-2 ④経済的な暴力の加害経験】



◇経年変化

● 大きな変化は見られない

経済的な暴力の加害経験の経年変化を性別で見ると、大きな変化は見られないが、依然として加害経験があるとの回答があった。



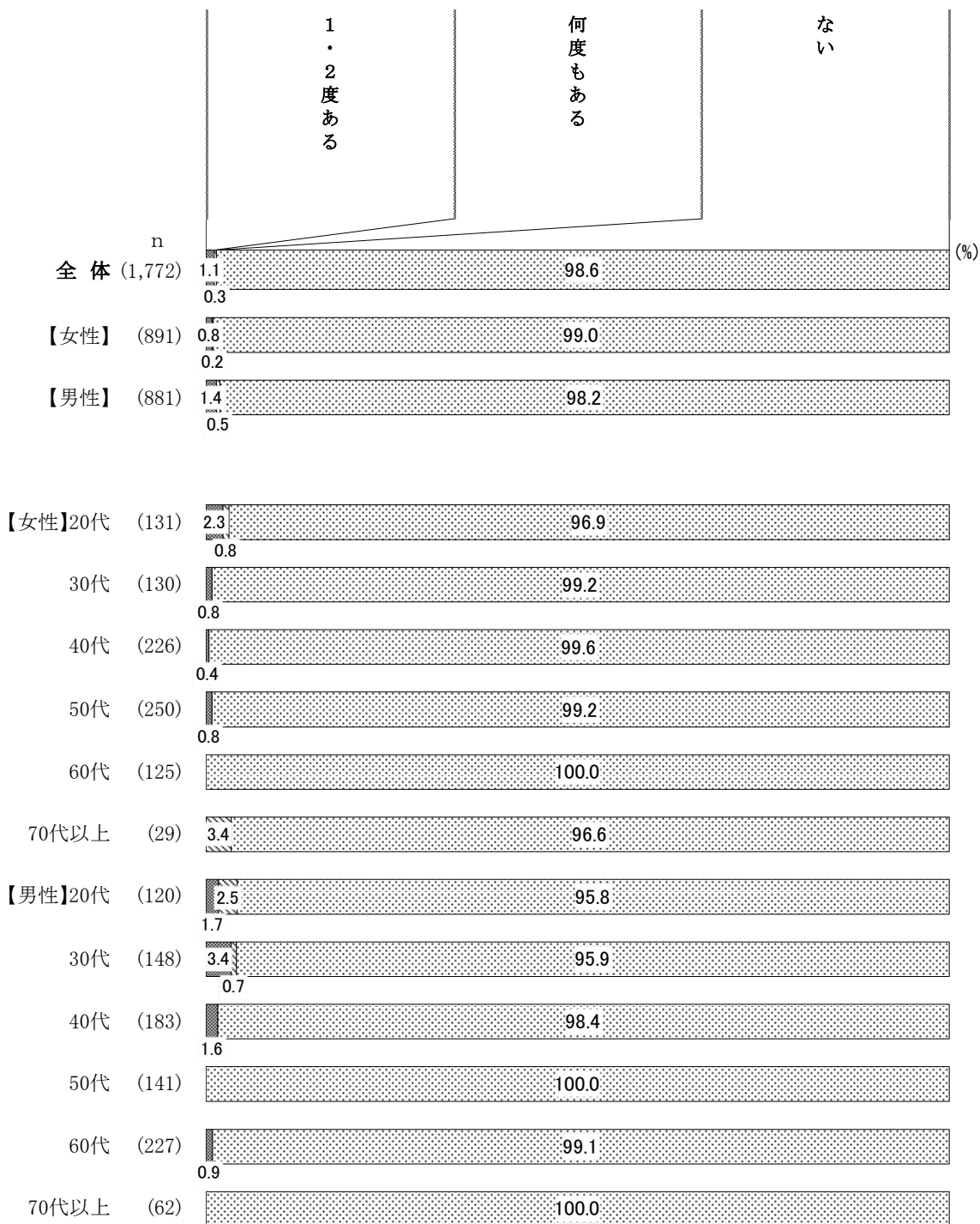
問24-2 ⑤子どもを利用した暴力の加害経験

● 加害経験は一部の年代で回答が僅かに見られる

加害経験が《ある（計）》（「1・2度ある」と「何度もある」の合計値）は、女性（1.0%）、男性（1.9%）と男女ともに1割未満となっている。

性・年代別で見ると、加害経験が《ある（計）》は、女性60代、男性50代・70代以上を除くすべての年代で回答があり、男性20代（4.2%）で最も高くなっている。

【問24-2 ⑤子どもを利用した暴力の加害経験】

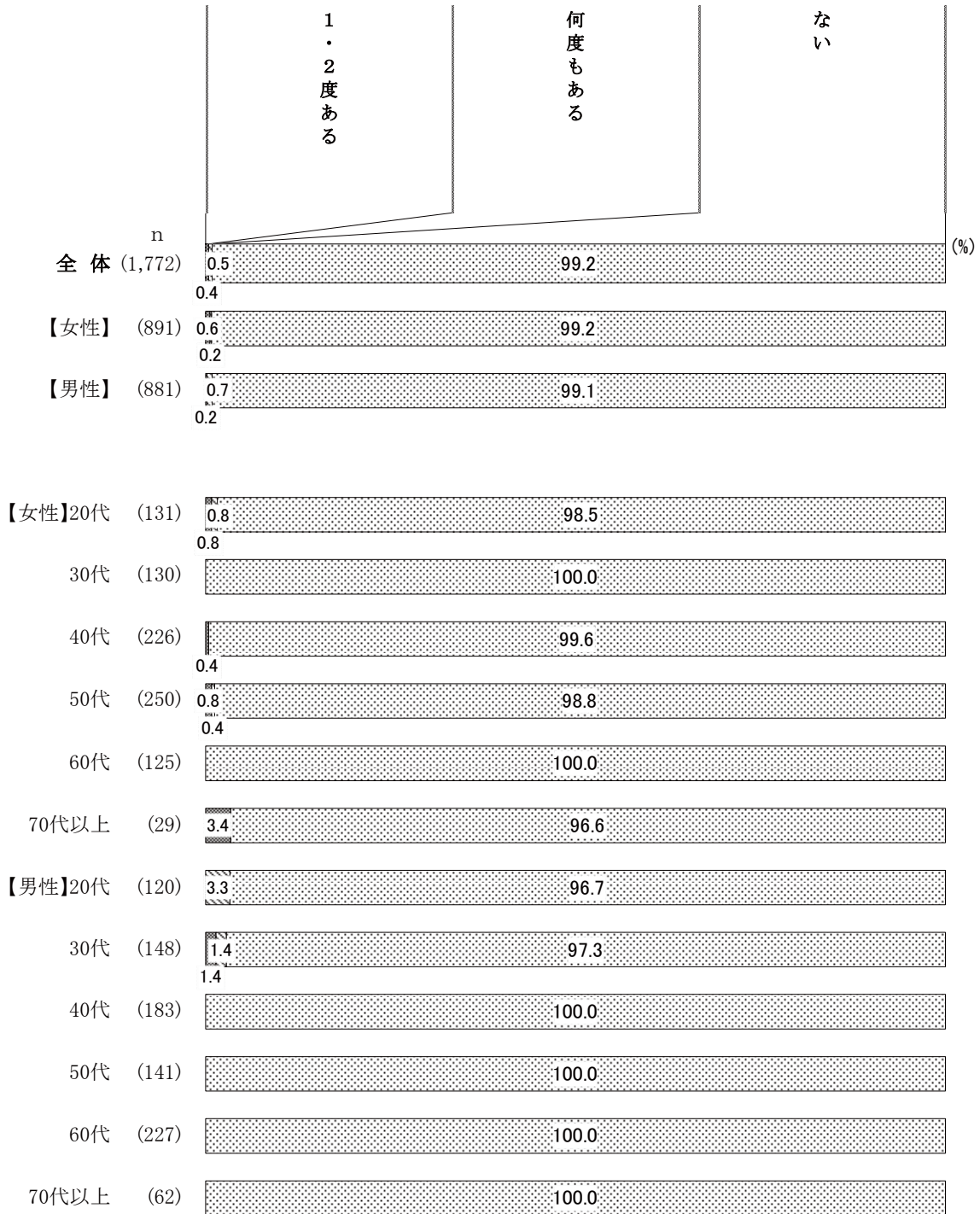


問24-2 ⑥ストーカー行為の加害経験

● 加害経験は一部の年代で回答が僅かに見られる

加害経験が《ある(計)》(「1・2度ある」と「何度もある」の合計値)は、女性(0.8%)、男性(0.9%)で僅かに回答が見られた。

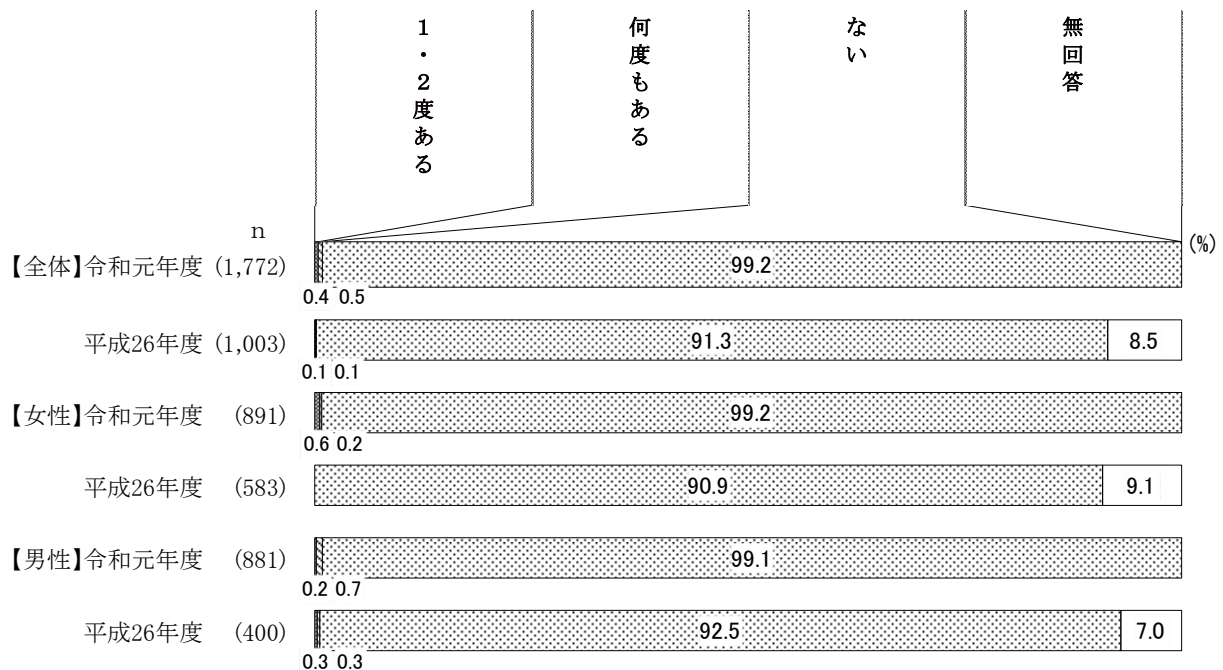
性・年代別で見ると、加害経験が《ある(計)》は、女性20代・40代・50代・70代以上、男性20代・30代で回答が僅かに見られた。



◇経年変化

● 女性で0.8%の人に加害経験あり

ストーカー行為の加害経験の経年変化を性別で見ると、全体、男性ではあまり大きな変化は見られないが、依然として加害経験があるとの回答があった。女性は前回調査では回答者がいなかったが、今回調査では0.8%の人が被害経験があると回答している。



(3) 被害経験についての相談経験

※DVの項目は、回答への同意をいただいた方のみ

【問24-1で、配偶者や恋人等のパートナーから「身体的暴力」、「精神的な暴力・社会的な暴力」、「性的な暴力」、「経済的な暴力」、「子どもを利用した暴力」、「ストーカー行為」の行為をされたと答えた方】

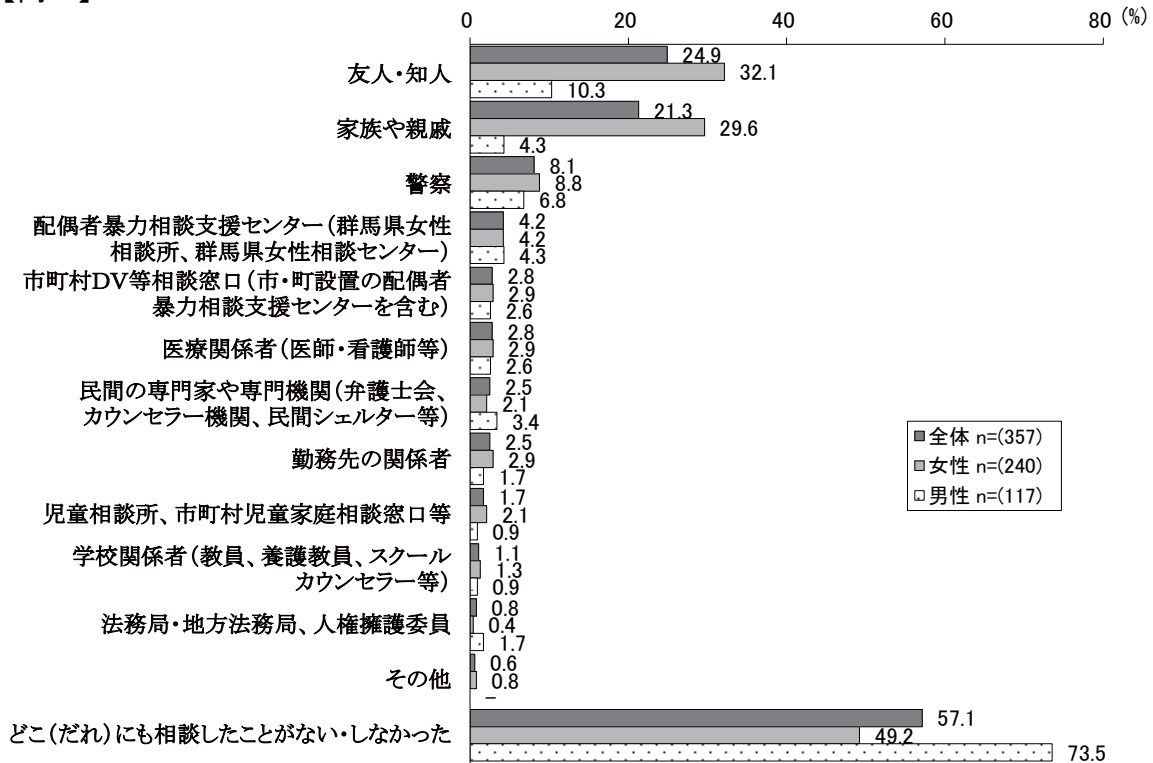
問25 次のような機関や人に相談したことがありますか。(あてはまるものを全て選択可)

- 「相談したことがない・しなかった」が女性約5割、男性7割以上で最も高い
- 女性は「友人・知人」、「家族や親戚」が3割前後

全体では、「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」(57.1%)が約6割で特に高く、次いで「友人・知人」(24.9%)、「家族や親戚」(21.3%)の2項目がそれぞれ2割以上となっている。上記3項目以外はいずれも1割未満となっている。

性別で見ると、男女とも「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」(女性49.2%、男性73.5%)が最も高く、次いで「友人・知人」(女性32.1%、男性10.3%)となっている。女性は「家族や親戚」(29.6%)が続くが、男性は「警察」(6.8%)が高くなっている。男女差は「家族や親戚」が最も大きく、女性が男性より25.3ポイント高くなっている。

【問25】



◇性・年代別

● 女性 20代を除き「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」が最も高い

性・年代別で見ると、年代によっては回答者数が少ないことを考慮する必要があるが、女性は20代を除くすべての年代で「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」が最も高く、20代は「友人・知人」が最も高くなっている。男性は年代によっては回答者数が十分でないため、年代別の分析は行わないが、「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」が高くなっている。

女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	36	44	60	63	31	6
友人・知人	58.3	27.3	35.0	22.2	22.6	33.3
家族や親戚	47.2	36.4	28.3	25.4	16.1	-
警察	19.4	2.3	16.7	4.8	-	-
配偶者暴力相談支援センター(群馬県女性相談所、群馬県女性相談センター)	2.8	-	10.0	4.8	-	-
市町村DV等相談窓口(市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む)	2.8	-	5.0	4.8	-	-
医療関係者(医師・看護師等)	2.8	2.3	3.3	3.2	3.2	-
民間の専門家や専門機関(弁護士会、カウンセラー機関、民間シェルター等)	2.8	2.3	3.3	1.6	-	-
勤務先の関係者	5.6	-	5.0	3.2	-	-
児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等	5.6	2.3	3.3	-	-	-
学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラー等)	-	2.3	3.3	-	-	-
法務局・地方法務局、人権擁護委員	-	-	1.7	-	-	-
その他	-	2.3	1.7	-	-	-
どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった	25.0	47.7	45.0	58.7	64.5	66.7

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目(単位:%) (N=10未満は参考表示)

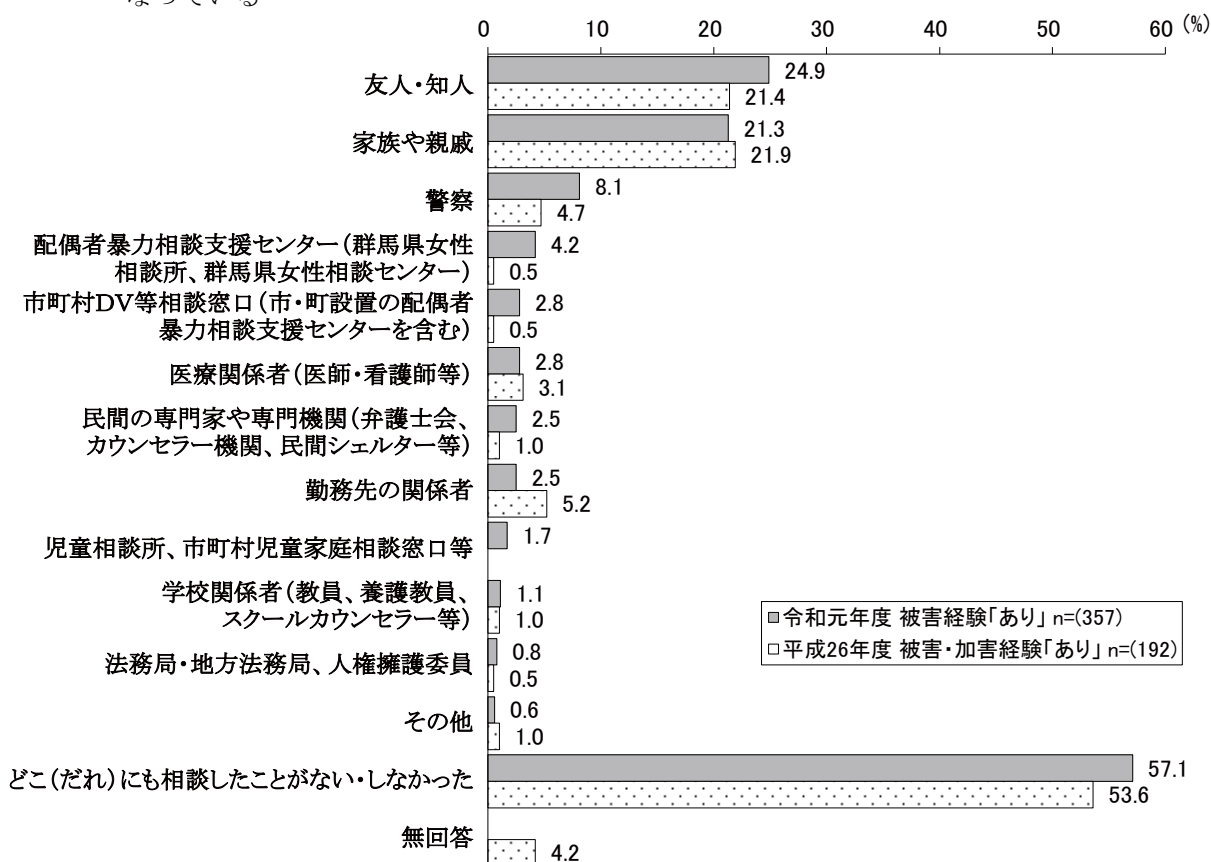
男性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	14	27	30	13	26	7
友人・知人	21.4	11.1	10.0	7.7	7.7	-
家族や親戚	14.3	3.7	3.3	-	3.8	-
警察	28.6	11.1	-	7.7	-	-
配偶者暴力相談支援センター(群馬県女性相談所、群馬県女性相談センター)	21.4	7.4	-	-	-	-
市町村DV等相談窓口(市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む)	7.1	3.7	3.3	-	-	-
医療関係者(医師・看護師等)	7.1	7.4	-	-	-	-
民間の専門家や専門機関(弁護士会、カウンセラー機関、民間シェルター等)	14.3	3.7	3.3	-	-	-
勤務先の関係者	-	3.7	-	-	3.8	-
児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等	-	-	3.3	-	-	-
学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラー等)	-	3.7	-	-	-	-
法務局・地方務局、人権擁護委員	-	7.4	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-
どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった	35.7	55.6	83.3	84.6	88.5	100.0

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目(単位:%) (N=10未満は参考表示)

◇経年変化(参考)

● 前回(被害・加害経験「あり」と同様、「相談しなかった」が最も高い

平成26年度は被害経験と加害経験を合わせた設問であることや、選択肢が異なるため、参考値として見ると、「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」は平成26年度の被害・加害経験「あり」(53.6%)においても最も高くなっている。また、相談先としては、「家族や親戚」(21.9%)、「友人・知人」(21.4%)が高くなっている



※平成26年度調査時は、被害・加害経験時の相談に関する設問となっている。

※新規調査項目:「市町村DV等相談窓口(市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む)」、「児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等」

(4) 相談をしない・しなかった理由

※DVの項目では、回答への同意をいただいた方のみ

【問25で「どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」と回答した方】

問26 相談しない・しなかった理由は何ですか。（あてはまるものを全て選択可）

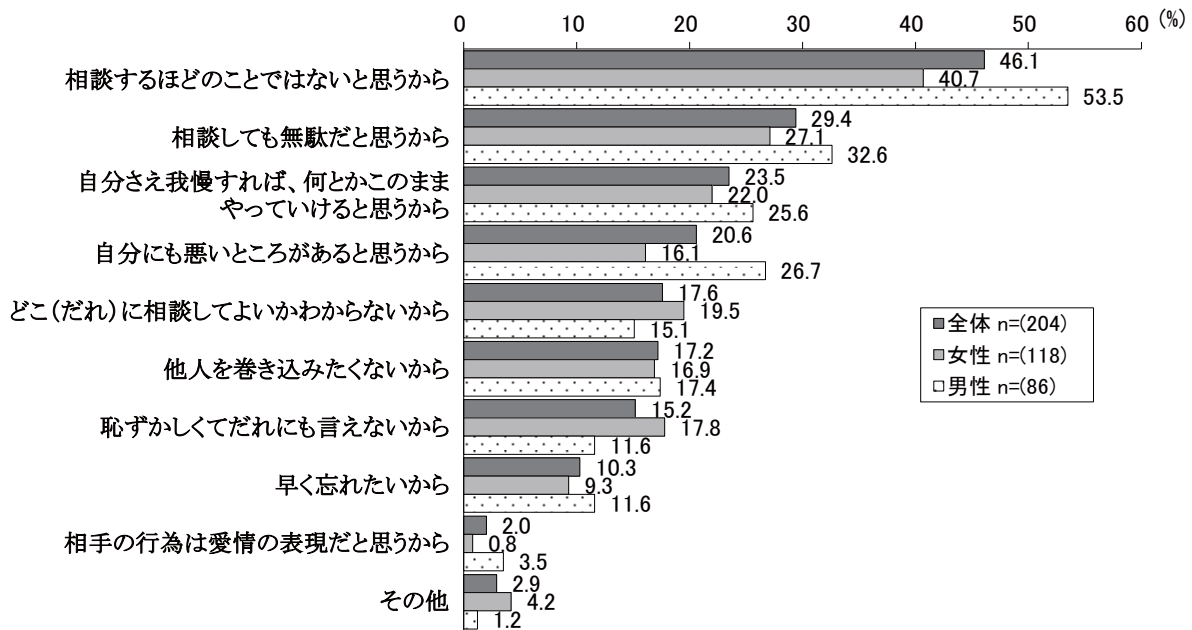
- 「相談するほどのことではない」が女性4割以上、男性5割以上
- 次いで「相談しても無駄だと思うから」が約3割

全体では、「相談するほどのことではないと思うから」（46.1%）が約5割と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思うから」（29.4%）、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから」（23.5%）となっている。

性別で見ると、男女ともに「相談するほどのことではないと思うから」（女性40.7%、男性53.5%）が最も高く、女性で4割以上、男性で5割以上となっている。次いで「相談しても無駄だと思うから」（女性27.1%、男性32.6%）が高くなっている。

「相談するほどのことではないと思うから」（女性40.7%、男性53.5%）は、男性が女性より12.8ポイント高くなっている。また、「自分にも悪いところがあると思うから」（女性16.1%、男性26.7%）は男性が女性より10.6ポイント高くなっている。

「どこ（だれ）に相談してよいかわからないから」、「恥ずかしくてだれにも言えないから」、「その他」を除いたすべての項目で男性が女性より高くなっている。



◇性・年代別

- 男女とも「相談するほどのことではないと思うから」が高い

性・年代別では、年代によっては回答者数が十分でないため、分析は行わないが、男女とも多くの年代で「相談するほどのことではないと思うから」が最も高くなっている。

【問26 性・年代別】

女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	9	21	27	37	20	4
相談するほどのことではないと思うから	44.4	23.8	29.6	43.2	65.0	50.0
相談しても無駄だと思うから	22.2	38.1	18.5	24.3	35.0	25.0
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから	44.4	4.8	22.2	18.9	35.0	25.0
自分にも悪いところがあると思うから	44.4	19.0	18.5	8.1	15.0	-
どこ(だれ)に相談してよいかわからないから	11.1	19.0	29.6	16.2	20.0	-
他人を巻き込みたくないから	22.2	14.3	11.1	21.6	20.0	-
恥ずかしくてだれにも言えないから	11.1	38.1	11.1	13.5	20.0	-
早く忘れたいから	33.3	19.0	11.1	-	5.0	-
相手の行為は愛情の表現だと思うから	11.1	-	-	-	-	-
その他	-	9.5	7.4	2.7	-	-

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目(単位:%) (N=10未満は参考表示)

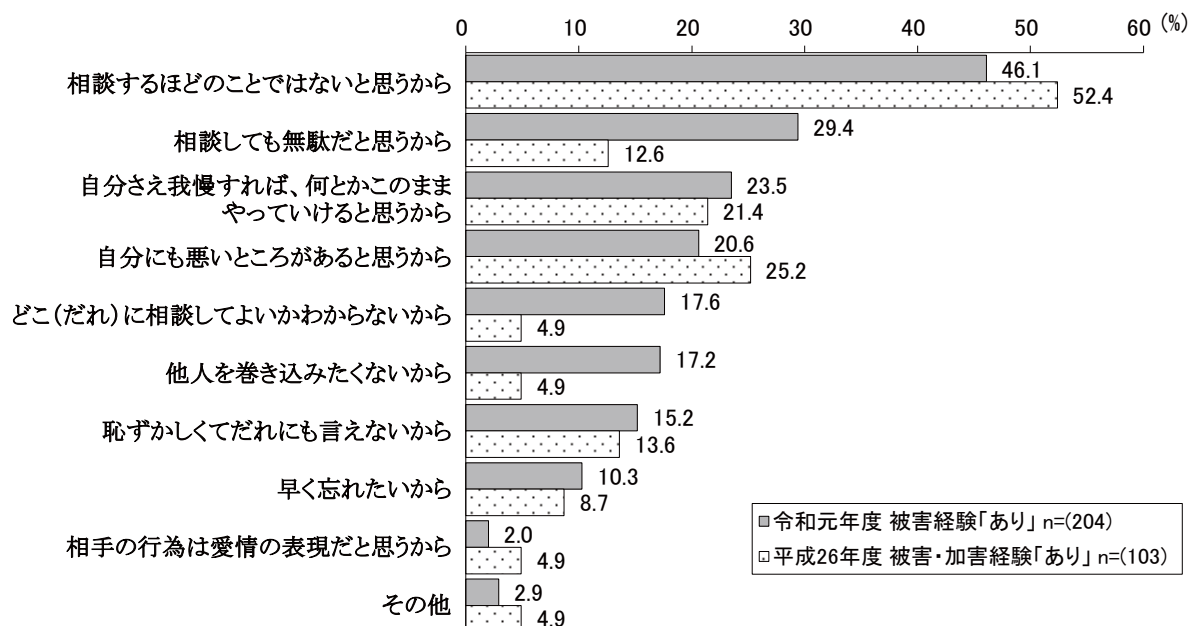
男性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	15	25	11	23	7
相談するほどのことではないと思うから	20.0	40.0	44.0	72.7	69.6	57.1
相談しても無駄だと思うから	80.0	33.3	36.0	36.4	17.4	28.6
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから	80.0	20.0	20.0	18.2	8.7	85.7
自分にも悪いところがあると思うから	-	33.3	28.0	-	30.4	57.1
どこ(だれ)に相談してよいかわからないから	20.0	20.0	20.0	-	13.0	14.3
他人を巻き込みたくないから	40.0	20.0	16.0	18.2	4.3	42.9
恥ずかしくてだれにも言えないから	40.0	13.3	12.0	18.2	-	14.3
早く忘れたいから	60.0	13.3	8.0	-	13.0	-
相手の行為は愛情の表現だと思うから	-	6.7	4.0	-	-	14.3
その他	-	-	-	-	4.3	-

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目(単位:%) (N=10未満は参考表示)

◇経年変化(参考)

- 前回(被害・加害経験「あり」)も「相談するほどのことではないと思うから」が最も高い

平成26年度は被害経験と加害経験を合わせた設問であるため、参考値として見ると、「相談するほどのことではないと思うから」は平成26年度の被害・加害経験「あり」(52.4%)においても最も高くなっている。次いで、「自分にも悪いところがあると思うから」(25.2%)、「自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから」(21.4%)となっている。



(5) DV等の被害者支援制度・相談窓口の認知度

※DVの項目では、回答への同意をいただいた方のみ

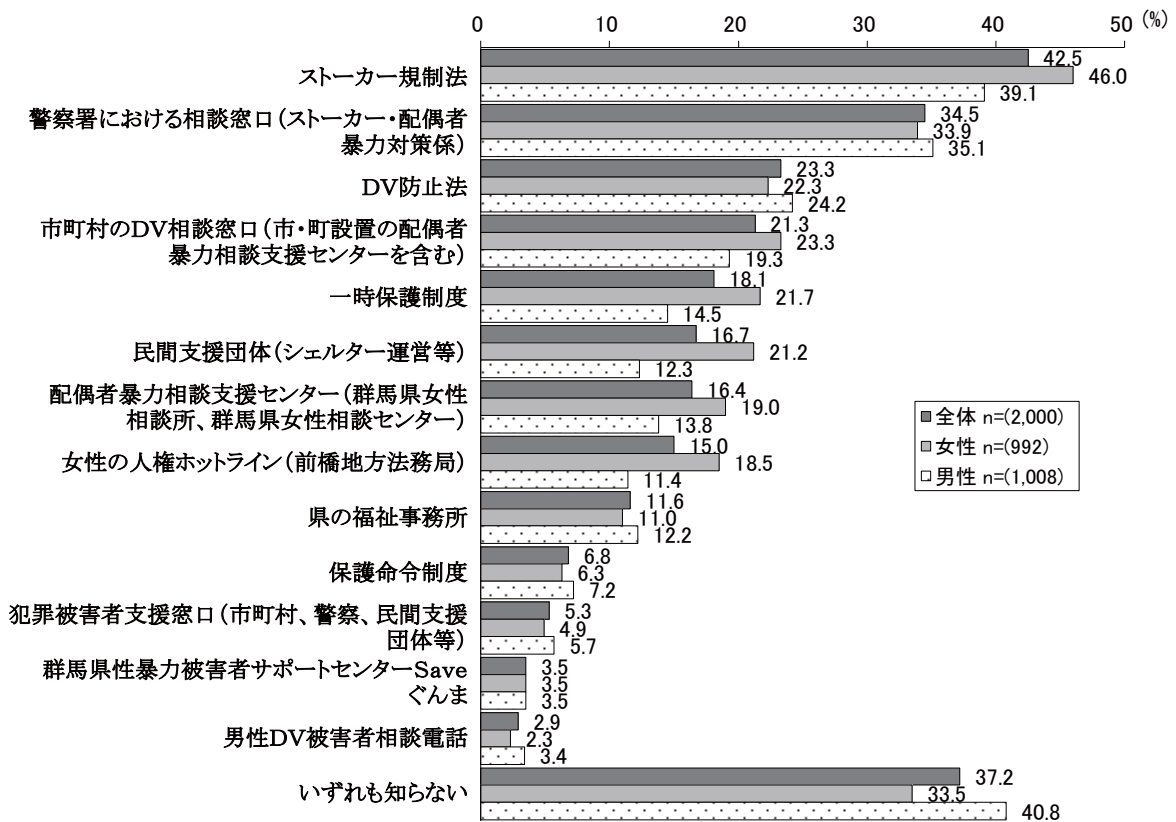
問27 あなたは、次のようなドメスティック・バイオレンス（DV）やその他の被害者支援のための相談窓口や制度などを知っていますか。（あてはまるものを全て選択可）

- 相談窓口・制度の中では「ストーカー規制法」が男女ともに最も高い
- 「いずれも知らない」は女性3割以上、男性4割以上

全体では、「ストーカー規制法」（42.5%）が4割以上、「警察署における相談窓口」（34.5%）が3割以上となっている。次いで「DV防止法」（23.3%）、「市町村のDV相談窓口」（21.3%）の2項目が2割以上となっている。一方、「いずれも知らない」（37.2%）は約4割となっている。

性別で見ると、男性は「いずれも知らない」（40.8%）が4割以上で最も高くなっている。相談窓口・制度の認知度としては、男女ともに「ストーカー規制法」（女性46.0%、男性39.1%）、「警察署における相談窓口」（女性33.9%、男性35.1%）が高く、次いで女性は「市町村のDV相談窓口」（23.3%）、男性は「DV防止法」（24.2%）となっている。

男女差は、「民間支援団体」（女性21.2%、男性12.3%）が最も大きく、女性が男性より8.9ポイント高くなっている。また、「いずれも知らない」（女性33.5%、男性40.8%）は男性が女性より7.3ポイント高くなっている。



※相談窓口の周知を目的に、「配偶者暴力相談支援センター」、「市町村のDV相談窓口」、「警察署におけるDV相談窓口」に具体的な相談窓口名を記載した。

※新規調査項目：「民間支援団体（シェルター運営等）」、「男性DV被害者相談電話」、「群馬県性暴力被害者サポートセンターSaveぐんま」、「犯罪被害者支援窓口(市町村、警察、民間支援団体等)」

◇性・年代別

- 女性はすべての年代で「ストーカー規制法」が最も高い
- 「いずれも知らない」は男女ともに若い年代で高い

性・年代別で見ると、女性はすべての年代で「ストーカー規制法」が最も高くなっている。次いで、20～40代の若い年代では「いずれも知らない」が3割台となっており、50～70代以上は「警察署における相談窓口」が高くなっている。男性は60代未満の年代では「いずれも知らない」が最も高く（50代は「ストーカー規制法」と同値）、60代以上の年代では「警察署における相談窓口」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	136	139	245	295	142	32
ストーカー規制法	-	40.4	42.4	45.3	49.8	47.9	50.0
警察署における相談窓口(ストーカー・配偶者暴力対策係)	66.7	28.7	30.9	28.6	36.6	42.3	43.8
DV防止法	-	22.8	21.6	19.2	23.7	24.6	25.0
市町村のDV相談窓口(市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む)	-	17.6	27.3	24.5	21.4	25.4	31.3
一時保護制度	-	15.4	19.4	18.0	24.4	28.2	34.4
民間支援団体(シェルター運営等)	-	19.9	22.3	22.0	20.0	23.2	18.8
配偶者暴力相談支援センター(群馬県女性相談所、群馬県女性相談センター)	-	18.4	18.0	19.2	16.9	23.2	25.0
女性の人権ホットライン(前橋地方法務局)	33.3	18.4	12.9	20.4	17.6	21.8	21.9
県の福祉事務所	-	4.4	6.5	6.9	13.6	19.7	28.1
保護命令制度	-	5.1	6.5	7.3	4.7	6.3	15.6
犯罪被害者支援窓口(市町村、警察、民間支援団体等)	-	3.7	5.8	3.3	4.4	6.3	18.8
群馬県性暴力被害者サポートセンターSaveぐんま	-	3.7	6.5	2.0	2.7	3.5	9.4
男性DV被害者相談電話	-	2.9	2.9	0.8	2.0	2.8	9.4
いずれも知らない	33.3	37.5	33.8	34.3	32.5	29.6	34.4

※濃い色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	167	198	167	264	77
ストーカー規制法	80.0	27.7	35.3	39.4	40.7	41.7	50.6
警察署における相談窓口(ストーカー・配偶者暴力対策係)	40.0	29.2	29.9	29.3	30.5	43.2	53.2
DV防止法	40.0	20.0	21.6	26.3	20.4	27.3	28.6
市町村のDV相談窓口(市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む)	-	18.5	17.4	16.7	18.0	21.6	28.6
一時保護制度	40.0	6.9	10.2	12.1	17.4	20.5	14.3
民間支援団体(シェルター運営等)	40.0	10.8	13.8	12.6	10.2	11.4	16.9
配偶者暴力相談支援センター(群馬県女性相談所、群馬県女性相談センター)	20.0	11.5	15.6	13.6	10.2	14.8	18.2
女性の人権ホットライン(前橋地方法務局)	20.0	9.2	15.6	8.6	10.2	14.0	6.5
県の福祉事務所	-	3.8	6.6	9.6	12.6	17.4	27.3
保護命令制度	20.0	4.6	5.4	7.1	7.2	9.8	6.5
犯罪被害者支援窓口(市町村、警察、民間支援団体等)	20.0	6.2	3.0	5.6	3.6	7.2	9.1
群馬県性暴力被害者サポートセンターSaveぐんま	20.0	2.3	3.0	5.1	2.4	4.2	1.3
男性DV被害者相談電話	20.0	5.4	4.2	3.5	2.4	2.7	1.3
いずれも知らない	-	48.5	47.3	41.4	40.7	37.9	24.7

※濃い色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

第3章 調査結果の詳細

◇圏域別

● 高崎・安中圏、富岡圏を除き「ストーカー規制法」が最も高い

圏域別で見ると、高崎・安中圏、富岡圏を除き「ストーカー規制法」が最も高くなっている。高崎・安中圏、富岡圏は「いずれも知らない」が最も高く、次いで「ストーカー規制法」が高くなっている（富岡圏は「警察署における相談窓口」と同値）。

圏域	前橋圏	渋川圏	伊勢崎圏	高崎・安中圏	藤岡圏	富岡圏	吾妻圏	利根・沼田圏	太田・館林圏	桐生圏
N	363	124	259	440	74	62	51	81	387	159
ストーカー規制法	46.0	48.4	39.4	38.4	54.1	30.6	49.0	45.7	42.1	42.8
警察署における相談窓口(ストーカー・配偶者暴力対策係)	33.9	37.1	34.4	33.2	27.0	30.6	47.1	37.0	34.9	36.5
DV防止法	24.5	30.6	19.7	23.4	27.0	11.3	21.6	21.0	23.3	24.5
市町村のDV相談窓口(市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む)	22.3	21.8	20.1	20.9	21.6	16.1	17.6	19.8	20.9	26.4
一時保護制度	20.7	21.8	15.1	17.3	20.3	11.3	17.6	18.5	16.5	21.4
民間支援団体(シェルター運営等)	17.6	19.4	13.5	17.3	16.2	9.7	17.6	14.8	15.5	22.6
配偶者暴力相談支援センター(群馬県女性相談所、群馬県女性相談センター)	21.5	21.8	11.6	14.8	20.3	19.4	19.6	18.5	11.9	18.2
女性の人権ホットライン(前橋地方法務局)	14.0	16.9	15.8	13.0	21.6	14.5	21.6	13.6	15.0	15.1
県の福祉事務所	11.6	17.7	10.0	11.4	10.8	9.7	13.7	12.3	9.6	15.1
保護命令制度	5.8	5.6	5.4	7.5	13.5	1.6	5.9	6.2	7.2	8.2
犯罪被害者支援窓口(市町村、警察、民間支援団体等)	6.9	4.8	5.0	4.5	5.4	1.6	5.9	6.2	4.4	7.5
群馬県性暴力被害者サポートセンターSaveぐんま	4.7	4.0	2.7	3.4	5.4	1.6	-	1.2	3.1	5.0
男性DV被害者相談電話	3.0	4.0	2.7	3.0	4.1	1.6	2.0	2.5	2.3	3.1
いずれも知らない	35.0	28.2	36.3	42.0	40.5	35.5	25.5	38.3	38.2	36.5

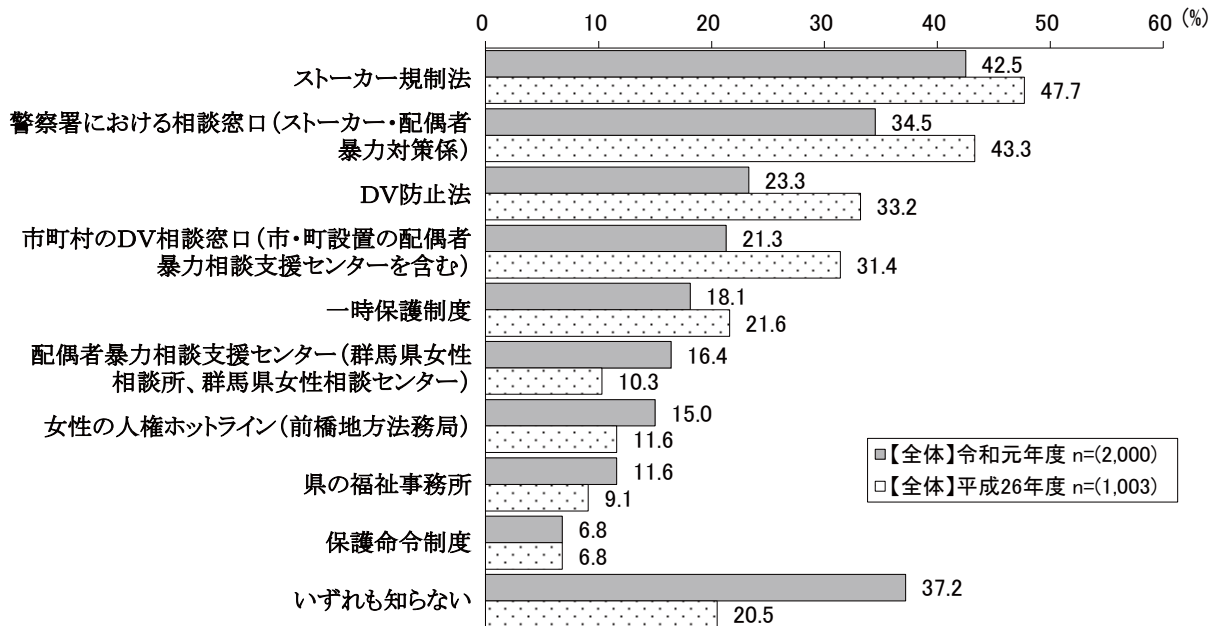
※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

◇経年変化（参考）

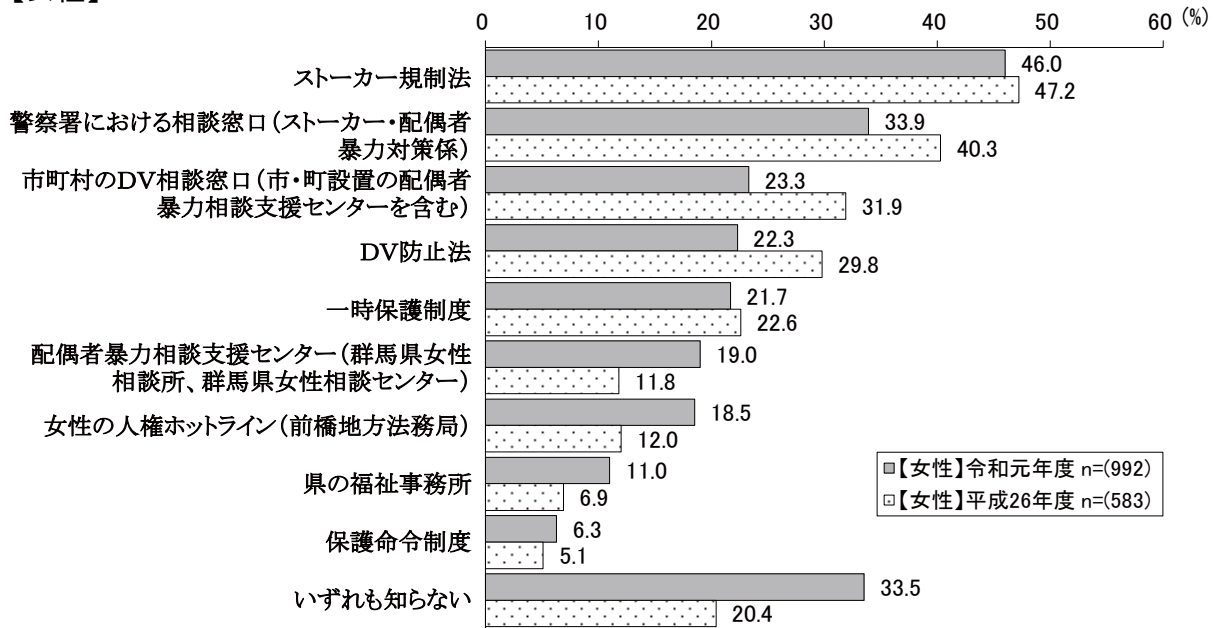
● 前回と上位5項目は変わらない

平成26年度とは選択肢数が異なるため、参考として共通する項目を表示する。

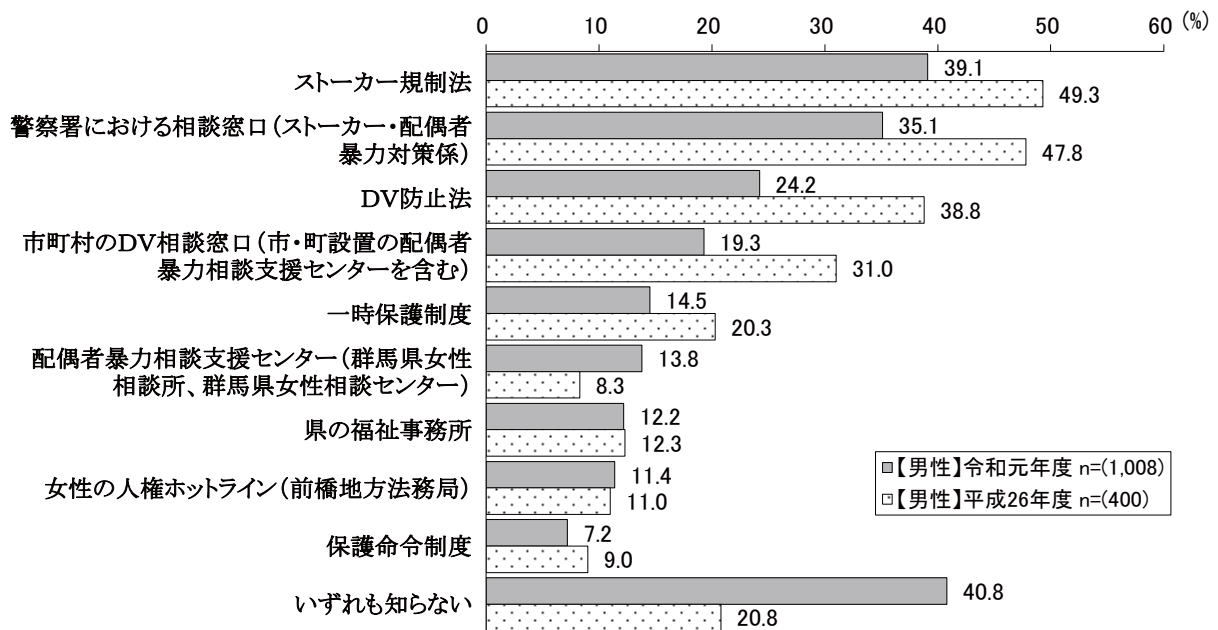
平成26年度と上位5項目は変わらず、「ストーカー規制法」（47.7%）、「警察署における相談窓口」（43.3%）、「DV防止法」（33.2%）、「市町村のDV相談窓口」（31.4%）、「一時保護制度」（21.6%）となっている。



【女性】



【男性】



7. 男女共同参画社会づくりのための施策について

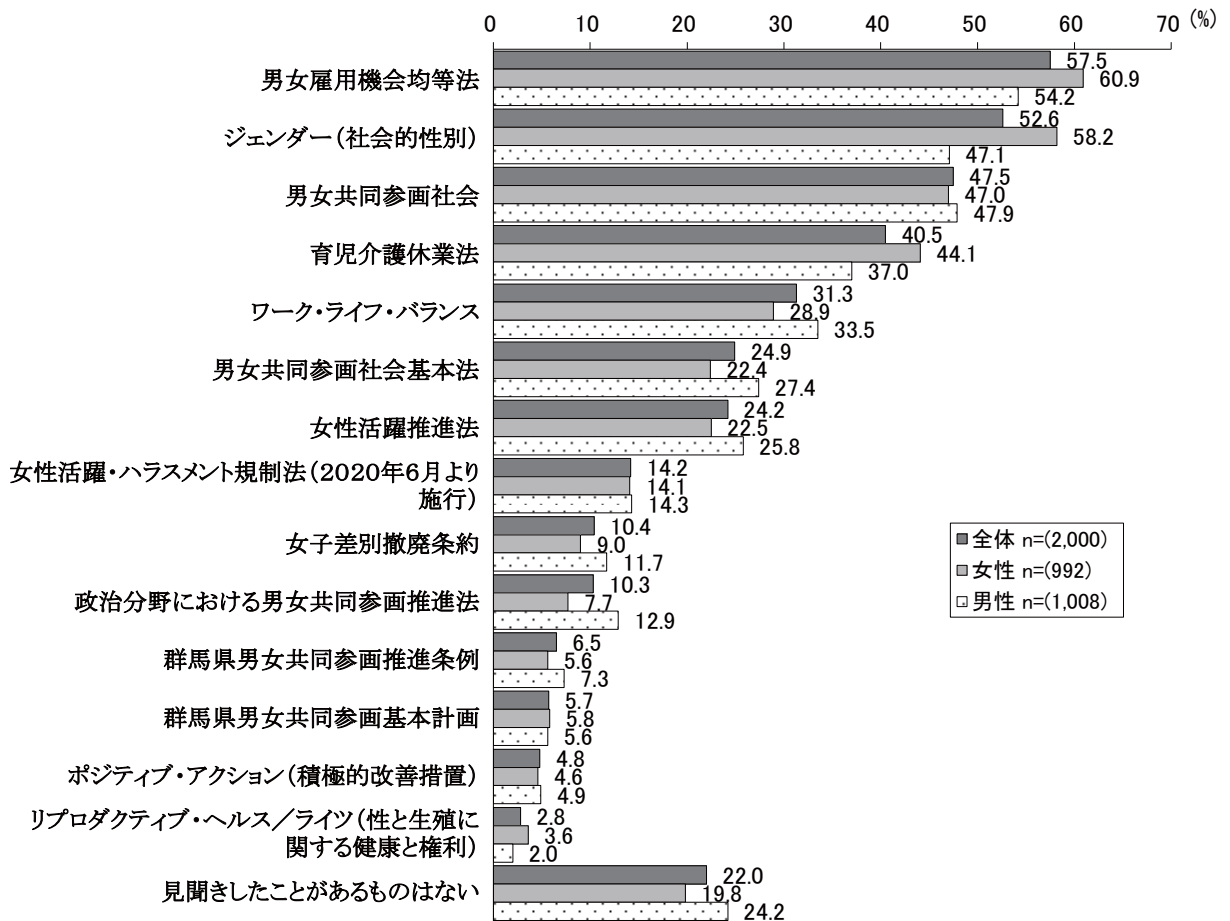
(1) 男女共同参画に関連する事項の認知度

問28 あなたは、次のうち、見聞きしたことがあるものはありますか。
(あてはまるものを全て選択可)

- 「男女雇用機会均等法」が女性6割以上、男性5割以上で最も高い
- 「ジェンダー」で男女差が最も大きい

全体では、「男女雇用機会均等法」(57.5%)が約6割で最も高く、次いで「ジェンダー」(52.6%)が5割以上、「男女共同参画社会」(47.5%)が約5割、「育児介護休業法」(40.5%)が4割以上、「ワーク・ライフ・バランス」(31.3%)となっており、上位5項目以外は3割未満となっている。

性別で見ると、男女ともに「男女雇用機会均等法」(女性60.9%、男性54.2%)が最も高く、次いで女性は「ジェンダー」(58.2%)、男性は「男女共同参画社会」(47.9%)となっている。男女差は「ジェンダー」が最も高く、女性(58.2%)が男性(47.1%)より11.1ポイント高くなっている。



※新規調査項目：「女性活躍推進法」、「政治分野における男女共同参画推進法」、「女性活躍・ハラスメント規制法(2020年6月より施行)」、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)」

◇性・年代別

- 女性 20代は「ジェンダー」、「男女共同参画社会」が7割以上
- 女性 60代は「男女雇用機会均等法」が7割以上
- 男性は20代を除き「男女雇用機会均等法」が最も高い

性・年代別で見ると、女性は50代未満の年代では「ジェンダー」が最も高く、50代以上の年代では「男女雇用機会均等法」が最も高くなっている。特に20代は「ジェンダー」(75.0%)、「男女共同参画社会」(74.3%)、60代は「男女雇用機会均等法」(73.2%)が7割以上とそれぞれ高くなっている。男性は20代を除き「男女雇用機会均等法」が最も高く、20代は「男女共同参画社会」(56.9%)が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	136	139	245	295	142	32
男女雇用機会均等法	33.3	64.7	59.0	52.7	61.0	73.2	62.5
ジェンダー(社会的性別)	33.3	75.0	63.3	53.5	58.0	48.6	46.9
男女共同参画社会	33.3	74.3	38.1	31.8	45.1	57.0	59.4
育児介護休業法	33.3	54.4	47.5	33.1	44.4	50.0	40.6
ワーク・ライフ・バランス	33.3	51.5	30.2	22.4	26.4	23.2	25.0
男女共同参画社会基本法	66.7	62.5	25.2	8.6	14.9	19.7	21.9
女性活躍推進法	66.7	34.6	28.8	15.1	17.6	23.2	37.5
女性活躍・ハラスメント規制法(2020年6月より施行)	-	22.8	17.3	9.8	10.5	18.3	12.5
女子差別撤廃条約	-	13.2	13.7	5.3	6.1	10.6	18.8
政治分野における男女共同参画推進法	-	14.7	7.2	4.1	6.1	9.2	15.6
群馬県男女共同参画推進条例	-	7.4	2.9	4.9	3.7	9.2	18.8
群馬県男女共同参画基本計画	-	8.1	2.9	3.3	5.8	7.7	21.9
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	-	12.5	3.6	2.9	4.4	2.1	3.1
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	-	8.1	5.0	2.9	2.4	2.1	3.1
見聞きしたことがあるものはない	33.3	4.4	18.7	29.8	20.0	18.3	15.6

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	167	198	167	264	77
男女雇用機会均等法	40.0	49.2	49.7	46.5	51.5	64.4	63.6
ジェンダー(社会的性別)	80.0	47.7	49.1	42.4	49.1	48.5	42.9
男女共同参画社会	80.0	56.9	37.7	39.4	46.7	53.4	58.4
育児介護休業法	40.0	30.8	34.1	28.8	38.3	44.3	46.8
ワーク・ライフ・バランス	40.0	38.5	36.5	34.3	37.7	26.9	29.9
男女共同参画社会基本法	40.0	49.2	27.5	21.7	21.6	25.8	22.1
女性活躍推進法	20.0	31.5	23.4	22.7	20.4	28.4	32.5
女性活躍・ハラスメント規制法(2020年6月より施行)	40.0	15.4	10.8	11.6	18.0	15.5	13.0
女子差別撤廃条約	20.0	19.2	12.0	8.6	7.8	11.7	14.3
政治分野における男女共同参画推進法	40.0	16.9	10.2	9.6	9.6	14.0	22.1
群馬県男女共同参画推進条例	20.0	5.4	4.2	8.6	6.0	9.1	10.4
群馬県男女共同参画基本計画	20.0	5.4	3.6	6.1	5.4	6.8	3.9
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	20.0	6.2	4.2	5.1	3.0	4.9	6.5
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	20.0	3.8	1.8	2.0	2.4	1.1	-
見聞きしたことがあるものはない	-	22.3	25.1	29.3	26.9	20.5	20.8

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

第3章 調査結果の詳細

◇圏域別

● すべての圏域で「男女雇用機会均等法」、「ジェンダー」の2項目が高い

圏域別で見ると、富岡圏を除き「男女雇用機会均等法」が最も高く、次いで「ジェンダー」となっている（利根・沼田圏は上位2項目が同値）。富岡圏は「ジェンダー」が最も高く、次いで「男女雇用機会均等法」となっている。

圏域	前橋圏	渋川圏	伊勢崎圏	高崎・安中圏	藤岡圏	富岡圏	吾妻圏	利根・沼田圏	太田・館林圏	桐生圏
N	363	124	259	440	74	62	51	81	387	159
男女雇用機会均等法	61.7	58.9	52.9	54.5	77.0	48.4	54.9	59.3	56.1	60.4
ジェンダー(社会的性別)	56.7	57.3	49.0	50.5	63.5	51.6	51.0	59.3	47.5	56.0
男女共同参画社会	52.6	46.8	42.5	49.1	52.7	46.8	35.3	53.1	42.6	50.3
育児介護休業法	45.2	45.2	33.2	38.2	51.4	33.9	29.4	44.4	40.8	42.8
ワーク・ライフ・バランス	32.8	30.6	30.1	32.7	29.7	33.9	23.5	35.8	30.5	27.7
男女共同参画社会基本法	24.8	22.6	20.5	27.3	35.1	16.1	15.7	28.4	24.0	29.6
女性活躍推進法	24.0	29.8	21.2	22.5	29.7	14.5	15.7	25.9	26.4	27.0
女性活躍・ハラスメント規制法(2020年6月より施行)	14.9	19.4	11.6	13.9	17.6	8.1	13.7	11.1	14.0	17.0
女子差別撤廃条約	11.8	9.7	7.7	10.2	14.9	4.8	5.9	12.3	10.9	11.3
政治分野における男女共同参画推進法	12.4	10.5	10.4	9.3	13.5	1.6	3.9	9.9	10.1	12.6
群馬県男女共同参画推進条例	6.3	7.3	3.5	7.7	14.9	8.1	3.9	9.9	4.4	7.5
群馬県男女共同参画基本計画	5.8	5.6	3.1	7.5	6.8	8.1	2.0	7.4	3.9	8.2
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	5.0	4.0	4.6	4.5	2.7	1.6	3.9	3.7	5.9	5.7
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	2.2	0.8	2.3	3.9	2.7	1.6	2.0	2.5	2.6	5.0
聞きしたことがあるものはない	19.0	20.2	23.6	23.4	17.6	29.0	21.6	17.3	24.8	18.9

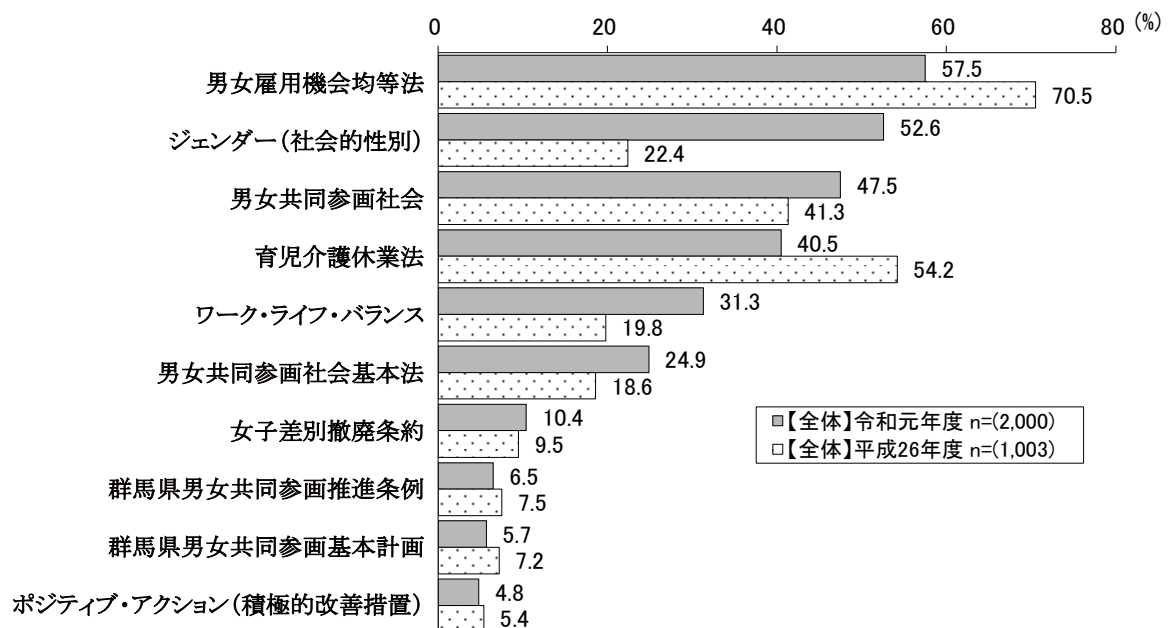
※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

◇経年変化（参考）

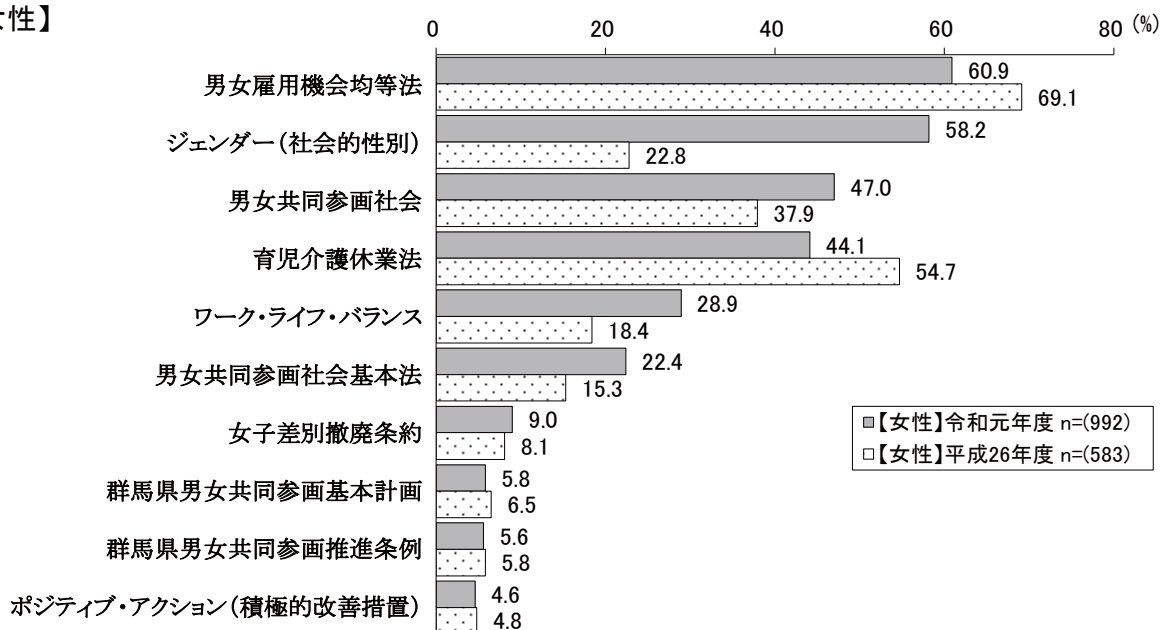
- 「男女雇用機会均等法」は変わらず最も高いが、低下している
- 「ジェンダー」が前回より高い

平成26年度とは選択肢数が異なるため、参考として共通する項目を表示する。

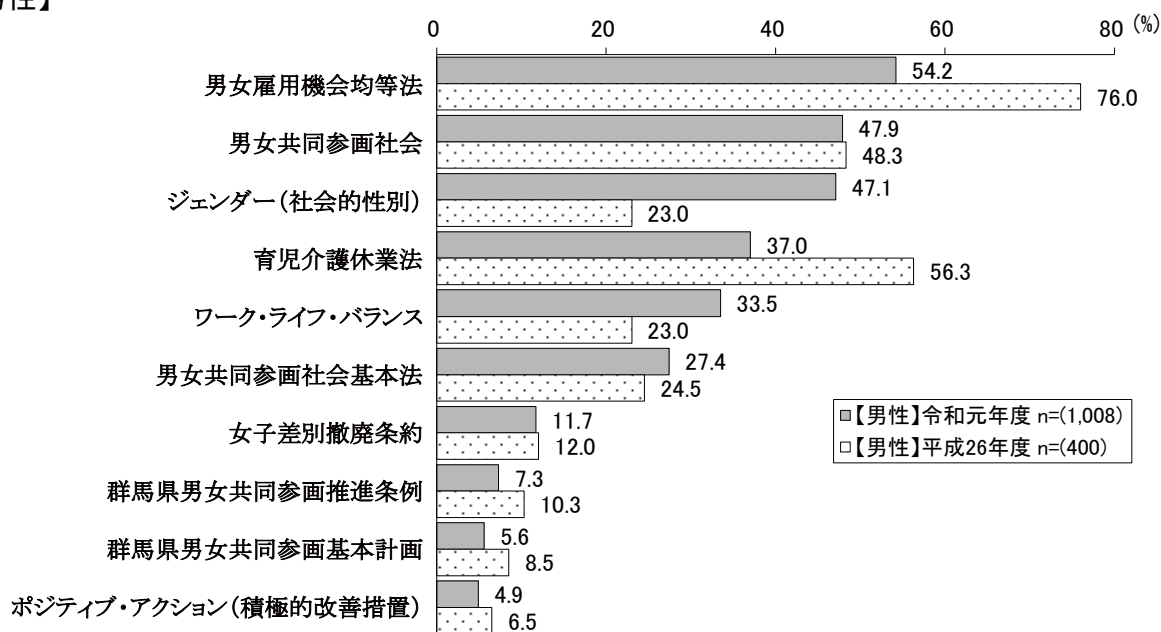
経年変化を見ると、「男女雇用機会均等法」は平成26年度（70.5%）より低くなっている。「ジェンダー」は平成26年度（22.4%）より高くなり、「男女共同参画社会」（41.3%）を上回った。「育児介護休業法」は男女ともに低くなっている。



【女性】



【男性】



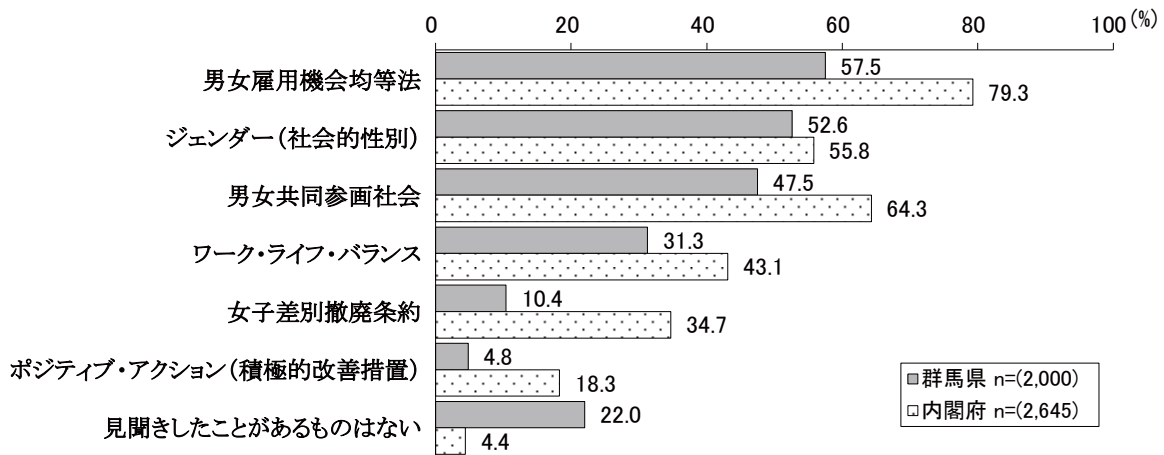
◇国の調査との比較（参考）

- 「男女雇用機会均等法」、「女子差別撤廃条約」の2項目は国より特に低い
- 国よりも男女共同参画に関連する事項の認知度が低い傾向

内閣府の調査とは選択肢数が異なるため、参考として共通する項目を表示する。

内閣府の調査と比較すると、「見聞きしたことがあるものはない」を除くすべての項目が内閣府より低くなっており、「男女雇用機会均等法」(79.3%)、「女子差別撤廃条約」(34.7%)の2項目は、内閣府より20ポイント以上低くなっている。「見聞きしたことがあるものはない」は内閣府(4.4%)は1割未満であるのに対し、群馬県(22.0%)は2割以上となっている。

【問28 国の調査との比較（参考）】



(2) 男女共同参画社会づくりの実感

問29 あなたは、数年前と比べて、群馬県の男女共同参画の社会づくりが進んでいると感じますか。(1つに○)

- 《進んでいる(計)》が女性2割以上、男性約3割
- 「わからない」は男女ともに約3割
- 《進んでいる(計)》は30代を除くすべての年代で男性が女性より高い

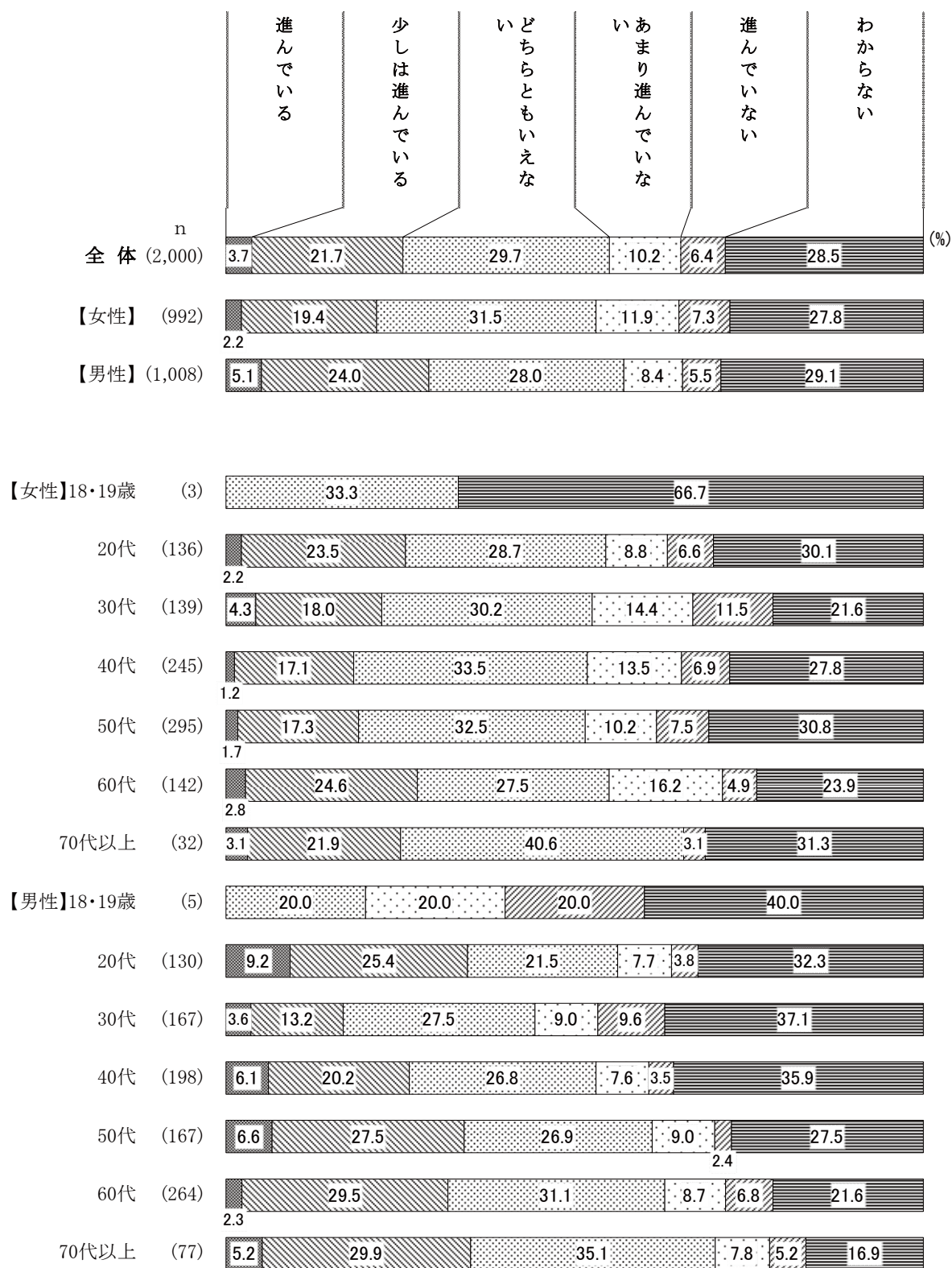
女性は「どちらともいえない」(31.5%)が最も高く、次いで「わからない」(27.8%)、男性は「わからない」(29.1%)が最も高く、「どちらともいえない」(28.0%)が同程度となっている。

《進んでいる(計)》(「進んでいる」と「少しは進んでいる」の合計値)は、男性(29.1%)が女性(21.6%)より7.5ポイント高くなっている。

性・年代別で見ると、女性は20代を除くすべての年代で「どちらともいえない」が最も高く、女性20代は「わからない」(30.1%)が最も高くなっている。男性は20～40代は「わからない」、60代・70代以上は「どちらともいえない」が最も高く、50代は「少しは進んでいる」と「わからない」が同値(27.5%)で最も高くなっている。

《進んでいる(計)》は、30代を除くすべての年代で男性が女性より高くなっており、男女差は50代(女性19.0%、男性34.1%)が15.1ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。また、女性は40代(18.3%)・50代(19.0%)、男性は30代(16.8%)で2割未満となっている。

【問29】

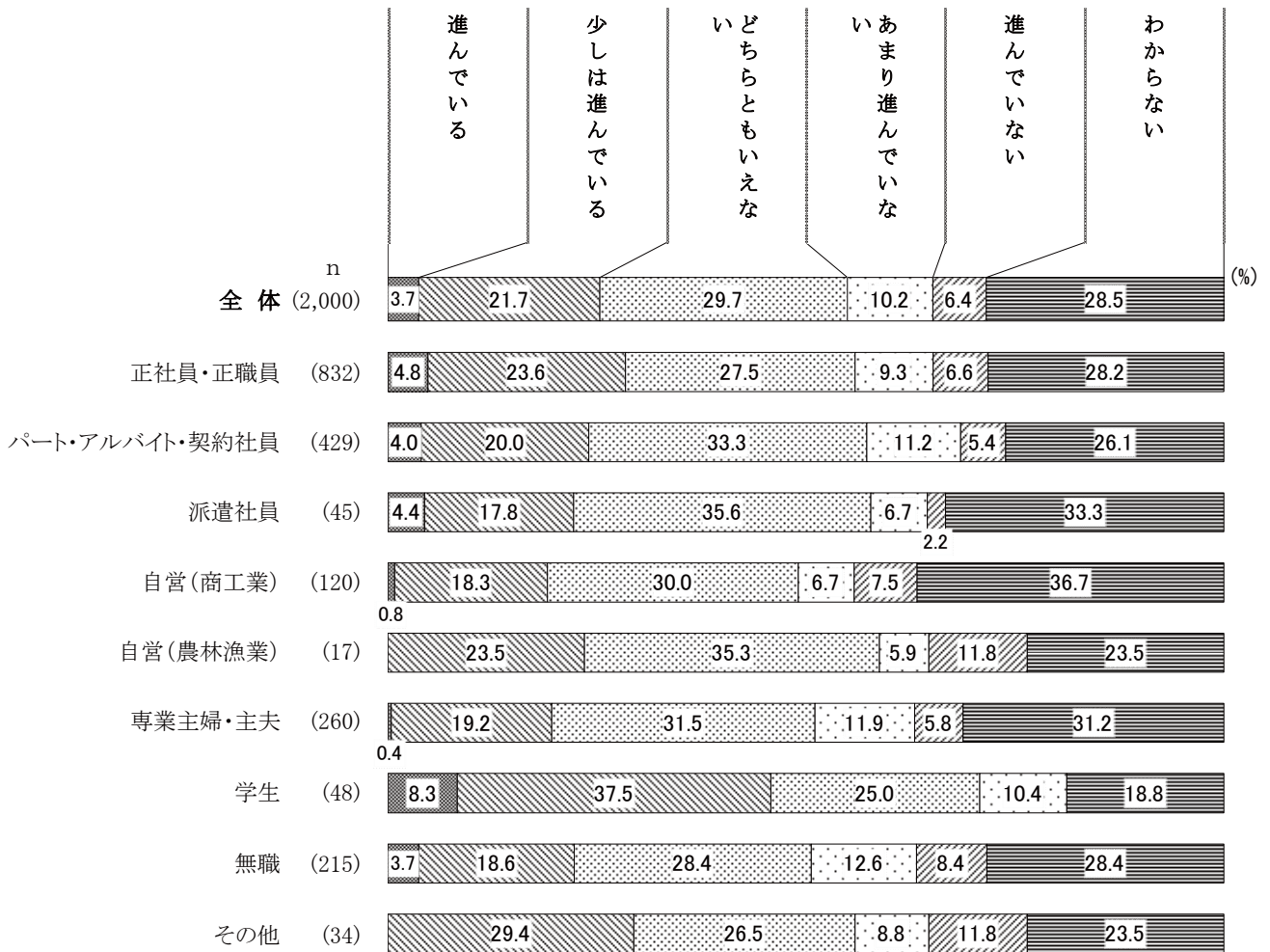


第3章 調査結果の詳細

◇職業別

- 《進んでいる（計）》は学生で約5割、正社員・正職員で約3割

職業別で見ると、『パート・アルバイト・契約社員』、『派遣社員』、『専業主婦・主夫』で「どちらともいえない」が最も高くなっている。『正社員・正職員』（28.2%）、『自営（商工業）』（36.7%）では「わからない」、『学生』（37.5%）では「少しは進んでいる」が最も高く、『無職』で「どちらともいえない」と「わからない」が同値（28.4%）となっている。《進んでいる（計）》（「進んでいる」と「少しは進んでいる」の合計値）は、『学生』（45.8%）で約5割、『正社員・正職員』（28.4%）、『パート・アルバイト・契約社員』（24.0%）で比較的高く、『自営（商工業）』（19.1%）が最も低くなっている。

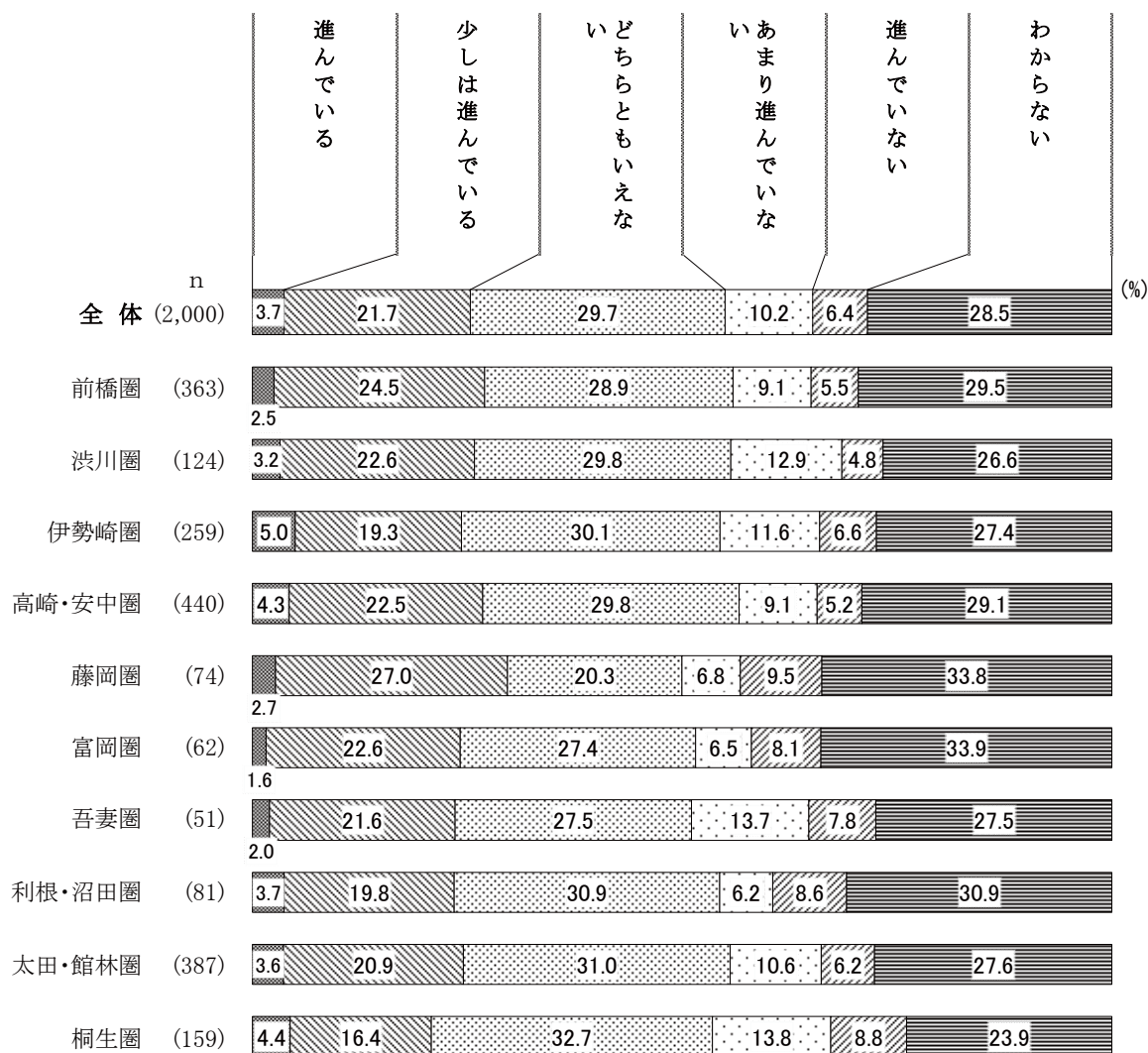


◇圏域別

- すべての圏域で「どちらともいえない」、「わからない」が高い
- 《進んでいる（計）》はすべての圏域で2割台

圏域別で見ると、前橋圏、藤岡圏、富岡圏を除くすべての圏域で「どちらともいえない」が最も高く、吾妻圏、利根・沼田圏は「どちらともいえない」と「わからない」が同値（27.5%、30.9%）となっている。《進んでいる（計）》はすべての圏域で2割台となっている。

【問 29 圏域別】

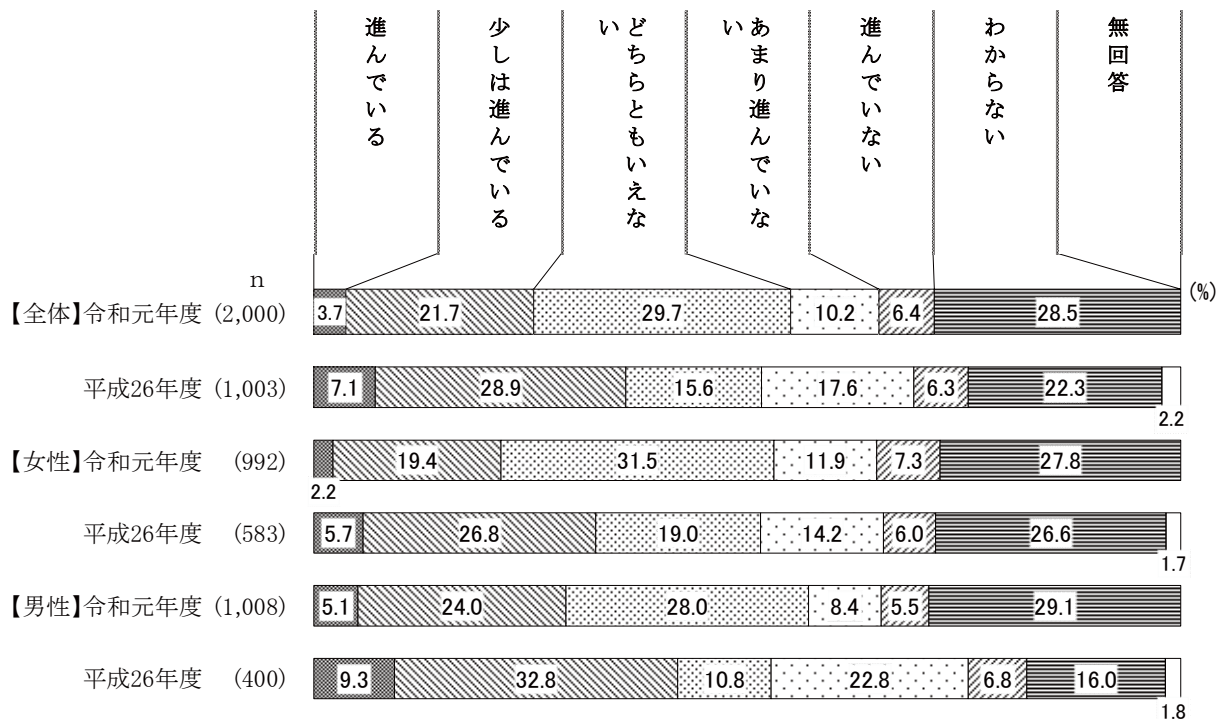


◇経年変化（参考）

- 《進んでいる（計）》は男女とも前回より低い
- 「どちらともいえない」は男女とも前回より高い

平成 26 年度とは文章表現等が異なることを考慮する必要があるが、《進んでいる（計）》（「進んでいる」と「少しは進んでいる」の合計値）は、平成 26 年度（全体 36.0%、女性 32.5%、男性 42.1%）より全体は 10.6 ポイント、女性は 10.9 ポイント、男性は 13.0 ポイントそれぞれ低くなっている。「どちらともいえない」は、平成 26 年度（全体 15.6%、女性 19.0%、男性 10.8%）より全体は 14.1 ポイント、女性は 12.5 ポイント、男性は 17.2 ポイント高くなっている。

【問29 経年変化】



(3) 男女共同参画の社会づくりによって生じると思われる変化や効果

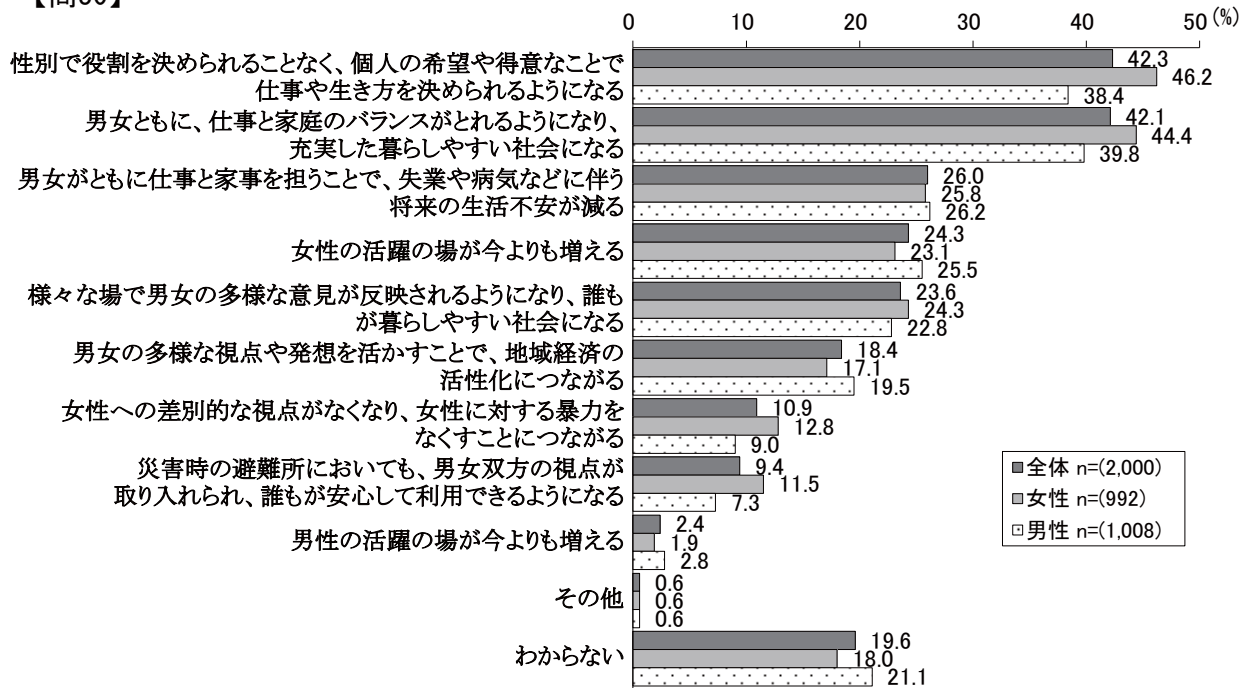
問30 あなたは、男女共同参画の社会づくりが進むと社会にどのような変化や効果が現れると思いますか。(3つまで選択可)

- 「性別によらず個人で仕事や生き方を決められる」が女性約5割、男性約4割
- 「仕事と家庭のバランスが取れ、暮らしやすくなる」が女性4割以上、男性約4割

女性は「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」(46.2%)が最も高く、次いで僅差で「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」(44.4%)となっている。男性は「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」(39.8%)が最も高く、「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」(38.4%)が同程度となっている。男女ともに、上位2項目以外は3割未満となっている。

男女差は「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」が最も大きく、女性が男性より7.8ポイント高くなっている。

【問30】



◇性・年代別

- 「仕事と家庭のバランスが取れ、暮らしやすくなる」、「性別によらず個人で仕事や生き方を決められる」が女性20代・30代で特に高い

性・年代別で見ると、女性20代、男性30代・40代で「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」、女性70代以上で「女性の活躍の場が今よりも増える」が最も高くなっており、そのほかの年代では「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」が最も高い。「性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる」と「男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる」が、女性30代では同値（54.7%）で、女性20代ではどちらも5割以上と特に高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	136	139	245	295	142	32
性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる	-	52.9	54.7	43.7	44.4	45.1	25.0
男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる	33.3	57.4	54.7	42.4	39.7	38.0	31.3
男女がともに仕事と家事を担うことで、失業や病気などに伴う将来の生活不安が減る	-	22.8	28.8	25.7	25.1	26.8	31.3
女性の活躍の場が今よりも増える	-	25.0	18.0	19.6	22.7	28.9	43.8
様々な場で男女の多様な意見が反映されるようになり、誰もが暮らしやすい社会になる	-	32.4	30.2	14.7	22.0	33.1	21.9
男女の多様な視点や発想を活かすことで、地域経済の活性化につながる	-	10.3	13.7	15.5	18.0	26.1	28.1
女性への差別的な視点がなくなり、女性に対する暴力をなくすことにつながる	-	16.2	10.8	13.1	10.8	14.8	15.6
災害時の避難所においても、男女双方の視点を取り入れられ、誰もが安心して利用できるようになる	-	7.4	10.8	16.7	7.8	12.7	21.9
男性の活躍の場が今よりも増える	-	3.7	2.9	2.0	1.4	0.7	-
その他	-	-	0.7	0.4	1.0	0.7	-
わからない	66.7	15.4	14.4	20.0	21.0	14.1	15.6

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

第3章 調査結果の詳細

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	167	198	167	264	77
性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる	40.0	45.4	37.7	30.8	35.3	40.2	48.1
男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる	-	42.3	46.1	40.9	34.1	37.9	40.3
男女がともに仕事と家事を担うことで、失業や病気などに伴う将来の生活不安が減る	40.0	23.1	24.0	22.7	22.8	32.2	31.2
女性の活躍の場が今よりも増える	80.0	23.1	20.4	22.2	20.4	32.6	32.5
様々な場で男女の多様な意見が反映されるようになり、誰もが暮らしやすい社会になる	20.0	20.0	21.6	16.7	26.9	23.5	35.1
男女の多様な視点や発想を活かすことで、地域経済の活性化につながる	-	16.2	12.0	17.2	15.0	28.0	29.9
女性への差別的な視点がなくなり、女性に対する暴力をなくすことにつながる	20.0	10.0	9.6	5.6	7.8	10.2	13.0
災害時の避難所においても、男女双方の視点を取り入れられ、誰もが安心して利用できるようになる	-	7.7	9.0	6.1	3.6	9.1	9.1
男性の活躍の場が今よりも増える	-	2.3	3.6	3.0	2.4	2.7	2.6
その他	20.0	1.5	0.6	0.5	-	0.4	-
わからない	-	23.1	22.2	29.3	25.1	14.0	11.7

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

（４）地域活動に関わるリーダーの性別意識

問31 あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる役職についてどう思いますか。（1つに○）

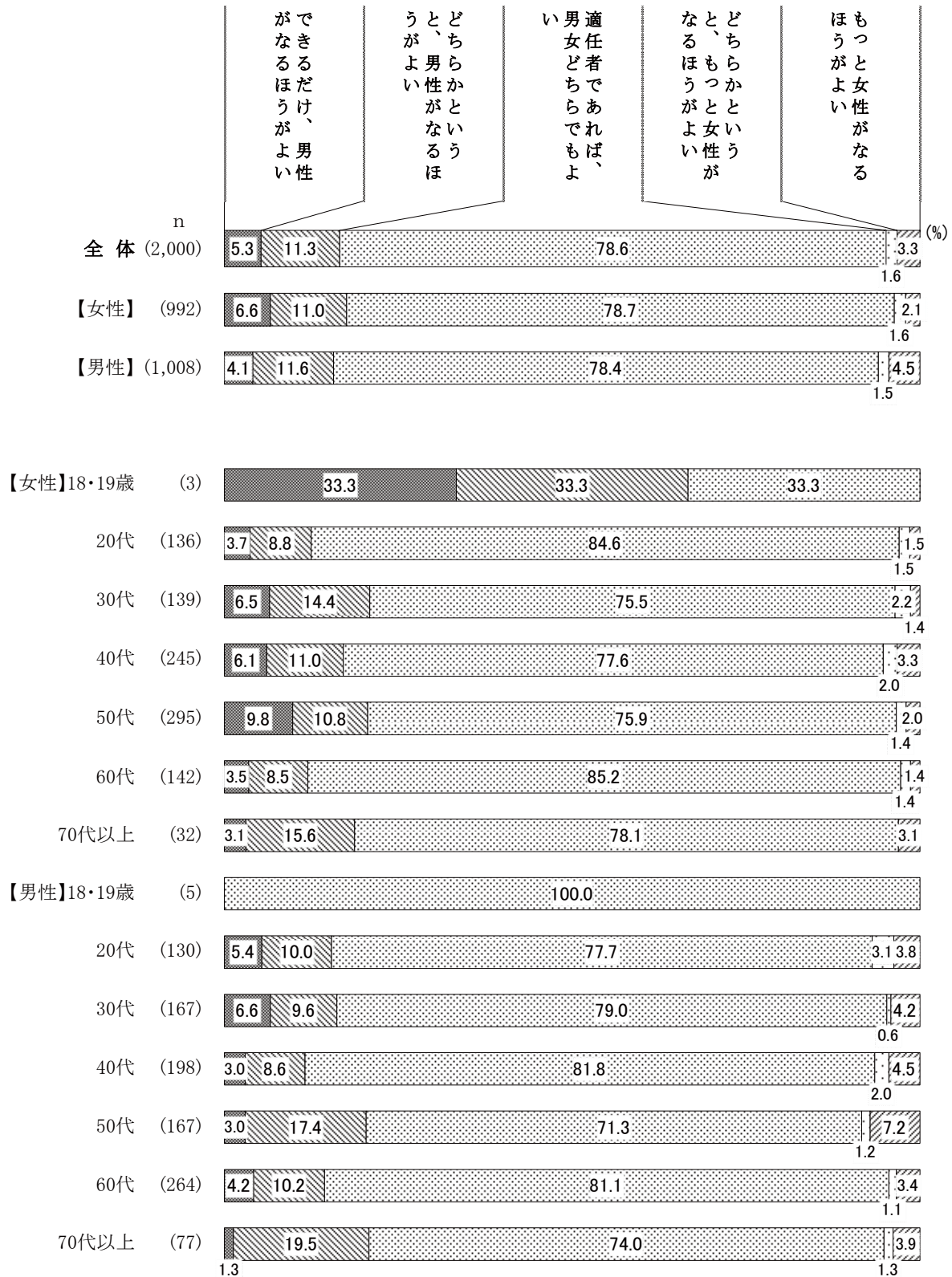
- 「適任者であれば男女どちらでもよい」が男女ともに約8割
- 《男性になるほうがよい（計）》は男女ともに約2割
- 《女性になるほうがよい（計）》はほとんど見られない

全体、男女とも「適任者であれば、男女どちらでもよい」（全体 78.6％、女性 78.7％、男性 78.4％）が最も高く、次いで「どちらかという、男性になるほうがよい」（全体 11.3％、女性 11.0％、男性 11.6％）となっている。一方、《女性になるほうがよい（計）》（「もっと女性になるほうがよい」と「どちらかという、もっと女性になるほうがよい」の合計値）は男女ともほとんど見られない。

《男性になるほうがよい（計）》（「できるだけ、男性になるほうがよい」と「どちらかという、男性になるほうがよい」の合計値）は、女性（17.6％）と男性（15.7％）でほとんど差は見られない。

性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「適任者であれば、男女どちらでもよい」が最も高く、特に女性 20代（84.6％）・60代（85.2％）、男性 40代（81.8％）・60代（81.1％）は8割以上と高くなっている。《男性になるほうがよい（計）》は、30～50代で女性が男性より高くなっており、男女差は40代（女性 17.1％、男性 11.6％）が5.5ポイントで最も大きく、女性が高くなっている。

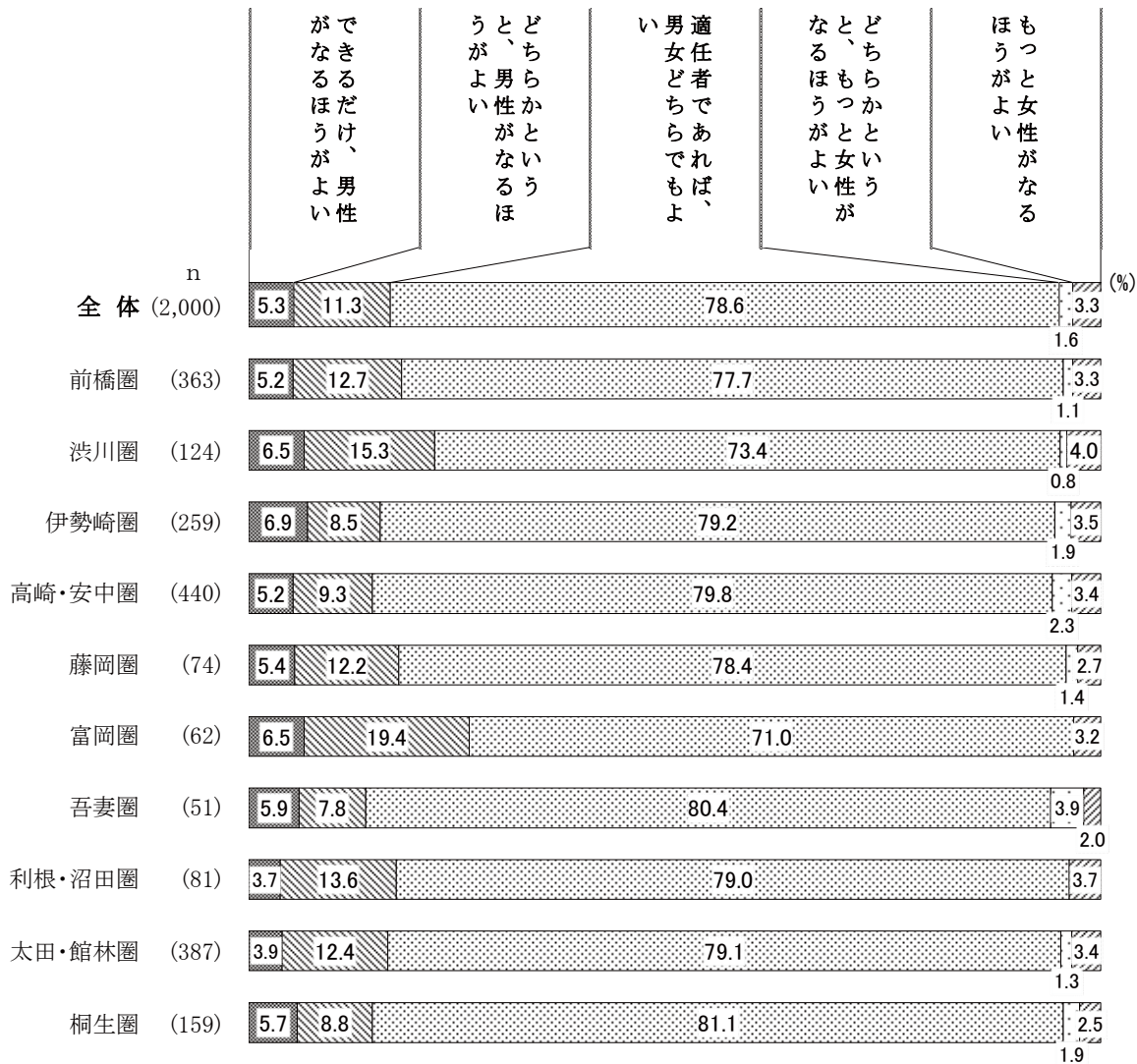
【問31】



◇圏域別

● 富岡圏は《男性になるほうがよい（計）》が比較的高い

圏域別で見ると、すべての圏域で「適任者であれば、男女どちらでもよい」が最も高くなっている。《男性になるほうがよい（計）》（「できるだけ、男性になるほうがよい」と「どちらかという、男性になるほうがよい」の合計値）は、富岡圏（25.9%）が約3割で最も高く、渋川圏（21.8%）が2割以上となっている。

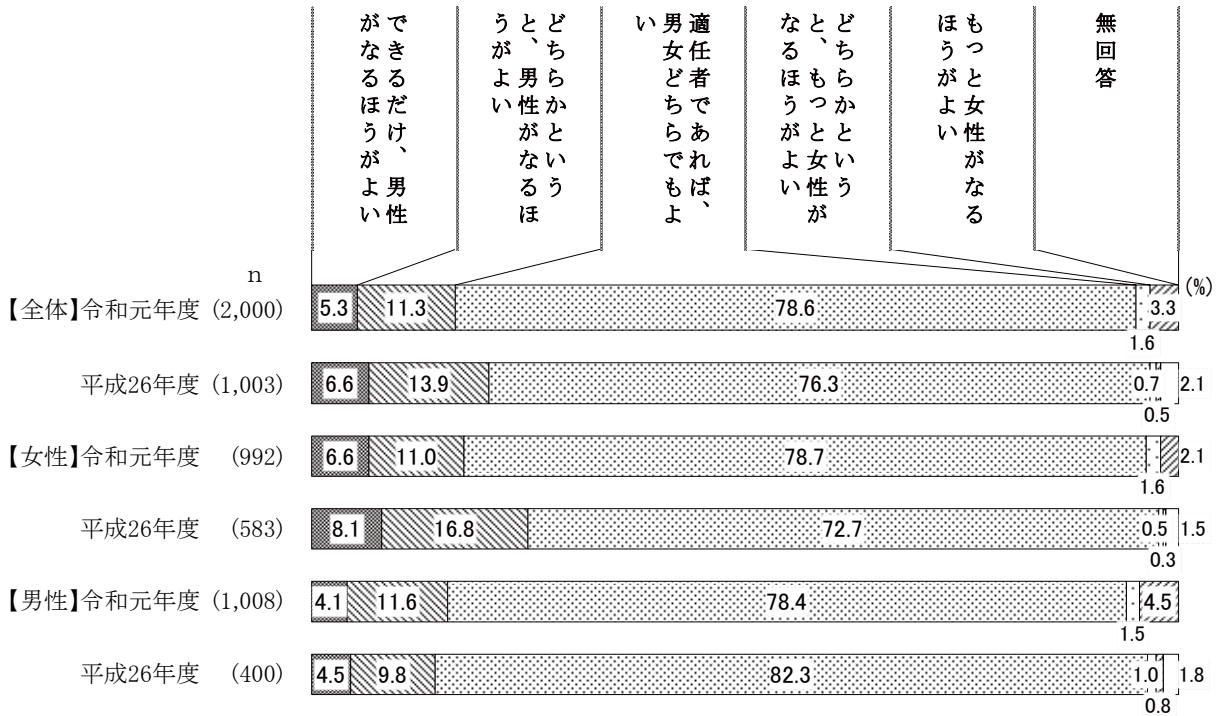


◇経年変化

● 「適任者であれば、男女どちらでもよい」は女性で前回より高い

経年変化を性別で見ると、女性は「適任者であれば、男女どちらでもよい」が平成26年度（72.7%）より6.0ポイント高くなっている。《男性になるほうがよい（計）》（「できるだけ、男性になるほうがよい」と「どちらかという、男性になるほうがよい」の合計値）は、全体、男性はあまり大きな変化は見られないが、女性は平成26年度（24.9%）より7.3ポイント低くなっている。男性よりも女性で地域活動に関わるリーダーの性別意識に変化が見られる。

【問 31 経年変化】



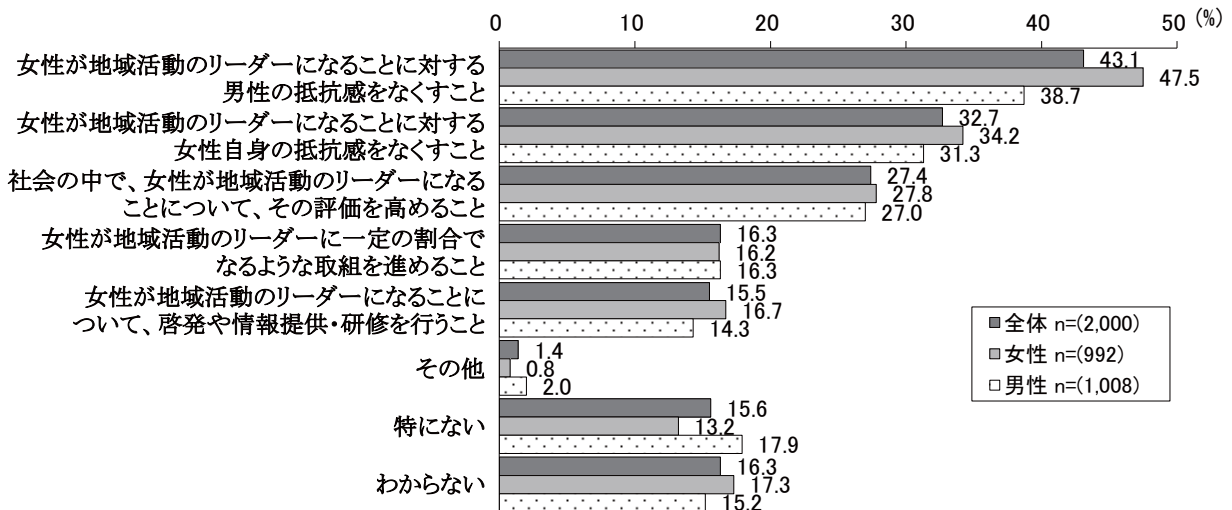
(5) 女性が地域活動のリーダーに登用されるために必要なこと

問32 あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものを全て選択可)

- 「女性リーダーへの男性の抵抗感をなくすこと」が男女ともに最も高い
- ほとんどの項目であまり大きな男女差は見られない

男女ともに、「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」(女性 47.5%、男性 38.7%)が最も高く、次いで「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」(女性 34.2%、男性 31.3%)が3割以上と高くなっている。

男女差は「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も大きく、女性が男性より 8.8 ポイント高くなっており、それ以外の項目ではあまり大きな差は見られない。



第3章 調査結果の詳細

◇性・年代別

- 「男性の抵抗感をなくす」、「女性自身の抵抗感をなくす」がすべての年代で高い
- 「男性の抵抗感をなくす」は女性 20代・60代、男性 70代以上で5割台

性・年代別で見ると、男女ともにすべての年代で「女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと」が最も高く、特に女性 20代（52.2%）・60代（52.1%）、男性 70代以上（55.8%）で5割台と高くなっている。男性 70代以上を除くすべての年代で「女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと」が次いで高くなっており、男性 70代以上では「社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること」（45.5%）が約5割で高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	136	139	245	295	142	32
女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	-	52.2	48.2	46.5	44.4	52.1	43.8
女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	-	45.6	41.7	28.2	30.5	33.8	37.5
社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	33.3	40.4	23.7	21.2	28.1	32.4	18.8
女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること	-	14.7	15.8	13.1	18.0	19.0	21.9
女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	-	18.4	19.4	15.5	12.9	22.5	18.8
その他	-	0.7	2.2	0.8	0.3	0.7	-
特になし	33.3	5.9	8.6	11.4	16.9	16.9	25.0
わからない	33.3	13.2	18.0	25.7	16.6	9.2	9.4

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	167	198	167	264	77
女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	20.0	36.2	42.5	34.3	32.3	40.2	55.8
女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	20.0	27.7	37.7	29.8	25.1	33.0	35.1
社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	20.0	23.1	26.9	22.7	18.6	32.2	45.5
女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること	-	13.8	13.8	12.1	12.6	20.8	29.9
女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	40.0	10.8	14.4	10.1	12.0	17.4	23.4
その他	-	1.5	5.4	1.0	-	2.3	1.3
特になし	20.0	23.1	12.6	20.2	19.2	17.8	11.7
わからない	40.0	16.2	16.2	17.7	20.4	10.6	7.8

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：%）

(6) 女性が増えるとよいと思う役職・職業

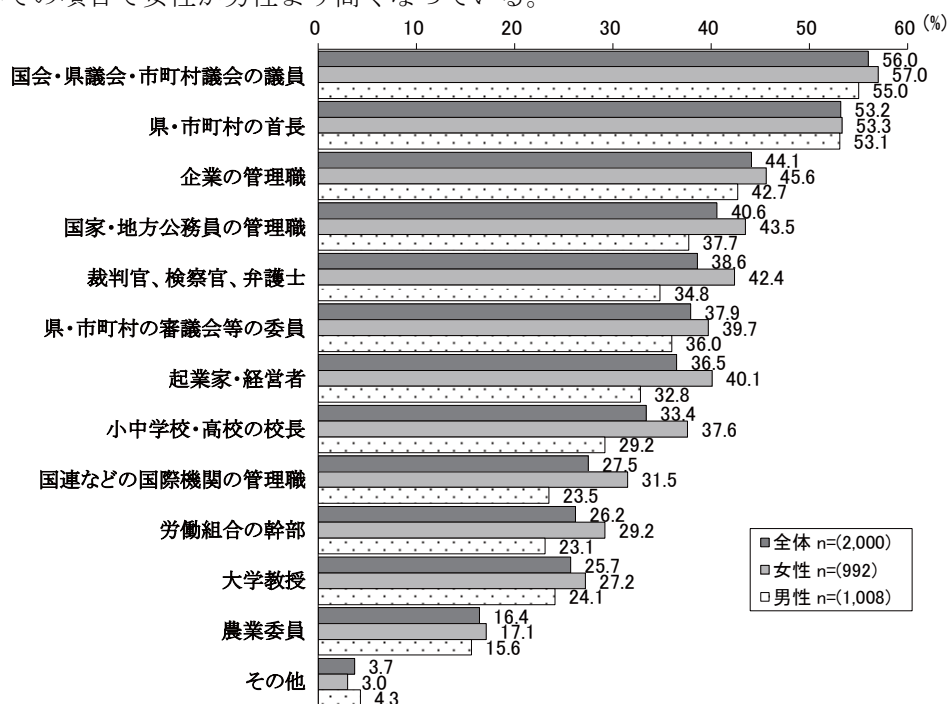
問33 あなたが、次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増えるほうがよいと思うものはどれですか。(あてはまるものを全て選択可)

- 「国会・県議会・市町村議会の議員」が男女ともに約6割で最も高い
- 「小中学校・高校の校長」、「国連など国際機関の管理職」で男女差が大きい
- 「その他」を除くすべての項目で女性が男性より高い

全体では、「国会・県議会・市町村議会の議員」(56.0%)が約6割で最も高く、次いで「県・市町村の首長」(53.2%)で5割以上、「企業の管理職」(44.1%)、「国家・地方公務員の管理職」(40.6%)の2項目で4割以上となっている。

性別で見ると、男女とも「国会・県議会・市町村議会の議員」(女性57.0%、男性55.0%)が最も高く、全体と同様の項目が比較的高くなっている。

男女差は「小中学校・高校の校長」が最も大きく、女性(37.6%)が男性(29.2%)より8.4ポイント高く、「国連などの国際機関の管理職」で、女性(31.5%)が男性(23.5%)より8.0ポイント高くなっている。また、「その他」を除くすべての項目で女性が男性より高くなっている。



※新規調査項目：「県・市町村の審議会等の委員」、「小中学校・高校の校長」、「農業委員」

◇性・年代別

- 「国会・県議会・市町村議会の議員」は60代と男性70代以上で約7割

性・年代別で見ると、女性は20代・70代以上を除き「国会・県議会・市町村議会の議員」が最も高く、20代・70代以上は「県・市町村の首長」が最も高くなっている。男性は50代未満の年代では「県・市町村の首長」が最も高く、50代以上の年代では「国会・県議会・市町村議会の議員」が最も高くなっている。男女60代と男性70代以上は「国会・県議会・市町村議会の議員」が約7割と特に高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	136	139	245	295	142	32
国会・県議会・市町村議会の議員	-	58.1	59.0	50.6	55.6	69.7	53.1
県・市町村の首長	-	59.6	48.9	49.0	50.8	64.8	56.3
企業の管理職	33.3	45.6	48.9	39.6	43.4	57.0	46.9
国家・地方公務員の管理職	33.3	54.4	43.2	33.1	42.0	54.9	43.8
裁判官、検察官、弁護士	-	41.9	42.4	38.4	40.3	57.0	34.4
県・市町村の審議会等の委員	-	43.4	41.7	37.6	34.6	52.8	25.0
起業家・経営者	-	40.4	41.0	38.8	38.0	47.2	37.5
小中学校・高校の校長	-	47.8	41.7	37.6	31.2	37.3	40.6
国連などの国際機関の管理職	-	31.6	27.3	26.1	33.2	38.7	43.8
労働組合の幹部	-	33.1	33.1	26.5	26.1	33.1	31.3
大学教授	-	33.1	30.2	23.3	23.1	33.8	31.3
農業委員	-	17.6	17.3	12.7	16.6	23.2	28.1
その他	33.3	1.5	4.3	4.1	2.4	2.1	3.1

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	167	198	167	264	77
国会・県議会・市町村議会の議員	40.0	46.2	39.5	51.0	52.1	69.7	70.1
県・市町村の首長	20.0	50.0	41.3	56.1	48.5	61.4	59.7
企業の管理職	40.0	36.9	34.7	42.9	43.1	46.2	55.8
国家・地方公務員の管理職	40.0	31.5	26.9	32.8	34.7	49.2	50.6
裁判官、検察官、弁護士	40.0	26.2	28.7	31.8	31.7	42.4	50.6
県・市町村の審議会等の委員	60.0	26.2	27.5	36.9	32.3	42.0	54.5
起業家・経営者	60.0	29.2	34.1	33.3	34.1	31.1	36.4
小中学校・高校の校長	20.0	29.2	26.3	26.3	28.7	33.0	31.2
国連などの国際機関の管理職	-	16.2	25.1	20.7	21.0	28.4	29.9
労働組合の幹部	20.0	22.3	19.2	23.7	23.4	24.2	27.3
大学教授	-	22.3	21.6	21.7	29.9	23.9	28.6
農業委員	-	10.8	13.2	17.7	17.4	15.9	19.5
その他	20.0	6.2	6.0	2.5	6.6	2.3	2.6

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

◇圏域別

- すべての圏域で「国会・県議会・市町村議会の議員」、「県・市町村の首長」は5割以上

圏域別で見ると、伊勢崎圏を除き「国会・県議会・市町村議会の議員」が最も高く（渋川圏は「県・市町村の首長」と同値）、伊勢崎圏は「県・市町村の首長」が最も高くなっている。

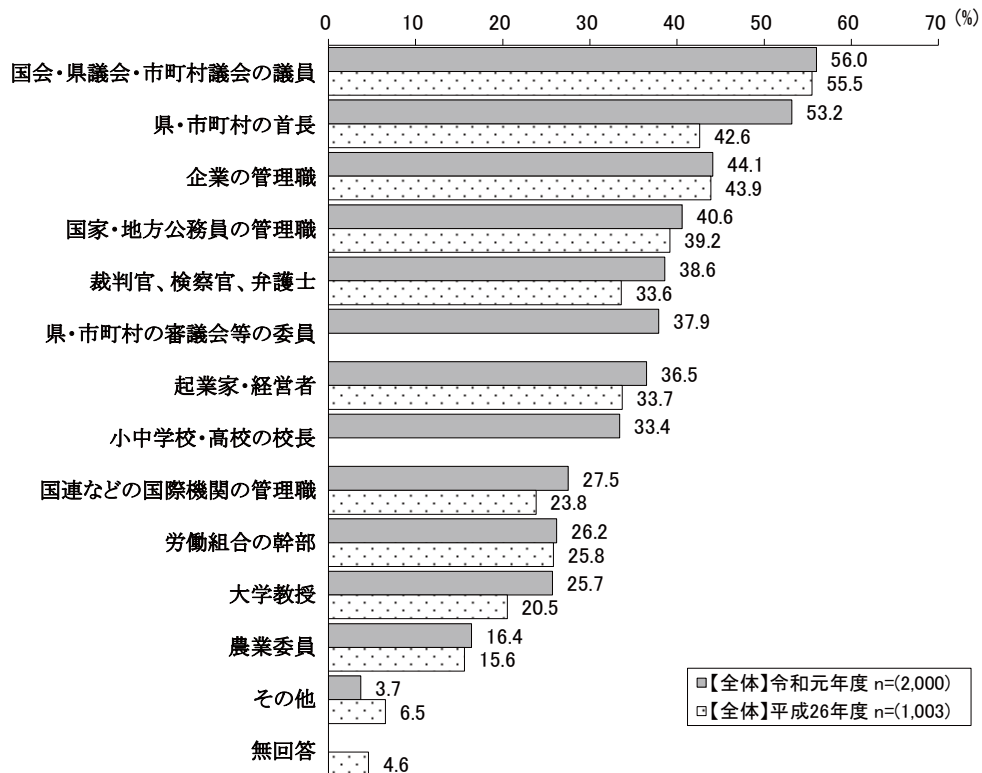
圏域	前橋圏	渋川圏	伊勢崎圏	高崎・安中圏	藤岡圏	富岡圏	吾妻圏	利根・沼田圏	太田・館林圏	桐生圏
N	363	124	259	440	74	62	51	81	387	159
国会・県議会・市町村議会の議員	56.7	57.3	51.0	55.2	64.9	61.3	66.7	54.3	55.6	55.3
県・市町村の首長	50.4	57.3	52.9	55.0	58.1	54.8	60.8	48.1	52.7	50.3
企業の管理職	41.0	50.8	38.2	45.9	45.9	43.5	39.2	51.9	44.7	45.9
国家・地方公務員の管理職	38.8	41.9	37.5	38.9	51.4	37.1	45.1	48.1	39.5	47.2
裁判官、検察官、弁護士	40.2	39.5	34.7	39.8	41.9	30.6	41.2	40.7	38.2	37.7
県・市町村の審議会等の委員	38.3	39.5	31.3	39.5	51.4	27.4	37.3	39.5	38.8	36.5
起業家・経営者	37.7	33.9	31.3	35.9	37.8	29.0	43.1	35.8	39.3	39.0
小中学校・高校の校長	32.2	36.3	32.4	33.6	32.4	38.7	39.2	35.8	34.4	27.0
国連などの国際機関の管理職	27.5	28.2	25.1	30.7	28.4	19.4	25.5	27.2	25.6	29.6
労働組合の幹部	23.1	29.0	19.3	28.6	24.3	21.0	23.5	38.3	28.2	27.7
大学教授	26.2	22.6	23.2	29.5	21.6	9.7	33.3	28.4	26.6	22.0
農業委員	15.7	14.5	10.8	18.6	13.5	9.7	23.5	22.2	17.3	18.2
その他	5.5	3.2	3.5	3.2	6.8	1.6	-	2.5	2.3	5.7

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

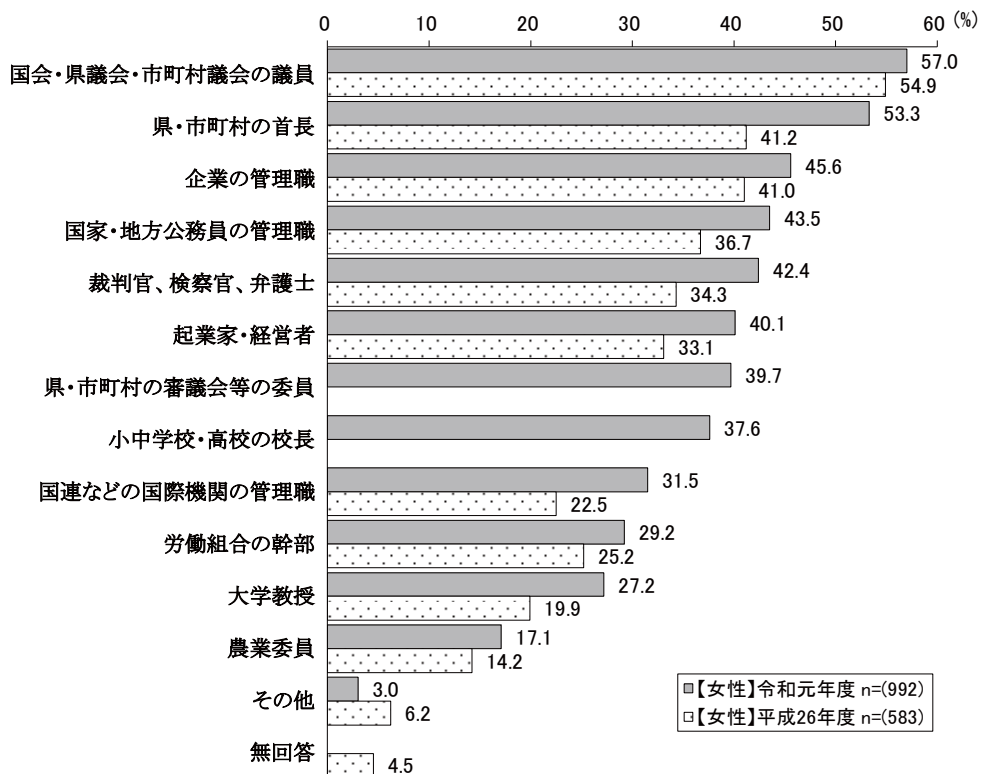
◇経年変化（参考）

● 女性は前回より上昇した項目が多く、男性は低下した項目が多い

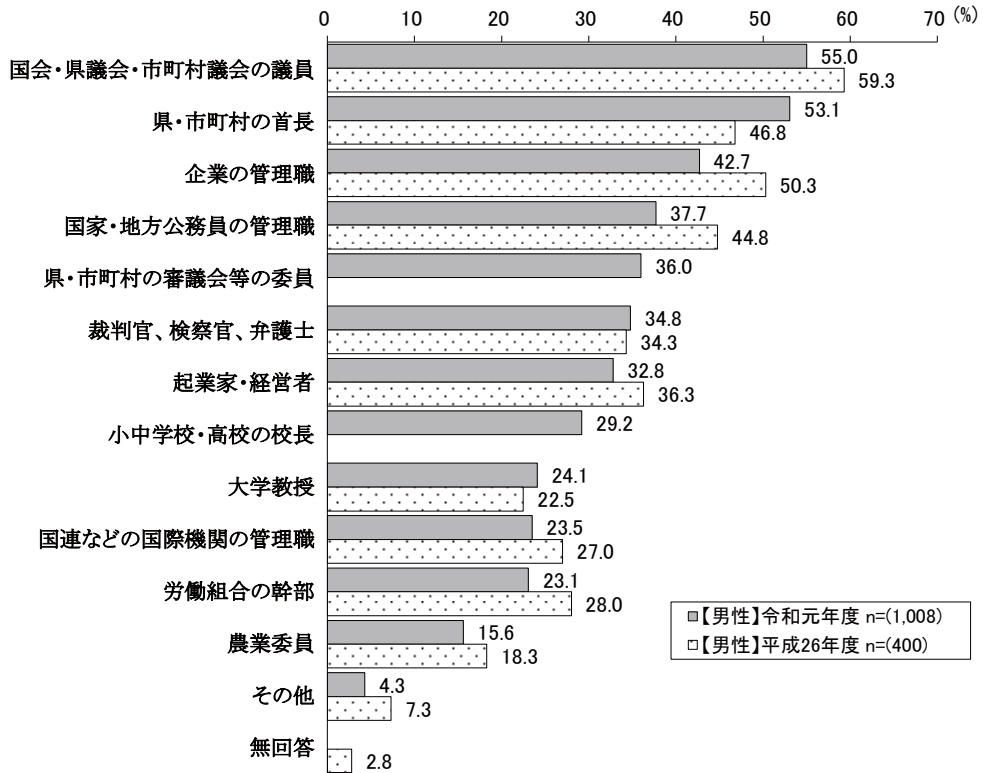
平成 26 年度とは文章表現や選択肢数等が異なるため、参考として経年変化を見ると、男女とも「県・市町村の首長」が平成 26 年度（女性 41.2%、男性 46.8%）より女性は 12.1 ポイント、男性は 6.3 ポイント高くなっている。女性は「その他」を除くすべての項目で平成 26 年度より高くなっているが、男性は「県・市町村の首長」（46.8%）、「裁判官、検察官、弁護士」（34.3%）、「大学教授」（22.5%）を除くすべての項目で平成 26 年度より低くなっている。



【女性】



【男性】

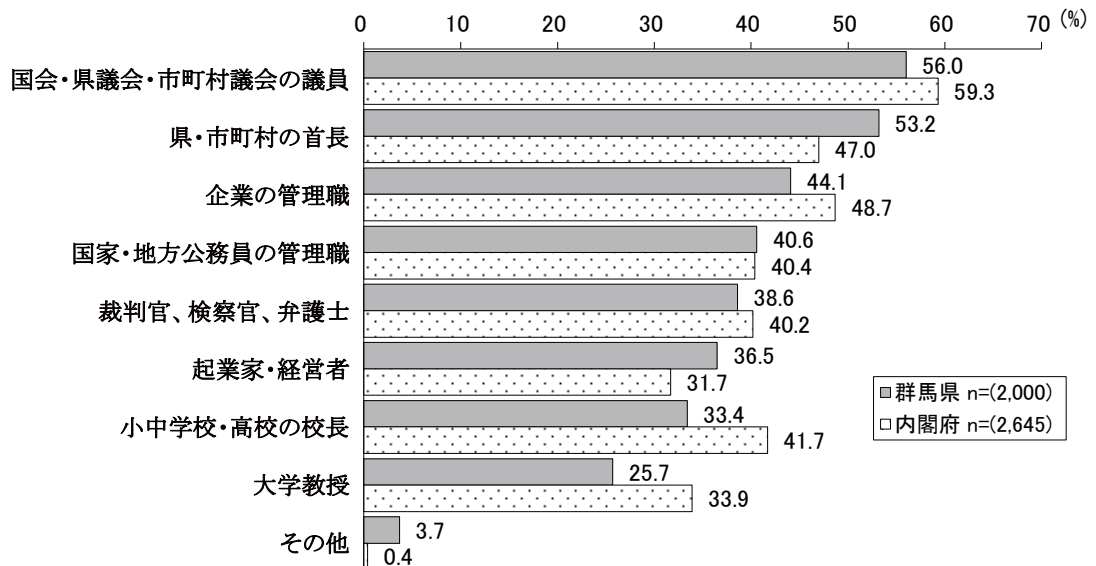


◇国の調査との比較（参考）

- ほとんどの項目で国より低い
- 「県・市町村の首長」で国より高い

内閣府の調査とは文章表現や選択肢数等が異なるため、参考として共通する項目を表示する。

内閣府の調査と比較すると、「県・市町村の首長」、「国家・地方公務員の管理職」、「起業家・経営者」、「その他」を除くすべての項目で内閣府より低くなっており、特に「小中学校・高校の校長」は内閣府（41.7%）より 8.3 ポイント、「大学教授」は内閣府（33.9%）より 8.2 ポイント低くなっている。一方、「県・市町村の首長」は内閣府（47.0%）より 6.2 ポイント高くなっている。



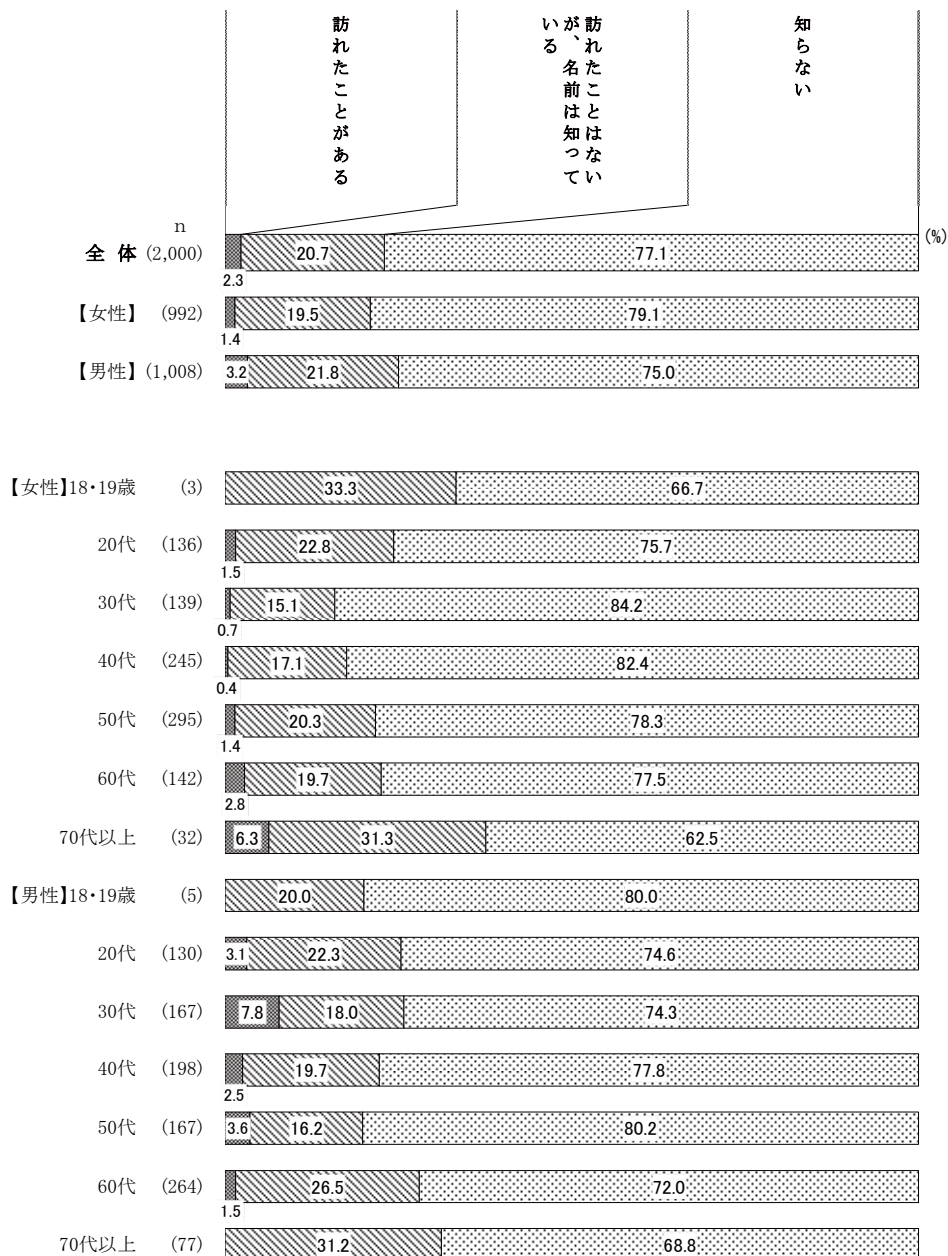
(7) 「ぐんま男女共同参画センター」の認知度

問34 あなたは、男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設「ぐんま男女共同参画センター」を知っていますか。(1つに○)

- 男女とも《知っている(計)》は2割以上
- 70代以上で《知っている(計)》が女性約4割、男性3割以上

全体、男女とも「知らない」(全体 77.1%、女性 79.1%、男性 75.0%)が約8割で特に高くなっている。《知っている(計)》(「訪れたことがある」と「訪れたことはないが、名前は知っている」の合計値)は、男女ともに2割以上(女性 20.9%、男性 25.0%)となっている。

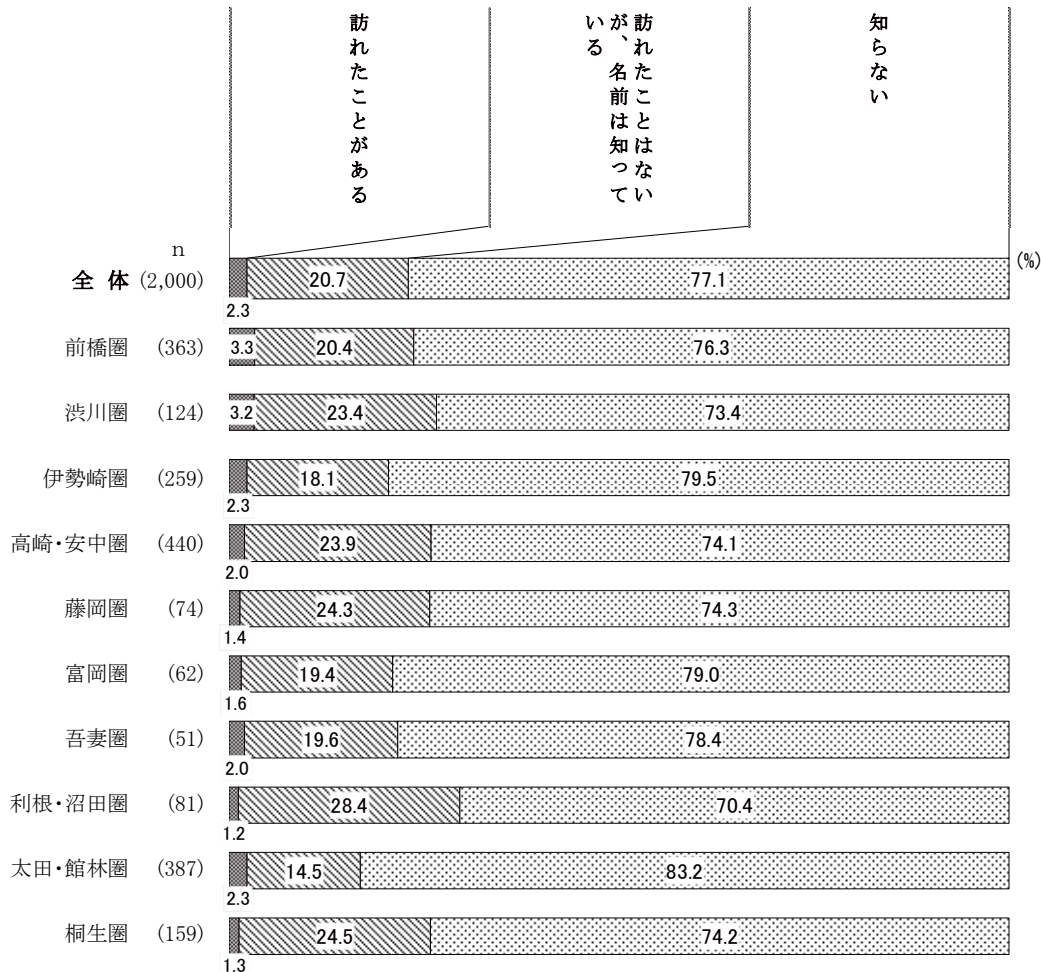
性・年代別で見ると、男女ともすべての年代で「知らない」が最も高くなっている。《知っている(計)》は、70代以上(女性 37.6%、男性 31.2%)が最も高く、男女差は30代(女性 15.8%、男性 25.8%)が10.0ポイントで最も大きく、男性が高くなっている。



◇圏域別

● 太田・館林圏以外は《知っている（計）》が2割以上

圏域別で見ると、すべての圏域で「知らない」が最も高く、特に太田・館林圏（83.2%）で8割以上と高くなっている。《知っている（計）》（「訪れたことがある」と「訪れたことはないが、名前は知っている」の合計値）は、利根・沼田圏（29.6%）が約3割で最も高く、太田・館林圏（16.8%）が約2割で最も低くなっている。太田・館林圏以外の圏域では、《知っている（計）》は2割以上となっている。

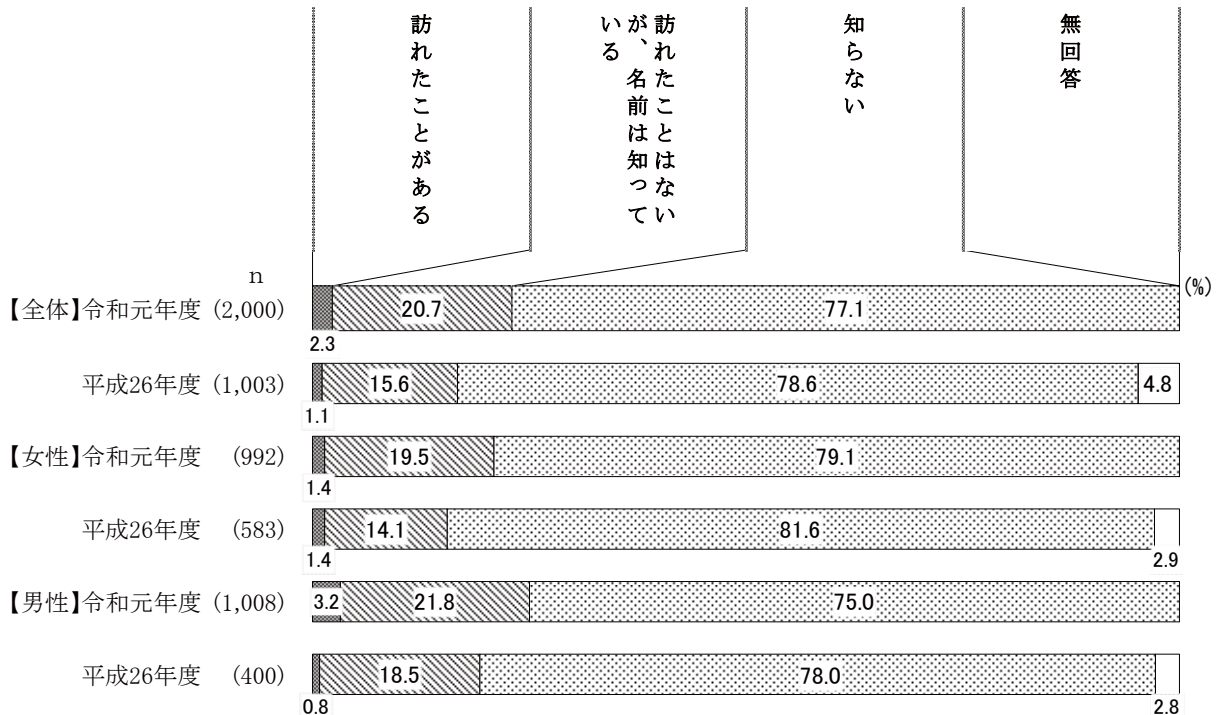


◇経年変化

● 《知っている（計）》が前回より高い

経年変化を性別で見ると、《知っている（計）》（「訪れたことがある」と「訪れたことはないが、名前は知っている」の合計値）は、平成26年度（全体16.7%、女性15.5%、男性19.3%）より全体は6.3ポイント、女性は5.4ポイント、男性は5.7ポイント高くなっている。

【問34 経年変化】



(8) 「ぐんま男女共同参画センター」が今後担うべき役割

問35 あなたは、「ぐんま男女共同参画センター」が今後どのような役割を担うべきだと思いますか。(3つまで選択可)

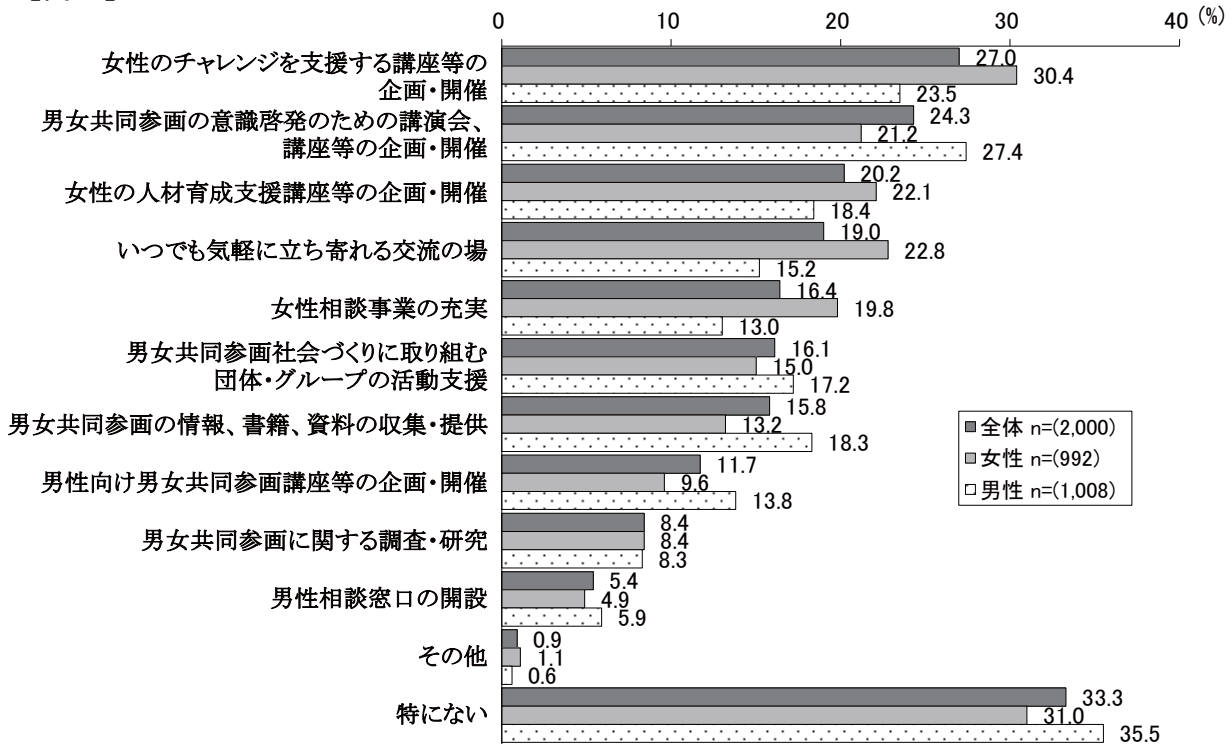
- 「交流の場」で約3割、「意識啓発の講演会等」、「女性のチャレンジ支援」で2割以上
- 女性は「女性のチャレンジ支援」、男性は「意識啓発の講演会等」が最も高い

全体では、「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」(27.0%)で約3割、「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」(24.3%)、「女性の人材育成支援講座等の企画・開催」(20.2%)の2項目が2割以上で比較的高く、上位3項目以外はいずれも2割未満となっている。

性別で見ると、女性は「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」(30.4%)が最も高く、次いで「いつでも気軽に立ち寄れる交流の場」(22.8%)となっている。男性は「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」(27.4%)が最も高く、次いで「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」(23.5%)となっている。「特にない」(女性31.0%、男性35.5%)は、女性で3割以上、男性で約4割を占めている。

男女差は「いつでも気軽に立ち寄れる交流の場」で最も大きく、女性(22.8%)が男性(15.2%)より7.6ポイント高くなっている。

【問35】



※新規調査項目：「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」、「男性向け男女共同参画講座等の企画・開催」

◇性・年代別

- 女性 30代で「女性のチャレンジ支援」、男性 70代以上で「意識啓発の講演会等」が比較的高い

性・年代別で見ると、女性は 40代・50代を除いて「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」が最も高く（70代以上は「女性相談事業の充実」と同値）、特に 30代（38.8%）では約 4割と比較的高くなっている。40代・50代は「特にない」が最も高く、次いで「女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催」となっている。男性は 60代未満の年代では「特にない」が最も高くなっている。60代以上の年代では「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」が最も高く、特に 70代以上（41.6%）は 4割以上と比較的高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	136	139	245	295	142	32
女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催	-	30.9	38.8	28.6	26.8	33.1	31.3
男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催	-	22.8	18.0	15.1	21.4	32.4	25.0
女性の人材育成支援講座等の企画・開催	33.3	23.5	22.3	21.6	22.0	21.1	21.9
いつでも気軽に立ち寄れる交流の場	-	21.3	25.2	25.7	20.0	23.9	18.8
女性相談事業の充実	-	19.9	17.3	23.3	17.6	18.3	31.3
男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループの活動支援	-	11.8	10.8	8.6	18.3	25.4	21.9
男女共同参画の情報、書籍、資料の収集・提供	-	20.6	15.8	12.7	8.8	12.7	18.8
男性向け男女共同参画講座等の企画・開催	-	11.0	11.5	4.9	11.2	12.0	6.3
男女共同参画に関する調査・研究	-	6.6	7.2	9.4	8.5	8.5	12.5
男性相談窓口の開設	-	10.3	5.0	5.3	3.1	4.2	-
その他	-	0.7	2.9	0.8	0.7	0.7	3.1
特にない	66.7	30.1	28.8	33.1	34.6	24.6	21.9

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で 2 番目に値が高い項目（単位：%）

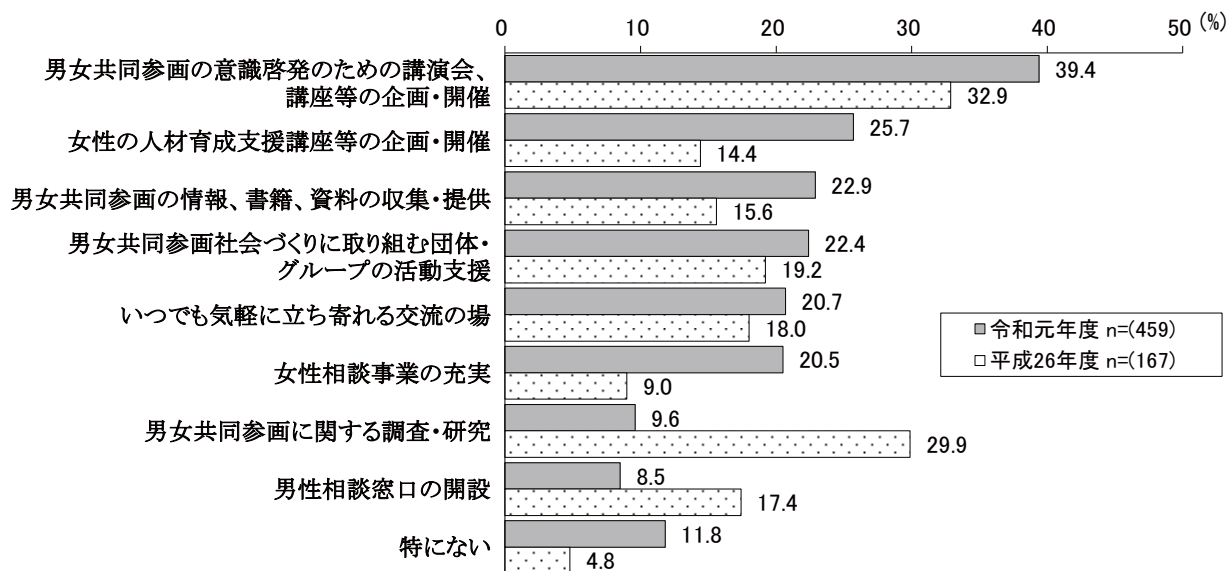
男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	167	198	167	264	77
女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催	40.0	22.3	24.6	19.7	22.8	26.9	22.1
男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催	-	23.1	21.0	23.2	26.9	33.3	41.6
女性の人材育成支援講座等の企画・開催	-	20.0	15.6	17.7	18.6	18.6	23.4
いつでも気軽に立ち寄れる交流の場	40.0	10.0	13.8	16.7	16.2	17.4	11.7
女性相談事業の充実	-	13.8	18.6	9.6	13.8	12.5	9.1
男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループの活動支援	-	11.5	13.8	12.6	13.2	23.5	33.8
男女共同参画の情報、書籍、資料の収集・提供	40.0	16.2	21.6	17.2	11.4	19.7	26.0
男性向け男女共同参画講座等の企画・開催	-	15.4	11.4	10.6	7.8	19.3	19.5
男女共同参画に関する調査・研究	-	7.7	9.6	7.6	6.0	10.2	7.8
男性相談窓口の開設	20.0	10.0	10.2	8.6	2.4	2.3	1.3
その他	-	-	0.6	0.5	0.6	0.8	1.3
特になし	20.0	40.0	36.5	37.9	42.5	28.8	28.6

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

◇経年変化（参考）

- ほとんどの項目で前回より高くなっている
- 「男性相談窓口の開設」、「男女共同参画に関する調査・研究」は前回より低い

問 34 でぐんま男女共同参画センターを「訪れたことがある」または「訪れたことはないが、名前は知っている」と回答した 459 人について経年変化を見ると、平成 26 年度とは項目数や文章表現、回答者数等が異なることを考慮する必要があるが、平成 26 年度と同様に「男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催」（令和元年度 39.4％、平成 26 年度 32.9％）が高くなっている。また、多くの項目が平成 26 年度より高くなっている中、「男女共同参画に関する調査・研究」（令和元年度 9.6％、平成 26 年度 29.9％）は 20.3 ポイント、「男性相談窓口の開設」（令和元年度 8.5％、平成 26 年度 17.4％）は 8.9 ポイントそれぞれ低くなっている。



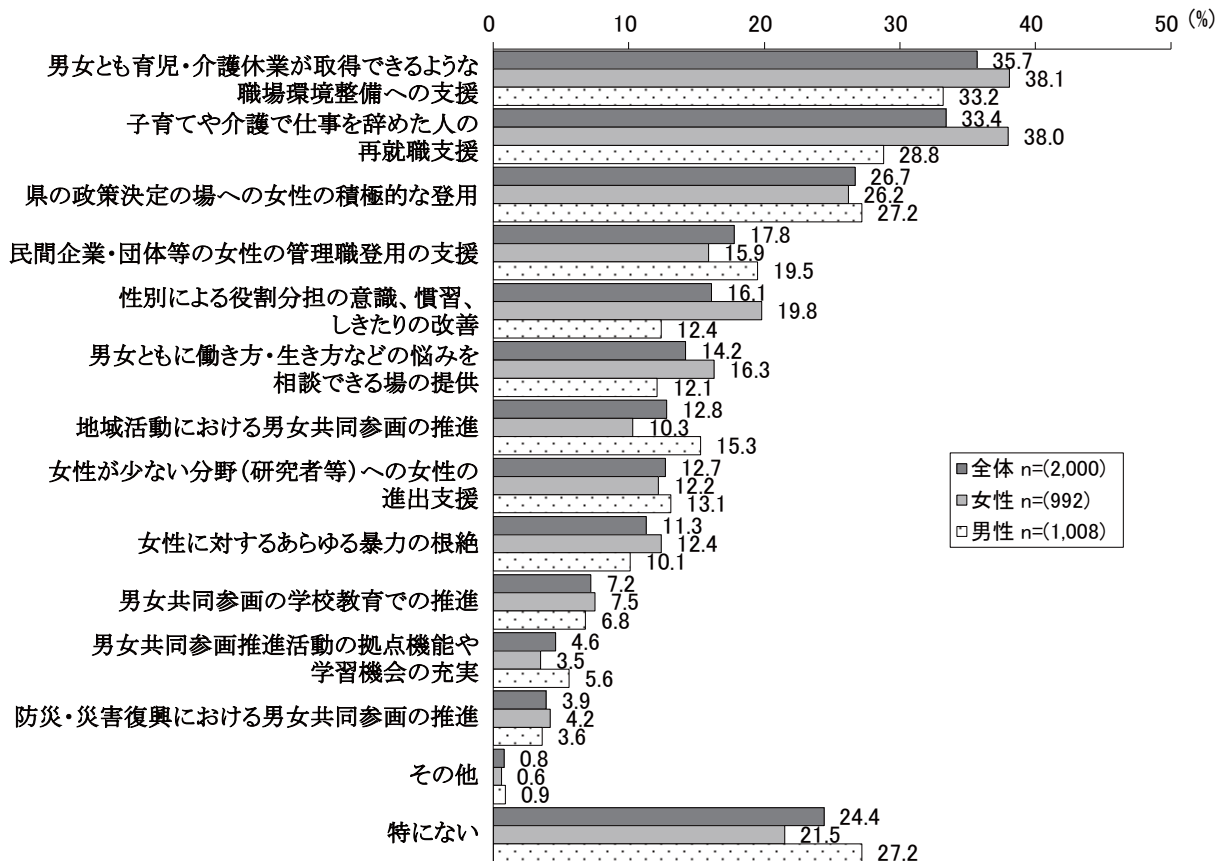
(9) 男女共同参画社会実現のために群馬県が力を入れるべきこと

問36 男女共同参画社会を実現するために、今後、群馬県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(3つまで選択可)

- 男女とも「育児・介護休業の取得可能な環境整備」が最も高い
- 「再就職支援」は女性約4割、男性約3割
- 「特にない」は男性が女性より高い

全体、男女とも「男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援」(全体 35.7%、女性 38.1%、男性 33.2%)が最も高く、次いで「子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援」(全体 33.4%、女性 38.0%、男性 28.8%)となっている。

男女差は「子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援」で最も大きく、女性が男性より 9.2 ポイント高くなっている。また、「性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善」は、女性 (19.8%) が男性 (12.4%) より 7.4 ポイント高くなっている。一方で、「特にない」は男性 (27.2%) が女性 (21.5%) より 5.7 ポイント高くなっている。



※新規調査項目：「男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援」、「性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善」、「男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実」、「防災・災害復興における男女共同参画の推進」

◇性・年代別

● 男女とも 60 代は「育児・介護休業の取得可能な環境整備」が最も高い

性・年代別で見ると、女性は 40 代・60 代・70 代以上では「男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援」、20 代・30 代・50 代では「子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援」がそれぞれ最も高くなっている。男性は 30 代・60 代では「男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援」、70 代以上では「県の政策決定の場への女性の積極的な登用」、20 代・40 代・50 代では「特にない」が最も高くなっている。

女性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	3	136	139	245	295	142	32
男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援	-	41.9	38.1	35.9	31.5	50.7	46.9
子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援	-	44.9	48.2	34.7	33.9	40.8	18.8
県の政策決定の場への女性の積極的な登用	-	23.5	20.9	24.5	27.5	33.8	31.3
民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援	-	14.7	18.0	14.7	16.3	14.8	25.0
性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善	-	22.1	18.0	17.6	18.3	23.9	31.3
男女ともに働き方・生き方などの悩みを相談できる場の提供	-	19.1	15.1	15.1	15.3	21.8	6.3
地域活動における男女共同参画の推進	-	6.6	2.9	6.9	14.6	17.6	12.5
女性が少ない分野(研究者等)への女性の進出支援	33.3	14.7	15.8	11.4	10.8	9.2	15.6
女性に対するあらゆる暴力の根絶	-	15.4	15.1	12.2	11.9	9.9	6.3
男女共同参画の学校教育での推進	-	10.3	9.4	4.9	8.5	5.6	6.3
男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実	-	2.2	2.9	2.4	3.1	7.0	9.4
防災・災害復興における男女共同参画の推進	-	3.7	2.2	5.3	3.4	7.0	3.1
その他	-	0.7	0.7	0.8	-	0.7	3.1
特にない	66.7	15.4	18.0	28.2	24.7	13.4	12.5

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

男性	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
N	5	130	167	198	167	264	77
男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援	20.0	28.5	38.9	26.8	26.3	39.4	40.3
子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援	40.0	27.7	33.5	28.8	25.7	28.4	27.3
県の政策決定の場への女性の積極的な登用	20.0	15.4	20.4	23.2	25.1	36.7	44.2
民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援	20.0	16.9	19.8	18.2	16.2	23.5	20.8
性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善	-	9.2	14.4	10.1	8.4	17.4	11.7
男女ともに働き方・生き方などの悩みを相談できる場の提供	-	13.8	15.6	13.1	11.4	8.0	15.6
地域活動における男女共同参画の推進	20.0	13.8	12.0	6.1	14.4	23.1	23.4
女性が少ない分野(研究者等)への女性の進出支援	-	15.4	13.2	12.1	12.0	11.4	20.8
女性に対するあらゆる暴力の根絶	-	9.2	9.0	14.6	7.8	9.8	9.1
男女共同参画の学校教育での推進	20.0	3.8	7.8	7.1	5.4	8.0	7.8
男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実	20.0	5.4	2.4	5.6	6.0	5.7	10.4
防災・災害復興における男女共同参画の推進	-	5.4	2.4	3.5	3.6	2.7	6.5
その他	-	1.5	1.2	0.5	1.2	0.4	1.3
特にない	20.0	30.8	27.5	32.3	32.9	20.8	16.9

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目(単位:%)

◇圏域別

● すべての圏域で「育児・介護休業の取得可能な環境整備」が高い

圏域別で見ると、ほとんどの圏域で「男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援」、「子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援」が上位 2 項目となっている。その他の項目では、渋川圏、吾妻圏で「県の政策決定の場への女性の積極的な登用」(渋川圏 32.3%、吾妻圏 31.4%)、富岡圏で「性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善」(29.0%) がそれぞれ高くなっている。

第3章 調査結果の詳細

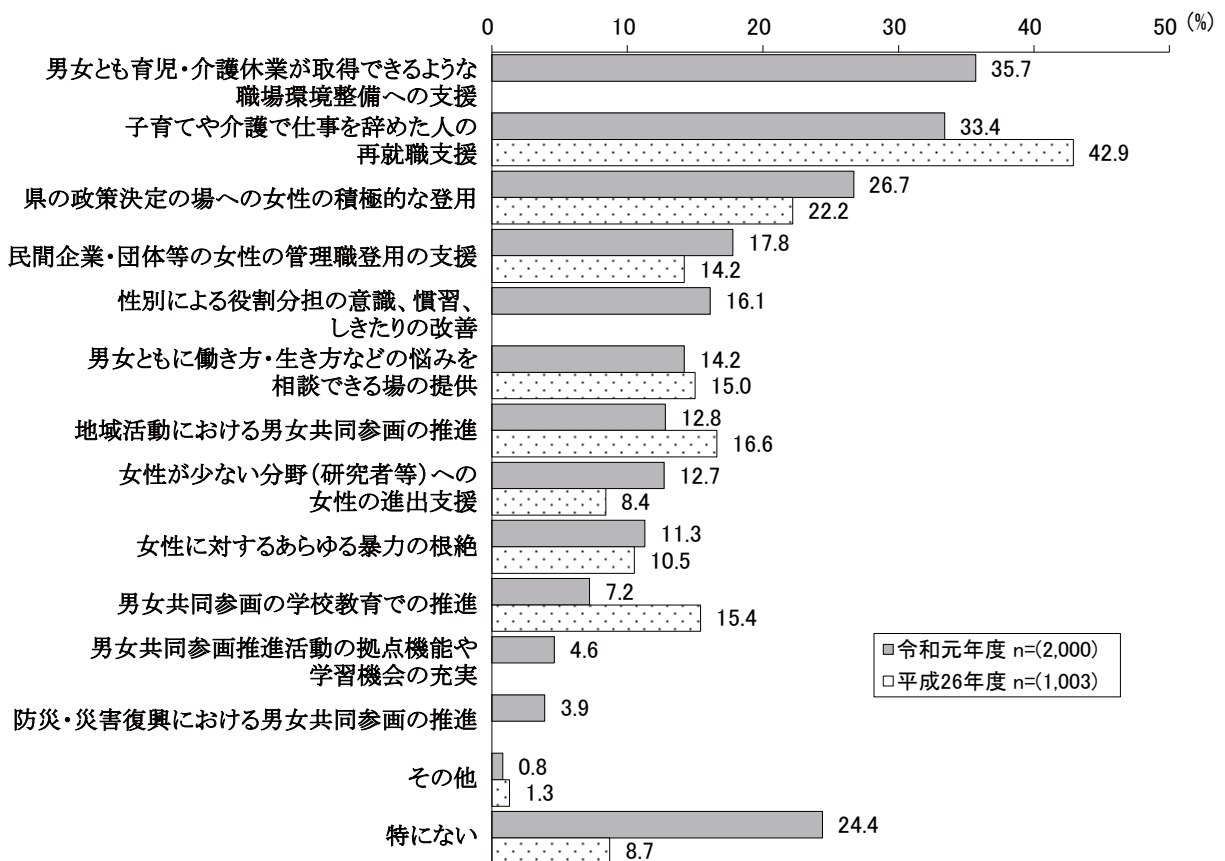
圏域	前橋圏	渋川圏	伊勢崎圏	高崎・安中圏	藤岡圏	富岡圏	吾妻圏	利根・沼田圏	太田・館林圏	桐生圏
N	363	124	259	440	74	62	51	81	387	159
男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援	34.2	37.9	34.7	32.5	33.8	40.3	43.1	37.0	40.8	30.8
子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援	31.4	25.8	37.5	34.3	37.8	29.0	15.7	32.1	35.7	34.6
県の政策決定の場への女性の積極的な登用	28.4	32.3	26.3	26.8	24.3	21.0	31.4	22.2	25.8	25.2
民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援	15.2	24.2	18.1	18.9	14.9	19.4	13.7	16.0	18.9	15.1
性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善	16.0	13.7	16.6	15.0	27.0	29.0	19.6	14.8	12.9	17.0
男女ともに働き方・生き方などの悩みを相談できる場の提供	13.2	12.1	13.9	14.3	10.8	12.9	25.5	18.5	14.5	13.8
地域活動における男女共同参画の推進	14.3	13.7	8.9	11.1	10.8	9.7	25.5	22.2	14.0	10.1
女性が少ない分野(研究者等)への女性の進出支援	12.1	12.9	12.7	12.0	17.6	8.1	19.6	9.9	12.4	14.5
女性に対するあらゆる暴力の根絶	14.0	15.3	10.0	8.4	12.2	8.1	11.8	8.6	11.4	13.2
男女共同参画の学校教育での推進	8.8	7.3	8.1	7.3	9.5	9.7	7.8	7.4	4.9	4.4
男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実	4.1	8.1	3.1	5.5	6.8	3.2	3.9	4.9	3.9	3.8
防災・災害復興における男女共同参画の推進	3.9	3.2	4.2	3.4	1.4	4.8	3.9	3.7	4.4	5.0
その他	0.8	2.4	0.4	0.5	-	1.6	-	1.2	0.5	1.3
特にない	25.1	21.0	24.7	25.9	21.6	25.8	15.7	22.2	24.3	25.2

※濃色網掛け表示は各属性で最も値が高い項目、淡色網掛け表示は各属性で2番目に値が高い項目（単位：％）

◇経年変化（参考）

- 「再就職支援」、「学校教育での推進」が前回より特に低い
- 「特にない」が前回より高い

平成 26 年度とは項目数や文章表現等が異なるため参考として見ると、「県の政策決定の場への女性の積極的な登用」が平成 26 年度より高くなっている一方で、「子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援」や、「男女共同参画の学校教育での推進」が平成 26 年度より低くなっている。「特にない」は平成 26 年度（8.7%）より 15.7 ポイント高くなっている。

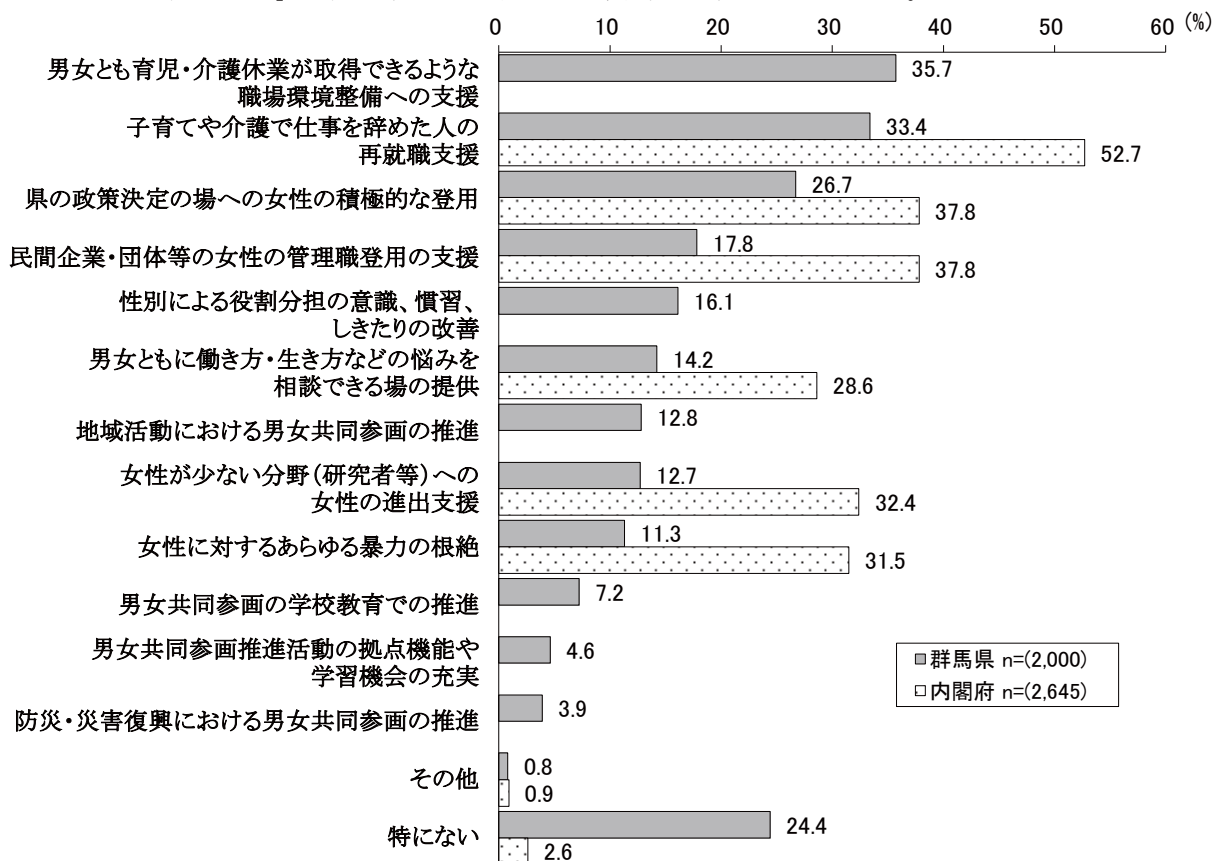


◇国の調査との比較（参考）

● 「特にない」を除くすべての項目で国より低い

内閣府の調査とは項目数や文章表現、回答数制限等が異なるため参考として見ると、「子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援」（52.7%）、「県の政策決定の場への女性の積極的な登用」（37.8%）、「民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援」（37.8%）は内閣府においても高くなっている。

「特にない」を除くすべての項目で内閣府より低くなっている。



※ 「男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援」、「地域活動における男女共同参画の推進」、「性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善」、「男女共同参画の学校教育での推進」、「男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実」、「防災・災害復興における男女共同参画の推進」は群馬県だけの項目となっている。

8. 自由記述

(1) 男女平等や男女共同参画について感じる事

問37 最後に、家庭や職場、地域社会等において、男女平等や男女共同参画について感じるがありましたら、ご記入ください。

男女共同参画社会について

- ・ 男女は最初から性の違いがあり、それを認め合い、補い合う方向性が大切かと思えます。そこを自覚しながら職に於ける共同作業をしていって欲しいと願います。(女性 60歳代)
- ・ 男女平等や男女共同参画とかは以前に比べれば問題視されてきているだけ進歩したのかと思う。が現実はまだまだ厳しい。夜の会議に女性が参加しないと文句を言う男性に『では、あなたの奥様が食事を作らずにこの会議に参加することをどう思いますか?』と聞いての回答にすべて表れていると思う。(女性 50歳代)
- ・ 男女の差があるので同じように働いたり、家事をするのはどうかと思えます。(女性 60歳代)
- ・ 男女では体力の差がありすべての機会において平等に対応することは無理だと思う。(男性 60歳代)
- ・ 理想は男女平等がいいが、実際は難しいと思う(男性 40歳代)
- ・ 女性差別でない性区別による業務の区分けは必要。力仕事等、どうしても男性の方が良い業務もあるから。(男性 50歳代)
- ・ 世代交代が進むにつれて、状況が良くなっていくのではないのでしょうか。(男性 60歳代)
- ・ 日本の社会が、まだこだわりがあるように思う。昔の風習が、色濃く残っている。(女性 60歳代)
- ・ 男女平等にすべき(男性 20歳代)
- ・ もっと男女平等について考える機会が多い社会になれば、少しずつ改善していくと思う(女性 50歳代)
- ・ 日本は男だから、女だから、それ以外も年齢などにこだわる人が多すぎるので、根本的な意識改革をして欲しい(女性 20歳代)
- ・ 男女それぞれの特有、例えば母性など、それを認めつつ、お互いに尊重することが必要だと思います。(女性 60歳代)
- ・ 昔からの固定観念を変えるのは大変(女性 60歳代)
- ・ 男女平等を履き違え、女性上位の世の中になっていると感じることがある(男性 40歳代)
- ・ 女のくせにとか言う人がまだいる。年配の方が特に多く態度もあからさまに男が上だ!と言う方が多く居る気がします。まず、年配の方に今は男女平等だという事を認識させる事が1番だと思います。(女性 50歳代)
- ・ 自然に平等になる社会になればいいと思います(女性 40歳代)
- ・ 全てにおいてより能力のあるものが上に立てる社会が平等だと思うので偏見等は無くしたい。(男性 60歳代)
- ・ 男女共同参画が行きすぎているように感じる。「女性だから」という理由だけで女性が優遇されたり、同等の能力・評価であれば(場合によっては女性の方が劣っていても)女性が優先されたりしている。男女平等をうたうあまり、悪平等が発生しているように思う。(男性 30歳代)
- ・ 男女区別なく、いろいろな分野にお互いが理解できる様になると良いと思います。(女性 30歳代)
- ・ 男女共に適任者が活躍出来る社会になれば良いと思います。(女性 50歳代)
- ・ 年齢が上になると未だに女のくせに..という考えを持つ方が多い(女性 50歳代)
- ・ 社会のスピードに高齢者がついて行けない現実がある。政治が男性中心である、ここを変えないといけない。(男性 70歳以上)
- ・ よくわからないが、平等に。(女性 50歳代)
- ・ まだまだ男性社会(男性 60歳代)
- ・ 男女平等はいいことだが臨機応変に対応出来る社会になってほしい。(男性 30歳代)
- ・ 不満があるなら解消すべきだが、あえて無理強いすることでもないと思う。(男性 60歳代)
- ・ 男尊女卑の長い歴史を変えるには長い年月が必要だと考えます。(男性 60歳代)
- ・ 意識改革をもっと進めてもらいたい(女性 50歳代)
- ・ 男性が女性の仕事に関して理解をすること、そして能力を認めない限り、男女平等にはならない。また、女性自身もすべて男性に頼るのではなく、自分自身も様々な勉強をし社会に関わり自立していかなければならないと思う。(女性 60歳代)
- ・ 男女で考えるのではなく、個人個人で見るような社会になって欲しい。同じ女性でも男性に負けないように頑張ろうと思う人もいればそうでもない人もいる(実体験)(男性 30歳)
- ・ 普段から特に意識していない。視野の狭さや、考え方の偏りや思い込みが気なる事が多い。(男性 70歳以上)
- ・ 男性の地位が落ち行くのもさみしいが、どちらも尊重しあうことが大事である。(男性 40歳代)
- ・ 進めるべき(男性 60歳代)
- ・ 社会に出ると女性があきらめていると感じる(男性 60歳代)

- ・意識の改革は男女ともに必要だと思う。私は50直前だが上の世代は女性は一步下がるべし。下の世代は女性は諦め男性は日々疲れている。もっと暮らしやすい方法はあると思うが県が率先して勧めてほしい。女性、老人などの雇用で景気が良くなることを祈る。実際問題景気がいいとは聞くがどこが景気がいいんだろうかと庶民は思うわけで。必要な処置に税金をかけて結果を次世代につないでほしい (女性 40歳代)
- ・未だに子供を産んで育ててこそヒト(一人前)になる。女の子なのに大学にいかせたから嫁に行かなかったと親戚の人には言われている。自分が言われるよりも、両親が言われているのをみるととても切ない。(女性 30歳代)
- ・男尊女卑は、なかなか消えていかない (女性 50歳代)
- ・実際問題 男女平等が望ましいが、様々な問題が立ちだかかっていて難しいと思う。(男性 30歳代)
- ・男性と女性は、既に性別に違いがあり、身体的能力にも基本的に差があると思うので、既に平等とは言い難い為に、この案件には最初から無理やずれがあると感じ、適切な事案とは思えないのが本音である。(女性 50歳代)
- ・専業主婦希望の女性が多すぎる。その結果、男性は仕事、女性は家庭となってしまう事が多い。(男性 50歳代)
- ・活動に対して周囲の理解と支援が必要だと思います。(男性 30歳代)
- ・何をもちてして平等と言えるのが大変難しい所だと思うので、慎重な基準づくりをしてほしいと思います。(男性 40歳代)
- ・基本的な考え方が異なるため難しいと感じる。(男性 60歳代)
- ・個人の意識改革と共に制度やシステムの改正が必要。(女性 50歳代)
- ・男女平等を無理矢理実現しようとしなくてもいいと思う。結局、男女平等にはならないので適材適所、それでいい。(女性 50歳代)
- ・身体的なうんぬんは置いて、実力なり実績で評価してほしい (女性 30歳代)
- ・どんどん推進してほしい (男性 30歳代)
- ・男女平等は確かに必要だが、男女の性差というものも考えたい (男性 60歳代)
- ・男、女と分けずに本人がやりたい仕事に付ける相談窓口があると良いと思います。そんな所があれば僕も違う仕事に付いていたかもしれません。(男性 40歳代)
- ・主な地位は男性で良い。が女性の意見は積極的に取り入れて欲しい (女性 50歳代)
- ・いうだけで、全然進んでいない (男性 60歳代)
- ・とにかく男性の方の考え方が面倒な家事、育児、学校行事、介護は主婦の仕事と思う考えから変わらなければ社会や会社がどうこう言ってもやろうなんて思わない (女性 50歳代)
- ・CMが刷り込みになっていると感じる(掃除や料理する女性の絵が多い) (女性 40歳代)
- ・平等とは綺麗事 (男性 50歳代)
- ・男女と言う言葉事態、不平等 (女性 40歳代)
- ・家庭でも職場でも、女性の方が不利だと思う。女性の社会復帰の環境は、厳しい。まだまだ、意識改革は、必要だと思う。(女性 60歳代)
- ・結局のところ価値観が固まった世代の意識改革に集約される (男性 40歳代)
- ・徐々に進んできています。(男性 50歳代)
- ・男女平等という名の女尊男卑と女性優遇が蔓延っている (男性 20歳代)
- ・男女の違いは明らかにある。その違いを明らかにして理解を求める活動をしてほしい。(男性 50歳代)
- ・組織で活躍するだけが良いと言う評価ではなく、家庭で子育て、家族のために働くと言う選択も立派な活躍だ。人手不足になる危機感から、女性活躍とか言って上手く使われるのはどうかと思う。(女性 60歳代)
- ・平等であるべきとは思いますが、男女が全く同じである必要はないと思う。(女性 50歳代)
- ・男女の共同参画は流れとしてはあるが、まだまだその理想までは半世紀はかかると思います。(男性 60歳代)
- ・男女によるできること できないこと は確かにありますが相手を理解しようとしなくていい人多過ぎると思います。(女性 60歳代)
- ・家事・育児をしながら仕事をしていると、自分の時間がなく、子供に何かあれば仕事を休むのは母親という、社会の暗黙のルールを変えて欲しい。また、母親が子供を置いて外でリフレッシュすることにも、否定的な社会の目がある。男性は好きな時に夜出かけられるのに、母親はしてはいけないような風潮を感じる (女性 40歳代)
- ・何だかんだ言っても結局は男性の方が優遇されている (女性 40歳代)
- ・男女平等は現実的には不可能で、混乱をもたらすだけになる気がする。男女の役割分担を変えずに、意識・無意識的な女性蔑視を無くすよう啓蒙するだけに留めた方が良いと思う。(男性 30歳代)
- ・男女の優遇の偏り(一方では男性が優遇され過ぎていて、もう一方では女性が優遇され過ぎていて)があると思う (男性 30歳代)
- ・男女平等なんてまだまだ遠い感じがする (男性 40歳代)
- ・男性には風当たり強いが女性にはあまい風潮がある (女性 30歳代)
- ・男女平等は少しずつではあるが、確実に進んできていくと思う。若い人ほど、男女での差は意識してい

第3章 調査結果の詳細

- ない、古い人間ほど、固定観念として女性蔑視の感覚を持っている人が多いと感じる。時代が進むにつれて、自然と解消されるところまで来ているのではないか。(男性 30歳代)
- ・ 男女平等に貢献していくべきだ (男性 20歳代)
 - ・ 女であることを理由や武器にして、仕事や責任から逃げる女どもをなんとかしてほしい。社会はこういう連中を甘やかすすぎている。(男性 40歳代)
 - ・ 結婚して1人前だと言われる (女性 30歳代)
 - ・ 女性の負担が多い気がします (女性 50歳代)
 - ・ 各仕事、役割について当事者が真面目に取り組んでいれば男女の壁は無くなるのでは。無理な数合わせはかえって差別的だと思う。(女性 50歳代)
 - ・ 男女の偏りがあるといけない (男性 60歳代)
 - ・ 女性は出産というネックがある以上、男性と平等というのは無理だと思う。(女性 50歳代)
 - ・ 双方に意識改革が必要 (男性 40歳代)
 - ・ 「男女共同参画」という言葉が生まれたころの世相は、「女性の待遇改善」や「女性の地位向上」などがメインで議論されたが、これには本質的な誤りがある。トイレや浴場などで男女別になっているのが良い例で、決して男女は同格にはなれないし、一緒という考えにはならない。このため、「男女共同参画」ということばを「男尊女卑的社会の改善」とはき違えないよう正しい理解を深めるとともに、男女共同参画をテーマに活動される団体において、「男女が異性の特性を理解しながらそれぞれの特性を活かして共同してよりよい社会を作る」という、概念をもって推進されることを願っています。(男性 60歳代)
 - ・ 男女共同参画と言っても少し漠然としているが、私は、料理が苦手な奥様がいたり収入が旦那様より多い家庭だったり最初は共稼ぎでも子供が出来たら夫婦が相談して主婦になったり主夫になったり途中から交代したりそれを社会や企業が自然と受け入れる事が出来れば男女平等の完結に近いのではないだろうか、そして楽しい世の中に成るのではないのでしょうか、少し外れました。(男性 60歳代)
 - ・ 男女共同参画と言う名称が親しみにくい (男性 50歳代)
 - ・ 性別の差はあれど、差はそこまでだと思います (男性 20歳代)
 - ・ 全てにおいて男性優位の考えを持っている年配の方が多い。若い人は比較的男女平等の考えを持っていると感じる。(女性 30歳代)
 - ・ 年配の方ほど男女平等の考え方をしていないので難しい (女性 50歳代)
 - ・ まだまだ、浸透が遅い。(男性 60歳代)
 - ・ 平等とゆうより女性優遇になっている (男性 30歳代)
 - ・ 何事においても、男子も女子も平等で、適材適所で活躍する事が、良い事で、偏らない気持ちで物事に、取り組む事が必要と考えます。(男性 60歳代)
 - ・ 古くからの決め事をなかなか変えられない (女性 50歳代)
 - ・ 何でも、長とつくものは男の方がなるものと思っている人が多いのではないか。(女性 60歳代)
 - ・ 男女平等に対する制度が作られつつあるが、まだ周囲の理解を得られないことが多いと感じる。特にいま管理職を担っている年代の層からの理解が得られない。(女性 20歳代)
 - ・ 性別関係なく、社会的弱者に対する考え方を、改める。子供を自分で育てたい人、子供がいても働きたい人、せめて、2パターン考える必要があると思う。(女性 50歳代)
 - ・ 男女の差はだんだんとなくなっているとおもいます (男性 40歳代)
 - ・ 早く浸透して欲しいと思う。(男性 30歳代)
 - ・ 男女平等とは何か？女性の登用を増やすのでも、男性を減らすのでもなく、優秀な人間なら男女関係なく誰でもよい。無能な人が牛耳るのが1番怖い。男女共同参画を実現するのは難しいと思う。なぜなら女性自身にその意識が乏しいと思うから。(女性 50歳代)
 - ・ 現状では無理 (女性 40歳代)
 - ・ 性別による役割はあるが、平等という意識は持つべきだと思う。(女性 40歳代)
 - ・ 無理だと思う (女性 40歳代)
 - ・ 男性の意識改革 (女性 70歳以上)
 - ・ 変わらないと思う (女性 50歳代)
 - ・ そもそも男性全体が特に若年層じゃない年齢が上がる程、男性が偉いとか思ってる。その年代の意識改革が必要。(女性 50歳代)
 - ・ 人材育成を伴うことが大切 (男性 70歳以上)
 - ・ 女性を軽視している人たちへの改革は難しいように感じますが、今後の次世代の人たちのためにもぜひ改善していつてもらいたい案件です。(女性 40歳代)
 - ・ 「特にありません。」←と思えるような社会になるようにするにはどうすればイイのかをもっと考えていきたいです。(男性 30歳代)
 - ・ 男女平等はいい事だが職場など男性並の力仕事を女性も同じ様にこなさなければならないなどは平等という名の不平等だと感じる。一概に全て平等と言うのも違うと思う (女性 40歳代)
 - ・ まだまだ男女平等は難しいと感じて居ます。(男性 60歳代)
 - ・ 昭和の時代よりは男女平等になってきている。(女性 50歳代)
 - ・ 基本的には、そもそも男女不平等とは思っていない。(男性 40歳代)
 - ・ 制度としては整ってきているが、中身、男女ともに意識の変化に乏しい。(男性 60歳代)

- ・ お互いを尊重し、理解を深めることが肝要と思う (男性 60歳代)
- ・ 無理に男女平等や共同参画にする必要はない。(女性 50歳代)
- ・ 言葉だけで実態が伴っていない。(男性 60歳代)
- ・ 平等であることが絶対的に正しいとは限らないと思う。以前は女が家庭、男が仕事だったものを平等にした結果、二人とも働いてはいるが給料も男女で分け合っただけに感じる。働きたいキャリアのある女性は良かったかもしれないが、家庭に入りたくても収入が足りないので働くしかない女性の方が多いのではないかと。結果的に男性の取り分も奪っているのではないかと思う。管理職に女性が！というこだわりも自分にはわからない。つまりは「キャリアのある女性」と「その他女性」では違うという事。前者が管理職につきたくてもつかせてもらえない事は問題であるかもしれないが、見合ったスキルを持っていない人まで便乗して男女平等！と言い出したのでややこしくなったのでは。能力のある人間は、男女関係なく能力がある人間として地位を上げて行って欲しいと思うが、ひとつの家庭で男性が仕事をして収入を得てこられれば、母として子供たちともっと接してあげられるという考えの女性も少なくないはず。仕事も家庭もは、あくまで理想であり、こうして中途半端に時間と労力が散らかっている間にも子供達は成長してしまう事に危機を感じます。(女性 30歳代)
- ・ 結局は男尊女卑の世界 (女性 40歳代)
- ・ 共同参画は重要だが、男と女の性別における差を認め合うことも重要 (女性 50歳代)
- ・ 任せたり、任されたり、お互い様でうまくやっていたらいいと思う (女性 50歳代)
- ・ 古い考え方が抜けない人達が現役でいる限り、周りが行動しても変わらない (女性 40歳代)
- ・ 建て前は兎も角、実際には難しい (男性 70歳以上)
- ・ 男女平等と言いながら実際はまだまだ (男性 50歳代)
- ・ 若い女性と年配の女性でも、まわりの接し方の差があります。男女だけでなく、年齢も視野に入れて変化が必要と思います。(男性 30歳代)
- ・ 意識の壁は世代が進む毎に無くなっていっていると思う (男性 50歳代)
- ・ 男性にもう少ししっかりしてほしいというのが本音 (女性 40歳代)
- ・ まだまだ女性は難しい (女性 40歳代)
- ・ そもそもスタートから分けられている (女性 40歳代)
- ・ 男性社会からの脱却が必要だと思う。(男性 40歳代)
- ・ 平等である (男性 20歳代)
- ・ 男女に関わらず能力・気力・境遇にある人がやればよい。(女性 60歳代)
- ・ 男女を同じに考えるのではなく、男女それぞれの個性を活かすハイブリッド社会を目指した方がよい。(女性 50歳代)
- ・ 進んでくれたらよい (女性 30歳代)
- ・ 私の勤めている会社や、自分の家庭では男女共同参画はうまくいっている。男性も女性もジェンダーを論じる前に互いに男性、女性の脳や、性別がもつ役割などの特性の理解なども必要であると思う。(男性 30歳代)
- ・ まだ男性側の意識改革が進んでいないと思う。(女性 50歳代)
- ・ 徐々に進んできていると思う。(男性 70歳以上)
- ・ 男女平等に向けて議論する際、女性のための制度の充実や女性軽視に対する取り組みが取り沙汰されることが多いが、女性軽視傾向がなくなりつつある昨今においては、性別に捕らわれず、環境や制度について考える機会を増やしていくべきだと思う (女性 20歳代)
- ・ 年配の方の考え方が古いので、ちゃんと男女平等の考えを改めて欲しい (女性 30歳代)
- ・ 男女の、生きる上での権利や、家族の生活スタイルによって、なにが平等かは変わってくると思う。権利については平等であるべきとは思いますが、力仕事など男性にしか出来ない事もあるなかで、完全に平等であるのは難しいことだと感じる部分もある。逆に、女性が男性に対して暴力をふるったり、パワハラ、セクハラなどもあると思うし、今の社会はどうしても女性=弱い、弱い者に対し強い者(男性)がすることのみが悪であり表沙汰になっている。そこがそもそも平等ではないと感じる。会社の育児や介護休業に関しては、とれるならとりたいし、また必要な人にはありがたいと思うが、実際シフト制の職場では、はっきり言って迷惑でしかないのが現実。(女性 50歳代)
- ・ 男女の差は体力的にある。男尊女卑を盾に女性が強くなるのも違うと思う。男、女の区切りじゃなく一個人の実力で進出すればいいと思う (女性 40歳代)
- ・ 社会的にも年配男性の考えが理解出来ません。皇族問題にしても女性皇位でも何の問題もありません。仕事上年配男性のだから女は一つ話す方の考え方が古すぎます (女性 50歳代)
- ・ 過去の価値観や風習を改善しなければ変わらないと思う (男性 60歳代)
- ・ 適任者だったどちらでも良い (女性 50歳代)
- ・ 年配の方々の女性への理解がない。(男性 50歳代)
- ・ どんどん進めて欲しい (女性 50歳代)
- ・ 男女の性的特性を理解したうえで、能力や適性を公平に評価し適所で活躍できる視線が必要。特に女性に重きを置いた考え方は、そのこと自体が偏見に満ちてしまっているような気がする。(男性 60歳代)
- ・ とても良いことです (男性 60歳代)
- ・ 男性が特に意識を変えなければ成り立たない！女性を見下す事はあってはならない！女性は出産などで

第3章 調査結果の詳細

- どうしてもはたけなくなるのだから理解できる人がトップであるべきだと思う！（女性 60歳代）
- ・ 男女で向いている、向いてないという決定的な事柄があるので、あまりジェンダーフリーを意識しすぎるのもどうかと思う。（男性 40歳代）
 - ・ 今までの慣習を変えるのは難しいと思います。女性の社会進出は進んで来ているように思いますが、逆に男性の育休には偏見が根強く残っており、取得に勇気がいると思います。実際に周囲でも取ってる人はいません。（男性 50歳代）
 - ・ 女性男性を意識せず、今のままで良いと思う（女性 20歳代）
 - ・ 時間はかかると思いますが、男女とも意識を変えるしかないと思います。（男性 50歳代）
 - ・ 最近はこちらかという男性の方が差別されているように感じる。ただDVとか性犯罪は間違いなく男が多い。その辺以外は最近男性は価値観が改善してると思う。（男性 40歳代）
 - ・ まだまだ男社会なのでどんどん女性も取り入れて貰いたい（女性 50歳代）
 - ・ 性別は関係なく、人として尊重し合えば良い社会になるのでは？（女性 40歳代）
 - ・ 平等とは、どのようなものなのかの再検討（男性 60歳代）
 - ・ 意識改革が必要だと思います（女性 40歳代）
 - ・ 古い慣習を捨て、現状にあったやり方を積極的に取り入れていくのが良いと考えます。（男性 60歳代）
 - ・ まだまだ無理だと思う（女性 60歳代）
 - ・ 男女平等の扱いより、共に男の役割、女の役割を認め合う事。（女性 60歳代）
 - ・ 高齢者ほど、男女参画に拒否感があると思う（男性 30歳代）
 - ・ 若い世代の人達は上手に男女で共同しているように見える（女性 60歳代）
 - ・ 年配の男性が女性を軽視する発言が多い（女性 50歳代）
 - ・ 昭和生まれの男性に男性優位の考えを持つ人が多いように思うので、その人達の意識を変えていくのが必要。（女性 50歳代）
 - ・ 本当の男女平等社会になっていない（男性 60歳代）
 - ・ 男性がもっと女性の力を尊重して、男尊女卑の感覚を是正していく。女性も自身の力にもっと自信を持ち、男性に気兼ねしなくてもよいと思えるようになること。（女性 70歳以上）
 - ・ 高齢者が若い人達の柔軟な考えを邪魔している。高齢者の教育も必要。（女性 50歳代）
 - ・ レディーファーストというものが意識されすぎていて、男性の特典がないのも平等を妨げている原因の1つのように感じる。（男性 30歳代）
 - ・ 男女ではなく、個人として能力を活かせるようになってきていると思います。（女性 50歳代）
 - ・ 個々の認識の深化が必要（女性 60歳代）
 - ・ 昔の人の古い考えが変わらない限り、今の現状は変わらないと思う（女性 40歳代）
 - ・ 我々が子供の頃から言えば、女性が家庭内に収まることなく社会や地域に出て活躍していると思いますが、まだまだ男尊女卑的な考えを持つ人たちも多く、意識改革がなされ、いろいろな分野での女性の活躍を妨げる事無く進んでいって欲しいと願います。（女性 60歳代）
 - ・ まだまだ、男女の差は開いていると感じる。男女差別ということではなく、性別による、また、個人独自の特性を活かしたポジションに適材適所で就かせることが大事だと思います。（女性 40歳代）
 - ・ 私は女性ですが、男女平等と騒ぐわりに、女性の特権は手放さないのはいかがでしょうかと思います。（女性 50歳代）
 - ・ 平等だったことがない（女性 50歳代）
 - ・ 男女平等であっても元々の性質や役割が違うことは考慮したほうが良いと思う。（女性 50歳代）
 - ・ 子供を産む事は女性にしかできないので、もっと重要視するべき（女性 50歳代）
 - ・ 女の敵は女という現状を変えないと、変わらないと思う。（男性 30歳代）
 - ・ 無理やり女性に役職や高度な仕事を押し付けたり、利用させる傾向にした案だと思う。向き、不向きも踏まえ何でも平等が果たして良いのか分からない。「女性だから」と、言われ悪く思わない女性も多くいると思うし、その時、その時に応じた役割があっていいと思う。何でも平等は不平等だ。（男性 40歳代）
 - ・ 男女問わず一人一人の人生を尊重する事だと思います。（男性 40歳代）
 - ・ 男女平等は必要無い（男性 30歳代）
 - ・ 男だから女だからといってやりたいことの可能性を狭める必要はない。育児や病人の支援の在り方はヨーロッパを見習うべきだし、性別を気にするのはなくこれからの日本はもっと多様になるべき。（女性 20歳代）
 - ・ 男女平等や女性差別という言葉があるが、男性の立場の不利さもあると思う。男女平等とかの言葉はよく聞くが、具体的に何をしているのかの周知が少ないと思う（女性 20歳代）
 - ・ 女性に対する差別を無くそうという意識・行動・法律が場合によっては男性への差別になっている事があるのではと感じる時がある。（女性 20歳代）
 - ・ 女性活躍のためには、男性と女性も意識を変えていく必要がある。そのためにも、いろいろな仕掛けを作って、意識改革を行っていく。（女性 50歳代）
 - ・ そもそもこういうものがなくなり、男女平等とか考えなくてすむ社会に早くなるべき（男性 30歳代）

- ・何でも男女平等になればいいというものではない。能力の差はあるので適材適所がよい。(女性 30歳代)
- ・なんでもハラスメントにされるという恐怖感から色々な効率が下がる(男性 30歳代)
- ・男女すべて平等は不可能である。それぞれの役割や分担を考え、適正を考えることが非常に重要である。(男性 30歳代)
- ・今は、かなり男女平等が進んでいると思います。(女性 60歳代)
- ・適任者にまかせるのが良い(男性 30歳代)
- ・まだまだ考え方を变えるのは難しい。(女性 50歳代)
- ・男女が等しく社会での役割を担っていく社会になってほしい(男性 30歳代)
- ・女性に対する支援ばかりが充実し、男性に対する被害は放置されている(男性 20歳代)
- ・男女で違うのは当たり前、それを認め合うことから始めるべき。どちらかが不利益を主張したところでお互いをわかっていなければ着地点を見つけることもできないと考える(男性 20歳代)
- ・equality と equity の違いをまず認識することから始める必要があると思います。(男性 50歳代)
- ・女性専用車両があったりするのに男性専用車両がなく、いつも痴漢扱いされるのは男性(本当に男性が行っているのかもしれないが...) 男性ものびのびと生活できる社会を(男性 20歳代)
- ・こんな用語がなくなる日が来ることを祈る(女性 60歳代)
- ・生きやすくなってほしい(女性 20歳代)
- ・あまり理屈っぽくなると厳しいので滑らかに進めたい。(男性 50歳代)
- ・偏見はあると思う(女性 40歳代)
- ・互いに相手の異性を利用しようとしている人が多いと感じます。(男性 10歳代)
- ・最初の一步が難しいと感じる。参加してしまえば、色々積極的にできるとは思っている。(男性 40歳代)
- ・母乳の出る女性と男とは均一にはなり得ない(男性 70歳以上)
- ・日本独自の男女の役割があるので欧米と同じが良いとは思わない(女性 60歳代)
- ・今後、少しずつ改善されていくと思う。(男性 60歳代)
- ・実現されてほしい(男性 30歳代)
- ・不平等について特に感じていない(女性 40歳代)
- ・たのしくやりたいです(男性 40歳代)
- ・いままでの慣例等にこだわらないこと。(女性 60歳代)
- ・男性の短髪を校則で強要したり、職場も男性の長髪はダメみたいなのは明らかに差別。女性のように縛ればいいし、また、女性は長くて当たり前なのも変。坊主の女性が変に思われるのも違う。(男性 70歳以上)
- ・もっと自由に両者とも生きられればいいと思う。(男性 20歳代)
- ・実現性の低さ(男性 60歳代)
- ・理想と違うこの現実はどうにかなりそう。(男性 50歳代)
- ・とにかく働かなければ生活そのものが成り立たない現状、自分の事しか考えられない。(男性 50歳代)
- ・性別関係なくまず経済的に自立できることが何よりです。「衣食足りて礼節を知る。」ですね。(男性 50歳代)
- ・特にないです。男女の向き不向きもあるので、無理して女性に役割分担する必要はないと思いますが、適任者であれば女性でも積極的に活躍して欲しいと思います。(男性 40歳代)
- ・自由と平等が基本(女性 60歳代)
- ・今までの常識を变革するのは大変なことだが、できることから取り組んでいくことが大事。(女性 40歳代)
- ・古株が、やりづらくしています(女性 20歳代)
- ・頑張ってもらいたい(女性 20歳代)
- ・決まり事が多いから平和が平和じゃなくなっている気がする(男性 20歳代)
- ・時代の流れ(男性 30歳代)
- ・マスコミの無理解、無頓着が推進を阻んでいる(男性 60歳代)
- ・人として意見が言える地域や社会になって欲しいです。(女性 50歳代)
- ・具体的なイメージが湧きにくい(男性 60歳代)
- ・理想と現実が少しでも交差することを切に望みます。(女性 50歳代)
- ・とにかく女性・女系天皇をOKにして、女性総理大臣を実現させないと駄目ですね。末端をいじっても本質的ではないです(男性 60歳代)
- ・まだまだ達成していない。家庭のDVだけでなく職場や地域コミュニティの女性への差別も撤廃すべき。(女性 30歳代)

家庭生活・学校教育について

- ・家事は女性がするものという意識が強いので、義務教育から教え込んでほしい。(男性 30歳代)
- ・小学生のうちから男女の偏見をなくす教育をしたほうが良いと思います。いじめの解消にもつながります。(女性 50歳代)
- ・女性しか子供を産めないし、母乳も女性しか出ない。男女平等でも役割は全く違う。赤ちゃんにとっての

第3章 調査結果の詳細

母親は父親とは違う。(男性 60歳代)

- ・ 田舎に行けば行くほど男尊女卑が強い。まず、結婚したら相手の家の嫁になるという感覚をなくし、独立した家庭を作るという考えを浸透させていくべき。自分の親は男であろうと女であろうと実子が負担するべきだと思う。出産、育児、家事に伴う女性の負担に対する支援なく、社会進出のみ支援をしていると女性ばかりが大変。地域社会のことなどは、余裕がある世帯がすれればいいと思う。残業が美学ではなく、よくないものとし、全ての人が18時までしか働けない世の中になれば、男女の差あるいは結婚、未婚に問わず平等になるし、負担も少なくなる。今の社会制度は誰かにしわ寄せがいきすぎるため、いずれも制度を使いにくい。一度会社を辞めると、条件は悪くとも男性にかなうような仕事にはつけない。また、子供の急な体調不良などでどちらかが休みをとらなければいけないとなると就業先を見つけるのも大変。(女性 30歳代)
- ・ 自分は家庭内では平等を実践しているが、一般的には男性が一人で収入を得ているという風潮が一般的、家事労働をもっと評価すべきである。(男性 60歳代)
- ・ 男はもっと家庭での仕事、金にならない仕事を理解して協力するべき！自分1人が仕事で大変な訳がない。お互い様精神で日々送れるのもっと女性が救われるのかなって思いました。(女性 40歳代)
- ・ どんな管理職になっても、家庭における女性の仕事を求められる。男性は女性よりも上だと思っているし、母親自身がそのような教育をしてしまう。(女性 60歳代)
- ・ 昔のように家庭で子育てができる環境にする。女性は家に居て、地域社会で活躍する。(男性 60歳代)
- ・ 共働きが増える中で、家庭内での男女の差はなくなりつつあると思う。ただ、女性はこうであるべきという偶像は少なからずあるわけで、それを払拭するのは相当難しい。普段の生活圏の最小単位のある環境である家庭、職場や学校、住む地域などから男女の差を少しずつ縮めていければいいと思う。すぐ解決する問題ではない(女性 20歳代)
- ・ 私は転勤族の妻です。きっと、沢山の転勤族のご家族がいらっしゃると思います。転勤族だからと仕事を躊躇してしまう自分がいます。働きたいのに働けない方は、子育て中の方や介護中の方に限らないと思います。私のような立場もいることを知って頂きたいと思います。(女性 30歳代)
- ・ 子供の通う学校のPTA役員名簿に、父親の名前が増えてきました。(女性 40歳代)
- ・ なぜ伝統校といわれる高校がいつまでも別学を頑固なままでに続けているのか。(女性 50歳代)
- ・ 外的な環境より個々の家庭の事情に影響されると思う(男性 60歳代)
- ・ 「男女平等」のとらえ方は、同等のことが行えたいという平等であるべきではないかと私は考えるが、ひとによって「平等」のとらえ方が異なるので教育の機会があるとよいと思う。(男性 60歳代)
- ・ 同じ金額を稼いでいたとしても、“女性が家事育児をする”という考えがずっと残っている。その根本的解決は高齢者の経験を覆す事をしないと“女性は家庭に入るもの”と言われ続ける(女性 20歳代)
- ・ 女性が担う家事が多すぎる(女性 50歳代)
- ・ 高等学校の共学化を推進(男性 60歳代)
- ・ 家庭の中でもまだ家事は女性が担っている事が多いので、まして男女平等の世の中の実現は非常に難しい事だと思う。(女性 60歳代)
- ・ 育児の参加を男性も出来る世の中にして欲しい(女性 30歳代)
- ・ 小さいときからの教育が大事だと思います。(女性 60歳代)
- ・ 頭の固い年寄りは今若い夫婦の旦那様を見習うべきだ！自分の旦那を見てると情け無くなる。家庭の事地域の事家計の事何1つしない。娘達の夫婦は旦那様もしっかり参加しています。(女性 60歳代)
- ・ 昔ながらの男性は仕事女性は家事という意識が強い。共働きでも賃金格差があるので夫に精神的に追い詰められている。自分は一生懸命仕事と家事と地区の役割学校の係全てを行っているのに自分は接待の飲み会などで遅くなり、妻に対して大した仕事をしていないとか地区の行事は好きなことをやっているなど感謝の言葉はなく人格を否定するような事を言う。子供に影響がでないように家庭では気を使って過ごそうと思っていましたが、最近モラルハラスメントの本を読んですべて自分に当てはまっていることが分かって私は長年DV被害者だったことに気づきました。最近では主人の帰宅する車の音やカギを開ける音で気持ちが悪くなり、逆に朝会社に出かけてゆか私が早出で会社に行くと家庭から離れるとホッとします。家庭が苦痛でたまりません。本を読んで私だけではないことに気づきました。(女性 40歳代)
- ・ 子供の頃から父親、母親が家事、育児、介護を協力してやっていたら、子供も自然と男女平等が身に付くと思う。(女性 30歳代)
- ・ 地域社会については、賃貸生活しか経験がないので、参加したこともなくわからない。私自身は工学部出身で男社会で生きてきたが、同世代以下は一人暮らし経験があり、かつ合理的な考えの人が多かったため、家庭の分担、仕事について性差を感じることは少なかった。男性でも育休やフレックスを活用して子どもの世話をしている人たちも見ています。ただ、中小企業ではどうすれば実現出来るかという具体例を出すなり、提案することが必要だと思う(働き手が減ることも含めて得があると)。とりあえず妊娠時の母親学級という名前は止めた方がいい。父親が参加しなくてもいいと考えるので。(女性 30歳代)
- ・ 結局家事等を女性に任せる傾向が強いと感じています。(男性 30歳代)
- ・ 女性は家事育児仕事すべてこなすのが当たり前というスタイルが未だにある。なぜ未だにそのような風習があるのか不思議である(女性 30歳代)

- ・ 男女や父母というパラダイムから、ひとりの人、親というパラダイムへの転換が必要です。また、繰り返し書いていますが、本格的、また根深い男女問題が生まれるのは出産育児のあとからです。ぜひ、母子手帳交付と同時に、親学級として男女共に参加する形の子育てと社会に関する講座の必須講習もしてもらいたいです。(女性 30歳代)
- ・ 女性の社会進出の一番の課題は、留守中の子供や親の面倒を誰がみるかだと思う。それが解決しない限り、全てにおいての平等はない(女性 40歳代)
- ・ 結局は育児は母親がやるというのが社会だ(女性 20歳代)
- ・ 群馬県においては高校の共学化がとても遅れていると思う(女性 50歳代)
- ・ 私は運良く、大学にも進学させてもらえて男女共働きの両親がいる家庭環境でした。なぜ運良くというように言ったかという、共働きの家庭は周りの家庭環境をみてもそんなにたくさんは無かったし父親の家事の参加も目の前で見ながら成長出来たからです。今私は45歳で結婚も一度もしてはいません。私個人は、男女平等にいろいろやっていくことに賛成です。また、男女平等にやっていくのには、個人の性格にもよると思います。柔軟に、男女平等にやっていく事に賛成出来る考えを持ちそれを受け入れられる性格かという点です。私はまた、運良く京都精華大学というユニークな考えを持った生徒や先生がたくさんいるといわれている(いわれてはいないか笑?)大学で勉強することが出来ました。私は人文学部で勉強しましたが、学内には美術学部もありいろいろな考えや見方をするひとに多く出会える環境にすることができました。京都精華大学がある京都市では毎年祇園祭があります。その祭りでは先頭を薙刀鉾(なぎなたぼこ)がはしります。その鉾のうえのほうには男性しかのぼらせてはもらえないそうです。また相撲の土俵にも男性しかあがれないそうですね。私は、こういう伝統やシキタリは個人的には、残しておいてくれてもいいと思ってもいます。でも男女平等に色々やっていく事にも賛成です。昔のひとは“血”を穢れと思っていたようですね。逆に男性は女性を尊敬していたようにも思います。逆差別というものもきいたことがあります。女子大学はあるけど男子大学はないというのとかでしょうか。柔軟な性格になるようには、若いころの子供のころから教えていってほしいです。学校の先生は大変になるかもしれませんが、小学校高学年生や中学生には、いまニュースで多く報道している麻薬のことや男女平等にいろいろやっていけることを、他のどんな教科よりも優先的に教えていって欲しいと思っています。(男性 40歳代)
- ・ 人それぞれだと思います。私は主人が経営者で忙しいので家事メンタルをしっかり支えたいと思います。(女性 40歳代)
- ・ 働いている母親には常に罪悪感がつきまとう。それは、子育ては母親がするもの。子供がかわいそう。他人の目は冷たい(女性 30歳代)
- ・ 保育園の保護者会は周りのご家庭を見ても母親参加の場合がほとんどです。園への送迎も母親がしている方が大多数です。卒入園や行事には両親で参加するご家庭も多いですが、こういった面でも、子育て(特に小さいうちの育児)は母親が担うという雰囲気はまだまだある様に感じますし、そういった状況では、母親の働き方が制限される事が多い様に感じます。育児に関しては、授乳など女性しかできないこともありますし、すべて男女平等とはいかないのは当たり前だと思います。同じことを平等に分担するというより、(気持ちの上での)負担度合が同等に出来ればいいのではと感じます。(女性 30歳代)
- ・ 母親の介護が必要なのですが、父も弟も「介護は女がするもの」という態度で困っています。(女性 40歳代)
- ・ 頭では男女平等とわかっている、育ち方が大きく影響して、威張ったり、黒を白と言い張り、自分を押し通すような人(主に男性)の多いこと!!男女共同参画の啓蒙が進んで、人に優しい環境がどんどん増えていけばいいと思います。(女性 60歳代)
- ・ 共働き社会なのに、家事、育児は女性で割にあわない(女性 40歳代)
- ・ 保育園の送り迎え等、お父さんがしている人も多く見られ、僅かながら男性の家庭内での家事分担がされていることと感じます。(男性 20歳代)
- ・ 私は実家の両親が共働きにも関わらず、母が主に家事をしていたことに違和感を覚えていました。そのため結婚して家庭をもち、これから子供が生まれる中で男性の協力が必要不可欠になります。男性の意識もこれからどんどん変わっていきける社会になってほしいです。(女性 20歳代)
- ・ 男女平等、とは言ったものの男尊女卑ならぬ女尊男卑が進行しないか?と感じています。女性専用車両はあるけど男性専用車両はないし、給料は少しずつしか上がらないで申し訳ないと思いつつ働いてきても帰ったらただらしてると男の人はいいよね。それでなんとかなるんだから、と嫌味のような事を言われた等とよく聞く話。女性を擁護するばかりで平等とは程遠いと感じます。ただ、女性が強くなっていくだけで男性が弱くなっていく社会になりつつあるような気がします。家に帰りたくない旦那様が増えているのはダメではないかなと思います。(男性 20歳代)
- ・ 女性が家庭と仕事を両立できる環境を整えてほしい。家庭に専念しても構わないが、男女共に賃金が安すぎて共働きしないと生活できないのはなんとかしてほしいと思う。生活に余裕がなさすぎる。(女性 40歳代)
- ・ 今の若い世代の家庭を大事にするありようを見ると、仕事をしていた時のことを思い出し、良い時代になったと羨ましく思う(女性 60歳代)

職場について

- ・ もっと女性の働きやすい環境を(男性 60歳代)

第3章 調査結果の詳細

- ・ 職場での環境作りが大事だと思います（男性 70歳以上）
- ・ まだまだ古い考えの人が多。企業自体男女平等に扱っていないし、男性が育休を取るなんて、という雰囲気が嫌い。男女共にしたいことやりたいことをどんどんやるべき。古い考えの人はトップから外すべき（女性 20歳代）
- ・ 働く場へと入っていく際に、既に性差による役割付与が行われ、選別がなされているように感じられる。多くの会社をみても管理職候補生は男性が多く採用されているように思います。人員や経済的な余裕のある会社でないと出産とその後の乳児の育児期間に離職されている方の労働力の補完は難しいと思います。（男性 60歳代）
- ・ 男性の働き方を改善する事が先決だと思います。（男性 30歳代）
- ・ 私は自営業者ということもあり、時間をある程度自由に使えることから、育児や家事を共同してすることができそうですが、一般会社員では難しいところがいまだ残っているのでしょうか。（男性 40歳代）
- ・ もっと女性の働きやすい環境を（男性 60歳代）
- ・ 会社で男女平等とかいうわりには、レディファーストだとか、男が上がるのが当たり前だとか、都合の悪い時は男なんだからとか言ってちょっとずるい（男性 20歳代）
- ・ 過去に体験したことです。産休は無く退職し、再雇用して頂きましたが、以前のポストはなくなり、居場所が無くなりました。産休にはリスクが有るのは、現在も変わらないのではないかと思います。そう言った部分で男女平等は疑問です。肉体的にも差があるので周囲の理解も必要だと思います。（女性 50歳代）
- ・ 職場での男性と女性の就業時間の違い、賃金の違いに対して、管理職はもっと考慮すべきである。しかし現状では改善策がないのが実態であり、仮に従業員が意見しても聞き入れられないのが現状である。これからの社会の動きに期待したい。（男性 20歳代）
- ・ 男性が育児休暇を取得できる雰囲気はほぼなく、取る人もいない。（男性 30歳代）
- ・ 会社側は女性進出を勧めているが、世間の流れに乗っただけのように感じる。実際、現場では女性が増えることをよく思っていない。（女性 20歳代）
- ・ 公平にするのは難しいが、出来るだけ公平にしてほしい（男性 30歳代）
- ・ 男女の賃金差が大きすぎる。もちろん仕事内容でしょうがない部分もあるが、大して変わらない仕事でも賃金差があるのはおかしい。（男性 40歳代）
- ・ 私の部署では女性のみお茶くみ、水場の掃除、買い出しがあります。正直なんで女性だけなんだろうなと思います。（女性 30歳代）
- ・ 私の職場では男女差を感じることはないで不満はない（女性 30歳代）
- ・ 病院なので看護師は女性が多く、師長や看護部長には女性が多い。しかし、最近は男性看護師長や看護部長も出てきている（女性 60歳代）
- ・ 職場が大学なので、一応男女平等的なシステムはあるが、全く機能していない。名前だけあるかんじで、女性へは明らかに差別がある。収入、出世など、ほんとに時代に逆行していてありえない職場だと思う。（女性 30歳代）
- ・ 家庭のために（男性も）休みを取りやすい環境などを経営者や組織の長に確保させたうえで女性の活躍を進めなければ、男社会と呼ばれる中で潰れていく女性が増えるだけになると思います。（男性 40歳代）
- ・ 最近では、大型車のドライバーで女性を見かける回数が増えたとし、男性が保育士や看護師として働いている場面も見る。そういった職場では、採用する側が男女関係なく、職務を当てるに適する人材を選択した結果だと考える。採用した結果もたらされた有益な情報を発信して、経営者が考えを改める機会をつくっていくことは、無駄なことではないように感じている。（男性 30歳代）
- ・ 欧米のように、産休後の職場復帰がしやすいよう、社会制度を整えてほしい。（男性 60歳代）
- ・ 男女の賃金格差が家庭では男女不平等の一翼になっている。（女性 50歳代）
- ・ やはりなかなか男性が育児休暇などするのは難しいし子供が病気だと保育園から電話がくるので休めば上にはいけない（女性 50歳代）
- ・ 働いていると休みを取りづらいのが現状です。産休明けの子供を預かる仕事をしてはいますが、最初のうちは子供が精神的、肉体的にストレスを感じ、体調を崩すことが多く、育休が明けたからとバリバリ働ける訳ではないと感じます。そのことを職場の方たちが理解していかないと親も子供も大変な思いをし、真の男女共同参画が推進できないと思います。（女性 50歳代）
- ・ 人材の有効活用とワークライフバランスの改善により、より充実した人生をみんな感謝する社会になってほしいと思います。（男性 30歳代）
- ・ 男女雇用均等法があるにもかかわらず、仕事の責任は男性の方が重い。（男性 30歳代）
- ・ 仕事を募集しているから応募しても才能ではなく、年齢で男性は選びがちなのが多い（女性 40歳代）
- ・ 短時間勤務を導入して働ける人を増やす（男性 40歳代）
- ・ 雑用的な仕事は女性がやるという意識が感じられる事が有ります。ただ力仕事は男性にという風潮もあるので、ある意味役割分担なのかもしれません。（女性 50歳代）
- ・ 職場の従業員へのお茶だしを女性事務員が行っていることに憤りを感じる。性差関係なく自分の飲み物の世話くらい自分でしてほしい。ただそれを訴えて社内問題としてディスカッションできるレベルの会

- 社じゃないので、変なヤツと思われて終わる可能性が高いと思い、損得勘定が働き、結局は憤りを感じながらお茶だしをしている自分がある。(女性 30歳代)
- ・ 男性の職場での子の看護休暇がとりづらいことについて (女性 20歳代)
 - ・ 仕事の内容が平等である (男性 50歳代)
 - ・ 今の職場は女性だからといって嫌なこともなく、むしろ男性が大変な仕事をしているのが現状です。私にとって今の職場はとても先端をいってとても働き甲斐があります。しかし、地域のイベントなどは古い考えと、内容も興味のないものばかりで…参加したいと全く思いません。(女性 50歳代)
 - ・ 会社で女性をアシスタント的に扱っているが、女性自身の考え方(それを当然と思っている)にも問題があると感じた。(女性 50歳代)
 - ・ 女性は出産や子育てがメインであるため、男性と同じ働き方が出来ない現状。男性の育休取得を義務づける等の政策的力が働かないと進まないと思う。(男性 40歳代)
 - ・ 昔よりパワハラはかなり減ったと思う。男女平等に少しなったと思う。でもまだなくなる。優秀なリーダーがいれば大きく変わると思う。(男性 40歳代)
 - ・ 職場で時短が優遇されすぎ (女性 40歳代)
 - ・ 産休を取るとなぜ迷惑になると感じる？ (男性 40歳代)
 - ・ 夫は激務のため全く休めませんが、会社内だと比較的女性が休みやすい。(女性 40歳代)
 - ・ 特にはないが、幸い男女平等の職場にいたので、そういった意味の困難はない。(女性 60歳代)
 - ・ まだまだ男性が会社で、女性が育児という環境であると思う。子供を育てる上で、もっと休みやすい職場づくりが必要だと思う (女性 50歳代)
 - ・ 男女平等について、一番の問題は賃金の格差だと思う (男性 70歳以上)
 - ・ 育児休暇がない会社を徹底的に調べるべき (女性 20歳代)
 - ・ 年齢が高い経営者ほど、男女の格差に厳しい (女性 50歳代)
 - ・ どうしても出産、育児を機に仕事を辞めてしまう状況があると思います。しかし、女性にしかできないこともあり、それでキャリアを失ったり、周りの評価が下がるというのが納得いきません。子育て世代に冷たい世の中だと思います。(女性 30歳代)
 - ・ 結局男性の方が役職に就いている気がする (女性 70歳以上)
 - ・ 女性の管理職が少ない (女性 20歳代)
 - ・ 男性の方が責任のある仕事任されることが多い (女性 20歳代)
 - ・ 男女にこだわらず、やりたいことができ、できる人、得意な人がその分野で力や地位を伸ばせるようにするべきだと思う。「女だから」という理由で昇進に影響があるのはおかしい。でも、女性は出産・育児で仕事から離脱しなくてはいけない時期が出てくるのも事実。(女性 40歳代)
 - ・ 地位のある人や責任者や経営者などまだ男性が多いイメージがある。育休も人手が足りなくなるので男性も女性もとれるところは周りでも少ないと思う (女性 30歳代)
 - ・ 全ての職場での法令遵守の理解と徹底があらゆる問題への根絶につながると考える。(男性 30歳代)
 - ・ 社会がそう言ったりしてても会社はあまりそういうふうにはなっていない (男性 20歳代)
 - ・ まだまだ古い固定観念が抜けきれず、職場等での男女平等は難しい (女性 40歳代)
 - ・ 地方公務員は、部長や課長といった役職には女性は少ないものの、職員数では女性の数はかなりのもの。育児休暇が取りやすいことも一因なのかと思う。子育てのために仕事を辞めずに済む数少ない職種。一般企業ではワーキングマザーに対する対応がまだまだ整っていないのが現状だと思う。(女性 60歳代)
 - ・ 以前勤めていた会社では、女性の社長だったが、男性社員の言うことは聞き入れても女性社員のいうことにはほとんど耳を傾けないという差別を受けたことがある。この社長自身が男尊女卑を絵にかいたような感じの人だった。(女性 50歳代)
 - ・ 男性、女性どちらの性別も一長一短あり、性別により向いている職業や働き方も違う訳で無理に男女平等を貫いてもしょうがないのではないかと考える。管理職に女性になるのは別に良いが、出産などで居ない期間は誰がその部の面倒や責任を負うのか等を考えると難しい問題もある。育児は男性も出来ると言う声もあるが母乳も出ない訳で新生児などの赤ちゃんを丸一日見る事は難しいと考える。性別を活かした職業も多々ある中で無理に男女共同参画を進めるのはおかしいと考えます。(男性 20歳代)
 - ・ 以前働いていた会社での私の上司の話ですが、女性ということが理由で、役職が上に上がらないことが多々ありました。勿論、追い越していった男性よりも仕事はできるし、人としても尊敬できる人格者の方たちでした。(私自身は下っ端だったので、自分の立場として実感したことはありません) 仕事の男女平等参加はそこで感じました。昇格では差別するのに (苦笑) (女性 50歳代)
 - ・ もう少し職場の介護育児休暇制度が浸透すると良いかと考えます！ (男性 30歳代)
 - ・ 根強い考え方が50.60代の人に残っていて、その人たちが上司になってるから基本環境はかわらない (女性 20歳代)
 - ・ 公務員ほど女性を差別視していると思う。だから、変わらない。(女性 30歳代)
 - ・ 正直男女平等になっては欲しいが、体の作りが違う以上平等にはならないと思う。しかし、気遣いは欲

第3章 調査結果の詳細

- しい。私の場合は妊娠中、真夏に勤務先(豊島区)から系列店(新宿店)まで自転車で行かされたことがあった。ちなみに指示したのは上司(男性)しかし、誰も止める人はいなかった。みんなに妊娠してことは話してあるのだから、そこは誰かに止めて欲しかった。私は年齢も若いから口答えもできず、結局新宿までいったけど(女性 20歳代)
- ・ 男性が育児休暇を取りやすい環境作りが必要だ。(女性 60歳代)
 - ・ 女性の所得だけでも家が建てられるような安定した収入の職が増えればいいと思う(女性 20歳代)
 - ・ 男女間の差別は無論好ましくないが、意識しすぎてバランスを崩さないことが重要と考える。十分に平等が担保されている職場もあり、逆差別の側面もすでに散見される状況と思う。(男性 50歳代)
 - ・ 女性が育児休暇後の復職が難しい環境が多く、整えて欲しい。(女性 20歳代)
 - ・ 国もそうだが先ず会社、地域等から変わらなければならぬ??(男性 50歳代)
 - ・ 女性の社会進出を促進するために、インセンティブを与える制度を設けるべきだ。(男性 20歳代)
 - ・ 給与のベースが男女で違う(女性 30歳代)
 - ・ 性別に関係なく、能力がある人を重用すべきである。(男性 50歳代)

地域社会について

- ・ 地域では圧倒的に男性の意見がとおる。(女性 50歳代)
- ・ 地方は古い考え方の人が多いのでなかなか難しいと思います。(女性 60歳代)
- ・ 田舎なので、年配者は未だに女はお茶くみ人だと思ってる。(女性 50歳代)
- ・ 地域社会の役員などはまだまだ男性主体に感じる。(女性 70歳以上)
- ・ 特に男性は高齢になるほど孤独になりやすいと思われるので地域社会のイベントにできれば夫婦で参加するのが良いと思う。(男性 60歳代)
- ・ 地域活動への男性の参加の少なさが気になる(女性 40歳代)
- ・ 田舎だと男女共同参画に限らず、昔からの古い因習があつてなかなか改革が進みません。個人個人の考え方を尊重しなければなりません、少しずつでもよりよい方向に制度などを変えていかなければと思います。(男性 60歳代)
- ・ 群馬は女の方が強い(男性 30歳代)
- ・ 比較的、群馬県は男女共働き世帯が多いので参加しやすいと思った(女性 60歳代)
- ・ 地域の行政役員に女性が少ない。半分以上は女性に任せるべきだ。(男性 70歳以上)
- ・ 自分の家は男女平等であるが日本会議や保守系の議員など古い考えの人が多すぎて田舎社会に住んでいると息苦しいと感じる。まずは高齢者や日本会議の人たちや自民党系の議員への正しい知識や男女平等や人権意識を地方議員や市の職員などに研修したり古い考えを過ちだと認めるべきだと思う(男性 30歳代)
- ・ 地域の役員も男性がするのが当たり前になっていて、次を探す時も男性しか選択肢がない。反対に民生委員は女性・・全てにおいて男女の役割と云う括りで物事が決まっている。男性しか出来ない事や女性にしか出来ない事もある、性別に関係なく適材適所！を何処でも何でも！(女性 50歳代)
- ・ 住んでいる地域の男性、特に高齢男性は、全く昔の考え方のままの人ばかりで、今更どうにもできそうもない…(女性 70歳以上)
- ・ 地域の活動に参加していると、男性が主で女性が従が当たり前になっている。(男性 60歳代)
- ・ 男尊女卑文化の残る地方では、その文化に生きてきた人間が生きている限り、価値観を変えたり、改革を進めていくのは困難でしょう。(女性 20歳代)
- ・ 田舎では、そのような話題を口にするこゝろさえず(女性 50歳代)
- ・ 地域社会を担う男性は責任のある役職(町長など)にはつきたがるが、実際の業務は女性に丸投げすることが多く、その意見も実情を反映していないことが多い。(女性 40歳代)
- ・ 口では言うものの、特に地方はなかなか男女平等が進まないですね。(女性 60歳代)
- ・ まだ地方は男社会だということは常々感じる(女性 50歳代)
- ・ 男女どちらが参加しても良いという地区の会議とかでも、どの家も男性が出ていて女性が一人も居ない事が多かったり、やはり女性がそういう所に出てくるべきではない！という年配の方のあたりが強くてつらいです。(女性 40歳代)
- ・ 地域社会では特に年長者の方はまだまだ男性上位の考えかたの人が多く、女性の自治会長や部長などは候補にすら上がらないのが実情であり、また女性の方も参加しようとする人はなかなか出てこない。まずは地域の役場などから意識を変えて率先して女性管理職や、議員を増やしていく事が重要だと思う(女性 60歳代)
- ・ 具体的に考えたことが無いので分かりません。ただ、群馬は女性が強いので、男性は女性に任せて安心して光景を見ることが多くあります。少数ですが、我が家のような「亭主閑白風」な家庭があり、そういったご家庭が男女不平等であることが多いです。区長さんはほぼ男性である事は、地域の皆さんはご存じだと思います。ですから、このアンケートで「女性になってもいいんだ」と悟りました。(女性 40歳代)
- ・ 地域比率はまだ男性中心、古い形を崩し女性参加(男性 60歳代)

- ・ いまだに長老と呼ばれる先導者が仕切る傾向が強く、それを何も言わずにいる社会がある。それを監視できない市町村も成長できない。(女性 60歳代)
- ・ 群馬県は古い考え方や社会習慣に縛られている割合が高い。(男性 60歳代)
- ・ 田舎ではまだまだ男尊女卑の考えが根強いです(女性 40歳代)
- ・ どの地区もあまり盛んのように感じません。(男性 60歳代)
- ・ 区長、理事、小さな所から確実に変えていく。(男性 60歳代)
- ・ 田舎ではまだまだこれからのことのように思います。(女性 50歳代)
- ・ 地域社会では、まだまだ女性の位置づけが低い。出る釘は打たれる・・・状態が多い。(女性 70歳以上)
- ・ 家庭などでは男女の共同作業化が進んでいると思いますが、地域社会活動となると女性の参画が非常に少ないと思います。女性の自主参加を期待しますが・・・(男性 60歳代)
- ・ 田舎はまだまだ何事も男性主体で進められている。女性の活躍の場は無いようです。(女性 60歳代)
- ・ 保守的な地域では推進は容易ではないですね。(男性 50歳代)
- ・ 群馬県は女性のほうが強い傾向がある(男性 60歳代)
- ・ 群馬県は全てにおいて閉鎖的に感じます。他の県よりもいつも遅れている。県庁職員から変えていくべきではないでしょうか。(女性 50歳代)
- ・ 地域の町内会は、昔ながらのひとなると決まっている傾向がある。(女性 60歳代)
- ・ 東京から移住しましたが、群馬県の男尊女卑を痛烈に実感した。かかあ天下は全くの偽りです(女性 50歳代)
- ・ 地域社会におけるリーダーについて、男性が優位になっている。Ex. 区長など。(女性 60歳代)
- ・ 地域の役職を担う高齢者には、まだ役は男子にという考えが残っている。(男性 60歳代)
- ・ 田舎ではいまだに女性がやらなければいけないという考えが残っている。介護、家事などやって当たり前の風習がいやだ(女性 40歳代)
- ・ まだまだ田舎は、男が前にでるし、出ないとあそこの旦那さん出ないと奥さんが出ると、常識がないように見られてしまいます。現実には、地域によってさまざまに田舎は男女平等なんてありません。(女性 60歳代)
- ・ 地域社会(笑)消防団など廃止し、家庭の負担を減らし、男女とも余裕を作ること。(男性 30歳代)
- ・ 群馬は男尊女卑(男性 40歳代)
- ・ 群馬の女性は強い！でも内剛外柔、賢い女性がリードしてくれたらうれしい。(女性 60歳代)

- ・ 現在77才の女性 現役時代には民生児童委員の会長等を担い、男性会員の協力も得て活動。現在もOB会の会長として会員と共に楽しんでいます。恵まれた環境と感謝しています。(女性 70歳以上)
- ・ 長く同じ場所に暮らしていて、地域の草刈り等の作業に、最初は女性がほとんどでしたが、最近では男性がかなり増えて、身近に男女共同参画を感じる。(女性 60歳代)
- ・ 群馬は女の方が強い(男性 30歳代)

女性の社会参画について

- ・ 女性は、今まで以上に、責任感をもっともっと養う必要がある。まだまだかなり甘いです。(男性 70歳以上)
- ・ より女性が働きやすい社会になってもらいたい(男性 40歳代)
- ・ 女性登用ありきで逆差別になっているケースもあるのではないかと。(男性 40歳代)
- ・ 離婚して生活が苦しくなった。新しく資格をとってもっと自立して専門職を仕事にして働きたい思い、市役所に相談に行ったが嫌味や遠回しに無理でしょみたいなことを言われた。きてもらっても困ると言われた。お先真つ暗です。高崎市役所は冷たい。(女性 40歳代)
- ・ 男性と同じようにキャリアを積んで、昇給したいとも思うが、出産育児がありなかなか同じようにとはいかない。男性の育児休暇が進んでも、女性は今までと変わらず長期で休むわけで、キャリア格差は無くならないと思う。(女性 30歳代)
- ・ 社会的に女性の地位向上を図る事は大変重要で大切な事です。女性自身、社会へもっと広い視野を広げ社会(社内・職場等)の出来事に対する自身の考え方、意見を持って戴きたい。(男性 70歳以上)
- ・ 自分の会社では、女性の管理職登用をアピールするために、能力がないのに出世している人が何人かいるので、数値目標をたてると本末転倒になる懸念がある。(男性 30歳代)
- ・ 女性の政治家が少ない(男性 40歳代)
- ・ すべては能力次第だと思う。能力や適性、耐性があれば積極的に登用していくことが大切だと思う。能力や適性が伴わないのに女性を積極的に登用していく(人数あわせ等)のはいかがなものか。(男性 60歳代)
- ・ 国会議員の数がまだ男性が多いが、女性の意見がもう少し多いほうがよいのではないかと。(女性 70歳以上)
- ・ 女性ができる事は参加するようにする(女性 50歳代)
- ・ 特に議員の女性進出の推進を県民すべてで後押しをし県議の女性比率を全国平均以上にすることが、群馬県の取り組みとして共同参画している事になる(男性 60歳代)

第3章 調査結果の詳細

- 娘を産んだばかりの頃離婚して、12年前ですがかなり就職活動をしました。就職する事は出来ませんでした。(専門学校卒)なので個人事業主として自営業を選びました。今は就職するつもりはありませんが、今後もし就職したくなった際にブランクなく就職したいと思っております。女性の職業訓練校や転職、再就職がもっとしやすい社会になって欲しいです。(女性 30歳代)
- 女性はリーダーシップをとろうとする人が少ないと思う(男性 30歳代)
- 結婚後も働く女性が増えているものの、小さな子供を持つ女性は子供の病気や行事で休む事が多いという理由で、重要な仕事を任せてもらえない。(女性 50歳代)
- 仕事をしていると、女性のほうがいろんな面で能力があると感じる(女性 50歳代)
- 渉外係等の多少の危険を伴う仕事についても女性を利用すべき。(男性 30歳代)
- もっと女性が暮らしやすく、性別関係なく活躍の場や発言の場があると良いと思う。子育てしているとどうしても子供が小さいと子供の事は母親の仕事になりがちだが、出来る方がしていく方が良いと思う。(女性 30歳代)
- 男女を平等にもっと女性の活躍をと意識すればするほど女性だから特別という印象を受けてしまいますが・・・(女性 40歳代)
- 男性の中には、女性が家にいてほしいと希望している人がいる。それで働きに出られない人がいる。(女性 50歳代)
- 男女の比率にこだわらず有能な人が重用されるべき。(女性 50歳代)
- 女性が積極的に参加していない。(男性 60歳代)
- 女性にもっと進出してもらいたい年齢のいった人はやはり引きこもりがちです(男性 70歳以上)
- 女性の社会進出などを推し進めるためだけに無理矢理女性比率を上げて登用を進めるのは間違った平等であると思う(男性 20歳代)
- 女性を活躍させたいのは分かるが、適任かどうかが大切だと思う。適任ではない人が女性ってだけで選ばれることがあるから、男性からの不満が増えて逆に女性の評価が下がってしまう。(女性 30歳代)
- 平等には賛成。議論の場へ進出をすべき。ただ強いリーダーシップ、統率力の女性を見たことは無い(男性 30歳代)
- まず国会から、もっと女性が積極的になるべきだ。女性が自分たちの代表を出して。女性が男性議員を選ぶようじゃだめだ。(男性 70歳以上)
- 女性が社会に出て活躍するためには、子どもを預けられる(急な病気の時でも)環境が整っていることが必要(女性 30歳代)
- 女性が積極的に社会で活躍できるような政治が必要だと思います(女性 50歳代)
- 全般的に女性は控えめ。もっと積極的に参加して行けば意思疎通にもなるのでは？(男性 60歳代)
- 女性が参画しやすい環境を整備すること(男性 70歳以上)
- ある程度高齢になると女性の社会参加や地域社会活動への参加が限られてくるような気がする。女性自身の意識の問題も大きいと思うけれど、こればかりは、数値目標を掲げられてもどうにもならないかな？(というか、数値目標自体が無意味な気がする。適材適所ということもあるし。まあ、そういう人材が育たなければだめなのだろう。)(女性 60歳代)
- 女性の考え方を変える必要があると思う。例えば、仕事で出世したい、等。(男性 60歳代)
- 平等というが平等ではなく女性優遇のところはたくさんある。また女性自身の働く意識を変えていかなければ意味がない(男性 20歳代)
- もっと女性の社会進出が進むべきだと思う(男性 50歳代)

施策について

- 啓発だけでなく、法律等の整備がなければ進展しない。(男性 60歳代)
- 女性が長く働ける為に、もう少し行政の環境を整えて欲しい。(女性 50歳代)
- これからもっと男女が共に社会で活躍できるシステムを構築して欲しい。(男性 20歳代)
- 県は全く動いてくれないので期待はしていない(男性 40歳代)
- 既存の方法にこだわりすぎるので、協力しやすい方法を取り入れたり、不必要なことは削除し、現代に合わせた方向性で行くべきだと思う。(女性 50歳代)
- 女性が働きやすく、出産、育児が守られるようにならないと、子供は減る一方だから、力を入れて欲しい。(女性 50歳代)
- 戸籍の撤廃をしてほしい。世帯主、配偶者、子供という形は家長制度と何ら変わらない。個人ひとりに1戸籍にしてほしい。(女性 50歳代)
- メディアなどを使ってもっと男女平等を世に広めたほうが良いと思う(女性 20歳代)
- 役職者の女性比率を設定し、実現した組織を減税などで支援する。(男性 70歳以上)
- 何事にも積極的に参加できる環境を増やしてはいかげですか。(男性 50歳代)
- 個人の意識改革が必要なので、環境から整えていくことは悪くない(女性 20歳代)
- 相談しやすい場所と実際に手助けを実践できるようにすること。児童相談所や警察で効果ある活動がされていないように思える(男性 50歳代)
- 政策ばかりが先に挙げられて、実態にそぐわないことが多すぎる(女性 60歳代)

- ・ 男女雇用機会の平等化を実現してる企業に税制面等の優遇措置を採って推進しなければならない。(男性 60歳代)
- ・ 群馬県は、男性、女性の役割分担の意識が強い。男子校、女子校が顕著な例である。女性が結婚、出産しても、夫婦で子育てしながら、働ける環境作りが大切。男性も、育休、介護休暇が取れる環境、取る意識改革が必要だが、まだまだ遠い感じがする。県職員がまず実践して欲しい。子供を産んで育てるなら群馬県、と言われるように、環境を改善してほしい。また女性の能力を評価して、男性と同じ給料がもらえるようになったらいいと思う。女性議員の数もまだ少ないと感じる。女性議員も男性議員も産休、育休をとれる環境になってほしい。男女共同参画について、意識改革が必要だと思うので、子供の頃から、もっと啓蒙活動してほしい。教える教師の方の意識改革も必要かもしれない(女性 60歳代)
- ・ あまり知られていない、PR必要(男性 40歳代)
- ・ 自治体が男女平等、男女共同参画に関する取り組みの情報をもっと地域社会に発信する機会を増やすべきです。(男性 60歳代)
- ・ 女性の社会参画は労働人口減を防ぐ意味でも良いかと思う。ただし、何の施策や考えや対応をしたところで、高齢化社会が一番の問題だと思う為、出産、育児への対応を一番として政策を進めるのが最も重要な事ではないだろうか(男性 30歳代)
- ・ 地域社会においては、男女うんぬんと言うより、年寄りの独り暮らしが多いので、根本的な制度の見直しが必要だと思う。若い世代でないので職場については判らないが、働く主婦はスーパーウーマンだと思う。(女性 60歳代)
- ・ 病児保育の充実(女性 50歳代)
- ・ もっと女性の進出をサポートする行政の政策が欲しい。(女性 50歳代)
- ・ 相談しやすい場所と実際に手助けを実践できるようにすること。児童相談所や警察が効果ある活動がされていないように思える(男性 50歳代)
- ・ 何らかの事情で休業した人や、退職してしまった人を対象とした男女に関わらない支援をしてほしいと思った。(男性 20歳代)
- ・ 子育て支援の充実が図られないと男女共同参画社会の実現や少子高齢化社会からの脱却は難しいと考える。地域で子供を育てる環境が昔の様に無い。近所の方との交流も少なく付き合いもあまり無く無関心で個人を優先するため暮らし難い時代に入ったと思う。(男性 60歳代)

その他

- ・ 意味がない(男性 20歳代)
- ・ どうでもいい問題だと思っている、何の関心もない(男性 40歳代)
- ・ 関心なし(男性 50歳代)
- ・ 知識に乏しく現実的な回答をすることが出来ない。(男性 40歳代)
- ・ 差別的な言葉になるので答えたくない(男性 30歳代)
- ・ 別に無い。どこまで平等がいいのかわからない(男性 40歳代)
- ・ 皆が分かりやすい情報であって欲しい(男性 30歳代)
- ・ 現状が分からない。(男性 60歳代)
- ・ 考えた事がない(女性 50歳代)

第 4 章 資料編

県民意識調査集計表

F1 性別	人	%
女性	992	49.6
男性	1,008	50.4
その他	-	-
計	2,000	100.0

F2 年代	人	%
10歳代	8	0.4
20歳代	266	13.3
30歳代	306	15.3
40歳代	443	22.2
50歳代	462	23.1
60歳代	406	20.3
70歳以上	109	5.5
計	2,000	100.0

	女性		男性	
	人	%	人	%
10歳代	3	0.2	5	0.3
20歳代	136	6.8	130	6.5
30歳代	139	7.0	167	8.4
40歳代	245	12.3	198	9.9
50歳代	295	14.8	167	8.4
60歳代	142	7.1	264	13.2
70歳以上	32	1.6	77	3.9
計	992	100.0	1,008	100.0

F3 居住地区	人	%
前橋圏	363	18.2
渋川圏	124	6.2
伊勢崎圏	259	13.0
高崎・安中圏	440	22.0
藤岡圏	74	3.7
富岡圏	62	3.1
吾妻圏	51	2.6
利根・沼田圏	81	4.1
太田・館林圏	387	19.4
桐生圏	159	8.0
計	2,000	100.0

F4 職業	人	%
正社員・正職員	832	41.6
パート・アルバイト・契約社員	429	21.5
派遣社員	45	2.3
自営(商工業)	120	6.0
自営(農林漁業)	17	0.9
専業主婦・主夫	260	13.0
学生	48	2.4
無職	215	10.8
その他	34	1.7
計	2,000	100.0

F5 結婚	人	%
している(事実婚を含む)	1,341	67.1
していない(離別・死別等)	198	9.9
していない(未婚)	461	23.1
計	2,000	100.0

F6 世帯構成	人	%
一人暮らし	278	13.9
夫婦二人のみ(事実婚を含む)	562	28.1
二世帯世帯(親と未婚の子が同居)	945	47.3
二世帯世帯(親と子ども夫婦が同居)	71	3.6
計	2,000	100.0

F7 配偶者の職業	人	%
正社員・正職員	605	45.1
パート・アルバイト・契約社員	250	18.6
派遣社員	13	1.0
自営(商工業)	108	8.1
自営(農林漁業)	14	1.0
専業主婦・主夫	167	12.5
学生	1	0.1
無職	172	12.8
その他	11	0.8
計	1,341	100.0

夫婦の働き方	人	%
共働き	790	58.9
夫だけ働いている	329	24.5
妻だけ働いている	54	4.0
共に働いていない	168	12.5
計	1,341	100.0

※「働いている」は「正社員・正職員」「パート・アルバイト・契約社員」「派遣社員」「自営」「その他」合計値、「働いていない」は「専業主婦・主夫」「学生」「無職」の合計値

第4章 資料編

F8 子どもについて	人	%
未就学児	270	13.5
小学生	202	10.1
中学生	118	5.9
高校生以上の学生	265	13.3
社会人	707	35.4
子どもはいない	702	35.1
計	2,000	100.0

子どもの有無	人	%
子どもがいる	1,298	64.9
子どもはいない	702	35.1
計	2,000	100.0

F9 子どもの人数	人	%
1人	387	29.8
2人	650	50.1
3人	235	18.1
4人以上	26	2.0
計	1,298	100.0

問10 あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。(それぞれ1つに○)(N=2000)

人	男性のほう が非常に優 遇されてい る		どちらかとい えば男性のほう が優遇されて いる		平等に なっている		どちらかとい えば女性のほう が優遇されて いる		女性のほう が非常に優 遇されてい る		わからない		不明	計	
	R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26	H26	R1	H26
	家庭	189	60	622	441	726	323	201	83	59	16	203	50	30	2,000
職場	297	137	841	510	469	166	138	53	31	4	224	98	35	2,000	1,003
学校教育の場	65	16	391	161	1,026	506	74	35	16	2	428	231	52	2,000	1,003
政治の場	679	319	786	449	245	89	48	15	12	3	230	93	35	2,000	1,003
法律や制度	309	95	651	333	593	292	149	79	26	10	272	153	41	2,000	1,003
地域社会	279	94	762	462	553	254	115	42	22	10	269	108	33	2,000	1,003
社会通念・習慣・ しきたり	393	189	935	547	357	127	63	21	15	2	237	87	30	2,000	1,003
社会全体	269	101	1,037	616	347	141	93	27	18	3	236	80	35	2,000	1,003

%	男性のほう が非常に優 遇されてい る		どちらかとい えば男性のほう が優遇されて いる		平等に なっている		どちらかとい えば女性のほう が優遇されて いる		女性のほう が非常に優 遇されてい る		わからない		不明	計
	R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26	H26	R1・H26
家庭	9.5	6.0	31.1	44.0	36.3	32.2	10.1	8.3	3.0	1.6	10.2	5.0	3.0	100.0
職場	14.9	13.7	42.1	50.8	23.5	16.6	6.9	5.3	1.6	0.4	11.2	9.8	3.5	100.0
学校教育の場	3.3	1.6	19.6	16.1	51.3	50.4	3.7	3.5	0.8	0.2	21.4	23.0	5.2	100.0
政治の場	34.0	31.8	39.3	44.8	12.3	8.9	2.4	1.5	0.6	0.3	11.5	9.3	3.5	100.0
法律や制度	15.5	9.5	32.6	33.2	29.7	29.1	7.5	7.9	1.3	1.0	13.6	15.3	4.1	100.0
地域社会	14.0	9.4	38.1	46.1	27.7	25.3	5.8	4.2	1.1	1.0	13.5	10.8	3.3	100.0
社会通念・習慣・ しきたり	19.7	18.8	46.8	54.5	17.9	12.7	3.2	2.1	0.8	0.2	11.9	8.7	3.0	100.0
社会全体	13.5	10.1	51.9	61.4	17.4	14.1	4.7	2.7	0.9	0.3	11.8	8.0	3.5	100.0

問11 あなたは、結婚に関する以下の考え方についてどう思いますか。(それぞれ1つに○)(N=2000)

人	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	計
結婚する、しないは個人の自由である	1,206	594	72	18	110	2,000
結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい	931	615	223	64	167	2,000
結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない	838	748	200	45	169	2,000
夫婦別姓(別苗字)を選択できることを認めるほうがよい	648	605	289	152	306	2,000
法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認められるべきである	559	697	313	121	310	2,000
同性同士の結婚も社会的に認められるべきである	584	641	229	150	396	2,000

%	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	計
結婚する、しないは個人の自由である	60.3	29.7	3.6	0.9	5.5	100.0
結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい	46.6	30.8	11.2	3.2	8.4	100.0
結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない	41.9	37.4	10.0	2.3	8.5	100.0
夫婦別姓(別苗字)を選択できることを認めるほうがよい	32.4	30.3	14.5	7.6	15.3	100.0
法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認められるべきである	28.0	34.9	15.7	6.1	15.5	100.0
同性同士の結婚も社会的に認められるべきである	29.2	32.1	11.5	7.5	19.8	100.0

問12 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。(1つに○)(N=2000)

	人		%	
	R1	H26	R1	H26
そう思う	58	41	2.9	4.1
どちらかといえばそう思う	442	257	22.1	25.6
どちらかといえばそう思わない	519	256	26.0	25.5
そう思わない	822	403	41.1	40.2
わからない	159	30	8.0	3.0
不明	—	16	—	1.6
計	2,000	1,003	100.0	100.0

問13 子どものころ、あなたの家庭では、「男は仕事、女は家庭」という考え方でしたか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
そうだった	525	26.3
どちらかといえばそうだった	753	37.7
どちらかといえばそうではなかった	263	13.2
そうではなかった	351	17.6
わからない	108	5.4
計	2,000	100.0

問14 あなたは、以下の家庭内の役割について、どのように担うべきだと思いますか。(それぞれ1つに○)(N=2000)

人	主として男性が担うべき	男女が共に担うべき	主として女性が担うべき	その他	計
家事(炊事・洗濯・そうじ)	20	1,451	450	79	2,000
育児	18	1,510	412	60	2,000
看護・介護	22	1,684	200	94	2,000
学校行事などへの参加	32	1,645	251	72	2,000
自治会などの地域活動	267	1,582	79	72	2,000
家計の管理	63	1,354	496	87	2,000
主たる収入	747	1,143	22	88	2,000

第4章 資料編

%	主として男性が担うべき	男女が共に担うべき	主として女性が担うべき	その他	計
家事(炊事・洗濯・そうじ)	1.0	72.6	22.5	4.0	100.0
育児	0.9	75.5	20.6	3.0	100.0
看護・介護	1.1	84.2	10.0	4.7	100.0
学校行事などへの参加	1.6	82.3	12.6	3.6	100.0
自治会などの地域活動	13.4	79.1	4.0	3.6	100.0
家計の管理	3.2	67.7	24.8	4.4	100.0
主たる収入	37.4	57.2	1.1	4.4	100.0

問15 現在、あなたの家庭では、以下の家庭内の役割について、どのように担っていますか。(それぞれ1つに○)(N=1772)

人	主として男性が担っている		男女が共に担っている		主として女性が担っている		その他		該当なし	不明	計	
	R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26	H26	H26	R1	H26
家事(炊事・洗濯・そうじ)	64	20	486	190	1,121	734	51	8	35	16	1,722	1,003
育児	18	1	438	155	854	486	412	17	310	34	1,722	1,003
看護・介護	46	7	445	157	597	366	634	26	410	37	1,722	1,003
学校行事などへの参加	50	18	433	177	809	440	430	12	323	33	1,722	1,003
自治会などの地域活動	426	284	606	340	506	252	184	23	84	20	1,722	1,003
家計の管理	247	99	468	194	928	645	79	14	34	17	1,722	1,003
主たる収入	1,002	544	491	307	150	75	79	24	38	15	1,722	1,003

%	主として男性が担っている		男女が共に担っている		主として女性が担っている		その他		該当なし	不明	計	
	R1	H26	R1	H26	R1	H26	R1	H26	H26	H26	R1・H26	
家事(炊事・洗濯・そうじ)	3.7	2.0	28.2	18.9	65.1	73.2	3.0	0.8	3.5	1.6	100.0	
育児	1.0	0.1	25.4	15.5	49.6	48.5	23.9	1.7	30.9	3.4	100.0	
看護・介護	2.7	0.7	25.8	15.7	34.7	36.5	36.8	2.6	40.9	3.7	100.0	
学校行事などへの参加	2.9	1.8	25.1	17.6	47.0	43.9	25.0	1.2	32.2	3.3	100.0	
自治会などの地域活動	24.7	28.3	35.2	33.9	29.4	25.1	10.7	2.3	8.4	2.0	100.0	
家計の管理	14.3	9.9	27.2	19.3	53.9	64.3	4.6	1.4	3.4	1.7	100.0	
主たる収入	58.2	54.2	28.5	30.6	8.7	7.5	4.6	2.4	3.8	1.5	100.0	

問16-1 あなたは、男性の育児休業取得についてどう思いますか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
男性も積極的に取得するほうがよい	658	32.9
男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない	1,188	59.4
男性は取得しないほうがよい	135	6.8
その他	19	1.0
計	2,000	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・時短の方が良い。(女性 30歳代)
- ・単発的な取得は意味が無いと思う。(女性 40歳代)
- ・状況や家庭環境、協力してくれる周りが整っているかなど家庭によって違いすぎるのでどちらとも言える問題でも、くくれる事でもない。(女性 50歳代)
- ・できるほうが取得する。(女性 50歳代)
- ・ケースバイケースで。(女性 50歳代)
- ・性別で云々することでは無いと思います。(男性 50歳代)
- ・なし。(女性 50歳代)
- ・自営なので何とも言えない。(男性 60歳代)
- ・その分男性の収入に上乘せ。(女性 50歳代)
- ・子供が小さいときの育休が論議されるけど、子育てはつづくものなので、もう少し普遍的に、長い目で見れば、子供に関わる時間は、大切だと思う。(女性 40歳代)
- ・各家庭で相談すればよい。(女性 50歳代)
- ・人による。(男性 20歳代)
- ・各家庭の状況によると思う。(女性 30歳代)
- ・環境に応じて。(女性 50歳代)
- ・必要な人がとれる環境になるといい。(女性 30歳代)

問16-2 あなたは、男性が育児休業を取得しない(できない)理由は何だと思えますか。(2つまで選択可)(N=2000)

	人	%
周囲に取った男性がいないから	391	19.6
職場に取りやすい雰囲気がないから	1,204	60.2
仕事が忙しいから	396	19.8
取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから	688	34.4
取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから	361	18.1
経済的に困るから	376	18.8
育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないから	46	2.3
その他	30	1.5
わからない	117	5.9

◆「その他」の記述内容

- ・取ってもすることがないから。(女性 30歳代)
- ・女性が取れると周りが思い込んでいる。(男性 20歳代)
- ・そういう風習に馴染めないから。(男性 60歳代)
- ・教育職の場合、卒論や講義を代わる人がいない。(女性 60歳代)
- ・田舎社会だと閉鎖的な考えや職場でのいじめや嫌がらせがあるから。(男性 30歳代)
- ・職場の人間関係に影響をおよぼしそうだから。(男性 30歳代)
- ・男性に取る気がないから。(女性 50歳代)
- ・現実として主たる所得は自分が稼いでいるから、経済的に困る。(男性 50歳代)
- ・いじめにあうから。(女性 40歳代)
- ・取得した男性に対する職場内での批判が強いから。(男性 30歳代)
- ・育児は女性という観念が、まだまだ男性の多くにあるように見受けられる。(男性 70歳以上)
- ・育児休業という考え方が浸透してない。(男性 30歳代)
- ・古い習慣にとらわれているから。(男性 70歳以上)
- ・休暇を取っても育児に参加しない、またはかえって女性の家事の負担を増加させる男性が多いから。(女性 50歳代)
- ・役に立たず、恩着せがましそうだから逆にストレス。(女性 30歳代)
- ・保育所の利用で必要がないから。(女性 50歳代)
- ・国の行政府が率先して、育児休業取得に乗り出していないので、企業の経営陣が社員に対して取得しやすい体制を整えていないことなどから。(男性 30歳代)
- ・男性が育児に専念する必要がない。(女性 60歳代)
- ・子供がいない。(男性 30歳代)
- ・男性には育児においてできることとできないことがあると思うから。(女性 20歳代)
- ・会社の中核が昭和中期の人間だから。(男性 30歳代)
- ・収入が減るから。(男性 30歳代)
- ・法的にも制度が不平等で、整備されていないから。(男性 60歳代)
- ・自営業だから。(男性 60歳代)
- ・そのような制度がない(男性 50歳代)

問16-3 あなたは、男性の介護休業取得についてどう思えますか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
男性も積極的に取得するほうがよい	753	37.7
男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない	1,135	56.8
男性は取得しないほうがよい	100	5.0
その他	12	0.6
計	2,000	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・介護は専門に任せるのがよい。(女性 30歳代)
- ・問題なければ取得しないで良い。(男性 50歳代)
- ・必要であれば取らざるを得ないだろう。(男性 60歳代)
- ・介護休暇という言葉は初めて聞いた。(男性 30歳代)
- ・会社に制度が無い。(男性 40歳代)
- ・自分の親なら取得するべきだ。(女性 50歳代)
- ・なし。(女性 50歳代)
- ・それぞれの事情に合わせられれば良い。(男性 50歳代)
- ・無職。(女性 70歳以上)
- ・人による。(男性 20歳代)

第4章 資料編

問16-4 あなたは、男性が介護休業を取得しない(できない)理由は何だと思いますか。(2つまで選択可)(N=2000)

	人	%
周囲に取った男性がいないから	403	20.2
職場に取りやすい雰囲気がないから	1,163	58.2
仕事が忙しいから	409	20.5
取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから	667	33.4
取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから	307	15.4
経済的に困るから	454	22.7
介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないから	31	1.6
その他	28	1.4
わからない	131	6.6

◆「その他」の記述内容

- ・女性が取れると周囲の人が思い込んでいる。(男性 20 歳代)
- ・負担が大きいため。(男性 60 歳代)
- ・介護能力が低い場合がある。(女性 60 歳代)
- ・職場の人間関係に影響をおよぼしそうだから。(男性 30 歳代)
- ・取りたくないから。(男性 40 歳代)
- ・むいていない。(女性 40 歳代)
- ・介護が長期化しやすい(休みが無くなる)。(男性 50 歳代)
- ・周囲の理解が足りない。(女性 50 歳代)
- ・やる気が無いから。(女性 70 歳以上)
- ・多くの場合、仕事を休んでまで介護できる状況に無い。社会的に当たり前のことになっていない。(男性 70 歳以上)
- ・介護が面倒だから。妻に任せる方が楽だから。(女性 50 歳代)
- ・介護休業という考え方が浸透してない。(男性 30 歳代)
- ・妻や他人任せ。(女性 30 歳代)
- ・目立ちたくないから。(男性 70 歳以上)
- ・本気で取ろうとしていない。(女性 70 歳以上)
- ・女性のほうが色々気付きが多い。(女性 60 歳代)
- ・取っても何もできない、やらないから。(女性 50 歳代)
- ・男が出来る事が少ない？(女性 60 歳代)
- ・男が自分がやることだと思っていない。(女性 40 歳代)
- ・保証制度などの整備が無く、選択が困難。(男性 60 歳代)
- ・自営業だから。(男性 60 歳代)
- ・そのような制度が無い(男性 50 歳代)

問17 あなたは次の分野で男性の参画が数年前と比べて進んでいると思いますか。(それぞれ1つに○)(N=2000)

	進んでいる と思う	どちらかとい うと進んでい ると思う	どちらかとい うと進んでい ないと思う	進んでいな いと思う	わからない	計
人						
①家事(炊事・洗濯・そうじ)	239	1,053	323	187	198	2,000
②育児	240	1,030	345	181	204	2,000
③看護・介護	129	579	619	329	344	2,000
④地域の行事	156	734	514	240	356	2,000
⑤PTA活動などの学校行事	140	684	543	282	351	2,000

	進んでいる と思う	どちらかとい うと進んでい ると思う	どちらかとい うと進んでい ないと思う	進んでいな いと思う	わからない	計
%						
①家事(炊事・洗濯・そうじ)	12.0	52.7	16.2	9.4	9.9	100.0
②育児	12.0	51.5	17.3	9.1	10.2	100.0
③看護・介護	6.5	29.0	31.0	16.5	17.2	100.0
④地域の行事	7.8	36.7	25.7	12.0	17.8	100.0
⑤PTA活動などの学校行事	7.0	34.2	27.2	14.1	17.6	100.0

問18 あなたは、今後、男性が、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためにはどのようなことが必要だと思いますか。
(いくつでも○)(N=2000)

	人	%
男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと	1,187	59.4
男性が参加することへの抵抗感を、女性がなくすこと	554	27.7
夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること	926	46.3
年長者や周囲の人が、参加しようとする当事者の考えを尊重すること	811	40.6
男性が参加することへの社会的評価を高めること	901	45.1
仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること	1,055	52.8
男性自身の関心を高めるための啓発や情報を提供すること	489	24.5
国や県、市町村等による講座や研修で、男性の家事、育児、介護等の能力や技能を高めること	503	25.2
男性が参加しやすくなるよう、仲間(ネットワーク)づくりを進めること	658	32.9
男性が相談しやすい窓口を設けること	469	23.5
その他	31	1.6
特に必要だと思うことはない	174	8.7

◆「その他」の記述内容

- ・女性の賃金を男性並みにすること。(女性 60歳代)
- ・特に介護については女性はもっと発言し、男性はもっと行動するべき。(男性 70歳以上)
- ・楽しさや辛さを知る事で自主的に行ったり女性の大変さを知る事ができる。(男性 30歳代)
- ・子供はもちろん大人にも教育の場や機会をつくること。(女性 60歳代)
- ・男性が入ると迷惑。(女性 50歳代)
- ・貧乏な男性や非正規雇用の男性をゼロにして生活に余裕があり仕事以外の活動が出来るようにする。(男性 30歳代)
- ・自分以外の人に支えられている自覚とそこに負担があるならば減らす方法を考えて悩む必要があると思う。(男性 30歳代)
- ・仕事(家事や育児、介護等も含む)の男女差別をなくす。(女性 50歳代)
- ・男性が取得しても給料が下がったり社内的に不利な立場に追いやられない様にする事。(女性 40歳代)
- ・地域活動で参加する時間帯、拘束時間を柔軟に対応してほしい。(男性 50歳代)
- ・経済的に困窮しないこと。(男性 50歳代)
- ・物理的に不可能。権力者が反対してるから。(女性 40歳代)
- ・やる気が無い。(女性 70歳以上)
- ・社会構造の変化によって、担う役割が変化していることを小さな頃から学校で教育する。そもそも男性は仕事だけ、女性はそれ以外+仕事というのが近年出てきた構造であり、既に破綻していることを教える。(女性 30歳代)
- ・女がやって当たり前という考えを捨てるべき。(女性 30歳代)
- ・女性がもっと外で働くことの比重を上げるべき。(男性 70歳以上)
- ・育児、介護で仕事を休んでも、給料に影響がないこと。(男性 30歳代)
- ・国や県ももちろんだがまず会社や地域コミュニティなど身近な所で参加しても抵抗がない環境を作ることが大事。(女性 30歳代)
- ・公共のメディア等でそのようなドラマやバラエティ番組で取り上げてみる。(女性 40歳代)
- ・男性に対する経済的な期待そのままに、家事への過度な期待を要求することをやめ、お互いに協力し合える状況を作る。(男性 30歳代)
- ・義務教育で教える。家庭科の授業を増やす。(女性 50歳代)
- ・制度の構築。(男性 60歳代)
- ・旧来の固定観念を社会的に改めること。(男性 20歳代)
- ・義務教育から、学習の一環として学ぶ環境が必要、今の家庭にはその環境は無い。(女性 50歳代)
- ・国が経済的支援をすること。(男性 60歳代)
- ・金銭的フォロー。(男性 30歳代)
- ・法で強制する。(男性 40歳代)
- ・福祉的な制度を拡充する。補助金など。(男性 60歳代)
- ・将来お金に困らないことが確約される環境であること。(男性 30歳代)
- ・そもそも余裕を作れない今の社会環境をどうにかするべき。(男性 20歳代)
- ・男性の家事、育児、介護の参加不参加問題が発生するのは主に子供を出産した後に起こり得る問題です。母となる女性が第一子妊娠中に、事前に家事育児介護についての現実と理想と問題点などを、すべての親となる男女が知る、考える機会を市町村単位で設けることが大切です。父母という分け方をせず、ひとりの人間の親となるということについて、すべての男女が考える。そんな機会を母子手帳交付と同時にできるといいと思います。(女性 30歳代)

第4章 資料編

問19 「女性の働き方」について、あなたはどのように思いますか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
結婚するまでは仕事を続けるほうがよい	82	4.1
子どもができるまでは、仕事を続けるほうがよい	140	7.0
子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい	558	27.9
子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい	330	16.5
女性は仕事に就かないほうがよい	14	0.7
そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない	632	31.6
その他	37	1.9
わからない	207	10.4
計	2,000	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・考え方次第。(女性 60歳代)
- ・様々な選択ができる環境を作るべきだ。(男性 30歳代)
- ・各家庭の選択だと思う。(女性 60歳代)
- ・その人による。(女性 60歳代)
- ・本人の意思次第。(男性 30歳代)
- ・女性各人の価値観による。家事・育児・仕事のどれにより高い価値を置いているかによる。(男性 60歳代)
- ・子育て出来る体制が出来ていない。少し熱があったり、涙が出ているから眼医者へと子供を帰されて仕事へ行けない事態は毎日のように全国で起きている。(男性 70歳以上)
- ・生物学的に産む性には時間的に限り有ることを問題にすべきである。(女性 60歳代)
- ・女性の意思を尊重する。(男性 20歳代)
- ・女性が結婚・出産後に仕事を、続けられる環境が無い。(女性 60歳代)
- ・それぞれの資質による。(女性 70歳以上)
- ・基本的に「そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない」であるが少子化は更に進むと思う。(男性 50歳代)
- ・本人が働かないことを希望するのなら、働かなくても家計が成り立つ援助が必要。(女性 30歳代)
- ・状況などによって人それぞれで良いと思う。(女性 50歳代)
- ・女性が働きたいという意味を持った時に働けるのが一番良いと思う。(男性 30歳代)
- ・経済的に男性だけで家庭を支えられるなら女性の自由意思。(男性 30歳代)
- ・相手の意見を尊重したい。(男性 30歳代)
- ・子供の事を考えた働き方ができる環境があった方が良い。(女性 40歳代)
- ・本人の希望で良いと思う。(男性 60歳代)
- ・自分で育てたいから、自身の子に固執しているのに、預けて働くのは、矛盾。(女性 50歳代)
- ・したようにすれば良い。(女性 20歳代)
- ・本人の勝手。(女性 40歳代)
- ・本人の意思を尊重。(女性 50歳代)
- ・そもそも体の仕組みが違うのだから、男性のように働くことはできないと思う。(男性 30歳代)
- ・その家庭にあった働き方で良い。(女性 40歳代)
- ・女性で括らず、個人の環境に適した選択が出来るべき。(女性 20歳代)
- ・辞めないで時短や在宅勤務等の工夫ができれば良いと思う。(女性 50歳代)
- ・環境やその人の考え方によってでよいと思います。(女性 50歳代)
- ・各人の考えかた、状況等によりそれぞれ違うので、どれでもいいがどの場合でも問題なくできるようになればいい。(女性 50歳代)
- ・産休育児パターンは人それぞれ。だけど仕事が育児の障害になってはならない。(女性 30歳代)
- ・企業がまだ子供が小さいからと言う理由で就職できなかった。(女性 60歳代)
- ・個人差が有るので一概にいけない。(女性 60歳代)
- ・女性は家庭で子育てに専念するべき。共働きでは愛情を受けられない、協調性等に問題が出る。(男性 30歳代)
- ・本人の好きにすれば良い。(女性 20歳代)
- ・その時の環境によると思う。(女性 40歳代)

問20 あなたは、進路や職業を選択する際に、自分の性別を意識したことがありますか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
かなり意識した	188	9.4
どちらかといえば、意識した	531	26.6
どちらかといえば、意識しなかった	491	24.6
ほとんど・まったく意識しなかった	790	39.5
計	2,000	100.0

問21 日常生活における「仕事」「家庭生活」「地域活動」の優先度について、あなたの①希望(理想)と②現状(現実)に最も近いものはどれですか。(それぞれ1つに○)(N=2000)

	人		%	
	①希望(理想)	②現状(現実)	①希望(理想)	②現状(現実)
【仕事】を優先	230	772	11.5	38.6
【家庭生活】を優先	592	470	29.6	23.5
【地域活動】を優先	17	24	0.9	1.2
【仕事】と【家庭生活】をともに優先	622	316	31.1	15.8
【仕事】と【地域活動】をともに優先	40	34	2.0	1.7
【家庭生活】と【地域活動】をともに優先	45	37	2.3	1.9
【仕事】【家庭生活】【地域活動】をいずれも優先	205	67	10.3	3.4
その他	6	10	0.3	0.5
わからない	243	270	12.2	13.5
計	2,000	2,000	100.0	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・遊びを優先。(男性 40歳代)
- ・自分の興味。(男性 70歳以上)
- ・就労も結婚も地域活動もしていない。(男性 30歳代)
- ・個人の趣味を優先。(女性 50歳代)
- ・自堕落。(男性 60歳代)
- ・1型糖尿病。(女性 40歳代)
- ・学生。(男性 20歳代)
- ・自分のやりたい事を優先。(男性 30歳代)
- ・仕事も家庭生活も地域活動もうまくいっていない。(男性 30歳代)
- ・自身の身体を優先。(女性 50歳代)
- ・無職の為。(女性 60歳代)

問22-1 現在、働いている方にうかがいます。(F3職業で「正社員・正職員」「パート・アルバイト・契約社員」「派遣社員」「自営」「その他」のいずれかに該当する場合) あなたのこれまでの働き方はどれですか。(1つに○)(N=1477)

	人	%
卒業して以来、ほぼ継続して働いている	857	58.0
結婚・出産・育児・介護のため一時的に仕事を辞めたことがある	314	21.3
上記以外の理由で一時的に仕事を辞めたことがある	219	14.8
卒業してすぐには働けなかったが、その後ほぼ継続して働いている	87	5.9
計	1,477	100.0

問22-2 現在、働いている方にうかがいます。あなたの職場では、次のような男女間の不公平や制度の未整備はありますか。(いくつでも○)(N=1477)

	人	%
募集や採用で男女の不公平がある	294	19.9
賃金・昇給で男女の不公平がある	365	24.7
昇進・昇格で男女の不公平がある	339	23.0
入社研修や業務研究などの機会に男女の不公平がある	88	6.0
女性は補助的業務や雑務が多い	310	21.0
女性が結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある	220	14.9
男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある	405	27.4
育児・介護休業からの復帰後の処遇に不利益がある(配置転換、昇進への影響等)	150	10.2
各種ハラスメント(セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント等)の防止規定や相談窓口が設置されていない	173	11.7
育児休業や介護休業の制度がない	175	11.8
特に男女間の不公平は無い	350	23.7
その他	11	0.7
わからない	247	16.7

第4章 資料編

◆「その他」の記述内容

- ・子供の体調不良で突然休まれるのは困る。(女性 40 歳代)
- ・自営業なので感じない。(女性 50 歳代)
- ・産休、育休の制度はきちんとありますが、専門職のため復帰に際するエネルギーがかなり必要になります。仕事は休むことより休んだ後に戻ることのほうが大変です。復帰に対するケアは全く考えられていない現実があります。(女性 30 歳代)
- ・男女間より、正社員と非正規の不平等の方が多い！(女性 60 歳代)
- ・女性の方が色々と優遇されている。(男性 40 歳代)
- ・定年退職した。(女性 60 歳代)
- ・過保護なくらい女性が甘やかされている。(男性 30 歳代)
- ・男女平等を意識して、会社としては女性も昇進させようとするが、無理やり昇進させて能力以上のことを求めるため、結局嫌になって辞める人が多い。(女性 30 歳代)
- ・そもそも、法律で定められた最低限の有給が無い。(女性 50 歳代)

問22-3 現在、働いている方にうかがいます。あなたの職場では、女性の採用や管理職登用が進んでいると思いますか。(1つに○)
(N= 1477)

	人	%
進んでいると思う	500	33.9
進んでいないと思う	569	38.5
わからない	408	27.6
計	1,477	100.0

問22-4 現在、働いている方にうかがいます。あなたの職場で、女性の管理職が登用されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(いくつでも○)(N= 1477)

	人	%
経営者や人事担当者の意識改革	501	33.9
様々な職種や職域への女性の登用	387	26.2
女性管理職登用の数値目標の設定	200	13.5
育児休業や介護休業などの制度充実	403	27.3
継続的な人材の育成	417	28.2
ロールモデルとなる女性管理職の育成	223	15.1
女性が管理職になることへの、男性の意識改革	462	31.3
女性が管理職になることへの、女性の意識改革	349	23.6
その他	30	2.0
特に必要だと思うことはない	347	23.5

◆「その他」の記述内容

- ・結婚するかどうか、家庭の状況。(女性 60 歳代)
- ・能力のある女性職員の採用。(男性 60 歳代)
- ・中小企業(家内工業)の為、妻が役員。(男性 60 歳代)
- ・逆に急に意識し過ぎて女性が優遇されている雰囲気すらある。(男性 40 歳代)
- ・最近、意識的に取り組まれている。(男性 50 歳代)
- ・女性が上司だとヒステリックで迷惑。(女性 50 歳代)
- ・家庭の理由で仕事を休む事をしない。(女性 60 歳代)
- ・働き方の選択肢を増やす(労働時間など)。(女性 30 歳代)
- ・女性の管理職は既に登用されているが、社員ではないので必要なことは分からない。(男性 30 歳代)
- ・女性は毎月感情的に波があったり、体力も男性よりないのが現実なので、管理職に向いていないと思う。(女性 40 歳代)
- ・能力があれば性別は関係ない。(男性 50 歳代)
- ・男女にかかわらず、人が抜けたときの業務負担の軽減。(男性 50 歳代)
- ・女性自身のスキルアップ。(女性 30 歳代)
- ・マンパワーの整備。(男性 30 歳代)
- ・管理職にまでなろうとする意欲を持った女性がいらない。(男性 60 歳代)
- ・育休の制度充実と同時に、育休後復帰研修などの復帰したあとのケアの充実と大切です。それが、家事育児仕事を親が続けていくために必要なことです。(女性 30 歳代)
- ・女性が専門技術を身に着ける事。(男性 50 歳代)
- ・育児休業や介護休業取得を人事評価に影響させない配慮。(女性 20 歳代)
- ・女性しかつかない職種なのでわからない。(女性 40 歳代)
- ・能力次第。(男性 60 歳代)
- ・そもそも男性は女性を見下す様な人がいる。女性から生まれてきたのに！(女性 60 歳代)
- ・スタミナをつけることと、生理現象などで体調が左右されないこと。(男性 20 歳代)
- ・性別に関わらず仕事の結果と本人の能力を評価する仕組み作り。(男性 20 歳代)
- ・管理職の待遇が悪く、体力的に続かないので、管理職の待遇整備。(女性 30 歳代)
- ・女性の数を増やす。(男性 40 歳代)
- ・適性、能力などの評価と平等性強化。(男性 60 歳代)
- ・スキル。(男性 30 歳代)
- ・人を雇う余裕。(男性 50 歳代)

問23-1 現在、働いていない方にうかがいます。(F3職業で「専業主婦・主夫」「学生」「無職」のいずれかに該当する場合) あなたのこれまでの働き方はどれですか。(1つに○)(N= 523)

	人	%
卒業して働いていたが、結婚・出産・育児・介護のため仕事を辞めた	199	38.0
卒業して働いていたが、上記1以外の理由で仕事を辞めた	201	38.4
卒業して以来、働いたことはない	44	8.4
その他	79	15.1
計	523	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・定年退職して延長2年。(男性 60歳代)
- ・体力の限界。(男性 60歳代)
- ・会社都合の会社をいくつか働いた経験あり。(女性 50歳代)
- ・大学を卒業、就職し、定年。間をおいて再就職し、昨年退職。(男性 60歳代)
- ・くび。(男性 60歳代)
- ・自営なので仕事をしながら結婚、出産、育児、介護、全てしました。(女性 60歳代)
- ・まだ働いたことなし。(女性 20歳代)
- ・出産前まで働き、子供が幼稚園に入ってからまた働き始めた。(女性 50歳代)
- ・卒業して働き、定年まで同一会社に勤務した。(男性 60歳代)
- ・仕事と家庭を両立、子供2人で定年まで働いた。(女性 70歳以上)
- ・育児後に働いたが、介護のためやめた。(女性 60歳代)
- ・仕事が無い。(女性 60歳代)
- ・定年近くまで働いた。(女性 60歳代)
- ・子供が社会人になったので。(女性 50歳代)
- ・定年すぎまで働いた。(女性 60歳代)
- ・勉学中。(女性 20歳代)
- ・退職。(4件)
- ・定年退職した。(36件)
- ・学生で、就業していない。(23件)

問23-2 現在、働いていない方にうかがいます。あなたは、今後働きたいと思いますか。(1つに○)(N= 523)

	人	%
正社員・正職員として働きたい	71	13.6
パート・アルバイト・契約社員として働きたい	98	18.7
派遣社員として働きたい	2	0.4
フリーランスとして独立して働きたい	12	2.3
自分で、店や会社を起業したい	4	0.8
在宅で働ける仕事をしたい	81	15.5
今後も、働きたいとは思わない	153	29.3
わからない	89	17.0
その他	13	2.5
計	523	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・定年退職。(男性 70歳以上)
- ・知的障害者の兄の面倒を見るので手いっぱい。(男性 60歳代)
- ・何かしらの収入は得たいと思う。(女性 60歳代)
- ・今就活中。(男性 60歳代)
- ・環境を整えば。(男性 60歳代)
- ・人と接する事の難しさを抱えている為に働けない。(女性 50歳代)
- ・専業投資家。(女性 30歳代)
- ・ボランティアとして社会貢献したい。(男性 60歳代)
- ・働きたいが体が悪く働けない。(男性 60歳代)
- ・正社員で定年まで。(女性 60歳代)
- ・子どもが小さいうちはパートでいずれは正社員。(女性 30歳代)
- ・高齢のため。(男性 70歳以上)
- ・年齢的に無理。(女性 60歳代)

問24-1 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等のパートナーからされたことがありますか。(それぞれ1つに○)(N=1772)

人	1・2度ある	何度もある	ない
身体的な暴力	87	34	1,651
精神的な暴力・社会的な暴力	167	125	1,480
性的な暴力	37	22	1,713
経済的な暴力	44	49	1,679
子どもを利用した暴力	29	27	1,716
ストーカー行為	39	21	1,712

第4章 資料編

	%	1・2度ある	何度もある	ない
身体的な暴力		4.9	1.9	93.2
精神的な暴力・社会的な暴力		9.4	7.1	83.5
性的な暴力		2.1	1.2	96.7
経済的な暴力		2.5	2.8	94.8
子どもを利用した暴力		1.6	1.5	96.8
ストーカー行為		2.2	1.2	96.6

人	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	計
被害種類数【全体】	187	94	37	14	11	14	357
被害種類数【女性】	123	61	29	13	7	7	240
被害種類数【男性】	64	33	8	1	4	7	117

%	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	計
被害種類数【全体】(N=357)	52.4	26.3	10.4	3.9	3.1	3.9	100.0
被害種類数【女性】(N=240)	51.3	25.4	12.1	5.4	2.9	2.9	100.0
被害種類数【男性】(N=117)	54.7	28.2	6.8	0.9	3.4	6.0	100.0

問24-2 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等のパートナーにすることがありますか。(それぞれ1つに○)(N=1772)

人	1・2度ある	何度もある	ない
身体的な暴力	57	16	1,699
精神的な暴力・社会的な暴力	118	48	1,606
性的な暴力	11	3	1,758
経済的な暴力	14	11	1,747
子どもを利用した暴力	19	6	1,747
ストーカー行為	7	8	1,757

%	1・2度ある	何度もある	ない
身体的な暴力	3.2	0.9	95.9
精神的な暴力・社会的な暴力	6.7	2.7	90.6
性的な暴力	0.6	0.2	99.2
経済的な暴力	0.8	0.6	98.6
子どもを利用した暴力	1.1	0.3	98.6
ストーカー行為	0.4	0.5	99.2

人	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	計
加害種類数【全体】	140	39	5	4	3	9	200
加害種類数【女性】	73	30	2	1	-	3	109
加害種類数【男性】	67	9	3	3	3	6	91

%	1種類	2種類	3種類	4種類	5種類	6種類	計
加害種類数【全体】(N=200)	70.0	19.5	2.5	2.0	1.5	4.5	100.0
加害種類数【女性】(N=109)	67.0	27.5	1.8	0.9	-	2.8	100.0
加害種類数【男性】(N=91)	73.6	9.9	3.3	3.3	3.3	6.6	100.0

問25 問24-1で、配偶者や恋人等のパートナーから「身体的な暴力」、「精神的な暴力・社会的な暴力」、「性的な暴力」、「経済的な暴力」、「子どもを利用した暴力」、「ストーカー行為」をされたと答えた方にうかがいます。次のような機関や人に相談したことがありますか。(いくつでも○)(N=357)

	人	%
配偶者暴力相談センター(群馬県女性相談所、群馬県女性相談センター)	15	4.2
市町村DV等相談窓口(市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む)	10	2.8
警察	29	8.1
法務局・地方法務局、人権擁護委員	3	0.8
医療関係者(医師・看護師等)	10	2.8
民間の専門家や専門機関(弁護士会、カウンセラー機関、民間シェルター等)	9	2.5
学校関係者(教員、養護教員、スクールカウンセラー等)	4	1.1
児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等	6	1.7
勤務先の関係者	9	2.5
家族や親戚	76	21.3
友人・知人	89	24.9
その他	2	0.6
どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった	204	57.1
計	357	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・ 弁護士。(女性 30歳代)
- ・ 市役所悩み相談窓口。(女性 40歳代)

問26 問25で「どこ(だれ)にも相談したことがない・しなかった」とした方にうかがいます。相談しない・しなかった理由は何ですか。(いくつでも○)(N=204)

	人	%
どこ(だれ)に相談してよいのかわからないから	36	17.6
恥ずかしくてだれにも言えないから	31	15.2
相談しても無駄だと思うから	60	29.4
他人を巻き込みたくないから	35	17.2
早く忘れたいから	21	10.3
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから	48	23.5
自分にも悪いところがあると思うから	42	20.6
相手の行為は愛情の表現だと思うから	4	2.0
相談するほどのことではないと思うから	94	46.1
その他	6	2.9
計	204	100.0

◆「その他」の記述内容

- ・ そのとき以外は優しいから。(女性 30歳代)
- ・ なし。(女性 40歳代)
- ・ やった犯人が警官だから。(女性 40歳代)
- ・ 次は訴えます。(女性 50歳代)
- ・ 長時間の無言、無視ですが、クールダウンの時間でありその後間接的に話し合いを持てる関係性のためです。(女性 30歳代)
- ・ 当事者同士での話し合いで解決できるから(男性 60歳代)

第4章 資料編

問27 あなたは、次のようなドメスティック・バイオレンス(DV)やその他の被害者支援のための相談窓口や制度などを知っていますか。(いくつかでも○)(N= 2000)

	人		%	
	R1	H26	R1	H26
配偶者暴力相談支援センター(群馬県女性相談所、群馬県女性相談センター)	327	103	16.4	10.3
市町村のDV相談窓口(市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む)	426	315	21.3	31.4
警察署における相談窓口(ストーカー・配偶者暴力対策係)	690	434	34.5	43.3
民間支援団体(シェルター運営等)	334	-	16.7	-
女性の人権ホットライン(前橋地方法務局)	299	116	15.0	11.6
県の福祉事務所	232	91	11.6	9.1
男性DV被害者相談電話	57	-	2.9	-
群馬県性暴力被害者サポートセンターSaveぐんま	70	-	3.5	-
犯罪被害者支援窓口(市町村、警察、民間支援団体等)	106	-	5.3	-
DV防止法	465	333	23.3	33.2
ストーカー規制法	850	478	42.5	47.7
一時保護制度	361	217	18.1	21.6
保護命令制度	135	68	6.8	6.8
いずれも知らない	743	206	37.2	20.5

問28 あなたは、次のうち、見聞きしたことがあるものはありますか。(いくつかでも○)(N= 2000)

	人		%	
	R1	H26	R1	H26
男女共同参画社会	949	414	47.5	41.3
男女共同参画社会基本法	498	187	24.9	18.6
女性活躍推進法	483	-	24.2	-
政治分野における男女共同参画推進法	206	-	10.3	-
女性活躍・ハラスメント規制法(2020年6月より施行)	284	-	14.2	-
女子差別撤廃条約	207	95	10.4	9.5
ポジティブ・アクション(積極的改善措置)	95	54	4.8	5.4
ジェンダー(社会的性別)	1,052	225	52.6	22.4
男女雇用機会均等法	1,150	707	57.5	70.5
育児介護休業法	810	544	40.5	54.2
ワーク・ライフ・バランス	625	199	31.3	19.8
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	56	-	2.8	-
群馬県男女共同参画推進条例	130	75	6.5	7.5
群馬県男女共同参画基本計画	114	72	5.7	7.2
見聞きしたことはない	440	138	22.0	13.8

問29 あなたは、数年前と比べて、群馬県の男女共同参画の社会づくりが進んでいると感じますか。(1つに○)(N=2000)

	人	%
進んでいる	73	3.7
少しは進んでいる	434	21.7
どちらともいえない	594	29.7
あまり進んでいない	203	10.2
進んでいない	127	6.4
わからない	569	28.5
計	2,000	100.0

問30 あなたは、男女共同参画の社会づくりが進むと社会にどのような変化や効果が現れると思いますか。(3つまで○)
(N= 2000)

	人	%
性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる	845	42.3
男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる	841	42.1
男女がともに仕事と家事を担うことで、失業や病気などに伴う将来の生活不安が減る	520	26.0
様々な場で男女の多様な意見が反映されるようになり、誰もが暮らしやすい社会になる	471	23.6
男女の多様な視点や発想を活かすことで、地域経済の活性化につながる	367	18.4
女性の活躍の場が今よりも増える	486	24.3
男性の活躍の場が今よりも増える	47	2.4
女性への差別的な視点がなくなり、女性に対する暴力をなくすことにつながる	218	10.9
災害時の避難所においても、男女双方の視点を取り入れられ、誰もが安心して利用できるようになる	188	9.4
その他	12	0.6
わからない	392	19.6

◆「その他」の記述内容

- ・訳の分からないこと言い始める人がでてくる。(男性 10 歳代)
- ・女性特有の理由での仕事からの回避が多くなり、周りが大変になる。(男性 40 歳代)
- ・少子高齢化に歯止め。(男性 20 歳代)
- ・セーフティーネットの恩恵が受けられなかった人が人間らしく生きられるようになる。(男性 30 歳代)
- ・離婚が増える。(女性 50 歳代)
- ・男女の問題が立ち上がるのは家庭において出産育児が生まれた後が多いかと思えます。男女、父母という概念を越えて、ひとりの親という考えで家庭、職場、地域が考えられるようになることが大切だと感じています。(女性 30 歳代)
- ・顕著に変わることはない。(女性 60 歳代)
- ・格差。(女性 40 歳代)
- ・不平不満を言う人間はいつでも絶えないため何も現在とは変わらない。よりよい社会を目指すのであれば、男性女性の性別ではなく、個人の資質を優先することが重要と思われる。(女性 50 歳代)
- ・子供が減る。(女性 50 歳代)
- ・個人差も有り、特に変わらないと思う。(男性 60 歳代)
- ・今の進め方でバランス良くなるとは思わない。(男性 20 歳代)

問31 あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる役職についてどう思いますか。(1つに○)
(N=2000)

	人	%
できるだけ、男性がなるほうがよい	106	5.3
どちらかという、男性がなるほうがよい	226	11.3
適任者であれば、男女どちらでもよい	1,571	78.6
どちらかという、もっと女性がなるほうがよい	31	1.6
もっと女性がなるほうがよい	66	3.3
計	2,000	100.0

問32 あなたは、自治会や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思えますか。(いくつでも○) (N=2000)

	人	%
女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと	654	32.7
女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと	861	43.1
社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること	548	27.4
女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと	310	15.5
女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること	325	16.3
その他	28	1.4
特にない	311	15.6
わからない	325	16.3

第4章 資料編

◆「その他」の記述内容

- ・その女性の能力。(男性 60歳代)
- ・調整能力、統率力を兼ね備えた女性の能動的な参加。(男性 60歳代)
- ・性別に関係なく、リーダーとして適正な人物であると示すこと。(男性 30歳代)
- ・男女問わずだがリーダーは率先して嫌なことにも取り組む。(男性 30歳代)
- ・女性自身、見識を高めるよう務める。(男性 60歳代)
- ・未婚、既婚関係なく人、イチ個人で見たい。(女性 30歳代)
- ・男女関係なく人による。(男性 30歳代)
- ・古い考え方を持つ高齢者や日本会議の人や自民党市議のような人を啓もうすること。(男性 30歳代)
- ・決断力。(男性 30歳代)
- ・女性がリーダーになった場合に適切にサポートできる男性の補佐が必要。(男性 60歳代)
- ・いじめがあるから不可能。(女性 40歳代)
- ・リーダーシップ、カリスマ性。(男性 30歳代)
- ・なりたければなればいい。(男性 30歳代)
- ・定年制をもうける。今は男性定年退職者ばかりがやっている。(男性 70歳以上)
- ・育児、家事に追われてその様な余裕が無いと思うので、時間や体力や精神的な余裕が必要だと思う。(女性 30歳代)
- ・客観的判断が可能な女性を置くこと。(女性 20歳代)
- ・社会意識の変革。(男性 30歳代)
- ・男性のやってきた仕事を女性が担うには、女性も体力、腕力を付ける必要がある。(女性 50歳代)
- ・女性がリーダーになることで、会議や地域活動中に子供に負担がかからないようにする。(女性 40歳代)
- ・女性ならば誰でも良いという訳にはいかない。能力や性格も勘案すべき。(男性 60歳代)
- ・女性だから積極的に採用しようではなく、リーダーの才能のある女性への抵抗感をなくすことが大事。(女性 30歳代)
- ・能力と実力があれば誰がなっても問題ない。能力がない人がなることが悪い。(男性 40歳代)
- ・男性が家事をすることで女性が時間に余裕を持てるようになることが必要。(女性 60歳代)
- ・体力的に男性並になること。(男性 20歳代)
- ・男女にかかわらず、こんなリーダーとか活動はやめるべき。そもそも忙しい現代人に昔の化石のような慣習を押し付けるのはどうかしている。(男性 30歳代)
- ・活動する数を増やす。(男性 40歳代)
- ・適性、能力などの他、積極的に表に出て来れる環境を整備する。(男性 60歳代)
- ・世代が変わること。(男性 20歳代)

問33 あなたが、次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性ももっと増えるほうがよいと思うものはどれですか。(いくつでも○)(N= 2000)

	人	%
県・市町村の首長	1,064	53.2
国会・県議会・市町村議会の議員	1,119	56.0
県・市町村の審議会等の委員	757	37.9
国家・地方公務員の管理職	812	40.6
裁判官、検察官、弁護士	772	38.6
大学教授	513	25.7
小中学校・高校の校長	667	33.4
国連などの国際機関の管理職	549	27.5
企業の管理職	882	44.1
起業家・経営者	729	36.5
労働組合の幹部	523	26.2
農業委員	327	16.4
その他	73	3.7

◆「その他」の記述内容

- ・なんでも適任者がなればいい。(男性 10歳代)
- ・すべて。(男性 50歳代)
- ・性差でなく能力でなっていきたいと思います。男女共に能力のない人に上記の役職になられても困ります。(男性 60歳代)
- ・どちらがなっても指して変わらない気がする。(女性 40歳代)
- ・能力次第。(男性 60歳代)
- ・学校行事。(女性 30歳代)
- ・なっていほしくない。(女性 50歳代)
- ・なりたがる人はいなければどうしようもない。(男性 20歳代)
- ・パキウムカーの作業員。(男性 50歳代)
- ・ボリス。(男性 70歳以上)
- ・意味なし。(女性 40歳代)
- ・性別は関係ない。(男性 50歳代)
- ・考えた事が無い。(男性 70歳以上)
- ・性別の違いから来る思考や性格の違いをどうするか。(男性 60歳代)
- ・主婦。(女性 10歳代)
- ・能力と実力があれば誰がなっても問題ない。男女とも能力も実力もない人が役職に就くことが問題。(男性 40歳代)
- ・男女不問。(男性 30歳代)
- ・男女ともに能力がある者が自然とその役職に就くのが望ましい。但し、多角的な視点を持つ意味で、どちらか一方のみになることはできるだけ避けるべきである。(男性 30歳代)

- ・どちらでも良い。(女性 70歳以上)
- ・特に増えることを希望していない。(男性 60歳代)
- ・いろいろ。(男性 20歳代)
- ・女性が増えるといいのではなく能力がある適任者が性別に関わらず評価されるべき。(男性 20歳代)
- ・特にない。適任者がなればいい。(男性 40歳代)
- ・適材適所。女性がどうこうというよりも、なりたい人がなればいい。(男性 30歳代)
- ・適材適所なので、能力がない女性をわざわざ担ぎ上げるのは反対(議員や役職は下の人間が苦勞する)。(女性 30歳代)
- ・幼児教育施設運営者。(女性 40歳代)
- ・特定の性別が増えてほしいという考え方はしない。(女性 30歳代)
- ・女性が必要無い。(男性 30歳代)
- ・思いつかない。(女性 40歳代)
- ・役職の選び方に性別を持ち込むのが間違い。(男性 20歳代)
- ・特になし。(28件)
- ・わからない。(13件)
- ・どうでもいい。(2件)

問34 あなたは、男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設「ぐんま男女共同参画センター」を知っていますか。(1つに○)(N=2000)

	人		%	
	R1	H26	R1	H26
訪れたことがある	46	11	2.3	1.1
訪れたことはないが、名前は知っている	413	156	20.7	15.6
知らない	1,541	788	77.1	78.6
計	2,000	1,003	100.0	100.0

問35 あなたは、「ぐんま男女共同参画センター」が今後どのような役割を担うべきだと思いますか。(3つまで○)(N=2000)

	人	%
男女共同参画の情報、書籍、資料の収集・提供	315	15.8
男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催	486	24.3
女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催	539	27.0
女性の人材育成支援講座等の企画・開催	404	20.2
男性向け男女共同参画講座等の企画・開催	234	11.7
女性相談事業の充実	327	16.4
男性相談窓口の開設	108	5.4
男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループの活動支援	322	16.1
いつでも気軽に立ち寄れる交流の場	379	19.0
男女共同参画に関する調査・研究	167	8.4
その他	17	0.9
特にない	666	33.3

◆「その他」の記述内容

- ・解散する。(女性 60歳代)
- ・老人介護関連。(女性 30歳代)
- ・どんな活動をしているのか興味がない人にも伝わるような広報。(女性 30歳代)
- ・実際に女性の働く職場をつくれればいい。(男性 50歳代)
- ・学歴や職歴のない人などの貧困や、貧困の連鎖をなくすこと(男性30歳代)
- ・完全にピンぼけだね!。さすが行政の考え方。(女性 50歳代)
- ・男女共同参画を男女平等や男女同格と勘違いされる方が多い。肉体的な違いなどがあるため、男女同格としての議論は成り立たない。(男性 60歳代)
- ・1型糖尿病。(女性 40歳代)
- ・女性の子育て後の再就職支援。(女性 30歳代)
- ・自己啓発の費用の支援。(女性 40歳代)
- ・企業の役職者の女性比率の達成目標を共同で作る。(男性 70歳以上)
- ・母子手帳交付と同時にされる男女双方に向けて行われる家庭と社会に関する講座を必須講習とすること。(女性 30歳代)
- ・ネットで資料の配信。(男性 40歳代)
- ・そもそもそういった場があることの周知。(女性 20歳代)
- ・活動の公開(回覧板等)。(男性 60歳代)
- ・わからない。(2件)

第4章 資料編

問36 男女共同参画社会を実現するために、今後、群馬県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(3つまで○)(N=2000)

	人		%	
	R1	H26	R1	H26
県の政策決定の場への女性の積極的な登用	534	223	26.7	22.2
民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援	355	142	17.8	14.2
男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援	713	-	35.7	-
子育てや介護で仕事を辞めた人への再就職支援	667	430	33.4	42.9
女性が少ない分野(研究者等)への女性の進出支援	253	84	12.7	8.4
地域活動における男女共同参画の推進	256	166	12.8	16.6
女性に対するあらゆる暴力の根絶	225	105	11.3	10.5
男女ともに働き方・生き方などの悩みを相談できる場の提供	284	150	14.2	15.0
性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善	321	-	16.1	-
男女共同参画の学校教育での推進	143	154	7.2	15.4
男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実	91	-	4.6	-
防災・災害復興における男女共同参画の推進	78	-	3.9	-
その他	15	13	0.8	1.3
特になし	487	87	24.4	8.7

◆「その他」の記述内容

- ・根本的に女性を軽視してる人が多過ぎ。(女性 40歳代)
- ・メンバー総入れ替え。(女性 60歳代)
- ・県民所得を増やすこと。(男性 30歳代)
- ・平均的正義と配分的正義による平等。(男性 70歳以上)
- ・男女の肉体的違いなどを考慮した上での男女混合社会づくりを推進すべきであり、決して男女が平等や同格として議論することは成り立たない。(男性 60歳代)
- ・子育て介護などが有っても、仕事を続けていける仕組み。(男性 50歳代)
- ・託児所や育児支援の充実。(女性 20歳代)
- ・無免許が暮らせない、生きていけない。(女性 40歳代)
- ・わからない。(女性 70歳以上)
- ・仕事を休んでいる間、復帰する時、復帰後も仕事を続けることを支える制度にも力を持っていただきたい。それが、男女がともに社会を担うために必要な支援の1つです。(女性 30歳代)
- ・例えば女性の管理職支援等で企業が20%登用します。となった場合能力がない人がなってしまうことがある。それも問題。能力があるのに役職に就いてない女性がどのくらいいるのが問題。また細かい所で能力は同じで給料も同じ、でも女性だからといって重いものとかは男性が持つというのもある意味で差別になる。本来なら重いものが持てない時点で能力に差があるということ。(男性 40歳代)
- ・子供手当などの援助。(男性 20歳代)
- ・下らない消防団など廃止し、家庭の負担を減らし余裕を作ること。(男性 30歳代)
- ・性別ではなくその人の能力を見る。(男性 20歳代)
- ・公費を使えば使うほど人の意識が変わるという認識がおかしい。(男性 50歳代)

調査画面

Q1
必須 あなたの性別はどれですか。

- 1.男性
- 2.女性
- 3.その他（具体的に）

Q2
必須 あなたの年齢は何歳代ですか。

- 10歳代
- 20歳代
- 30歳代
- 40歳代
- 50歳代
- 60歳代
- 70歳以上

Q3
必須 あなたのお住いの市町村はどこですか。

- | | | | |
|-------------------------------|-------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="radio"/> 1.前橋市 | <input type="radio"/> 13.榛東村 | <input type="radio"/> 25.東吾妻町 | <input type="radio"/> 36.群馬県以外 |
| <input type="radio"/> 2.高崎市 | <input type="radio"/> 14.吉岡町 | <input type="radio"/> 26.片品村 | |
| <input type="radio"/> 3.桐生市 | <input type="radio"/> 15.上野村 | <input type="radio"/> 27.川場村 | |
| <input type="radio"/> 4.伊勢崎市 | <input type="radio"/> 16.神流町 | <input type="radio"/> 28.昭和村 | |
| <input type="radio"/> 5.太田市 | <input type="radio"/> 17.下仁田町 | <input type="radio"/> 29.みなかみ町 | |
| <input type="radio"/> 6.沼田市 | <input type="radio"/> 18.南牧村 | <input type="radio"/> 30.玉村町 | |
| <input type="radio"/> 7.館林市 | <input type="radio"/> 19.甘楽町 | <input type="radio"/> 31.板倉町 | |
| <input type="radio"/> 8.渋川市 | <input type="radio"/> 20.中之条町 | <input type="radio"/> 32.明和町 | |
| <input type="radio"/> 9.藤岡市 | <input type="radio"/> 21.長野原町 | <input type="radio"/> 33.千代田町 | |
| <input type="radio"/> 10.富岡市 | <input type="radio"/> 22.嬬恋村 | <input type="radio"/> 34.大泉町 | |
| <input type="radio"/> 11.安中市 | <input type="radio"/> 23.草津町 | <input type="radio"/> 35.邑楽町 | |
| <input type="radio"/> 12.みどり市 | <input type="radio"/> 24.高山村 | | |

Q4 あなたの職業はどれですか。
必須

- 1.正社員・正職員
- 2.パート・アルバイト・契約社員
- 3.派遣社員
- 4.自営（商工業）
- 5.自営（農林漁業）
- 6.専業主婦・主夫
- 7.学生
- 8.無職
- 9.その他（具体的に）

Q5 あなたは、現在結婚（事実婚を含む）していますか。
必須

- 1.している（事実婚を含む）
- 2.していない（離別・死別等）
- 3.していない（未婚・非婚）

Q6 あなたの世帯構成はどれですか。
必須

- 一人暮らし
- 夫婦二人のみ（事実婚を含む）
- 二世帯世帯（親と未婚の子が同居）
- 二世帯世帯（親と子ども夫婦が同居）
- 三世帯世帯（親と子と孫が同居）
- その他（具体的に）

Q7 Q5で「1 している（事実婚を含む）」とした方にうかがいます。
必須 配偶者・パートナーの職業はどれですか。

- 1.正社員・正職員
- 2.パート・アルバイト・契約社員
- 3.派遣社員
- 4.自営（商工業）
- 5.自営（農林漁業）
- 6.専業主婦・主夫
- 7.学生
- 8.無職
- 9.その他（具体的に）

Q8 あなたは、以下のようなお子さんがいますか。同居していないお子さんも含めます。
必須 あてはまるものを**全て**お選びください。

- 1.未就学児
- 2.小学生
- 3.中学生
- 4.高校生以上の学生
- 5.社会人
- 6.子どもはいない

Q9 お子さんがいる方にうかがいます。
必須 あなたのお子さんは何人ですか。同居していないお子さんも含めます。

- 1人
- 2人
- 3人
- 4人以上

Q10 あなたは、次の分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。
必須

		1. 男性のほう が非常に 偏重されて いる	2. どちらか といえば 男性のほう が偏重され ている	3. 平等に なっている	4. どちらか といえば 女性のほう が偏重され ている	5. 女性のほう が非常に 偏重されて いる	6. わから ない
1. 家庭	➔	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 職場	➔	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 学校教育の場	➔	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 政治の場	➔	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 法律や制度	➔	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 地域社会	➔	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 社会通念・習慣・しきたり	➔	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8. 社会全体	➔	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q11
必須 あなたは、結婚に関する以下の考え方についてどう思いますか。

	1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらかといえば反対	4. 反対	5. わからない
1. 結婚する、しないは個人の自由である →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 結婚しても、子どもをもつことにこだわらなくてよい →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 結婚しても、うまくいかなければ離婚してもかまわない →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 夫婦別姓（別苗字）を選択できることを認めるほうがよい →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 法律に基づく結婚と同様に事実婚も社会的に認められるべきである →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 同性同士の結婚も社会的に認められるべきである →	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q12
必須 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方をどう思いますか。

- 1. そう思う
- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらかといえばそう思わない
- 4. そう思わない
- 5. わからない

Q13
必須 子どものころ、あなたの家庭では、「男は仕事、女は家庭」という考え方でしたか。

- 1. そうだった
- 2. どちらかといえばそうだった
- 3. どちらかといえばそうではなかった
- 4. そうではなかった
- 5. わからない

Q14 **必須** あなたは、以下の家庭内の役割について、どのように担うべきだと思いますか。

	1. 主として男性が担うべき	2. 男女が共に担うべき	3. 主として女性が担うべき	4. その他
1. 家事（炊事・洗濯・そうじ） ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 育児 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 看護・介護 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 学校行事などへの参加 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 自治会などの地域活動 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 家計の管理 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 主たる収入 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q15 **必須** 現在、あなたの家庭では、以下の家庭内の役割について、どのように担っていますか。

	1. 主として男性が担っている	2. 男女が共に担っている	3. 主として女性が担っている	4. その他
1. 家事（炊事・洗濯・そうじ） ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 育児 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 看護・介護 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 学校行事などへの参加 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. 自治会などの地域活動 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6. 家計の管理 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7. 主たる収入 ➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q16-1 **必須** あなたは、男性の育児休業取得についてどう思いますか。

- 1. 男性も積極的に取得するほうがよい
- 2. 男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない
- 3. 男性は取得しないほうがよい
- 4. その他（具体的に）

第4章 資料編

Q16-2 あなたは、男性が育児休業を取得しない（できない）理由は何だと思えますか。
必須 あてはまるものを**2つまで**お選びください。

- 1.周囲に取った男性がいないから
- 2.職場に取りやすい雰囲気がないから
- 3.仕事が忙しいから
- 4.取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから
- 5.取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから
- 6.経済的に困るから
- 7.育児は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないから
- 8.その他（具体的に）
- 9.わからない

Q16-3 あなたは、男性の介護休業取得についてどう思えますか。
必須

- 1.男性も積極的に取得するほうがよい
- 2.男性もできれば取得するほうがよいが、環境が整っていない
- 3.男性は取得しないほうがよい
- 4.その他（具体的に）

Q16-4 あなたは、男性が介護休業を取得しない（できない）理由は何だと思えますか。
必須 あてはまるものを**2つまで**お選びください。

- 1.周囲に取った男性がいないから
- 2.職場に取りやすい雰囲気がないから
- 3.仕事が忙しいから
- 4.取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから
- 5.取ると人事評価や昇給に悪い影響があるから
- 6.経済的に困るから
- 7.介護は女性が担うものなので、男性が取得する必要はないから
- 8.その他（具体的に）
- 9.わからない

Q17
必須

あなたは次の分野で男性の参画が数年前と比べて進んでいると思いますか。

		1. 進んでいる ↑	2. 進んでいる ↑	3. 進んでいる ↑	4. 進んでいる ↑	5. わからない
1. 家事（炊事・洗濯・そうじ）	➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2. 育児	➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3. 看護・介護	➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4. 地域の行事	➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5. PTA活動などの学校行事	➡	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q18
必須

あなたは、今後、男性が、家事、育児、介護、地域活動に積極的に参加するためにはどのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものを**全て**お選びください。

- 1.男性が参加することへの抵抗感を、男性自身がなくすこと
- 2.男性が参加することへの抵抗感を、女性がなくすこと
- 3.夫婦や家族間のコミュニケーションをもっととること
- 4.年長者や周囲の人が、参加しようとする当事者の考えを尊重すること
- 5.男性が参加することへの社会的評価を高めること
- 6.仕事以外の時間を増やせる労働環境づくりを進めること
- 7.男性自身の関心を高めるための啓発や情報を提供すること
- 8.国や県、市町村等による講座や研修で、男性の家事、育児、介護等の能力や技能を高めること
- 9.男性が参加しやすくなるよう、仲間（ネットワーク）づくりを進めること
- 10.男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11.その他（具体的に）
- 12.特に必要だと思うことはない

第4章 資料編

Q19 必須 「女性の働き方」について、あなたはどのように思いますか。

- 1.結婚するまでは仕事を続けるほうがよい
- 2.子どもができるまでは、仕事を続けるほうがよい
- 3.子どもができて、ずっと仕事を続けるほうがよい
- 4.子どもができたなら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再就職するほうがよい
- 5.女性は仕事に就かないほうがよい
- 6.そもそも働き方を男女に分けて考える必要はない
- 7.その他（具体的に）
- 8.わからない

Q20 必須 あなたは、進路や職業を選択する際に、自分の性別を意識したことがありますか。

- 1.かなり意識した
- 2.どちらかといえば、意識した
- 3.どちらかといえば、意識しなかった
- 4.ほとんど・まったく意識しなかった

Q21 必須 日常生活における「仕事」「家庭生活」「地域活動」の優先度について、あなたの1.希望（理想）と2.現状（現実）に最も近いものはどれですか。

	1. 希望 (理想)	2. 現状 (現実)
	↓	↓
1.【仕事】を優先	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2.【家庭生活】を優先	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3.【地域活動】を優先	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4.【仕事】と【家庭生活】をともに優先	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5.【仕事】と【地域活動】をともに優先	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6.【家庭生活】と【地域活動】をともに優先	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7.【仕事】【家庭生活】【地域活動】をいずれも優先	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8.その他 <input type="text"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9.わからない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q22-1 現在働いている方にうかがいます。
必須 あなたのこれまでの働き方はどれですか。

- 1. 卒業して以来、ほぼ継続して働いている
- 2. 結婚・出産・育児・介護のために一時的に仕事を辞めたことがある
- 3. 上記2以外の理由で一時的に仕事を辞めたことがある
- 4. 卒業してすぐには働かなかったが、その後ほぼ継続して働いている

Q22-2 現在働いている方にうかがいます。
必須 あなたの職場では、次のような男女間の不公平や、制度の未整備はありますか。あてはまるものを**全て**お選びください。

- 1. 募集や採用で男女の不公平がある
- 2. 賃金・昇給で男女の不公平がある
- 3. 昇進・昇格で男女の不公平がある
- 4. 入社研修や業務研究などの機会に男女の不公平がある
- 5. 女性は補助的業務や雑務が多い
- 6. 女性が結婚や出産を機に退職する慣習や雰囲気がある
- 7. 男性が育児・介護休業を取りにくい慣習や雰囲気がある
- 8. 育児・介護休業からの復帰後の処遇に不利益がある(配置転換、昇進への影響等)
- 9. 各種ハラスメント(セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、パタニティ・ハラスメント等)の防止規定や相談窓口が設置されていない
- 10. 育児休業や介護休業の制度がない
- 11. 特に男女間の不公平はない
- 12. その他(具体的に)
- 13. わからない

Q22-3 現在働いている方にうかがいます。
必須 あなたの職場では、女性の採用や管理職登用が進んでいると思いますか。

- 1. 進んでいると思う
- 2. 進んでいないと思う
- 3. わからない

Q22-4 現在働いている方にかがいます。
必須 あなたの職場で、女性の管理職が登用されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものを**全て**お選びください。

- 1. 経営者や人事担当者の意識改革
- 2. 様々な職種や職域への女性の登用
- 3. 女性管理職登用の数値目標の設定
- 4. 育児休業や介護休業などの制度充実
- 5. 継続的な人材の育成
- 6. ロールモデルとなる女性管理職の育成
- 7. 女性が管理職になることへの、男性の意識改革
- 8. 女性が管理職になることへの、女性の意識改革
- 9. その他（具体的に）
- 10. 特に必要だと思うことはない

Q23-1 現在働いていない方にかがいます。
必須 あなたのこれまでの働き方はどれですか。


- 1. 卒業して働いたが、結婚・出産・育児・介護のために仕事を辞めた
- 2. 卒業して働いたが、上記1以外の理由で仕事を辞めた
- 3. 卒業して以来、働いたことはない
- 4. その他（具体的に）

Q23-2 現在働いていない方にかがいます。
必須 あなたは、今後働きたいと思いませんか。

- 1. 正社員・正職員として働きたい
- 2. パート・アルバイト・契約社員として働きたい
- 3. 派遣社員として働きたい
- 4. フリーランスとして独立して働きたい
- 5. 自分で、店や会社を起業したい
- 6. 在宅で働ける仕事をしたい
- 7. 今後も、働きたいとは思わない
- 8. わからない
- 9. その他（具体的に）


Q24-1 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等の**パートナーからされたこと**がありますか。
必須

<この5年間にパートナーからされたこと>

	1・2度ある	何度もある	ない
 <p>身体的な暴力 1. (なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばす、刃物でおどす等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<p>精神的な暴力・社会的な暴力 2. (人格を否定するような暴言、長時間の無視、怒鳴る、人を見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<p>性的な暴力 3. (相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<p>経済的な暴力 4. (生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<p>子どもを利用した暴力 5. (子どもの前で暴力を振るったり暴言を浴びせる、子どもに自分の言いたいことを伝えさせる、子どもを危険な目に遭わせる、子どもを取り上げる等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<p>ストーカー行為 6. (つきまとい、待ち伏せ、押しかけ、監視していると告げる、面会・交際の要求、乱暴な言動、無言電話、連続した電話・FAX・メール、汚物の送付、名誉を傷つける、性的羞恥心の侵害等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q24-2 あなたは、この5年間に、次のようなことを配偶者や恋人等の**パートナーにしたこと**がありますか。
必須

<この5年間にパートナーにしたこと>

	1・2度ある	何度もある	ない
 <p>身体的な暴力 1. (なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばす、刃物でおどす等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<p>精神的な暴力・社会的な暴力 2. (人格を否定するような暴言、長時間の無視、怒鳴る、人を見下した発言、身の危険を感じるような脅迫、交友関係の監視や制限等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<p>性的な暴力 3. (相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しない、中絶の強要、見たくないのにポルノビデオやポルノ雑誌を見せる等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<p>経済的な暴力 4. (生活費を入れない、外で働くことを妨害する、仕事を辞めさせる、家計の管理に関与させない、借金をさせてお金を取り上げる等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<p>子どもを利用した暴力 5. (子どもの前で暴力を振るったり暴言を浴びせる、子どもに自分の言いたいことを伝えさせる、子どもを危険な目に遭わせる、子どもを取り上げる等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
<p>ストーカー行為 6. (つきまとい、待ち伏せ、押しかけ、監視していると告げる、面会・交際の要求、乱暴な言動、無言電話、連続した電話・FAX・メール、汚物の送付、名誉を傷つける、性的羞恥心の侵害等)</p>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

第4章 資料編

Q25 Q24-1で、配偶者や恋人等のパートナーから1.~6.の行為をされたと答えた方にうかがいます。
必須 次のような機関や人に相談したことがありますか。
あてはまるものを**全て**お選びください。

- 1.配偶者暴力相談支援センター（群馬県女性相談所、群馬県女性相談センター）
- 2.市町村DV等相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）
- 3.警察
- 4.法務局・地方法務局、人権擁護委員
- 5.医療関係者（医師・看護師等）
- 6.民間の専門家や専門機関（弁護士会、カウンセラー機関、民間シェルター等）
- 7.学校関係者（教員、養護教員、スクールカウンセラー等）
- 8.児童相談所、市町村児童家庭相談窓口等
- 9.勤務先の関係者
- 10.家族や親戚
- 11.友人・知人
- 12.その他（具体的に）
- 13.どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった

Q26 Q25で「13 どこ（だれ）にも相談したことがない・しなかった」とした方にうかがいます。
必須 相談しない・しなかった理由は何ですか。
あてはまるものを**全て**お選びください。

- 1.どこ（だれ）に相談してよいかわからないから
- 2.恥ずかしくてだれにも言えないから
- 3.相談しても無駄だと思うから
- 4.他人を巻き込みたくないから
- 5.早く忘れたいから
- 6.自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから
- 7.自分にも悪いところがあると思うから
- 8.相手の行為は愛情の表現だと思うから
- 9.相談するほどのことではないと思うから
- 10.その他（具体的に）

Q27 あなたは、次のようなドメスティック・バイオレンス（DV）やその他の被害者支援のための相談窓口や制度などを知っていますか。
必須 あてはまるものを**全て**お選びください。

- 1.配偶者暴力相談支援センター（群馬県女性相談所、群馬県女性相談センター）
- 2.市町村のDV相談窓口（市・町設置の配偶者暴力相談支援センターを含む）
- 3.警察署における相談窓口（ストーカー・配偶者暴力対策係）
- 4.民間支援団体（シェルター運営等）
- 5.女性の人権ホットライン（前橋地方事務局）
- 6.県の福祉事務所
- 7.男性DV被害者相談電話
- 8.群馬県性暴力被害者サポートセンターsaveぐんま
- 9.犯罪被害者支援窓口(市町村、警察、民間支援団体等)
- 10.DV防止法
- 11.ストーカー規制法
- 12.一時保護制度
- 13.保護命令制度
- 14.いずれも知らない

Q28 あなたは、次のうち、見聞きしたことがあるものはありますか。
必須 あてはまるものを**全て**お選びください。

- 1.男女共同参画社会
 - 2.男女共同参画社会基本法
 - 3.女性活躍推進法
 - 4.政治分野における男女共同参画推進法
 - 5.女性活躍・ハラスメント規制法(2020年6月より施行)
 - 6.女子差別撤廃条約
 - 7.ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
 - 8.ジェンダー（社会的性別）
 - 9.男女雇用機会均等法
 - 10.育児介護休業法
 - 11.ワーク・ライフ・バランス
 - 12.リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)
 - 13.群馬県男女共同参画推進条例
 - 14.群馬県男女共同参画基本計画
 - 15.見聞きしたことがあるものはない
- 5.もっと女性になるほうがよい

Q29
必須

あなたは、数年前と比べて、群馬県の男女共同参画の社会づくりが進んでいると感じますか。

- 1.進んでいる
- 2.少しは進んでいる
- 3.どちらともいえない
- 4.あまり進んでいない
- 5.進んでいない
- 6.わからない

Q30
必須

あなたは、男女共同参画の社会づくりが進むと社会にどのような変化や効果が現れると思いますか。
あてはまるものを**3つまで**お選びください。

- 1.性別で役割を決められることなく、個人の希望や得意なことで仕事や生き方を決められるようになる
- 2.男女ともに、仕事と家庭のバランスがとれるようになり、充実した暮らしやすい社会になる
- 3.男女がともに仕事と家事を担うことで、失業や病気などに伴う将来の生活不安が減る
- 4.様々な場で男女の多様な意見が反映されるようになり、誰もが暮らしやすい社会になる
- 5.男女の多様な視点や発想を活かすことで、地域経済の活性化につながる
- 6.女性の活躍の場が今よりも増える
- 7.男性の活躍の場が今よりも増える
- 8.女性への差別的な視点がなくなり、女性に対する暴力をなくすことにつながる
- 9.災害時の避難所においても、男女双方の視点を取り入れられ、誰もが安心して利用できるようになる
- 10.その他（具体的に）
- 11.わからない

Q31
必須

あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、地域活動にかかわる役職についてどう思いますか。

- 1.できるだけ、男性になるほうがよい
- 2.どちらかというと、男性になるほうがよい
- 3.適任者であれば、男女どちらでもよい
- 4.どちらかというと、もっと女性になるほうがよい
- 5.もっと女性になるほうがよい

Q32 あなたは、自治会長や町内会長、地域の防災組織のリーダーなど、女性が地域活動のリーダーになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
必須 あてはまるものを**全て**お選びください。

- 1.女性が地域活動のリーダーになることに対する女性自身の抵抗感をなくすこと
- 2.女性が地域活動のリーダーになることに対する男性の抵抗感をなくすこと
- 3.社会の中で、女性が地域活動のリーダーになることについて、その評価を高めること
- 4.女性が地域活動のリーダーになることについて、啓発や情報提供・研修を行うこと
- 5.女性が地域活動のリーダーに一定の割合でなるような取組を進めること
- 6.その他（具体的に）
- 7.特にない
- 8.わからない

Q33 あなたが、次にあげるような政策・方針の決定にかかわる役職において、今後女性がもっと増えるほうがよいと思うものはどれですか。
必須 あてはまるものを**全て**お選びください。

- 1.県・市町村の首長
- 2.国会・県議会・市町村議会の議員
- 3.県・市町村の審議会等の委員
- 4.国家・地方公務員の管理職
- 5.裁判官、検察官、弁護士
- 6.大学教授
- 7.小中学校・高校の校長
- 8.国連などの国際機関の管理職
- 9.企業の管理職
- 10.起業家・経営者
- 11.労働組合の幹部
- 12.農業委員
- 13.その他（具体的に）

Q34 あなたは、男女共同参画社会づくりを推進するための拠点施設「ぐんま男女共同参画センター」を知っていますか。
必須

- 1.訪れたことがある
- 2.訪れたことはないが、名前は知っている
- 3.知らない

第4章 資料編

Q35 あなたは、「ぐんま男女共同参画センター」が今後どのような役割を担うべきだと思いますか。
必須 あてはまるものを**3つまで**お選びください。

- 1.男女共同参画の情報、書籍、資料の収集・提供
- 2.男女共同参画の意識啓発のための講演会、講座等の企画・開催
- 3.女性のチャレンジを支援する講座等の企画・開催
- 4.女性の人材育成支援講座等の企画・開催
- 5.男性向け男女共同参画講座等の企画・開催
- 6.女性相談事業の充実
- 7.男性相談窓口の開設
- 8.男女共同参画社会づくりに取り組む団体・グループの活動支援
- 9.いつでも気軽に立ち寄れる交流の場
- 10.男女共同参画に関する調査・研究
- 11.その他（具体的に）
- 12.特にない

Q36 男女共同参画社会を実現するために、今後、群馬県はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
必須 あてはまるものを**3つまで**お選びください。

- 1.県の政策決定の場への女性の積極的な登用
- 2.民間企業・団体等の女性の管理職登用の支援
- 3.男女とも育児・介護休業が取得できるような職場環境整備への支援
- 4.子育てや介護で仕事を辞めた人の再就職支援
- 5.女性が少ない分野（研究者等）への女性の進出支援
- 6.地域活動における男女共同参画の推進
- 7.女性に対するあらゆる暴力の根絶
- 8.男女ともに働き方・生き方などの悩みを相談できる場の提供
- 9.性別による役割分担の意識、慣習、しきたりの改善
- 10.男女共同参画の学校教育での推進
- 11.男女共同参画推進活動の拠点機能や学習機会の充実
- 12.防災・災害復興における男女共同参画の推進
- 13.その他（具体的に）
- 14.特にない

Q37 最後に、家庭や職場、地域社会等において、男女平等や男女共同参画について感じるがありましたら、ご記入ください。

男女共同参画社会に関する県民意識調査
報告書

令和2年3月
群馬県
(生活文化スポーツ部 県民生活課)